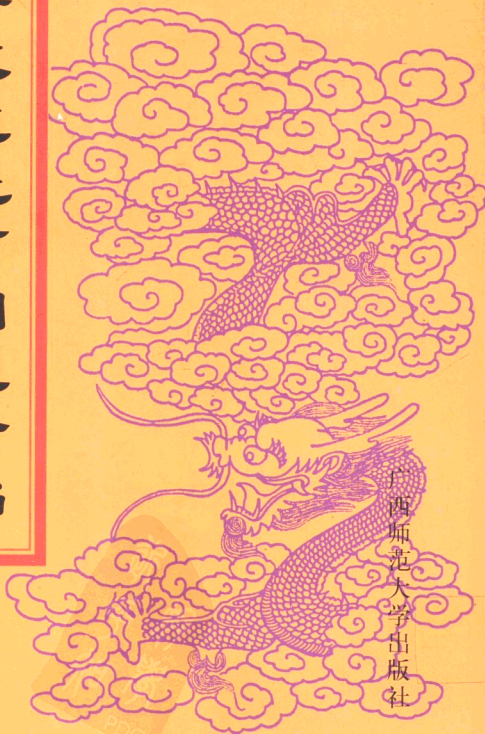


嘉庆道光两朝上谕档



广西师范大学出版社

新  
子  
知  
船

ISBN7-5633-2808-4/K.119

定价：25000.00元

中國第一歷史檔案館編

# 道光朝上諭檔

第四十一冊（道光十六年）

廣西師範大學出版社

《嘉慶道光兩朝上諭檔》編輯委員會

主任：邢永福

副主任：楊繼波

編委：邢永福

牛平漢

楊繼波

趙雄

李守郡

盧經

李平

主編：李守郡

副主編：牛平漢

本冊編輯：盧經

技術支持：董福芝

黎三羊

王海歐

張萍

周玲

張濤

嘉慶道光兩朝上諭檔 第四十一冊 目錄

道光十六年(丙申 公元一八三六年)

正月	
初二日	(二)
初三日	(二)
初四日	(四)
初七日	(七)
初八日	(八)
初九日	(九)
初十日	(九)
十一日	(九)
十二日	(三)
十三日	(三)
十四日	(五)
十五日	(六)
十六日	(六)
十七日	(八)
十八日	(八)
十九日	(九)
二十日	(九)
二十一日	(〇)

二月	
初二日	(二〇)
初三日	(二一)
初四日	(二二)
初五日	(二二)
初六日	(二二)
初七日	(二二)
初八日	(二二)
初九日	(二二)
初十日	(二二)
十一日	(二二)
十二日	(二二)
十三日	(二二)
十四日	(二二)
十五日	(二二)
十六日	(二二)
十七日	(二二)
十八日	(二二)
十九日	(二二)
二十日	(二二)
二十一日	(二二)
二十二日	(二二)
二十三日	(二二)
二十四日	(二二)
二十五日	(二二)
二十六日	(二二)
二十七日	(二二)
二十八日	(二二)
二十九日	(二二)
三十日	(二二)
三十一日	(二二)
初二日	(二二)
初三日	(二二)
初四日	(二二)
初五日	(二二)
初六日	(二二)
初七日	(二二)
初八日	(二二)
初九日	(二二)
初十日	(二二)
十一日	(二二)
十二日	(二二)
十三日	(二二)
十四日	(二二)
十五日	(二二)
十六日	(二二)
十七日	(二二)
十八日	(二二)
十九日	(二二)
二十日	(二二)
二十一日	(二二)
二十二日	(二二)
二十三日	(二二)
二十四日	(二二)
二十五日	(二二)
二十六日	(二二)
二十七日	(二二)
二十八日	(二二)
二十九日	(二二)
三十日	(二二)
三十一日	(二二)

初九日	.....	(四五)
初十日	.....	(四七)
十一日	.....	(四七)
十二日	.....	(五一)
十三日	.....	(五三)
十四日	.....	(五七)
十五日	.....	(六〇)
十六日	.....	(六二)
十七日	.....	(六六)
十八日	.....	(六九)
十九日	.....	(七〇)
二十日	.....	(七一)
二十一日	.....	(七二)
二十二日	.....	(七二)
二十三日	.....	(七二)
二十四日	.....	(七五)
二十五日	.....	(七五)
二十七日	.....	(七六)
二十九日	.....	(七七)
三十日	.....	(八一)
三月		
初一日	.....	(八四)

初二日	.....	(八四)
初三日	.....	(八五)
初四日	.....	(八六)
初五日	.....	(八六)
初六日	.....	(八七)
初七日	.....	(八八)
初八日	.....	(九一)
初九日	.....	(九一)
初十日	.....	(九二)
十一日	.....	(九四)
十二日	.....	(九五)
十三日	.....	(九七)
十四日	.....	(九七)
十五日	.....	(九九)
十六日	.....	(九九)
十七日	.....	(九九)
十八日	.....	(一〇一)
十九日	.....	(一〇三)
二十日	.....	(一〇四)
二十一日	.....	(一〇四)
二十二日	.....	(一〇四)
二十三日	.....	(一〇七)
二十四日	.....	(一〇八)
二十五日	.....	(一一〇)

四月

二十六日	.....	(一一一)
二十七日	.....	(一一〇)
二十八日	.....	(一一一)
二十九日	.....	(一一二)
初一日	.....	(一一三)
初二日	.....	(一一三)
初三日	.....	(一一四)
初四日	.....	(一一五)
初五日	.....	(一一七)
初六日	.....	(一一八)
初七日	.....	(一二八)
初八日	.....	(一三〇)
初九日	.....	(一三一)
初十日	.....	(一三五)
十一日	.....	(一三六)
十二日	.....	(一三八)
十三日	.....	(一四〇)
十四日	.....	(一四四)
十五日	.....	(一五三)
十六日	.....	(一五四)
十七日	.....	(一六二)

五月

十八日	.....	(一六六)
十九日	.....	(一六七)
二十日	.....	(一六八)
二十一日	.....	(一六九)
二十二日	.....	(一七〇)
二十四日	.....	(一七二)
二十五日	.....	(一七二)
二十六日	.....	(一七五)
二十七日	.....	(一七八)
二十八日	.....	(一七九)
二十九日	.....	(一八一)
三十日	.....	(一八五)
初一日	.....	(一八九)
初二日	.....	(一九〇)
初三日	.....	(一九二)
初四日	.....	(一九二)
初六日	.....	(一九三)
初七日	.....	(一九四)
初九日	.....	(二〇一)
初十日	.....	(二〇五)
十一日	.....	(二〇六)

六月

初一日	.....	(二三五)
初二日	.....	(二三七)
初三日	.....	(二三八)
初四日	.....	(二三八)
十五日	.....	(二二三)
十六日	.....	(二二四)
十七日	.....	(二二六)
十八日	.....	(二二八)
十九日	.....	(二二二)
二十日	.....	(二二四)
二十一日	.....	(二二四)
二十二日	.....	(二二六)
二十三日	.....	(二二七)
二十四日	.....	(二二九)
二十五日	.....	(二三〇)
二十六日	.....	(二三一)
二十七日	.....	(二三二)
二十八年	.....	(二三三)

初五日	.....	(二四〇)
初六日	.....	(二四一)
初七日	.....	(二四二)
初八日	.....	(二四四)
初九日	.....	(二四八)
初十日	.....	(二四九)
十一日	.....	(二五一)
十二日	.....	(二五一)
十三日	.....	(二五二)
十四日	.....	(二五二)
十五日	.....	(二五三)
十六日	.....	(二五三)
十七日	.....	(二五六)
十八日	.....	(二五七)
十九日	.....	(二五七)
二十日	.....	(二五七)
二十一日	.....	(二六〇)
二十二日	.....	(二六〇)
二十三日	.....	(二六二)
二十四日	.....	(二六四)
二十五日	.....	(二六五)
二十六日	.....	(二六七)
二十七日	.....	(二六八)
二十八日	.....	(二六八)



七月

二十九日	.....	(二七〇)
初一日	.....	(二七二)
初二日	.....	(二七三)
初三日	.....	(二七五)
初四日	.....	(二七七)
初五日	.....	(二七八)
初六日	.....	(二八二)
初七日	.....	(二八四)
初八日	.....	(二八五)
初九日	.....	(二九〇)
初十日	.....	(二九二)
十一日	.....	(二九五)
十二日	.....	(二九六)
十三日	.....	(二九八)
十四日	.....	(三〇〇)
十五日	.....	(三〇一)
十六日	.....	(三〇三)
十七日	.....	(三〇三)
十八日	.....	(三〇六)
十九日	.....	(三〇八)
二十日	.....	(三一〇)

八月

二十一日	.....	(三二一)
二十二日	.....	(三二二)
二十三日	.....	(三二四)
二十四日	.....	(三二五)
二十五日	.....	(三二五)
二十六日	.....	(三二八)
二十七日	.....	(三二八)
二十八日	.....	(三二九)
二十九日	.....	(三二九)
三十日	.....	(三三三)
初一日	.....	(三三九)
初二日	.....	(三四〇)
初三日	.....	(三四二)
初四日	.....	(三四二)
初五日	.....	(三四三)
初六日	.....	(三四四)
初七日	.....	(三四六)
初八日	.....	(三四六)
初九日	.....	(三四六)
初十日	.....	(三四七)
十一日	.....	(三四九)

九月

初一日	………	(三七〇)
初二日	………	(三七二)
初三日	………	(三七二)
初四日	………	(三七四)
初五日	………	(三七五)
初六日	………	(三七七)
二十九日	………	(三六九)
二十八日	………	(三六七)
二十七日	………	(三六七)
二十六日	………	(三六六)
二十四日	………	(三六四)
二十三日	………	(三六一)
二十二日	………	(三五八)
二十一日	………	(三五六)
二十日	………	(三五五)
十九日	………	(三五五)
十八日	………	(三五二)
十七日	………	(三五〇)
十六日	………	(三五〇)
十四日	………	(三四九)
十二日	………	(三四九)

初七日	………	(三七八)
初八日	………	(三七八)
初九日	………	(三八一)
初十日	………	(三八一)
十一日	………	(三八三)
十二日	………	(三八五)
十三日	………	(三八六)
十四日	………	(三八八)
十五日	………	(三八八)
十六日	………	(三八九)
十七日	………	(三九一)
十八日	………	(三九三)
十九日	………	(三九四)
二十日	………	(三九五)
二十一日	………	(三九七)
二十二日	………	(三九八)
二十三日	………	(四〇一)
二十四日	………	(四〇一)
二十五日	………	(四〇三)
二十六日	………	(四〇七)
二十七日	………	(四〇八)
二十八日	………	(四〇九)
二十九日	………	(四一三)
三十日	………	(四一五)

十月

初一日	.....	(四二〇)
初二日	.....	(四二〇)
初三日	.....	(四二一)
初四日	.....	(四二三)
初五日	.....	(四二四)
初六日	.....	(四二七)
初七日	.....	(四二九)
初八日	.....	(四三〇)
初九日	.....	(四三一)
初十日	.....	(四三二)
十二日	.....	(四三三)
十四日	.....	(四三三)
十五日	.....	(四三四)
十六日	.....	(四三六)
十七日	.....	(四三九)
十八日	.....	(四四一)
十九日	.....	(四四二)
二十日	.....	(四四三)
二十一日	.....	(四四五)
二十二日	.....	(四四七)
二十三日	.....	(四五〇)

十一月

初一日	.....	(四七九)
初二日	.....	(四八一)
初三日	.....	(四八二)
初四日	.....	(四八五)
初五日	.....	(四八五)
初六日	.....	(四八五)
初七日	.....	(四八七)
初八日	.....	(四八九)
初九日	.....	(四九一)
初十日	.....	(四九三)
十一日	.....	(四九四)
十二日	.....	(四九六)
十三日	.....	(四九九)
十五日	.....	(五〇一)
十六日	.....	(五〇三)
二十四日	.....	(四六二)
二十五日	.....	(四六三)
二十六日	.....	(四六六)
二十七日	.....	(四六八)
二十八日	.....	(四七四)
二十九日	.....	(四七六)

十二月

初一日	.....	(五二七)
初二日	.....	(五二九)
初三日	.....	(五三一)
初五日	.....	(五三六)
初六日	.....	(五三六)
三十日	.....	(五二五)
二十九日	.....	(五二五)
二十八日	.....	(五二四)
二十七日	.....	(五二一)
二十六日	.....	(五二〇)
二十五日	.....	(五一八)
二十四日	.....	(五一七)
二十三日	.....	(五一五)
二十二日	.....	(五一四)
二十一日	.....	(五一二)
二十日	.....	(五一一)
十九日	.....	(五〇九)
十八日	.....	(五〇八)
十七日	.....	(五〇五)

初七日	.....	(五三八)
初八日	.....	(五四一)
初十日	.....	(五四一)
十一日	.....	(五四三)
十二日	.....	(五四四)
十三日	.....	(五四六)
十四日	.....	(五四七)
十五日	.....	(五四八)
十六日	.....	(五四九)
十七日	.....	(五五〇)
十八日	.....	(五五二)
十九日	.....	(五五四)
二十日	.....	(五五六)
二十一日	.....	(五五七)
二十二日	.....	(五五八)
二十三日	.....	(五六〇)
二十四日	.....	(五六一)
二十五日	.....	(五六三)
二十六日	.....	(五六五)
二十七日	.....	(五六七)
二十八日	.....	(五六八)

## 嘉慶道光兩朝上諭檔

## 第四十一冊

## 校勘表

序號	頁碼	原檔頁碼	校勘內容
二七	一一二	六九	調整
二八	一一二	七一	調整
三五	一三	八五	調整
四〇	一四	一〇一	調整
八一	二二	一八五	調整
一三七	三六	四三	調整
一三八	三七	四五	調整
一三九	三七	四七	調整
一四二	三七	五五	調整
一九一	五三	一七九	調整
二八二	八一	三八三	調整
三一二	八九	四九	三月初七日
三三三	八九	四九	三月初七日
三九三	一〇八	二七七	調整
四〇五	一一二	二五五	調整

序號	頁碼	原檔頁碼	校勘內容
四七四	一三五	一〇九	調整
四八七	一三八	一四七	調整
五〇一	一四一	一五九	調整
五〇二	一四一	一六五	調整
五一四	一四六	二〇一	調整
五三六	一五六	二四七	調整
五五六	一六八	三一	調整
六一九	一八九	一五	調整
六四〇	一九五	五九	調整
六四一	一九五	六一	調整
六五〇	二〇三	一〇三	調整
六五一	二〇三	一〇五	調整
六七五	二〇八	一四一	調整
六七六	二〇九	一三九	五月十二日
六九三	二二三	一八一	五月十二日

序 號	頁 碼	原 標 頁 碼	校 勘 內 容
六九八	二一五	二〇一	調整
七〇五	二一六	二〇三	調整
七一〇	二一七	二一九	調整
七五七	二二八	三二三	調整
七六三	二二九	三三一	調整
七八七	二三四	三六三	五月三十日
七九七	二三六	二五	調整
八一三	二三九	四九	六月初四日
八三五	二四五	一〇九	調整
八六六	二五三	一六九	調整
八八三	二五六	一九七	調整
八八六	二五七	一九九	六月十八日
八八七	二五七	一九九	六月十八日
九七〇	二七六	五三	調整
九九一	二八二	一〇五	調整
一〇〇二	二八五	一一七	調整
一〇二二	二八七	一三五	調整
一〇二六	二九三	一八三	調整
一〇二七	二九三	一八五	調整

序 號	頁 碼	原 標 頁 碼	校 勘 內 容
一〇九〇	三〇九	三〇九	調整
一〇九七	三一〇	三二九	調整
一一三一	三二六	四〇五	七月二十五日
一一四八	三三〇	四三七	調整
一一五五	三三二	四五九	調整
一一六〇	三三四	四六九	調整
一一六一	三三七	四七九	調整
一二一七	三五二	一一七	調整
一二九七	三七二	一七	調整
一三〇三	三七二	三一	調整
一三〇六	三七二	二九	調整
一三一	三七三	四三	調整
一三四〇	三七八	九七	調整
一三九六	三九〇	一一三	調整
一四〇四	三九三	一二七	九月十七日
一四〇七	三九三	二二九	調整
一四〇九	三九四	二四一	調整
一四四三	四〇一	三〇三	九月二十三日
一四四四	四〇一	三一	調整

序 號	頁 碼	原 權 頁 碼	校 勘 內 容
一四四七	四〇一	三〇九	九月二十三日
一四六九	四〇五	三六三	調 整
一四七六	四〇七	三七九	調 整
一四七八	四〇七	三六九	九月二十六日
一四九〇	四一一	四〇七	調整九月二十八日
一四九九	四一五	四二三	調 整
一五〇八	四一六	四五七	調 整
一五三一	四二二	二七	調 整
一六二一	四四六	二二五	調 整
一六三七	四五〇	二四五	調 整
一六五三	四六三	三〇五	調 整
一六八五	四七九	一三	調 整
一七一	四八六	六七	調 整
一七二二	四八六	六九	調 整
一七二四	四八六	七一	調 整
一七二五	四八七	七三	調 整
一七四四	四九四	一三七	調 整
一八〇九	五一四	二七五	調 整
一八三三	五一九	三一七	調 整

序 號	頁 碼	原 權 頁 碼	校 勘 內 容
一八六四	五二七	一一	調 整
一八六五	五二七	一三	調 整
一八七二	五二九	二九	調 整
一八七三	五二九	三一	調 整
一八七九	五三一	三五	殘 缺
一九四九	五四七	一八三	調 整
二〇一二	五六二	三二一	調 整
二〇三五	五六五	三七一	調 整
二〇四二	五六七	三六九	調 整
二〇五八	五七一	三九九	殘 缺

1 道光十六年正月初二日內閣奉

上諭朕於二月初五日臨御經筵所有應行典禮著各該衙門敬謹豫備欽此

2 道光十六年正月初二日內閣奉

上諭上年奉天廣寧等處被水災理應卹恤紳士小民難可無虞著之惟念今春青黃不接之時民力未克拮据著加恩特展卹五日該部知道欽此

山東前時齊東行民屯等處被災八九分之旗民分正秋口糧亦與原向年之別各行展賑一月著資其濟該行軍等刊刻條黃編行送諭該期實惠及民毋任憂者其同刻朕奉錄鈔委加惠隨新立憲法新章送諭欽此

3 道光十六年正月初二日內閣奉

上諭上年直隸省霸州等州縣被水被雹業經降旨加恩分別蠲徵小民諒可不致失所惟念今春青黃不接之時民力未克拮据著加恩將霸州保定大城清苑安肅博野容城蠡縣雄縣祁州安州

高陽河間獻縣肅寧任邱景州吳橋東光靜海青縣滄州南皮鹽山南和大名鉅鹿任縣冀州南宮新河武邑衡水陸平寧晉深州武強饒陽安平定州深澤等四十一州縣歉收三四分村莊未完道光十五年並節年糧租以及出借銀數蠲徵等項原擬至道光十六年麥後徵收者展賑至秋成後徵收以紓民力該督卽刊刻條黃編行馳諭務使實惠及民毋任憂者其同刻朕奉錄鈔委加惠隨新立憲法新章送諭欽此

4 道光十六年正月初二日內閣奉

上諭上年山東省歷城等州縣被旱濟南武定各府屬被災被淹業經降旨加恩分別蠲徵遠近並難借捐貨安為撫紳小民諒可無虞失所惟念今春青黃不接之時民力不無拮据著加恩被水被雹較重之鄆平縣陳家莊等十二村莊長清縣傅單屯等四十八村莊長山縣閭店口等四村莊沂城縣后劉王莊十八村莊齊河縣耿家莊等三十一村莊濟陽縣東中凡等十八村莊海豐縣王東



莊等一百十二村莊廣河縣朱家莊等三十八村  
莊濠州宋家莊等一百一十村莊利津縣陳傅莊等  
四十二村莊密化縣許家莊等一百三十八村莊  
諸臺縣吳家莊等三十二村莊濰州南關東李家  
樓等二十村莊乾縣龍北等里五家樓等九十二  
村莊平度州吳家屯等二百二十七屯併衛宿召  
屯等五屯昌邑縣北高家莊等二百二十六村莊  
濰縣西王莊等五十八村莊膠州前店口等一百  
九十六村莊高密縣東柳等鄉二百二十七村莊  
即墨縣官莊町等二十村莊並全堂町一町濟寧  
州倪家廟等一百六十一屯莊高苑縣永阜莊等  
六十八村莊博興縣許李莊等九村莊樂安縣桑  
科莊等一百七村莊較莊之鄆平縣吳家莊等六  
十一村莊長山縣辛集莊等二十一村莊濟河縣  
梁莊等七十三村莊併衛張保本屯等七十八屯  
莊濟陽縣跋田莊等十四村莊併衛台屯一屯濱  
州高莊等一百九十九村莊利津縣車家莊等七  
十三村莊濰州南關西劉家莊等一百七十九村  
莊乾縣龍南等里前馮堤等一百十八村莊汶上

縣城南老僧堂等六社共五十一村莊附澤縣萬  
乾都武家寺等一百五十一村莊鉅野縣東陽等  
保東關廟等六十五村莊鄒城縣十里鋪等十五  
村莊莊平縣空李莊等五十九村莊邱縣鎮東堡  
等六村莊最輕之博興縣高車官莊等十九村莊  
樂安縣破家房子等二十二村莊壽光縣鳳凰廟  
等七十五村莊本年上忙新賦及漕項河銀臨德  
等倉民佃鹽課並攤徵隄工河工地租等項暨  
至秋後徵徵濟寧東昌臨清三衛放水屯莊隨同  
坐德州縣一律辦理德州衛坐落德州境內被水  
屯莊該州並無被災民田著查照海豐縣被災村  
莊撥徵辦理該撫卹刊刻賸黃編行曉諭務期實  
惠及民毋任文詹奔解用副賦履端行慶澤普  
黎至意該部即遵諭行欽此

5 道光十六年正月初三日內閣奉

上諭朕於二月二十日啓鑾二十三日抵謁

東陵禮成後於二十六日駐蹕南苑三月初二日還宮  
所有應行事宜著各該衙門照例敬謹豫備欽此

殊

6 二月二十日烟郊

二十一日白澗

二十二日登福寺

二十三日詣

陵桃花寺

二十四日白澗

二十五日烟郊

二十六日小紅門元宣宮永恭寺德衙門

二十七日關帝廟女佑廟圍河

二十八日圍河

二十九日女佑廟駱駝鷹臺圍河

三十日圍河

三月初一日新衙門

初二日北大紅門還宮

7 道光十六年正月初三日內閣奉

上諭上年山西有陽曲等州縣被水被雹業經降旨

分別蠲緩撫卹並出旨倉穀小民自可無虞大所

雖念今春青苗不接之時民力未免拮据著加恩

將陽曲太原保德興臨縣臨汾汾水交城寧武

武鄉河曲定襄陽城陵川沁水等十五州縣按照

各地方情形酌量分別倉穀得資接濟該部知道

刑部知道欽此

同日奉旨

欽一

8 道光十六年正月初三日內閣奉

上諭上年山西西安等州縣被水被雹業經降旨

分別蠲緩撫卹並給予修費口糧小民自可無

虞夫所惟念今春青苗不接之時民力未免拮据

著加恩將被水之陽曲陽城陽城陽城陽城陽城

兩縣榆林茂州神木華州縣及李義一廳俱照得

口糧其貯糧數少之晉寧給以折色散放俾資接

濟該部知道欽此

同日奉旨

刑部知道欽此

9 道光十六年正月初三日內閣奉

上諭上年甘肅省皋蘭華縣州縣被雹被水被旱業

經傳言和惠賑恤小民自可無虞失所惟念今春青黃不接之時民力未免拮据若加惠將被災秋重之奉簡縣酌借正二兩月口種折色銀一萬二千兩籽種折色銀四千兩金縣正二兩月口種折色銀二千兩籽種折色銀一千五百兩澠西縣正二兩月口種折色銀一千兩籽種折色銀一千兩寧遠縣正二兩月口種折色銀一千兩籽種折色銀一千兩不定縣正二兩月口種折色銀一千五百兩籽種折色銀一千五百兩道清縣正二兩月口種折色銀一千兩籽種折色銀一千兩西和縣正二兩月口種折色銀一千五百兩籽種折色銀一千五百兩涼縣正二兩月口種折色銀一千一百兩籽種折色銀一千五百兩安化縣籽種折色銀二千兩清水縣籽種折色銀一千兩溆州正二兩月口種折色銀八千兩崇信縣正二兩月口種折色銀二千兩宜章縣正二兩月口種折色銀四千兩隸原縣正二兩月口種折色銀三十兩所有折色銀兩著即在於司庫盤查種債款內撥給收以資補濟該各印刊刻條黃編行曉諭務使

實惠又民毋任又奉舟幣用示以普錫春祺惠洽  
邊陲王憲部即遵行欽此

10 道光十六年正月初四日為閏奉

上諭上年江西省南昌等處各屬縣被旱被雹業經降旨加恩分別緩徵小民諒可不致失所惟念今春青黃不接之時民力未免拮据著加恩將南昌新建豐城進賢武寧高安上高宜春分宜萍鄉萬載清江新喻新淦洪江蓮花廬陵吉水永豐泰和萬安安福永新永寧臨川金谿崇仁宜黃樂安東鄉南城玉山貴溪弋陽鄱陽餘干樂平浮梁安仁德興萬年星子都昌建昌安義德化德安瑞昌湖口彭澤新城等五十一縣無力農民酌量借給籽種其南昌新建豐城進賢上高清江新喻新淦洪江廬陵吉水泰和萬安東鄉鄱陽餘干萬年星子都昌建昌安義德化德安瑞昌湖口彭澤等二十六縣並著酌借一月折色口種各縣常平倉穀不敷借給籽種口種者准其撥照成案每石折給銀六錢在於司庫正項內借放道光十六年秋成

後免息徵還以紓民力該撫卽刊刻謄黃偏行曉諭務使實惠及民母任吏胥舞弊用示服膺春布聞澤普黎元至意該部卽遵諭行欽此

11 道光十六年正月初四日內閣奉

上諭上年浙江省被淹被旱各州縣並理值時分別加恩小民自可無虞夫所惟念今春青黃不接之時民力未免拮据著加恩將長烏蘆水站索三縣實給一月折色口糧共銀兩著卽在上年地丁項下動支散放該撫卽刊刻謄黃偏行曉諭務期實惠及民母任吏胥舞弊用刻狀新給錫於念民依在志該部卽遵諭行欽此

12 道光十六年正月初四日內閣奉

上諭上年湖南省澧州等州縣衝被淹被旱業經降旨分別蠲緩並賞給口糧小民諒可不致失所惟念今春青黃不接之時民力未免拮据著加恩將華容安鄉澧州臨湘四州縣被旱被淹各田畝一律借給籽種均照折色散放俟秋收後按段免息

徵以紓民力該撫卽刊刻謄黃偏行曉諭務使實惠及民母任吏胥舞弊用示服膺春布澤惠洽黎元至意該部卽遵諭行欽此

13 道光十六年正月初四日奉

旨錢紹庭著交刑部歸案審訊穆九一犯仍著步軍統領衙門順天府五城一體嚴拿務獲歸案審辦欽此

14 道

旨查開王大臣年歲生日單

惇親 王綿恆年四十二歲六月二十二日生日

禮親 王全齡年二十歲十一月初八日生日

睿親 王仁壽年二十七歲三月初六日生日

鄭親 王烏爾恭阿年五十九歲六月十七日生日

豫親 王裕全年六十歲五月二十九日生日

肅親 王敏敏年六十四歲十二月二十三日生日

莊親 王奕賚年二十三歲二月二十日生日

怡親 王載垣年二十一歲八月二十六日生日

定龍 王奕昭 年六十八歲五月十一日生日

惠郡 王錦倫 年二十六歲六月二十七日生日

克勤郡 王承頌 年三十五歲三月二十三日生日

順承郡 王春山 年三十七歲四月初十日生日

慶郡 王錦懋 年四十二歲二月初八日生日

成郡 王載銳 年三十二歲正月二十一日生日

大學 士長齡 年七十九歲十月十八日生日

大學 士文子 年七十二歲五月二十八日生日

大學 士潘世恩 年六十八歲十二月二十一日生日

大學 士阮元 年七十三歲五月二十日生日

協辦大學士穆彰阿 年五十五歲十二月二十九日生日

協辦大學士王鼎 年六十九歲二月初三日生日

尚 書湯金釗 年六十六歲十月二十三日生日

尚 書耆英 年五十二歲二月初二日生日

尚 書恩銘 年五十一歲九月二十三日生日

尚 書汪守和 年七十二歲六月十一日生日

尚 書奕額 年五十三歲三月十七日生日

尚 書王宗誠 年七十三歲四月二十六日生日

尚 書成格 年六十八歲十月十八日生日

尚 書史致儼 年七十七歲十月二十三日生日

尚 書載銓 年四十三歲八月二十二日生日

尚 書何凌漢 年六十五歲八月二十五日生日

尚 書福恩 年五十二歲二月二十九日生日

左都御史武志額 年六十二歲三月二十二日生日

左都御史吳椿 年六十七歲三月十六日生日

都 統富克津 年五十三歲十月二十一日生日

都 統奕紀 年四十八歲四月二十八日生日

都 統高喀乃 年七十二歲五月十一日生日

都 統僧格林沁 年二十六歲六月十五日生日

都 統綿德 年六十一歲二月二十九日生日

都 統琦善 年五十二歲十二月十九日生日

都 統督陶澍 年五十九歲十月三十日生日

都 統督瑚松額 年六十五歲十二月初一日生日

都 統督鄂山 年六十七歲九月初五日生日

都 統督程祖洛 年六十一歲十月二十日生日

都 統督訥爾經額 年五十四歲七月十七日生日

都 統督鄒廷楨 年六十二歲十二月十五日生日

將 軍奕經 年四十六歲十月初二日生日

將 軍樂善 年六十八歲十月和八日生  
 將 軍哈豐阿 年六十五歲四月二十一日生  
 將 軍富僧德 年七十歲十月二十四日生  
 將 軍和世泰 年五十大於五月和五日生  
 將 軍巴哈布 年五十九歲七月和二日生  
 將 軍極格 年七十歲八月和八日生  
 將 軍德克金布 年六十四歲七月十三日生  
 將 軍蘇勒芳阿 年六十九歲八月和六日生  
 將 軍特依順保 年七十歲六月和五日生  
 將 軍保昌 年六十三歲八月十七日生  
 將 軍長清 年五十五歲四月二十九日生  
 將 軍寶興 年六十歲十一月二十一日生  
 將 軍丹德 年七十二歲六月二十日生  
 熱河都統嵩溥 年六十三歲三月和三日生  
 察哈爾都統凱音布 年六十二歲八月二十五日生  
 高蒙慶都統富呢瑪阿 年四十九歲七月二十一日生  
 致仕大學士盧蔭溥 年七十七歲七月二十四日生  
 致仕尚書黃斌 年七十八歲八月和五日生  
 致仕總督楊遇春 年七十七歲十二月二十五日生

15 軍機大臣 字寄

兩江總督陶 湖廣總督訥 道光十六年正月  
月初七日奉

上諭前據陶澍奏江廣鹽多滯銷又據訥爾經額奏  
 楚岸鹽斤短缺兩省同時具奏情形互異當降旨  
 著陶澍將江廣各口岸實在情形查明據實覆奏  
 並據陶澍奏稱查明湖廣全省年額應銷七十七  
 萬九千九百餘引春夏二季僅銷過三十萬四千  
 四百十四引尚未及年額之半秋冬二季未據報  
 到該省奏稱該岸稅利盈一萬八千二十七引未  
 引將已銷之數提及無從覈算此時漢岸之鹽似因  
 場運偶稽而不繼未必盡因多銷而見缺等語鹽  
 稅以轉運疏銷為要若銷路不暢轉運為之不靈  
 據陶澍奏稱上年江廣口岸額銷引數查春夏二  
 季尚未銷及年額之半訥爾經額稱截至十一  
 月二十日止除銷過鹽六十三萬五百五十六引  
 現被刺一萬八千二十七引此項引鹽所銷究係  
 何綱著陶澍訥爾經額查明據實具奏至口岸銷  
 鹽各有定數而淮控司全局必應趕催接濟無誤

轉運嗣後趕運不違著陶澍實力催提至口岸銷  
既責成酌爾經額認真經理隨時隨處提期岸銷  
大暢以資轉輸務須不分畛域嚴實辦理以期鹽  
務日有起色方為不負委任陶澍行抵該省將鹽  
務應辦事件與酌爾經額悉心妥善實力趕辦無  
誤釀綱全局倘辦理不善惟該督等是問咎有攸  
歸凜之慎之特此各諭令知之欽此

旨寄信前來

16 道光十六年正月初七日內閣奉

上諭佟景文奏請鼓勵紳賑勸捐各負並捐資助賑  
紳民各一摺安徽省道光十三年夏秋雨水過多  
田地被淹勸捐紳賑各負暨各紳民自應量予鼓  
勵據該督撫查明除蕪湖縣官紳前經降旨分別  
加恩外著照所請所有紳賑出力之婺源縣訓導  
雷俊著以應升之數銜學政儘先升用試用訓導  
楊名超著歸於本班儘先選用南陵縣縣丞沈祥  
然無為州州同焦思晉無為州文目姚令榮念山  
蘇運漕巡檢傅廷槐念山縣典史謝格隨同印官

實心經理均著交部議敘惟李蕪在籍候選鹽大  
使劉琳捐銀在二千兩以上著歸部以本班儘先  
選用念山縣議敘州判職銜孫殿勳捐職同知孫  
延年懷寧縣議敘監知事銜陳希瑞無為州候選  
知州盧時候選訓導候銜捐銀均在二千兩以上  
均著交部從優議敘餘俱著照所議辦理並免其造  
冊報銷換部知道欽此

17 道光十六年正月初八日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠  
銀糧令各該將軍府尹督撫等查明開單具奏據  
楊名殿先後查明陝西省道光十年以前民欠數  
目開單呈覽當交戶部覈覆茲據查明具奏陝西  
省道光十年以前華陰等縣未完借給常平倉籽  
糧口糧三千三百十三石零高陵等縣未完出借  
常平倉並社倉糧三萬二千八十石零委係實欠  
在民候著加恩全行豁免該撫即刊刻賸黃編行  
晚諭並照例按戶付給免單嚴禁吏胥影射需索

等娶務期實惠及民用副朕錫美推恩至意餘依議欽此

18 道光十六年正月初九日內閣奉

上諭陶澍等奏遵旨籌議約未糧船水手章程各一摺著大學士軍機大臣會同戶部議奏欽此

19 道光十六年正月初九日奉

旨知道了這所得盈餘銀六萬三千三百三十三兩零著一併交團明副保儲蓄者無庸交納欽此

20 道光十六年正月初十日內閣奉

上諭兩淮鹽運使貧缺著劉萬程調補欽此

21 道光十六年正月初十日內閣奉

上諭林則徐等奏調補沿海要缺知縣一摺著照所請江蘇南涇縣知縣貧缺准其以沈炳垣調補該部知道欽此

22 道光十六年正月初十日內閣奉

上諭周之琦奏請調補者會要缺知縣一摺著照所請江西南昌縣知縣員缺准其以蔣啟敬調補該部知道欽此

23 軍機大臣 字寄

署兩江總督巡撫林 澐運總督恩 覆理江蘇巡撫布政使陳 道光十六年正月十一日奉  
上諭上年十一月間曾降旨將劉萬程補授山東鹽運使昨復持該員調補兩淮鹽運使兩淮事務殷繁該署督等核奉此旨著迅令該員即赴新任其蘇松糧儲道任內事務陶廷杰早晚可到足資接辦將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

24 軍機大臣 字寄

成都將軍寶 四川總督鄂 道光十六年正月十一日奉

上諭前據都察院奏四川戍邊廳民人徐惲林等具



控免災焚搶兵撤後米等情當降旨交鄂山提宗  
審訊並著寶興等查明據實覆奏茲據奏表違廳  
十三支吏自既定後並未出果焚搶地方實屬安  
靜其嘉眉雅三屬內凡退兵差州縣本未派令津  
貼等語上戶劉新茂等十三支吏匪甫經戡定凱  
撤未逾兩月即據該民人等具控免災復出焚搶  
立得全無影響故為此虛詞聳聽此素著添派寶  
興會同鄂山侯徐桐林等解到東公研訊務得確  
情斷不可因覆奏在先稍存迴護之見至該民人  
所控嘉眉雅三屬州縣派銀津貼雖據該將軍等  
奏稱由該處紳耆公議辦理官吏並不涉手但恐  
該地方經過兵差所應夫馬徭役名為紳耆辦理  
實則官吏借端苛派上司受其賂蔽亦難保其必  
無該將軍等審理此案務期水落石出以成信讞  
斷不准稍涉含混官官相護文過飾非自取咎戾  
將此各諭令知之欽此道

旨寄信前來

25 道光十六年正月十一日內閣奉

上諭林則徐等奏請將江淮等屬熟田舊欠錢糧分

別緩徵一摺上年江蘇省江甯淮安揚州徐州海  
州等府州屬除被水被旱歉收之區應帶徵道光  
十一年起至十四年舊欠銀米業經降旨緩徵外  
其成熟田地節年舊欠錢糧應照限徵徵據  
該督等查明各屬或因毗連災區或因連年積  
歉若將新舊錢糧同時並徵民力實有未逮加恩  
著照所請所有上元縣未完道光十三四年災緩  
初限暨十一十二等年舊欠銀米以及歷年加津  
銀兩江甯縣除應徵外其餘各年災熟舊欠錢糧  
向容縣道光十一年起至十四年止地漕蘆七各  
各項災熟積欠銀米及嘉慶二十三年起至道光  
十四年止未完民欠加津銀兩高淳縣道光十  
一年蠲剩併勘不成災二限銀米及十一年蠲剩  
三限銀米又十三年蠲剩並勘不成災二限銀米  
江浦縣道光十一年起至十四年止各年舊欠災  
熟民衛蘆課加津銀兩漕七等米及嘉慶二十三  
四十九二十五年道光元四五十年等年加津  
銀兩六合縣道光十四年民欠熟田併道光十一  
年起至十三年止未完民衛熟田銀米錢糧併加

津銀兩又道光十二三四等年未完災熟蘆課錢糧及嘉慶元年起至道光十年止未完加洋銀兩山陽縣道光十一年起至十四年止未完災熟各款銀米以及墊完民欠兵米阜寧縣道光十一年起至十四年止各款災熟舊欠銀米清河縣道光十一年起至十四年止因災遲緩以及熟田未完銀米安東縣各年災熟舊欠錢糧益城縣各年積欠災熟銀米並借領籽種濟河等款銀兩高郵州道光十一十二年舊欠及十三年遲緩初限銀米又歷年災緩津貼銀兩泰州道光十一二三等年災熟並十四年初限銀米江都縣道光十一年起至十四年止未完地產災熟銀米甘泉縣道光十一年起至十四年止災熟舊欠銀米又歷年災緩津貼銀兩儀徵縣道光十一二三四等年積欠災熟錢糧漕米興化縣各年災熟舊欠銀米河銀寶應縣東鄉道光十二三兩年災緩銀米銅山縣道光十一二十三年及十四年二限災緩銀米並攤徵水利各款豐縣道光十一二三年舊欠錢糧沛縣除應徵外其餘道光十一二三四等年積欠錢漕蕭縣

各年舊欠銀米及水利銀兩陽山縣道光十一二兩年地漕正攤錢糧邳州道光十一年舊欠錢糧宿遷縣道光十一三十四等年災熟地漕銀米並道光十二年已未辦初限銀米及復熟二限地漕銀米水利等款睢寧縣除應徵外其餘各年舊欠錢糧海州道光十一年並十二三四年二限舊欠錢糧暨未完挑河夫工銀兩沐陽縣道光十四年成熟各鎮保道光十一年熟田舊欠及災緩二限地漕漕價河租等款又十四年被文各鎮保道光十一年起至十三年止並十四年二限舊欠各項災熟錢糧又道光十一年春出借森林板較准其概行緩至本年秋成熟後分別留徵其淮安大河徐州三衛屯田隨同坐落州縣一律辦理至蘇松等屬道光十一年至十四年舊欠等銀並災緩漕米業經降旨概予緩至本年秋成熟後每年帶徵最遲一年惟各屬上年款項所欠道光十四年熟田漕項及上海川沙陽湖江陰靖江金壇溧陽太倉等八州廳縣上年熟田所欠十四年熟田銀兩並摺該署督等查明均以民力維艱未能同時

並納著加恩准其同十四年災緩銀兩一併奏緩  
帶徽以紓民力該署督等即刊刻勝黃通行曉諭  
務令貧惠及民毋任吏胥舞弊用副朕軫念歉區  
至意該部知道欽此

26 道光十六年正月十一日內閣奉

上諭山東鹽運使員缺著李孝廉補授欽此

27 俸深道十員

福建延建府通祥靈

正白旗滿洲生

河南南汝光道王家相

江蘇進士

甘肅安肅道雙興

廣西漢滿洲生

甘肅西安道湯鼎

廣西漢蒙古官學生

浙江督糧道覺羅桂蕃

廣西漢蒙古官學生

江蘇江寧鹽法道精拉明阿

正白旗滿洲官學生

福建興泉永道周凱

浙江進士

四川永寧道朱斌

江蘇進士

四川建昌道文綸

正藍旗滿洲進士

直隸永定河道文冲

廣西漢滿洲生

28 俸深知府十員

雲南順寧府知府林樹恒

順天貢生

陝西延安府知府邱燧

貴州進士

湖南常德府知府多瑛

正黃旗蒙古官學生

河南汝寧府知府布彥博勒格

正藍旗蒙古官學生

雲南楚雄府知府裴驄

山西監生

湖北武昌府知府崇茗

正藍旗漢軍生

廣東惠州府知府楊希銓

江蘇進士

江蘇徐州府知府武凌漢

陝西舉人

湖北宜昌府知府程家頌

河南舉人

貴州安順府知府程式濟

正黃旗滿洲生

29 道光十六年正月十一日內閣奉

上諭朕於二月二十日啟鑿祇謁

東陵禮成後於二十六日回圓明園欽此

30 道光十六年正月十一日內閣奉

上諭陳慶泰勒估批撥從陽運河一摺江蘇鎮江府

屬丹徒丹陽二縣運河為江浙兩省漕船經由要

道現屆輪應小挑經該護撫查明通河挑撈工段計舟徒丹陽兩縣共估需銀一萬五千九百六十五兩零著照所請准其支動樂生洲租息銀五千八百十二兩零其餘銀一萬一百五十三兩零准其在於司庫存公等款銀內動給該護撫即督飭該道府委員等認真挑撈迅速歲事毋任稍有草率偷減工竣數實驗收如查與原估標誌不符即據實恭辦該部知道欽此

31 道光十六年正月十二日內閣奉

上諭賀長齡著調補直隸布政使鳳來著補授福建布政使所遺福建按察使員缺著張澧中補授欽此

32 道光十六年正月十二日內閣奉

上諭琦善等奏伏查陸署沿河要缺知縣一摺着照所請直隸固安縣知縣員缺准其以陳嘉謀陞署仍照例送部引見該部知道欽此

33 道光十六年正月十二日內閣奉  
上諭琦善奏藩司患病懇請開缺一摺光聽著准其開缺回籍調理欽此

殊  
34 道光十六年正月十二日內閣奉

上諭直隸大順廣道員缺著陸費環補授欽此

35 查直隸大順廣道係繁難要缺江蘇常鎮通  
道係衝繁難要缺謹  
奏

36 道光十六年正月十二日內閣奉

上諭江蘇常鎮通道員缺著王瀚夢補授欽此

37 道光十六年正月十二日奉

旨戴翹著交原派之大臣歸案審訊欽此

38 道光十六年正月十三日內閣奉

上諭直隸保定府知府員缺緊要著破督於通省知府內揀員調補所遺員缺著錫麟補授欽此

殊

殊

殊

硃

39 道光十六年正月十三日內閣奉

上諭湖北施南府知府員缺著金石聲補授欽此  
遺缺著田溥補授欽此

40 查湖北施南府係繁瘠難要缺謹

奏

41 道光十六年正月十三日內閣奉

上諭京察記名人員於次屆散完後著內閣部院各衙門於京察一等未詳記名各員內遴選才具優長者出具切實考語保送由吏部帶領引見欽此

42 道光十六年正月十三日內閣奉

上諭惠豐著以三四品京堂候補欽此

43 道光十六年正月十三日奉

旨廷所奏暫行革職之湖南安鄉縣知縣李慶豫於  
突賑重務既經查出保甲人等需索灾民冊費僅  
以責革了事並不具報懇辦難保無串通築指情

事著革職等因交恩銘趙威奎提同已革員陳  
同治及書差人等嚴行究審務得確情據實懇辦  
其分隊查造戶冊之委員有無得受冊費者一併  
歸案研訊無枉無縱欽此

44 道光十六年正月十三日奉

旨刑部堂印於被竊後未及一月即將人印並獲辦  
理尚為迅速所有刑部堂玉鼎成格文致儼劉彬  
士姚元之革職留任處分均著加恩改為降三級  
留任當月司員郎中九齡等前經降旨革職現在  
人印業俱就獲當月官至無守庫之責惟究屬疎  
於防範已革郎中九齡主事諱顯相俱著加恩開  
復原官仍吏部嚴加戒處餘依議欽此

45 道光十六年正月十三日奉

旨此案著于頭目帶領著于前往直隸完縣劉四家  
內起獲利軒堂印尚為迅速七品銜番子頭目關  
勇著賞戴藍翎番陳裕趙陞著賞給八品頂帶以  
示鼓勵欽此

46 道光十六年正月十四日內閣奉

上諭刑部及鑲藍旗滿洲都統奏奉守庫官鹽班不到各一摺刑部大庫向由各該旗輪派官一員兵丁十名巡查吏吏原為慎重庫貯起見茲據奏稱本年正月初六至初十等日輪應鑲藍旗滿洲派委官兵赴庫乃該旗駝騎校格額額並不赴庫該班屢經片催抗傳不到實屬怠玩格額額著即革職以示懲儆各該院衙門庫貯庫地該班官兵理應按期上班實力巡查不得稍有曠誤嗣後著各該旗嚴飭所派官兵毋得怠玩如有曠班不到及頂名替班等弊各該堂司官隨時查明據實嚴參懲辦毋稍徇隱倘不能認真稽查致有疎失或別經發覺定將該堂司各官一併懲處不貸欽此

47 大學士<sub>臣</sub>長齡等跪  
奏為遵

旨會議具奏事道光十五年十二月二十六日據塔爾巴哈台參贊大臣杞楚克策楞等具奏塔爾巴哈台鋪戶商民窮懸

天恩情願自備資斧搬接眷口一摺奉

硃批大學士軍機大臣會議具奏欽此<sub>臣</sub>等查道光十一年辦理回疆善後事宜經<sub>臣</sub>長齡等會議先將西四城可種之地招民開墾有願攜眷者聽之其營兵在防既久有自願徙眷安家者亦聽其便

奏奉

諭旨准行嗣經喀什沙爾辦事大臣額勒錦因該處鋪商呈懇自備資斧搬接眷口請仿照西四城兵民攜眷之例辦理

奏蒙

恩准各在案茲據塔爾巴哈台參贊大臣等奏稱該處鋪商多係山陝甘肅窮民前赴該處開闢種植地經營立業已歷七十餘年因離家過遠恐生意乏人照料不能回家漸致眷口失養請仿照西四城之例攜眷就養俾得兼顧家業一意營生自係實在情形<sub>臣</sub>等伏思商民貿易與兵民墾種其營生本屬同情現在南路各城既經奏明准令攜眷則塔爾巴哈台與伊犁回疆亦屬

事同一體且據該大臣等查明該處所屬巴爾楚克之額魯特察哈爾及土爾扈特各部落蒙古游牧距城俱遠其西北境雖有哈薩克皆在卡倫關齊之外且戍防官兵並所屬蒙古與商民交易多年向俱相安無事商民等有墾種地畝與蒙古游牧生計均無妨礙事屬便民應如該大臣等所奏該處商民等查係開闢種地立有產業者准令穩養口俾得就近養家以順商情而濟生業所有<sub>臣</sub>等會議緣由理合恭摺具奏

是否有當伏乞

皇上聖鑒訓示遵行謹

奏

道光十六年正月 十四

日

<sub>臣</sub>長齡

<sub>臣</sub>文孚

<sub>臣</sub>潘世恩

<sub>臣</sub>阮元

<sub>臣</sub>穆彰阿

<sub>臣</sub>王鼎

<sub>臣</sub>趙盛奎  
<sub>臣</sub>賽尚阿

48 道光十六年正月十六日內閣奉

上諭順天府府尹著曾望顏補授欽此

49 軍機大臣 字寄

兩江總督陶 道光十六年正月十七日奉

上諭本日據陶澍奏迭次開運司出缺折回江省一摺上年陶澍來京陛見奏懇賞假回籍修墓當經加恩允准茲行抵河南鄭州和鹽運使俞德潤因病出缺兩淮鹽務疏新學滯現當喫緊之時主掇乏人關緊緊要陶澍接奉此旨著即折回江寧省城督同新任運司劉萬程籌商料理務期敵日有起色統俟鹽務得人並催送全漕渡黃後再赴江西及安徽南路開兵將兼江西事竣即將兩江總督印務交林則徐暫行兼署該督即領道回籍省墓再由水路旋抵本任將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

50 道光十六年正月十七日內閣奉

上諭軍機章京工部郎中何汝霖著加恩遇有郎中  
應升之京堂缺出著吏部一體開列請旨其郎中  
任內京察一等著即註銷欽此

51 道光十六年正月十七日內閣奉

上諭前因御史鄭世任奏湖南學政龔維琳信用  
門丁顧四隨相索賄並索加棚規勒繳自刻詩賦  
價銀等情當降旨交趙盛奎查訊究辦茲據該侍  
郎審訊明確定擬具奏學政為士林表率自應公  
正廉明闕防嚴密方為無忝厥職此案湖南學政  
龔維琳雖訊無加索棚規等項情弊惟該學政衙  
門丁役無多何難稽查約束乃於門丁顧四到處  
挑斥需索毫無覺察並將自作詩賦刊刻板片存  
留書舖任其刷印售賣大屬非是龔維琳著交部  
嚴加議處湖廣總督訥爾經額前奏該學政考試  
公明士論翕服並未聞有幕友家丁不自檢束之  
語現據訊明顧四有到處挑斥需索情弊尚得謂  
該學政家丁能自檢束才訥爾經額所奏不實著

硃 硃

交部議處湖南巡撫吳榮光既知該學政有刊書  
售賣情事並不據實奏聞及知有人錄奏始以飭  
查未覆為辭光占地步殊屬取巧吳榮光著交部  
議處餘著刑部議奏欽此

52 道光十六年正月十七日內閣奉

上諭前據都察院奏湖南澧州民人李萬忠等控該  
州積弊貽害等情一案當降旨交趙盛奎親提審  
訊本日據該侍郎奏提彙審訊按律擬結此案前  
署澧州知州王元鳳雖訊無浮收勒折那用倉穀  
各情事惟於家人藉案勒索等情毫無覺察並於  
該州署需用物件輒以官價勒派商民承辦已屬  
大千例禁又私設班館濫鎖無辜動至經旬累日  
致丁役人等乘機索詐多端僅予革職不足蔽辜  
王元鳳著發往軍臺效力贖罪以為違制殃民者  
戒餘著刑部議奏欽此

53 道光十六年正月十七日內閣奉

上諭祁項奏督臣不日到任請將計典展限一摺廣



東省上年大計著准其以兩廣總督鄧廷楨到任之日起展限三個月屆期東公會彙辦理該部知道欽此

54 道光十六年正月十七日內閣奉

上諭祁煥奏才不勝任之守備請旨降補一摺廣東順德協右營守備張天德才具平庸辦事心粗罔知檢束難勝守備之任著以把總降補仍留內河水師候補以觀後效該部知道欽此

55 道光十六年正月十八日內閣奉

上諭程祖洛等奏請將承辦臺灣軍需報銷各員分別鼓勵等語福建候補同知直隸州沈汝澂著賞加知府銜免補縣丞本班以應升之缺并用之沈功著著以知縣儘先補用以府經歷縣丞補用之顧清著俟服闋回閩補缺後以應升之缺并用龍溪縣典史章煥著以內陞歷縣丞即行補用候補從九品朱丙著著儘先補用以示鼓勵該部知道欽此

56 道光十六年正月十八日內閣奉

上諭瑚松額奏同知例應迴避請該員對調一摺著照所請查實勤准其調補陝西孝義廳同知所遺甘肅寶德廳同知員缺即以李希曾對調該部知道欽此

57 道光十六年正月十八日內閣奉

上諭魏元煥奏知縣呈請改教一摺在籍之雲南元謀縣知縣邱翰元有拙才力漸衰難膺民社之任呈請改就教職邱翰元著准其以教職改補歸部銓選該部知道欽此

58 道光十六年正月十八日內閣奉

上諭鍾祥奏山東登萊青三府上年歉收之處現當青黃不接高預調劑請借撥解捕生息銀兩等語著照所請准其借用緝捕生息銀五萬兩添備調劑之需仍俟續收一半息銀量數歸還所用銀兩著免其造冊報銷該部知道欽此

59 道光十六年正月十八日內閣奉

上諭鍾祥奏地方官訪獲邪教請寬免處分等語此案教犯宗恩賢等俱係該管各官自行訪拏破寨保關拿辦究辦功過尚足相抵而有濮州夏津縣高唐州東阿縣羊縣歷任文武各官失察處分俱著加恩寬免該部知道欽此

60 道光十六年正月十八日內閣奉

上諭鍾祥奏拜回教犯在籍仍不安分請照舊發遣枷號等語所辦甚是孫自道著仍發回城為奴在配永遠枷號欽此

61 軍機大臣 字寄

欽差尚書恩 侍郎趙 道光十六年正月十九日奉  
上諭前因廣東東莞縣命婦盧尹氏違抱告具控伊子已革刑部郎中盧應翔被卷革職一案有供奏兩歧等情當降旨令林則徐迅飭蘇松太道陽全成將何以供奏不符之故以及何人起意主稿據實登覆呈稿錄原呈令其逐條登答茲據該省督

覆奏並將陽金城登復各條照錄清單呈覽著恩

銘等即將單開各條逐一秉公研訊務得確情毋許稍有不實不盡之虞摺單著鈔給閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

62 道光十六年正月二十日內閣奉

上諭貴州大定府知府司河著來京交吏部帶領引見欽此

63 道光十六年正月二十日內閣奉

上諭納爾經額奏營費不敷請籌備津貼一摺此項湖南餘存生息銀四千五百餘兩本係各營差費剋剩之項著准其仍照原案發典生息俾資各營津貼之用餘著照所議辦理該部知道欽此

64 道光十六年正月二十日內閣奉

上諭御史黃仲容奏請整頓廣東潮商鹽務一摺著戶部議奏欽此

65 道光十六年正月二十一日內閣奉  
上諭著英現在出美步軍統領著桂輪護理欽此

66 道光十六年正月二十一日奉

旨刑部郎中九齡主事譚顯相均著降一級調用欽此

67 道光十六年正月二十一日奉

旨此系湖南學政龔維琳於門丁顧四到處挑斥需索毫無覺察並將自作詩賦刊刻板片存留書舖任其刷印售賣實屬大屬滿載吳著即照部議革職湖廣總督陶澍類於該學政門丁顧四到處挑斥需索情節未能查明具奏著降二級留任不准抵銷湖南巡撫吳榮光既知該學政有刊書售賣情事並不據實具奏及至有人奏奏始以飭查未覆為辭先占地步其咎然重著降為四品京堂來京候補欽此

68 道光十六年正月二十一日內閣奉

上諭湖南巡撫著裕泰調補貴州巡撫著賀長齡補

授直隸布政使負缺著梁章鉅調補甘肅布政使負缺著趙炳言補授欽此

69 道光十六年正月二十一日內閣奉

旨上諭湖南按察使負缺著楊慶琛補授欽此

70 道光十六年正月二十一日內閣奉

旨上諭湖南學政著蔡錦來去欽此

71 道光十六年正月二十一日內閣奉

旨上諭翰林院編脩陸建瀛著在上書房行走欽此

72 軍機大臣 字寄

陝甘總督瑚 道光十六年正月二十二日奉  
上諭有人奏甘肅省吏治近多廢弛即如平涼府知府修廷槐操守卑汙每遇詞訟藉端勒索考試各屬文童索首及十名前全行賄賣該處士民有細大不捐之號又秦州直隸州知州李清傑在任十年性耽安逸吸食鴉片著中時常演戲任聽家人

小秦在外招搖曾有罷市之事通省皆知又該省兵丁向稱得力近來日益驕悍罔知畏憚上年四月間因皋蘭縣給發兵糧不能潔淨兵丁聚眾挾制蘭州府知府出而彈壓許為換給淨糧始行解散該督甫經到任顛預了事既不將滋事兵丁嚴究辦又不將辦理不善之皋蘭縣一併叅處兵心輕視各營難免效尤又固原提督胡超不自檢束剋扣兵餉置辦戲裝裁汰老弱名糧至為蓄養優伶之用衆兵不服十四年間幾至鼓譟幸楊馮春閱兵到彼彈壓無事該提督至今不知悔改該督節制固原豈得毫無聞見又該省於道光十年間辦理盤查計通省短缺倉糧六十餘萬石因所存糧價與市價不敷發商生息分十二年採買歸補現在駐劄重兵之區倉貯空虛糧皆不足請將該省司庫備貯銀兩酌撥數十萬兩為採買以實倉儲等語甘肅省為西陲門戶控制新疆幅員極廣番回雜處撫馭蕃難全在該省總督實力整頓其經理吏治不可不肅奸衙不可不嚴名儲不可不實若者負稍事姑容俟屬何知做揚著該督即

將所指出者確訪嚴參未指出者秉公覈劾至兵丁禁驚不馴提鎮大員漫無表率何以申明紀律訓練採訪提督駐劄固原該督有節制之責著將該提督不自檢束情形嚴密確查據實奏至有名糧是否缺額可否將備貯銀兩酌撥買補著該督通盤善畫悉心妥致以為有備無患該省情形雖不始於今日惟遠經緊要豈容玩視不辦相率因循胡松頤到任未久如能將該省吏治徹底兵丁驕悍倉貯空虛實在情形並指出各員劣蹟確查具奏尚可寬其未報嚴參查辦之咎倘意存胸臆含糊搪塞則是該督甘心自貽欺飾其咎尤重深之俟之將此諭令知之欽此遵

旨字信前來

73 軍機大臣 字寄

調任湖南巡撫格 道光十六年正月二十三日奉  
上諭昨降旨著裕泰調補湖南巡撫該撫接奉此旨即將貴州巡撫印信交布政使領騰伊暫行署理迅即前赴湖南巡撫新任無庸來京請訓將此諭令

知之欽此遵

旨寄信前來

74 道光十六年正月二十二日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨著免道光十年以前民欠  
欠銀糧令該將軍府尹督撫著查明開單具奏據  
烏爾恭額查明道光十年以前鹽場欠銀兩數  
日閔單呈覽當交戶部彙覆核揀查明具奏浙江  
鹽政衙門管轄之江南松江府屬各廳縣場道光  
十年以前積欠水脚窳課正課清珠車腳等項共  
未完銀二萬九千八百十九兩零委係各窳實欠  
之數著加恩一律豁免該撫卽刊刻謄黃通行曉  
諭並照例按戶付給免單展禁吏胥影射需索等  
弊務令實惠及民用副朕錫羨推恩至意餘依議

欽此

75 道光十六年正月二十二日內閣奉

上諭御史許球奏請中門禁以嚴宿衛一摺紫禁城

內向例自前鋒軍統領各領以及軍校分班輪  
直朔街森嚴官員有門籍正役有腰牌跟隨有定  
數既不准濫行出入亦不得攙雜混淆惟宗門景  
運門外復有內務府派出者役頭日專司稽查圍  
明園大宮門內奉事門外各處門禁俱照乾清門  
外一體辦理且禁城五更啓鑰時官負人等有事  
進內祇准放進不准放出天明後始准放行定例  
周詳至為嚴密若如該御史所奏該班人等日久  
視為吳文漸至稽查懈弛竟有竊匪混跡其間該  
班軍校所用何事相率因循毫無覺察實屬不取  
事體嗣後著該管大臣等認真督飭該班人等遵  
照舊定章程嚴密稽查保禁其地益加嚴肅以  
昭慎重斷不准日久視為具文稍形懈弛欽此

76 道光十六年正月二十二日內閣奉

上諭琦善奏請勒限追解借支養廉銀兩等語前任  
直隸正定左營遊擊王楹借支養廉銀六百兩修  
理衙署該員領銀以後并未興修已於閏伍案內  
降補都司交卽回旗除扣還外尚欠銀五百二十

五兩著該旗漢軍都統勒限半年追解直隸以清款項如該員逾限不完即著該旗照例參追欽此

77 道光十六年正月二十二日內閣奉

上諭琦善奏甄別才不勝任之知縣一摺直隸武強縣知縣余起端驕斷不清監獄疎懈不勝知縣之任著以府經歷縣丞降補歸部銓選該部知道欽此

78 道光十六年正月二十二日內閣奉

上諭安徽寧池太廣道負缺著徐廣縉補授欽此

79 查安徽寧池太廣道係衝繁難要缺謹

奏

80 道光十六年正月二十三日內閣奉

上諭陝西榆林府知府負缺著八格密補授欽此

81 查榆林府係衝繁難要缺謹

奏

82 道光十六年正月二十三日內閣奉  
上諭常豐著以三品京堂候補欽此

83 道光十六年正月二十三日內閣奉

上諭翰林院奏編纂昭忠祠列傳書成請將存館致力之收掌校對繕譯膠錄供事給予優敘一摺並酌保年久尤為出力之供事以示鼓勵等語著吏部議奏欽此

84 道光十六年正月二十三日內閣奉

上諭御史鄂爾琿奏刑部堂印被竊應啟人負責處分尚有遺漏請旨飭查一摺著刑部堂查明具奏欽此

85 道光十六年正月二十三日內閣奉

上諭御史況澄奏上年科場失察士子換卷請將稽查核發換卷大臣一律議處一摺著文原派之大員僕藏翻訊明定案時一併具奏欽此

86 道光十六年正月二十四日內閣奉

上諭申殿賢奏請蠲徵連餉災區錢糧米豆一摺上年山西太原縣屬之古寨等村被水歲歉業經分別蠲緩茲值青黃不接之時民力不無拮据加恩著照所請所有太原縣屬之古寨等七十五村本年上忙錢糧著緩至本年秋後徵收其應行帶徵上年蠲餘錢糧米豆著緩至來年上忙起分作二年帶徵內三賢等十五村本係道光十四年被災蠲緩帶徵之區所有該十五村應於上年帶徵未完錢糧米豆著緩至本年下半年徵收其應於本年帶徵錢糧著連餉至來年上忙徵收應於本年帶徵米豆著連餉至來年下忙徵收以紓民力該撫卹刑刑務黃編行院諭務使實惠及民毋任吏胥舞弊用副朕軫念災區至意該部知道欽此

87 道光十六年正月二十四日內閣奉

上諭吳文鎔奏選拔屆期請嚴禁弊端一摺直隸省每遇選拔之年各學學書門斗各府州縣書吏及學政衙門書吏門丁均有卷費冊費考費各項陋

規名目且當學政局門校閱之時更有不肖之徒在外招搖撞騙不可不嚴行飭禁現屆丁酉科選拔之期所有學政衙門書吏家丁著責成該學政嚴為稽查如竟約束並先期剗切出示申明倒禁至局門校閱時著直隸總督通飭所屬各府州縣及充當提調各員認真嚴密察訪如有匪徒在外招搖撞騙立即嚴拿按律懲辦共卷冊考費一切陋規著概行禁革並著該督出示曉諭各屬應試選拔生員倘仍有書斗門丁等需索勒索情事准該生赴提調衙門稟訴從重懲治各直省考試拔貢俱著照此辦理經此次學諭之後各該學政衙門書吏人等如仍有需索陋規情弊該學政是問至局門校閱時該提調官不能隨時查察杜絕弊致不肖匪徒仍敢在外招搖撞騙一經發覺定將該提調官懲處不貸將此通諭知之欽此

88 道光十六年正月二十四日內閣奉

上諭文蔚等奏請揀貨接駐防汛一摺著照所請四川疊溪營千總謝國泰准其作為候補守備駐防定日遇有四川省守備缺出不論題推儘先坐補

照例升署仍著扣滿邊俸另請實授俟班滿回營時再行送部引見該部知道欽此

89 道光十六年正月二十四日內閣奉

上諭林則徐奏請揀員升補水師副將一摺著照所請江南太湖營內河水師副將員缺准其以孫廷揚升補照例送部引見該部知道欽此

90 道光十六年正月二十四日內閣奉

上諭祁煥等奏會勘各礮臺工程及查驗礮位情形一摺廣東虎門地方修造各礮臺及添鑄礮位各工完竣祁煥等查明新鑄大礮五十九位炸裂五十位之多實屬辦理不煥所有監鑄委員推升廷學留著廣州協左營都司黃廷彪著革去項帶責令督匠加工提煉如數賠造倘再不能妥善即著嚴懲著東莞縣知縣李繩先承修礮臺工程尚屬完固著加恩交部議敘至所奏應行加添各項經費十三款著俟部建撥到任後會同閩人培籌議具奏該部知道欽此

91 道光十六年正月二十四日內閣奉

上諭中啓賢奏請借款修濬渠工以衛鹽池一摺山西省河東鹽池地當山水下注全賴挑運渠旋衝方無淹沒之虞茲據核撫查明渠身衝決淤塞實係刻不可緩之工自應趕緊挑修以資捍衛所有估需工料銀八萬兩著准其在於藩庫銅本息銀息數變價減半平餘歸本銀兩二項內借撥即發給河東道飭令分段責成各該州縣奏此春融趕緊修濬無任草率偷減照例保固三年所借銀兩著自道光十七年為始分作八年由坐運兩商四六攤指歸款工竣免其進冊報銷該部知道欽此

92 道光十六年正月二十四日奉

旨本年輪應查閱湖北湖南雲南貴州營伍之期湖北湖南著即派納爾經額雲南貴州著即派伊里布逐一查閱務各認真簡校如查有訓練不精軍實不齊者即將廢弛之將弁據實劾劾毋得視為具文欽此



93 道光十六年正月二十四日內閣奉

上諭前據杜格奏乍浦協領缺出請不論滿洲蒙古  
通行揀選當降旨交兵部議奏本日據該部奏請  
嗣後乍浦蒙古協領缺出如蒙古官員內足數揀  
選仍照舊章辦理若一時揀選乏人准於滿洲官  
員內通行揀選隨時奏明辦理等語乍浦駐防原  
設蒙古協領一員佐領三員防禦二員協領缺出  
即由佐領三員內揀選佐領缺出由防禦二員內  
揀選該員等各有管轄揀選之責必須慎選人材  
方於管位有裨其應行揀選人員臨時偶患急病  
尚屬事之所常有若又病不痊及弓馬軟弱者早應  
隨時甄棄何得聽任棄庸悉棧以致缺出時不敷  
揀選嗣後蒙古官員遇有病呈著該將軍隨時咨  
明部若遇有蒙古缺出先儘蒙古人員揀選倘有  
必須滿洲人員通行揀選之律即將因何不敷揀  
選緣由聲明覈實料理欽此

94 道光十六年正月二十五日內閣奉

上諭昨兵部帶領引見人員內豫行保舉福建詔史

殊

營千總鄭步銜箭技脫落<sup>本報附刊</sup>不准其豫保閩浙總  
督程祖洛報以該員弓馬可觀出考送部著交部  
照例議奏欽此

95 道光十六年正月二十五日奉

旨禮部主事王用賓侍衛馬騰蛟俱著解任交刑部  
嚴審南城兵馬司指揮劉鴻圖著體侯侍賢滿貴  
李二著步軍統領衙門順天府五城一體嚴拏務  
獲歸案著辦侍衛牛鳳山著河南巡撫派員解部  
質訊欽此

96 軍機大臣 字寄

伊犁將軍特 奏贊大臣奕 葉爾羌奏贊大

臣興 道光十六年正月二十六日奉

上諭特依頓保等履奏派員查勘屯田並酌撤防兵  
各事宜一摺回疆屯田創自近年原所以備官兵  
餉之用而省內地撥運之煩各城新增防兵數  
定後亦應隨時抽撤前經降旨令該將軍等通盤  
籌畫悉心妥議具奏茲據奏稱屯田之設必使回

糧物產足供兵食方足副屯田本意若徒數行日  
前完恐有名無實現議派員前往確查以歸敦實  
等語不料爾等有此見識可嘉之至若派奕山率  
同協領法福哩先赴巴爾楚克與該處委員周廷  
廷芬逐細詳查務將先後所開地畝清查清楚統  
計若干畝招募人戶先後若干戶渾河引水築壩  
各工是否得法與玉河舊開地畝遠近是否相連  
並將已未升科各地逐一查明此外堪以開墾者  
尚有若干將來續行開墾均報升科統計每歲所  
入實可抵各該處餉項若干並可省內地調撥經  
費若干現在徵收糧七百石作何節省所借民人  
牛具籽種等否當年歸款以後應否按年借給之  
處並喀什噶爾所招屯種情形一併逐款確查務  
使墾地民人各有恆產日久即為土著庶寓兵於  
農無事則咸安耕鑿有事則盡屬干城方為實有  
裨益至酌撤添駐防兵一節從前奏定善後章程  
後僅據長清奏撤巴爾楚克移駐葉爾羌喀什噶  
爾防兵二千名其餘額設防兵迄今未經議撤並  
著奕山等查勘地畝事畢前赴葉爾羌與興德等

熟籌妥議何處何處應裁何城應緩或體察現在  
情形有全須緩撤之處務須熟籌全局確有把握  
目前可收實效日久並無汎弊奕山等即與興德  
面籌商定並詳晰告知特依順保再行妥議具奏  
將此諭知特依順保奕山並諭令興德知之欽此遵  
旨寄信前來

97 軍機大臣 字寄

兩廣總督卞 廣東巡撫卞 水師提督卞

傳諭粵海關監督文祥 道光十六年正月二

十六日奉

上諭本日據卞墳等奏上年十一月洋商伍紹榮等  
轉據啖咭利國夷人稟稱夷人來粵貿易必須俾  
運書信今有港脚煙船能行逆風欲行進者連信  
恐沿途礙臺關口疑慮驅逐信違轉稟飭行知照  
等情該督等飭令洋商俾論該夷人不准進口並  
訪聞此船係為包攬各夷商送信而造此次到來  
欲將船費給澳夷因無人承賣是以尚未回國亦  
不敢進口等語外夷遞送書信向有章程自應循

照辦理何可以詭異不經之船擅入海口噴奏素  
性詭詐雖現據查明性船並無滋事情形惟既已  
飭禁不准進口乃仍欲駛入內洋實屬蕩玩著鄧  
廷楨等嚴飭各營縣及虎門各礮臺隨時查察嚴  
行禁阻防範並諭飭澳門西洋夷目派撥夷兵在  
南灣一帶巡查勿任烟船水手人等登岸滋事仍  
即驅逐開行回國毋令久泊外洋倘該夷人不遵  
法度竟肆桀驁立即憤之以威俾知做懼該督等  
務當熟籌妥辦循照舊章不得稍有疎懈將此諭  
知鄧廷楨祁墳關天培並傳諭新任粵海關監督  
文祥知之欽此遵

寄信前來

98 軍機大臣 字寄

安徽巡撫色 道光十六年正月二十六日奉

上諭林則徐等奏請將被控牽涉之守備懲禁分別  
革職解任一摺此案潛山營革兵王沐即王樹滋  
控告該營守備張贊起扣九十月兵餉供應該  
守備盤費公館並製備鋪墊修飾署等項又藉

修廟守事通隊日勒扣十一月分兵餉每名至二  
錢之多並該守備私那兵餉生息充兵銀米肥已  
及家人食糧私役兵丁發賣營馬等款復據該守  
備供稱擲扣兵餉俱屬因公其廟工一款係同  
遊擊朱夢熊辦理業聞將備執法營私不可不嚴  
行懲辦潛山營遊擊朱夢熊著解任守備張贊著  
革職交色卜星額親提全案人證卷宗秉公嚴密  
將票揭各款逐一根究實情分別按例懲辦斷不  
可因革兵扶嫌控告豫存成見致有不實不盡將  
此諭令知之欽此遵

寄信前來

99 道光十六年正月二十六日內閣奉

上諭湖北鹽法道負挾著于免覈補授欽此

100 道光十六年正月二十六日內閣奉

上諭琦善奏據詢省會要缺知府一摺著照所請直  
隸保定府知府准其以姜梅調補所遺順德府知  
府員缺即以錫齡補授該部知道欽此

101 道光十六年正月二十六日奉

昔河工每年豫辦歲料及備仿物料銀兩例應按年將動存各料造冊報部近來南河及直隸山東多有漏報之案國家經費有常必須工歸實用若豫辦物料既已撥報分案開銷復行添購其動存數目任意延不造報部中無冊可稽何從銷算豈非蠹貨辦公之道著直隸山東河南江南等省督管河工各督撫嗣後豫辦物料務須遵照奏定章程每年造具動存四柱清冊報部備查毋再延玩其違前未報年分著速行補報並於冊內將某年某工段落數目動用何項物料分晰開載以除積弊

欽此

102 道光十六年正月二十六日內閣奉

上諭琦善奏請將遊擊都司守備勒令休致一摺直隸提標前營遊擊徐在邦著三也協熱河洛都司實任磁州營都司李文象現俱年屆六旬病體難愈自難望其振作張家口膳房堡守備海貴並不赴考屢以患病為詞徐在邦李文象海貴著一併勒令休致徐依敬謹部知道欽此

103 道光十六年正月二十六日內閣奉

上諭琦善奏地方官訪獲邪教請寬免霍介等語此案直隸南和等縣教犯宋庭玉等俱係該管地方各官或先自訪知跟蹤掩捕或一經飭拿即時按名獲解解辦均屬認真功過尚足相抵所有南和縣澤永年邯鄲容雲平谷三河東安宣化赤城威縣任縣鄆鹿清河陞平邢臺唐山平鄉廣平東明長垣元城磁州南宮平山廣宗曲周深州山東臨清等州縣歷任文武各官失察霍介俱著加恩寬免該部知道欽此

104 道光十六年正月二十六日內閣奉

上諭祁增奏請將遊擊勒令休致一摺廣西桂林營遊擊張夢熊精力已衰病難驟痊著即勒令休致該部知道欽此

105 道光十六年正月二十六日內閣奉

上諭興德奏揀貢升調伯克開單請簡一摺庫車沙推簡四品伊什罕伯克貢缺准其以阿克伯克調

補其所遺喀喇沙爾庫爾勒四品伊什罕伯克負  
缺著以擬正之泰來巴喀依并補該衙門知道欽  
此

106 道光十六年正月二十七日奉

硃諭四阿哥五阿哥著於四月初三日入學讀書杜  
受田著元四阿哥師傅徐士芬著元五阿哥師傅  
潘世恩穆彰阿著元上書房總師傅瑞郡王奕誌  
著在上書房伴讀特諭

107

四阿哥五阿哥著于四月初三日入學讀書杜受田  
若克四阿哥師傅徐士芬著元五阿哥師傅潘世恩  
穆彰阿著元上書房總師傅瑞郡王奕誌著在上書  
房伴讀

廿七

108 道光十六年正月二十七日內閣奉

上諭綿崙著奏補用總管一摺

孝陵總管負缺著業普青補授前任總管春祿回旗補  
用之虞著該部照例辦理該衙門知道欽此

109 道光十六年正月二十七日內閣奉

上諭王鼎著在南書房行走穆彰阿無庸兼南書房  
欽此

110 道光十六年正月二十七日內閣奉

上諭前據御史鄂爾琿奏刑部堂印被竊應議人負  
處分尚有遺漏當降旨交刑部堂查明具奏茲  
據奏稱部中稽察閒雜及賭博等事日間歸司務  
廳首領官專管夜間歸當月官專管該部既有奏  
定章程吏部則例內又有專條遇有失察案分自  
應分別日夜查送職名此案劉四等在署聚賭訊  
係夜間隨來隨散並無晝日任意出入之事該部  
業將上年十二月初三日至初八日當月司員按  
日查取職名送部議案其司務廳各負夜間並無  
值宿之責例不咨送案今是該部辦理此案尚無  
遺漏惟當月官與首領官分司晝夜易移推諉之  
漸嗣後各該部一切稽察閒雜及賭博等事除當  
月司員照例值宿外每日仍派司務廳一員在署  
住宿俾得周歷巡查互相稽察以杜推諉而昭嚴  
密欽此

111 道光十六年正月二十七日內閣奉

上諭黃爵滋奏條陳漕河積弊並請復派巡視御史一摺著大學士軍機大臣會同該部議奏欽此

112 道光十六年正月二十八日奉

旨杜巧著准其開經筵講官之缺賞假十日欽此

113 道光十六年正月二十八日內閣奉

上諭福建汀州鎮總兵員缺著張作功補授欽此

114 道光十六年正月二十八日內閣奉

上諭鍾祥奏選員請調沿河要缺知縣一摺著照所請山東滕縣知縣員缺准其以彭升山調補該部知道欽此

115 道光十六年正月二十八日內閣奉

上諭程祖洛等奏請勒休知縣一摺福建寧洋縣知縣宋可大年老多病精力已衰著即勒令休致該部知道欽此

116 道光十六年正月二十八日奉

旨工部鑄錢庫書吏陳懷清斯介珍庫丁尚明泰桐明姚泰李福在桂林供著交刑部審訊已撤管庫監督郎中福慎俱補主事武興緒著聽候傳訊欽此

117 道光十六年正月二十九日內閣奉

上諭阿元著以原銜充經筵講官欽此

閩浙總督程 福建巡撫魏 道光十六年二

月初一日奉

上諭程祖洛等奏李履盛首着圍訊據該犯為盜時船上曾插有不得已三字白布旗一面與陳沅柱來認識各自為首糾劫曾武先曾為盜與伊亦不同幫後來久已不在海上該犯鄒薄曾武為無足重輕現在設法熬訊並跟追曾武蕭烏為下落嚴緝務獲等語該犯蕭圖隨指同夥口出狂言確係巨盜無疑查李自屬認真惟積盜曾武該犯既鄰為無足重輕自更不難就獲何以疊經降旨飭李迄今踴緝尚無端倪按之曾武務在必獲斷不能因該犯復供無足重輕遂可置之不問致令伴逃法網其咎尤重至不得已三字旗號首據該督等訪聞係曾武盜船上之物該訊據該犯蕭圖供認於船上設立此旗以便把票夥黨愚哄商船所供尚有不實不盡其因何設此三字旗號若確切訊明不得顛預了事且既與曾武同一旗號若非即係幫夥亦必確知曾武蹤跡此等兇惡最著之犯

斷不容倖逃顯戮日久稽誅著程祖洛等就現獲

之蕭圖一犯設法研訊務得確情仍嚴究曾武蕭烏為下落究竟潛匿何處嚴飭文武員弁協力兜捕務期必獲毋得將現獲之犯訊取供詞率行稽塞總期將該犯曾武及早拿辦免留後患不准藉為解將此各諭令知之欽此

寄信前來

119 道光十六年二月初一日內閣奉

上諭程祖洛等奏臺灣各縣徵解兵穀運清請開復

頂帶一摺福建臺灣所屬鳳山縣知縣徐必觀嘉

義縣知縣熊飛彰化縣知縣李廷望前因徵解道

光十三年分兵穀情誤降旨摘去頂帶茲據該督

等查明嘉義彰化二縣徵解道光十三年分兵米

兵穀並非有心延欠且於被奉後自行捐贖雇船

於三個月限內載運內渡其十四年兵穀亦無貽

誤尚知愧奮嘉義縣知縣熊飛前任彰化縣知縣

准升鹿仔港同知李廷望原摘頂帶著一併開復

李廷望著飭調內渡於休滿案內送部引見再赴

鹿仔港同知之任至臺灣縣前經運存漢倉之十三年穀石與應解十四年兵穀均已掙數內渡該四縣應運十五年分兵米兵穀現亦配運著該督等督飭臺灣道府嚴行催借務於明年春銷前一律運竣嗣後著永以爲例不准顆粒等欠如稍違延著卽嚴奉以儆玩誤餘著照所議辦理該部知道欽此

120 道光十六年二月初一日內閣奉

上諭程祖洛等奏請鼓勵配運兵穀出力之升補通判等語福建升補噶瑪蘭通判陳盛龍於著鹿港同知任內將該港應配未運之存澳兵穀一萬二千六百餘石不惜產資代爲配運清楚實屬首倡出力陳盛龍著卽以同知直隸州補用以示獎勵該部知道欽此

121 道光十六年二月初一日內閣奉

上諭程祖洛奏告泰回京之都司潛走無蹤請旨革等一摺浙江衢州鎮標右營都司依成額前因規

老准其回京交兵部帶領引見茲據該督奏稱該員於未經奉旨之先因病身故赴者就醫旋即走失職實屬有玷官方依成額著卽革職嚴行緝拿至該革實曾否私自回京著步軍統領天府五城一體嚴密緝獲並著該旗都統查明據實奏辦欽此

122 道光十六年二月初一日內閣奉

上諭程祖洛奏請將巡洋協捕不力之將備分別降補議處一摺代理浙江瑞安協副將事玉環營參將胡結錦失察洋盜潛匿在境不行查拿且弓馬本屬平常難服專營將領之任著以守備降補仍責令隨同協辦總巡官夏福建烽火門營參將事閩安右營都司陳顯生分巡官烽火門營守備李嵩舉協捕都境盜匪不力著一併交部照例議處餘著照所議辦理該部知道欽此

123 道光十六年二月初一日內閣奉

上諭桂良奏請將緝捕勤能之和舟送部引見等語河南候補知府才觀國著准其送部引見欽此



124 道光十六年二月初一日奉

旨劉奎兒孫二白五慶七即慶得王維升杜大均著  
交刑部嚴行審訊其在逃之王三修王五修王狗  
子張九著嚴拏務獲歸案審辦欽此

125 軍機大臣 守寄

閱浙總督程 道光十六年二月初二日奉

上諭各省營制之設自總兵以至備弁均有訓練兵  
丁之責平日習勞肄武自當講求騎射實力操防  
俾士卒悉成勁旅方為無忝厥職至筆墨書畫等  
事本非武弁所重若專心肄習特致荒其營務是  
重其所輕必至輕其所重於所轄營伍一切校閱  
操防尚安望其認真經理耶黃巖鎮總兵湯攀龍  
向來粗知文義好弄筆墨雖該督查明該鎮近  
知愧悔是不能預改前撤屏除一切其平日訓練  
士卒能否認真堪勝總兵之任著該督再加體察  
據實具奏至所稱近來各營內亦有好弄文墨  
稟時每多浮詞究係何人犯於積習涉獵藝文不  
能實意操防著一併確查指名奏參毋稍徇隱將

此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

126 道光十六年二月初二日內閣奉

上諭上年乙未恩科鄉試錄各省監臨陸續將年老  
諸生開單具奏當交禮部查核該部將陝西  
等省年老諸生查明覆奏該生等年雖老而踴躍  
觀光榜發未仕中式宜淨恩施以副其培首窮極  
之志除例應行查外其陝西省年屆九十之附生  
原平江西南省年屆九十之副榜劉江四川省年屆  
九十之副榜劉應選陳元吉福建省年屆九十之  
副榜張振南江西省年屆八十之恩貢生楊錫球  
歲貢生林叙賢俱著加恩賞給舉人准其一體會  
試陝西省年屆八十之附生李敏江西南省年屆八  
十之附生鄧高志盧同信張正推齊禮盧鍾林  
川省年屆八十之附生文運昌田沛霖葉果成浙  
江省年屆八十之附生陳紀監生葉錫泉湖廣省  
年屆八十之附生趙本滋白宇丁聯元吳爾強董  
邦彥范益堪山西省年屆八十之附生薛煥趙麗

廷對魁拔福建省年屆八十之增生林培成附生  
林耆英陝西煤礦劉沃若神發祥上齊山江尚清郭  
璵山陳祥齡暨生林如玉雲南省年屆八十之附  
生楊士昌呂心田俱著加恩賞給副榜用示朕加  
惠考保至克欽此

127 道光十六年二月初二日奉

旨程祖洛著俸一級留任不准抵銷欽此

128 道光十六年二月初三日奉

旨得親王綿恆等奏奏夾察偷竊倉米幕內各員而  
有錄紅旗漢軍都統等應得奏分著俟刑部定案  
時再降諭旨欽此

129 道光十六年二月初三日內閣奉

上諭給事中蔡慶恩奏請飭在京各衙門胥役取結  
充官以杜混冒一摺著各該衙門議奏欽此

130 道光十六年二月初三日內閣奉

上諭尹濟源奏病未痊愈懇請開缺調理一摺尹濟  
源著准其開缺回籍調理欽此

131 道光十六年二月初三日內閣奉

上諭湖北巡撫著周之琦調補江西巡撫著陳慶補  
授江蘇布政使員缺著怡良調署江西布政使員  
缺著李恩銜補授所遺陝西按察使員缺著李振  
蒼補授欽此

132 道光十六年二月初四日內閣奉

上諭果疏奏冬挑津貼商息不敷請借款撥發等  
語運河冬挑津貼一款例支來商生息銀兩如過  
解不足數向係借撥整撥該河督奏運河道庫  
現無可墊之款應挑工段漕運攸關自應及時興  
工著照所請准其在於挑河生息項動撥銀二千  
二百四十六兩零再於工程市項下借支銀七  
千八百八十九兩零發交承挑各員領辦以濟要  
需再據該河督奏來商生息銀兩積欠過多現經

奏准停緩運河道庫存款過有支發別項工程甚形短絀所有道光二十二十三兩年整發銀四萬四餘兩著准其先於山東藩庫暫行籌項借撥歸款以濟工需該部知道欽此

133 道光十六年二月初四日內閣奉

上諭秉鈺奏請拆修運河開壩一摺山東省運河廳濟寧州汛仲淺開一座沂河廳峒汛運河西岸峒字石工八號滾水石壩一道捕河廳陽穀主簿汛阿城下開一座上河廳聊城汛通濟橋開一座均係重空清船經由妥道據該河督查明現因年久損壞難荷啓閉自應乘時拆修以利漕運兩有以上四項工程估需雜項水料匠夫工例等價銀四萬九千九百十七兩零業經在運河道庫墊款發辦著准其於山東司庫照數撥交運河道分別歸款找給該河督即督飭該道嚴催各廳員照估如式興修限於重運未到以前一律完竣不准稍有延工竣後仍著該河督親往驗收覈實報部該部知道欽此

134 道光十六年二月初四日內閣奉

上諭訥爾經額等奏籌議稽查糧船水手章程一摺著交原派之大員會同戶部議奏欽此

135 道光十六年二月初四日內閣奉

上諭秉鈺奏請林發朱八洪十五員前赴東河差委著吏部於候選人員內拔選發往欽此

136 道光十六年二月初四日內閣奉

硃 上諭廣東鹽運使員缺著梁恩照補授欽此

137 查廣東鹽運使李振書昨蒙

簡放陝西按察使所遺廣東鹽運使員缺應行請旨簡放等謹擬寫空名

諭旨並將吏部送來保深道兩名單一併繕寫進

呈伏候

欽定謹

奏

俸深 通十員

福建延建印道祥翼

正白旗滿洲學生

甘肅安肅道雙興

肅州府漢州教習

甘肅西寧道湯壽

肅州府蒙古官學生

浙江督糧道覺羅桂萬

肅州府漢軍人

江蘇江寧鹽道積拉明河

正白旗滿洲官學生

福建興泉永道周凱

浙江學生

四川永寧道朱秋

江蘇學生

四川建昌道文翰

正藍旗滿洲學生

直隸永定河道文冲

肅州府知州人

江蘇淮海道文麟

正藍旗滿洲人

俸深 知府十員

雲南順寧府知府林樹恒

順天貢生

陝西延安府知府邱煌

青州進士 祖籍福建

湖南常德府知府多瑛

正黃旗蒙古官學生

河南汝寧府知府布方博

博勒格 正藍旗蒙古博輝進士

雲南楚雄府知府裴德

山西學生

湖北武昌府知府李善

正藍旗漢軍廩生

廣東惠州府知府楊希銓

江蘇進士

江蘇徐州府知府武凌漢

陝西舉人

湖北宜昌府知府程家顯

河南舉人

貴州安順府知府程武濤

正藍旗滿洲學生

140 道光十六年二月初四日內閣奉

上諭御史者綱等奏稽察解項文批請詳畫一一摺

著戶部議奏欽此

141 道光十六年二月初五日內閣奉

上諭湖南鹽法道員缺著李裕堂補授欽此

142 查湖南鹽法道係衝繁難要款謹

奏

143 道光十六年二月初五日內閣奉

上諭中書賢奏查明通判毋庸迴避請旨更正一摺

山西托克托城理事通判成福前經該奏稱與

該管歸綏道瑞福例應迴避業經飭部准行茲據

中督賢查明該貪等實係分隸兩族毋庸迴避著  
卽更正或福仍著留於省省過有理事通判缺出  
卽行補用該部知道欽此

144 道光十六年二月初五日內閣奉

上諭中督賢奏請勒休知府一摺山西寧武府知府  
李成禮年逾七旬兩耳重聽著卽勒令休致該部  
知道欽此

145 辦理軍機處為咨查事本庫直房在

禁門之內存貯檔案冊籍一切俱關緊要上年九  
十月間兩次被竊茶壺等件當經片交查辦在  
案本月初五日到

圖查查者外院門連鎖撤開廚房內大櫃鎖被扭  
斷竊去錫茶壺三把錫燭台十一支錫天水火  
壺一件銅鍋一件零用京錢八百文

禁廷重地理宜肅清似此屢次偷竊無所忌憚且正  
月內欽奉

諭旨中嚴門禁奉行未久又復被竊殊屬不成事體

倘本處檔案等件稍有遺失關係尤鉅相應咨  
行

貴處迅卽從嚴查係何項匪類在

禁門內肆行偷竊踏獲究辦並將查出竊匪姓名

咨覆本處爲勿刻延須呈咨行者

右 咨

圓明園八旗 內務府

146 道光十六年二月初六日內閣奉

上諭朕此次恭謁

東陵皆鑿復著派肅親王敬敏定親王奕劻大學士長  
齡文孚留京辦事分日輪班在內值宿不值宿者  
於中刻散直欽此

147 道光十六年二月初六日內閣奉

上諭伊里布奏甄別遊擊請令勒休降補一摺貴  
州古州鎮標中軍遊擊署清江協右營遊擊事疎  
同道才具應浮官聲平常著勒令休致雲南昭道  
鎮標前營遊擊興林辦理營務未能妥協著以都  
司降補該部知道欽此

148 道光十六年二月初六日內閣奉

上諭伊里布等奏恭才不勝任之署任知州請降補  
十摺雲南署曲靖府尋甸州知州候補監謀司提  
舉劉德溥才具本不開展自署任後於詞訟案件  
並不隨時審理將來若詳本班委用擬請將和亦  
難望其稱職劉德溥著以府經歷縣丞降補縣部  
任選該部知道欽此

149 道光十六年二月初六日奉

旨王孟生著准其捐復裕瑛黃復順均著不准捐復  
欽此

150 道光十六年二月初六日內閣奉

上諭本年正月據金場衙門協同步軍統領衙門等  
獲偷米賊匪當交刑部履行審訊各該倉地方遠  
湖廣廣東多倉役人等位班上宿人數無多查察  
難期周密著城內運倉糧分城外運倉營汛於糧  
派堆撥兵丁務使足額嚴密巡邏隨時稽察無得  
視為具文此案竊米賊匪著該部嚴訊究辦該倉  
人役及旗營運察兵丁即著隨案懲處欽此

151 大學士長齡等謹

奏為請裁代鎔案內人犯審擬具奏仰祈

聖鑒事竊照已革舉人宗室珠隆阿文理筆跡不符

一案前經臣等究出直隸獻縣生員戈廷本在

場外為珠隆阿代作詩文值人轉遞欽奉

諭旨將戈廷本生員斥革嚴拿因戈廷本戈廷無期

先將珠隆阿等擬結茲據直隸總督琦善將戈

廷本拿獲具奏由內閣抄出該督原摺道光十

五年十二月二十四日奉

硃批刑部知道欽此臣等督同宗宗司員提托研訊

緣戈廷本係直隸獻縣文生員與已結擬徒之

山東人于惲士素相交好道光十五年四月戈

廷本來京鄉試于惲士前往看望稱有宗室珠

隆阿因屢次鄉試未中宛宗室與常托伊我一

能文之人以便進場時代作詩文傳遞向戈廷

本相商並許酬謝戈廷本圖利尤從嗣經于惲

士與常約同戈廷本與珠隆阿見面言定筆資

宗錢十五兩如能中式酬謝宗錢五十兩並未

立有字據八月十六日戈廷本三場完竣即至

珠隆<sup>阿</sup>家住下至十七日珠隆阿自行入場展副  
 副經子等傳出題目及本傳說詩文令于個  
 士轉交與常其如何傳述及是本並不知情是  
 是日珠隆阿出場持筆背京錢十五吊先行付  
 給迨持發珠隆阿中式舉人陸績將副謝京錢  
 五十吊交與常轉付及是本收受于個士分得  
 京錢十吊各散九月初一日及是本因族族兄  
 現任浙江黃巖縣知縣前杜探望途中聞知珠  
 隆阿覆收收客將伊供出各表查拿欲行回籍  
 投首路過交河縣地方即被拿獲解直隸總督  
 奏送到部審悉前情辰結此外並無另有代人  
 作文情事其所得錢文實止此數委無多賍眾  
 典所供相符應即擬結 查例載懲試舉監生  
 儒用財賄倩傳進登近邊元軍計贖重于本罪  
 從重科斷等語此案已革生復及是本得受珠  
 隆阿錢文在場外代作詩文傳進計贖五十五  
 吊按例罪止擬徒自息仍照本例擬及是本  
 合依舉監生儒用財賄倩傳進登近邊元軍例  
 發近邊元軍若送兵部空地發配折責安置所

旨送  
奏

得珠隆阿京錢五十五吊業已花園填係未質  
 無力完贖應免著追際與桑卓桂換卷之成湖  
 一犯現經訊出另有餘情別案再行研訊具奏  
 外所有日等會同審擬緣由理合恭摺奏請

道光十六年二月初六

日

- 長齡
- 潘世恩
- 文孚
- 沅元
- 穆彰阿
- 王鼎
- 趙盛奎
- 賽尚阿
- 成一楮
- 文致儼
- 廣敬
- 劉樹士

本日奉  
旨依議欽此

貴慶  
姚元之

152 軍機大臣 字寄

兩江總督陶：新授江西巡撫陳 閩浙總督  
程 福建巡撫魏 浙江巡撫高 道光十六  
年二月初七日奉

上諭有人奏江西廣信府屬之上饒廣豐等縣福建  
建寧府屬之崇安浦城松溪等縣浙江處州府屬  
之龍泉慶元等縣三省荒連之區封禁山內近有  
一種丐匪盤踞耕種花子會俱係各處無賴之徒  
成羣結黨擾害居民及其索詐否則尋衅殺害勒  
捐不休其會有大會首到會首散頭日等名大會  
首潛住浙江金華府義烏永康二縣一帶地方行  
蹤詭秘四鄉村鎮窮民每多被其誘脅每年五月  
十三日於僻野古廟聚會一次蒸搗糶米為食又  
名為賽巴會欲糾眾記詐則以竹篾裝糶米上  
繫銅錢一枚分頭俾示會中人一見立即趕往其

錢分紅黑白三色以紅者為最急百里外聞信一  
日必至又有與水放水之稱以會人有私為官差  
作賊往者立斃其命無敢控訴又此會轉入八  
彼教有鑽園疏園之號居民畏其人眾報復不敢  
告發地保鄉約得規已庇地方官因流丐強索不  
甚置意且散處各境此等徒竄查辦每多掣肘等  
語此等匪徒糾人結會按戶徵錢群官聞聞毫無  
忌憚不獨善良受其魚肉愈聚愈眾難任日久不  
滋生事該著陶澂程祖洛等嚴飭所屬各該地方  
官確訪該匪等姓名住址會同鄰里境  
域協力搜拿認真查辦務俾淨絕根株毋滋擾害  
除莠所以安良但不得縱容差役藉端生事波及  
無辜將此各諭令知之欽此遵

寄信前來

153 道光十六年二月初七日奉

旨此次致祭

裕陵著改派慶郡王綿魁欽此



154 道光十六年二月初七日內閣奉

上諭近日外間傳聞私鈔多有未經發鈔之件如本日某衙門值日名見某人科道某遞封奏一件此等探事忌習本干例禁朝廷政事具有體制其由內閣鈔出各件例得宣示朕綜理庶政無事不可布告臣民至事關嚴密本非外間所得與聞豈容任意訛傳概行宣播且刊刻私鈔職志卑登不但洩漏滋弊甚非所以崇政體而昭嚴肅嗣後著御前大臣飭令奏事處值班章宗等嚴行查禁毋許再有訛傳私鈔以昭慎密倘查禁不力仍蹈前弊惟該大臣等是問經此次飭禁後倘再有私行刊刻者著步軍統領衙門嚴拿究辦毋得視為具文欽此

155 道光十六年二月初七日內閣奉

上諭陳慶泰紳民捐修橋工請分別議敘一摺江蘇青浦縣境內斜漉橋萬安橋年久失修據陳慶泰查明該縣紳民踴躍捐建一律各該洵屬好義可嘉著照所請所有捐銀二千兩以上之守禦所千總

職銜張起錕捐銀三百兩以上之捐職縣丞徐蔚該二員捐資勸捐駐工督辦尤為出力著文部分別從優議敘捐銀一千兩之民人張寶銳捐銀三百兩以上之民人許章彥邵旬明蔡鳳儀沈伯崇徐金麒李沅龍著文部分別議敘以示鼓勵此項工程係民捐民辦著免其造冊報驗該部知道欽此

156 道光十六年二月初七日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨著先道光十年以前民欠銀糧令該將軍府尹督撫等查明開單具奏據萬壽查明道光十年以前民欠租銀數目開單呈覽當文戶部覆核據查明吳泰熱河堂穿縣道光十年以前補徵佃已爾桑阿等名下自嘉慶十五年起到道光二年止未完欠銀一萬一千五十一兩零耗銀一千一百五兩零委係實欠在民之數著如息准其全行豁免該部統即刊刻謄黃通行曉諭並照例俟戶給付免年廢單吏看影射虛空

等獎務令實惠及民用副朕錫義推恩至意餘併  
該欽此

157 道光十六年二月初七日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠  
銀糧令各該將軍府尹督撫等查明開單具奏經  
吳榮光將湖南省荆州等四衛道光十年以前積  
欠漕項錢糧及借給運義等銀開單呈覽當文戶  
部覆核據查明具奏湖南省荆州等四衛道光  
十年以前未完漕項錢糧等款銀兩委係實欠在  
屯所有單開荆州衛未完嘉慶二十四五年及道  
光二三四五六七八九十等年因欠額徵軍安正  
耗開丁銀共一千一百十五兩零借給運義銀共  
二萬四千五百三十六兩零又荆州左衛未完嘉  
慶二十四五年及道光二三四五六七八九十等  
年因欠額徵軍安正耗開丁銀共一千二百五十  
八兩零借運領義造費辦運等項銀共二萬七千  
五百六十一兩零又荆右衛未完嘉慶二十四五

年及道光元二三四五六七八九十等年因欠額  
徵軍安正耗開丁銀共九百九十二兩零借領運  
義造船等項銀共二萬三千九百三十三兩零又  
洵陽衛未完嘉慶二十四五年及道光二三四五  
六七八等年因欠額徵借領運義辦運等項銀共  
一萬八千三百四十三兩零俱著加恩准其一律  
豁免該撫卽刊刻騰黃編行曉諭並照例按戶付  
給免單嚴禁吏胥影射需索等弊務期實惠及民  
用副朕推恩布聞至意餘併該欽此

158 道光十六年二月初七日內閣奉

上諭楊名題奏勸開南山無知縣一摺著照所請陝  
西石泉縣知縣員缺准其以馬國翰調補所遺洛  
川縣知縣員缺卽以夏鴻時調補該部知道欽此

159 道光十六年二月初八日奉

旨禮部奏朝鮮貢使來京隨帶從人在館貿易請道  
照定例辦理一摺著該部再行妥議章程具奏欽  
此

160 道光十六年二月初八日奉

旨李三即李寶兒恭二張二李大單幅兒田全柱李  
大季四趙九李二李八俱著交刑部審訊石狗兒  
張存兒崔珠兒崔取氏王十兒劉二格俱著嚴候  
傳質欽此

161 道光十六年二月初八日奉

旨王姓即竇四趙八水胡四兒唐四元大俱著交刑  
部嚴定擬其未獲之馮二仍飭嚴拿務獲歸案  
重訊欽此

162 道光十六年二月初八日內閣奉

上諭琦善奏勘款備補段工一摺直隸永定河兩所  
段工河流衝刷殘缺自應擇要修補以資抵禦茲  
據該督查明該段兩岸十四汛內增培段堰估果  
土填填整坑塘水塘等工所有估需工料銀九千  
九十六兩零著准其在於永定河道庫貯河淤地  
租項下如數撥給該督即責成該道文冲督率應  
汛各員趕緊併辦規限大汛前一律完竣覈實驗

收倘有草率偷減卽行據實展奏該部知道單併  
發欽此

163 道光十六年二月初八日內閣奉

上諭琦善奏校閱提標所屬各營將應行降革各員  
弁聞單呈覽直隸懷柔城都司馮應霖馬步全空  
訓練不甚得力著降為守備歸部銓選餘依議該  
部知道欽此

164 道光十六年二月初八日內閣奉

上諭琦善奏查明文童武弁口角爭毆及知府改期  
覆訊一摺此案直隸永平府千總白鳳儀於府考  
之時到廳彈壓乃不戴頂帽赴集鬧遊已屬不合  
人將童生張廷柏毆打及兵丁張桐奇向童生張  
朝英等爭毆並不鳴阻吏傷倚勢妄為白鳳儀著  
卹革職交琦善歸案審辦並永平府覆訊改期據  
該督查明該府司急須驗訊張廷柏等是以牌示  
改期並非該童生等臨點不到惟該府等未將改  
期緣由明晰稟報殊為含混永平府知府未士林

小永湯副將典文春廬飛縣知縣成章璫供者文部據處重生張朝英等於張廷柏欲斷儘可令其赴官呈訴乃事不干已糾眾滋事此氣斷不可長者使質訊明確按例懲辦以儆刁玩該部知道欽此

165 軍機大臣 字寄

伊犁將軍特 道光十六年二月初九日奉

上諭本日據特依順保奏到任已歷三年懇請入覲伊犁地處極邊統轄南北兩城責任最重重大特依順保自簡任將軍以來辦理諸務均臻妥善該將軍前於道光十年曾經陛見迄今已歷六載不特伊德主之心出於惻誠即朕亦甚思見伊之面惟伊犁地方緊要一時更替乏人著該將軍暫緩一乘京仗明歲再降諭旨將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

166 軍機大臣 字寄

兩廣總督鄧 廣東巡撫祁 道光十六年二

月初九日奉

上諭有人奏上年十月月初旬廣東順德縣屬之龍江鄉旬日間被匪徒紛紛竄塚各家未及稟官先赴鄉約登報再簿共計一百四十餘起此外未經赴報者尚多被害之慮以佛堂岡為家平松園鎮頭次之槎涌鋪種地蚺蛇臂又次之其餘鷓鴣岡狐狸臂取公園茶地殼各處皆有內生貧盜俾一家被掘七棺蔡鳳華一家被掘四棺陸恒其生母一棺亦被掘發該鄉紳士出賞捕賊獲犯七名該署縣知縣章鴻往勘將犯帶署聞赴縣呈告者只有十三家廣東州縣惡習民間獲賊呈送將賊釋放反將事主羈押拖累無窮是以各懷疑懼不敢赴訴又前年韓榮光陳泰歸善縣被掘之五百餘家並未查拏一賊懲辦一案道光十二年歸善縣民容有與枝容有霖糾黨容亞扁等將其父燒兩棺掘發並將骸骨擊碎拋棄山野該縣反將已獲夥犯容東興等釋放歷控督撫司道均以飭縣緝訊一批了事又上年九月十三夜生員陶贊一李炳初江際時重生李植等在該縣東門外三象

岡緝獲匪犯劉亞養廖亞六卓亞三等三名兇具二件被掘之處係提標方營兵丁黃拔龍之母墓並搜出劉亞養當票十四張俱係婦女聚險首飾是其掘費不止一次不止一塚為首之萬林保改名陳亞二侍校兇術據供自道光元年從花縣人學得此術同夥三十餘人徧傳各縣該縣知縣並不開會花縣將為首傳徒之犯嚴拏以流毒愈遠被害愈多等語匪徒掘墳墓最為地方之害州縣等官果能實力查拏有犯必懲該匪徒等何至肆無忌憚一鄉之內旬日之間竟敢明目張膽恣殺至數百起之多可見該地方官玩視民瘼一味欺飾全不以公事為重著該督撫迅委幹員前赴龍江縣查取鄉約冊內所報各起嚴行查辦其未經報冊者即在該鄉出示控告指名查拏並提訊現獲七犯追究巢穴即將首從各犯嚴拏務獲從重懲治倘查明該著縣知縣章鴻實有諱匿不辦情弊即應先行革職嚴參辦理至歸善縣被掘五百餘冢者委員前赴該縣分別查拏控告並責令花縣知縣迅將為首傳徒之犯密拏完辦此外

各府屬州縣遇有此等案件如能認真查辦該地方官夫察委分尚可寬免倘寬容忍貽害別經發覺及委員查辦不實者一併從嚴參處以肅吏治而靖地方特此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

167 道光十六年二月初九日內閣奉

上諭特依順保等奏林負升署守備一摺伊犁塔爾奇營守備負缺准其以擬正之王世榮升署照例六年俸滿再請實授該部知道欽此

168 道光十六年二月初九日內閣奉

上諭京城內外應修河道溝渠著派穆彰阿著英載銓確切查明勘估具奏欽此

169 道光十六年二月初九日奉

旨杜場著再賞假一月調理欽此

170 道光十六年二月初九日奉

旨李貴良著交刑部審訊欽此

171 道光十六年二月初十日內閣奉

上諭御史章燁奏辦賑流災日多請飭釐剔一摺國家惠愛黎元偶遇水旱偏災一經該督撫奏到無不立發帑金迅加賑恤原期實惠及民無使一夫失所若如該御史所奏辦保里地開報繳口多有使費州縣齊吏又復勒索錢冊費文黎無力出錢即為刑減口數州縣因倉庫對空藉辦賑之名為開銷之地捏報說名多開戶口竟取盈餘飽其私索又勘災委員並不親赴辦莊察看而供給糧儀均取資於賑款之內迨至造冊報銷皆撫藩司各衙門書吏得資則為之彌縫無費則多方苛駁以致愚吏因賄累而掣肘不肖州縣轉得勾通一局恣意侵吞種種弊端皆由各府大吏不能實心經理所致官使吏紳百嬰業生玩視民瘼莫此為甚嗣後各直省倘有偏災各督撫務當破除積習認真查察倘有前項情弊即將該州縣委負指名嚴參無稍姑息齊吏鄉保按名查報重治莫罪庶幾一弊百保息洋可以下究而官吏不敢因緣為奸同副朕軫念災黎之意將此通諭知之欽此

172 道光十六年二月初十日奉

旨武忠額等奏請飭依飯銀以資辦公兩淮等處應交都察院飯食銀兩並不按期批解以致無項可支辦公文蝕著兩江總督浙江巡撫長蘆鹽政即將上年欠解都察院衙門飯食銀兩並本年飯銀一併迅速委員趕緊批數解交毋再遲延干咎欽此

173 道光十六年二月初十日奉

旨老張氏小張氏二犯著照傅習天主教被獲到官當堂踰越十字木架真心改悔概免治罪之例免其治罪仍交縣嚴加管束欽此

殊

174 道光十六年二月初十日奉

旨孫義著改為新立法條依議欽此

175 軍機大臣 字寄

兩江總督陶 江蘇巡撫林 道光十六年二月十一日奉

上諭有人奏蘇松太道陽金城曉諭各口告示概不用印稿不存案竊用家丁三十餘人以查船為名任意騷擾訛索往來商旅格外賄求即留難不放甚<sup>并</sup>已挂輪稅起貨之船拏究嚴訊調取關東沙船原票比較杆多則就杆科稅杆少則就票科稅各船偶遇颶風業將貨物拋棄該道惟以發票為憑勒令將拋棄之貨一概輪稅又派派官親家丁前往吳淞口以復查進出船為名勒取看艦錢文給則免驗放行否則稍留以致商船不能及時貿易稅海關為畏途衆怒沸騰半將歇業幕及江西王春浦等命為生現在盤踞大樓恣情需索吳淞口別廣船隻每船餽伊洋錢四圓方許出口又廣西秦姓派赴小海口頭並白頂身俾實劍自製竹板二根恐嚇商船無人不畏其強橫家丁中郭四張乾裕二人倚勢訛索尤為不法等語閩洋以通行棧按貨輪稅自有定例若嫩容幕友家丁多方勒索延不放行必致商旅裹足不前既慮病商兼恐有妨國課若如所奏種種不法殊出情理之外不可不嚴行查辦著陶澍林則徐即將所指各

款秉公嚴密確查如果實有其事著將該道即行參處其幕友家丁一併按名查拏從重懲辦不許稍有徇縱將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

176 軍機大臣 字寄

兩江總督兼管兩淮鹽政陶 道光十六年二

月十一日奉

上諭每年正月內山高水長所用烟金花爆等項向由兩淮鹽政豫備解京應用嗣後著永行停止將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

177 道光十六年二月十一日內閣奉

上諭中故賢奏請勸項備理切近鹽池緊要各工一摺山西省河東地方上年秋間雨水大發將切近鹽池之石馬道堤堰並東集船等處衝塌亟該撫查明均係急不可緩之工現在派員確勘共估需工料銀六萬兩著照所請准其將河東道庫前

存商預備息銀四萬八千餘兩僅敷動用其不敷銀一萬一千餘兩先在公務項下暫行借撥仍俟收有銷債息銀照數歸還並飭該道乘此春融承領起解與併照例保固三年勿任草率偷減工竣覈實驗收造冊報銷該部知道欽此

178 道光十六年二月十一日內閣奉

上諭中政賢奏揀調省會知府一摺著照所請山西太原府知府崔其以史步蛟調補所遺汾州府知府員缺即以徐璠補授該部知道欽此

179 道光十六年二月十一日內閣奉

上諭中政賢奏遴員升署要缺直隸州一摺著照所請山西霍州直隸州知州員缺准其以周雲鳳升署照例送部引見仍俟扣滿年限再請實授該部知道欽此

180 道光十六年二月十一日內閣奉

上諭中政賢奏請將久病不愈之知縣勒休一摺山

西太原府知縣周玉琳病假年餘兩日診醫著即勒令休致該部知道欽此

181 道光十六年二月十一日內閣奉

上諭葉紹本奏保甲事宜請責成地方官以收實效保甲一法著之令甲立法本在周容最為奸盜良規地方官果能實力奉行原可仗風移俗易無如法立弊生檢防難及以致編差徒為具文未能迨收實效如所稱委員弊混需索供億騷擾地方州縣勒派浮費書吏需索規程差保隱匿遺漏胥甲保長任意妄為無籍流民姑息容留恣為不法種種弊端不可不嚴行查禁嗣後著各直省督撫責成各道府慎選委員會同地方正位各官親歷編查不准藉帶多人致滋紛擾倘虛糜故事或不妥本分地方官徇情實詳該上司即嚴行查辦如徇隱不報亦著一併嚴參至一切款項冊籍俱令地方官自行捐給不准絲毫擾累其領牌繳冊及丁役規權概行革除違者從重究辦甲長牌頭以及里正保正並著地方官慎重點派隨時稽查如有



說索包庇等弊立即嚴懲更督其小心供役者酌加獎勵外來行蹤詭異之流氓嚴行驅逐不准編入保甲查有智教窩匪實蹟嚴行懲辦絕根株並將牌甲保長分別失察知情按律懲治具山村遠僻戶口畸零者著做十家總牌之法俾令簡便易行其風俗頑梗素稱難治者酌復四鄉講約之制總之有治人無治法惟在地方官實心經理該管上司認真查察破除惰而勿尚虛文務使閭閻安業宵小潛蹤以維風俗而飭吏治將此通諭知之欵此

182 道光十六年二月十一日內閣奉

上諭前據御史黃仲容奏請整頓廣東潮商鹽務當交戶部議奏茲據查明該御所稱官詳運鹽無本每藉私鹽接濟請將每月銷引多寡由地方官行文交鹽詳呈送運同查覈是否可行有無弊端應行詳加查察至所稱潮橋運務請責令知府協同管理該恐事無專屬易啟推諉之漸惟該省高州廣州配鹽均由各該府兼管可否仿照辦理之處

著鄂廷楨祁墳一併體察情形通盤籌畫妥議章程具奏欵此

183 道光十六年二月十一日奉

旨著派文輝常妥寶善於二月十五日恭詣

東陵查看紅格欵此

184 臣等謹擬寫派員查看

東陵紅格空名

諭旨並開列

御前侍衛

乾清門侍衛及總管侍衛名單送

呈伏候

欵候侍衛二員侍衛一員候

發下後臣等即查照上屆侍知

派往查看各員於二月十五日請

委前往候

聖駕駐蹕隆福寺時復

令俱不必具摺謹

奏

御前侍衛

高塔乃

忠山

玻多歡

道慶

法克呈阿

巴清德

貴成

孫克唐阿

乾清門侍衛

慶敏

文輝

吉凌阿

崇恩

慶興

綿性

常安

阿保

阿玉璽

哈浪阿

培成

烏勒木培

額勒亨額

玉明

巴里善

伊勒東阿

都爾通阿

巴圖龍阿

那遜達賚

珠勒亨

闊明阿

那福德

春佑

賽什雅勒泰

長奇

開隆阿

珠勒格善

慶賢

特興顯

岳明阿

安興阿

惠成

186 隨扈侍郎名單

奕紀

聯順

寶善

187 軍機大臣 字寄

盛京將軍奕 道光十六年二月十二日奉

上諭前因興京鳳凰城所屬邊門以外每年拏獲偷

砍木值賊匪飭令妥議章程具奏茲據該將軍等

議章程內惟嚴拏賊匪之財東窩主一條為犯要

務須認真辦理奸民因知法紀惟利是圖惟在邊

卡各處嚴密防守巡查各官實力拏拏但經偷越

入山務期有犯必獲而尤在邊內地方杜其銷售

之源嚴查財東窩主更於山河要隘扼其挽運之路使賊匪咸知儆畏官小日就肅清其餘所擬章程均著照議妥為辦理不得日久又成具文其邊外木植著仍照前存放此內如有成材之料可以通內河挽運者如遇盛京工部歲借等項工程即可隨時揀選以資工用至邊內木植著該將軍添員詳查有可以變價者飭令招商倍變再行奏實具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

188 道光十六年二月十二日內閣奉

上諭奕經奏請將離汛控票之卡官革審一摺此案

民人石剛等結夥越邊偷採廢茹迨逼官兵棄賊

逃逸獲數糾合多人尋赴卡偷拾槍洩忿實屬目

無法紀經防禦廣祿將賊犯十人拏獲石剛梁泳

宋學信劉來車泮花龔榮孫景和榮長發林文洛

王鳳等十犯俱著交刑部嚴行審訊按律懲辦案

內逸犯仍飭地方官按名嚴拏務獲騎校團明

阿私離卡所吏敢虛詞控票尤屬膽大妄為著先

行革去駭騎殺交刑部照例治罪此外有無利項情弊並著嚴審定擬在卡之領催烏雲保馬甲明依保英敏於卡倫被刺時束手就縛怯懦無能供著熱革再加枷號一個月示衆馬甲八十見賊逃匿尤屬可惡著革去馬甲再加枷號兩個月示衆以示懲戒汪清達門章京主事札拉芬防案阿斯哈珩阿於賊匪屢次出入毫無覺察及卡官圖明阿私行逍遙居住並不揭報尤非尋常疎忽可比著交部嚴加議處餘著照所議辦理欽此

189 道光十六年二月十二日奉

旨上年順天鄉試取中舉人著於二月十五日在圓明園正大光明殿補行覆試欽此

190 軍機大臣 字寄

兩廣總督鄧 廣東巡撫祁 道光十六年二月十三日奉

上諭據江西已革舉人戚翹供稱道光十四年順天鄉試曾頂江西副榜夏錫璜之名進場亂號為廣

旨寄信前來

欽此遵

東順德縣監生馬德貞代作文字榜發未經中式並提到說合之已革副榜馮士傳供與戚翹情節相符該生馬德貞於上年十月已回廣東原籍著鄧廷楨等密飭該地方官查明該生是否回籍迅即督履派員安速解京歸案審詳將此諭令知之

191 馬德貞

廣東順德縣監生道光十四年應順天鄉試未中式據戚翹供出是年頂江西副榜夏錫璜名進場亂號為伊作託並提到說合之馮士傳供與戚翹情節相符現經飭地方查明該生於上年十月四日籍

192 道光十六年二月十三日奉

旨理藩院奏請授崇實格格地誦數字旗輔國公烏爾占扎薩之母履端親王(永瑛)之女固山格格孀居子幼生計難艱著若該旗開墾熟地內賞給地五百頃即著熱河都統高漢轉飭教字扎薩克郡王達拉瑪濟爾第會同塔子濟理等司員奎英妥為籌撥俾資養贖欽此

味

193 道光十六年二月十三日內閣奉

上諭給事中富彰奏京通兩處奸商囤積色買等弊一摺宗倉米石不准出城例禁甚嚴若如該給事中所奏竟有奸商將存貯之米由廣寧等門乘便混出實屬大干法紀著步軍統領嚴密查拏務將懲辦又通州馬頭旗先清莊北蔡村為南糧糧羅之區大斗乘犯色買旗丁餘米前經降旨懲辦著倉場侍郎順天府府尹直隸總督查明現在有無奸商暗中仍蹈大斗行故擬一體嚴拏懲禁並指蔡石碾等甚煩瑣窒礙難行著無庸議欽此

194 道光十六年二月十三日內閣奉

上諭朕督鑿後工部尚書著文字兼著始吉房印鑄著文字佩帶翰林院掌院學士著成格著理欽此

195 道光十六年二月十三日內閣奉

上諭湖南長沙府知府員缺緊要著該督撫於通省知府內揀員調補所遺員缺著王廣業補授欽此

196 道光十六年二月十三日內閣奉

上諭前因陶澍請銷短頭所奏江廣口岸額銷鹽引情形互異當降旨著該督等查明具奏茲據陶澍奏稱鹽法納保請引而以網計及至分運各岸止按年計額而不按網鹽既隨到隨銷是網分雖有新舊而銷量並無損失等語鹽務以轉運疏銷為要若銷路不暢轉運為之不靈該督統轄三省兩廣或莫在胃至江西安徽各撫臣亦有專責嗣後著一體認真就近督辦同心併力毋使不分兼與湖廣省臣悉心妥籌實力起辦其口岸預銷者成各省著撫認真辦理隨銷隨募其起運遲速則責成陶澍實力催提以資輸轉務使岸銷大暢俾鹽務日有起色倘仍復指遷得銷有悞該督網全局惟該督等是問涼之欽此

197 道光十六年二月十三日內閣奉

上諭前經額奏楚省行銷准鹽一年期滿查明銷過引數及缺額緣由一摺湖北湖南兩省道光十五年分行銷准鹽缺銷在三分以上據該督查明

實因岸益短缺無益可銷委非該益道督銷不力  
所有前任湖北益法道邵甲名應得處分着加恩  
寬免餘着照所議辦理該部知道欽此

198 道光十六年二月十三日內閣奉

上諭桂良奏查明續捐書院義學經費各紳民懇賞  
給議欽一摺著吏部議奏單併發欽此

199 道光十二年壬辰科宗室鄉試

欽命四書題詩題

仁且智夫子既聖矣夫聖孔子不居是何言也

賦得露濕荷葉已報秋得秋字五言八韻

道光十二年壬辰科順天鄉試

欽命四書題詩題

不義而富且貴於我如浮雲

政君子和而不流強哉矯中立而不倚強哉矯

仁義志信樂善不倦

賦得萬物靜觀皆自得得觀字五言八韻

道光十四年甲午科宗室鄉試

欽命四書題詩題

其為氣也配義與道

賦得疎雨滴梧桐得秋字五言八韻

道光十四年甲午科順天鄉試

欽命四書題詩題

君子之仕也行其義也

中也者天下之大本也和也者天下之達道也

徒善不足以為政

賦得吉人辭寡得言字五言八韻

道光十五年乙未

恩科宗室鄉試

欽命四書題詩題

入以事其父兄出以事其長上

賦得天際一帆影得光字五言八韻

道光十五年乙未

恩科順天鄉試

欽命四書題詩題

未若貧而樂富而好禮者也

發強剛毅足以有執也

且古之君子遇列政之令之君子遇列順之  
賦得曉霞楓葉丹 得丹字五言八韻

200 道光十二年壬辰

恩科宗室會試

欽命四書題詩題

君子易事而難說也說之不以道不說也

賦得芙蓉仍舊儉 得丹字五言八韻

道光十二年壬辰

恩科會試

欽命四書題詩題

君使臣以禮

施諸已而不顧亦勿施於人

樂天者保天下畏天者保其國

賦得橋名責實 得誠字五言八韻

道光十二年癸巳科宗室會試

欽命四書題詩題

子曰君子易事而難說也說之不以道不說也

及其使人也器之

賦得天降時雨得甘字五言八韻

道光十三年癸巳科會試

欽命四書題詩題

古之惡也直今之惡也詐而已矣

戴華嶽而不重振河海而不洩萬物貴焉

權然後知輕重度然後知長短物皆然心為甚

賦得以禮制心得誠字五言八韻

道光十五年乙未科宗室會試

欽命四書題詩題

庶民去之君子存之

賦得春雪優霑得豐字五言八韻

道光十五年乙未科會試

欽命四書題詩題

大德不踰閑

夫君子者善繼人之志善述人之事者也

吾身不能居仁由義謂之自棄也

賦得王道平得倫字五言八韻

201 道光十五年乙未

恩科順天鄉試中式舉人覆試

欽命四書題詩題

故君子居易以俟命小人行險以徼幸

賦得行不由徑得公字五言八韻

202 軍機大臣 字寄

兩廣總督鄧 道光十六年二月十四日奉

上諭鄧廷楨奏廣東莞縣命婦盧尹氏違抱告具

控伊子已革刑部郎中盧應翔被參革職解審一

案查業內李涉之員不但吳越鈞係鄉榜同年吳

廷瓚之子即司員白讓卿之父白鎔與伊子係屬

師生亦有世誼一面係捷人卷先行研訊固不敢

引嫌迴避惟道路之詞最多歧異請旨添派大臣

一員赴粵會審等語此案已有旨派恩銘等前赴

該省會同審辦該督甫經到任自無所用其迴護

至予宋故舊本無事引嫌迴避祇須破除情面毋

稍瞻徇如案情果堪自信正不必以傳聞歧異為

慮著鄧廷楨仍遵旨提集案證俟恩銘等到粵後

會同秉公研訊務得確情執法持平認真覈實俾  
水落石出以成信讞斷不准稍有不實不盡將此  
諭令知之欽此遵

旨寄信前來

203 道光十六年二月十四日內閣奉

硃

上諭朕覽後中正殿本醫院事務惟著著英署理  
欽此後太醫院事務亦著著英署理

204 道光十六年二月十四日內閣奉

上諭朕覽後上駟院事務著定親王奕紹署理欽  
此

205 道光十六年二月十四日內閣奉

上諭鄧廷楨等奏請將知縣摘去帶頂勒緝一摺此

案廣東東莞縣民人李豆村等刃鏡連斃三命顯

有挾仇尋衅糾光械鬥情事據該縣詳稱兩日之

內各因衅由互爭致傷身死供情殊不確切難保

非分開日期希圖改重作輕且報驗已越月餘究



犯尚未緝獲實屬玩縱東莞縣知縣侯之翰著摘去頂帶勒限一月緝拿三命正兇務期按名逮捕如屆限不獲及審有主謀械鬥該縣分改日期減輕情節希圖<sup>姑</sup>就情事即行從嚴恭辦欽此

206 道光十六年二月十四日內閣奉

硃 上諭廣東碭石鎮總兵員缺著黃貴補授欽此

207 道光十六年二月十四日奉

旨近所奏廣東前署長樂縣事准補陽春縣勒休知縣沈世鎮虧短銀九千二十餘兩數二千三百餘石之多著即革職等因交該督等提同該員任內經手書役人等嚴審虧短實數是便是那分別究追按律定擬具奏該革員家所有財及原籍祖籍家產著一併查封備抵欽此

208 道光十六年二月十四日內閣奉

上諭周之琦奏道員調補要缺知縣一摺著照所請江西豐城縣知縣員缺准其以張師言調補該部知道欽此

209 道光十六年二月十四日內閣奉

硃 上諭連洪阿等奏請鼓廳候補人員等語臺灣候補從九品張伯藩於委查海口之便曾獲盜首夥盜多名尚屬勤奮著准其儘先補用以示鼓勵該部知道欽此

210 道光十六年二月十四日內閣奉

上諭前據彥德等奏稱烏里雅蘇台科布多二處保舉額外驍騎校請仍循舊例與本城應升人等相間補用當交兵部議奏茲據該部查明該二家保舉人負若違本城缺出即行補用未免過優且本城兵丁不能得缺曾經奏准辦理嗣後該將軍大臣等如保舉該二處換防兵丁作為額外驍騎校者差便送部引見復遇有本城驍騎校缺出著按記名先後日期與本城應升之人一體相間補用此項換防兵丁與出兵若有勞績者究有<sup>但</sup>區別不准保舉先行補用而有從前科布多奏贊大臣等順保奏請先行補用之額外驍騎校布楞一員著即更正欽此

211 道光十六年二月十四日奉

硃 旨高客乃忠山博多歡特與額俱著加恩改為革職

留任欽此

212 道光十六年二月十四日內閣奉

上諭都察院奏查明各省京控若交案件逾限未結並上次展限已逾仍未審結各案開具清單呈覽各省州縣審斷不公致令屬民來京具控經各衙門若交之後各該管上司有應勒限履催將未結各案迅速審辦以免懸宕茲據都察院查明該衙門衙門若交各省逾限未結統計十五案之多步軍統領意積塵玩泄已極著吏部即將承審逾限各督撫都統將軍府尹及委審各員應得家分查取職名分別議處並著各督撫都統將軍府尹將若交各案逾限未結並上次展限已逾仍未審結各案迅速審辦完結毋再任意宕延致干咎戾欽此

213 道光十四年

京察一等覆帶

硃

記名單

內閣侍讀富通

○ 祝春熙

翰林院編修龍球

○ 鄭紹謙

戶部郎中文禧

○ 自外郎寶壽

都察院右副都御史中興勳

兵部員外郎承志

刑部郎中慶倫

○ 蘇彰阿

文致著

工部郎中○ 毓銜

都察院右副都御史中興勳

都察院右副都御史中興勳

禮部郎中○ 給事中○ 乾文洋

都察院右副都御史中興勳

○ 郭鳴高

○ 郭鳴高

太僕寺員外郎慶瑞

倉儲總監有兵部郎中靈秀

林 十三

214 本月十四日吏部將各衙門保送道光十四年

宗察一等未結

記名人負復帶引

見本

旨當通祝春熙鄭結譚文培承志度倫蘇彭阿祇  
衙圍明門純文淳郭鳴高帥方蔚靈秀俱著交

軍機處記名以道府用

215 道光十六年二月十五日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠  
銀糧令該將軍府尹督撫等查明開單具奏據長  
蘆監政靈奎查明道光十年以前鹽場寬大銀兩  
數目具奏當交戶部覆覆核據查明滄州南皮縣  
鹽山縣履縣場四處未完寬額銀二千三百六

兩零委係實欠在寬之數著加恩一律豁免該監  
政即刊刻曉諭並照例核戶付給免單  
嚴禁吏胥影射需索等弊務令實惠及民用副朕  
錫美推恩至意欽此

216 道光十六年二月十五日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠  
銀糧令該將軍府尹督撫等查明開單具奏據程  
祖洛查明道光十年以前民欠積欠數日開單呈  
覽當交戶部覆覆核據查明具奏福建省各縣場  
民寬自嘉慶二十三年起至道光十年止積欠粒  
折銀三萬九千八百二兩零並未完隨徵普旨銀  
四百十九兩零委係民寬實欠之數著加恩一律  
豁免該督即刊刻曉諭並照例核戶付  
給免單嚴禁吏胥影射需索等弊務令實惠及民  
用副朕推恩布聞至意餘依議欽此

217 道光十六年二月十五日奉

旨陳嵩慶奏帶領引見起跪失儀自請議處著加恩

寬免欽此

218 查軍機章京兵部郎中王廣業昨蒙

簡放湖南長沙府遺缺知府所遺章京一缺應以考

取

記名之工部候補主事陳本欽按次充補謹

奏

219 查補行履試舉人應請

簡派閱卷大臣除另有差使及應行迴避者負誤不

開列外謹繕寫名單進

呈候候

欽照於十六日清晨

登下傳集各員聽候宣

旨謹

奏

硃 220 ○ 潘世恩

○ 阮元

○ 穆彰阿

○ 王鼎

○ 王宗鑑

○ 史致儼

○ 何凌漢

○ 陳嵩慶

○ 恩桂

○ 李宗昉

○ 文慶

○ 程恩澤

○ 卓東恬

○ 廖鴻荃

○ 史譜

○ 劉彬士

○ 貴慶

○ 姚元之

○ 陳官俊

王植

朱博

功普

麟魁

潘錫恩

毛式郇

221 軍機大臣 字寄

山西巡撫中 傳諭著山西布政使接察使慶  
林 道光十六年二月十六日奉

上諭有人奏風聞山西現調太原府知府史夢蛟前  
在汾州府任內因介休縣富戶李鎮五及李鍾峨  
等互控家產一案該府得受李鍾嶂李鍾峨賊銀  
八千兩過付則有介休民人梁永熙寄頓則有長  
春當舖白起孔運送則有刑書李如貴迨李鎮五  
赴省控告發交首府審訊多由礙於情面以致速  
延未結近聞李鎮五以該府調任首府若往投審  
必無生理赴巡撫衙門呈訴經該撫批發臬司飭  
委陝補知縣黃旭承審竊思此案該府如果得贓

旨寄信前來

222 道光十六年二月十六日內閣奉

屬定豈一候補縣令所能審結且聞現有大踞省  
城未赴本任之陽曲縣主簿邱戟士從中串合以  
為消弭地步等語知府為方面大員自應清白自  
矢以為屬責表率若果因案得贓寔屬大干法紀  
必當履行懲辦著中政賢督同慶林親提人證東  
公研訊務期水落石出以成信讞該撫等均係甫  
經到任無所用其迴護不准因該員甫調首府稍  
事塘詢倘有不實不盡日後到經發覺或經科道  
糾參該撫等不能當欺飾重咎也將此諭知中政  
賢並傳諭慶林知之欽此遵

上諭御史劉誼奏密飭查辦事件請嚴禁洩洩傳播  
以肅政體一摺朝廷日行政事具有體制朕綜理  
庶政無事不可不布告臣民其由內閣傳鈔宣示中  
外者衆見共聞原不必秘密至密飭查辦事件及  
九卿科道等條陳章奏本不容洩洩滋弊朕於事  
關緊要者俱封交軍機大臣閱看密令章京一二

自敬謹繕寫此外章宗無不與聞陳奏事件留中未發外間無從得知不應有人傳播而有時揣度附會指作新聞暗與昭合則又何說若非有人探聽漏言即係原奏之人自行洩漏已往之事姑免深究嗣後在是大小臣工務當各夫小心倍加慎默事無鉅細總須慎絕窺探嚴防洩漏其言事諸臣陳奏事件不避嫌疑亦當自行秘密毋許任意談論以致漏言傳播動人聽聞臣不密則失身勿謂朕語誠之不早也經此次訓飭之後如再有洩洩傳播等項情弊一經察出必當追究根原查明何處洩漏定即從嚴懲辦決不輕恕深之慎之將此通諭知之欽此

223 道光十六年二月十六日內閣奉

上諭給事中汪報原奏請將吏部文選考功二司條例各為受通四條飭部議議一摺著吏部議奏欽此

224

奏蒙

李嘉慶奏請將吏部文選考功二司條

發下順天鄉試覆試卷一百四本自等公同詳閱分

別等第名次擬一等九名二等二十四名三等

六十九名四等二名謹於卷面粘簽恭呈

御覽伏候

欽定候

發下後再行拆閱彌封另繕名單進

呈謹

奏

225 一等九名

朱蒂

張鑾

趙元模

丁培鑑

田彬

韓雷

顧恩淳

龔寶達

李嘉慶

二等二十四名

尹宗淳

朱德澐

潘忠燾

沈錫祺

隆善

單維楷

濮陽乾

馬振衡

史樽

吳壽南

吳嘉賓

商發齡

魏文笏

李夢

李錫章

李鴻珂

張叔麟

陳詠

王北栢

張增瑞

曹右元

邊葆淳

王樹海

陳朝棟

王召通

三等六十九名

李九鵬

江南金

安本曾

張齊錦

劉鈞

來鎮南

曾大元

崔光箕

金葆

陳椿

文鴻銘

胡士彥

達太  
范素琴  
李昌熾  
鄒升蘭  
俞榮昌  
范維  
彭繼紳  
劉延訓  
賀元俊  
張文珠  
蔡錫齡  
方若秋  
劉鳳詔  
王元善  
常純  
張程章  
齊壯園  
李受彭  
張天壯

馮貞祐  
趙世彥  
張震  
許清元  
王元治  
霍禹猷  
陳勃  
孫兆燕  
陳鵬  
張煥  
馬安常  
胡潤如  
恩慶  
李仲祁  
王如衡  
張康侯  
孫東亭  
孫兆楚  
呂有志



葉圭駿  
戈旬芳  
陳九成  
楊啟之  
王植桐  
楊煥然  
孔廣韻  
劉冲林  
鄭馮岡  
李煥文  
戴耕  
張樹基  
李飛雲  
陳士奇  
丁錫畴  
汪杰  
于英復  
金朝棟  
馬慶琛

四年二名

廣壽

韓慶斌

226 軍機大臣 字寄

總管內務府大臣禧 奕 右翼總兵聯 直

隸總督琦 道光十六年二月十七日奉

上諭據御史朱成烈奏稱道光九年東巡大差有在

京匪徒方四糾集多人假冒黃檔之名沿途詐索

規費名曰戰黑事發經內務府審辦擬以違戍去

年秋間大差又有方姓假名騷擾州縣官意圖差

使安靜不得不隱忍任其窩索等語本月朕祇謁

東陵經過地方難保無前項匪徒假名索詐著禧恩奕

紀聯順琦善嚴密訪查如所稱方姓實有其人即

行嚴拿懲辦並查明此外有無不法匪徒假稱各

項差事石目沿途訛索規費一併密速查拿毋稍

疏縱將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

227 道光十六年二月十七日內閣奉

上諭御史朱成烈奏督撥差浮派請旨飭禁一摺  
畿輔近地各項差徭開資民力是以每次踴躍  
行各州縣地方量予豁免錢糧用示體卹惟各項  
差使一經出票誘差假手吏役鄉保糾派侵吞種  
種滋弊不可不嚴行飭禁著琦善嚴飭所屬地方  
官遇有差使務當先期明示曉諭概不准經吏役  
之手以致重重剝削不均不準備查有前項弊端  
即行嚴拿究辦並將該州縣指名奏參以紓民力  
而安閭閻欽此

228 道光十六年二月十七日內閣奉

上諭色卜星頗奏懇展限舉行計典一摺著照所請  
所有安徽省道光十五年大計准其展限至本年  
四月內舉行該部知道欽此

229 道光十六年二月十七日內閣奉

上諭惠溥奏口外道員違休期滿另請簡放一摺熱  
河道霍陞阿三年違休期滿著照例送部引見

味

俱簡用所遺熱河道員缺著豐林補授欽此所  
遺員缺著蘇彰河補授

230 道光十六年二月十七日內閣奉

上諭凱音布等奏援借餉脩理官兵房屋一摺該  
家口官兵房屋因上年夏秋大雨損壞頗缺兵丁  
難資棲止著准其援照道光八年成案賞借張家  
口駐防場額三員每員俸銀各二百四十兩位額  
七員每員俸銀各二百兩防禦十員每員俸銀各  
一百六十兩驍騎校十員每員俸銀各一百二十  
兩筆帖式二員每員俸銀各八十兩共俸銀五千  
八十兩兵一十二名一年餉銀共三萬一千六  
百八十兩令其及時修補此項銀兩即由口北道  
庫貯閒款撥分限坐扣歸款仍照嘉慶六年成  
案核本年十月將兵丁前借餉銀扣清即自十一  
月起接扣其官員俸銀自明年春季起接扣所借  
銀數報部查覈該部知道欽此

231 道光十六年二月十七日內閣奉

上諭昨於正大光明殿覆試上年順天鄉試取中舉

殊

人持派大臣嚴行校閱分別等第進呈並派令將  
原卷逐細磨對朕親加披覽其列入一等之朱華  
張鑒趙元模丁培錕田彬韓雲顧思淳其寶蓮李  
嘉俊列入二等之尹宗濬朱德澹潘志熹沈錫祺  
陸善單維楷馮陽乾馬振衡文博吳壽南吳嘉賓  
商鏡齡魏文第李華李錫章李鳴珂張長麟陳珠  
玉兆柏張增瑞邊葆淳王樹海陳朝棟王台通列  
入三等之李九鵬江南金安本曾張壽鐸劉鈞表  
鎮南曹大元崔光吳金葆陳棟史鴻誥胡士彥達  
太芑素琴李昌熾郝升閔俞學昌范維彭維仲劉訂賀復  
張文珠蔡錫齡方若枚劉鳳詒王元善常純張程  
章蘇壯園李受彭致大壯馮貞祐趙世彥張震邨  
清元王元治霍萬齡陳勃孫兆燕陳鵬張煥馬安  
常胡潤如恩慶李仲祁王如衡張康侯孫東亭孫  
兆楚呂有志葉圭綾戈向芳陳九成楊敏之王植  
桐楊煥然孔廣韻劉洋林鄭鳴岡李煥文戴杵張  
樹基李飛雲陳士奇丁錫疇汪杰于英護金朝林  
俱著其姓名  
馬慶琛列入四等之廣壽韓慶就俱著其姓名  
會試欽此

殊

232 上年覆試列入四等者曾否停科查奏

233

奏本日臣等奉

旨將上年順天取中舉人原卷與覆試一二三等卷

逐細磨對文理筆蹟均屬相符其四等一名廣

壽春趙宇誤闕間文內並無錯誤原卷筆跡文

理相符四等二名韓慶綬文多累句查閱原卷

文理亦有疵累筆跡相符謹

奏

道元十六年二月十七日奉

殊批照去歲書寫諭旨俱准其會試欽此

234

臣等查上年覆試列入四等之王敬承田畫中

向人熾歐陽金理周錫鈞俱罰停會試三科列

入四等末之章昇槐及不入等之伊昌阿俱革

奏

去舉人謹

此等原卷均何休復原卷卷末有朱筆

235 軍機大臣 字寄

山東巡撫鍾 道光十六年二月十八日奉

上諭據琦善奏發現據李復習教之戴洛占等供出山東商河縣董家林村住居之董吉升倡興教會傳派蔓延間時二百餘年世代陞習戴洛占等皆其支派內遠傳之人又董吉升之後人董坦已被山東李復董坦前曾常來直隸傳教其各支相傳直隸尚有何人董坦在直隸所傳何人該犯等情無董姓實證不肯吐實等語著鍾祥即將現獲之商河縣人董坦即董平心詳晰研究令其將直隸傳習伊家教會究有若干迅即查明直隸總督以便按名拿辦如東省無應訊之處即派委委員迅將該犯董坦解交直隸歸案審辦毋稍遲誤將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

236 道光十六年二月十八日內閣奉

上諭林則徐等奏請鼓勵催備回空出力各員一摺上年冬間天氣人情運河水勢消耗江浙回空單

船改由橫開進口經該督等設法籌備旋踴次於十一月二十九日擇數艘當降旨飭令該督等詳其尤為出力者酌保數員並據查明分別奏請獎勵自應量予恩施常鎮道李彥章京口協副將張成龍鎮江營參將鍾倫鎮江府知府龔文煥俱著交部從優議敘鎮防同知祥齡鎮江營守備連陞俱著交部議敘丹徒縣知縣熊傳業著賞加如州街橫越開官趙景堂呂斌司巡檢鍾岳安港司巡檢陳之榮俱著各以應升之缺儘先升用以示鼓勵該部知道欽此

237 道光十六年二月十八日內閣奉

上諭鐵麟等奏監督不能構賊請撤回原衙門一摺祿米倉漢監督工部員外郎施秉衡裕豐倉滿監督內閣中書塔祿興平倉滿監督國子監助教花里雅松阿漢監督戶部員外郎彭碩均著撤任各回原衙門行走該部知道欽此

238 道光十六年二月十八日奉

旨鐵麟等奏大通橋車戶轉運各省漕糧雇備大小

車輛向資豆價盈餘津貼車價者准其照舊承買  
黑豆二萬石在於東豫二省運通豆內截撥變賣  
餘銀存公以作雇備車輛隨時津貼及陰雨添車  
加價之用其應交例價仍照舊章按卯坐扣還款  
該部知道欽此

239 道光十六年二月十八日奉

旨此奏著交陶澍親提人證朱宗來公嚴密按律定  
擬具奏原吉趙鼎元該部照例解往備質欽此

240 本月十七日兵部將保舉選勝陸路總兵之河  
東河標中軍副將穆其那帶領引

見奏

旨交軍機處記名

241 道光十六年二月十九日內閣奉

上諭何凌漢等奏棟員升署要缺同知一摺著照所  
請順天府東路同知員缺准其以何欣繩升署無  
例送部行見仍俟扣滿年限另請實授該部知道  
欽此

242 道光十六年二月十九日內閣奉

上諭楊名題奏徒犯呈請援例贖罪一摺賀尚齡著  
准其贖罪欽此

243 道光十六年二月十九日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請將疎脫監犯各官分別革職留  
任一摺浙江安吉縣知縣王世荃等於監候脫犯  
並不小心防範致令林石青無辜懷二犯同時脫  
逃實屬疎懈管徵官署安吉縣同文史事試用從九  
品王昉著革職等因交該撫提同刑禁人等及已  
獲逃犯焦本懷審訊究辦有獄官安吉縣知縣王  
世荃著革職留任勒限嚴緝逃犯林石青務獲歸  
案審辦限滿有無弋獲照例分別辦理欽此

244 道光十六年二月十九日內閣奉

上諭奕湘等奏職官擅離任所請分別交議一摺革  
帖式慶安未經告假擅自回京實屬有曠職守度  
安著交部嚴加議處該管司員郎中慶舒員外郎  
吉勒通阿未能先事查稟著一併交部議處至慶  
安現在是否回京著該族查明具奏欽此

245 道光十六年二月十九日內閣奉

上諭奕經奏貝勒額控前案一摺科爾沁貝勒達拉瑪扎布向副盟長卓哩克圖親王已圖前具呈稱寬額控前案原控正盟長圖什素圖親王諾爾布林沁索取旗下銀多橫轄兵丁牲畜銀兩台吉喇嘛首領錢糧三款未經質對等情營降旨交奕經提業審擬具奏查該將軍奏提訊達拉瑪扎布所具供詞於已辦完結之案牽涉並旗台吉補控台吉喇嘛首領錢糧數十餘名並未拘傳審辦因執中訴非詳查確數無以折服其心惟哲哩木地方遙遠自未便傳提滋累著理藩院轉飭隔旗之副盟長就近前往會同正盟長諾爾布林沁照依現控情節詳細查明來公審詳報理藩院覈擬辦理欽此

246 道光十六年二月十九日內閣奉

上諭奕經等奏孽獲糾劫盜犯請交部嚴審一摺奉天地方連遭瀕海宵小易於涸跡現據該將軍等飭屬孽獲糾夥逃劫各案犯自應嚴行懲辦以戢

盜風所有已獲盜犯徐志等二十六名著該將軍會同武京刑部嚴審按律定擬具奏仍飭所屬旗民地方官一體勒限上緊緝拿逸犯務期按名弋獲歸案審辦欽此

247 道光十六年二月十九日奉

旨翁牛特王旗鎮國公桑噶巴拉呈控該扎薩克多羅郡王喇特那濟哩第各款著交嵩溥就近提集人證秉公嚴訊按律定擬具奏抱告三等獲衛濟元照特照例解任備質欽此

248 道光十六年二月二十日內閣奉

上諭朕此次恭謁東陵所有踴路經過之大興通州三河薊州遵化五州縣地方應徵本年錢糧著加恩蠲免十分之三欽此

249 道光十六年二月二十日內閣奉

上諭詢爾經額等奏揀育升補要缺直隸州知一摺

著照所請湖北利門直隸州知州負缺准其以呂  
恂升補照例送部引見該部知道欽此

250 道光十六年二月二十日內閣奉

上諭吳榮光奏請鼓屬辦理民糧遷移事宜吳善之  
署縣令等語湖南署永明縣事辰州府通判唐鳳  
德著交部議敘餘依議該部知道欽此

251 軍機大臣 字寄

湖南巡撫裕 道光十六年二月二十一日奉

上諭吳榮光奏訪查已故祁陽縣知縣崔傑門丁王  
五及現任祁陽縣國慶門丁陳青芳等陳姓在該  
縣地方盤踞招搖並與丁憂典史潘鑒影<sup>爾</sup>謀壘  
之事現將陳青等獲審辦並飭擊王五陳書田務  
獲提同該典史潘鑒及陳青嚴行究辦等語此等  
不法門丁與地方劣衿及却事佐雜往來潛匿播  
弄是非牟利壑斷深堪痛恨著裕奏到任後提集  
案據秉公嚴審並飭該管道府嚴密查拿王五陳  
書田務獲提同已革典史潘鑒及陳青澈底嚴究

毋稍輕縱將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

252 道光十六年二月二十二日內閣奉

硃

上諭本日輝路所轄蘇州以西二十里許整道<sup>路修整</sup>  
平實著琦善查明承辦之員據實奏欽此

253 道光十六年二月二十二日奉

旨杜格善英均着加恩改為降一級留任不准振頌  
欽此

254 軍機大臣 字寄

湖廣總督訥 候補四品京堂吳 湖南巡撫

裕 湖南提督薛 廣西巡撫忠 廣西提督

陳 署貴州巡撫布政使額 署貴州提督松

四川總督鄂 道光十六年二月二十三日

奉

上諭據吳榮光由驛馳奏武岡州匪犯聚眾滋事於  
本月十一日節據該府州縣營先後稟報初五日

盤獲匪徒吳立鶴一名搜出黃布旗及逆書一本據供新寧縣之圳源崗有匪徒聚集又擊獲郭元佐一名搜出逆詞據供藍正傳係滋事首犯該逆匪等已於初六日酉刻聚至武岡州撲城現經吳榮光帶兵親往督辦一面函致湖廣總督詢問經賴及新任巡撫裕泰藩司龔綬迅速赴湖南一面酌調衡州等各協營兵丁八百名馳往應援並飭該堵鎮就近馳往寶慶府城暫行駐劄督飭在城文武員弁實力防守復飛調永州鎮就近派兵三百名馳往堵截東寬要路並於該州交界地方分兵堵截該賊匪等二三千人驟至武岡撲城經千總張大宏等聞放槍砲打斃三十餘人餘賊落水淹斃無數至各該賊匪巢穴或稱圳源崗或稱九隴山或稱麻林崗地名不一均在新寧縣境等語此等賊匪不過一時烏合當此起衅之始人心未定急應散其黨羽以免播毒現經吳榮光剴切出示曉諭被脅各犯及早解散赴官投首准其減免名如將首犯捆縛送官者予以重賞以期及早滅除逾期藏事者請前經額迅即前往吳榮光交卸後

毋庸未京著留於湖南會同劉稱裕泰接印後著留省彈壓實防藩司調撥糧餉訥爾經額吳榮光到彼查明賊匪現經千總張大宏等提斃并淹斃無數此外尚有若干迅即探明果不帶兵先合窮搜全獲以淨根株斯不可違延時日此等賊窺賊令賊暫蔓延現在湖南之兵是否足敷應用此時薛澄查辦集單練勇該事如當添撥并兵即著薛澄帶往剿辦至新寧縣界連廣西貴州兩省倘兵力齊集難保匪不乘間窺寇著忠吉陳階平額騰伊松青於各該省界連緊要隘口酌派文武弁調集兵仗協力兜擊嚴密防堵一體稽查彈壓無稍疎虞其賊匪巢穴與強崗相距道路遠近是否不致被其脅惑並著訥爾經額等確查具奏相機妥辦無令兇賊伎倆從中煽煽另起衅端又另片奏上年十一月訪獲武岡州傳教傳徒匪犯潘明德等十九名並起獲經卷坎卦圖章一現訊據陳恒忠之父程孔固經四川人王又名傳教並付給經卷圖章程孔固傳教李明德等入教於去年任廣西未回王又名現在四川等語此次聚眾強



事之逆首監正梅既據李明德等供入教之犯是該逆等確係助逆黨羽並置罪大惡極必應迅速捕獲明正典刑以伸國法其程孔固上年潛往廣西王又名現在四川著鄂山忠古密飭幹勇於各該犯潛匿地方迅速訪拿務獲押解湖南交詢爾經額等提同各犯澈底履行究辦無任聞風速颺漏網將此由五百里各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

255 軍機大臣 字寄

湖廣總督詢 降補四品京堂吳 道光十六

年二月二十三日奉

上諭本日據吳榮光奏接據沅州府協稟報風聞鎮軍練勇因借銀不允起衅於本年正月十九日聚集多人在於辰沅道署鼓譟打毀房屋當已妥為安撫並據辰州永順綏靖各府協營先後稟報情形大略相同經吳榮光札委衛永道張晉熙撫標中軍恭將張元直前往嚴查懲辦去後旋據辰沅道常慶稟稱鎮軍兵勇有道光十二年出師洋泉

及調赴廣東征剿匪徒借領行裝銀兩接奉部文應行扣歸原款兵勇因貧乏無力於本年正月十八日赴該道及鎮軍鎮總兵兩署跪求緩給該道面諭聽候酌辦各兵勇始行退出復接鎮軍鎮總兵向尊化函致前由叢興沅州等府協營所稟情節輕重懸殊又據鎮軍鎮向尊化另文咨會鎮署於本年正月十九日子刻住屋後耳房失火延燒房屋十一間並未傷人該鎮道函稟情形顯屬不實不蓋其中必有起衅別故及事後消弭諱飾情事各等語詢爾經額本年應赴湖南查閱營伍著即會同吳榮光查明此事實在因何起衅首從係何姓名人數共有若干各犯曾否被獲總兵銜著實係如何被燒該鎮道所稟情節因何與各屬互異現在兵勇是否安靜該督等務當破除情面確切嚴查據實具奏毋得稍事顧預自取欺飾之咎將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

256 道光十六年二月二十三日內閣奉

上諭琦善奏遵旨查奏辦道不善之知縣並日請議

奏一摺直隸軍律難知縣楊士昕着即革職琦善着加恩改為交部察議該部知道欽此

257 道光十六年二月二十三日內閣奉

上諭申啟賢奏探員升補要欽同知一摺著照所請山西潞安府同知賈欽准其以孫有孚升補照例送部引見該部知道欽此

258 查貴州提督祝廷彪奉

旨准其來京陛見此時尚未到任該提督一缺現係臧字鎮總兵松青署理是以臣等擬寫

諭旨寄知松青謹

奏

259 道光十六年二月二十四日奉

旨馮二即馮得揚利兒邵九彭八均着解京交刑部

審訊欽此

260 軍機大臣 密寄

直隸提督琦 道光十六年二月二十五日奉

上諭耆英等奏稱訊據畫匠為生之張四供稱近京東南地方有傳習邪教之徒甲張秀等在通州冰樂店東夫村居住有李八家人高三可以質對訊張高三供稱李八是紅陽教會首會內有總甲張秀民人徐符等所供確係一面之辭余聞傳習邪教虛實均應澈底根究著琦善即將張四高三供出各犯姓名住址密速掩拿隔別嚴訊有無為匪不法情事按律究辦無任聞風速馳漏網原摺著鈔給閱有將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

261 道光十六年二月二十五日內閣奉

上諭鄂山奏請豁免地丁銀糧一摺四川茂邊廳上年夷匪滋事甫經戡定貧民漸次復業若將地丁銀糧照常徵收民力未克措措加恩著照所請所有應徵道光十五年分地丁正閏銀六百十三兩零耗銀九十二兩零茲糧二十三石零均著全行豁免以紓民力該省卽刊榜黃編行曉諭務期實惠及民毋任吏胥舞弊示朕軫念民依至意該部知道欽此

262 道光十六年二月二十五日內閣奉

上諭魏楚克崇標等奏到總管緝犯出力懇請獎屬等語此案哈喇布杜卡倫兵丁祥福被哈薩克賊犯打傷該大臣等株派巴爾魯克額魯特副總管毛哈喇出卡歸寧正允就獲並購線進獲原奴官馬安屬奮勉出力毛哈喇著遇有應升之缺出卽行升用先換頂帶以示獎勵該衙門知道欽此

263 道光十六年二月二十五日內閣奉

上諭鄂山奏知縣應行迴避揀員對調一摺着照所請四川閬中縣知縣員缺准其以周國培調補所遺津縣知縣員缺卽以劉伯英對調該部知道欽此

264 道光十六年二月二十五日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請動項修築西塘壩各工一摺浙江西塘一帶崇埽各工固上年秋後時過東南風潮汐激淤洄溜逼刷以致間有坍塌據該撫查明最險之工亟應修築西有李家汎西養字號

起至翁家汎西采字號止間共埽工長四百五十

八丈又最字號起至惟字號止間共埽工長一百一丈二共崇埽工長五百六十八丈均係崇埽撥撥損附土坍塌情形險要著卽乘時搶築以禦春潮其估需例加工料銀二萬五千十一兩零准其在於廠額運庫初二兩次商息項下分別動支給辦該撫仍飭該道督率應備上緊趕辦務期工堅料實毋任稍有草率偷減工竣覈實驗收照例保固該部知道單併發欽此

265 查上年二月二十八日推班一日理合奏明俟

發下後臣等傳知各衙門本月二十八日照例推班

一日謹

奏

266 道光十六年二月二十七日內閣奉

上諭長齡等奏等獲漏稅參斤人犯一摺此案夾帶參斤人犯李大即李叔澄攜帶人參至九百餘兩之多指稱會試希圖漏稅實屬膽大且據該犯供

稱原買人參係一千八百餘兩何以呈出賬單開  
載二千二百餘兩其現存又止九百八十兩數目  
迥不相符所携道光十三年路引又係填寫張泳  
寶之名張泳寶現在吉林果否與該犯同夥均須  
澈底根究李叔瀝一犯著兵部解往吉林交該將  
軍嚴行質訊此項參斤是否該犯與張泳寶夥同  
認買官崇餘參押係偷創私參確切說明分別辦  
理其現獲參斤著長齡等開明斤兩粘貼印封一  
併解往查驗欽此

267 道光十六年二月二十七日內閣奉

上諭裕泰奏等獲匪徒逸案審辦等語貴州省古州  
黎平等處毗連楚粵水陸交衝向為匪徒出沒之  
區現經該撫派委文武弁先後拏獲會匪棍徒  
多名苗疆得以肅清所有黎平府知府張鳳翔著  
開泰縣知縣程國南於糾衆結會各犯雖經失察  
於前被即訪聞等獲究辦功過尚足相抵著加恩  
免其問處此外奮勉出力之委員與古州文武弁  
弁暨黎平營弁弁著該撫擇其尤為出力者酌保  
數員奏請獎勵毋得冒濫該部知道欽此

268 軍機大臣 字寄

湖廣總督鈞 候補四品京堂吳 湖南提督

薛 道光十六年二月二十九日奉

上諭據訥爾經額薛壁馳奏武岡州教匪滋事情形  
各一摺訥爾經額奏稱接據武岡州營稟報二月初  
六日百刻賊匪約二三千人各持器械分三路  
而來勢欲撲城經千總張大宏首先開槍打斃一  
賊隨經署守備趙昇泰開槍放擡破先後殲斃二十  
餘人衆賊退落水中淹斃無數餘匪始行漸退迨  
初七日帶兵追捕並得紳士張謙等聞聲來助該  
匪等竟敢迎拒復經槍斃殺死賊匪約數十人拏  
獲匪文舉等二十二人並生擒首逆家屬藍正大  
藍正監二名起有黃布令字號等件查明復業將  
在場攻城之彭先聚等十一犯臬示城上賊衆始  
分途逃竄初八日復於山巖竹木內搜獲逆犯六  
十四名即將獲行立決之楊積富等六十名登時  
臬示並拏獲主謀助逆要犯張和高陳仲潮及夥  
匪多名根究逆首下落均稱藍正摺即藍沉曠係  
新寧縣強生並據該縣稟報拏獲該逆家屬老藍

雷氏蓋雷氏蓋幅玉併夥犯陳汝隆等九名搜獲軍器四件歸案審辦又薛陞奏稱現帶沅州協官兵二百名前赴靖州綏寧一帶察看情形分別剿撫各等語該匪等習教傳徒開擊起事節經該州營剿捕擒獲已及數百人餘匪窮迫奔竄似此么魔小醜不值多煩兵力現經吳榮光帶兵二百五十名督同署臬司梁恩照駐查辦薛陞復帶兵二百名前往剿捕自可立就肅清所有前詞竊種各營兵丁著即撤回靖伍總兵李鈞文即回本任以重贖守訥爾經額駝抵該處著會同吳榮光薛陞悉心體察現在情形當飭各營縣嚴擊首逆並正樽迅速就獲追捕餘匪務使淨盡並提同現獲各犯嚴行審訊該匪等是否習教傳徒勾結羅匪滋事搗當詳細推鞠務得確情按律懲辦以除餘孽而淨根株至于棍徒大宥著守備趙昇奏著該督查明該弁等當賊匪驟至如果實係開槍槍斃賊斃多久賊眾因而解散著即據實保奏吳榮光此時自己馳抵武岡著仍遵前旨毋庸來京暫留該處會同該督等商辦剿捕事宜又訥爾經額駝片稱

鎮軍兵勇聚眾滋鬧聞已安靜如常請俟查辦武岡州竣後再赴該處確查等語該督此時自應先其開急統俟馳抵武岡將剿捕事務辦理完竣再赴鎮軍親提<sup>札查</sup>秉公研鞠務將起釁根由確加體訪據實具奏不得意存迴護稍有不實不盡將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

269 道光十六年二月二十九日內閣奉

上諭訥爾經額駝奏請暫留升任臬司辦理秋糧等語新升甘肅布政使趙炳言著准其暫留湖南臬司之任辦理秋糧事宜俟新任臬司揚慶琛到任後再行文卸起程欽此

270 道光十六年二月二十九日內閣奉

上諭吳經奏兵丁被控案涉佐領請解任審辦一摺此案監生吉寬等呈控中後所兵丁借端詐索挾嫌誣賄該處佐領傅爾通顯勒取現費等情如果吉寬因伊父兵均聚賭被獲挾控刁風因不

可長惟查督辦匪原係地方專責但人犯已覓拘  
執何至驗有械器毆傷情形若該管位領隊全兵  
丁挾嫌誣賭索要規費尤屬大干功令必須澈底  
根究以成信據中後所佐領佛爾通顏著辭任同  
原告被告人等一併交或京刑部審訊按律定擬  
具奏欽此

271 道光十六年二月二十九日內閣奉

上諭奕澤奏請留熟手以資辦工一摺或京工部六  
品官景豐供職勤慎部務熟悉准其留部俟有本  
部應升之主事缺出照例補用該部知道欽此

272 道光十六年二月二十九日內閣奉

上諭陶澍奏請卅補外海水師奏將一摺著照所請  
江南吳淞營奏將員缺准其以閩登龍升補該部  
知道欽此

273 道光十六年二月二十九日內閣奉

上諭程祖洛等奏練員請補要缺直隸州知州一摺

著照所請福建永春直隸州知州員缺准其以沈  
汝瀚補授該部知道欽此

274 道光十六年二月二十九日內閣奉

上諭程祖洛等奏請借給藩司養廉建蓋衙署一摺  
福建藩司衙署附近居民失火延燒所有被焚房  
間著准其借給藩司一年養廉銀八千兩飭令趕  
緊建蓋俟工竣之日在於應得養廉銀內勻作八  
年扣還歸款該部知道欽此

275 道光十六年二月二十九日內閣奉

上諭李紹美等奏勘原估而汛支河情形一摺據省  
黃河北岸原武陽武兩汛支河上年經該河督等  
奏辦土工估築堤壩該據勘明實實估計土石兩  
項共需銀九萬三千五百餘兩著准其於河南藩  
庫先行照數借撥分投趕辦此項土工銀兩仍歸  
來年另案辦理碎石亦歸於來年六成碎石項下  
扣除統俟霜降後勘估具奏時扣數扣還司庫仍  
由道庫籌整銀兩多購板塊以備緩急該河督等

務當督率道廳加意妥辦務使工堅料實毋致稍有疎虞工竣嚴實驗收報部嚴銷核部知道欽此

276 道光十六年二月二十九日內閣奉

上諭中政賢奏官紳捐修書院考棚等項請分別獎勵一摺書院考棚為地方毓秀掄才之地山西榆次縣書院年久頽圯經該縣知縣文先首先捐銀一千兩督率士民共捐銀一萬二千一百兩夏縣向無考棚該縣已故武舉張士單獨力捐修考棚暨演武廳共用銀七千二百餘兩並附生張景運捐銀五百兩據該縣查明均已修復完竣並募育師生來修書院及稱未歲修之費該二縣紳士人等踴躍輸公共成義舉洵堪嘉尚自應量予獎勵著照所請所有榆次縣捐銀五百兩之武生王之相捐銀四百兩之揭職千總都大書捐銀三百五十兩之俊秀許九如捐銀三百兩之河南札勒知縣韓文先候選訓導許方顯貢生文瑞監生王必久童生劉岷俊秀許柱氏人侯貽孟並夏縣捐銀五百兩之附生張景運俱著交部照例議叙其捐

銀七千二百餘兩之已故武舉張士單著准其建坊旌表三請次縣知縣文先倡捐督修並著經費悉歸公善著交部從優議叙以示獎勵此項工程係官紳捐辦著免其造冊報銷該部知道欽此

277 道光十六年二月二十九日內閣奉

上諭中政賢奏酌借常年倉穀並懇暫緩採買以裕民食一摺上年山西省秋收未能一律豐稔據該撫查明汾西等各州縣地方現值青黃不接糧價日增民力不無拮据自應量為賑濟加恩著照所請所有汾西鄉寧左雲永濟榮河遼州榆社和順平定壽陽忻州芮城靈石永寧鄉等十五州縣各按地方情形酌量借撥常年倉穀仍俟秋後照例分別徵買運倉石五靈邱山陰寧武定襄澤源大同朔州平魯代州五臺繁峙休德偏關隰州陽城沁汾霍州靈石和林格爾清水<sub>河</sub>二十一廳州縣應行買補節年平糶賑恤及借撥兵米穀石著該撫督同各該管道府實力稽查務使實惠及民毋

任文胥齊與川刻版幹念歎區至意該部知道欽此

278 道光十六年二月二十九日奉

旨陳嵩慶准其開缺調理吏部左侍郎著李宗昉補授欽此

279 道光十六年二月二十九日奉

旨此案著交陳慶親提人証卷宗秉公展審按律定擬具奏托旨曾輝要該部照例解往備質欽此

280 查軍機章京禮部郎中王蒸昨蒙

簡放御史所遺章京一缺應以考取

記名之內開候補中書吳清皋揆次充補謹奏

281 軍機大臣 字寄

欽差尚書恩 侍郎趙 道光十六年二月三十日奉

上諭本日已有旨將刑部主事白謙卿暫行解任交順天府派員伴送廣東備質並令陶澍林則徐派員伴送陽金城赴粵候質該尚書等行抵廣東時務將盧尹氏一案詳細研鞫倘該二員有應行質記之處著即提同質訊將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

282 臣等查奉本日奉

旨白謙卿陽金城均解任赴廣東備質似應和照欽差尚書恩銘等深該二員到廣東時提同質訊臣等謹擬寄寄信

諭旨一遵進

呈伏候

欽定謹奏

283 軍機大臣 字寄

兩江總督陶 江蘇巡撫林 道光十六年二月三十日奉



上諭前因有人奏蘇松太道陽金城縱容幕友家  
丁在海關需索各款曾降旨令陶澍等確查辦理  
若保此案完竣後即將該道暫行解任派委妥員  
迅速伴送到廣東省城備質將此諭令知之欽此

遵

旨寄信前來

284 軍機大臣 字寄 山東巡撫鍾 道光十六年二月三十日奉

上諭有人奏上年山東被災登萊青三府情形最重  
該撫奏請緩徵惟登州一屬不在其內查訪登州  
被災係上年七月間海風陡作一日一夜秋禾全  
行偃折竟無顆粒無收與萊青不分輕重該州縣  
諱匿不報上年下忙錢糧照舊開徵災民竭蹶完  
納現在青黃不接本年上忙錢糧又復開徵該府  
英文親赴各州縣勸捐運茶捐得制錢一萬餘千  
黃縣捐得制錢三萬餘千其餘各州縣亦俱指有  
成數等語國家愛養黎元偶過地方偏災該督撫  
一經奏聞無不立沛膏澤若如所奏該府屬被災

情形如此之重何以上年秋間竟爾諱匿不報既  
不報災照常開徵何以又復紛紛勸捐勸捐與催  
科並行尚復或何政體著鍾祥即將該府屬被災  
情形及地方官諱匿不報之處確切查明如果屬  
實務當從嚴奏辦倘再意存彌縫將來到經發覺  
惟該撫是問將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

285 軍機大臣 字寄 山西巡撫中 道光十六年二月三十日奉

上諭有人奏上年山西省祭告差使特派平陽鎮總  
兵台費音前往其  
商陽王陵在蒲州府屬之榮河縣界內該縣知縣武  
履中奉文後在署內設席通請書差告以努力張  
羅大家沾光隨傳喚值年里長逐日在縣聽候拜  
差城內設公館七處  
湯陵附近設公館七處科派乾菜鋪墊銀一千五百  
兩修理裱糊器皿燈籠綵綢紅氈夫馬一切雜派  
又五千餘兩其餘無名之費不可勝數該縣不十

三里半每里按地丁一兩攤銀六七八錢不等合計該縣地丁三萬餘兩竟須攤銀二萬餘兩吏胥四出追呼民不聊生等語官祭品物例有支銷該總兵台費音身為沒祭大臣自應潔己奉公減從前往不得然竟擾累民間若如所奏張皇數月朕劑一方一切科派呈二萬餘兩之多是藉端科斂以致閭閻騷然殊出情理之外該縣知縣起意根吞飽其私索該總兵亦難保無藉差需索情事山雨祭告不止一處榮河如此恐他處亦所不免不可不嚴行查究著該撫即將所指各情節嚴密訪查如果屬實其事務當破除情面據實奏奏倘意存消弭不能認真查辦將來刑經發覺惟該撫是問特此諭令知之欽此遵

音寄信前來

286 道光十六年二月三十日內閣奉

上諭御史趙元祖奏糧艘過境請禁屠殺勒索一摺直隸沿河州縣向投利船二千餘隻為兩漕接運之用必資係不敷接運方准添雇民船以資協濟

若如該御史所奏近日天津三河武清等州縣每遇糧船北上無論利船足用與否一有過往船隻屠殺即任意扣留以豫備利運為名擅貼封條百端需索行旅不堪其苦似此藉端勒索不可不嚴行查辦著直隸總督嚴飭地方官務於糧船未到以前先行查禁倘有前項情弊立即從嚴懲辦以安行旅欽此

287 道光十六年二月三十日內閣奉

上諭御史況澄奏新漕將次抵通請循例嚴辦一摺著戶部會同倉場侍郎議奏欽此

288 道光十六年二月三十日奉

刑部主事白讓卿著暫行解任交順天府派委委員迅速伴送廣東省城備質欽此

289 道光十六年三月初一日內閣奉

上諭程祖洛等奏請揀員升補海疆要故同知一摺著照所請福建泉州府廈門同知員缺准其以蔣鏞升補仍照例併案送部引見該部知道欽此

290 道光十六年三月初一日內閣奉

上諭桂良奏請修築沁隄一摺河南武陟縣沁河南北兩岸隄工年久殘缺卑薄自應興修增培以資捍衛而估需工料銀一萬七千二百七十二兩零著照所議辦理勒限大汛前一律截工該撫親往覈實驗收毋任草率偷減此項隄工著免其造冊報銷該部知道欽此

291 道光十六年三月初一日內閣奉

上諭桂良奏請調補要故知縣一摺著照所請河南淮寧縣知縣員缺准其以師俊公相補該部知道欽此

292 軍機大臣 字寄

廣西巡撫惠 道光十六年三月初二日奉

上諭據惠吉奏請額哈劉猛將軍神廟扁額遺旨將扁額大小尺寸開單呈覽朕親書扁額發交該撫祇領接奉後即虔詣廟中敬謹懸挂用酬靈祝將此諭令知之欽此遵  
音寄信前來

293 道光十六年三月初二日內閣奉

上諭周之琦奏具司志病懇請給假一摺陳繼昌著實假一月欽此

294 道光十六年三月初二日內閣奉

上諭周之琦奏明京控咨文案件提解遲延各負時咎交議一摺江西署廬陵縣事崇仁縣知縣王楷雲都縣知縣賈興龍泉縣知縣楊振綱浮梁縣知縣梁瑞霖著上饒縣知縣唐琳技俱著交部照例議處欽此單併發欽此

295 道光十六年三月初二日內閣奉

上諭胡松額奏特奏濫刑斃命之署州判一摺甘肅

前署階州白馬關州判候補縣丞吳士敏於地方  
暗匪遊棍既已獲案擅用非刑濫行拷責致斃四  
命之多實屬殘忍其張石保子等四名是否確係  
匪棍抑該署州判竟有懷挾私仇任意故勘情弊  
必須澈底根究以成信獄吳士敏著革職等因交  
該督提同全案人證嚴行審究按律定擬具奏欽  
此

296 道光十六年三月初二日內閣奉

上諭裕泰奏知縣人地未宜請酌量另補一摺貴州  
天柱縣知縣尹思敬於吏治尚未歷練難勝苗疆  
要地之任著於該省學習該撫等隨時察看遇有  
相當缺出酌量補用所遺天柱縣員缺著該部另  
行銓選欽此

297 軍機大臣 字寄

駐藏大臣文慶 道光十六年三月初三日奉  
上諭據文蔚等奏分兵剿捕番彝據要隘展催迅  
辦一摺此次博奕出菜滋擾經該大臣等派撥兵

丁分作東西兩路剋期進剿現據策墊奪結比喜  
稟報進兵甫及月餘或殘敢焚要奪其險要或拓  
地佔寨據賊戶反雖札布現仍負固而前後受敵  
烏稜納沃僅為遠竄自斃之計是賊勢現已窮蹙  
自應相機攻剿迅速蕪功著該大臣等即飭策墊  
奪結分兵駐守魯即以圍運通其餘全隊迅赴納  
沃頂一帶設法撲剿毋任札布竄匿其東路所請  
破位著即飛咨薩瑪第巴克什揀選運往交比喜  
收用以資攻擊至現訊所獲博番既有札布事忌  
欲竄野人國之供務即密飭比喜豫調土兵先將  
野人國界口紮斷防其奔逸並出示曉諭解散賊  
黨仍嚴諭策墊奪結比喜等現在深入賊境一切  
行兵運糧尤宜小心持重不得因我兵屢勝遂生  
驕逸現當春融雪消進兵較易該大臣等當密飭  
所屬一鼓作氣乘勝進攻俟破位解到時即行揮  
便轟擊務期得手毋得耽延時日坐失機宜策墊  
奪結比喜等現在帶兵分路前進速獲勝仗甚屬  
勇往倘能始終奮勉俾札布指日授首番夷悔罪  
輸誠邊圍得以安靖該大臣等即擇其尤為出力

省裁實保奏朕朕恩將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

298 道光十六年三月初四日內閣奉

上諭鄧廷楨奏覈別營員一摺廣東永靖營游擊一  
缺現改為南韶連鎮左營游擊係屬外題要缺原  
任永靖營游擊王祿營務生疎不勝新改要缺之  
任據鄧廷楨查明該員年逾六旬難期振作著照  
例送部引見現著順德協右營都司候補守備盧  
必沅居心庸鄙聲名平常著即勒令休致以肅營  
伍而儆貪庸該部知道欽此

299 軍機大臣 字寄

湖南巡撫裕 道光十六年三月初五日奉

上諭裕奏奏武岡州教匪滋事節據該道府稟報逆  
匪藍正得於二月初六日由新寧縣徑赴該州圍  
城勢甚緊迫該撫行至龍里縣屬之新安達次得  
信後兼程馳往剿辦等語此案前據吳榮光等馳  
奏當經降旨令詢爾經類馳抵該處會同吳榮光

薛陞督飭嚴拿首逆務淨根株此等烏合匪徒自

可立就肅清裕奏著仍遵前旨即在湖南省城接  
印任事督同藩司調撥糧餉妥籌辦理無庸前往  
剿辦又據另片奏近聞署辰沅道常慶鎮軍鎮總  
兵向尊化於調濟鈴束之道未能謀求衆兵每多  
不服誠恐日久滋生事端不可不防其漸等語所  
奏是苗疆地方全在文武各官認真整頓庶幾間  
閭安堵邊隅綏靖著該撫於到任後留心密查如  
果該鎮道撫取失宜養成驕悍以致激生事端即  
行據實嚴奏毋稍徇隱將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

300 道光十六年三月初五日奉

旨官犯齊重義前因瘋病傷人斃命照例監禁茲據  
刑部查明該犯自道光十年監禁以來瘋病並未  
舉發在監安靜齊重義著加恩釋放交伊父齊慎  
嚴加管束毋許出外滋生事端欽此

301 道光十六年三月初五日奉

旨馬甲玉維升既經刑部訊明並非著倉兵丁亦無

見人扛米及接賊情弊所有該縣都統將親王綿  
惟昔奏請處分均著無庸議欽此

302 道光十六年三月初五日內閣奉

上諭楊名醒奏揀員升補南山要缺直隸州知州一  
摺著照所請陝西高州直隸州知州員缺准其以  
胡興仁升補照例送部併案引見該部知道欽此

303 道光十六年三月初五日內閣奉

上諭奕經等奏現應補缺人員核往送部請另行補  
放一摺著照所請所有

福陟副內管領一缺准其於

昭陵內管領下恭履香澄人內揀選正陪送京引見候  
旨補放其前經記名雙喜著候定奏時奏明辦理  
餘依議欽此

304 軍機大臣 字寄

安徽巡撫色 道光十六年三月初六日奉

上諭有人奏風聞安徽鳳陽關已攬客商納稅之人

疏

名曰鈔戶有張未安李振興張號望牛祥集斗九  
戴李鼎威等名稱並不知姓名者共十餘家鈔戶  
勾通監督家丁書役無論何項貨物並不按照稅  
例分利科則一概丈量任意高下既不令商人親  
填印簿並不給發印單有不投鈔戶納稅者執行多  
方勒索百計百難商人之投賄者暗與勾通巧為  
偷漏謹厚者受其箝制莫可如何近年未鳳陽關  
稅課亦有虧賠但知歸咎於年成歉薄商販不前  
不知半由於鈔戶把持奸徒中飽印簿既不親填  
稅單又不給發徵多報少無可稽查者差鈔戶色  
庇分肥互相固結年復一年必至虧賠盈鉅等語  
各關稅課定例蕞蕞原以裕課通商若如所奏種  
種弊端以致商民裹足稅課短絀必應嚴行查禁著  
色上呈額領令該關照例懸掛木榜商人自行投  
稅親填印簿給與收稅印單收執如有鈔戶包納  
書役不給印單等弊立即嚴拿究辦不許少有徇  
縱以裕稅課而懲奸索將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

305 道光十六年三月初六日內閣奉

上諭陶澍等奏都巡知縣杜牛未到請開缺另補一摺江蘇江浦縣知縣徐玉潤新選已闕一年之久尚未到任着即開缺仍查明該員遲延是否有因私徇徇理所有江浦縣一缺准其留於該省於應補人員內另行揀補該部知道欽此

306 道光十六年三月初六日內閣奉

上諭陶澍等奏籌辦通漕要道修築堤壩開庄以資利益一摺江蘇鎮江為漕運咽喉每遇江湖低窪積潦倍勞茲據該督等查明道光十四年修築練湖蓄水減水諸壩軍船南行頗著成效茲復查該湖下游淤塞復一湖為清淤船運要津遂上溜旁漸平宜將該岡行建此處改為正閘起閘兩座轉拱尤宜並新築攔壩一道俾此河照常行船俟越閘工竣再拆去壩圍以建正閘該督等即着飭印委各員陸續興挑常川駐工稽查務使逐一覈實迅速農事工竣分別驗收此項工程均係捐辦者免其造冊報銷餘着照所議辦理該部知道欽此

307 道光十六年三月初六日內閣奉

上諭秉毓奏東省開壩引渠土石等工擇要分別估修一摺山東運河捕上泉五廳開壩引渠土石等工有關運道蓄洩機宜據該河督查明運河屬汶鉅二汛運河東岸蜀山湖汶字一號及嘉字十二至二十八等號碎石隄工最為險要者六段又該廳汶上汛南旺湖劉賢張全成進斗門三座年久未修劉賢或進斗門引渠二道並三斗門斷折橋樑板塊一併添換等工又該廳濟寧州汛運河東岸濟字二十號至四十六號官隄十五段又沁河廳屬沛汛運河東岸戚城南門馬頭一帶碎石隄工六段又該廳沛汛呂壩三孔橋引渠一道又滕汛彭口山河對岸棠沙引渠一道分別挑挖共工十段又該廳峒汛六里石閘月河一道又滕汛西岸朱莊莊馬令工都山尚等減閘引渠三道均應挑挖深通又捕河廳屬東平魯東等汛運河東岸官隄五段又上河廳屬堂博汛運河東岸魏壩上減水閘一座搭橋築壩挑渠等工又該廳聊城堂博二汛運河東西兩岸應修官隄六段又泉

河廳屬東平州汎汶河西岸戴村石壩一道碎石  
坦坡等工以上十案共估需工料銀四萬八千五  
百四十餘兩均係必不可緩之工著照所請准其  
在於山東司庫照數撥運河道分別歸款發該  
河督即督飭該道嚴飭各廳照估趕辦工竣覈實  
驗收如有草率偷減據實嚴奏該部知道欽此

308 道光十六年三月初六日內閣奉

上諭著派湯全釗文慶馳驛前往四川查辦事件所  
有隨帶司員著一併馳驛欽此

309 道光十六年三月初六日內閣奉

上諭昨步軍統領衙門帶領引見揀選都司擬正之  
南營守備張開禹不能射著<sup>步軍統領衙門</sup>降為千總候補步  
軍統領及左右翼兵均著交部議處欽此

310 道光十六年三月初六日內閣奉

上諭富呢揚阿奏革弁効力期滿一招發發<sup>等</sup>共釋  
回欽此

311 道光十六年三月初七日內閣奉  
上諭吳傑現在入關工部右侍郎兼管錢法堂事務  
著交部議處欽此

312 今日內閣奉

上諭湯全釗文慶現在出差吏部尚書著何汝漢  
著戶部右侍郎兼管錢法堂事務著吳傑署理欽  
此

313 今日內閣奉

上諭吏部右侍郎龔守正出差之缺著卓秉恬署  
欽此

314 道光十六年三月初七日內閣奉

上諭著吳傑現在給假戶部尚書著文孚暫行兼署步  
軍統領著桂輪暫行護理欽此

315 道光十六年三月初七日奉

旨此案著交楊名麗親提人證卷宗東公履審按律  
定擬具奏抱告姚繼霖該部照例解往備質欽此



316 道光十六年三月初七日奉

旨賀隴根著交刑部嚴行審訊欽此

317

奏為請例恭

臣 潘世恩等跪

聞奉 諭旨 軍機處錄存 稽案 歷年 隨帶 行走 稽閱 按

損閱 遇 雨水 之時 潮氣 浸濕 均所 不免 節經

奏請 另錄 一分 收貯 備查 並經

奉明 每隔 五年 辦理 一次 在案 查 道光 十一年

奏請 將 道光 六年 至 十年 稽冊 繕修 距今 又 屆 五

年 所有 道光 十一年 起 至 十五年 止 欽奉

上諭 寄信 該處 各漢 字清 稽應 請即 行結 錄 一分 另

備檢 查並 請照 例遞 派內 閣中 書在 於方 略館

親自 繕寫 責令 認真 覈對 派方 略館 供事 在彼

承值 一切 給發 筆墨 等項 均照 向例 行文 各處

恭取 其從 前年 稽冊 缺誤 繁多 逾年 來因 各

館辦 書卷 取閱 亦不 無舛 差訛 脫之 虞並 即

責令 比次 派出 稽寫 校對 之中 書覆 加詳 校修

理整 齊以 期一 律完 善如 果辦 理妥 協再 查照

向例

奏請 欽此 兩理 合奏

聞伏乞

皇上 聖鑒 謹

奏

道光十六年三月初七日奉

旨依議欽此

臣 潘世恩 聞

臣 穆彰 勳

臣 王 鼎 聞

臣 趙 盛 奎 呈

臣 賽 尚 阿

318 查內閣學士王植現在入閣在閣僅有朱嶧一

人不敷批本臣等謹開列銜名請

旨簡派一二人協同批本謹

奏

319 〇 詹事府少詹事蔣立鏞

翰林院侍讀學士祝慶蕃

○侍講學士侯桐

李煜

周祖培

320 軍機大臣 字寄

湖廣總督詢 湖南巡撫裕 道光十六年三

月初八日奉

上諭詢爾經額奏湖南衡陽縣縣丞朱起豫因負欠被控不守官箴經該督撫等於大計業內填註不謹案問題參茲據該員稟稱負欠之由實因巡撫姪發解費所致並騷列巡撫應撤不撤應參不參等十款呈請奏辦等語朱起豫以佐雜微員膽敢於被參後扶架詞強列多款訐控封疆大吏迨經提訊又復牽扯多人難保非意圖挾制惟既經列控虛實均應確切查明據實參辦著詢爾經額密奉親提人證卷宗將該員所指各情節逐一確查秉公研鞠務得切實憑據不得存官官相護之見稍事含混尤不得同吳榮光案經另案降調意存消弭致有不實不盡將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

321 道光十六年三月初八日內閣奉

上諭詢爾經額奏楚省武職委用之員請抹發遊擊二員都司二員以資差委一摺著兵部於候補候選人員內照例揀選帶領引見候旨發往欽此

322 道光十六年三月初八日內閣奉

上諭兵文館著仍留順天學政之任欽此

323 道光十六年三月初九日內閣奉

上諭嗣後凡遇應書

冒陵

恕妃衙門著書作

和裕皇貴妃園寢龍泉峪平貴人園寢著書作龍泉峪妃園寢並著禮部通行各該處一體遵行欽

此

324 道光十六年三月初九日奉

旨杜巧准其開缺調理卓未恬著調補禮部左侍郎所遺禮部右侍郎著陳官後補授欽此

325 道光十六年三月初九日奉

旨永福寺天王殿葺葺工程著派阿爾邦阿承辦欽此

專交內務府

326 道光十六年三月初九日內閣奉

上諭翰林院修撰吳鍾駿著在上書房行走授侍講瑞郡王奕總請欽此

327 軍機大臣 字寄

湖廣總督訥 湖南巡撫裕 道光十六年三月初十日奉

上諭裕奏奏行抵沅州探聞武岡滋事首逆藍正構甫經起事即被官兵斬獲多人餘即退散並未致傷官兵亦未搶掠村莊擾及百姓現既被追逃散不難按名搜捕立就肅清所調官兵足資剿堵其鎮守兵丁一千名練勇四百名除前起五百名業經起行外未起行者已飭該道暫令停留等語所見是此等烏合匪徒一經官兵搜捕立即蕩事

九二

不值重煩兵力松泰著仍遵前旨即在湖南省城接印任事替同藩司調撥糧餉妥善料理無庸前往剿辦又另片奏鎮守鎮總兵向尊化聲名平常衆兵積怨先行嚴懲以服衆心等語該鎮兵練衆衆滋鬧前經訥兩經額侯武岡剿捕竣事後再赴該處查辦該撫即會同該督將向尊化如何辦理不善並此項兵練因何起畔之虛確切體訪分別曲直無論在官在兵一併嚴行查辦毋稍寬縱將此各諭令知之欽此遵

寄信前來

328 道光十六年三月初十日內閣奉

上諭吳椿等奏海塘大工全行完竣一摺浙江海塘捍禦湖汊為下游七郡田廬保障前因南沙中豆逼湖北起險工疊出經富呢揚阿奏請撥款先後簡派趙咸全嚴娘烏爾恭額敬徵吳椿等前往會勘並令吳椿留於該省會同烏爾恭額督辦各工茲據吳椿等奏稱自道光十四年八月開工至道

光十六年二月工程完竣統計修築各工共一萬七千餘丈動用工料銀共一百五十七萬二千餘兩英椿等親往驗收俱係整齊鞏固並無草率偷減情弊數十年來未修之工得以同時竣事辦理高為迅速所有承辦督催各負著英椿等擇其尤為出力者酌量保奏候朕施恩毋許冒濫此項工需共計撥銀一百九十一萬八千六百餘兩除動用外尚餘銀七萬二千餘兩著該部批用又節省存銀二十七萬四千餘兩著准其留為改修坦水及發商生息豫備修塘之用該部知道欽此

329 道光十六年三月初十日內閣奉

上諭御史王榮奏教會銅廠已深請設法採訪稽查一摺會匪創立名目習教傳徒敬發惑眾迨至聚集既久容相構煽往往滋生事端疊經隨案查拿仗嚴懲辦而根株未斷萌孽潛滋總由地方官不能先事豫防留心稽察甚或訪有蹤跡復任令奸胥蠹役挨戶搜查攫取財物不遂所欲即以邪教指等治罪而正犯轉得聞風脫逃不可不熟籌善

法以彰邪惡而安善良著五省各督撫等嚴飭所屬地方官實力奉行保甲之法認真編查分別良莠其衙門胥役派令按鄉輪查者務當嚴加約束僅散藉端恣索濫及無辜立即重治其罪同職佐貳各官如有公事認真者准其帶同胥役隨時採訪一有匪徒蹤跡立時密稟訪拿庶訊兵地保不致畏葸諱匿而查訪可收實效至所稱各學諸生訪有匪徒萌動准令密稟教官隨時查拿等語諸生散處鄉莊果能確有見聞據實稟報當從嚴懲辦毋稍寬貸但該生等賢否不一倘有刁生劣莖挾嫌誣陷等弊該教官一經鬆聽轉遞其藉端滋擾之私亦不可不防其漸至地方紳耆各知保護身家如有匪徒原許密稟州縣訪查妥辦惟不得任令該紳耆等藉此干預公事地方官亦不准動以公事傳喚致滋擾累庶查察愈周而匪徒無所隱遁於除莠安良之道方有裨益將此通諭知之欽此

330 道光十六年三月初十日內閣奉

上諭給事中富彰等奏棘牆官弁兵役玩延不到

一指著都察院步軍統領衙門查明據實奏奉欽此

331 軍機大臣 字寄

盛京將軍奕 兼管奉天府府尹德 府尹圖

道光十六年三月十一日奉

上諭據鍾祥奏山東登萊等府糧食不敷向賴奉天接濟現准奉天省咨稱因商販出口較多糧價增昂奏明止准販運粳稗等項雜糧至高梁粟米包米三項均暫停運惟查東上秋歉收麥熟尚速若將粟米三項停運民間實虞乏食請查照道光二年成案於所停三項內將高粱一項免其停運以資接濟等語山東歉收各區待食孔亟著該將軍等體察現在情形應否如該撫所請將高粱一項准其照常販運俾該省青黃不接之時無虞乏食

殊

音寄信前來

如字寄可行即一面據該省一面  
稽即確切查明據實具奏將此諭令知之欽此遵

332 道光十六年三月十一日內閣奉

上諭琦善奏藩庫交代額數展限一指直隸藩庫款目繁多現當趕辦奏銷一時未能照額所有該署藩司陳崇禮交代限期著照例展竣兩月俾得逐款勾稽以昭慎重該部知道欽此

333 道光十六年三月十一日內閣奉

上諭鍾祥奏請將教諭革職等語山東兗州府滕縣教諭王廷碩上年大計以哀庸被劾休致乃敢捏減年歲混行具稟冀復原官實屬妄為王廷碩著即革職該部知道欽此

334 道光十六年三月十二日奉

旨著英桂翰聯順均著加恩改為降二級留任不准抵銷欽此

335 道光十六年三月十二日內閣奉

上諭本日據吏部題請將失察傳習道教之直隸前署獻縣知縣歐聲振前任獻縣知縣候選知州張

翔均照例議以降一級調用該負等任內俱無級紀抵銷均應於補官日降級調用朕詳閱案由張翔前在獻縣任內等稟首送馮克善著有微勞其夫察尹老項倡立邪教及王賢等傳習道教僅止二案張翔著該部帶領引見再降諭旨至歐聲振前在直隸州縣任內兩次那移庫銀委審案件未能究出實情且夫察趙思名等習教觸錢李士功等茹素誦經非止一案屢獲獲咎今復因前署獻縣任內夫察民人王賢等傳習道教部議降一級調用實屬咎所應得歐聲振著即照所降之級調用欽此

336 軍機大臣 字寄

山東巡撫鍾 道光十六年三月十三日奉

上諭光祿寺少卿梁芳涵奏山東登州府地居海濱山多四少上年秋收歉薄現當青黃不接之時無業貧民率皆乞食於外魚有萊州府屬進荒流民擁雜其中以無限之窮民待哺於有限之富戶其勢斷不能給自去冬以來各屬干糶勘捐同時並

舉但干糶之制及次貧若極貧饑民仍不能沾救實惠至勘捐數目各屬多少懸殊其捐輸較少者錢粟不充賑恤實難得力請飭下該撫轉飭登州府屬各州縣酌量饑民多少或每縣發倉數一十石或數百石遠開飯廠妥施賑濟並飭設法募勸紳於富戶等竭力捐輸錢粟以助官賑務期忠及窮黎等語上年登州府屬歉收節絀旨飭令該撫妥為籌計茲據該少卿奏此時麥收尚遠仍當設法接濟著該撫再行體察情形悉心籌畫總期民食有資各安本業無使一夫失所以副朕軫懷民瘼之意又據另片奏山東登萊二所向積奉天高梁粟米乞米三項糧石以為接濟徐復州海口現存販運外其金州蓋州牛莊各海口高梁粟米乞米三項請仍准照常販運等語奉天省暨停糧運之後該目鍾祥奏請將高梁一項免其停運當降旨飭令職軍將軍與經等體察該省情形如事屬可行即一面將高梁一項運銷照常販運一面據實具奏應俟該將軍奏報到時酌定辦理將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

337 道光十六年三月十三日內閣奉

上諭吳椿等奏海塘完工屢進

神祝一招此次興辦海塘大工地處頂衝形俱險要  
開工以來南湖湖湧工役節節堪虞吳椿等率  
在工各員前赴近塘各廟誠求默禱東南風色迭  
轉西北全塘藉得平穩此皆仰邀

神庇靈異屢昭覽奏欣感茲特親書扁額五方發交  
該撫等祇領卽虔詣各處

廟中敬設懸柱用酬

靈貺而肅觀瞻欽此

338 道光十六年三月十三日內閣奉

上諭程祖洛等奏請暫留藩司覈辦計典一招福建  
藩司賀長齡於本年正月調任直隸之後旋經升  
授資州巡撫著於交卸後卽行來京陛見再赴新  
任夙來由臬司升授未省藩司所有該省應辦計  
典卽著夙來接辦以專責成欽此

339 道光十六年三月十三日奉

旨刑部現行律例並無旗民結婚作何辦理專條戶

部則例載有民人之女准與旗人聯姻一體給與  
恩賞銀兩旗人之女不准與民人為妻亦無並無  
違者作何治罪明文此案陳氏將次女許給高  
緯保為妻業經聘定著准其完配嗣後應如何明  
定條例著戶部妥議具奏欽此

340 道光十六年三月十三日內閣奉

上諭前梅給事中富彰等奏林福官弁兵役玩延不  
到當降旨交都察院步軍統領衙門查明據實參  
奏茲據各該衙門查明輪值之正指揮及正備弁  
兵等曠誤屬實科場大典例派弁兵役查夜巡  
查所以防傳遞而昭慎重况上年前經嚴定章程  
之後尤宜倍加勤慎以杜弊端乃該弁等並不  
實力巡查致有曠誤實屬怠玩非城正指揮孫德  
涵著交部嚴加議處曠誤弁兵業經由該衙門分  
別責帶所有倉差不慎各營實俱著交部議處以  
示懲儆欽此

341 道光十六年三月十三日奉

旨此案著交鍾祥親提人摺卷宗秉公嚴審按律定擬具奏抱吉馬應順該部照例解往備質欽此

342 本月十二日兵部將保舉塔勝陸路總兵之湖

廣督標中軍副將佛祥帶領引

見奉

旨交軍機處記名

343 軍機大臣 字寄

湖廣總督詢 候補四品京堂吳 道光十六

年三月十四日奉

上諭本日吳榮光由驛馳奏接奉諭旨留楚會辦逆匪及鎮筸兵勇滋事各案前因武岡州賊匪聚眾滋事曾降旨留吳榮光會同辦理嗣經剿辦現已掃除巢穴解散羽黨自可即日肅清著將副經額嚴飭提拏首逆藍正得務獲斷不容伴逃法網其鎮筸鎮兵勇滋事一案亦著該督於查辦武岡餘匪事竣後前赴該處澈底嚴查秉公懲辦毋稍贖

項吳榮光接奉此旨即行來京候補無庸會同辦理將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

344 軍機大臣 字寄

湖廣總督詢 道光十六年三月十五日奉

上諭本日詢副經額由驛馳奏拏獲武岡州滋事匪犯研審逆情並現在辦理情形此案上年十一月有武岡州監生潘明德等習教為匪經該督與前任巡撫吳榮光訪聞督飭拏獲潘明德等十九名解省審辦旋據該州藍獲匪犯夏有恒等訊知逆情並交出逆裔得以先事防禦固守城垣該督等既於上年十一月間先有訪聞早應設法查拏消患未萌何以直至二月初六日賊匪臨城始為要城自守之計其中情節顯屬可疑著將副經額再行訪查據實具奏毋許一詞支飾現在該處是否實無從逆餘匪著一併查明具奏拏獲革革兵互連三串通賊匪情尤可惡著即畫法懲治以彰國憲逆書內有指斥地方官役之語訊問該首逆藍正



樽平素好訟曾有與伊族人藍年餘等控索官斷未遂其意是以指斥洩忿等語著詢爾經頭確切訪查如果該地方官實係控斷不公以致釀成事端即著從嚴參辦該督不符體例情面有意為地方官開脫處分如稍涉徇隱將來別經發覺朕惟該督是問將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

345 軍機大臣 字寄

四川總督鄂 道光十五年三月十五日奉

上諭本日據納爾經額奏等獲武岡州滋事匪徒訊據索犯僧白松等供稱向習青蓮教喚齊拜龍華懺誦其青蓮教無何人倡立據稱自四川傳來不知德自何人又訊據投遞送君要犯鄧託佐供稱係湖南新化縣人於嘉慶十二年間因其叔鄧鳳舉寄居四川內江縣貿易該犯即前任同居由寄籍應試取進文生十二年二月告遊學回至新化此後未曾起四川處考各等語邪教展轉煽惑最為區俗人心害該犯等既供稱傳自四川是否果

有習教黨羽匪跡潛形自應搜捕以淨根株要犯鄧託佐既在四川入學其叔鄧鳳舉寄居內江縣貿易現在是否實有其人其平日有無黨羽及不法情事著鄂山迅速嚴密查明一併據實具將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

346 道光十六年三月十五日內閣奉

上諭伊里布等奏請鼓勵雇員一摺雲南前署蒙自縣知縣王慶管理金釵銅廠一年之內額外多辦銅一百二萬餘觔尚屬奮勉出力自應量予恩施王慶著以應升之缺升用以示鼓勵該部知道欽此

347 道光十六年三月十五日內閣奉

上諭裕泰奏揀員升署要缺知縣一摺著照所請貴州威寧州知州員缺准其以孫承祖升署照例送部引見俟扣滿歷俸年限再請實授該部知道欽此

348 軍機大臣 字寄

閩浙總督程 道光十六年三月十六日奉  
上諭有人奏兩浙鹽務日久滋弊近有松所總商祝  
逢吉即祝德風串通引商周朗夫汪大鎬等把持  
鹽務始於松所八地巧立名目如甲商副廳並掣  
枝掣停及不援引不報多斤不計于鹽等項勒派  
衆商自一二百兩至七八百兩不等以致商力日  
疲該總商串通庫丁傾庫銀六萬兩託名開銷前  
經奉旨駁斥仍復侵吞入己勒令衆商扣還道光  
十四年浙江省奏運鹽該總商浮開各費數萬  
兩經運司查駁嚴追至今僅繳銀數千兩其解運  
京餉統計逐年所領庫款不下數十萬兩之多現立  
善補名目勒令衆商名下每引扣銀三錢以爲彌  
補地步運解京餉另立章程串通書吏膠混換稿  
經該撫查出僅將書吏革役仍未究辦上年有商  
人金肇新等呈控各弊該撫懸牌批示飭司按款  
確查詳奪復於次日改批駁斥等語案關總商執  
法營私通同作弊如果屬實於鹽務大有關係不  
可不嚴行查辦著該督遠派妥幹道府大員前赴

該處將內指各款逐加體訪確切根究按律嚴行  
懲辦不得意存消弭致有不實不盡將此諭令知  
之欽此遵  
旨寄信前來

349 道光十六年三月十六日內閣奉

上諭鍾祥奏違負請調要缺知縣一摺著照所請山  
東長清縣知縣員缺准其以史翰調補該部知道  
欽此

350 道光十六年三月十六日內閣奉

上諭鍾祥奏請將非法毆斃民命之知縣革職等因  
一摺山東海陽縣知縣鄧聲嘉經理平糶不協並  
因民人與書役爭角板將民人高志仔等毆傷致  
兇實屬非法鄧聲嘉著即革職等因交該撫提同  
人捏卷宗嚴密確情按律定擬具奏該部知道欽  
此

351 道光十六年三月十七日內閣奉

上諭中放賢奏試用佐雜人負竊擄請暫停分發一

指所有捐納地方鹽務各項收雜人員均着暫停  
分發山西候數年後查明何項人少再行分別奉  
請部掣分發該部知道欽此

352 道光十六年三月十七日內閣奉

上諭中政賢奏請緩徵倉穀一摺山西山西陰等十州  
縣民借常平倉穀州廳後運據該撫查明各該州  
縣現倉青黃不接之時糧價增長民力未能充裕  
自係實在情形所有山西陰陽道光十二年民借常  
平倉穀三千石朔州道光十二年民借未完常平  
倉穀三千四百五十九石零十三年民借未完常  
平倉穀二千八十二石零十四年民借未完常平  
倉穀凡百五十九石零定襄縣道光十三年民借  
未完常平倉穀一千三百二十八石零河曲縣道  
光十三年民借未完常平倉穀一千三百七十三  
石周臺縣道光十五年民借常平倉穀三千八百  
十四石零高平縣民借常平倉穀四千石陽城縣  
民借常平倉穀一千四百九十石沁水縣民借常  
平倉穀三千石解州並所屬之夏縣各有民借倉

穀二千石俱着加恩類至道光十六年秋復獲收  
運倉以紓民力該撫卽刊刻歷黃編行曉諭務使  
實惠及民毋任吏胥舞弊用副展於倉數區至意  
該部知道欽此

353 道光十六年三月十七日內閣奉

上諭中政賢奏請借項修理兵房一摺山西太原駐  
防滿洲營原設兵房八百九十八間續建房屋九  
百二十間據該撫委員勘明屋宇墻垣均有坍塌  
添漏懇請照案借項修理加恩著照所請准其備  
給該營領催兵丁一年餉銀一萬四千四百四十  
八兩俾及時修葺以資棲止所借餉銀着於藩庫  
存貯道光十五年耗羨銀內如數動給仍在該領  
催兵丁應得餉銀內分作八年扣還歸款該撫卽  
飭該城守尉認真查核務令一律修整毋任草率  
虛糜該部知道欽此

354 道光十六年三月十七日內閣奉

上諭德興等奏請核發滿洲知縣一員漢知縣一員

飭赴奉天差委著吏部於曾經外任之候補人員內揀選引見候旨發往欽此

355 道光十六年三月十七日內閣奉

上諭德興等奏請遣員升補海鹽要缺通判一摺著照所請奉天岫巖鳳城海防通判員缺准其以富顯升補照例送部引見該部知道欽此

356 道光十六年三月十七日內閣奉

上諭德興等奏請將舊貯穀石分年易換新糧一摺著戶部議奏欽此

357 道光十六年三月十七日內閣奉

上諭何凌漢等奏請揀員升署沿河要缺知縣一摺著照所請順天府屬東安縣知縣員缺准其以鄭啓新升署照例送部引見該部知道欽此

358 道光十六年三月十七日內閣奉

上諭容恩奏穿窬盜砍紅梅界內樹株賊犯請解部

審辦一摺此案賊犯索坤等膽敢疊次偷砍紅梅界內樹株實屬藐法索坤等八犯同買贓之從回子即從安均著解交刑部審辦該管鎮羅閣把總王鈞廉轄都司呈祥失察所管地方樹株被竊准一經查見即據實稟報又隨同獲賊過手兼獲盜首及買贓人犯功過尚足相抵所有王鈞呈祥應得失察處分著如恩寬免把總徐林派委緝拏賊犯勤能出力著賞加千總銜以示獎勵逸犯張淦得等仍著嚴拿務獲歸案審辦餘著照所議辦理欽此

359 軍機大臣 字寄

河南巡撫桂 道光十六年三月十八日奉

上諭據都察院奏河南息縣民人臧豹變呈控朋謀詐贓官役樊嵩一案已明降諭旨吏桂良審辦矣此案據該民人供稱兗州州判費升因訟棍劉添錫等唆令支義棍控伊弟漢古變等拉搶牛隻即行稟差差役馬玉柱等將伊叔減全節等鎖押班房詐索伊叔大錢六千伊叔未允該州判復帶

領馬玉柱等約有一百餘人各持大刀聲稱捉拿臧吉突即將莊房燒燬六間衣服糧物盡行搶去疊控臬司巡撫批州審訊該知州將臧吉突嚴押等語臬司聞官役串通訟棍勒索不遂肆行兇搶必須嚴行究著杜貞即提全案人證卷宗將該民人所控各情節逐加確訊務得實情不可意存消弭致有不實不盡將此諭令知之欽此遵

音寄信前來

360 軍機大臣·字寄

山西巡撫申 道光十六年三月十八日奉

上諭前據步軍統領衙門奏等獲欲行叩關之山西民人賀隴根富有旨文刑部嚴行審訊茲據該部奏訊據賀隴根即賀金印供稱伊係山西文水縣人因上年五六月間該縣峪口地方發水民無食用聞過路不識姓名人傳說見有形跡可疑之人在該處未往恐係曹順餘黨乘突引誘饑民滋事本年青黃不接之時難免滋生事端起意來京報知迨詰以曹順餘黨並現在被誘各犯姓名必有

音寄信前來

361 軍機大臣·字寄

山西巡撫申 道光十六年三月十八日奉

上諭據都察院奏山西垣曲縣民人劉吉慶來京具控滋派勒折抗提一案已明降諭旨交申啓賢審辦矣此案據該民人供稱垣曲縣前任知縣彭新任知縣朱受書役慫恿凡署中應用一切木料及喂馬草束祭祀雞兔並修葺土坯等項俱係派累民間人復高桂時價勒折錢文其還倉穀石每石

加托一斗勒折錢三十餘文該民人等屢控上司批飭訊究屢提屢抗奇勒吏甚等語業關官役濫派勒折必應嚴切究辦著申督賢即將該民人所控情節親提該縣書役人等確切根究如果屬實即行嚴懲懲辦無稍徇縱將此諭令知之欽此遵  
音字信前來

362 道光十六年三月十八日內閣奉

上諭滿錫恩奏考試策題錯誤一摺著禮部查明具奏欽此

363 道光十六年三月十八日奉

旨賀隴根著解往山西交申應賢嚴行審訊定擬具奏欽此

364 道光十六年三月十八日內閣奉

旨此案著交申啟賢親提人證卷宗東公審訊按律定擬具奏原告劉吉慶該部照例解往備質欽此

365 道光十六年三月十八日奉

旨此案著交桂良親提人證卷宗東公審訊按律定擬具奏原告張豹變該部照例解往備質欽此

366 道光十六年三月十九日內閣奉

上諭朕本日恭閱乾隆三十七年

皇祖高宗純皇帝實錄內載內外各衙門題奏咨行事件凡遇滿洲蒙古人地名應譯對漢字者往往任意書寫並不合清文蒙古文本音因而舛誤鄙俚之字不一而足於體制殊為未協著交軍機大臣依圖書十二字項酌定對音兼寫清漢字樣刊成簡明篇目頒行中外大小衙門俾各遵守欽此

聖訓煌煌允宜永遠恪遵近來內外各衙門疏筆叢牘於滿洲蒙古人地名清漢對音之字間有參差未能畫一自係奉行日久練習漸疎以致臨文書寫多有舛誤著交英殿即將清漢對音字式一書再行刷印頒發中外大小衙門嗣後遇有滿洲蒙古人地名對音之字一體遵照定式查照填寫不得仍前舛誤以歸畫一而昭法守欽此

367 道光十六年三月十九日奉

旨鍾靈著留任一年欽此

368 道光十六年三月二十日內閣奉

上諭西寧辦事大臣著德榜額補授西寧鎮總兵員缺著富興阿調補兩道山東兗州鎮總兵員缺著永孔阿補授欽此

369 道光十六年三月二十一日內閣奉

上諭烏爾恭額奏參署事通判一摺此案民人錢同甫既未置罵官長該署通判丁廷鈺執行帶訊如責已屬擅受濫刑且關防存貯署內何至遽行失去其中顯有不實不盡必應澈底根究以成信數著嘉興府通判候補布政司庫大使丁廷鈺著革職交該撫提案嚴密核實懲辦欽此

370 道光十六年三月二十一日奉

旨此案著文桂良督同臬司楊振麟親提入卷卷宗秉公嚴審按律定擬具奏原告王榮世請部照例解往備質欽此

371 道光十六年三月二十一日奉

旨此次宗室會試中式貢生著於本月二十四日在圓明園正大光明殿覆試欽此

硃

372 二十四日宗室覆試

373 軍機大臣 字寄

湖廣總督 道光十六年三月二十二日奉

上諭前據納爾經額奏湖南衡陽縣丞朱起豫因大計案內被劾臚列前任巡撫十款呈請奏辦當降旨交納爾經額裕泰將該參員所指各情節逐一確查秉公研鞫吳榮光著暫緩來京俟此案辦理完竣再行回京候補將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

374 道光十六年三月二十二日內閣奉

上諭湖南鎮軍鎮總兵員缺著楊芳補授無庸請訓即赴新任楊芳未到任以前鎮軍鎮總兵即著沈州協副將福珠洪阿署理欽此

375 道光十六年三月二十二日奉

旨前據潘錫恩奏考試策題錯誤當旨著禮部查明兵部核議部查明本年會試策題第一問內郭康成說詩景負維河之為何本釋文一條係屬錯誤朕詳閱本年進呈策題此外尚有舛錯之處該考官等引據未能精當實屬粗心潘世恩王鼎吳傑王植均著交部議處欽此

376 道光十六年三月二十二日內閣奉

上諭琦善奏揀員升補竊然知縣一摺著照所請順天府大興縣知縣員缺准其以陳道隆升補懇例送部引見該部知道欽此

377 道光十六年三月二十二日內閣奉

上諭琦善奏都司訓練無方請旨降補等語新雄營都司尚政濶著即以守備降補歸部銓選該部知道欽此

378 道光十六年三月二十二日內閣奉

上諭訥爾經額奏鎮道駕取無方請革職當辦一摺

所奏甚是據奏前據鎮軍鎮總兵向善化辰況靖道常慶稟稱兵勇人等因求餉緩首備行裝銀兩已罄給令聽候酌辦何以並不詳稟稱符已未出即兵勇一併借給銀兩數至五千累萬明陳旗鎮道平日駕駛無方以致兵勇聚眾挾制事役餉項稟報所給銀兩自未必盡出已責顯有邪移糜項情事必應澈底履查據實稟辦至該道常慶先經該督密飭確查嗣據稟稱向善化氣性暴烈兵丁遇有小過草草甚多人心不服等語該道如果能得兵心何聚眾挾制轉由道糧練勇而起乃先既不善約束雖則畏葸苟且復又諱飾担稟是與庫劣不職厥各等語均向善化常慶俱著先行革職交該督確查起辦並詳實情並飭履察首犯各犯務獲來公究辦按律定擬具奏欽此

379 道光十六年三月二十二日內閣奉

上諭惠吉奏調補者會無疑知縣一摺著照所請廣西臨桂縣知縣員缺准其以何觀調補該部知道欽此



380 道光十六年三月二十二日內閣奉

上諭惠吉奏本控受濫刑免命之典史請革職審辦一摺廣西賀縣典史田承澍於縣民沈老六因欠帳被控一案執行違例擅受復因縣民龍克瓊保領沈老六避匿不到將龍克瓊杖責免命難保無辜前不法情事必應澈底根究以成信讞田承澍著革職交該縣提票嚴審據實懲辦欽此

381 道光十二年壬辰

恩科宗室會試

欽命四書詩題

君子易事而難說也說之不以道不說也

試得成豐仍節儉得戊字五言八韻

道光十四年癸巳科宗室會試

欽命四書詩題

子曰君子易事而難說也說之不以道不說也

及其使人也路之

賦得天降時雨得甘字五言八韻

道光十五年乙未科宗室會試

欽命四書詩題

庶民去之君子存之

賦得春雷發宿雷得豐字五言八韻

本年丙申

恩科宗室會試

欽命四書詩題

居茨恭執事歌

賦得小樓一夜聽春雨得春字五言八韻

382 道光十二年壬辰

恩科宗室會試覆試

欽命四書詩題

碩夫廉懦夫有立志

試得數聲啼鳥半池烟得相字五言八韻

道光十三年癸巳科宗室會試覆試

欽命四書詩題

子曰君子欲訥於言而敏於行

賦得芙蓉始發池得池字五言八韻

道光十五年乙未科宗室會試覆試

欽命四書詩題

人之有是四端也猶其有四體也

賦得春寒花較遲 得通字五言八韻

383 道光十六年三月二十三日內閣奉

上諭雲南雲南府知府賈英緊要著該督撫於道者  
知府內揀員調補所遺賈英著富通補授欽此

384 道光十六年三月二十三日內閣奉

上諭廣東潮州府知府賈英著易中孚補授欽此  
所遺賈英著倪良曜補授其所遺之缺著王德寬補  
授

此等事

385 道光十六年三月二十三日內閣奉

上諭鄂廷積等奏要缺知府人地未宜請撤回另補  
一摺廣東潮州府知府賈英著辦事尚無貽誤  
惟才具未能開展於要缺知府殊難得力著撤回  
留于本省遇有相當缺出另行補用該部知道欽  
此

386 道光十六年三月二十三日內閣奉

上諭色卜星額奏省勦捐辦城垣河渠各工完竣願  
懇獎勵一摺安徽潁州府屬亳州為該府邊境要  
地城垣河渠均關緊要該撫該撫奏稱該州知州  
龔裕勳於城垣工竣率與辦現已城垣修繕修理完  
完河渠深遠如天深遠該員尚屬奮勉克己自  
應量加鼓勵龔裕勳著以鹿升之缺儘先升用亳州  
城守汛千總王國彰州同楊兆龍美門巡檢朱清  
史日沈賜榮該員著著有功勞均著交部從優  
議叙其捐銀四百兩之生員程鍾釗民人王如新  
劉萬拉均著交部照例議叙此項工程著先其造  
冊報銷餘著照所擬辦理該部知道欽此

387 道光十六年三月二十三日奉

上諭鄂廷積等奏願保規避委令之安徽舒城縣  
知縣吳良任於田氏丁溪源等與民人查舉隴善  
殿範人命重案詳報據該縣保規避家不著先行  
革職交該縣提回犯證嚴審定擬這犯丁溪源等  
著嚴拿務獲務期水落石出以成信讞欽此

388 道光十六年三月二十三日內閣奉

上諭桂良奏揀補要缺知州一摺著照所請河南新州知州員缺准其以施熙補授該部知道欽此

389 道光十六年三月二十三日內閣奉

上諭桂良奏知縣承輝要犯日久無獲等語河南滑川縣知縣劉兆春著摘去項帶仍勒限三個月嚴緝逃犯逾第二務獲倘屆限無獲卽著撤任嚴奉懲辦欽此

390 道光十六年三月二十三日內閣奉

上諭楊名聰奏知縣人地未宜請酌量新調一摺陝西醴泉縣知縣江宗徽才疏拘謹與衝途不甚相宜著調補吳堡縣知縣所遺禮泉縣知縣員缺卽以段志銓對調該部知道欽此

391 道光十六年三月二十三日內閣奉

上諭奕經奏審詳呈遞封章控案供詞狡展一摺直隸朝陽縣民婦王劉氏控案係由錢債起衅惟以

### 硃

四民王兩是否結夥存疑為此案緊要聞健據夫經審據中證易定發等歷歷指證而贊之王兩等堅不承認恐其避重就輕希圖翻案自未便以眾證同供遽行定讞著交臬京刑部會同該將軍衙門提集案證詳細研審務得確情按律定擬具奏欽此

392 道光十六年三月二十四日內閣奉

上諭廣東潮州府知府員缺著易中孚調補所遺員缺著倪良燿補授其所遺之缺著曾際虞補授欽此

393 易中孚 江西南安府知府

倪良燿 廣西龍州同知

王德寬 浙江東海海防同知

394 道光十六年三月二十四日奉

旨善燾著署大理寺卿欽此

395 道光十六年三月二十四日內閣奉

上諭鄂廷積奏都司人地未宜揀負對詞一摺著照  
所請廣東高州鎮都司李萬善准其調補督標中  
營都司所遺有缺即以楊鳴威對調該部知道欽  
此

396 道光十六年三月二十四日內閣奉

上諭前據御史黃仲容奏廣東嘉應州屬平遠縣與  
江西長寧縣交界軍門嶺間有澄海縣令之裁衣  
工人李姓起通其處被搶斃命當有旨諭令鄂廷  
積查究辦茲據奏稱該縣境內並無李姓被殺  
之案查有由澄海縣著轉呈平遠縣在途被害之  
余姓等語匪徒搶劫貨財傷斃人命最為地方之  
害一經報案該地方官自應嚴緝正兇株連懲辦  
此案在途被害無論李姓余姓何以糾挈<sub>九</sub>犯及  
年餘尚未弋獲著該督嚴飭平遠澄海二縣勒限  
三個月上緊訪緝務獲正兇解究倘敢仍前玩泄  
限滿無獲即著指名嚴參毋稍姑息欽此

397 道光十六年三月二十四日內閣奉

上諭鄂廷積奏請將著緝犯未全獲違請告病之著  
恭將革職留緝一摺南澳鎮轄之署海門營恭將  
事俱補水師副將林萬高著因所管惠來縣屬亦  
澳洋面商船衣物被搶一案曾經督旨摘去項帶  
責令督緝茲據該督奏稱該員自被參後限期將  
滿犯未全獲乃以舊病復發稟請解任調理實屬  
規避偷安林萬高著即革職仍勒令自備資斧留  
於該營協緝任限滿有無弋獲再行分別覈辦該  
部知道欽此

398 道光十六年三月二十四日內閣奉

上諭恒安奏請留伊子隨任等語恒安之子恆達等  
帖式英智准其仍留任所幫辦家務欽此

399 查宗室貢士覆試應請

簡派閱卷大臣謹寫名單進

呈伏候

欽此於二十五日清晨

發下傳集各員聽候宣

旨再查上屆閱卷大臣開列至六部侍郎止欽奉

派出三人擬

奏

400 大學士阮元

○協辦大學士穆彰阿

尚書汪守和

王宗誠

成格

○史致儼

何凌漢

侍 郎李宗昉

程恩澤

○卓秉恬

廖鴻荃

史譜

劉彬士

姚元之

401 道光十六年三月二十五日內閣奉

上諭特依順保等奏修葺城垣等工請鼓勵出力人

員一摺伊犁惠遠城年久失修城濠淤滿前經該

將軍等奏明分限四年修築挑挖淤積查明承辦

各人員等於兩年趕辦竣事工程銀兩又復節省

四分之一實屬認真出力自應量予恩施前著伊

崇撫民同知今升成京工部員外郎覺羅富昌惠

遠城鑲紅旗滿洲協領岳克清阿正黃旗滿洲協

領廣音泰鑲藍旗滿洲佐領慶明阿正黃旗滿洲

佐領西拉布惠遠城守營守備現著巴燕岱營都

司展武均著交部議敘惠遠城巡檢李宏錦著以

所經歷縣丞歸於陝甘省遇缺即補縣員周彭齡

著加恩釋罪仍留當差候選未入流賀應魁著以

未入流歸入不論雙單月遇缺即選書吏潘世望

魚貞揚著俟加滿五年以從九品未入流歸入九

年期滿班內銓選書吏武炳著作為已滿吏歸部

先行掣籤再留二年期滿時遇缺即選四品伊什

罕伯元頭等台吉哈里雅特著供本城三品阿奇

木伯克缺出升補五品商伯元薩底元著賞戴花

例六品都管伯克巴哈雜特著賞戴五品頂翎以  
示鼓勵此項城垣現經四面加高城內鼓樓自應  
拆卸重修一律宏整所有此次節省城工銀二千  
五百餘兩著准其作為修建鼓樓之用該將軍等  
即飭原辦各員監督興修務著照所議辦理該部  
知道單併發欽此

402

奏蒙

日 穆彰阿 史致儀 車本怡 跪

發下覆試宗室貢士卷二本

命日等閱看謹擬列二等一名者一卷二等二名者

一卷卷呈

御覽伏候

欽定伏

發下後再拆彌封繕寫名單遵

呈謹

奏

403 二等一名

和淳

二等二名

崇榮

404 道光十六年三月二十六日內閣奉

上諭本日據大學士軍機大臣會同該部議奏約東  
糧船水手章程一摺已依議行夫漕船水手人等  
類皆無業遊民曠悍性成剽奪是其故技全在漕  
河及地方文武負弁認真查察嚴行懲治庶免頑  
犖知欲戢而漕政得肅清此次會議各條俱詳  
條惟是防弊之法不患立法之不善而患行法之  
無人果能實力奉行不致日久生懈則懲一警百  
自可立挽頹風著有漕各省督撫漕運總督及沿  
河各督撫務當遵照奏定章程嚴飭各該糧道遇  
案即辦有犯必懲隨時查察押運負弁及地方文  
武催糧各員等倘敢仍前玩泄虛應故事不能認  
真查拏即行指名嚴參從重懲處不得稍存姑息  
致日久又成具文經此次諄諭之後各該督撫等  
如再徇於積習不能從嚴從實議求整頓將來積  
久生玩該水手等再滋事端利經發覺惟該督撫  
等是問恐不能當此重咎也將此通諭知之欽此

奏為遵

大學士長齡等謹

旨會同議奏仰祈

聖鑒事道光十六年五月初九日奉

上諭陶澍等奏遵旨籌議約未糧船水手章程各一

摺著大學士軍機大臣會同戶部議奏欽此 臣等

正在會同核議間復於二月初四日奉

上諭納爾經額等奏籌議稽查糧船水手章程一摺

著交原派之大臣會同戶部議奏欽此 臣等伏思

糧船水手類皆無業游民結黨倚徒動輒糾衆

滋事近年以來雖屢經懲辦而獲悍之風總未

盡息誠如

聖諭所云此等匪徒恐不畏法幾成積重難返之勢

自應力求整頓以消患於未萌茲據有漕各督

撫等差

咨籌議章程陸續奏奉

命文日等核議 臣等公同商酌悉心籌畫惟有恪遵

諭旨編期稅餉等項簡便易行伏查江浙幫向雇外

來水手日久相沿此時欲與驅除誠當行之

御覽

以漸果能遇事嚴懲隨時隨地隨之知所啟戒自足以安行旅而做元頑此外各省情形雖有不同而同時制宜善辦之法則一且等查該督等奏請嗣後遇有劫奪殺人等案從重定擬罪名之處應會同刑部核議所有各條謹擇其切要者列為六款分晰核覆恭呈

一嚴查藏匿兇器也據兩江總督奏稱長刀利斧本非糧船所常用至于火鎗抬槍尤為禁物查客水手此輩應請每年於淮安監糧時逐船搜括一次俟抵天津回船又查一次其餘經濟地方遇有事故隨時搜查等語 臣等伏查糧船水手攜帶刀械為鎗本屬大干例禁是搜查兇器誠為目前第一關鍵應請嗣後幫船開行以前責成糧道督率幫弁會同地方文武先在水次實力搜查俟該幫重運過淮即由漕運總督嚴稽之便逐船搜括一次至抵天津回空時仍督飭總運幫弁各員復查一次如有藏匿違禁器械立即捉犯跟究從重懲辦再據漕運總督

蒸稱向來各幫俱有隨帶鐵匠以備收拾船身器具恐該水手于搜查後沿途復行私造亦不可不防其漸生請嗣後着成該管幫弁取其鐵匠甘結仍隨時留心查察如該匠私代水手打造尤器即密報糧道及總運官會同沿河地方文武將該匠同不法水手一併拿獲按律治罪倘該幫弁有意徇隱到經發覺即從重參處如比嚴密稽查則該水手等雖強悍性成亦不能徒手逞其兇惡庶刁風可稍戢矣

一嚴定頭舵保結也據江蘇巡撫奏稱在募水手例應取具正丁甘結及頭舵互保各結向來水手之送充由于旗丁頭舵之容隱請嗣後責成正身旗丁與頭舵人等出具甘結並互保各結及十船連環保結由衛備幫弁加結中送糧道及總運廳員查考一人滋事惟互保各人是問等語等伏查戶部則例內載糧船水手責成各衛所及運弁正丁在募擇其結練老成之人取具本船頭舵水手互保各結連具年貌花名清冊轉報糧道存查道光四年欽奉

諭旨着成頭舵分別雇明確知姓名籍貫保結存案等因又道光十四年奉

上諭嗣後水手有犯頭舵十家保能將重犯縛送運究辦者優加獎賞若知情徇隱亦着加倍治罪等因欽此嚴遵各在案茲以幫船水手踪跡詭秘恃其莫可究結是以敢于情衆送兇肆無忌憚應請嗣後仍遵前奉

諭旨飭令衛所備弁着成頭舵保結確知實在姓名籍貫方准充當仍照例每人置給腰牌不許擅離本船如有滋事潛逃即向原保之人指令交出倘任其遠颺日久不獲即將原保之人嚴行究治該撫所請倘該旗丁及頭舵容隱不肯狗庇不拏照律治罪若丁船首報備弁及總運各官畏難不辦即由糧道撤委嚴參均應如所奏辦理如此中嚴保結一遇犯案即可根究轉等語各船水手均有責成不致滋生洩跡矣

一嚴定充徒重典也據兩江總督奏稱定例糧船水手夥衆十人以上執持火器搶奪為首者強盜律治罪為從減一等如十人以下無器械



者照搶奪律治罪惟此例專為搶奪而設且必  
須十人以上至劫奪殺人及仇殺條殺之犯屬  
請無路人數多審明得實即恭請

王命正法河干其同惡相濟之人但經殺人即照強  
盜律立正典刑以昭炯戒其藏有火鎗指發者  
雖未照放傷人亦應從嚴加發新強俾兇徒逞  
數以資懲儆等語日等伏查糧船水手情眾道  
先凌虐商民批詐誤丁竅玩幫升種種不法已  
極即使從嚴究治尚恐不知敬畏若復稍從姑  
息必致益長刁風該督所請嚴寔重典之處係  
為禱以正群起見惟是同一殺人而搶奪與行  
劫不同挾擊又與劫奪不同自應將罪名酌分  
等差以區別刑罰嗣後糧船水手行劫殺人不  
分人數多寡曾否得財俱擬斬立法亦示恭請  
王命先行正法其搶奪案內下手殺人之犯亦照行  
劫殺人例一體正法系示為從幫毆加刀傷及  
手足他物至折傷以上者俱擬杖立法傷非金  
刃又非折傷者擬杖監候未經幫毆成傷者發  
新疆給官兵為奴至尋常懷挾私仇蓄意謀殺

及逞忿故殺者均照斬立法若審無謀故重情  
但經聚眾毆即照廣東等省械鬥例一體  
懲辦其藏有火鎗指發者雖未照放傷人亦從  
重發往新疆給官兵為奴以上各犯如被獲時  
有聚眾持械拒捕傷人者除原犯斬梟罪無可  
加仍按例定擬外其罪應斬決者均加擬梟示

恭請

王命先行正法罪應絞決者改為斬決罪應絞候者  
改為絞決罪應絞候者改為絞候若拒捕殺人  
為首無論原犯罪名輕重均擬斬立法亦恭請  
王命先行正法為從幫同拒捕之犯即照拒捕傷人  
一例科斷如此嚴立法科條庶不致法輕易犯而  
而匪徒可期斂跡矣

一嚴治游幫匪類也據江蘇巡撫奏稱沿途岸  
上游幫匪徒如拉短絳打劫之類皆係隨幫行  
走聚散無常最難查考大抵搶竊劫殺之案出  
於游幫者尤多然在船之水手亦多竊與勾結  
該匪等更有兩情應責令總運幫弁與旗丁頭  
舵人等時刻稽查如有游幫滋事之人即知會

巡州縣警汛隨處緝拿究辦其羣聚岸上手執  
器械者即未經行劫殺人而凶暴之狀已著比之  
在船載運器械者更應加等治罪如敢不服查拿  
持械拒捕除當時格殺照例勿論外其有拒捕  
傷人者一經拿獲究明即恭請

王命立行正法以昭炯戒并據兩江總督奏稱港劫  
棍匪冒充水手劫奪傷人持刀拒捕即照水手  
犯案辦理等語且等伏查滑船經過地方沿途  
岸上游擊匪徒或名放散風或名青皮或名河  
快皆以棹船為遁逃淵藪日則上岸滋事夜則  
赴船食宿內外勾結朋比為奸水手視游匪為  
爪牙游匪恃水手為庇庇一切搶劫盜益之案  
多係若輩牽引實大為行旅商民之害必應從  
嚴懲以彰

國憲而戢凶橫應請嗣後棹船經過地方游擊匪  
徒有搶劫殺傷及被獲時拒捕殺傷人者均照  
種船水手搶劫拒捕例一體懲辦其執持兇器  
未經滋事者即照執持兇器未傷人杖一百本  
例上加一等杖六十徒一年仍請責成該管糧

道總運官督率運弁晝夜稽查於滑船停泊時  
照依地方保甲之法逐船按冊點驗其有並無  
牌照者立即會同地方警汛拿獲審明分別懲  
辦倘該幫弁意存玩視從重奏處仍展飭旗丁  
頭船等如有形跡可疑之人密為稟報如敢容  
隱一併治罪并責成沿河地方文武及催備彈  
壓之印委各員隨時隨地密為訪查按名緝獲  
如此輩其黨羽絕其勾通則兇徒無所托足而  
軍船可漸整安輯矣

一酌寬地方處分也據兩江總督奏稱糧船過  
境地方文武俱有催備之責一經停泊例有處  
分而糧船水手即應以為扶制之端應請嗣後  
水手殺人滋事地方官聞信拿拿如罪人已得  
自應將糧船催令前進倘敢倚恃人眾停船抗  
拒即一面稟知漕務本管各官將該船暫泊以  
便查拿伏乞出光犯再令開行倘敢乘船走散  
即另雇水手駕送尾隨各幫行走不必拘定本  
幫仍將查拿地方官避免處分等語且等伏查  
糧船水手滋事沿途地方文武各員往往意存

推諉固由畏忌不前亦由濫竽充數道運停泊制于  
處分是以隱忍默容稍就了事因而該運等並  
復無所顧忌自係實在情形應請嗣後水手等  
如有鬥毆搥打等案沿途州縣營汛弁丁即  
稟加濬務亦營各官酌給批摺暫行傳泊會同擊  
弁將犯犯拿獲究辦倘後犯定已逃匿而濬糧  
又應早遣

又廣應請責成總運及幫弁仍遵照道光十五年欽

奉

諭旨原船照舊開行前進無誤限期一面嚴緝頭舵

人等沿途訪緝勒將犯犯交出倘日久不獲頭舵

照律治罪該管總運幫弁一并從嚴議處至地方

文武官如能將犯犯拿獲辦理迅速照例准予獎

勵即本姓獲犯某係認美並拿亦請避先查分

偏嗣後備後緝捕清研有心諱飾仍照舊例從

嚴議處如此酌量愛道則地方官既無事隔疑

而該運等亦可無扶刺底查辦新期得力矣

一沿途派兵防緝也據濬運總督奏稱運弁旗

丁原應管束水手余運弁趁隙事端旗丁為共

扶制遂至口風日熾其勢不得不仰藉地方督  
成以備共榮繫之義請於新濬起運時移咨濬  
運督撫並河臣鎮臣另行添派副各進大員携  
帶弁兵候幫船過境時與其同行同止相機彈  
壓在境任泊支搭棧房住奉認真巡防如有滋  
事立即獲解地方官訊擬照例治罪並據  
江蘇巡撫奏稱仰懇

飭下糧船經由之徐州兗州曹州天津各鎮總兵

兩將多派弁兵丁隨家防範並催各等語

等伏查重空糧船過境地方文武本有催備彈

壓之責各幫水手恃英人殺衆多莫敢誰何不

但旗丁受其指制即該管之丞傳運弁亦以人

仗無多兵敢過問全藉沿途文武往來巡緝以

壯聲援惟州縣有地方公事不能久駐河干即

聞有派出催漕委員亦多轉信公館聲息不能

相通以致有名無實伏查道光十年欽奉

諭旨著各該督撫會同道府一員三兩處辦事並俾

二三員多帶六役分段輪流乘舟稽查等因又道

光十四年欽奉

上諭嗣後任所而地才著派武職較大之營員酌

帶兵丁一路接遞巡查並有水手混事立即嚴拿

等因欽此欽遵各在案應如該督等所奏請

旨欽下沿途各省督撫及河員鎮日每年於漕船經

過之先揀派文武員弁多帶兵役分別設落彼

此照會往來接遞如有水手及游幫藉端滋事

立即會同地方官嚴拿究辦倘敢仍前虛糜故

事以致釀成巨案即將派出員弁一併查處仍

責成帶兵員弁約束兵役無許別生事端如北

岸層層密察聲勢聯絡呼應欽靈應先徒知所震

備而漕政可永保肅清矣以上六條臣等體察

情形於日前籌辦之法最為切要應請

欽下漕運總督及有漕各省督撫並河員鎮日查照

奏定章程欽遵辦理即刊刻簡明告示督率幫

弁逐船驗發詳切告誡並於沿河經過地方張貼

曉諭俾免從觸日警心稍知畏懼再據該理安

燕巡撫奏稱該省軍船向於兌米後議定包費

將船隻托人運運交卸謂之包丁帶船等語查

據丁例應親身管駕如查有子弟代運亦應發

近邊充軍似此包費包丁該管辦幫弁並不查

禁因循已極應令該撫嗣後督飭糧道嚴查如

有前項托人包帶情弊即應據丁按律治罪該

管衙弁從重懲處至湖廣總督等所奏湖北水

手情形查與江西湖南大畧相似應令該督撫

等查照奏定章程嚴飭實力奉行毋得日久生

懈以肅漕務抑日等更有請者有治人而後有

治法自來防弊之法不患立法之不善而患行

法之無人現據漕運總督奏稱督押軍船回空

察看各處營汛雖有弁兵照例催催而曠野之

地甚多實不足以資彈壓等語可見從前執奉

諭旨著令經過地方多派兵役接遞巡查不久又形

懈弛總之執法先徒於地漕運均有間餘而懲

治之方愈括愈則愈形但玩必當添加整頓以

期力挽頹風應請

欽下各該督撫嚴飭押運官弁沿河地方官及派

出催價印委各員認真巡察務期從嚴從實遇

犯即辦有犯必懲無得虛糜故事日久又成具文

以仰副

皇上社稷功微之至意再行招徠戶部主稿刑部於

三月初二日議結送回合併聲明所有日華會

同核據緣由是否存案伏乞

皇上訓示謹

奏

道光十六年三月二十六日

臣長齡

臣文孚

臣潘世恩

臣阮元

臣穆彰阿

臣王鼎

臣賽尚阿

臣魏成奎

臣宋晉英

臣宋軍英

臣文慶

臣宋軍英

臣程恩澤

臣載格

臣史致儼  
臣康敬  
臣劉錫士  
臣賈慶  
臣姚元之

406 道光十六年三月二十六日內閣奉

上諭庶吉士散館著於四月十六日在圓明園正大

光明殿考試欽此

407 道光十六年三月二十六日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經侍旨普免道光十年以前民夫

銀糧令該將軍前戶督撫等查明開單具奏錄中

除實查明道光十年以前民夫及出借各銀糧數

目開單呈覽當文戶部裁復茲據查明具奏山西

省朔州等州縣歷年大道元十年以前本折米三

萬一千三百八十八石零五一千二百九十六石

零較二千一百五十七石零為數較等糧四百六

十一石零寧遠等處民欠道光十年以前廠地旗  
租等銀四千七百八十三兩零汾陽等州縣道光  
十年以前民借未完常平倉穀一千三百四十四  
石零奇嚴等廳州縣道光十年以前民欠未完社  
義倉穀三萬八百二石零委係實欠在民者加恩  
一律豁免該部即刊刻條黃偏行曉諭並照例按  
戶計給完單嚴禁吏胥影射需索等弊務令實惠  
及民則副取動羨推恩主意餘依議欽此

408 道光十六年三月二十六日內閣奉

上諭哈豐阿等奏閱看本城春操情形一摺正藍旗  
中公中位領謀爾摩額因病不能操度兵丁著以原品  
休致該員曾經出師打仗著實勞著該部查明照  
例辦理俟白旗馳騎校額爾雅藍旗世襲騎都  
尉百歲俱年逾六旬就衰正白旗馳騎校西林保  
馬步箭平常均著勒令休致至各該城官兵向係  
春秋二季操演初冬打圍據該將軍等查明該處  
屢被敵敗數年以來兵丁馬力不足未免指搭著  
照所請嗣後除春季照例操演一至初冬該將軍

等即帶領官兵出野圍獵以資練習餘俱著照所  
議辦理該部知道欽此

409 道光十六年三月二十六日內閣奉

上諭哈豐阿奏請分軍扣繳養廉一摺哈豐阿應繳  
刑賠借支四項共未完銀七千八百九十六兩零  
著加恩准其於每年應得俸廉銀一千六百八十  
兩內自本年起重每年扣繳一半運款以示體恤該  
部知道欽此

410 道光十六年三月二十六日內閣奉

上諭鍾靈奏請將伊子隨任等語鍾靈之子宜振准  
其隨帶任所幫辦家務欽此

411 道光十六年三月二十六日內閣奉

上諭敬徵等奏請飭催迭次銅鉛等語寶泉局在途  
各運銅鉛必須依限抵京方資接濟所有接運甲  
午年正運四起銅鉛之張綬組領運加運一起銅  
鉛之文敬二起之陳步賢乙未年上運一起銅鉛

之劉守呂下運一起船船之楊書魁又乙未年正運一起銅船之李美鈞二起之劉澤霖丙申年上運一起船船之李世泰二起之曹敦鈞現在各船行抵何處著各該督撫嚴行催償毋令稍事延延其抵清江過境後著仍責成漕運總督及沿河各督撫查照前案相機隨漕抽控行走務期遵照例限迅速抵京以資鼓鑄欽此

412 道光十六年三月二十六日奉

旨穆九穆八均著交刑部歸案究訊拏獲鄰境逃犯之中城副指揮喬日遠夫目汪莊侯著刑部於定案時聲明請旨欽此

413

奏本日臣等奉

臣穆彰阿臣卓秉恬跪

旨將本年宗室取中貢士原卷與覆試卷逐細磨對

文理筆跡均屬相符謹

奏

414 道光十六年三月二十七日內閣奉

上諭鄂山奏查閱英地安靜情形請增設善後事宜一摺四川清溪越處各處英人前經大兵戡定善議善後章程由該督查明原議抽添兵款尚覺不敷分佈著與該鎮總兵張必祿悉心籌議酌量情形再於鎮標所屬增撥一二百名以資巡緝至寧越營都司駐劄之海棠地方亦宜建築土堡著即督飭該府廳等妥為勦辦所有前項各工既未動用正項錢糧著免其造冊報銷餘著照所議辦理該部知道欽此

415 道光十六年三月二十七日內閣奉

上諭鄂山奏查閱建昌鎮營伍情形一摺四川署軍和右營都司茂州營都司葉啟先聲名平常召馬軟弱著勒令休致餘俱著照所議辦理該部知道欽此

416 道光十六年三月二十七日內閣奉

上諭翰林院奏宗室庶吉士百日尋滿應否散館一摺宗文英淳俱著准其一體散館欽此

417 軍機大臣 字寄

浙江巡撫烏 道光十六年三月二十八日奉  
上諭據烏爾恭額奏稱浙江温州府知府劉性承辦  
粟鹽於奉文停辦之後延不遵辦轉以招商接運  
為詞具稟請示應行撤任清查等語温州試行粟  
監諸多窒礙既經該奏明停止該府自應改復  
引監飭令各官商照舊行銷庶免影射售私諸弊  
若似此任意違延是業經停辦之鹽尚有續行之  
業必致漫無稽考弊實日滋不可不嚴行查究劉  
性著先行撤任交該撫確切查明有無聽馮違延  
情弊同知鄧廷彰著即迅往接署至該員能否秉  
公查辦抑或另派公正大員前往確查之處著該  
撫酌量情形據實具奏該省賑務亟需整頓該撫  
惟當破除情面嚴飭查辦之員務將該府因何奉  
文不停備詞延宕是否另有別情確加根究嚴行  
奏辦不得藉端官官相護陋習稍事含混方為不負  
委任將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

418 道光十六年三月二十八日內閣奉

上諭興德奏請製五品頂翎世職等語喀什噶爾五  
品頂翎世職准其以喀什噶爾之長子哈斯木承襲  
該衙門知道欽此

419 道光十六年三月二十八日內閣奉

上諭興德奏揀員請補伯克一摺著照所請喀什噶  
爾四品商伯克克爾敦准其以喀什噶爾該衙門  
知道欽此

420 道光十六年三月二十八日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請動項修築塘工一摺浙江西塘  
一帶交泰以後山水下注與潮撞擊直刷塘根據  
該督查明險要埽工供逾圍限自應趕緊修築以  
資抵禦所有西改字等號埽工三百六十大共需  
例價工料銀一萬五千八百五十二兩零准其在  
於歲額運庫初二兩次高息項下分別動支給辦  
該撫仍嚴飭該道督率廳備上緊趕辦務期工堅  
料實毋任稍有草率偷減工竣後實驗收照例備  
因該部知道單併發欽此



421 道光十六年三月二十八日奉

旨達所奏劉垣銀數之准補寧海縣知縣張惟孝前署餘姚縣事任內短交庫項銀一萬三千五百八十四兩零倉穀五十六百一十七石零著即革職等因文該撫核同經手丁胥人等研審確情核俾定擬具奏該革員寓所資財及原籍家產著一併查封備抵欽此

422 道光十六年三月二十八日內閣奉

上諭何凌漢等奏請將玩視劫案之知縣摘去頂帶勒限協緝一摺著東安縣候補知縣楊之懷於該縣所屬各村庄房如振等家被劫各案從不稟報疫玩已極楊之懷著摘去頂帶留於該地方勒限兩月協同實任知縣鄭石新嚴督緝獲務將各案賊犯全行弋獲完辦如限滿無獲即行嚴參該部知道欽此

423 道光十六年三月二十八日奉

旨著戶部覈議具奏欽此

倉場侍郎奏存貯京石白粳一摺

424 道光十六年三月二十九日內閣奉

上諭申啟賢奏請將知府解任捐職遊擊斥革並嚴緝要盜歸案審辦一摺山西太原府知府文夢蛟著即解任遊擊機樹亭鍾璋著即斥革嚴緝究辦吳澄白其孔即白起孔是否前赴山東單縣廉五當鋪生理抑或在京居住著山東巡撫順天府五城步軍統領衙門一體嚴督緝獲解交山西審辦欽此

425 道光十六年三月二十九日內閣奉

上諭御史竹德等奏查省進城俵米米色不符一摺著倉場侍郎查明具奏單併發欽此

426 道光十六年四月初一日奉

旨本科會試中式貢士著於本月十二日在保和殿覆試欽此

427 道光十六年四月初一日內閣奉

上諭前據湯錫恩奏考試策題錯誤降旨交禮部查明具奏嗣據該部查明景貞雜柯一條係屬錯誤朕因策題內此外尚有舛錯之處是以將該考官等交部議處茲據潘世恩等復行檢舉策題第五問內第五訪原稿本係訪字騰寫時誤書倫字請再行文部核處等語該考官等於騰寫錯誤之處未經改殊屬草率潘世恩王鼎吳傑王植均著再行文部核處嗣後鄉會試考官出題試士務須引據精當覆校詳明不得稍有舛誤致令該士子等難於著筆外間得肆譏評以便遵循而昭慎重檢才大典其各欽承毋怠欽此

428 道光十六年四月初一日內閣奉

上諭御史沈錦奏中式捐納部貢選補過優請量為限制一摺著吏部議奏欽此

429 道光十六年四月初一日內閣奉

上諭御史王瑛奏兵丁吸食鴉片烟請另立科條從嚴示懲一摺著刑部議奏欽此

430 道光十六年四月初二日內閣奉

上諭閩浙奏幫丁行月等米因交錢缺不敷支放請酌量撥給一摺江安自糧道倉庫放南撫米石及各幫派支州縣行月等米因交錢缺定計不敷米一萬八千一百七十七石零向應籌撥支放著照所請所有潛山南陵涇縣當塗蕪湖合肥巢縣定遠泗州寶應東臺興化等十二州縣報徵道光四十四石零又六合縣存道光十五年熟田漕糧正贈米一千七十二石零共米一萬八千一百七十七石零准其備用庶幾敷用以抵道倉災緩南撫並各衙幫丁行月米石不敷之需所撥米石統俟下年收徵南撫並行月等米按限分別催徵運濟搭運其支給米數於該年奏銷冊內分晰造報該部知道欽此

431 道光十六年四月初二日內閣奉

上諭陶澍等奏恭疏行城內火事道犯病故賊匪未明之知縣請旨職官辦一摺此案江寧縣知縣李金芝於城內住炳和家被賊行竊拒傷身死並不破案研鞫奉行緣供通詳現在案情真偽莫辨犯已病斃賊匪未得實屬半年李金芝暫行革職交陶澍等督同祿謹親提案內犯證悉心研鞫務將確情詳律定擬以成信據欽此

432 道光十六年四月初二日內閣奉

上諭陶澍等奏揀員陞補沿河要缺知縣一摺著照所請安徽靈璧縣知縣員缺准其以曾敬儀陞補照例送部引見該部知道欽此

433 道光十六年四月初二日內閣奉

上諭申啟賢奏查閱太原鎮屬各營情形分別勸懲一摺向來各營員弁賞罰止論本身弓馬其操兵優劣每畧而不問據該撫奏稱兵丁技藝之嫻否全在平日操練之勤惰各項兵丁既有專管教演

員弁自應詳覈功過著照所請嗣後查閱營伍各項嫻熟何項生疎著隨時覈實分別激揚並著專營將備將派令操兵之千總把總等弁操兵等第按季稟報提鎮一次仍責成該鎮總兵於春秋二季前往查閱之時詳加考察稟疏既列總期一日有一日之功一兵得一兵之用無得日久視為異文以責專成而肅營伍欽此

434 道光十六年四月初二日內閣奉

上諭申啟賢奏遠員升署要缺同知一摺著照所請山西堂鎮廳理事同知員缺准其以富豐阿升署照例送部引見仍俟扣滿年限另請實授該部知道欽此

435 道光十六年四月初三日內閣奉

上諭瑚松額奏請借給貧民口糧一摺甘肅渭源等州縣去歲夏秋二禾收成歉薄兼有被灾之區現值青黃不接貧民乏食自應借給官糧以資餬口

如見著照所請所有三四兩月口糧折色銀源源  
銀二千兩伏差銀一千兩會寧縣一千兩靜寧縣  
三千兩隆德縣二千兩寧州二千兩秦州三千兩  
兩當縣一千兩共銀一萬五千兩著准其在於司庫  
盤查糧價款內借給散放以紓民力該督即刊刻  
牌黃通符號給發朝覲及民舟位吏胥舞樂用副  
狀給各款區立免給著照所請辦理該部知道欽  
此

436 道光十六年四月初三日內閣奉

上諭此次

常寧大祀豫期特

皇宮守指香第一案恭奉香金之贊禮郎儀節錯誤著

太常寺堂官查明奏欽此

437 道光十六年四月初三日內閣奉

上諭瑚松額奏選員升補要缺直隸州知州一摺著  
照所請甘肅秦州直隸州知州員缺准其以楊鈺  
升補照例送部引見該部知道欽此

438 道光十六年四月初三日內閣奉

上諭御史劉祖丕請選照舊章以知府林補道欽一  
摺湖南辰永沅靖道係苗疆要缺彈壓撫綏均關  
緊要久經定為規缺於本省知府內揀員升補自  
應循照定例永遠遵行嗣後辰永沅靖道缺著湖  
廣撫督湖南巡撫仍於該省知府內揀選請練之  
員奏請升補不得報以同知請升該部知道欽此

439 道光十六年四月初四日內閣奉

上諭楊名魁奏揀員調補省會要缺知縣一摺著照  
所請陝西長安縣知縣員缺准其以胡廷瑞調補  
該部知道欽此

440 道光十六年四月初四日內閣奉

上諭楊名魁奏查明官紳捐資助賑懇請獎勵一摺  
陝西平利等處前遇水旱收成歉薄民鮮蓋藏節  
經施恩借給籽種口糧惟聞有老弱無業窮黎乏  
資餬口該地方官勸諭紳商捐輸口糧煮賑全活  
甚眾尚為好義急公自應量加獎勵所有捐銀二

百兩至一千兩以上之監生唐廷輔捐納布政使  
經歷職銜周必名民人李天春議欽縣丞職銜候  
選未入流陳以志生員王祖武生員王正興文童俱  
玉瑞程士德張自振童生韓木鑑民人孫敬先珠  
煥發李興隆周添瑞王國永文童李先春余必康  
李天麒陳鴻張立華陳上達李鴻雁葉大經商民  
劉慶益等二十四名均著吏部照例議敘其捐銀  
三百兩至二百兩之陝安道孫蘭枝晉糧道李廷  
錫著漢中府知府趙廷俊榆林府知府徐廣綬益  
中縣知縣胡元燦署洋縣知縣連綸署沔陽知縣  
李鳳舟改回籍知縣富明阿恩縣知縣馬士俊略  
滿縣知縣費著林著平利縣知縣段志全南鄭縣  
典史沈良豫等十二員亦著吏部照例議敘以示  
獎勵此項報冊著先其造冊報銷餘著照所擬辦  
理核詳知道單二件併發欽此

411 道光十六年四月初四日內閣奉

上諭楊名魁奏官民捐修工程完竣懇恩獎勵一摺  
陝西省同官南鄭富平三縣城垣年久坍塌經各

該縣府民捐資修葺同府縣原建土城改作磚城  
南鄭縣塌損城垣一百六十餘丈一律修整富平  
縣城垣四門添建樓座并修葺

文廟建蓋考棚洵屬急公好義自應量予恩施所有  
捐銀四千六百兩至一萬兩之監生孫紹開孫紹  
復童生孫紹德孫紹先監生劉銓俱著吏部從優  
議叙其捐銀二百兩至一千兩之武生邢順監生  
王心童生王永慶徐海源康生翟章民人楊連德  
王悅樞楊恒泰周廣同捐銀一千兩之現任同府  
縣知縣劉用霖著一併吏部議叙以示鼓勵此項  
工程銀兩著免其造冊報銷餘著照所議辦理該  
部知道欽此

412 道光十六年四月初四日內閣奉

上諭楊名魁奏衝遠城隍要工捐修完竣懇恩分別  
獎勵一摺陝西澄城城垣及葭城隍城為省東各  
路道衝保障要工久遭圍限日就傾圮經前任潼  
關道慶林等倡率捐修一律完竣高屬急公自應  
量加獎勵前任潼關道現任葭縣大員慶祿前任

澧高道實開經前署澧高道查是華同州府知府  
福智均著加恩交部議叙漫閣廳同知李聲慶督  
率等辦調度有方著加恩賞加知府銜以示鼓勵  
此項工程艱而著免其造冊報銷該部知道單併  
發欽此

443 道光十六年四月初四日內閣奉

上諭桂良奏請將徵解錢糧分數最少之知縣摘去  
頂帶一摺河南新鄉縣知縣胡之富拓城縣知縣  
景順均著摘去頂帶勒限催徵趕早完解如奏銷  
時仍多延欠即著該省嚴懲懲辦該部知道欽此

444 道光十六年四月初四日內閣奉

上諭桂良奏林自升補守備一摺著照所請河南永  
城汛守備自缺准其以朱書升補照例送部引見  
該部知道欽此

445 道光十六年四月初四日奉

旨此乘著交琦善親提人摺卷宗臬公嚴密按律定  
擬具奏抱劉慶該部照例解任備質欽此

446 道光十六年四月初四日奉

旨成郡王<sup>法</sup>銳之嫡福晉薨逝應行讀文致祭著派桂  
森前往欽此

447 道光十六年四月初四日奉

旨太常寺積祝官乘秩著交部議處管理太常寺事  
務奕顏達貴太常寺少卿那斯洪阿許乃濟均著  
交部察議欽此

448 道光十六年四月初五日內閣奉

上諭琦善奏請將知縣撤任等語直隸永清縣知縣  
凌志召於革捕田名望窩匪等案未能先事查察  
難勝繁要之任凌志召著即撤任留於該省遇有  
相當缺出另行酌量補用餘依議該部知道欽此

449 道光十六年四月初五日內閣奉

旨上諭琦善奏請將道光十年以前該桂積欠一體豁  
免等語著戶部議奏欽此

450 軍機大臣 字寄

山東巡撫鍾 道光十六年四月初六日奉

上諭有人奏道光十四年冬間山東文登縣衙裏村

民于二在同縣堡子溝村與村人王楓因事口角

被王楓率衆攔毆斃命將屍身移掛樹上捏作自

縊情形報官後賄屬刑書作伴匿傷不報該縣歐

丈並未眼同屍親解衣細驗傷痕率據刑伴之言

勒令該屍嗣父于振達領屍因其不肯具領當即

板責三十該縣回署後于振達復赴縣呈訴又被

掌責逐出上年夏間該屍嗣父于振達率領該族

人于吉安等赴登州府控告經該府飭委海陽縣

知縣鄭肇嘉提審該縣並不審訊被告及將原告

等銷押掌責通問何人唆訟並不問于二致死緣

由以致該屍嗣父于振達在押自縊身死該縣因

釀出事端始將原告餘人釋放嗣該屍本生胞兄

于成又赴府控告經該府委署棲霞縣知縣狄廷

颺審訊該縣將王楓等責懲勒令原告息訟該原

告因貧窮無力上控故隱忍息訟甘結等語此

案于二與王楓口角是否攢致斃命回驗傷痕無

硃

難立辨該屍嗣父于振達若非實有冤抑何至在  
押自縊遼商程生案懸二載而命含冤該縣雖省  
十有餘里地方官遇案控報詳在所不免著鍾  
科提集此案卷宗人證屢訊確情務期水落石出  
無枉無縱以成信獄倘有不盡實不盡情事曉諭  
日後或別徑發覺或捏詞造紳奏請核辦等語  
有礙時 玩視民命  
嗣將此諭令知之欽此遵  
旨字信前來

451 道光十六年四月初六日奉

旨順天府奏懷柔縣所屬碧雲山廟宇被火燒燬著

派語惠前往迅即估修督辦欽此

452 軍機大臣 字寄

步軍統領者 左翼總兵桂 右翼總兵聯

道光十六年四月初七日奉

上諭有人奏太平倉現有王三麻子即南折倉已革

花戶王銳約會賂賄張七嘴于王四並道光十三

年在太平倉犯案之李經武之父李六即李文通

漏網之白二條米石已退之花戶陳元隆即陳二  
王三麻子令其表弟張玉充當花戶賒賸張七令  
其子張瑞恆充當花戶嘴子王四令其胞弟王固  
用充當花戶伊等俱在身後辦事王三麻子嘴子  
王四賒賸張七現在朝陽門內豆餅胡同設立三  
合永字號下處太平倉花戶周興及居斌等在該  
倉廠下執掌領辦于王大小妻馬五靈官王十  
總管賬目以上各犯者英等按名嚴密拿送  
交刑部審訊毋任遠颺特此諭令知之欽此

旨寄信前來

453 道光十六年四月初七日內閣奉

上諭周之琦奏請調補要缺知縣一摺著照所請江  
西湖口縣知縣負缺准其以俞序欽調補該部知  
道欽此

454 道光十六年四月初七日奉

旨這所奏虧短錢糧之降胡知縣劉醇養前署鄆縣  
任內短交雜倉賠各款五千六百餘兩之多著

即革職等因交該撫提同經手書吏人等嚴訊確  
情據律定擬具奏該革員原籍家產及歷過任可  
屬所資財著一併查封備抵欽此

455 道光十六年四月初七日內閣奉

上諭鍾祥奏營員不敷差遣請撥發到符泰將各一  
員著兵部於曾任實缺出缺在部候補候選人員  
內照例揀選帶領引見候旨發往欽此

456 道光十六年四月初七日奉

旨白其焜即白其孔著交兵部解往山西歸案審辦  
西域正指揮李邁等緝捕鄰境要隘尚屬迅速著  
侯偉滿應升後以應升之缺即行升用揀發吏目  
洪雲協同等獲著交部議敘欽此

457 道光十六年四月初七日內閣奉

上諭周之琦奏知縣李毅鄰境盜犯一摺江西署新  
縣事現調度陵縣知縣鹿傳先等獲鄰境盜犯多  
名緝捕尚屬勤能著准其送部引見欽此



458 道光十六年四月十七日內閣奉

上諭鍾祥奏請開復知縣項帶等語山東夏津縣知縣章道宣前因經徵上年錢糧有短絀摘去項帶勒限徵解茲據該撫查明該員於被參後尚知愧奮統計現在完解分數已在九分以上章道宣著准其開復項帶該部知道欽此

459 道光十六年四月初七日內閣奉

上諭鍾祥奏勸修四女寺支河壩工請照案發銀辦理一摺山東恩縣等境內四女寺支河分洩衛河咸派並攔水挑水各壩為利運衛民要工據該撫查明河身積淤較甚壩座各有衝失塌陷必應分別挑挖銀修援案酌加得節共估需土方工料銀九千八百四十六兩零現在支河生息本款銀兩尚未解到著准其先由司庫籌墊辦理仍飭運司嚴催高急徵解歸還該撫即派委妥負承領興修勒限趕辦工竣親往覈實驗收如查有草率偷減即將承辦之員嚴參著賠該部知道單併發欽此

460 道光十六年四月初七日奉

旨據戴銓等奏降調都司王楸現經選補直隸懷柔城都司其前在遊擊任內欠繳養廉銀五百二十五兩可否在該員都司任內繳還之處請旨辦理等語王楸著准其赴任所欠銀兩著直隸總督嚴飭該員務於原限半年期內全數完繳以清款項如逾限不完即著該督照例奏追欽此

461 道光十六年四月初八日內閣奉

上諭前據御史許球奏甘肅省吏治營任倉儲各款營降旨交瑚松穎查明具奏茲據該督奏稱平涼府知府終足棍孫守卑汙罪無確據惟才具平庸孫守亦不可恃既經該督列入計典著照所議辦理至秦州直隸州知州李清傑任聽家丁小秦在外招搖地方罷市一節現經查明小秦早經驅逐並無被控之案該員吸食鴉片烟亦未能得其虛實著該督再行確加體訪倘實有前項情事即行據實嚴參不得因該員業經告養稍存寬貸又因原提督胡超起和兵餉置辦戲裝裁汰名糧害養

優伶一節查明該提督初到因原不時唱戲聽客  
並曾給銀兩添補戲裝近亦深自斂抑無復前項  
情弊其裁汰老兵本屬應辦事件並無以名糧高  
養優伶之事該督仍當留心查察如該提督再有  
不自檢束之處即行據實具奏又奉蘭縣支給兵  
糧兵丁滋事一節查明上年五月督糧再管兵丁  
曹得福等因故糧口角並無聚眾挾制之事業經  
該管將官將滋事兵丁責革並將本管千把總責  
斥足示懲儆至該省地處邊陲倉儲最關緊要所  
有應行買補短缺糧石著該督督飭所屬一週年  
歲豐稔即行買補足額以實倉儲毋得稍有延誤  
餘著該督察看情形妥議具奏欽此

462 道光十六年四月初八日內閣奉

上諭瑚松額奏邊員升補邊疆要缺知縣一摺著照  
所請甘肅阜康縣知縣員缺准其以周淳升補照  
例送部引見該部知道欽此

463 道光十六年四月初九日奉

旨賈克慎沈生春俱著仍留學政之任欽此

464 道光十六年四月初九日內閣奉

上諭前據御史馮元錫奏江蘇蘇松太道湯金城信  
任著交吏部查船稅案各款當降旨交陶澍等查  
明具奏茲據該督等奏稱湯金城到任以後因各  
關口倉人徵收糧糧提解不前另派官親募友家  
丁三十餘人分往各口徵收所有徵記糧儲信不  
准倉人經營此等入役一經改立章程無從使法  
難免怨讟其各口所船告示皆有蓋印又已經輸  
稅之船皆完履稅一節查明上年有亞船五隻有  
經計量納稅該道訪知以多報少觀性覆查果有  
漏報該數當提船戶視完照數議罰完業某驗票  
比較計多就計少就票一節查明各口告示開  
載底單多於行驗者以底單為憑如底單數目過  
少即以計驗為憑又該道募友家丁等尚無犯案  
亦確該等語聞津稅務因慮覈實起真而章程亦  
不宜朝更夕改該道湯金城辦理關務是否有縱  
容勒索情弊著林則徐於查驗工程之便親往吳  
淞口大閘一帶訪查傳令客商船戶及報稅各行  
與王春深等逐一稟訊澈底究辦至各關口管稅

人尋私恣縱此風斷不可長並著確切查明照例懲辦所以資整頓該道湯全誠現在司案赴粵備履巧有蘇松太道著該督專遞委委員署理欽此

465 道光十六年四月初九日內閣奉

上諭前據林則徐奏江甯蘇州兩藩庫耗羨銀兩不敷支款循例請於地丁封貯等款內撥銀協濟當文戶部議奏茲據查明該撫所稱係正項錢糧未便執行抵撥耗羨支用請照成案動撥鄰省間款抵撥等語此次江甯蘇州兩藩庫耗羨銀兩著准其由山東耗羨冊報實存銀內撥六萬兩解文江甯藩庫再撥五萬兩解文蘇州藩庫又河南冊報實存平糶盈餘銀三萬兩平糶溢額穀價銀二萬兩俱著解文蘇州藩庫協濟耗羨支用該部即飭山東河南各巡撫委員解文以資接濟嗣後不得援以為例此項銀兩向有運關各庫額解並規盈餘等款抵放近年總不照額解清以致請撥動援成案殊屬玩延況兩淮鹽務經費曾經該督奏明

十一年後年清年款何以又共欠解銀至二十餘萬兩之多著兩江總督江蘇巡撫即將耗羨項下額解各款認真催提務須年清年款毋得恃有請撥成案反濫拖欠其前項欠解銀兩著該督即遵照原奏迅速如數完解毋再延宕欽此

466 道光十六年四月初九日內閣奉

上諭鄧廷楨等奏請籌備生以資防夷經費一摺廣東虎門各墩臺防夷兵丁練該督等查閱每年操練應用火藥礮彈及加賞口糧等項共需銀六千七百餘兩自應及早豫籌以備支應著照所請准其將查抄逃犯姚九區寬等入官家產銀五萬餘兩發典生息一年所得息銀五千餘兩作為經費共不敷銀一千餘兩著准其於內河裁撤巡船節省項下撥給該督等仍當按年按款籌撥節動支務必費歸實用以垂永久至單開會議籌防需費十三款所議保妥要在實力行之切勿日久生懈費之該部知道單併發欽此

467 道光十六年四月初九日內閣奉

上諭御史積等奏請將久察匪徒發塚之知縣革職示懲一摺廣東順德縣龍江鄉地方牛舟之閒被掘棺槨至一百四十餘具之多該署縣章鴻平日於此等重案漫無覺察實屬溺職著先行革職以爲廢弛公務者戒該督等仍當督飭所屬提到現獲匪徒蔡亞路等嚴行審訊確切報完務將供出夥犯跟蹤緝拿按律懲辦毋任一名漏網該部知道欽此

468 道光十六年四月初九日內閣奉

上諭前據馮贊勳奏廣東順德縣之龍江鄉匪徒聚塚鑿棺當降旨交部建旗等查明究辦據實具奏茲據該督等奏請將漫無覺察之署縣章鴻革職示懲並將瑞善縣民容有與父嫂兩棺被掘毀棄一案提省審辦又據該縣先後拿獲兇徒區匪犯劉亞養等三名及為首之萬亞保即萬林保並夥犯曹火先徒同密究等語匪徒聚塚鑿棺戾惡已極自應按名查拏從嚴懲治以懲凶魂而戢兇暴該

督等惟當督飭所屬提到糾檢被獲之容觀傳等

並馬亞保曹火先各犯確切根究此外有無未獲夥犯一經供出即行跟蹤拿究無任披展至萬林保所供從花縣人學得兇術尤當究明係何兇術傳自何人並查令花縣即將傳術之人設法緝獲歸案實審按律懲辦其餘被掘各家或因畏累隱忍不言亦屬辜所時有著該督等速委委員前赴該縣到切出示招告並檄飭該管知府督同查緝不得稍存迴護致有不實不盡欽此

469 道光十六年四月初九日內閣奉

上諭御史許球奏職官違例放債描摹假卷一摺刑部員外郎尹紹烈著刑部傳訊據實具奏欽此

470 道光十二年壬辰

恩科會試

欽命四書題詩題

君使臣以禮

施諸己而不願亦勿施於人

樂天者保天下畏天者保其國

賦得循名責實得賦字五言八韻

道光十三年癸巳科會試

欽命四書題詩題

古之惡也直今之惡也詐而已矣

載華歆而不重振河海而不洩萬物載焉

雖然後知輕重度然後知長短物皆然心為甚

賦得以禮制心得賦字五言八韻

道光十五年乙未科會試

欽命四書題詩題

大德不踰閑

夫孝者善繼人之志善述人之事者也

吾身不能居仁由義謂之自棄也

賦得王道平平得偏字五言八韻

本年丙申

恩科會試

欽命四書題詩題

小人閒居為不善無所不至見君子而后厭然

揜其不善而著其善

子釣而不綱弋不射宿

天下有違尊三爵一齒一德一

賦得布德行惠得時字五言八韻

道光十二年壬辰

恩科會試覆試

欽命四書題詩題

然則治天下獨可耕且為與有大人之事有小

人之事

賦得雨我公田得雷字五言八韻

道光十三年癸巳科會試覆試

欽命四書題詩題

沒潤之階膚受之愆不行焉可謂明也已矣

賦得巖泉滴久石玲瓏得聲字五言八韻

道光十五年乙未科會試覆試

欽命四書題詩題

大道若大路然豈難知哉人病不求耳子歸而

求之有餘師

賦得失寸心知得精字五言八韻

472 軍機大臣 容寄

欽差尚書湯 侍郎文 道光十六年四月初十日

奉

上諭給事中朱遠吉奏四川省擲派津貼州縣藉端  
委民一摺據稱該省上年夷匪滋事兩次用兵一  
切軍需攤派通省州縣種戶間有貧行不法顯背  
官常各州縣按照地丁加徵銀兩並苛派勒借肆  
行無忌民不聊生上年大竹縣民人冷希晏等京  
控之詳均係實在情形本省審辦多方迴護並賄  
囑劣紳出名翻案遂將原告坐誣治罪等語案關  
州縣藉差殃民不可不嚴行查究著湯全釗文慶  
于查辦伏西事竣後馳赴四川務將摺內所指各  
員貪墨劣蹟密加體訪秉公查辦毋得稍有不實  
不盡又另片奏該省州縣於分內案件不肯親為  
審訊輒委典史等官令其藉案需索以致無賴差  
役見事生風物比為奸並著該尚書等查明懲辦  
不准稍事姑容以肅官常而除積弊該給事中原  
摺片俱著叢給閱看特此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

473 道光十六年四月初十日內閣奉

上諭京師入夏以來未得連雨農田望澤孔殷宜申  
虔禱以冀連沛甘露著道遠道眾在

黑龍潭祈禱道遠僧眾在覺生寺誦經均於十四

日開壇朕於是日親詣

黑龍潭拈香著泳豫堃在彼常川住宿並派載

坦奕給師傅恩華分為兩班輪班住宿上香禮懺等事

派傅親王綿愷前柱拈香派 長良 在彼常川住

宿並派春山位明成善吉祥保分為兩班輪班住宿

上香行禮並著泳奕綺在清漪園

龍神廟奕綰在靜明園

龍神廟拈香

宣仁廟

凝和廟著派慶郡王綿慈

昭顯廟

時應宮著派惠郡王綿愉拈香所有派出之王大臣

等俱著先期齋宿十四日分詣行禮欽此

474 查新<sup>新</sup>東兩澤設壇後每壇應請

欽派內務府大臣或三卿一員在彼常川住宿王貝

勤員于公及散秩大臣等每理四員分班住宿  
上香行禮<sub>臣</sub>等謹擬寫空名

諭旨並將宗人府內務府侍衛處送到各名牌道

呈恭候

欽派謹

奏

475 道光十六年四月初十日內閣奉

上諭著派睿親王仁壽於十四日<sub>光緒</sub>前往密雲縣<sub>各日</sub>看

白龍潭拈香並發大藏香二炷文仁壽祇領度祈

雨澤欽此

476 道光十六年四月初十日內閣奉

上諭陶澍等奏銅鉛船隻棹滑行走請歸糧道總運

各員一體催償一摺前因銅鉛運糧近令其揀入滑

槽行走茲據該督等查明銅鉛重運易於阻壓滑

艘非歸滑負稽查彈壓不足以資約束著照所請

嗣後棹滑行走之銅鉛船隻覈其跟接何幫何船

即歸該幫船之押運總運糧道一體彈壓催償如

有無故停留以致滑船稽阻即由滑運負弁將該  
船頭舵水手嚴提責懲並將該運負煎催償不力  
例各處以專責成而速運行欽此

477 道光十六年四月初十日內閣奉

上諭奕經奏請甄表老各員勅休一摺所奏甚是

或京臣流河漢軍佐領謙善等七員經該將軍調

取考驗始具呈請確任養病實屬表裏懇懇甚

史進祿周得煥扎隆阿依蘭保福珠隆阿張琦俱

著勅令休致該部知道欽此

478 道光十六年四月初十日奉

旨著禮部查覈具奏欽此

年老舉人三場元後

479 道光十六年四月十一日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨著先道光十年以前民欠

銀糧令該將軍內尹督撫等查明開單具奏核撥

良查明道光十年以前民欠雜項數目開單呈覽  
當文戶部覆覆益撫查明具奏河南省所有民欠  
倉穀五萬七千三百九十餘石及上年奏銷各年  
隨本冊內未完錢徵銀二十九萬三千七百餘兩  
委係實在在民之數著加息一律豁免該撫卽刊  
刻牌黃通行曉諭並照例按戶付給免單嚴禁吏  
胥影射需索等弊務令實惠民困到朕推恩布聞  
至意餘著照所議辦理該部知道欽此

480 道光十六年四月十一日奉

旨陳元隆卽陳二齡聘張七嘴子王四李六卽李文  
通張瑞恒王國用周典居斌俱著吏刑部審訊其  
未獲各犯仍飭嚴拏務獲欽此

481 道光十六年四月十一日奉

旨此案黑龍江正白旗公中佐顧木通阿正藍旗防  
聖胡孫布鎮紅旗騎校富興阿銀藍旗騎校  
宜昌阿所得罰俸處分除木通阿胡孫布所得應

鎮不鎮各五十私罪例不該概外其餘各該員罰  
俸處分係公罪俱著准其抵銷餘依議欽此

482 道光十六年四月十一日內閣奉

上諭頭勝伊奏揀員調補苗疆要缺知縣一摺著照  
所請貴州荔波縣知縣員缺准其以舒文調補該  
部知道欽此

483 道光十六年四月十一日奉

旨這河春虧短銀數之已故府歷劉蔭棠前者青田  
縣任內實缺交庫項銀一萬三千二百五十七兩  
零倉穀至四百四十石之多著該撫提集伊子劉  
忻之及丁胥人等嚴究查追該故員原籍家產及  
寓所資財著一併查封備抵欽此

484 道光十六年四月十一日內閣奉

上諭高爾恭額奏請動項修築濱海塘工一摺浙江  
紹興府屬山陰蕭山上虞三縣內築土塊石塘為  
田廬保障上年七八月間潮水衝擊聞被淤却據



該撫查明山陰縣三江閘等處心字等號坍卸柴塘塊坦一百六十丈應照舊錄柴塹基添加石橋其掃好爵三疏土塘六十丈積沙刷盡應改建柴塘並於塘外堆石釘橋以資擁護按例估需工料銀六千五百七十八兩零蕭山縣西江塘菓七房等處字字號閘段淤卸塊石塘工三百一十一丈應照舊錄後按例估需工料銀二千九百五兩零上虞縣呂家埠等處字字號坍塌柴塘閘共二百六十五丈應加錄修築並加幫錢土塘外添石加橋拋堆塊石以為外護按例估需工料銀六千八百六十二兩零該三縣濱臨江海均屬刻不可緩之工著即趕緊興修以禦大汛其估需工料銀兩准其在於尚塘專款項下動支給辦該撫仍飭司道督率廳縣分別趕辦務期工堅料實毋任草率偷減工竣嚴實驗收照例保固該部知道單併發欵

此

485 查軍機章京刑部有外郎徐思榮出缺所遺章京一缺應以考取

記名之內閣中書何桂馨充補授  
奏

486 軍機大臣 字寄

湖南巡撫裕 道光十六年四月十二日奉

上諭前閱裕泰年終密考摺內有貴州黎平府知府張鳳翮人尚平穩從前亦知奮勉自調任黎平後以缺苦事繁請務類預毫無振作苗疆重地未便任其惰誤應請勒令休致等語朕意該撫自當另摺具奏或列入計典甄別乃事閱數月既未據專摺奏參大計本內亦未列入未便據密考數語即將該員降旨勒令休致著裕泰將該員如何不能勝任之處據實覆奏將此諭令知之欽此道  
旨寄信前來

硃

487

黎平府知府張鳳翮人尚平穩從前亦知奮勉自調任黎平後以缺苦事繁請務類預毫無振作苗疆重地未便任其惰誤應請勒令休致

硃

488 道光十六年四月十二日內閣奉  
上諭立魏接察使負缺著龍澤溥補授欽此

489 道光十六年四月十二日內閣奉

上諭前據給事中朱逢吉奏廣西省關冗濫私各員並舉友欺賄官等語著恩銘趙武奎前往嚴密查辦茲據恩銘等查明南寧府同知慶吉訊無收受上司銀兩及與該編家丁李四換帖各情事惟稽保解官暨接濟氏食報違人於附近地方收買私鹽一萬餘斤裝運信實究係無引私鹽該員以職官販私又復捏稟朦詳情殊狡詐慶吉著即革職發往軍臺効力贖罪濟州府知府孫世昂於稅賦失火燒斃人命災毀牌廠不即詳報私自行撫卹賠修完結又於獲左江道任內所屬暨獲私鹽之案並不照例究辦概據稟轉請銷案辦事類項步履又復難派著即勒令休致俱交府知府恒培說明尚無劣蹟惟詳允庫項勒令伊子監兌究屬不合著即交部議處廣西巡撫憲吉於家人李四既居著外吸食鴉片烟未能覺察著交部議

處前任巡撫祁項藩司鄭祖琛前者盟法道下獄於慶吉案獲私鹽種行給價免究並不明白指介率行批發前任臬司阿勒清阿無據慶吉控稟率准銷案均著交部分別議處餘著照所議完結欽此

490 道光十六年四月十二日內閣奉

上諭前據太僕寺少卿馮賢勳奏廣西空化縣知縣楊時行署任月餘責能數命當交恩銘趙武奎秉公確查具奏茲據復奏查明該員到任後辦結<sup>二</sup>結案或係匪犯監斃或薄責滿杖發落並無濫刑斃命情事楊時行著毋庸議欽此

491 道光十六年四月十二日內閣奉

上諭憲吉著來京另候簡用廣西巡撫著梁章鉅補授直隸布政使<sup>二</sup>著陳崇禮補授欽此

492 道光十六年四月十二日奉

旨據黃祺頤等銜銜賞成錄紅襪二等銜銜等項係革職留任處分俱著准其開復欽此

493 道光十六年四月十二日內閣奉

上諭琦善奏道員患病請開缺回旗調理一摺直隸永定河道文冲著准其開缺回旗調理欽此

494 道光十六年四月十二日內閣奉

上諭琦善奏泰五相集揚之知縣外委請分別解任革職審辦一摺已升大興縣京縣知縣五隸臨城縣知縣陳道隆著解任衡水汛外委著臨城汛外委孫岳著革職交該督歸案審辦該部知道欽此

495 道光十六年四月十二日內閣奉

上諭琦善奏續增官制船隻齊集楊村請派大員查驗一摺著派那斯洪阿吳芳涵前往查驗欽此

496 道光十六年四月十二日奉

旨此案著交林則徐督同臬司裕祿親提人證卷宗秉公嚴審按律定擬具奏原告軍安知該部照例解往備質欽此

497 道光十六年四月十二日奉

旨此案著交陶澍督同臬司裕祿親提人證卷宗秉公嚴審按律定擬具奏被告王禮魁該部照例解往備質欽此

498 本月十一日兵部將保舉堪勝陸路總兵之題

補中營副將李霖帶領引

見奉

旨交軍機處記名

499 軍機大臣 字寄

直隸總督琦 道光十六年四月十三日奉

上諭昨據琦善奏永定河道文冲患病請回旗調理已明降諭旨准行朕恐永定河道專司河務修防樞宜察閱緊要必須熟悉河工之員方能勝任著琦善於直隸現任道員內何人堪以調補或現任知府內何人堪以升補據實保奏候朕簡放再原任雲南迤東道張苑東前在直隸有年該員是否諳練河務著一併據實覆奏將此諭令知之欽此

遣

旨寄信前來

500 道光十六年四月十三日內閣奉

硃 上諭福建督糧道有缺著裕元補授欽此

501 查福建督糧道托洋布昨蒙

簡放直隸按察使所遺員缺例應請

旨簡放等謹擬寫空名

諭旨並各項應用道員名單一併進

呈伏候

簡放再福建督糧道係銜繁難要缺謹

奏

502 在部候補候選道貢名單

廖鴻藻 福建進士年五十五歲原任江西督糧道高岳北都制鹿

胡錫 河南進士年六十三歲原任湖南鹽法長寶道本

方傳綏 安徽進士年六十二歲原任浙江寧紹台道履歷赴部候補

張範東 山東進士年六十五歲原任雲南迤東道因案再調北都引

那丹珠 福建福州府晉江縣人年五十二歲原任浙江金衢嚴道丁憂回籍新引

春慶 正藍旗滿洲人年五十七歲原任雲南迤東道因案再調新引

呈麟 正藍旗滿洲進士年四十八歲原任廣西左江道因案再調新引

503 道光十四年四月十三日內閣奉

上諭東甌奏請借撥庫款籌辦委工等語東河黃

沁下南二廳堰壩各工近因河勢變遷情形險要

自應乘時修築以禦歲漲據該河督查明北岸黃

沁廳屬唐郭汛攔黃堰工尾向有挑水壩年久坍塌現經飭屬購備航塊拋築航壩溜勢漸歸循順

又於七壩下築桃壩一道並修補已塌之八壩截

壩復於空檔築壩三道層層托溜除由道庫籌墊

銀兩外尚需購耗銀三萬兩南岸下南廳祥符上

汛黑堰工十九堡舊有蓋壩一道陸續坍塌現用

乾石裹護並接築壩堰又把築航壩自該汛起至

陳留汛止估築土壩並將舊有壩格加高接長擇

要幫培戗截逆攔護以免突重約需工銀四萬

八千六百餘兩著照所請准其在於河南藩庫暫

行借撥銀七萬八千六百兩該河督即飭各該道

駐工督辦務於大汛前一律完竣所借銀兩統俟  
霜後於泰佑來年另募土工及六成碑石項下扣  
撥還款以濟要工而歸搏節該部知道欽此

504 道光十六年四月十三日內閣奉

上諭凱音布等奏廢員再留五年期滿一摺牛元錕  
著准其釋回欽此

505 查覆試貢士應請

簡汰閱卷大臣除另有差使及應行迴避各員俱不

開列外謹繕寫名單進

呈伏候

欽此於十四日清晨

發下傳集各員曉候宣

旨再上屆閱卷欽奉

派出九人謹

奏

殊

506

○既元

○釋形阿

殊

江守和

王宗誠

○史致儼

○李宗勛

○相恩澤

○車東恬

○廖鴻奎

○劉樹士

○桃元之

○朱鳴

○蔣立鏞

○功善

○解魁

○毛式介

507 道光十二年己丑科散館

清書題

夫顏子之樂非樂單歌隨卷也不以貧窶累其  
心而改其樂也曰其樂則茲於內者深曰不改

則積於中者固我夫子蔬食飲水曲肱而枕亦  
嘗言樂舜寧蓋聖人之心渾然天理雖處困極  
而樂自無不在焉顏子雖未能造乎斯境然處  
貧境而安則視富貴乎何有亦幾於由賢而希  
聖矣詩云衡門棲遲泌水樂飢其此之謂與觀  
顏子之學其庶幾乎得天也真信道也篤誠不  
愧聖門之高弟也至其明用合問為邦樂道之  
境至於此極夫子一再賢之不亦宜乎

漢書題

木從繩賦 以刑中而應大亨以正為類

賦得花邊鳥趁花香蜂 得花字五言八韻

道光十三年壬辰科散館

清書題

仁義禮信天下之達道而王霸之所同也夫王  
之與霸其所以用者則同而其所名者則異何  
也蓋其心而已矣其心異則其事異其事異則  
其功異其功異則其名不得不異也王者之道  
其心非有求於天下也所以為仁義禮信者以  
為吾所當為而已矣以仁義禮信修其身而後

之政則天下莫不化之也故王者之治知為之  
於此不知求之於彼而彼固已化矣霸者之道  
則不然其心未嘗仁也而慮天下惡其不仁於  
是示之以仁其心未嘗義也而慮天下惡其不  
義於是示之以義其於禮信亦若是而已矣是  
故霸者之心為利而假王者之道以示其所欲  
而遂其所欲也惟恐民之不知而天下之不聞  
也故曰其心異也

漢書題

三無私賦 以實乎天德之始終為類

賦得綠葉成陰雨洗春 得陰字五言八韻

道光十五年癸巳科散館

清書題

德者得也行道而有得於心者也是以立身之  
道修德為貴然則欲修德者宜易言哉必先節嗜  
欲以安其望修齊以正其身已不欲勿施於人  
人有技必反諸己常存忠信之性永守儉節之  
風如此則內無爭門而外無暴亂斯可以修德  
矣且大德者無聲無色且積至微放之則彌六

合卷之列廷哉於密有父母斯民之責者所當  
時時保存而不可掉以輕心者也故既能修德  
則以德型家而家治以德化國而國安古昔先  
王是極空微能以天下為一家中國為一人者  
夫豈外是乎

漢書題

君臣同德賦以任官惟賢才為韻  
賦得拾錢得銅字五言八韻

508 軍機大臣 字寄

密雲副都統佈 道光十六年四月十四日奉  
上諭前因京畿賊匪甚股令審親王仁壽前往密雲  
縣

白龍潭皮誠祈禱昨日陰雲廣布雨勢驟密相聞  
入夜雷雨交作澍澤滂沛近畿地方自己一律均  
霑著發去大藏香二炷交密雲副都統佈勒亨詣  
白龍潭敬謹報謝以答  
神貺將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

509 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭禮祥奏懇恩分別緩徵一摺山東省登萊青等  
府屬上年秋成歉薄民力未裕所有本年應徵上  
忙錢糧除業經降旨緩徵外據該撫體察情形或  
因而澤稀少或因地上瘠薄均未一律豐收自應  
分別核辦加恩著照所請所有益都臨淄諸城安  
邱臨朐昌樂等六縣應徵本年上忙新賦著緩至  
道光十六年麥後徵高花博興樂安壽光博山  
掖縣平度昌邑濰縣膠州高密即墨蓬萊萊蕪福  
山棲霞松遼萊陽寧海文登萊城海陽等二十二  
州縣除青黃不接業內業經緩徵村莊外其餘閭  
閻各村莊應徵本年上忙新賦均著緩至道光十  
六年秋後估徵以上緩徵新賦各州縣應帶徵道  
光十五年未完及秋交原緩並歷年舊欠緩徵錢  
糧漕項臨德等倉民佃監探出借倉穀籽種等項  
均著緩至道光十六年秋後各按最先年分遞年  
依次帶徵一年以紓民力該撫即刊刻謄黃運行  
曉諭務令實惠及民毋任吏胥弄弊用副朕軫念  
畿區至意該部知道欽此

510 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭楊名聰奏請將道倉尾欠及上年秋糧邊緩徵收一摺陝西西安等府州屬連歲歉收聞既足善義若將新舊錢糧同時併徵民力實有未逮如恩著照舊辦有西安同州乾州等府州屬應完道光十四年尾欠糧七千五百十五石零著准其緩至本年秋後徵收其十五年未完秋糧二萬四千六百四十一石零著准其緩至十七年秋後帶徵以紓民力該撫即刊刻謄黃通行曉諭務期實惠及民毋任吏胥舞弊用副朕軫念歎區至意餘著照所議辦理該部知道欽此

511 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭前因京師望澤甚殷朕定期親詣黑龍潭度中所禱並派情親王紳懼等分詣覺生寺清漪園

龍神廟靜明園

龍神廟

宣仁廟

凝和廟

昭顯廟

時應宮冬廡拓考昨日辰刻陰雲密布雨勢驟密相聞入夜子時雷雨交作對澤潯近畿一帶普被優霽仰荷

吳慈垂佑實深寅感著派定親王奕劻于十五日前詣

黑龍潭敬謹報謝其覺生寺及清漪園

龍神廟靜明園

龍神廟

宣仁廟

凝和廟

昭顯廟

時應宮著原派之情親王紳懼等于十五日分詣致

謝發出大藏香者定親王奕劻等祇領以伸誠敬

而著

神麻欽此

512 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭向東武職引見遇有召詣平常之員朕必傳其



升階或劾于處分其有緝捕勤奮亦必量加甄叙  
昨兵部特升署安海州營都司王夢熊帶領引  
見核實前無異詳請奉應駁下但念該員前在守備  
任內曾獲盜案二十餘名私鹽十五萬餘斤著有  
微勞是以降旨仍准其升署都司其緝捕之案不  
復加恩既敘職俾情酌理一乘大公務昭平允嗣  
後武職若負盡心職守固當以緝捕為先不應以  
弓馬為重其若勤加練習以副朕望飭戎行至意  
欽此

513 道光十六年四月十四日內閣奉  
上諭浙江嘉興府知府負缺著伊克精額補授欽此

514 查浙江嘉興府瑞元昨蒙

簡放福建督糧道所遺負缺例應請

旨簡放臣等謹擬寫空名

諭旨並各項應用知府人負名單一併進

呈伏候

簡放再嘉興府係衝繁疲難最要缺謹

奏

515 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭前據吳椿等奏浙江海塘工完竣當降旨飭  
令擇其在工尤為出力之員酌量保奏茲據吳椿  
等查明開單呈覽自應量予恩施以示鼓勵浙江  
祝嘉湖道實欽峻著交部從優議叙揀發道全洙  
著遇有閩浙兩省道員缺出奏明補用揀發知府  
伊克精額兵俊民著遇有閩浙兩省知府缺出奏  
請補用試用知府于鼎培著以本省中簡知府儘  
先補用石浦同知鄧廷彩著俟再滿三年以本省  
應升之缺儘先升用東塘海防同知王德寬西塘  
海防同知于高齡著免其報滿以本省應升之缺  
儘先升用鹽運司運司李華著以應升之缺即行  
升用前任嘉興府通判羅鏗著俟服闋後儘先選  
用鎮海縣知縣李超咸著以本省應升之缺即行  
升用改補縣丞汪仲洋著俟本班補缺後留浙以  
應升之缺儘先升用黃巖縣縣丞任應祥著以應  
升之缺升用升署海防營守備朱大榮著賞加都  
司銜餘著照所議辦理該部知道單併發欽此

516 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭吳椿等奏紳士捐輸工需懇予獎勵一摺浙江  
修築海塘該省紳富踴躍捐輸與辦挑河整頓等  
工尚屬急公好義自應量予恩施所有捐銀三萬  
兩之捐職知府瞿世瑛捐銀二千兩之生員翁先  
與各捐銀一千五百兩之捐職布政司理閻陳守  
擬捐職布政司姪應陳有聲捐銀四百五十兩之  
報捐道銜馬洵即馬恩洵監生閻學義捐銀三百  
兩之監生史繼善均著交部照例分別議敘以示  
鼓勵此項捐辦工程著免其造冊報銷該部知道  
欽此

517 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭鍾祥奏請將統兵暫後陞見等語升任山東兗  
州鎮總兵水孔阿著即赴兗州鎮本任俟糧船竣  
再行赴京陛見首任兗州鎮總兵補而甯鎮總兵官  
與阿著俟水孔阿到任交代完畢即赴新任欽此

518 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭鍾祥奏選員調補要缺知縣一摺著照所請山

東泰安縣知縣員缺准其以薩靈阿調補該部知  
道欽此

519 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭鍾祥奏山東省水師之員差委請飭備守備二  
員著兵部於外省海外海水師缺保候補各員內酌  
撥守備二員以資差遣該部知道欽此

### 硃

520 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭鄂臣積奏委署親兵之副將因病呈請回旗調  
理並飭部署鎮篆之擬正副將仍回署任一摺署  
廣西右江鎮義安協副將善成著准其開缺回旗  
調理所有右江鎮親兵員缺仍著滿承儲署理餘  
著照所議辦理該部知道欽此

521 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭楊名龜奏據員調補南山要缺知縣一摺著照  
所請陝西鎮安縣知縣員缺准其以劉養鋒調補  
該部知道欽此

522 道光十六年四月十四日內閣奉

上諭楊名颺奏知縣人地未宜請酌量裁撤一摺著照所請陝西隴南縣知縣准其以許履京調補所遺安定縣知縣員缺即以許漢封調補欽此

523 既壽彭阿文復學程應澤等呈請免其卷無元卷等語

奏蒙

發下覆試卷一百七十三本 臣等公同詳閱分別等第名次擬一等十八名二等四十八名三等一百七名謹於卷面黏簽恭呈

御覽伏候

欽定候

發下後再行拆閱彌封另繕名單進

呈謹

奏

524 一等十八名

徐士毅

徐文藻

何冠英

李汝燭

何緒基

孔慶錫

翁祖烈

梁敬事

朱城

王發桂

李藻

徐瀛

鍾醒泉

韋坦

嚴圻

梁瀚

沈兆霖

翁孝濟

二等四十八名

張春育

路璋 興肇新 劉澆 熊浦雲 溫文木 朱文健 趙楫 蘇敬衡 莊緝度 蔡凱武 呂儉孫 江結儀 陳守中 吳步韓 林鴻年 邱家燧 陸以滋 周路 路鎮莊

劉維禧 陳模 李本仁 李道生 唐李杜 聶杰生 葛成 丁楚玉 董用威 唐景鐘 楊龍松 孔繼鏢 周沐澗 周毓桂 查彬 斌桐 甄檢 劉映丹 郭沛霖

王通昭  
羅源一  
梁同新  
張錫庚  
馮志沂  
唐廷煥  
羅洪慶  
林懋勳  
孫瑞齡  
三等一百七名  
黃玉階  
趙坦  
謝本嵩  
李延福  
孫曰厚  
王允灌  
郭世亨  
張樹德  
張兆熊

俞汝本  
楊家冕  
玉山  
晉德布  
翟松  
陳昂  
余遂生  
李清鳳  
謝榮珠  
石鳳揚  
高熊夢  
謝雲華  
周祖銜  
潘政舉  
許源  
江健  
吳文藻  
蔡五辰  
祝祐

唐武  
伍潘祥  
楊天柱  
許師喜  
李鏢  
羅鳳儀  
張雨田  
徐方杰  
李光鈺  
劉濤  
梅棠  
許漢騫  
徐之銘  
吳華淳  
黃紹芳  
王啟曾  
黃士箕  
朱德澄  
嚴評

承齡  
張行魁  
牟行鍊  
胡林翼  
孫家襄  
慶慶  
福雲林  
福始  
胡睿  
周源結  
張棟  
朱慈魚  
彭久餘  
史樸  
余思詔  
李學瑾  
曹典仁  
韓象鼎  
莊俊元

梁述孔  
溫鵬耕  
章達甲  
朱守方  
桃林齋  
張叔  
蘇鳳鳴  
徐榮  
梁協南  
蘇學便  
瑞慶  
敖右賢  
丁浩  
朱朝珩  
陳寬  
丁雲章  
喻懷仁  
咸元  
何名儒

陳信氏  
黃玉鴻  
崔敬修  
李挺蒼  
孫宗禮  
郭紹曾  
黃賜奮  
徐廣鈞  
吳敏  
文炳符  
咸孚  
謝元一  
盧昌輔  
楊進賓  
朱為霖  
夏子齡  
彭以竺  
敖星煌  
陳騷

王慶相

王翔清

張鴻遠

525 軍機大臣 字寄

倉場侍郎 王 道光十六年四月十五日

介

上諭本日據都察院奏通州民人陳錦榮具控中倉甲斗倪亮等影射朋充把持倉務一摺業已有旨交刑部審訊矣此業據該民人在都察院結稱曾於本年春間在倉場衙門兩次具呈控告業聞齊後據充舞樊無論虛實應確切查明該衙門何以俱未核准理著鐵麟王斐堂明白迴奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

526 道光十六年四月十五日內閣奉

上諭陶澍奏查明京控案擬解送延職名請交部議處一摺江蘇睢寧縣房案詳調知縣劉興權著交部照例議處單併發欽此

527 道光十六年四月十五日內閣奉

上諭程祖洛等奏現獲蕭烏為曾武等犯提省審辦一摺曾武一犯糾夥劫竊實為洋面盜首前因聞拿竄匿屢經降旨飭令該督等設法緝辦務期必獲茲據奏稱先後拿獲蕭烏烏並陳沈之弟陳烏陳啟等三犯並向曾紀之妻康氏究出曾武曾紀下落據該縣營文武負弁將曾武曾紀認明指拿到案除此海洋巨盜甚屬可嘉曾馬養一犯雖據曾武供稱業經病故究難憑信該督等仍當密飭查訪務得實據不得違隱曾武一面之詞數今該犯酒醒呈向各該犯確切究明此外夥黨共有若干人現在竄匿何處務即按名查拿毋稍疎懈以安商旅而肅洋面所有拿獲著名巨盜文武各負弁著該督等擇其尤為出力者酌量保奏毋許冒濫餘著照所議辦理欽此

528 道光十六年四月十五日內閣奉

上諭祥康等奏查明金州等城旗丁私赴雙城堡地方耕作並無佔墾一摺前因金州等旗旗丁私往



雙城堡地方耕作有無佔碍移駐京旗之屬合該將軍等查明具奏茲據祥康等奏稱雙城堡京旗房地各有分定準數均有界限此次旗丁由金州等處私行來堡採食其先丁者係頂本地丁缺未充丁者幫同耕作于將來移駐京旗並無佔碍著照該將軍等所議每年由熱去到都統飭諭金州等處該管各官分晰造具細冊各該衙門隨時稽查如嚴與冊造相符仍將一年移來丁口內充補正丁者若干現作幫丁者若干分別咨覆以杜章流惟是金州等處同保旗丁既不佔碍移駐京旗生業自可照樣辦行之既久難保無內地民人潛往該堡影射膏混應嚴查禁止倘有如此等弊一經查出定將該將軍及該管官重治以應得之咎決不寬貸欽此

529 道光十六年四月十五日內閣奉

上諭昨據吳椿等奏浙江海塘工竣酌係出力人員已降旨加恩將在上出力各員分別給予議敘交吳椿等經理海塘工程督率有方茲當全工完竣宜予恩施吳椿烏爾恭額俱著交部議敘欽此

530 道光十六年四月十五日內閣奉

旨此案著交色卜星額親提人證卷宗秉公嚴密按律定擬具奏原告趙人等該部照例解往備質欽此

531 道光十六年四月十五日內閣奉

旨陳錦榮著交刑部審訊欽此

532 臣等謹將交卷卷宗原卷呈請御覽等因欽此

奏本日臣等奉

旨將本科會試中式貢士原卷與覆試一二三等卷逐細查對文理筆蹟均屬相符謹

533 道光十六年四月十六日內閣奉

旨新進士著於本月二十八日在保和殿朝考欽此

534 軍機大臣 字寄

欽差尚書恩 侍郎趙 道光十六年四月十六日

春

上諭有人奏淮揚道屬山清外河同知于頤發久恙  
瘋痺不能赴工淮徐道屬宿南通列程國梁老耄  
昏病公事廢弛淮海道屬山安南岸同知熊增銳  
子營私坐廢要工等語河防重地豈容衰劣之員  
濫竽充數致滋貽誤著恩銘趙盛奎於查辦廣東  
事竣後馳赴清江浦即將所捐各員嚴密查訪倘  
實係衰庸不職著即據實奏奉母稍隱飾將此諭  
令知之欽此遵

旨寄信前來

535 道光十六年四月十六日內閣本

上諭前據黃壽滋奏漕河積弊並請復沐巡視御史  
常降旨交大學士畢懋良大臣會同該部議奏茲據  
會該具奏朕詳加披閱漕河為國家重務該官分  
職大小相維立法極為周備每歲軍船連橋北上  
征恩黃運各河值價皆立修防批潛在在均關緊  
要在事大小臣工及地方文武員弁果能不分畛  
域認真經理免煩自可敏戢運道自可暢通且漕

河各督臣具有專責若派復御史稽查隨事札商  
不惟坐失機宜轉恐易滋推卸所有奏請復派御  
史之處著無庸議至水手發給腰牌原所以杜混  
冒著各該督撫等嚴飭漕河運弁及地方文武各  
官隨時認真查察倘有隱匿腰牌逃蕩為匪偽造  
腰牌冒充水手沿途滋事者一經查出均於應得  
本罪上加一等治罪漕河及地方官如能查拏完  
辦著照現定章程分別勸懲又運丁應領運費本  
足辦公近因各項陋規層層剝削以致丁力日疲  
疲黃括渠不能依限定為漕行之累著各該督撫  
通飭所屬隨地隨時確切查察倘有前項陋規立  
即嚴拿究治無稍姑息至漕船經過河道全在乎  
日稽於加籌方色絲至周章按河督等務飭所屬  
運將應營先事豫防不得仍前怠玩如有領項不  
即辦工致誤漕運者立即指名嚴參重治其罪近  
來河官陋習往往任權方幕把持浮估冒關關  
無弊不作該河督等惟當留心體察倘有舟等  
仍有前項弊端及幕友盤踞各岸射即行拿革嚴  
逐俾知警畏沿河舊有淤灘即經各該省查丈報

部惟歷年久遠近河一帶不無淤漲自應實力查勘分別報部升科據辦文工不准稍有隱匿並身管蕩管投有守備等官向歸淮海道統轄著即飭該道實力整頓如有弁兵影射欺蔽任民墾種收租並七留匪類等弊務即從嚴懲辦不符程於積習一味姑容總之有治人而後有治法所有現議章程該督撫等總當講求振作實力奉行倘經此次詳論之後仍不能破除情面痛改陋習但經嚴覺事隸漕務者惟潛且是問事隸河工者惟河且是問事隸經過地方者惟各督撫是問朕惟知執法從事不能倖邀寬典也凜之慎之將此通諭知之欽此

536

大學士公在齡等跪

奏為遵

旨會同議奏仰祈

聖鑒事道光十六年正月二十七日奉

上諭黃爵滋奏條陳漕河積弊並請復派巡視御史一摺著大學士軍機大臣會同該部議奏欽此

等查漕報為

天庾正供每歲各省軍船運糧北上經歷數千里之遙始抵道場中間南北運河修防挑濬歲費帑金總期報竣逾行無誤期限哉

朝於漕河重務設官分職大小相維立法極為周備就漕務而論統轄則有漕臣督運則有糧道以及總運之丞押運之備弁不下數十百員就河務而論東南兩河河道總督身膺重寄即所屬之道將廳營分汛分防各有專責從前雍正乾隆年間

特命御史前往分巡漕務兼視河工迨至道光二年以後此項人負未奉

特派十數年來相安無事從未聞有誤漕行即聞有水手滋事之案亦皆隨時查拏從嚴懲辦近復特命大學士等親各省督撫所奏約束水手章程會同議奏仰見我

皇上聖慮周詳杜漸防微之意臣等伏思漕河重務攸關緊要有治人而後有治法在事大小臣工及地方文武員弁果能不分畛域認真經理積

英自可消除允頑自可敝職又何待御史教責  
分道<sup>精</sup>查隨事辦恭維可收其實效况

國家建官本有定制若既經停派於前後議添增  
於後似亦無此政體且清河各督臣具有專責  
倘事事有成御史竊恐往返札商非特坐失機  
宜轉致互生推卸所有原奏請後巡視御史之  
處應毋庸議至河稱清河積弊各條<sup>臣</sup>等公同  
商酌速致嚴議恭呈

御覽

一嚴查官弁推諉匪徒混冒之弊原奏內稱水手  
冒為地方奸民登岸劫財奸民復冒水手名色  
肆行搶掠運官州縣互相推諉請申明處分並  
刊刻木榜嚴切曉諭水手滋事帶有腰牌准居  
民協同保甲稟官究治州縣有能從嚴究辦照  
例優叙即將漕弁記悉如無腰牌刻槍者<sup>嚴</sup>匪  
幫船漕河官弁隨時糾拿照拿獲鄰境盜犯例  
優叙州縣從嚴拿辦倘水手隱匿腰牌奸民偽  
造腰牌查出加等治罪等語<sup>臣</sup>等查該船水手  
類皆無業遊民穢悍性成刻奪是其故技迫遇

有報案漕河及地方文武官弁又復任意推卸  
巧避處分無任該匪徒等毫無顧忌日甚一日  
查定例水手發給腰牌原所以備稽查而杜混  
冒竊如可奏嗣後無論水路陸路一有搶劫之  
案先行查明該犯有無腰牌倘彼此冒充其圖  
藏匿如能牌拿到案即將漕河官弁及地方官  
分別查辦吏部查定例糧船水手聚眾滋事該  
管各官辦理安達等獲一名者紀錄一次二名者紀  
錄二次三名者紀錄三次四名者加一級等語應請  
嗣後如有糧船水手無論水路陸路搶劫案件  
地方官能拿獲究辦照拿獲糧船水手聚眾滋  
事例議叙兵部查定例糧船水手生事如有設  
立數名斂錢聚眾傳發溜子等事能立時拿獲  
究辦者免其失察處分其辦理安達之本管官  
每一名紀錄一次四名加一級再有多獲以次  
遞加至同案未獲獲犯之員查明果無諱飾規  
避情事仍照本例酌免議處各等語應請嗣後  
凡漕務<sup>河</sup>運弁及地方武職各官遇有拿獲搶劫  
案犯保有腰牌之水手即將地方武職照例每

一名紀錄一次四名加一級係無腰牌之奸民  
即將漕河運弁每一名紀錄一次四名加一級  
其自行穿履並倘等者均照例免其議處未經  
倘獲者仍照本例酌減定議其隱匿腰牌及偽  
造腰牌者一經查出加等治罪刑部查隱匿腰  
牌及偽造腰牌例無作何治罪明文自應另立  
專條以資引用應請嗣後種船水手有隱匿腰  
牌遊蕩為匪及隨幫匪徒有偽造腰牌冒充  
船水手沿途滋事者即於應得各本罪上加一等  
定斷其未經滋事為匪僅止隱匿及偽造腰牌  
者均照違制律杖一百加枷號一個月不得意  
存消折掩飾目前仍照例取具護送官及運官  
並無役害地方甘結該管各上司查有不實力  
遵辦者即據實嚴參從重懲處庶官弁聲知儆  
惕認真查察而奸徒無所涸跡矣

一 嚴查需索迺規貽誤限期之弊原奏內稱幫丁  
需索州縣迺規額外增添不能及早開行受允  
以後軍丁應領運費糧道總運各衙門以及領  
運幫官均有起扣迨至過淮標弁兵役及驗米

書并衙役茶果又各有費其水脚銀兩已銷八  
九自清江以上過閘有費渡黃有費自山東以  
至臨清天津復有渡夫役夫之費以致軍力益  
困

欽限查違又前漕臣朱為何所議飭提浙江江廣船  
隻先運瓜州口恐彼此爭先未能約束等語且  
等查嘉慶十五年嚴禁漕務題規

聖諭煌煌自應永遠恪守行哉若自受兌以至抵津層

層需費幫丁多一分起劑漕務即受一分擾累應請

飭下有漕各省督撫及漕運總督嚴飭所屬各將向

有陋規隨時隨地確切稽查倘有前項勒索情

弊立即嚴拿懲辦不得藉稱相沿已又一味姑容

致丁力日疲有誤漕運其各省幫船總領欽遵

諭旨限於四月初十日以前全數報備守候獲黃不

准節節耗延久逾期限至無論者分幫次先到

先進瓜州口趕緊赴淮盤驗原屬遲融辦理以

期迅速波黃惟不得因有催提之誤後此爭先

致滋弊端應速行益速而漕政肅清矣

一 嚴查官弁兵夫玩誤廢弛之弊原奏內稱河道

各員領幫辦工有名無實及至運道阻塞又復  
百計掩飾上年倒塘灌放該河應弁見黃水太  
高不敢開放臨時加健康幫數萬救濟船夫聚  
塘中水手滋事起燒多船可見各員弁怠玩於  
平日以致貽誤於臨時迨至溜船到塘始議加  
幫從前所領歲管不知開銷何款新工各員弁  
不學工程惟習迎合或私出印領或通融分肥  
本道既獲底據詳印河督何能實查又漕糧河  
管大半廢弛或有夫無堡或有堡無夫近來水  
手膽敢沿河搶劫淺祕各夫不事疏濬專索酒  
規因軍累運虛托狡控等語 等查治河所以  
治漕應派員弁果能平日留心稽查過有淤淺  
處所及早挑挖早修濬工來時加築保河身一  
律派通則糧艘暢行自可無渾何主聽事周章  
轉滋貽誤應請

飭下河道總督及沿河各督換嚴飭所屬道將應營  
務當先事豫籌防護挑漕倘因循怠玩耽擱積  
習及有專事迎合任意開銷領項不即開工者  
立即指名奏參重治其罪並派員人夫專事巡

防護送倘有虛冒錢糧或懸額不補等弊即將  
該管各員弁從重懲處不得令虛應故事致糜  
帑項而誤漕行

一嚴查房算把持浮估冒開之弊原奏內稱黃運  
湖河歲修領帑部例原有定額惟房算工程銀  
無定額工無定處雇員不能隨時疏濬運道臨  
時興挑另請加增夫役展開河面無非為浮開  
帑款之計又未料茶羊麻纆極極任其浮開  
數百拾獲別濫報數千已辦者因應開銷未撥  
考更可冒領料價則更請增添上方則中詳酌  
加從前之虧空可以彌補豫報之帑項可以通  
融免官庫貯去謀勾商分肥兼登則雇員護處  
罰賠庫貯轉脫身事外請嗣後遇有募及結堂  
把持及其父兄子姪盤踞各庫貯不即迴避者  
即送解回籍不准遊幕凡有此請庫貯者取具  
該幕及承管某官某衙門庫貯不敢舞弊冒領  
分肥侵帑誤公各介結報明督撫擬河以為後  
日追賠各等語工部查修河工錢糧為重而  
部中勾稽極據各該河督原奏清平為懲故凡

通方各工定例原奏內務叙明工程情形清  
第必計開工段丈尺並所用土方木料柴草運  
糧核擬例價做法各有專條不使稍有冒濫舊  
例固已周密近後恐辦理工程遲年增多未經  
奉令該河督將三年所用錢糧比較多寡開單  
具奏並不許另立專條名目原所以示限制不  
任浮冒也應請

飭下河道總督凡遇緊要應修各工務須隨時確切  
查勘覈實辦理不得任聽工員浮估冒濫以重  
帑項至所稱募及結黨把持及父兄子姪盤踞  
各庫貯舞弄奸詐者該督等自應飭屬屬嚴  
加驅逐如有發覺即當從重懲辦併知微畏至  
取具幕友不散舞弄印結報明督撫提河勿得  
奉行日久視為具文

一嚴查區報於蕩七留區類之弊原奏內稱修理  
河工積土而外料料家重柳枝蘆葦悉給于蕩  
地淤灘有產葦柴分採文工以二年一次清釐  
有淤墊即令開整迫開沿河各省新淤租地最  
多而江南海州山陽安東阜寧葦蕩各處除原

額產柴及先年民承墾種外蕩地更廣自嘉慶  
年間各督等並不遵照欽定例於二年清查  
聽附近居民占種不大明查墾墾料而江南蕩  
營弁兵舞弊更甚藉公影射任民墾種暗收租  
銀私賣蕩柴肥已營私故廳負弁於中取利欺  
蔽已極蕩七留區類作奸犯科無所不至蕩營  
邊界遼海盜賊不時出沒若任其恣匿不嚴飭  
該省道嚴督各港備弁上緊清查整頓營伍非  
獨不能加添料柴增廣額稅恐區類屯聚滋生  
事端為官不淺等語工部查江南蕩地淤灘前  
經兩江總督清文入官迨嘉慶二十一年復經  
該督查明海州安東阜寧三州縣沿海地畝分  
別墾料又有留營地畝節據該省結報產年不  
通工用亦經工部飭駁行令該河督速飭查明  
等部覈辦併二十五年該河督奏報有新淤開  
灘核辦柴禾歸官應用在案第歷年久遠近河  
一帶恐不無新有淤灘應請

飭下河道總督并沿河各省督撫轉飭屬實力查勘  
有無新淤灘地報部墾料或歸官採辦交工其

史河河北充沂通屬河灘應徵租銀前以未經  
造報工部已於上年行催應令該督等速飭直  
明報部王專管蕩管設有守備等官向歸淮海  
道統轄如有弁兵影射欺蔽任民墾種暗收租  
銀私賣蕩業肥已營私及屯留匪類作奸犯科  
等弊該督等即應隨時稽察實力整頓并責成  
該管道弁嚴行查緝勿稍寬縱

以上五條日等體察情形公同籌畫實為清河  
切要之務惟仿鑿之法不在科條之日畧而在  
經理之得人清河及經過地方大小文武官弁  
如果遵照定例及現議章程持之以恆體之以  
實不敢恣存積習不敢視為具文則聲勢聯絡  
才德自靈遇有不遵約束作奸犯科者即行株  
律懲辦何難主抱頰風庭請

飭下清河總督及各督撫通飭所屬痛改積習加意  
整頓倘經此次奏定之後仍有前獲弊端事隸  
漕務者惟漕日是問事隸河工者惟河日是問  
事隸經過地方者惟各督撫是問如此則政有  
專責無旁貸似較後設御史更無推卸之憂

庶積弊從此永除而清河保臻安穩以仰副  
皇上淳謨諒哉至意所有臣等會同義疏緣由是否

有當伏乞

皇上聖鑒謹

奏

道光十六年四月十六日

長齡

文孚

潘世恩

沅元

穆彰阿

王鼎

蒞歲奎

賽尚阿

湯金剛

桂輪

李宗坊

恩桂

車宗岳

宗室崇灝



王宗誠  
 賈善  
 廖鴻奎  
 溥治  
 史浩  
 成格  
 文致儼  
 廉敬  
 劉樹士  
 貴慶  
 姚元之  
 李聖敷  
 何遠漢  
 裕誠  
 吳保

537 臣等查本月十一日兵部帶領引  
 見人員內江南青山營守備陞任都司王夢熊一員  
 奉

旨飭查兵部該員履歷茲據該部來文內稱該員王

夢熊於十三年奏請升署安徽泗州營都司並

木聲明歷俸已滿例應實授業經奉

旨准其補授等語是以臣等於十四日擬寫

諭旨內照依來文書寫仍准其升署字樣茲據該部

將該員歷俸已滿例應實授給劄之處詢問前

來相應奏明請

旨傳知兵部仍遵照該部原奉

諭旨准其補授都司謹

奏

道光十六年四月十六日奉

硃批依議欽此

538 道光十六年四月十七日奉

旨違所奏隱匿人命不服相驗之歸化場監標大使

鄭惠青於幕友朱錫齡即朱雲浦在署自縊不由

地方官相驗輒私自殮埋迨經臨榆縣知縣覺羅

桂玉訪聞聞提復故例填覆文日期移縣並呈縣

堂堂聞實屬謬妄鄭惠青者先行革職交該督提

同全業人控卷宗嚴審確情按律定擬具奏欽此

539 道光十六年四月十七日內閣奉

上諭琦善奏和縣詳匪盜案不行勘辦稟報請旨  
革職一摺著直隸東安縣候補知縣楊之懷於房  
和振等三家被劫之案經委員往查始據稟報尚  
復詳核為竊前經降旨摘去頂帶勒限協緝並據  
該督著查明該署縣於三案之前先有王錦王殿  
臣被劫兩案經軍主職案不為任勘亦不稟報實  
屬玩愒不職楊之懷著即革職該督等仍嚴覈任  
知縣並將各案搶劫賊盜緝拿務獲究辦不准再  
有遲延該部知道欽此

540 道光十六年四月十七日內閣奉

上諭琦善奏請開復州縣頂帶等語直隸涿州知州  
趙庭椿河間縣知縣褚裕仁滄州知州李德蘭因  
緝捕不力降旨摘去頂帶茲據該督查明該州縣  
等被泰後獲犯多名緝捕尚知愧奮趙庭椿褚裕  
仁李德蘭著准其開復頂帶該部知道欽此

541 道光十六年四月十七日內閣奉

上諭琦善奏請甄覈營員等語直隸磁州彭城汛千

總辦得貴廣平營都鄂汛千總曹成前因俸滿引  
見降旨以守備升用回任候推並據該督查明該  
員曹成存自滿訓練不力實屬始勤終怠卽得貴  
曹成候著減去候推守備仍留千總以觀後效該  
部知道欽此

542 道光十六年四月十七日內閣奉

上諭高鴻奏熱河挑挖旱河完竣請簡派驗收一摺  
著派候補額駙榮桂就近驗收欽此

543 道光十六年四月十七日內閣奉

上諭御史易鏡清奏請剝慶外省管伍積弊一摺著  
兵部議奏欽此

544 臣奕紀賽尚阿跪

奏蒙

發下庶吉士散館卷五十三本內清字五本等公  
同閱看謹擬二等二名三等三名黏貼黃簽遵  
呈恭候

發下後臣等再拆彌封開寫名單恭呈

御覽謹

奏

545 清書二等二名

陳寶禾

江泰來

清書三等三名

戚維讓

黃紹先

杜翻

546 臣阮元王鼎程恩澤卓秉恬廖鴻基姚元三植潘錫恩跪

奏蒙

發下庶吉士散館卷五十三本內除清字卷五本先

已進

呈其漢字卷四十八本臣等公同閱看謹擬一等

十二名二等三十四名三等二名奉進

呈恭候

欽定後

發下後臣等再拆彌封開寫名單恭

呈

御覽謹

奏

547 一等十五名

陶慶增

羅傳鈞

孫德恩

張雲華

喻增高

劉鐸

許乃釗

張莘

吳式芬

朱琦

錫祉

錢福昌

呂賢基 原擬二十八名  
 曾瑜 原擬二十九名  
 舒文 原擬二十九名  
 二等三十一名  
 王清源  
 陳望 原擬三十名  
 喬晉芳 原擬四十一名  
 余春熙 原擬五十一名  
 陶思培 原擬六十一名  
 陳鶴年 原擬八十一名  
 周恩綬 原擬九十一名  
 葉瑞 原擬一百一十一名  
 劉源濟 原擬一百二十一名  
 張廷選 原擬一百三十一名  
 邨建猷 原擬一百五十一名  
 何桂清 原擬一百七十一名  
 春熙 原擬一百九十一名  
 陳壇 原擬二百一十一名  
 徐資乾 原擬二百三十一名

鄭敦禮 原擬二十八名  
 何裕承 原擬二十九名  
 趙振祚 原擬三十名  
 葉名琛 原擬三十一名  
 春 翰 原擬三十二名  
 朱憲曾 原擬三十三名  
 張傑 原擬三十四名  
 景霖 原擬三十五名  
 宋杞林 原擬三十六名  
 徐曼典 原擬三十七名  
 秦淳熙 原擬三十八名  
 宗室英淳 原擬三十九名  
 黃宗漢 原擬四十名  
 張景星 原擬四十一名  
 劉用賓 原擬四十二名  
 孔昭慈 原擬四十三名  
 三等二名  
 廖朝其  
 司徒煦

欽差尚書恩 侍郎趙 道光十六年四月十八日

奉

上諭有人奏廣東普寧縣知縣湯聘五徵收錢糧始  
需規費洋銀一千餘圓雖聽紳士莊桂通知門丁  
懲惡本官要洋銀五千圓該虞氏人習性強悍因  
派費不均互相爭鬥是以本年巡撫祁墳親往查  
辦又澄海縣知縣張文化縱酒廢事到任未及半  
載搶劫之案至四十餘起之多內有陳文忠家被  
劫報縣該知縣醉不能起僅委典史查勘反勒事  
主改劫為竊又歲貢生蔡姓家被劫已被賊馬拖  
打傷棄懸無獲此外各案俱置不問以致劫匪愈  
滋蹂躪等語地方官藉徵收名色任意索賈苦累  
閭閻釀成巨案嗜酒廢公積案不辦如果屬實自  
應嚴行參究以警官邪著恩銘趙或奎即將所指  
各情節嚴密訪查一經得實務即提同各案人證  
奏宗秉公查究據實奏參毋稍疏縱將此諭令知  
之欽此遵

旨寄信前來

河南巡撫桂 道光十六年四月十八日奉

上諭據中督賢奏山西介休縣革員李鎮五與李鐘  
域等互控家產一案所有案內最要之李鍾嶸一  
名現據該縣稟報聞赴河南中牟縣大義當舖籍  
匪等語著桂良即派委委員前往中牟縣地方密  
速查拏緝獲後一面奏聞一面解往山西歸案審  
辦毋任聞風遠颺將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

550 道光十六年四月十八日奉

旨鑄譯會試中式貢士著於本月二十二日在正大  
洗明殿覆試欽此

551 道光十六年四月十八日內閣奉

上諭伊犁布奏熱省武威需貢請揀發副將一員奉  
將一員游擊二員著兵部於候補候選人員內照  
例揀選帶領引見候旨發往欽此

552 道光十六年四月十八日內閣奉

上諭恩特亨額奏查獲糧船私帶違禁器械等語本年首二兩進幫船到淮經該清督派員會同該管廳弁按船搜獲違禁器械多件將各水手分別究辦可見各幫船私藏器械動輒運先係必有之事總由向來廢弛是以肆行無忌此次一遇搜查即能起獲無數辦理甚屬認真恩特亨額著交部議敘旗丁水手私帶烏槍該管運官例有失察處分此次會同搜獲尚無迴護所有該管廳弁以前失察處分著加恩寬免嗣後各幫船務當督令隨時搜查從嚴懲辦倘稍弛縱即行據實參處以肅清政欽此

553 道光十六年四月十八日內閣奉

上諭中啟賢奏請將現任候選縣令分別解任留質一摺山西稷山縣知縣易桐著解任交該撫提同人證嚴切實訊試用通判改捐知縣徐廷讓著如留該省歸案備質餘著照所議辦理欽此

554 道光十六年四月十八日奉

旨這所奏聖刑斃命之山西岳陽縣典史周結案於七畝縣解到徐金城擬滿桂二犯控行刑訊致程滿桂因傷身死周結案著即革職等因交該撫擬同全案人證嚴審確情核律定擬具奏欽此

555 道光十六年四月十九日內閣奉

上諭此次散館之修撰劉輝編修錢福昌業經授職其清書二甲庶吉士陳寶來杜相漢書二甲庶吉士陶慶增羅惇衍孫銘恩張雲藻喻增高許乃劉張蒂英式芬朱璿錫祉呂賢基賈瑜舒文王清選陳壘陶恩培周恩綬葉瑤劉源濬張廷選何桂清陳壇何裕承趙振祚葉名琛張鐸俱著授為編修清書三甲庶吉士江春來黃銘先漢書三甲庶吉士卞建猷景霖俱著授為檢討威維禮喬晉芳余春熙陳鶴年春熙徐清乾鄭敦謹春翰朱憲曾徐夔典宗室英淳黃宗漢俱著以部屬用崇祀林春淳照張景星劉用賓孔昭慈廖朝異司徒煦俱著以知縣即用欽此

556 道光十六年四月十九日乙未科散館庶吉士

見奉

旨授為翰林者三十四員以部屬用者十二員以知

縣用者七員

557 道光十六年四月十九日內閣奉

上諭直隸永定河道員缺著霍隆阿補授仍著琦善  
隨時留心察看該員果否能勝修防之任不敷貽  
誤要工毋稍違欽此

558 道光十六年四月十九日內閣奉

上諭陳階平奏查閱營伍情形一摺廣西賓州營守  
備袁忠陞久病不愈署上林營都司事方江麟標  
中營守備蕭世希因病不能騎射保著勒令休致  
餘依議該部知道欽此

559 道光十六年四月二十日內閣奉

上諭前據恩柱等奏本科會試年考舉人名數年在

八十及九十以上者共十名俱三場完竣未經中  
式茲據禮部查覆年相符開單呈覽該舉人等年  
逾耄耄志切觀光宜沛恩施以酬其皓首窮經之  
願所有九十以上之彭友林吳應星鄧建功周圭  
璋原年崔蓮李致梁陳清俱著加恩賞給翰林院  
檢討銜八十歲以上之蘇錫奎王世英俱著加恩  
賞給國子監學政銜用示朕嘉惠耆儒愛意欽此

560 道光十六年四月二十日奉

旨下斌阿勒清阿鄭祖琛著加恩改為降四級留任  
祁墳著改為降三級留任惠吉恒梧著罰俸一年  
均不准其抵銷欽此

561 道光十六年四月二十日內閣奉

上諭耆英等奏八旗幽僻地面情形一摺左右翼正  
副翼尉為步營未率之員八旗地面事無大小皆  
由該員等督辦現在八旗二十四圍山幽僻處所  
安設更房兵額各情形各旗辦理未能一律妥協  
左右翼正翼尉與泰圖薩布副翼尉秋前保蘇魯

禮著各降頂帶一級子限一年飭令將一切廢弛之處迅速整頓果能於限內辦理妥協即請開復頂帶倘仍因循疲玩著即將該員等嚴懲懲辦又另片奏嗣後步營官員過失酌量摘去頂帶以觀後效等語均著照所議辦理欽此

562 道光十六年四月二十日奉

旨昨據兵部將題補陝西靖遠協中軍都司劉奇帶領引見該員前不到班者不准其題補但念該員曾經出師著有微勞該督留心察看嗣後如果弓馬練習再行另請升補陝甘總督瑚松額著交部照例議處欽此

563 道光十六年四月二十日奉

旨此案著交刑部親提人證奏案東公嚴審按律定擬具奏原告貴道湯該部照例解往備質欽此

564 道光十六年四月二十日內閣奉

上諭文蔚等奏種有違休期滿備例保奏一摺管理

後職糧食試用知縣這一鵬於換辦著氏經營錢糧等事俱能妥協並無貽誤現屆三年期滿著准其遇有四川省知縣缺出儘先補用以示鼓勵該部知道欽此

565 道光十六年四月二十一日內閣奉

上諭鴻臚寺卿黃爵滋奏請重完州縣獎嚴命盜一摺州縣聽民之官於命盜重案務獲正兇正賊按律究辦方足以服民心而伸國法若如所奏近年以來命盜大案層見疊出除京控各案外其未及上陳狡展稽遲者每著多或千餘少亦數百牽引多人拖累多數命案則百計宕延盜案烈然費款尚復成何政體具各州縣逃軍擾害地方勾通差役結連匪黨罔禁命盜案件尤為緊要著各直省督撫遇有命盜之案必先明查暗訪如所屬州縣得賊縱兇辭詞延擱即據實嚴參其逃軍人犯除加等治罪外配所及本籍印官縱容留案者分別春處庶命盜理而刑政肅吏治日有起色矣將此通諭知之欽此



566 道光十六年四月二十一日奉

旨工部郎中履麟於上年二月在部呈請告假前赴  
武京料理家務茲據工部查明該員又違例限尚  
未回京銷假著武京將軍迅速查明該員現在何  
處迅速有無事故據實報部照例辦理欽此

567 道光十六年四月二十一日內閣奉

上諭烏爾恭額奏原籍浙江應否迴避一摺部  
甲名著無庸迴避欽此

568 道光十六年四月二十一日內閣奉

上諭烏爾恭額奏病痊知縣呈請改教一摺據發福  
成候補知縣周斌病後精神未起如舊自稱難履  
民社著准其改就教校俟病痊後該部知道欽此

569 道光十六年四月二十一日奉

旨道兩奉浙江已故平陽縣知縣黎應南虧短庫銀  
六千一百六十四兩零倉穀二萬二千五百六十  
一石零著該撫提集該故員親屬及丁胥人等確

切究追照例辦理該故員需所贖財及原籍家產  
著一併查封備抵欽此

570 道光十六年四月二十一日內閣奉

上諭周悅勝奏校閱營伍情形一摺直隸八溝營中  
軍守備王光中營伍未諳辦事遲鈍惟年力尚健  
著以千總降補以觀後效餘依議該部知道單  
發欽此

571 軍機大臣 字寄

兩江總督陶 道光十六年四月二十二日奉

上諭本日總管內務府奏查明兩淮現存變價參斤  
數目請將應交參價即行解交以濟支發一摺據  
稱交商變價參斤計自道光十二年起至十五年  
止共交去四等參三十二斤十兩大枝參七兩六  
錢五等參一百二十三斤一兩渣末六十六斤泡  
丁三十二斤私參參鬚等十九斤十一兩二分應  
年共交去參二百七十三斤十三兩六錢二分該  
督僅解到廣儲司銀五萬兩尚欠銀八十一萬七

千餘兩等語此項參斤變價銀兩應支各款勢所  
必領兩淮自十二年至十四年以來並無鈔引之  
案參勸係交商變價之物非生息利銀歸綱繳解  
可比四等參斤無論何處均易行銷何得延宕不  
即交價着陶澍詳查文去參斤若干應解參價若  
干迅速照數起解無誤支發而清積欠將此諭令  
知之欽此遵

旨寄信前來

572 道光十六年四月二十二日內閣奉

上諭本日召見樂善於吉林將軍缺分不甚相宜着  
留京當差祥康着以副都統銜署理吉林將軍欽  
此

573 道光十六年四月二十二日內閣奉

上諭寶興等奏通員升署要缺都司一摺著照所請  
四川軍標左營都司員缺准其以王正祥升署俟  
扣滿年限另請實授仍照例送部引見該部知道  
欽此

574 道光十六年四月二十二日內閣奉

上諭鄂山奏請將疎防候犯傷斃人命之管獄官革  
審一摺四川按察司司獄呂慶安於司監獄密視  
級重犯並不小心防範以致該犯李春等發回起  
解時口角滋事一死一傷實非尋常疎忽可比呂  
慶安著即革職交該督提同禁卒人等確審實情  
有無受賄鬆刑等弊澈底根究按律定擬具奏具  
題多嚴著文部議處欽此

575 道光十六年四月二十二日內閣奉

上諭桂良奏補例請補道員一摺河南南汝光道員  
缺准其以李凌雲署理照例試看期滿另請實授  
該部知道欽此

576 道光十六年四月二十二日內閣奉

上諭桂良奏請將年力就衰之恭膺勅令休致一摺  
河南歸德營參將李善光弓力甚軟兩耳重聽辦  
事未能周到着即勅令休致該部知道欽此

577 道光十六年四月二十四日內閣奉

上諭京師入夏以來春得透雨前經降旨設壇祈禱

朕定期親詣

黑龍潭拈香並派侍親王綿恆等分詣覺生寺等

處拈香雖經得有雷雨起未深遶農田望澤甚殷

朕心實深軫念應再虔誠祈禱以冀連沛甘霖著

派侍親王綿恆前詣

天神壇派惠郡王綿愉前詣

地祇壇派定親王奕紹前詣

大歲壇虔誠祈禱俱著先期齋宿於本月二十八日

分詣行禮所有一切應行典禮著各該衙門敬謹

豫備欽此

578 道光十六年四月二十四日內閣奉

上諭御史沈澄奏請飭禁降羊人負違例逗留藉端

保奏一摺各省羊職降調人員例應分別飭令回

籍及給咨赴部並容任其遷延觀望藉事夤緣是

以屢經降旨諭令該督撫等於此項人負不得賄

徇情面為見好色息地著該御史所奏近年各

省降羊之負並不回籍赴部往往逗留省垣覲

差使或干場上司妄希委署或囑托僚友遇事火

噬雖經離任仍復干豫公事藉圖開復又或勸助

勒索求飽囊索甚或放債漁利富留軍犯行止卑

鄙紛紛放尤是該督撫等但知徇庇屬員固顧政

體縱謂該省要務需人儘可於現任候補內選

差遣豈道省竟乏賢能專藉降羊人負始能成

事耶似此藉端取巧致開奔競之風於吏治官方

大有闕繫嗣後各督撫等務當破除陋習一秉至

公道有屬負回籍羊職者飭令回籍降調者給咨

赴部候補即有交代經手事件亦應照例勒限告

部辦理不得任意遷延妄生希冀經此次特諭之

後各督撫等如敢視為具文仍將此項人負留省

差委甚至登請薦贖吏部即行指參並將此旨載

入則例將此通諭知之欽此

579 軍機大臣 字寄

湖廣總督訥 道光十六年四月二十四日奉

上諭本日據訥爾經額由驛馳奏剿捕逆匪情形一

招覽奏均志逆犯藍正博即藍沅曠糾眾滋事經該督等督飭文武員弁先後殲擒千有餘名其餘各犯多已解散現一律肅清惟訊據張和尚陳仲湖等供稱是日夜間打敗道路昏黑實不知藍沅曠逃往何處其所供藍沅曠素日熟遊之地如廣西全州所屬地方之壽福寺苦鍊峯貓兒山等處現已派委員弁兵從前往知會該處協同跟拏尚未報獲逆首藍沅曠敢造作逆言聚眾倡亂實屬罪大惡極亟應搜拏務獲立正刑誅以彰國法而快人心本日已有旨諭令江西湖北廣東廣西四川貴州各督撫一體嚴拏無任竄匿惟念該逆未經被創以前恃有多人匪黨多人因敢負隅抗拒此時黨羽殲擒殆盡若竟逃往鄰近各省則勢孤力絀不難即日就擒該逆說請多端未必不計及於此設或恃有強峒深林密箐莫可潛蹤因而逃入箇中兵希免脫亦屬事所或有該督惟當剴切曉諭並懸賞購線務令附近軍民及各峒強人倘有該逆潛逃蹤跡即行轉獻到官立予重賞惟不可擅用兵力致滋擾累別生事端總期罪人

斯得不致倖逃法網方為妥善又另片奏恭將蘇清阿前往鎮寧密訪滋事首犯突於三月十九日黎明有賊匪數人持刀進寓將該恭將兇砍多傷並將靖州千總段芝蘭一併砍傷等語由此觀之已革鎮道廢弛地方尤屬可惡可恨著該督即行確切查明是否因該恭將等查辦認真不肯遷就匪徒恐致被獲因而乘間謀害似此肆意逞兇傷及官弁殊堪髮指不可不嚴行懲辦以警兇頑該督即明白曉諭務令安分兵勇將此次行兇要犯按名首出庶可寬減前次被感附和之罪斷不准意存消弭致首犯日久稽誅至蘇清阿設芝蘭如果查辦甚真並非激變現在傷痕曾否平復著一併查明據實具奏候朕施恩將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

580 軍機大臣 字寄

江西湖北廣東廣西四川貴州各督撫 道光十六年四月二十五日奉

上諭本日據訥爾經額由驛馳奏武岡州滋事首逆

蓋正構即藍沅曠尚未弋獲訊據從逆夥犯張和  
高哥供出藍沅曠素日熟遊之地內如廣西全州  
所屬地方之壽福寺苦鍊拳貓兒山等處等語此  
案首逆藍沅曠糾眾倡亂罪大惡極自應迅速拏  
獲立正典刑誅盜容倖逃法網著各該督撫等嚴  
飭所屬文武員弁務當不分畛域實力訪查倘有  
該逆潛匿境內立即設法捕擒解往湖南交詢爾  
經頭訊明懲辦以彰國法而快人心將此各諭令  
知之欽此遵

旨寄信前來

581 道光十六年四月二十五日內閣奉

上諭本日據湖南經頭由驛馳奏勦捕武岡州滋事  
匪徒已就肅清一摺此案湖南新寧縣逆匪藍正  
構即藍沅曠誘聚眾倡亂圍撲武岡州城先經  
該州管率領兵勇殲擒潰散復經該督督率地  
方文武員弁嚴行搜捕節次勦擒匪犯千有餘名  
並究明餘黨盡法懲治及分別按律辦理惟首逆  
藍沅曠尚未弋獲著該督等嚴飭所屬並密會鄰

省一體嚴拏務獲明正刑誅以快人心而彰國法  
該地方文武於上年十一月間既將習教傳徒之  
潘明德等犯拏獲本年正月間復經得有風聞並  
續獲逆犯吳立鵠等披時若能細心根究先事豫  
防即可消患未萌何至釀成巨案是該地方官失  
察之咎本無遺憾此次逆謀甫著即行殲除現  
已一律肅清不至重煩兵力辦理尚為迅速此時  
若即將首逆拏獲立正典刑所有該管地方文武  
失察處分自可量予末減倘不能實力搜查致該  
首逆日久稽誅仍當重治其罪其現獲各犯除業  
經正法外餘著刑部議具奏又另片奏此案軍  
需由該省籌款給發著照所議辦理免其造冊報  
銷該部知道欽此

582 道光十六年四月二十五日內閣奉

上諭湖南經頭奏請將擒獲賊匪之千總等弁鼓勵  
等語前因湖南武岡州賊匪滋事經該弁等殲  
擊退曾降旨交詢爾經頭查明據實保奏茲據該  
督奏稱當戴水驍王之時實保千總張春等先擒

苑一賊署守備世職趙昇恭開礮打苑多名以致賊表退淹水中徐田解散張大宏著加恩以守備即行升補並賞戴花翎趙昇恭著以守備即行補用至在事文武各員升著該督擇其尤為出力者奏請鼓勵無干旨該部知道欽此

583 道光十六年四月二十五日內閣奉

上諭舒廷楨等奏知縣人地未宜違負對調一摺著照所請廣東合浦縣知縣准其以李如允調補所遺長寧縣知縣負缺即以方士俊對調該部知道欽此

584 軍機大臣 字寄

浙江巡撫烏 道光十六年四月二十六日奉  
上諭烏爾恭額奏稱浙江省各屬民欠數內有先經官為墊完之項現奉恩旨豁免不能再徵原墊各款請覈實查辦等語此次豁免道光十年以前民欠銀米錢穀著蠲積逋原期實惠及民倘不能認真稽覈澈底清查難保無吏蝕官虧從中影射等

弊著該撫嚴飭所屬務將官墊民欠兩項逐加釐剔據實劃清斷不准稍有違訛率混致州縣各官藉此整完之名掩其虧空之實以重倉庫而杜欺隱將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

585 道光十六年四月二十六日內閣奉

上諭特依順保奏揀員升署遊擊一摺著照所請伊犁鎮標左營遊擊員缺准其以雲龍升署照例扣滿年限另請留役仍俟農隙時再行送部引見該部知道欽此

586 道光十六年四月二十六日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請遵員調補海鹽缺知縣一摺著照所請浙江平陽縣知縣員缺准其以廖重機調補該部知道欽此

587 道光十六年四月二十六日內閣奉

上諭蘇勒芳阿等奏請借項生息添設餘兵一摺著戶部覈議具奏欽此

588 道光十六年四月二十六日內閣奉

上諭蘇勒芳阿等奏派員操練兵丁情形一摺廣東駐防八旗官兵內挑出備戰兵二千二百名經該將軍等派委協領喀勒春等專管操練各項技藝並製造雙子帶刀一百把即予操礮一項兵丁內挑出一百名令其演習以為操礮之用所見甚好俱著照所議辦理國家訓練兵丁全在紀律精展技藝嫻熟方足以收實用倫忠於臨陣事宜未能諳練蘇勒芳阿辦事向來認真又久歷戎行比礮練習備戰兵丁即著交該將軍督同訓練務須按期操演一律精能俾得成功旅毋致有名無庸方為不負委任欽此

589 道光十六年四月二十六日奉

旨瑚松額著降一級留任不准抵銷欽此

590 道光十六年四月二十六日內閣奉

上諭禮部鴻臚寺並給事中炳輝等奏一甲三名進士蘇敬衡傳臚時並未到班各一摺蘇敬衡著交部察議欽此

591 廣西試用縣丞周增齡

道光十二年十一月因代理靈川縣事兼理典史事務失防斬犯墜鍊自盡十三年三月部降<sup>以</sup>三級調用無級紀錄抵銷補官日降三級調用  
十三年九月初項奏周增齡督催兵差出力請開復原分仍以縣丞候補奉

旨准其開復

廣東廉州府知府張增春

道光十一年護理南韶連道失察逆匪滋事係統轄官十三年四月部議降二級調用  
十三年九月十九日盧坤等奏張增春剿辦夷洋盜匪出力請改為降級留任奉

旨改為降二級留任

廣東欽州知州朱椿年

道光十二年因前署按察同知失察逆匪滋事係專管官十三年四月部議革職  
十三年九月盧坤等奏朱椿年剿辦夷洋盜匪出力請改為革職留任奉

旨改爲革職留任

廣東候補運同俞改善

道光十二年因現署按察同知失察逆撫滋

事係專管官十三年四月部議革職

十三年十二月盧坤奏查等盜匪出力各員

請將俞改善以鹽大使降補奉

旨著加恩以鹽大使降補

廣東萬州知州明達

道光十二年八月吏部題廣東巡撫朱桂楨

咨稱增城縣知縣明達承緝盜犯四泰限滿

不獲獲降一級調用該員已升知州應於現

任內降一級調用奉

旨著照部議於現任內降一級調用

十五年四月盧坤等奏明達等獲鄭境盜犯

多名懇請送部奉

旨著准其送部引見

十五年十月據廣東巡撫祁項出考送部引

見奉

旨明達著於降調處補之缺儘先補用

廣東香山縣知縣劉開域

道光十一年六月廣東巡撫朱桂楨奏審擬

香山縣民古偉被控命案一摺奉

上諭香山縣知縣劉開域於地方糾眾械斃二命並

傷多人之案未能迅速查拿又不認真研訊致

正允漏網官屬錯認溺職劉開域著即革職

二年閏九月奉

上諭禧恩等奏請鼓勵剿辦匪出力文武各員一

摺已革香山縣知縣劉開域著以縣丞補用

十三年六月廣東巡撫朱桂楨咨稱劉開域

年力富強堪以咨補歸善縣縣丞部議照咨

彙題

十三年九月兩廣總督盧坤奏請鼓勵辦理

軍需出力各員奉

旨劉開域著以知縣不論繁簡儘先補用

十四年六月廣東巡撫祁項奏補乳源縣奉

旨吏部議奏部議應令給咨赴部引

見奉

旨依議



十五年十二月廣東巡撫祁項奏請調補南

海縣知縣奉

旨准其調補仍著補行送部引見

592 上三屈新進士

朝考題目單

壬辰科

詩目論

勤恤民隱疏

疏得用汝作霖兩 得霖字五言八韻

癸巳科

難問以非其道論

勤恤民隱疏

疏得撫策致功 得功字五言八韻

乙未科

大道不器論

州縣官有不勤恤民隱者責或督撫嚴查核

疏

疏得坐看雲起時 得霖字五言八韻

593 道光十六年四月二十七日內閣奉

上諭琦善奏永定河發防緊要請令新任道員迅速赴任等語霍隆阿著即赴永定河道之任俟本年三汛安瀾後再行送部引見該部知道欽此

594 道光十六年四月二十七日內閣奉

上諭張岳崧奏請將疎防之知縣撤任一招湖北雲夢縣知縣宋其浚於所管河道致有賊匪肆劫行船溺斃多命重案且僅護犯二名先事未能防範緝捕亦不認真宋其浚著即撤任留於該省察看再行酌量補用倘不知愧奮即予奏革毋稍姑容該部知道欽此

595 道光十六年四月二十七日內閣奉

上諭戶部奏請飭催各省延未起解報撥及徵存屬庫銀兩等語國家賦入歲有常經度支攸關豈容任意延宕是以上年曾經降旨飭催自應遵照趕緊辦理茲據該部查明奏催各款銀數共八百七十餘萬兩現據各該省陸續起解入撥到部截至

本年三月底止僅止報撥解部共銀二百六十七萬餘兩內解部項下已解到銀一百六十二萬餘兩未解到銀九十餘萬兩已逾半年之限又解司及提撥項下已報撥銀三十九萬餘兩未報撥銀一百九十四萬餘兩著各督撫監政監督等展飭所屬迅速撥解報部不准再有延緩其實存司道等庫應行入撥項下祇報撥銀六十四萬餘兩仍未報撥銀三百二十八萬餘兩此項銀兩係據各該司道報明實存在庫久應造入季冊備撥自上一年奏催後各該督撫等查明覆奏者僅有一二其餘未經覆奏各省著該督撫等務遵前降諭旨迅速覆奏並將應撥銀數造入季冊冊內報撥毋得仍前因循致干咎戾以重帑項而貽數寶欽此

596 道光十六年四月二十七日內閣奉

上諭據宗人府奏貝子奕倫病故奕倫著加恩賞還貝勒欽此

597 道光十六年四月二十七日奉  
旨薛大哥兒田文得王四輩兒俱著交刑部審訊欽此

598 道光十六年四月二十八日內閣奉

上諭鍾祥奏請將濟南各府受旱之處分別蠲徵一  
招山東長清等州縣據該撫查明連年歉旱現在  
麥收歉薄民情拮据自應量為調劑加恩著照所  
請所有長清禹城齊東濟陽德州新城恩縣泰安  
新泰商河濱州利津霑化樂陵青城蒲臺蒙陰沂  
水等十八州縣應徵本年上忙新賦並十五年未  
完及秋灾原緩錢糧均著緩至道光十六年秋後  
徵又平原臨邑章邱惠民四縣本年上忙新賦  
照常徵收外其應徵道光十五年未完錢糧均著  
緩至道光十六年秋後徵仍與緩徵新賦之長  
清等十八州縣凡有應帶歷年舊欠緩徵錢糧及  
漕項河銀臨德等倉民佃鹽課攤徵限工河工地  
租出借倉穀籽種等項均著緩至道光十六年秋  
後各按最先年分遞年依次帶徵一年德州衛所

管屯莊著隨同坐落州縣一律辦理以紓民力該  
換印刊刻勝黃編行晚諭務使實惠及民毋任失  
胥舟弊用副朕軫念歎區至意該部知道欽此

599 道光十六年四月二十八日內閣奉

上諭上年乙未恩科鄉試據各省監臨陸續將年老  
諸生開單具奏均交禮部查覈茲據禮部將前經  
奏准行查之湖南省年老諸生查明覆奏該生等  
年雖老耄功蹟觀光特發未經中式宜淨恩施以  
副其皓首窮經之志所有湖南省年屆八十以上  
之閒生著學顏王代璋宋晚凡袁攀桂俱著加恩  
賞給副榜用示朕嘉惠耆儒至意餘依議欽此

600 道光十六年四月二十八日內閣奉

上諭中政賢奏請獎勵捐修城垣書院之官紳一摺  
山西榆社縣城垣年久未修永濟和順二縣書院  
或故址無存或年遠坍塌據該撫查明現經各該  
縣首先倡捐並勸紳民捐輸得以乘時興修以  
資捍衛而廣教育均屬有益地方尚堪嘉尚加恩

著照所請所有修城捐銀六千兩之前任榆社縣  
教諭白諸業因係滿保為著准其以知縣儘  
先選用捐銀四百兩至三百兩俟秀陳壽昌  
等十二名並永濟縣修建書院捐銀三百兩之捐  
納州以職銜屈德元童生郭文經和順縣捐輸書院  
膏火五百二十兩之監生盧永明均著交部議敘  
榆社縣知縣潘名魁永濟縣知縣莫兆文著先捐  
銀一千兩並勸紳民共成善舉均著交部從優  
議敘和順縣知縣張兆街捐銀五百餘兩著交部  
照例議敘以示獎勵此項工程均係官紳捐辦著  
免其報部覈銷該部知道欽此

601 道光十六年四月二十八日奉

旨這所奏陳脫義倫重犯之山西解任授山縣知縣  
易桐於縣民陳胎娃毆傷伊父陳惘翰身死不能  
先事覺察履行緝拿以致該犯逃匿實非疎脫尋  
常人犯可比易桐著即革職交該撫勒限半年飭  
令協同接任知縣趕緊緝拿限滿有無弋獲再行  
分別辦理欽此

欽差尚書恩 侍郎趙 道光十六年四月二十

九日奉

上諭有人奏上年二月初二日隨帶司員白讓柳陽  
金城回京携帶行李例應由崇文門查驗除白讓  
柳行李未經到門外陽金城行李大車四輛箱十  
七隻夾板一副匣二件包捲二十七件輸納稅銀  
三十餘兩有崇文門稽查行李簿可據查向來審  
案司員回京從無携帶貨物報稅之事即倘有土  
宜榷稅亦屬無多乃陽金城連年重載竟至輸納  
稅銀三十餘兩之多如謂親友附帶者案司員行  
殿莫定案所習知不至附其携帶且馳驛遠行斷  
無為人携帶多箱之理其為包直餽賂似無可疑  
至白讓柳關有大箱二隻由廣東省城同和銀號  
司事之石給亭代為寄京是其箱篋之多不能盡  
帶已可察見且石給亭而外尚難保無另有寄項  
等語石給亭現在廣東著恩銘等親提研審所有  
白讓柳托寄大箱二隻是否實有其事並寄至何  
處交代及此外有無托寄之虞陽金城回京因何

味

携帶箱篋如許之多即將該司員等前在廣東如

何得受包直之虞詳細審明一面審加訪查據實

奏辦務期水落石出毋稍贖預將此諭令知之欽

此遵

旨寄信前來

603 軍機大臣 字寄

欽差尚書恩 侍郎趙 道光十六年四月二十九

日奉

上諭有人奏廣東現署香山縣知縣葉承基行止卑  
劣聲名狼藉前在高要縣任內虧空五六萬兩之  
多缺負到香山縣任後縱容官親家人二百餘人  
散居縣城內外拉括向舊克衙役賄賂監生曾德  
化案擬徒之林昌銜印林后三借住房屋勾串文  
結吸食鴉片挾娼飲開並將林后三之屋改名寓  
賓館又添蓋停雲館一所極其宏敞且招引娼婦  
大姑二姑並清亞滿鹹水三林逆署親攜亞清到  
省避債派負之子葉老六門丁張貴二德把持公  
事張貴等五為娼婦並滿鹹水三林賍牙挾縣盜

賊假橫置之不理任聽蓄差勒索規銀以致盜風愈熾現在窮空累累不知其數是以民間有霜降逢風天下舉若老業元宵過而為氏皆怨初春之耕種殊方績請劾表糾等語若愚銘題或登嚴密訪查如果屬實者即從嚴叅辦以警官邪毋得稍有不實不查將此諭令知之欽此遵

寄寄信前來

604 單機大臣 字奇

欽差尚書恩 侍郎趙 道光十六年四月二十九

日本

上諭有人奏浙江湖州府孝豐縣施姓屍棺被盜一業事主施錦心係拔貢生其子舉人元元禧妻姜王氏於道光十四年十一月間病故停柩於堂屋右廂房廂門關鎖該舉人因請會試咨文赴省至次年正月間屋入視忽見棺已撬開失去衣飾等件當經報明本縣驗勘通詳嗣於三月間有婢女瑞春密有手帕二方係屬棺內之物經該生施錦心將該婢盤問始知有村人施四毛起意約同業

來求乞之周阿五向該婢誘出鑰匙情不識姓名二人同至停棺處所開棺夥竊等情隨將人贓並送經該縣孫天樞差拿周阿五到案供認不諱旋即卸事接任知縣羅文錦先後審殺施四毛施以高等亦供認如前並於萬順典內起出衣服四件施以高家內起出開棺鑿子一個其首飾餘贓據賊匪施四毛等歷供窩在施步種等家內未經起獲詎有捕役郭榮向該生索取盤費該生不允因此懷恨捏稱施步種等並未窩贓串賊翻異該縣意在拖延銷案該生屢次呈催措詞激烈該縣遂以先認後翻稟府審辦旋委烏程縣周榮會審自夏徂秋延未訊結烏程縣病故署縣王鼎勳到任與差文錦同鄉一味迴護將原贓概置不問反指真贓為棺外之物縣書徐起鳳又從中教誘瑞婢女瑞春誣主控為誘逼姜板大合官意遂縱各犯狡賴前此供詞概行改換不數日間賊覓三人該縣至拒兩覆勘不容據竊形跡竟決為開棺是假贓據係事主裝點遂拘入陰時木匠人等如以刑拷逼使供誣該府凌泰封聽該縣等一面之詞

遽將該生坐誣成氣下堂摘其頂帶痛加掌責此  
禁刑十二月間該生抱元抱全心赴巡撫衙門控  
告以該府等朦詳在先不為准理再赴臬司衙門  
呈訴始委臬會同復勘嗣於本年二月內經臬負  
全華府通判方東勳傳開棺屬實而該府等迴護  
前詳忽又誣為該生自行梳門竟欲報練成獄  
等語此案施錦心控告後既經前縣孫天樞與該  
縣汪文錦先後復賊審供不諱並起有真贓自應  
將餘贓上緊起出迅速定案乃該縣任意施延致  
捕獲庇窩捏報縣書從中教供且於數日內將斃  
賊匪三人安知非該縣暗中指使明恃死無對證  
藉為遁誣地步該府任聽該負等一面之詞將該  
縣等頂刑適虛實均應澈底根究著恩銘趙盛奎  
於查辦廣東案後即赴浙江提集此案人證卷宗  
悉心研鞠務期水落石出以成信讞毋得稍有不  
實不盡將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

605 軍機大臣 字寄

兩廣總督鄧 廣東巡撫祁 傳諭粵海關監

督文祥 道光十六年四月二十九日奉

上諭據太常寺少卿許乃濟奏鴉片煙例禁愈嚴流  
弊愈大近年以來夷商不敢公然易貨時用銀私  
售每歲計耗內地銀一千萬餘兩之多請變通辦理  
仍准其以貨易貨等語著鄧廷楨等會同妥具奏  
原摺鈔給閱看將此諭令鄧廷楨祁項並傳諭文  
祥和之欽此遵

旨寄信前來

606 道光十六年四月二十九日奉

旨傳親王綿懌隆文達哈布俱著加恩改為降一級  
留任不准推銷欽此

607 道光十六年四月二十九日內閣奉

上諭御史許球奏請除外省審斷類預積習一摺圖  
家科條之設原以鈔考安良如果聽斷公平獄訟  
自然止息若如該御史所奏近年以來外省咨結

控案審實平反及宥虛將原告照誣告辦理者十不得一大半皆係調停了事一審之中重款則大率消得輕款則略與吏依既不宥實又不辦誣或稱控出有因或謂懷疑誤控至無可解說則又以到案即行供明為詞由為原減皆因問官將實作虛無以服原告之心而杜其口懼其復控故不敢援誣告加等之律以治其罪每遇宥虛之案原告祇擬不應重杖罪又不酌決所擬僅屬虛名藉以調停完案甚至壓擱控案待其平和然後訊供取結兩造均不重辦含糊了事冤抑者無由昭雪刁健者得肆誇張似此顛頑積習于吏治大有關係著各直省督撫遇有上控案件審實者務必為伊宥虛者務必加等不得概以控出有因懷疑誣控等項俗套顛項了結至近來京控案件往往有原告竊取文書中述逃走或解省後取保旋即遁不到案此皆刁健之徒希圖拖累著照例銷案又越拆本有專條近來多不照辦如直隸山東等省有本省上司並未呈控即行東京赴拆者其冒上亡等之風更不可長嗣後無論咨奏控案定案時由

殊

608

大 學

士潘世恩

殊

承宥官查明如係越訴者各別呵控虛實按律懲治仍隨案聲明毋得遺漏庶善良屈抑可伸刁健伎倆難逞政平訟理吏治日有起色矣特此通諭知之欽此

○協辦大學士吏部尚書穆彰阿  
協辦大學士戶部尚書王鼎

兵部尚書王宗誠  
刑部尚書成格

○吏部左侍郎壽宗昉

右侍郎邵宗憲

○戶部右侍郎程恩澤

○禮部左侍郎卓秉恬

○右侍郎陳官俊

兵部右侍郎史燾

刑部左侍郎劉彬士

右侍郎黃慶

○姚元之

士傑靈桂森

王植

○朱燁

蔣立鏞

都察院左副都御史索靈功普

麟

○潘錫恩

毛式郛

609 軍機大臣 密寄

欽差尚書恩 侍郎趙 道光十六年四月三十

日本

上諭昨因有人奏上年陽金城由廣東回京携帶行李連車重載白銀兩有大箱二隻託廣東省城銀號司事之石輪亭代為寄京其箱內之多不能盡帶已可察見其為包並偽賂似屬無疑當降旨著恩銘等查訪審訊即密查崇文門收稅號簿上

味

年二月初二日陽金城行李進城果係大車四輛箱十七隻夫板一副匣二件包捲二十七件輪船稅銀三十一兩三錢七分與原奏數目相符毫無疑竇陽金城隨帶司員回京何以箱篋如此之多顯有貪婪蹤迹著恩銘等切實研究毋任狡賴如該員再敢強詞支飾則是罪上加罪矣陽金城已顯有貪婪蹤迹則所奏白銀兩之事斷非無用且其銀號寄箱尤為巧詐著恩銘等於石輪亭到案時嚴加審訊並此外有無寄項及該員等前在廣東如何得受包並之虞仍遵昨降諭旨密加訪查據實具奏毋得稍有賂顧以副朕懲儆官邪之至意將此諭令知之欽此

旨寄信前來

610 道光十六年四月三十日內閣奉

上諭昨據納爾經額奏報剿捕湖南武岡州滋事匪徒已就肅清惟首逆藍正樽即藍沅贖尚未弋獲當降旨飭令該督等嚴飭所屬搜拏務獲朕恩奸究之潛蹤總由叢緝捕之弛懈向使剿捕方施趁



其窮屢分路兜拏何至任令免脫卽如曾武為閩省巨盜貽害地方經朕屢次嚴飭該省督撫上緊搜拏意在必獲果據該督等奏稱先後拏獲曾武等要犯按律懲辦以靖閭閻可見實力奉行不難擒拏除秀閩省洋面寬廣海嶼迭茫盜賊出沒尚易潛匿若楚省則平地空曠間有山洞林木亦易於遠跡躡躑何至數月之間罪人未得著鈞爾經額裕泰卽督飭該省文武負責投法購贖上緊緝緝無得連延月日致令久稽顯職至該犯拋掛秘藏恐或潛逃他省藉奔漏跡亦著江西湖北廣東廣西四川貴州各督撫不分畛域一體嚴拏不得任其逸漏涵細經朕飭諭之後倘仍嬉怠不力竟致該犯日久未獲惟鈞爾經額裕泰是問恐不能當此重咎也壞之欽此

611 道光十六年四月三十日內閣奉

上諭御史王藻奏請將沿海漢村莊設法編查履勘以絕窩練而清盜源一摺各省沿海地方文武員弁平日認真稽覈盜匪與奸民不能暗相勾通

根株淨絕洋面自可肅清如該御史所奏沿海地方漢村村落距海遠近不等盜船不敢入港總由奸民為之窩練代銷贖物添雇舵工水手或檢知村內殷實之家勾通入村盜去而人不散過問沿海一帶難設有水師總巡分巡各名目往來會哨多屬虛糜故事潛匿港口僅令徵募弁兵代巡糧報無依海洋劫案竊發時聞不可不嚴加防範惟各省近海處所情形不同應如何稽查周密自當因地制宜著直隸山東江蘇浙江福建廣東沿海各督撫妥議章程據實具奏摺保發欽此

612 道光十六年四月三十日奉

旨此案著交色卜星額督同集司周天爵親提人塚卷宗秉公嚴密按律定擬具奏原告許英氏許登保該部照例解往備質欽此

613 道光十六年四月三十日內閣奉

上諭瑚松額奏請將升任直隸州知州暫緩引見等語甘肅安西直隸州知州朱聲亨著准其先行到

任俟邊休年滿再行併案給咨赴部引見該部知道欽此

614

潘寬程彭阿存宗程應澤年未滿陳寬程允之奏請賜恩程

奏蒙

發下朝考試卷一百七十三本除一甲三本外其一

百七十本臣等公同詳閱擇其文理清妥字畫

端楷者擬選六十卷黏貼次序恭呈

御覽伏候

欽定候

發下拆去彌封再行繕寫名單進

呈謹

奏

615

徐士教

梁同新

趙楫

沈北霖

張錫庚

李本仁

彭以竺

李汝煥

胡林翼

何紹基

張春育

呂佺孫

郭世亨

王發桂

孔慶鋤

謝榮棟

蔡振武

翁祖烈

梁敬事

丁楚玉

高維夢

劉澆

江祐儀

瞿松

方俊

徐溫

劉映丹

彭久餘

趙坦

路慎莊

李道生

韋志生

王啓曾

李清厚

梁瀚

楊天柱

樊肇新

莊俊元

莊縉度

董用威

徐之鈞

徐文藻

慧成

周毓桂

路璋

翁孝濟

蘇學健

梅崇

王通昭

曹典仁

吳步群

宗室和淳

宗室榮榮

楊乾格

周源緒

韋坦

唐李杜

甄檢

溫文木

原擬五十九名

原擬六十七名

616 軍機大臣 字寄

崇爾光參贊大臣興 幫辦大臣關 喀什噶  
爾領隊大臣壽 前任領隊大臣西 道光十

六年五月初一日奉

上諭據興德等奏浩罕伯克差額爾沁前來呈遞票  
帖開導曉諭一招克什米爾巴達克山並非浩罕  
所屬其人在此貿易多年素稱馴順長齡從前所  
給諭帖准伊等設立呼公達約米伊等買賣人  
安靜貿易並無准向克什米爾巴達克山抽稅之  
詞該伯克遣人前來呈遞稟帖欲求抽稅殊屬可  
惡興德等反覆開導嚴切曉諭該額爾沁無詞置  
辯既已輸服照舊從寬實查並給該伯克諭帖護  
送出卡爾斯俱妥惟浩罕大半性成變詐已測徑  
此次曉諭之後倘或貪心不足遣人再來遞呈惟  
有據理斥駁興德等擬當督飭所屬勤加操演務  
使兵力精銳備豫不虞仍不時巡察邊卡加意防  
範並密諭喀什噶爾阿奇木伯克作霍不敦差派  
妥靠四子出卡偵探該匪使回去如何光景據實  
具奏將此各諭令知之欽此遵

音寄信前來

617 道光十六年五月初一日內閣奉

上諭興德奏訪獲命案逃兇審明定擬一招英吉沙  
爾前任城守營都司升任漢中鎮遊擊林祥麟前  
任城守營守備升任西寧鎮都司劉奮武台市千  
總馬榮貴前因承緝民人馬伏魁被勒身死一案  
兇犯日久未獲當降旨摘去頂帶留防備緝該據  
該參贊奏稱該員弁等於限內將正兇白守元等  
訪獲尚知愧奮惟要案久懸並失察所屬防兵滋  
事均有應得處分林祥麟劉奮武馬榮貴俱著開  
復頂帶飭令回營仍文部照例議處現任城守營  
都司李國榮千總王天德干接緝限內訪獲全案  
要犯均著免其議處其失察防兵滋事之前任中  
營各員著查取職名文部照例分別議處餘著刑  
部議奏欽此

618 道光十六年五月初一日內閣奉

硃 上諭江蘇常州府知府員缺著毓銜補授欽此

619 查江蘇常州府係衝繁疲難最要缺謹

奏

620 道光十六年五月初一日內閣奉

上諭陶澍等奏請將革職留省協緝之知縣開復原官一摺原任江蘇宿遷縣知縣張志遠前因違解要犯章芝亭中途昧脫限滿無獲降旨將該員革職留省協緝茲據該督查明該員於被參後督飭丁役四路購線緝緝雖章芝亭尚未報獲惟先後緝獲鄰地新枝等犯多名功過尚足相抵張志遠著准其開復原官留於江蘇補用照例送部引見仍責令嚴緝章芝亭務獲該部知道欽此

621 道光十六年五月初一日內閣奉

上諭凱音布等奏詹負效力期滿一摺邵正等著准其釋回欽此

622 道光十六年五月初一日內閣奉

上諭哈豐阿等奏布特哈交納貂皮無餉牲丁生計疲累應如何調劑辦理一摺著該衙門議奏欽此

623 道光十六年五月初一日內閣奉

上諭哈豐阿奏核閱營伍情形一摺黑龍江墨爾根

正白旗驍騎校富英銀白旗驍騎校愛新烏多奇平常有特各錄實錄到營營蓋字履年老多病位領西興阿正白旗佐領已桑阿驍騎校特先欣扎魯正紅旗佐領富揚阿哈托俱年已六旬精力就衰惟曾經出師打仗若有勞績著以原品休致布特哈正紅旗世襲佐領圖明阿正黃旗驍騎校伊里善錄黃旗雲騎尉吉勒吉哈圖正紅旗雲騎尉紀保俱馬步箭生疎均著勒令休致該部知道欽此

624 軍機大臣 字寄

科布多參贊大臣毓 道光十六年五月初二

日奉

上諭本日據毓書奏現在查辦哈薩克依扎噶土帶領多戶復入烏梁海情形一摺哈薩克私越關齊入烏梁海潛居上年經富呢揚阿派員會同塔爾巴哈台委員及烏梁海官兵前往驅逐依扎噶土帶領六百餘戶藉詞推諉不肯搬移復經富呢揚阿調取土爾扈特烏梁海二處官兵彈壓催逐出境茲據毓書奏稱依扎噶土帶領數百餘戶哈薩

於本年三月二十二日夜間復渡博爾濟河在烏爾圖布拉克地方潛居抗拒不移俾扎噶土不過一梗頑哈薩克即所帶數百餘戶人數無多雖書惟當嚴切曉諭驅逐出境一面知會塔爾巴哈台烏梁海會同彈壓倘仍抗拒不遵自當示之以威須體察情形妥為辦理如控制失宜或致激成事變惟紙書是問將此諭令知之欽此遵此寄

音寄信前來

625 軍機大臣 守寄

兩江總督陶 道光十六年五月初二日奉

上諭據內務府奏稱本年參斤應照例發交向准等慮變價以項錄兩支應各款協濟辦公歷年俱有成案新不容稍有短絀查兩淮變價參斤自嘉慶十二年起每兩遞有加增惟變務情形今昔不同自應量加體恤著該督體察酌量核准其仍照嘉慶十二年以前支價該商等是否能照數交納年清年款不致延宕遞逾有誤例限著陶澍即行查明據實具奏將此諭令知之欽此遵

音寄信前來

626 道光十六年五月初二日內閣奉

上諭蘇勒芳阿等奏協領窮空庫項畏罪逃匿並現已自行投回各一摺此案廣州駐防掌理右司因防協領海明虧短庫項至一萬七千六百餘兩之多及聞知委負盤查又復畏罪逃匿實屬日無法紀現已自行投回著先行革職除旗檔交蘇勒芳阿鄧廷楨提回應賢人等志心研鞫究辦正白旗滿洲佐領訥爾金正紅旗滿洲佐領阿青阿正紅旗滿洲防禦索太錄白旗滿洲防禦達凌阿正紅旗漢軍防禦外元鈕有無通同勾串情弊俱著暫行解任交蘇勒芳阿鄧廷楨逐加研訊務得確情分別定擬具奏至蘇勒芳阿倫忠自請嚴議之處著侯定業時再降諭旨該部知道欽此

627 道光十六年五月初二日內閣奉

上諭鄧廷楨等奏請勒休知縣一摺廣西桂平縣知縣單雲宣性情粗率遇事不能細心經理聲譽亦屬平常著勒令休致該部知道欽此

628 道光十六年五月初二日內閣奉

上諭鄧廷楨奏請將降胡總兵留省著遵三摺廣東高州鎮總兵萬榮因將伊子更換籍貫收入本標部議降詞係屬私罪該督擬斬梟屍營伍為詞奏請留省差違實屬冒昧兩廣水陸各營人材不乏如果該督留心訓練足資差委何必以獲咎之實違例未留節廷楨著履行中節所請不准行欽此

629 道光十六年五月初二日內閣奉

上諭廣東南韶連鎮總兵員缺著趙浩補授欽此

630 道光十六年五月初三日內閣奉

上諭陶澍奏請將場地未宜之鹽大使暨緝捕懈弛之都司分別改補降補一摺准北板浦場鹽大使慶仁於該場緊要之地未能約束整齊著以縣丞改歸地方酌量補用題升福山營遊擊現任東海營都司趙雲炳於私梟出海之所緝捕懈弛著以守備降補該部知道欽此

631 道光十六年五月初三日內閣奉

上諭嵩溥奏研訊控案查出賄囑各情請暫行革宥一摺翁牛特據鎮國公桑噶巴拉著暫行革去公爵文嵩溥投同案內人格撤底杖充餘著照所議辦理該衙門知道欽此

632 道光十六年五月初四日內閣奉

上諭桂良奏審明檢匪結夥搶掠謀殺差役各確情分別按例定擬一摺著刑部議具奏至該省歸德府屬嗣後遇有兇徒結夥持械之案該撫請展定科係照南陽等府州定例懲辦著該部覈議具奏欽此

633 道光十六年五月初四日內閣奉

上諭前據給事中常大淳奏奉河南睢州吏目孫駿聲聲名狼藉貪婪不法各款當降旨交桂良查明參辦茲據該撫奏稱該州額徵活稅向供飭委吏目代徵相沿已久並無落地稅名目其懸掛木牌係為貿易人等便於投稅起見惟以現任吏目職

與盛尚堂均選交易往來冥屬不知檢束豫聯輝  
著即革職該部知道欽此

634 道光十六年五月初四日内閣奉

上諭綿莊等奏懇令張差革職章京興泰在印檔房  
充當著差等語已革章京興泰前因何事誤差革  
職自當查明案由入奏乃洋言誤差並未明白聲  
叙朕何從准駁著綿莊等詳晰查明據實具奏俟  
奏到時再降諭旨欽此

635 道光十六年五月初四日奉  
旨許乃普著仍留學政之任欽此

636 軍機大臣 字寄

湖廣總督訥 道光十六年五月初六日奉  
上諭前據訥爾經額奏鎮軍兵丁扶借滋事派往金  
辦之參將蘇清阿千總段芝蘭被賊兇砍多傷本  
日據裕泰奏稱蘇清阿已於四月初四日身死殊  
堪駭異蘇清阿係武職大員奉差在外窩匿必屬前

硃

何致有賊匪突入行其砍傷現據附近各屬稟報  
風聞蘇清阿係被該處兵丁砍傷顯有因該參將  
查辦認真逞兇戕害情事亟應嚴行懲治以警克  
恭而靖邊倘著該督仍違前旨迅即查明該參將  
係遭毒害是否因訪拏首犯不肯送就並無激變  
情節其受傷致死係何部位行兇要犯的係何人  
務即確切訪查一面據實具奏一面嚴飭所屬將  
此項各犯密速查拏按律從嚴懲辦不得寬  
存消解補事合 混 殊 有 不實不盡將此  
諭令知之欽此遵

旨寄信前來

硃

637 道光十六年五月初六日内閣奉  
上諭今日引見新進士內正白旗滿洲進士慶康一  
名錫爾德慶步履艱難因思我朝錄用旗員首重  
騎射八旗士子應試必先試以射射合式者方准  
入場慶康既有殘疾豈能考試馬步箭通捷御史  
永桐奏請勅查核實等語著兵部查明派出監射  
之王大臣如何定為合式准其會試之處著據實

硃



吳泰並著監試王大臣及咨送考試之正白旗滿洲  
新統等明白迴奏欽此

638 道光十六年五月初六日內閣奉

上諭御史劉夢蘭奏州縣徵錢糧請責成道府嚴  
飭隨徵隨解以杜剽那一摺各直省州縣屬奉向  
無封貯銀款其上下忙徵收錢糧除存留俸工役  
食外例應儘徵儘解不准積存存貯若如該御史  
所奏近年外省奏送銀款動至五千萬總由差  
務仍應繁多加以平日不知節者那整應用該上  
司其其彌補不即舉發迨至萬難彌縫乃成奏案  
難查封備控而所抄者在病不過破舊衣服在籍  
不過米呈房產其以官為家者房產全無私取積  
弊甘結一紙了事等語各省錢糧銀款國帑攸關  
直容州縣官任意虧缺與其懲之於既事之後不  
若防之於未事之先著各督撫轉飭各該道府於  
所屬州縣錢糧各徵以後按限規規申報紅簿查  
明已數若干內應存留若干起運若干先儘起運  
後儘存留催令陸續具批隨徵隨解不准積存

殊

貯屬庫其不作分數錢糧州縣無考成可領吏當  
嚴催批解該上司等尤應以儉平屬公事過境務  
須嚴未家丁母任批斥供應更不得強薦幕及輕  
派委員及派員攤捐等與互常平倉穀出陳易新  
糶價例應即時解司候買補日赴司請領尤當遵  
委委員會同本管府州縣查結報毋得通同徇隱  
上司因公過境仍當不時抽查倘有前與幕僚  
辦庶倉儲充裕不至有名無實也將此通諭知之欽此

639 道光十六年五月初七日內閣奉

上諭新科進士一甲三名林鴻年何冠英蘇敬衡業  
經校職外張錫庚李汝嶠王發桂彭以竺翁祖烈  
梁敬事徐士毅何紹基徐文藻趙樺梁同新李道  
生劉澆丁楚玉孔慶銅楊能格沈兆霖路慎莊胡  
林莫莊俊元呂倫孫劉映丹樊聲新謝榮棟徐之  
銘宗室和淳郭世勳李本仁蔡俊武方俊徐瀛甄  
檢江紹儀王通昭翟松樞天柱蘇學健慧成梁瀚  
俱著改為翰林院庶吉士趙坦周源緒彭久餘溫  
文禾江健林懋勳朱德澄汪縉度夏子齡高熊夢

黃玉階翁孝濟路璉馮志沂伍濟祥朱斌李清鳳  
 黃紹芳梅棠孔鑽鏗王啟曹唐李杜曹興仁黃孟  
 馮祐<sup>九</sup>祐韋坦張春育孫瑞齡朱為霖宗室榮榮周  
 毓桂承齡韋杰生斌桐喬松年洪著分部學習熊  
 浦雲徐榮劉維福許師嘉羅洪慶羅鳳儀李學瓊  
 徐康鶴唐景鍾吳步輝陸以祐王允灌溫鳴時蔡五  
 辰董用成陳模孫曰序嚴圻謝雲華徐方杰黃  
 士美姚祿齡陳守中胡馨來文進滿政舉張衍魁  
 渠述孔謝奔嵩羅源一李葆陳信氏許源沈衍慶  
 許輝藻劉漢李迺福者德布陳昂陳寬年衍駿周  
 沐潤何名儒韓象鼎孫家良黃鵬蒼楊廷堯吳文  
 葆郭紹曾張棟石鳳揚鄭鳳鳴余思詔丁雲章余  
 遂生盛元李光斌史稷盧昌輔鼓右賢章進甲陳  
 汝銓張兆熊楊通賓張樹德崔敬修李育馨翁汝  
 本吳華淳謝寬<sup>九</sup>一朱懋勳唐盛張雨田張枚李鏞  
 周澗蕭秀宗俱著文史部掣籤分簽名者以知縣  
 即用餘著歸班銓選欽此

殊

640 道光十六年五月初六初七日引

見新進士

殊筆圖圓吉士三十九人共圖部屬三十五人雙

照即用知縣七十七人單照歸班十六人

641 巖甲

○林鴻年

○何冠英

○蘇敬衡

宗室

○宗室和淳

△宗室榮榮

滿洲

○毓檢

、玉山

、音德布

○慧成

、福紹

△承齡

一慶康  
蒙古

瑞慶

盛元

英敏

桂林

病如

漢軍

徐榮

福能格

朱朝珩

斌桐

李錄

咸孚

直隸

王發桂

唐廷綸

丁楚王

李學璜

徐康鈞

高熊夢

謝榮棟

董用威

郭世亨

孔繼錄

李藻

張春育

邱家燧

陳寬

鄭鳳鳴

李光敏

史棟

張樹德

朱守方

奉天

梁協南

江蘇

張錫庚

李汝嶠

病如

病如

○趙楫  
△莊靖度  
○呂佺孫  
△羅鳳儀  
△夏子齡  
△王翊清  
○方俊  
△李清鳳  
△朱文連  
△許源  
△韋坦  
△孫宗禮  
△安薇  
△江健  
△許仰喜  
○程松  
△潘政舉  
△沈衍慶  
△孫瑞齡

△孫家良  
△查彬  
江西  
○徐士毅  
○李道生  
△熊浦雲  
△趙坦  
△戴星煌  
△唐景鍾  
△溫鵬翀  
△梅棠  
△謝雲華  
△胡馨  
△張舒翹  
△黃孟鴻  
△余道生  
△盧昌輔  
△吳華溥  
浙江

○渠敬事  
○徐文藻  
△温文禾  
○沈兆霖  
△陸以滋  
△蔡五辰  
△翁孝濤  
△陳模  
△孫曰序  
○李本仁  
△嚴斯  
△朱城  
○蔡孫武  
△陳昂  
△吳文藻  
△陳汝銓  
△俞汝本  
△張秋  
福建

○翁祖烈  
△林懋魚  
○莊俊元  
△黃紹芳  
△何名儒  
山東  
○彭以竺  
○孔慶錫  
△吳步韓  
△王允灌  
△姚祿齡  
△王啟曾  
△劉汝  
△李衍琴  
△韓象鼎  
△周毓桂  
△郭紹曾  
△李逢甲  
△楊迪賓

○謝克一  
○周淑  
山西  
△馮志沂  
○王通昭  
○梁述孔  
○張棟  
○李毓榮  
○唐成  
○張雨田  
△喬松年  
河南  
△周源緒  
○劉滂  
△祝祐  
○周沐潤  
○省敬修  
湖北  
△彭大餘

○劉映丹  
○徐澍  
○黃士英  
○丁受章  
湖南  
○何紹基  
○胡林翼  
○譚洪廣  
△唐李柱  
○覃源一  
陝甘  
○路慎莊  
△劉程禧  
○梁瀚  
○張兆熊  
四川  
○樊年新  
△任濟祥  
△曹興仁

○石鳳揚

○薛志生

○教右賢

○蕭秀棠

○廣東

○梁同新

○黃玉階

○江紹儀

○陳信民

○楊凡完

○陳驥

○廣西

○朱依澄

○蘇學健

○朱為霖

○黃鵬奮

○朱恕勳

○雲南

○孫方杰

○楊天柱

○許群藻

○李延福

○余思詒

○喻懷仁

○貴州

○徐之勉

○路璋

○陳守中

○謝本萬

○張鴻道

642 道光十六年五月初七日奉

旨那崑著留任一年欽此

643 道光十六年五月初七日內閣奉

上諭陶澍等奏革獲要犯請將出力員弁量加鼓勵

等語破面王七係著名兇惡水手必應從嚴懲辦

茲據該督等飭屬等獲著將親自擒拿之員酌保

一二人候朕抱息其坊間及協緝負弁一概不准  
奉行保舉以杜冒濫欽此

<sup>644</sup>道光十六年五月初七日內閣奉

上諭凱者布等奏請勒休其長一摺察哈爾所屬達  
里岡左翼驍騎營翼長至木卓林年老多病難  
期振作著即勒令休致該部知道欽此

<sup>645</sup>道光十六年五月初二日內閣奉

上諭凱音布等奏兩淮廣文牧有息銀請飭催解一  
摺此項兩淮生息銀兩係充察哈爾三旗牧群之  
用到不可緩該處無款項可以著墊尤當按期解  
交以符定限乃屢經飭令清款仍未按年解交實  
屬延玩著陶澍迅將道光十四十五兩年應解息  
銀數數迅速解交其本年應解十七年之款仍著  
於本年冬季詳到以資辦公不准再有延宕欽此

<sup>646</sup>道光十六年五月初九日內閣奉  
上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠

銀糧令該將軍府尹督撫等查明開單具奏據琦  
善查明道光十年以前民欠銀米數目開單呈覽  
當交戶部彙覆茲據查明直隸有民欠自嘉慶二  
十三年起至道光十年止未完起運正耗銀十九  
萬七千六百八兩零嘉慶十八年起至道光十年  
止未完補徵正銀一千三百九兩零道光九年十  
年學田租銀六兩零嘉慶二十四年起至道光八  
年止出借折色銀一萬四千四百十五兩零又未  
完帶平倉米穀一萬六千二百十二石三斗零嘉  
慶二十三年起至道光十年止未完屯糧米穀種  
豆一萬八千八百八十石零又補徵穀豆一石四斗  
零道光十年未完屯耗糧二十七石一斗零穀三  
石三斗零道光三年八年未完出借穀三千八百  
十九石二斗零嘉慶二十五年並道光四年未完  
社倉穀四百二十四石七斗零道光十年以前未  
完義倉穀二萬六千九百九十九石零均係實欠在民著加  
恩一律豁免其自嘉慶元年起至道光四年止并  
田出借穀六百十四石四斗零又道光五六七等



年土方撥徵銀四十四兩零准其援照成案一體豁免該督卽刊利勝黃道行曉諭並照例按戶付給免單嚴禁支差影射需索等弊務令實惠及民用副朕推恩布聞至意餘依議欽此

647 道光十六年五月初九日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠銀糧今該將軍府尹督撫等查明開單具奏據陶澍查明道光十年以前鹽場寬欠數目開單呈覽當交戶部覈覆茲據查明兩淮泰州海州二公司所屬各場共欠因完後做折價銀十九萬一千七百五十六兩零隨徵耗羨銀一萬七千四百九十七兩零又因完借給口糧銀十三萬七千六百七十四兩零均係實欠在寬之數著加恩一律豁免該督卽刊利勝黃道行曉諭並照例按戶付給免單嚴禁支差影射需索等弊務令實惠及民用副朕賜茂推恩至意欽此

648 道光十六年五月初九日內閣奉

上諭浙江按察使自缺著梁普涵補授欽此

649 道光十六年五月初九日內閣奉

上諭前因正白旗滿洲進士慶廉形同癆瘵步履甚

艱當降旨著兵部查明准其會試之處據實具奏

並著監射王大臣及著送考試之都統等明白迴

奏據據兵部及據禮部統監射王大臣等奏中樞政

考內載凡遇考試進士舉人生員人等其有子揚

者免考馬步箭等語並准兵部呈送大清會典暨

中樞政考經軍機大臣開單進呈照詳加披閱會

典內載係手疾字樣中樞政考內載係手摺字樣

著兵部卽遵照會典改正以歸畫一該監射王大臣

及著送考試之都統等子慶廉會試難屬道例免其

考試馬步箭但慶廉形同癆瘵尚不止于手疾該

都統等不行驗亦率准送考自係轉徇情面不肯

認真該監射王大臣按照原冊不覆行查依樣前

差不能寧心任事於此可見容親王仁壽等德及

正白旗滿洲副統文亨等俱著交各該衙門嚴加議處慶廉著仍照前旨歸班銓選欽此

## 會典內載

八旗考試進士舉人生員令該都統揀選馬步箭可觀者送名有手疾者該佐領出具保結免考馬步箭

乾隆四十年議准八旗考試進士舉人生員等其有手疾者該佐領出具保結免考馬步箭

## 中樞政考內載

考試進士舉人生員等其有手拐者該佐領出具保結免考馬步箭

查嘉慶十二年道光四年兩次繕寫原本同

## 道光十六年五月初九日內閣奉

上諭程祖洛等奏請將辦理義倉出力之紳庶官員分別獎勵一摺福建省內地各府產米不敷民食偶有食貴之虞茲據該督等查明閩屬紳商富戶善辦義倉建立倉廩該地方官督辦妥協尚屬急公好義自應量予恩施所有捐銀四千兩之候選員外郎前任內閣中書梁逢辰著歸部儘先選用

捐穀一百石之在籍刑部員外郎郭仁圖江西義寧州知州曹暉春均著賞加四品職銜其勸捐督辦之翰林院編修林春溥著賞加五品職銜廩生趙良瑜著以訓導選用又自捐銀三百兩之在籍原任江南海門同知陳經工部額外主事江鴻升均著交部從優議敘捐職縣丞姚桂著以縣丞不論雙單月儘先選用其捐銀一萬兩之原於廣西同知加知府銜林平侯著賞加道銜同安縣學生員黃銘先民人黃君望均著賞加五品頂帶捐銀二千八百兩之臺灣府學武生投效水師營學習軍功六品頂帶沈廷貴著以臺灣水師營千總補用捐數三千石之淡水廳學武生議敘外委北總街周殿安著賞加千總銜捐數二千石之閩縣貢生何道觀捐銀四千兩之臺灣縣生員吳勉欽均著賞加六品頂帶捐數二千石之在籍候選藍大使李奕禧著歸部儘先選用捐數一千石之閩縣附生林作舟捐銀一千兩之臺灣縣學生員吳高霖均著交部從優議敘其董率出力之准補淡水同知婁雲前任雲霄同知服闋候補同知陸我嵩

均賞加知府銜開縣知縣張光第候官縣知縣張汝敦均著賞加知州銜蘆漢庫大使高其垣著以府應升之缺即行升用布政司經歷張聰祥著以府經歷孫孟酌量升用以示鼓勵此項工程銀兩均著免其造冊報銷餘著照所議辦理該部知道欽此

653 道光十六年五月初九日內閣奉

上諭程祖洛等奏升補知縣才難勝任請仍以縣丞府經歷降補一摺福建同安縣知縣張秀景有縣丞升任以後於地方各案辦理場慶難勝民社著仍以縣丞府經歷酌量補用該部知道欽此

654 道光十六年五月初九日內閣奉

上諭程祖洛等奏請鼓勵訓導等語福建該用訓導周維翰赴臺購米助難並荷修葺城鼓樓高屬急公好義著賞加六品頂帶以訓導儘先選用該部知道欽此

655 道光十六年五月初九日內閣奉

上諭色卜星額奏試用人員較多請暫停分發一摺安徽試用人員據該撫查明現在需次者均已人浮於缺著照所請即將報捐知縣同知通判布政司經歷庫大使按察司照磨府屬州同直隸州州判府經歷縣丞主簿州吏目從九品未入派十四項人員暫停分發俟何項人數較少再請照常分發至所請本年新進士班以知縣即用人員暫停分發之處著吏部議奏欽此

656 道光十六年五月初九日內閣奉

上諭特依順保奏請將都司留任一摺伊犁鎮標奎爾采斯營參將馬國正右營都司羅玉祥年滿六旬精力尚健著仍留本任以資熟手該部知道欽此

657 道光十六年五月初九日內閣奉

上諭國椿奏捐修沿河陡壩各工一摺庫平東門外大河山水驟發衝壞岸口浸及城壕經國椿督率

文武各員等堵禦水勢漸緩該處多托六莊街塌  
渠道即飭阿奇木伯克邁瑪第督率回衆依舊  
修築其廢渠房屋相度地勢另為修造並於河岸  
被衝之處壘築大壩於官廢渠高阜之地接築長  
隄以資捍禦所需工料銀二千三百二十八兩零  
係該大臣及回子郡王伊薩克等自請捐辦著免  
其造冊報銷欽此

658 道光十六年五月初十日內閣奉

上諭現在內閣考班中書將次補竣著吏部於新科  
即用知縣內揀選帶領引見候朕錄用所有該部  
奏准歸班進士帶領引見之處著無庸議欽此

659 道光十六年五月初十日內閣奉

上諭前據御史許球奏陝西巡撫楊名聰各款當  
降旨著湯全到文慶前往查辦茲據湯全到等查  
明楊名聰被奏各款或事出有因或風聞未確迨  
一研求供無贓私情節惟失察家人與傭戶交結  
往來至在門房遊飲又不能禁絕為員眷屬出入

衙署實為關防不嚴復於一家四命重案至不上  
緊督辦究紀日久未獲將捕又復鬆懈楊名聰著  
交部嚴加議處安慶照知縣汪平均難與該縣素  
係成誼究有統屬乃不自引強聽憑伊妻與上司  
眷屬拜往致拉物議汪平均著交部議處成守縣  
典史倪柱於伊妻至藩司署中探望親戚不知禁  
止報訊無異上司內眷往來亦有不合倪柱著交部  
察議廷長照知縣郭恩係前在紫陽縣任內於郭  
周六等一家四命重案正犯未有著落乃於初奉  
限內調任轉得置身事外郭恩儀著即撤任並揭  
去項帶劄赴紫陽縣地方摘牌勒限三個月務獲  
正犯如逾限無獲著即嚴行奏辦餘著刑部議奏  
欽此

660 道光十六年五月初十日內閣奉

上諭御史鄭世任奏請將戶工二部擬銀水利歸公  
一摺著該部議奏欽此

661 道光十六年五月初十日內閣奉

上諭前因回子郡王伊薩克在京當差不習水土當

降旨加恩飭令即回本處調養茲據國棟奏稱該郡王病已痊愈懇請代奏額求賞給差使朕心甚為欣慰但念該郡王年逾六旬若使遠道來京依舊不習水土轉增勞動伊薩克著毋庸來京隨時加意調攝以示朕體恤有功回臣至意欽此

662 道光十六年五月初十日內閣奉

上諭李義文著以三四品京堂候補欽此

663 道光十六年五月十一日內閣奉

上諭京師入夏以來未得透雨前經降旨派惇親王

錦愷等分詣

三壇敬謹祈求隨於

方澤大祀躬親熬禱尚未溼沛甘露即迺夏至農田望

澤甚殷著於本月十四日仍派惇親王錦愷惠郡

王錦愷定親王奕紹分詣

三壇再申祈禱光朝齋宿所有一切應行典禮著各

該衙門敬謹豫備是日朕親詣

黑龍潭拈香並派慶郡王錦慧前詣清漪園

龍神廟成郡王載銳前詣靜明園  
龍神廟拈香以奠章數聞澤欽此

664 道光十六年五月十一日內閣奉

上諭鍾祥表遠員請調首縣要缺一摺著照所請山東應城縣知縣員缺准其以韓亞然調補該部知道欽此

665 道光十六年五月十一日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請借款挑濬河道一摺浙江嘉興府屬北海鹽縣境內有白洋河道凡下游田禾均資灌溉現因河身淤淺自應挑挖疏濬以資宣洩所有估需工料銀五千九百七十二兩零著准其先在藩庫工程平餘款內扣數借支給領自道光十七年上忙為始按照額徵地清等銀每徵正銀一兩帶徵河費錢二十文今作六年隨同正銀輸納由該縣按照時價易銀解司歸款該撫即督飭所屬趕緊興修工竣覆實驗收毋任草率偷減免其造冊報銷該部知道欽此

666 道光十六年五月十一日內閣奉

上諭奕經奏查明部丁官田被衝缺額請以開荒地  
畝撥補一摺前因盛京漢牛湖河東等官田水衝  
沙壓經督保奏請飭查明開荒撥補當降旨交奕經  
詳查妥辦茲據查明該處被衝地畝陳於窪茨內  
開墾於補外仍酌洋如額地二百二十二畝五分  
著准其以漢牛湖河東廢林至內荒熟地畝照數  
撥補以符原額其原勘不實之委員及糧令莊丁  
開墾開荒之該管官均着虛取職名送部分別議  
處餘着照所議辦理該部知道欽此

667 道光十六年五月十一日內閣奉

上諭奕經奏拏獲糾夥行劫首從盜犯請交部嚴密  
一摺現獲盜首恭太夥盜葛榮色力各榜潘復智  
富家恒林等五犯著奕經會同盛京刑部連前獲  
伯榜劉幅長等九犯詳案嚴密務得確情按律定  
擬其現在逃犯暨將來究出夥盜著奕經嚴飭所  
屬官弁并選派番役一體勤限上緊查拏務獲解  
案密訊欽此

668 道光十六年五月十一日內閣奉

上諭壁昌奏請借俸餉修理衙署兵房一摺甘肅涼  
州蒞浪駐防官員衙署兵房間有洩漏旬廡及早  
修理准其撥款成案在甘肅藩庫開款內借給官  
員俸銀二年兵丁餉銀一年俾得首修理其銀仍分  
作八年在該官兵俸餉銀內扣還歸款餘著照所  
請辦理欽此

669 道光十六年五月十一日奉

旨常二格吳大吳三米寬趙倉虎王志仁賈老連俱  
著交刑部嚴審其在逃之王五張黑喜郭忠仍著  
嚴緝務獲究辦欽此

670 軍機大臣 字寄

山西巡撫申 道光十六年五月十二日奉

上諭有人奏晉省吏治廢弛地方各官操守不謹重  
案不解或牢不可破積習請飭整頓等語該撫  
初庸外任於該省向未弊端無難秉公查詢藩司  
經額布爾經到任臬司慶林到任未文均無所用

其迎復者該撫即督飭藩臬兩司破除情面將摺內所指各款認真查完倘州縣中有簞篋不餉及隱匿要案者立即指名奏參嚴行懲辦務期和衷共濟力挽頹風毋得稍存諱飾方為不負委任原摺著鈔給閱看將此諭知中啓賢並傳諭經額布慶林知之欽此遵

旨寄信前來

671 軍機大臣 字寄

兩廣總督鄂 廣東巡撫祁 道光十六年五

月十二日奉

上諭前任直隸布政使顏伯燾丁憂回籍久經服闋迄今尚未到京著該督等查明該員現在何處曾否啟程來京如尚在該省原籍著即飭知該員令其迅速來京聽候簡用將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

672 道光十六年五月十二日內閣奉

上諭伊里布等奏請林員升看苗墾邊熟一摺著照

兩請貴州貴東道員缺准其以文明升著照例送部引見仍和滿恩俸年限再請實授該部知道欽

此

673 道光十六年五月十二日內閣奉

上諭額騰伊奏請甄別試用知州一摺貴州試用知州劉格才具平庸氣質粗浮難勝牧民之任著以州同降補歸部銓選餘依議該部知道欽此

674 道光十六年五月十二日奉

旨此案著交程祖洛督同臬司張澧中親提人證奉宗秉公嚴審按律定擬具奏原告黃且該部照例解往備質欽此

675

臣等查本日據都察院奏福建民人黃且具控據控斃命延不拿辦一案該衙門原摺及該民人原呈內僅稱赴

欽差行轅控告並未叙明何年月日向

欽差何人具控查道光十三年分該省

欽差係瑚松額十四年分該省

欽差係趙或奎張麟臣等現在行查都察院衙門即

向該民人黃且詳細詢問係何年月日在

欽差何人行轄控告俟覆到時再擬寓

諭旨進

呈謹

奏

676 同日奉

旨此案著交陳慶親提人證奏宗秉公審訊按律定擬具奏原告生負方奎該部照例解往備質欽此

677 軍機大臣 字寄

山西巡撫申 道光十六年五月十三日奉

上諭山西榮河縣知縣武履中藉端科斂一案前經

降旨交該撫嚴行查辦矣茲復有人奏稱該撫委

員查訊該縣武履中符信之後兇人向本地紳民

說合退出原贓令各里長出結完案該撫現在委

員覆查等語州縣因差科派藉飽私索最為地方

之害若如所奏該縣武履中既經科斂於前迨被

參以後復敢脅誘紳民出結了事良民畏累不得

不為之隱忍聽其消弭即派員履查亦難保無官

官相護辰轉政蒙之事著該撫仍遵前旨嚴密訪

查認真究辦即將該縣及經手書差捉省嚴究並

摘傳紳民里長明切曉諭務將逞賊誘結實情逐

一審訊明確按律懲辦提刑水落石出慎勿受其

朦蔽將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

678 道光十六年五月十三日內閣奉

上諭何汝漢等奏請將倉貯賑餘米石出陳易新以

濟民食一摺直隸寶坻縣地方冬春雨雪稀少二

麥歉收貧民餓口無資藉借口糧自應酌量接濟

著照所請准其將該縣倉貯道光十三年所領京

倉賑餘糧米八百石照數給發秋後免息復還該

部知道欽此

679 道光十六年五月十三日內閣奉

上諭中啟賢奏紳民請代典文贖罪一摺山西已革



趙城縣典史章際清以現任職官於逆匪。故官劉秋既已株防又復潛匿予以革職杖徒本在不准。擬赦寬免之例所有該縣紳民呈請捐資代為贖罪之處著不准行欽此。

680 道光十六年五月十三日內閣奉

上諭前據綿崧等奏請將巴羊章京興泰在印檔房充當苦差並未聲明該革實因何事誤差當降旨令其明白聲叙茲據綿崧等詳晰查明具奏所有巴羊章京興泰著照所請准其在印檔房先行充當苦差如果奮勉出力俟有披甲公缺賞給一分綿崧等自請交部察議之處著加恩寬免欽此。

681 道光十六年五月十三日內閣奉

上諭何凌漢等奏獲衛謀佔地故請斥革審辦一摺三等獲衛梅世英著暫行革職內務府查傳押交順天府飭發雷昌道歸案審訊欽此。

682 道光十六年五月十三日奉

旨高添得謝文燦徐崇阮有禮呂大陳順學溫玉奎

馬十沈廷秀孫鶴年董慎寶尹得均尹兆桂林對任積步雲賈添風賈添順齊幅功齊可全齊廷足去兆進楊起仁楊萬四楊福堂俱著交刑部嚴行審訊互比次等獲販米各犯擬供自城內陸續分運出城賣給船戶此項米石究從何城運出著刑部詳定案時查明具奏欽此。

683 道光十六年五月十三日內閣奉

上諭御史趙光祖奏請嚴禁冒濫保題一摺各有三年大計點陟攸關豈容以素有著蹟之員濫登薦牘上年廣西有大計曾將潯州府知府孫世昌南寧府同知慶吉均行保舉卓異該員等旋被科臣糾奉經朕特派大員往查分別予以懲辦孫世昌辦事顛預步履數瀆尚無刑項劣蹟是以僅予休致至慶吉以職官販私行同市儈又復捏稟臆詳現經查明發往軍臺效力贖罪似此劣員早應據實奏劾該省何竟列入卓異員內濫行保舉殊非嚴密激揚之道所有原保之各上司著交部查取職名分別照例議處欽此。

684 道光十六年五月十三日內閣奉

上諭御史袁文祥奏請將湖南失察習教謀各地方  
官交部議處一摺前因湖南逆匪藍沅曠聚眾滋  
事一案判辦完竣據該督請將各該地方官失察  
處分懇恩寬免當經降旨該管地方文武員弁若  
能將首逆立行拿獲尚可量予末減倘日久稽誅  
仍當重治其罪該省地方平曠即開有山峒林木  
亦易攀躋果能實力訪查跟踪進捕何至數月之  
久罪人未得該地方官於上年得有風聞既不能  
先事豫防致釀巨業迨至剿捕竣事又不能將首  
逆擊復立正典刑遷延至今迄未弋獲尚復成何  
事體著該督等遵奉前旨迅將首逆藍沅曠設法  
拿獲毋任逸颺漏網致干咎戾至藍沅曠謀逆始  
自何時傳習青蓮教起自何人始於何年何月著  
湖廣四川各督撫等確切查明據實具奏所有恩  
任失察各地方官交部照例分別議處欽此

685 道光十六年五月十三日內閣奉

上諭貴州貴陽府知府員缺緊要該督撫於通省知

殊

府人員內揀員調補所遺員缺著郭鳴高補授欽  
此

686 貴州貴陽府知府文明昨蒙

恩准其升署貴州道所遺貴陽府首府員缺應令該  
督撫揀員調補所遺員缺請

旨簡放且等語擬寫空名

諭旨並各項應用知府人員名一併進

呈伏候

欽定謹

奏

687 軍機大臣 字寄

直隸總督琦 道光十六年五月十四日奉

上諭京師上年冬雪稀少本年自春但夏雖經疊次  
得雨入土均未深透現在節逾夏至農田望澤尤

殷朕宵旰焦思虔誠默禱屢經降旨設壇祈雨並

親詣

黑龍潭拈香以冀速霽甘霖該督於直隸通省得

兩分寸總未奏到朕心實深慮念著即查明保定省城一帶曾否得有透雨此外各府所屬地方情形何如據實具奏倘有應行撫卹接濟之處務當妥為籌畫未雨綢繆庶免臨事周章致有一夫失所將此諭令知之欽此遵

青寄信前來

688 道光十六年五月十四日內閣奉

上諭陶澍等奏請將幫丁應歸船未分年辦理一摺上年三月間長淮三幫已革折丁劉長清船隻不戒於火延燒各船焚燬米石當經朱為弼等奏請分別奏賠以示懲儆亦據該督等查明各該幫丁若累情形懇請多分年限照數賠補朕思此項漕船被焚事起倉卒人力難施且被別幫延燒與本船史事者有別所有該旗丁等應行買補未二萬五千二百十三石零著加恩全行寬免其賠造船數較多之廬州頭淮安二揚州頭等三幫著准其援照分年帶造或業從本年冬季起分限四年辦理以示體恤該部知道欽此

689 道光十六年五月十四日內閣奉

上諭陶澍等奏請將知縣開復頂帶等語湖北省上年襄河歲漲致將潛江天門兩縣濱江民隱漫溢街壩曾經降旨將搶辦不力之潛江縣知縣楊日天門縣知縣劉建勳去頂帶茲據該督查明該縣等被泰之後趕聚桑夫堵築已將漫漬處可一件修整完竣辦理尚知愧奮楊日劉建勳著准其開復頂帶該部知道欽此

690 道光十六年五月十四日內閣奉

上諭陶澍等奏揀實調補要缺知縣一摺著照所請湖北漢陽縣知縣有缺准其以周向青調補該部知道欽此

691 道光十六年五月十四日內閣奉

上諭周之琦奏請將知縣革職勒限補控一摺湖北鄖縣知縣黃照於該管境內煽擊萌生先事既未豫防辦理又復恣玩黃照著先行革職留於該處協同勸懲候捕獲再玩忽貽官即展參懲辦該部知道欽此

692 道光十六年五月十五日內閣奉

上諭京師上年冬雪稀少本年春夏得雨均未密足  
朕宵旰焦思慮誠恐禱壘經降旨設壇祈雨昨復  
親詣

黑龍澤拈香午後濃雲密布雨澤應時朕心實深  
宣威惟入土尚未深透尤冀晴澤甘霖朕惟清理  
庶獄亦足威名和甘從前京畿雨澤愆期曾降旨  
將軍流以下人犯減等發落茲宜嚴領寬典用廣  
法外之仁除積賊及各省軍流以下人犯此次毋  
庸一律查辦外著刑部即將直隸一省及部中審  
擬軍流等罪已未到配官各犯詳查原案無論  
連年近年年擇其情有可原者開單具奏候朕量  
加寬宥至刑部現在收系人犯若因未結定案久  
繫囹圄疾病顛連情殊堪憫著該部審度案情其  
有間徒以下輕罪人犯及于連待質例應取保候  
審者立予清理省釋毋稍稽滯此外尋常案件並  
著進行審結不得遷延羈累以示矜恤而弭誦和  
該部即遵諭行欽此

693 道光十二年五月二十八日內閣奉

上諭京師入夏以來雨澤稀少近設壇祈禱並親祀  
天神壇度中叩禱尚未速沛甘霖宵旰焦思時深履  
盼朕惟清理庶獄亦威名和甘之一端由來軍流  
以下人犯問予減等發落上年恩旨各省辦理或  
等因因京畿望澤再沛恩施除積賊人犯不必查  
辦並各省軍流以下人犯此次毋庸一律辦理外  
著刑部將直隸一省及部中審擬軍流等罪已未  
到配官各犯詳查案情擇其情稍可原者無論  
連年近年迅即開單具奏候朕量加寬宥國家明  
刑弼教意本期於無刑而犯罪之人久焉縲絏紛  
紛株繫朽楊相望皆足上干天和至刑部收禁人  
犯尤當審度案情其間徒以下輕罪人犯以及于  
連待質例應取保候審者令往往一概收禁以致因  
圍積滯疾病顛連甚或連瘦<sub>瘦</sub>之慘朕甚憫焉著  
刑部查明現在監禁人犯比內凡輕罪及侍養待  
質者立即清理者釋毋稍稽滯尋常案件並著即  
行完結庶冀祥和翁應速沛甘膏該部即遵諭行  
欽此

694 道光十六年五月十五日內閣奉

上諭御史朱成烈奏請禁州縣抵解錢糧折收倉穀一摺州縣錢糧倉穀絲粒宜歸實貯其容以抵解折收款溢虧短若如該御史所奏州縣於應解錢糧往往以應領雜款蒙混抵解至領項應用則又擬轉挪移以至正雜兩短及任滿交代又復折算抵欠愈滋章流積至虧短重重難嚴切皆違終成懸款至倉穀一項州縣利於折價收取銀兩入手亦復轉轉挪移以致實貯皆成虛款種種弊端不可不防其漸者各省督撫藩司於州縣錢糧務令實徵實解不准以雜款坐抵其各屬倉穀務令該管道府實力盤查如有抵解折收等事立即奏劾以除積弊而重國帑將此通諭知之欽此

695 道光十六年五月十五日內閣奉

上諭朕於本月廿三日御門辦事兵部司員陳宗嘯輪班引見頓跌失儀本日據炳輝等奏請將該員交部議處並將吏部押班司員交部察院察議陳宗嘯是否偶爾失足抑係年力衰老所致著兵部

堂官查明據實具奏至吏部押班司員無從防範所請登議之處著毋庸議該給事中著侍班糾儀日擊情形應即行具摺奏參且此事無待商酌何以遲至本日始行具奏炳輝著著傳旨申飭欽此

696 道光十六年五月十五日奉

旨御史朱成烈奏請糧到備請筋印封米樣照式驗收至查辦積年桂火等弊一摺著倉場侍郎改奏欽此

697 道光十六年五月十六日內閣奉

上諭禮部尚書著吳椿補授都察院左都御史著李宗坊補授翼守正著轉補吏部左侍郎年未屆者調補吏部右侍郎陳官俊著轉補禮部左侍郎所遺禮部右侍郎著史拜補授欽此仍留浙江學政之任欽此

698

董孝宗訪係吏部左侍郎是以日并擬寫  
諭旨將龔守正轉補左侍郎卓忠恬調補右侍郎謹

奏

699 道光十六年五月十六日內閣奉

上諭禮部尚書汪守和植品醇樸供職清勤由翰林  
添騎御武權任尚書方贊倚弄在閑流遊疎疎軫  
惜著加恩贈太子太保銜照尚書例賜卹所有任  
內一切案卷悉予開復應侍卿與核部察例具奏

欽此

700 道光十六年五月十六日內閣奉

上諭前因文學上年四月間派審山東擬任知縣見  
福一業並不按律懲辦九月間派審王熙特異子  
德勤免色榜一業各情節不實不盡降旨訓飭並  
予以處分各大臣等自應振刷精神消除積習乃  
近日正占旂滿洲都統等於卷送慶康考武之件  
種種情面濫行送考派出監射五大臣亦即按照  
原冊不復行查實屬不能實心任事經兵部照例

硃

硃

硃

嚴議具奏除大慶候查明覈辦外文學雖在出差  
期內未幾即已回任檢查查卷何可予駁竟爾誠  
然不言且才明白遇奏時並未將出差原由聲叙

要福拘泥例大于慶康形同廢廢並不止于手疾  
率清皆送監射王大臣鑒白折漢軍都統睿親王

仁壽廟蓋拈蒙古都統綿德依照原冊免考不行  
覈實查辦文單著革去都統要補著革去副都統

仍各罰俸二年仁壽綿德均著革去都統仍各罰  
職任俸二年俸不准其抵銷此條朕格外從寬辦

理各大臣等惟當益矢慎勤不避愆咎無負謹誌  
訓誡之意欽此

701 道光十六年五月十六日奉

旨楊名疏著降為三品頂帶加恩改為革職留任汪  
平均著降三級調用倪柱著即革職欽此

702 道光十六年五月十六日奉

旨兵部武選司郎中陳宗疇著以原品休致該部知  
道欽此

703 道光十六年五月十六日內閣奉  
上諭惠吉著即來京廣西巡撫印務著花杰暫行兼  
理欽此

704 道光十六年五月十六日內閣奉

上諭惠吉奏揀員調補烟瘴委缺知府一摺著照所  
請廣西泗城府知府負缺准其以札祿調補所遺  
南寧府知府負缺著楊恩培補授欽此

705 查廣西南寧府係衝繁難要缺謹  
奏

706 道光十六年五月十六日內閣奉

上諭惠吉奏請將倉差不慎之州縣交部議處一摺  
廣西象州知州林士端代理馬平縣知縣吉泰於  
自省發回監禁候部覆之盜犯吳亞勝並不慎  
運兵役小心管解以致該犯乘間脫逃實屬玩愒  
林士端吉泰均着交部議處仍照例勒限一年緝  
拿候限滿有無弋獲再行分別辦理該兵役人等

有無該刑在替受賄致縱情弊並着飭提嚴訊核  
律懲辦餘着照所議辦理欽此

707 道光十六年五月十六日奉

旨逸所奏廣西桂平縣知縣畢雲宣於己報起解之  
徵存地丁銀兩久不解到又應解未完地丁稅契  
數價等項延不起解難無捏報窮那情與畢雲宣  
前經鄂廷積奏委已降旨勒令休致著交梁音能  
履行審訊並查明該責任內經手庸庸緩釋有無  
虧短按律分別參辦欽此

708 道光十六年五月十七日內閣奉

上諭左翼總兵著聯順轉補右翼總兵著奎熙補授  
泰寧鎮總兵兼總管內務府大臣著廉敏補授欽  
查此照未到京以前其在翼總兵仍著桂翰著理

709 道光十六年五月十七日內閣奉

上諭刑部左侍郎著普慶轉補刑部右侍郎著明訓  
補授或京禮部侍郎著薩迎阿補授欽此

710 查明創條

或京禮部侍郎是以日等擬寫

諭旨將薩迎阿補授

或京禮部侍郎謹

奏

711 道光十六年五月十七日內閣奉

戶部據覆廣東駐防生息並請酌改事宜一摺所有漢軍改補綠營處各何酌立章程之處著蘇勒芳阿會同鄂廷模妥議具奏摺併費欵比

712 道光十六年五月十七日內閣奉

上諭鐵麟等奏請飭催漕船迅速抵關等語南漕首進大河前幫備入天津關已有數日後幫未據請報入關經該侍郎等查係山東開河水淺又有木筏銅船插棹行走以致單船節節阻滯後幫現在脫空尚無到關之信著直隸總督山東巡撫河東河道總督迅速籌水滿運屢飭沿河文武負弁加緊催價並飭地方官多雇船隻以備單船隨處起刺務令銜尾北來不准再有遲延致誤重運欵此

713 道光十六年五月十七日內閣奉

上諭北城御史和豐等奏案情干涉世職首後供詞不符一摺著交刑部提集全案人證卷宗秉公審訊欵此

714 道光十六年五月十七日內閣奉

上諭琦善奏推升京自延不請管等語前任直隸多倫諾爾理事同知萬保已於道光十四年三月推升內府掌儀司員外郎乃屢次檄催該員並不領咨著內務府查明具奏欵此

715 道光十六年五月十七日內閣奉

上諭琦善奏到將年老請改京職等語直隸河七協副將允付有年逾七旬於口外禁要之區不能得力允付有者送部引見所有河七協副將負欵著該部照例辦理欵此

716 道光十六年五月十七日內閣奉

上諭琦善奏枝閣管位請將廢地寬弁斥革等語直



款著趙州營正定鎮左營守備宋飛彪前因技藝平庸擢去頂帶半年之久技藝仍不改觀實屬玩愒不職宋飛彪著即革職徐依斌該部知道欽此

717 道光十六年五月十七日內閣奉

上諭琦善奏請將疏防千總註銷候推守備等語直隸東安汛千總劉如翰於所管汛境失事共有三案之多迨至兩月始行稟報明係有意藉延劉如翰前於道光十二年俸滿保送候推守備著即註銷仍留千總以觀後效該部知道欽此

718 道光十六年五月十七日內閣奉

上諭奏請將新還知縣改教一摺新還山東鄆城縣知縣葛兆薰精力不健耳聰微沈難勝民社之任惟係舉人出身尚堪司鐸著以教職改補縣知縣該部知道欽此

719 道光十六年五月十七日內閣奉

上諭德興等奏請升委欽州一摺奉天所屬遼陽

州知州負缺准其以奉朝勅升署照例送部引見該部知道欽此

720 道光十六年五月十七日內閣奉

上諭額騰伊奏揀員請升雷種通判一摺著照西清貴州丹江通判負缺准其以焦沛霖升補照例送部引見該部知道欽此

721 軍機大臣 字寄

兩廣總督鄧 廣東巡撫祁 傳諭粵海關監 督文祥 道光十六年五月十八日奉

上諭本日據御史沈鏗奏外省行用洋錢請量為裁制一摺據稱洋錢來自外洋雖係用銀鑄造成色甚屬低潮外更攜來內地換回足色紋銀每年難以數計內地商民多以洋錢便於使用更可多換錢文甚至元寶銀兩亦須換作洋錢再換制錢方為得利其稍荒僻之區則但有洋錢而不知有銀兩數年以後到處俱以洋錢交易閩粵尤非淺鮮等語洋錢流布東南已非一日前於道光十二

三年間曾經地方官曉諭商民人等不能驟行禁止勢所必然朕思洋錢來自外洋流布廣東而後遍及他省若外洋來粵貿易以貨易貨實力稽查銀兩不准出洋洋錢價值自可不至昂貴著郵廷積等體察情形酌定章程確實具奏要在日久遵行毫無窒礙方為至妥不得以空言塞責致日久仍屬具文也將此諭知鄰廷積等並傳諭文祥知之欽此

旨寄信前來

722 軍機大臣 字寄

江西巡撫陳 道光十六年五月十八日奉  
上諭有人奏江西藩司署內劣幕吳雷門盤踞數十年之久不肖州縣慕其勢力拜為老座各屬幕友分投小戳明薦館地暗中分肥其子姪兄弟親戚朋友多開賭酒南貨錢店凡賄商要案悉由此路聞通州縣間有不與交結其中詳文業動建駁飭近復使其子進署代辦一切案件以致外間噴有煩言等語幕友裏辦稿業不過分任檢查原不

禁若如所奏把持官府勾串招搖無所不至大為地方之害著陳鑒嚴密查明該幕僚何年月日刑名藩署其子弟果否出入衙署干預公事如查有種種劣蹟即當按律懲辦毋稍寬貸並將勾串各劣幕一一查明即時驅逐出境不准暗地藏匿改名潛跡以肅官常而禁奸黨特此諭令知之欽此

旨寄信前來

723 道光十六年五月十八日內閣奉

上諭吏部左侍郎龔弁正出差之缺著王植署理欽此

724 道光十六年五月十八日內閣奉

上諭崇文門副監督著貴慶去欽此

725 道光十六年五月十八日內閣奉

上諭伍載禮受王詞久干例禁曾經屢次降旨嚴禁隨習各直省督撫自應一體恪遵乃近年據翔松

頭奏奏白馬州州判吳士敏濫刑拷斃四命烏爾恭額奏著嘉興府通判丁廷鈺濫刑加責凡人錢同甫忠吉忠賀與典文田承淵杖責魏克項兒命申舒賢泰岳陽縣典文周紹宗刑訊程滿程兒命兩月之間層見疊出其未經發覺者更不知凡幾是前<sup>督</sup>撫等以朕諄諄告戒之詞視為具文並不實力奉行挽回積習已可察見近聞各省吏目典史地方以為拘押之所縱差勒索盜焚不堪此等以賄濟貪玩視民命之負皆因該管上司約束不嚴以至肆行無忌與其奏處於濫刑之後孰若禁止於擅受之先著通諭各省督撫嚴飭所屬印官密行查訪如有擅受不待濫刑印票知嚴奏倘徇情隱飾一經破案將印官一併奏處以恤民命而導責成欽此

726 道光十六年五月十八日內閣奉

上諭給事中那瑪善等奏各省執解部庫銀兩請先咨部都察院一摺各省銀兩到京向由該管官結

報況地再由步軍統領衙門知照部庫立法已屬周詳惟于未至京之先難保無截留勾串私出剽付批迴等弊著各督撫監督監改嗣後批解部庫銀兩即將款項數目及領解職名起解日期程限具文飛咨部察院衙門由部察院堂官劉知稽查銀庫科道設稽查記簿收後註銷<sup>並</sup>著于年終彙造批解總冊咨交部察院彙呈在京各衙門彙奏及各省搭解零星款項著一體遵照辦理以杜弊混而重庫務欽此

727 道光十六年五月十八日內閣奉

上諭給事中那瑪善等奏解部庫款積欠延宕請飭部查辦一摺各家應交銀庫銀兩於具文批解時即應持銀到部該部印出兵劄付赴庫交納是容任意宕延岳據奏稽左翼鐵匠營應解道光十五年節省爐座銀兩批文到部後遲延至數月始行交納其右翼節省爐座銀兩迄今尚未交庫著戶部查明此項銀兩因何遲延是否到有情弊分別辦理嗣後如何妄立章程使庫項不致延宕著一併嚴議具奏欽此

728 道光十六年五月十八日內閣奉

上諭御史黃仲容奏請崇佐或伍孫人員委署庶缺一摺各直省每屆鄉試之年現任州縣調充內外庶官所出調庶之缺例應於候補人員內慎選疏委以重職守若如該御史所奏外省竟以委署庶缺為調劑如布政按察二司經歷及通判州同州判府經歷縣丞各項人員或因本任缺若百計廣營希圖沾潤上司賄徇情面委辟一下本任官即送與薪水銀兩此輩伍或等官視為利藪到任之日戶婚四土事件或受賄消刑或縱差株累至於命盜巨案刑又置之不問候本任官回任自行賄錢緝捕需時既久先犯必致逃脫案情必致積廢是委署不淨其人貽誤地方不淺嗣後各省州縣調庶之缺著該督撫先於候補人員內揀選委署如無候補人員方准於儘先儘高擇先考成職望高者委署

重選社官委署將此通諭知之欽此

729 道光十六年五月十八日奉

旨志郡王綿愉著交宗人府議處欽此

730 道光十六年五月十八日奉

旨已革三等毅衛梅世英現據內務府查得無獲著步軍統領衙門順天府五城一體嚴拿研者內務府訪拿務獲緝案審訊欽此

731 軍機大臣 字寄

欽差尚書恩 侍郎趙 道光十六年五月十九日

奉

上諭本日有人奏廣東候補通判朱權初本遊幕粵東在臬司幕內多年致富違酌增常例捐納通判仍掣廣東連州程匪滋事時該員懇求上官隨營辦理軍需大功告竣奏請賞戴花翎以同知升用經部議駁仍歸本班儘先並賞戴藍翎近在廣東省城狀元橋街買地建置大宅聲勢赫然又有臬幕李廷泰楊尚文係該通判幕學弟子因此奏緣交通復將該通判親弟捐納府經歷分發四川之朱采薦入臬幕該通判朱權常與臬司衙門辦理發審案件內外朋比招搖市權致粵東一省官場革友旦夕奔走該通判之門一時遂有蠹朱及朱七

硃

殊

大王名目該通判自遊幕及分發在粵多年凡廣東省會各幕大半皆與有瓜葛肇慶府幕朱翰亦其兄弟親屬門徒有滿東粵不知謹慎遠嫌反使兄弟牽緣幕幕誇張聲勢威福自專已可概見該省現有瓊州府富岡崇阿幕友李中杰向所屬會同縣知縣趙榮勸為乾館不遂遇事苛求以致縣府互揭一稟投省各辦李中杰畏罪自盡該通判朱樞承審百報恐嚇趙榮該縣堅不輸承尚未定案各等語臬司為通省刑名總匯豈可令職官兄弟盤踞把持以致百弊叢生該通判之弟朱某業以府經分發四川若非黃緣交通豈肯舍官就幕至瓊州府知府富岡崇阿與會同縣知縣趙榮互揭之案何以久未定讞該幕李中杰是否因勒索乾館畏罪自盡及通判朱樞承審恐嚇等情均應澈底根究著臬司趙盛奎迅即查明展加懲辦以端幕習而儆官邪毋得稍有不實不盡將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

732 軍機大臣 字寄

兩廣總督鄧 廣西巡撫梁 雲貴總督伊  
雲南巡撫何 貴州巡撫賀 道光十六年五  
月十九日奉

上諭御史李紹昉奏稽查三省昆連地界匪徒以靖地方一摺據稱廣西泗城府屬西隆州百隘地方與雲南廣南府貴州興義府連界三者通衢距城寫遠匪徒易於叢集近日廣東會匪犯案復多竄匿於此勾通土惡結黨成羣名為大貨子大為鄉里過客之害其山崙僻處時有不合屍骸地方官既失於查拏百姓又不敢言告甚至被擄之家連身入夥等語此等匪徒聚眾擾害閭閻若不早為懲治愈聚愈多必至釀成巨案著鄧廷楨等確查懲辦並著酌定章程或州縣設法查拏或管員定期會哨以期並數肅清至所稱調撥內地文武員弁顯設兵役改移建置伴聲勢聯絡緝捕得力之處均著該督撫會同悉心妥議具奏將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

733

道光十六年五月十九日內閣奉

上諭近來外省各奏案件諸多顛項半係調停了事  
 故詞每抑揚語涉蒙混前曾降旨如有以控出  
 有因據誤控字樣結案者著刑部隨案查明發  
 斥本日據寶興等覆奏審明四川峨邊廳夷匪擄  
 掠一案既經訊出與十三支夷並無干涉該民人  
 徐惘林所控多有未實何以又云該民人因被擄案  
 口情急赴控尚屬有因可見外省辦理案件類多  
 兩可之詞毫無定見朕綜理庶政總求一實字嗣  
 後各直省無論<sup>奉天</sup>岩<sup>奉天</sup>泰<sup>奉天</sup>控案務當實實定讞不得含  
 混模稜力除從前積習四川距京稍遠想尚未奉  
 到作降諭旨姑免置議著裁達廳安岳縣知縣濮  
 瓊於漢氏被擄雖經案報藩司並未通詳前任四  
 川布政使候補京堂孝義文著裁達廳恭將唐永  
 清於該夷滋事僅止會同彈壓並未案報均著交  
 部議處成都將軍寶興四川總督鄂山提督余步  
 雲未經查明該夷滋事僅以安靜具奏亦有不合  
 均著交部察議餘著照所議辦理該部知道欽此

734

道光十六年五月十九日內閣奉

上諭昨因京師得雨未能霑足降旨將直隸一省及  
 部中軍流等罪并在部收禁囚徒以吓人<sup>犯</sup>龍<sup>龍</sup>著案  
 件概予清理以冀遠名和官<sup>著</sup>龍<sup>龍</sup>御史袁玉麟  
 奏稱此外各衙門羈押輕罪人犯正恐不少請旨  
 一律查辦著步軍統領五城御史順天府府尹直  
 隸總督一體嚴飭所屬子現案之件詳核案情<sup>建</sup>  
 為密結其有應取保者速令取保應省釋者速行  
 省釋不得遲延稽禁以示矜恤而遠祥和欽此

735

道光十六年五月十九日奉

旨白芝勇即白二張洪即張二李三石雲鵬即石二  
 楊四海即楊二著交刑部嚴審在逃之石大侯二  
 張二馬四著步軍統領衙門順天府五城一體嚴  
 拏務獲歸案審訊欽此

736

道光十六年五月十九日奉

旨董志華張廣興田二董義仁吳大劉文之王玉棟  
 葛文禮王訓通請任為劉印堂王文斗俱著交刑  
 部審訊欽此

殊

737 道光十六年五月二十日內閣奉

上諭琦善奏請揀員升署沿河要缺知縣一摺著照所請直隸永清縣知縣員缺准其以張夢麟升署照例送部引見該部知道欽此

738 道光十六年五月二十日內閣奉

上諭秉毓奏請借項修築運河埝道一摺山東運河為漕艘經由要道據該河督查明魚臺汎河道八十餘里西岸係漕行埝道外臨南陽昭陽二湖東岸收蓄獨山湖水兩岸官陡大修已闌三十餘年現在日形殘缺亟應乘時修築著照所請所有西岸官陡民堰兩項土石各工估需銀十三萬九千三百餘兩准其於道光十七、十八、十九年另案應動司庫銀內先行照數借撥俟本年漕船回空過竣後即將西岸埝道照估修完所借之銀自道光十七年為始分作三年帶銷清款其東岸官陡民堰各工估需銀十一萬九千四百餘兩著俟前項借款扣清即於道光二十及二十一年另案應動司庫銀內分年帶銷數銷此外上將各汛官陡著

於每年應撥司庫銀內擇要增培均不准另請議種該河督惟當督飭道廳認真妥辦倘有偷減草率情弊即行據實嚴參懲辦餘著照所議辦理該部知道欽此

739 道光十六年五月二十日內閣奉

上諭馬濟勝奏查閱營伍一摺福建興化右營守備杜瑜元精力已衰弓馬甚劣著即勒令休致餘俱著照所議辦理該部知道欽此

740 道光十六年五月二十一日內閣奉

上諭京師及畿輔一帶上年冬雪稀少本年春夏以來屢經得雨總未深透朕宵旰焦思屢誠默禱兩次親詣

黑龍潭拈香並派惇親王綿愷等分詣

三壇度祈雨澤現在將屆小暑農田望澤尤殷朕心深為憂惕尤宜再行敬謹祈求以冀甘霖速沛惠我農人著派惇親王綿愷前詣

關帝廟惠郡王綿愉前詣

城隍廟均先期齋宿於二十五日致祭度中新構  
所有一切應行事宜著各該衙門照例敬謹豫備  
欽此

741 道光十六年五月二十一日內閣奉

上諭著派定親王奕劻於二十三日起身前往密雲

縣二十五日恭詣

白龍潭拈香度祈雨澤並發大藏香二柱交定親

王奕劻祇領欽此

742 道光十六年五月二十一日奉

旨前據琦善奏前任多倫諾爾同知推升內務府掌  
儀司員外郎萬保屢次微催並不領旨當降旨交  
內務府查明具奏茲據該衙門奏稱缺懸二載該  
員實未在京所有推升內務府掌儀司員外郎萬  
保著即開缺並著琦善查明該員因何耽延照例  
辦理倘無故延留著即派員押解來京交內務府  
覈辦欽此

743 道光十六年五月二十一日奉

旨道所奏玩視監獄之江蘇江陰縣典史王慶佑江  
陰縣知縣陳希敬於監候絞犯許六營徒犯張阿  
福並不督率刑禁加意防範致令越獄同逃實屬  
疏玩管獄官王慶佑著革職交該督等提同  
刑禁人等嚴審有無鬆刑賄縱情弊按律辦理有  
獄官陳希敬著先行革職留任勒限緝拿如無弋  
獲即行嚴奏欽此

744 道光十六年五月二十一日內閣奉

上諭林則徐奏請將採辦條石出力各員分別獎勵  
一摺江蘇省委員採辦條石協濟浙江海塘要工  
該員等購料運往與承修工段之負免有區別該  
撫應請予以外途實屬過優惟趕採趕運尚無貽  
誤均應量予鼓勵所有承辦出力之吳縣知縣湯  
舉光長洲縣主簿曹錫瑛常熟縣黃泗浦巡檢孫  
鳳鳴俱著交部從優議敘署無錫縣事即補知縣  
曾承顯前署宜興縣事即用知縣何森林前署荆  
溪縣事即用知縣洪玉珩俱著交部議敘欽此



745 道光十六年五月二十一日內閣奉

上諭賀長齡奏知縣差委乏人請酌增外發一摺貴州向派鉛差歲需資款知縣數員每至差委著乏人著吏部將本年新科進士即用知縣內於處行外發該省照例裁掣外多派四員以備差遣欽此

746 道光十六年五月二十一日內閣奉

上諭葉紹本奏陳外省審案積習一摺各省州縣審理詞訟成牒後詳解各上司叢轉遇有供情翻異及控訴原審不實者不得不委員覆審該委員等自應秉公研鞫以期案確情真若如所奏近來委審之員不能實心勘訊非迎合上司意指即瞻徇同官情面往往含糊草率甚或徇私挾詐變亂是非上司受其朦蔽照詳定案無怪屢審屢翻率行來京控告著各該督撫臬司等嗣後遇有發審案件務選廉明公正幹練老成者派令覆審不准以心術不端浮華巧詐之員濫行充數該督撫等仍當隨時加意查察倘有執法舞弊曲直混淆者即行擇實嚴參毋得稍有徇隱以歸竄實而免寬濫將此通諭知之欽此

747 道光十六年五月二十二日內閣奉

上諭定親王奕紹現在出差樂部什務處印鑄著委紀佩帶欽此

748 道光十六年五月二十二日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請勸項修築塘工一摺浙江西塘築埭盤頭各工因本年陰雨連綿山水興潮相激閘多潑損據該撫查明最險之李家汎西身字號起至翁家汎西添字號止又翁家汎號字號起至戴家汎措字號止共築埭工長五百四十九丈又西添字築盤頭一座黃字築盤頭一座均係築格撥卸附土埭寬久逾固限自應乘時搶築以禦壩伏大汎又錢塘縣境內江塘被風潮衝擊損壞甚多現據查明麓字號起至棠字號止閘段工長九十七丈五尺久逾固限石塊酥碎底格朽爛該處緊貼民房農田為文報往來大道亦應趕緊修築以衛田廬而利郵傳所有西塘築埭盤頭各工估需例加工料銀二萬八千五百九兩零著准其在於歲額運庫初二兩次高息項下分別動支給辦

其錢塘蘇江塘工程估需工料銀四千一百四十七兩零准其在於藩庫工程平餘款內動給核撥即嚴飭該道督率各員上緊趕辦務期工堅料實毋任稍有單率偷減工竣覈實驗收照例保固該部知道單併發欽此

749 道光十六年五月二十二日奉

旨已革三等護衛梅世英著步軍統領衙門順天府五城一體嚴拏務獲歸案審辦著英奕紀敬敏虎蒙額並慎刑司郎中普琳景福俱著交部分別嚴處欽此

750 道光十六年五月二十二日奉

旨李二慶書節燕吉瞬俱著准其減等餘依議欽此

751 道光十六年五月二十二日奉

旨韓老孔七兒高羊兒劉三郭七兒俱著交刑部審訊欽此

752 軍機大臣 字寄

欽差尚書恩 侍郎趙 道光十六年五月二十三

日本

上諭有人奏江西省貪劣各員聲名狼藉劣款昭著等語事關官吏執法營私貪婪不職聞聞苦累衆怨沸騰如果屬實必應嚴行查辦以警官邪著恩銘趙盛奎於查辦廣東事竣後先赴江西會同巡撫陳譽將指內所指各該員款蹟逐一確查秉公訊究務得實情按件懲辦方為不負委任原摺著鈔給閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

753 軍機大臣 字寄

江西巡撫陳 道光十六年五月二十三日奉

上諭有人奏江西省貪劣各員聲名狼藉劣款昭著等語事關官吏執法營私貪婪不職聞聞苦累衆怨沸騰如果屬實必應嚴行查辦以警官邪已有旨諭令恩銘趙盛奎於查辦廣東事竣後馳赴該省會同該撫秉公料理該撫甫經蒞任自無所用

其迴覆著即將摺內所指各該員款項逐一訪查  
明確伏恩銘等到該省時會同研訊確情務當破  
除情面據實究懲毋得稍有徇縱致有不實不盡  
原摺著鈔給閱看將此諭令知之欽此遵

音寄信前來

754 道光十六年五月二十三日內閣奉

上諭廖鴻荃著調補工部右侍郎兼管錢法堂事務  
史鑾著轉補兵部左侍郎其所遺六部右侍郎著  
祁霽藻補授欽此

755 道光十六年五月二十三日內閣奉

上諭世泰著來京另候簡用張作功著調補四川松  
潘鎮總兵所遺福建汀州鎮總兵員缺著陶飛熊  
補授欽此

756 道光十六年五月二十三日內閣奉

上諭雲南臨安府知府員缺著鄭紹棟補授欽此

757 查雲南臨安府係繁疲難要缺謹

奏

758 道光十六年五月二十三日內閣奉

上諭伊里布等奏請將知府知縣分別改簡降補勒  
休一摺雲南臨安府知府陳錫熊控取稽察辦理  
未能裕如著以簡缺知府歸部銓選照例送部引  
見河西縣知縣陳梅辦事密崇浙形竭蹶著以縣  
丞降補歸部候選署賓川州事浪穹縣知縣劉玆  
年逾六旬近多疾病著即勒令休致該部知道欽  
此

759 道光十六年五月二十三日內閣奉

上諭伊里布奏校閱省標官兵一摺雲南督標雲騎  
尉世職馬朝輔技藝軟弱操標恩騎尉方燦斗步  
箭全空俱著勒令休致該部知道欽此

760 道光十六年五月二十三日內閣奉

上諭恩特牙頰奏搜查三退各幫私帶器械完竣一

摺此次搜查糧船私帶器械各員升高屬番魁所  
有中營千總謝有桂右營千總曾廣極加恩著遇  
有應陞缺出儘先陞用城守營千總陳以登著實  
加陞銜山陰縣主簿今陞<sup>內閣</sup>沅陽縣縣丞王毓祥著  
交部議叙該部知道欽此

761 道光十六年五月二十三日內閣奉

上諭御史陳功奏本科進士慶廉咨送考試兵部司  
負辦理朦混一摺著者英武忠額查明具奏欽此

762 道光十六年五月二十四日奉

上諭山西朔平府知府員缺著張景馨補授欽此

763 查朔平府係衝繁難要缺設

奏

764 道光十六年五月二十四日奉

旨韓大韓四華明齋雙刀王二張加路孫黑子俱著  
交刑部嚴訊欽此

765 道光十六年五月二十四日內閣奉

上諭中書賢奏藩司甫經到任請將錢糧奏銷展限  
一摺山西布政使經頗有甫經到任未能依限造  
辦奏銷准其展限一月該部知道欽此

766 道光十六年五月二十四日奉

旨志郡王綿愉著照頭品職任刑休半年不准抵銷  
欽此

767 道光十五年五月二十四日內閣奉

上諭中書賢奏請將知府解任審辦一摺山西朔平  
府知府多爾濟善現經該民婦王趙氏喊控多款  
并據該撫訪悉該府種種酗酒任性各情節必應  
澈底根究多爾濟善著暫行革職交中書賢督同  
臬司慶林將該員提省秉公研訊務得確情換律  
定擬具奏欽此

768 道光十六年五月二十四日內閣奉

上諭鍾祥奏請將捕蝗不力之知縣把總摘去頂帶

等語山東那城縣知縣章致專況把總許殿元均著摘去頂帶責令趕緊撲捕如仍怠玩不力即行嚴參懲辦欽此

769 道光十六年五月二十四日奉

旨李宗貽奏給事中汪叔原係屬嫡親姑舅之子例應迴避著該部照例辦理欽此

770 道光十六年五月二十四日內閣奉

上諭中政賢奏遴員升補知府一摺著照所請山西寧武府知府員缺准其以王有士升補照例送部引見該部知道欽此

771 軍機大臣 密寄

欽差尚書湯 侍郎文 道光十六年五月二十五日奉

上諭本日據通司司參議劉璋奏請飭算川省指給軍需銀款並將餘存銀兩生息以資邊防一摺著湯金到文履調取簿冊澈底清查如前住藩司李

義文寶有侵冒情弊立將從嚴參奏毋稍徇隱原摺著發給閱看再本年二月內四川民人陳姓未京具控行抵直隸涿州被竊報案經該州飭委吏日查驗搜出呈詞一紙係列款控告該省軍需復該州稟知直隸總督委負將該民人解回四川原籍著湯金到文履即查明本年直隸解回人犯如果係陳姓其人嚴密提者是否帶有呈詞經該州地方官搜出所列各款情節虛實務須逐一查明秉公覈辦據實具奏將此密令知之欽此遵

旨寄信前來

772 軍機大臣 字寄

直隸總督琦 道光十六年五月二十五日奉  
上諭有人奏本年二月內四川民人陳姓來京具控行抵涿州被竊報案經該州飭委吏日赴該民人歇店查驗搜出呈詞一紙係列款控告該省軍需復經該州稟知琦善委員將該民人解回四川原籍等語民人赴京控告無論虛實均應究辦如四川民人陳姓果有控告軍需呈詞該督果否於該

州來報後將該民人解回原籍著據實復奏毋稍  
諱飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

773 道光十六年五月二十五日內閣奉

上諭通政司奏議劉政奏舉人截取知縣請飭本省  
督撫秉公甄別一摺著吏部議奏欽此

774 道光十六年五月二十五日內閣奉

上諭前經降旨著各省督撫於副將內遴選堪勝陸  
路總兵者保奏數員送部引見乃距今將及一年  
各省督撫保奏者尚未及半著仍遵前旨迅即覈  
實保奏俱朕記名以備簡用欽此

775 道光十六年五月二十六日內閣奉

上諭京師及畿輔一帶春夏以來得雨總未深遠朕  
宵旰焦思虔誠禱雨次親詣

黑龍潭拈香復派惇親王綿愷等分詣

三壇並派定親王奕劻前往密雲縣

白龍潭虔祈雨澤現在節逾小暑未沛甘霖朕心  
尤為憂惕允宜再行敬謹祈求以冀豐穀闡澤朕  
於本月二十九日親詣

天神壇虔中叩禱先期於二十八日遣宮齊戒其

地祇壇沃醮親王綿愷

太歲壇派惠郡王綿愉著於二十八日在紫禁城內

齊宿次日隨朕詣

壇叩禱所有朕此次親祀各事宜著該衙門敬謹豫

備欽此

776 道光十六年五月二十六日奉

旨此案巡捕御批失察聚賭之中營副將李霖森將  
王萬春遊擊李殿元及李汎都司齊朝標俱著交  
兵部分別照例議處欽此

777 道光十六年五月二十七日內閣奉

上諭向來南糧餘米俱准在州變賣俾資食用今南  
糧頭進幫船業已抵通旗丁於交足正供之外所  
有多餘米石著加恩准其就近於通州糶賣在旗

丁等既可藉以沾潤而於糞輔市價民食亦有裨益欽此

778 道光十六年五月二十七日內閣奉

上諭御史張琴奏請禁銅厥積弊以杜敲詐並剔除銅船逆滯與沽各一摺著文雲貴提督雲南巡撫督同藩司妥議具奏摺併發欽此

779 臣等遵

旨將道旁叩

聞之已革步甲恒齡密託據供係正白旗滿洲成福位領下人去年正月挑步甲在正白旗滿洲地方當差與錢糧上月已經革了我有母親現年六十五歲有哥哥叫恒興分居另過我因欠人帳目無力歸還貧窮難度我懇求

主子恩典並無別情所供是實等語查已革步甲恒齡因欠帳無償致致在道旁叩

聞應請

旨將恒齡交刑部審訊照例辦理謹

奏奉

旨依議欽此

780 軍機大臣 字寄

欽差尚書恩 侍郎趙 兩廣總督鄧 道光十六

年五月三十日奉

上諭據恩銘等奏廣東東莞縣命婦盧尹氏具控伊子已革刑部郎中盧應翔被革革職一案現已審訊完竣白謀卿陽金城尚未到粵無須質訊已行文沿途截留飭令該員等回京回省其暫行解任之案應請查銷聽候部議等語該尚書等自保未經接奉降諭旨故有此奏此時白謀卿等想已陸續抵粵該尚書等務須破除情面秉公查辦如該員等未文截回該尚書等即迅速行文沿途催令該員等無論行抵何處仍著前赴粵東聽候質訊此次摺件著暫留候訊明白讓卿陽金城奏到時再降諭旨又另片奏三月二十四日在廣西拜發之摺尚未接奉批迴計此時當已接到其因何遲延之故已明降諭旨令經過各省督撫查明辦

理將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

781 道光十六年五月三十日內閣奉

上諭恩銘等奏粵西拜發摺件迄今未奉批迴等語  
恩銘等前在廣西三月二十四日由馬上乘遞拜發  
之摺業於四月十二日降旨由馬遞覆回按計程  
途已逾期限何以尚未接奉著經通各省督撫查  
明係由何驛延宕指名奏奉欽此

782 道光十六年五月三十日內閣奉

上諭山東鹽運使員缺著鄭開禧補授欽此

783 道光十六年五月三十日奉

旨向來親祀

天神壇降輿升輿俱有一定處所各該執事人員理  
宜遵照儀注敬設將事此又本日據太常寺奏奉  
並崇儀衛奏請處分各一摺朕親詣

天神壇祈雨各該員等並未細心詳查致降輿與

儀注不符實屬錯誤鑒儀衛衛新字衛事大臣黃銓鑿  
儀仗聯順錫霖冠軍使裕瑞俱著文部嚴加議處  
贊引官廣昌對引大臣裕誠並不即時阻止著文  
部議處前引十大臣均著交部察議欽此

784 道光十六年五月三十日內閣奉

上諭陶澍等奏請將缺區新舊錢糧分別展緩一摺  
江蘇徐州海州所屬蕭縣等四州縣本係積歉之  
區本年麥收又形歉薄若將新舊錢糧同時並徵  
民力未免拮据加恩著照所請所有蕭縣本年上  
忙應徵熟田新賦及道光十五年熟田未完地漕  
並帶徵十四年民欠熟田錢糧及各案攤徵水利  
銀兩又海州道光十二三四等年災緩初限錢糧  
並帶辦道光十二三四等年災緩初限漕兵米價  
及道光十一二年災緩蘆課銀兩又沐陽縣帶辦  
道光十一二三四等年災緩初二兩限漕價銀兩又  
贛榆縣道光十一二三年舊欠災緩地漕並十二  
三年舊欠災緩漕價及帶辦十三年次限災緩漕  
米均著准其緩至本年秋後分別徵收以紓民力



該督等卽刊刻勝黃編行曉諭務使實惠及民毋  
任吏胥舞弊用副朕軫念歎區至意該部知道欽  
此

785 道光十六年五月三十日內閣奉

上諭前據御史陳功奏兵部司員辦理考武朦混當  
從者英武志願盡奏茲據奏稱慶康於道光十一  
年送考時曾經監射大臣嚴駁扣除十一年監射  
大臣係奕倫那清安辦理甚屬認真本年將慶康  
送試之監射王大臣等業經量予處分奕倫等東  
公特正自處酌量加恩以示平允奕倫現因病開  
缺著加恩賞食半俸那清安現已身故伊子全慶  
著賞加二級此案兵部司員容恩伊齡奕俱著解  
任交大學士軍機大臣訊明具奏欽此

786 道光十六年五月三十日奉

旨此案著交陶澍親批人證卷宗來公審訊按律定  
擬具奏報告謝奉文該部照例解往備質欽此

787 同日奉

旨此案著交陶澍親批人證卷宗來公審訊按律定  
擬具奏原告民人高添仁該部照例解往備質欽  
此

788 道光十六年六月初一日內閣奉

上諭興德奏請揀調伯克一摺烏什阿奇木伯克員缺准其以邁瑪塔里普調補該衙門知道欽此

789 道光十六年六月初一日內閣奉

上諭興德奏林員升調伯克開單請簡一摺喀什噶爾四品噶雜納齊伯克員缺准其以容爾哈色木調補其所遺喀什噶爾四品商伯克員缺著以振正之雅爾普升補庫車沙雅爾五品噶雜納齊伯克員缺著以擬正之伊敏升補該衙門知道欽此

790 道光十六年六月初一日內閣奉

上諭琦善奏遊擊人地未宜遊員對調一摺著照所請直隸天津鎮中軍遊擊准其以石生玉調補所遺督標後營遊擊員缺即以羅應鰲對調大名鎮中軍遊擊准其以蘇布通阿調補所遺大名鎮左營遊擊員缺即以陞福對調該部知道欽此

791 道光十六年六月初一日內閣奉

上諭琦善奏請保奏緝捕出力各員等語此案魏大

792 道光十六年六月初一日內閣奉

未等私販銅鐵出海經該督委員王鎮金承招暨天津縣知縣張欽祖署千總蕭雲升前往緝捕均能慎密從事矣迭獲訪半月之內獲犯多名查辦高屬出力著該督即行酌量保奏候旨施恩欽此

上諭據琦善奏鳳中二幫糧船水手孟學恩康氏能閩皮臉即閩永傳三人手執刀械在故城縣南園外批詐盜船錢文經該縣知縣等會營查拏該犯用刃將河兵拒傷現將孟學恩康氏能等獲閩皮臉查已逃逸等語糧船水手各給腰牌原以防滋事而杜冒濶乃本年甫經奏定章程旋有孟學恩等藏匿兇犯解票腰牌登岸批詐拒捕傷差可見該管官弁並不能實力奉行仍前玩泄且前據漕運總督奏稱首二進各幫船行批准委業經派員按船搜起違禁器械何以現獲之孟學恩等又復持有順刀此項兇器置自何處是否原來藏帶押途中另有造賣接濟之處著該督澈底追究盡法懲治並著該漕督將違犯閩皮臉即勒今原保之

頭舵迅行文出移解直隸歸案審辦毋許藉詞支延所有鳳中二幫弁丁及總運廳員著該督會查明分別參處欽此

793 道光十六年六月初一日奉

旨這所奏玩視蝗蝻飾詞稟報之直隸安州知州胡彥升暨不行幫捕之吏目張若蘭均著先行革職交該督責令該幕員等隨同署任並委員差弁併力設法殲除能否迅速淨盡再行照例覈辦欽此

794 道光十六年六月初一日內閣奉

上諭寶興等奏請揀員升署副將一摺著照所請四川懋功協副將員缺准其以包相卿升署照例送部引見仍俟扣滿年限另請實授該部知道欽此

795 道光十六年六月初一日內閣奉

上諭前據劉誼奏本年二月內四川民人陳姓來京具控該首軍高行至涿州被竊報案該督即轉該民人解回原籍當降旨令琦善據實覆奏茲據該

督奏稱查明本年二月並無四川民人陳姓在涿州被獲刑款控告該首軍高之事惟上年十二月間良鄉縣有四川民人蘇龐煎報稱伊在琉璃河遭火銀錢被該縣當堂查訊並無獲獲呈底一紙稟經該督派員訊明該民人因伊業師于獲勤父子於道光十二年被夷匪搶去總未放出啟赴京呈控請飭兵征剿夷匪英呈內稱叙源據各情皆在本經別辦以前且該民人並未在本省各衙門呈控遂致赴京越訴該督將該民人咨回四川總督查辦並無不合所有劉誼原奏著毋庸議欽此

796 道光十六年六月初一日內閣奉

上諭廣東督糧道員缺著朱達吉補授欽此

797 查廣東督糧道係衝繁疲要缺謹

奏

798 道光十六年六月初一日內閣奉

上諭御史王藻奏請裁汰漕標委員一摺著漕運總督議奏摺併發欽此

799 道光十六年六月初一日內閣奉

上諭御史王藻奏運河官板船隻請覈實查驗等語著直隸總督嚴議具奏摺片併發欽此

800 道光十六年六月初一日內閣奉

上諭御史王藻奏請稽查運丁盜賣虧短攬和偷漏一摺著直隸總督漕運總督會謀具奏摺併發欽

此

801 道光十六年六月初二日內閣奉

上諭陶澍等奏本年漕船渡黃日期比較上三年計早數十餘日不等請將尤為出力各員分別獎勵等語漕糧為天庾正供似應早完早開於四月初十日以前全數償至清江剋期抵壩渡黃北上近年以來逐漸遲復並未見該督等將玩誤之員指名參奏本年渡黃日期不過比遲緩之年較早該督等遂請獎勵是該督等祇知賞而不知罰不足以昭激勵且所請將印委各員弁加銜及儘先升補之處亦未免過優姑念此次全漕渡竣尚在

大汛以前該員弁等亦有微勞自應酌予獎勵山

陽縣知縣張用熙著清河縣知縣陳廷連長淮衛守備張貽桂東昌衛守備劉大有清河縣外河縣丞張嘉琳安東縣縣丞沈樹基試用布政司理問陳丙候補衛千總楊懋和廖壽彭均著加恩吏部議敘該部知道欽此

802 道光十六年六月初二日奉

旨惠郡王綿愉福晉園寢著官為經理派克家額專司其事其撥換地畝著於近年會計司革退莊頭遞交各州縣官地內由內務府叢計租數就近撥換欽此

803 道光十六年六月初二日奉

旨寶興郭山舍步雲俱著罰俸年不准抵銷餘依議欽此

804 道光十六年六月初二日奉

旨羅文俊著仍留陝甘學政之任欽此

805 道光十六年六月初三日內閣奉

上諭林則徐奏

觀音大士疊胎靈感佑庇民生請頒給扁額一摺

江蘇吳縣鄧尉山光福寺

觀音大士每遇旱潦之年禱祈輒應朕特親書扁

額發交該撫祇領著即虔詣該處

廟中敬謹懸挂用副

靈既而肅觀瞻欽此

806 道光十六年六月初三日內閣奉

上諭祁寯藻著仍在南書房行走欽此

807 道光十六年六月初三日內閣奉

上諭高溥奏京控素內卷摺延不解密請將該族負

分別族處一摺土默特貝子旗蒙古步達扎布赴

步軍統領衙門呈控回廣生等霸地抗租等情一

案事閱五年之久該族貧等並不將素卷人控解

文書辦疊經降旨飭催仍復玩泄非尋常遲延可

比土默特貝子旗署理扎薩克印務協理台吉索

都巴扎木素協理台吉旺沁巴拉色巴拉俱著交

理藩院履加議處貝子德勒克色格雖在京當差

亦難諱為不知著交理藩院照例議處至此案控聞

地畝必須就近勘訊以昭核實著一嚴飭該旗將

台吉彭保等及檔案地圖一併移交三座塔理事

司員會同朝陽縣傳集回廣生等勘訊明確照例

辦理如該司員等於該旗移交卷籍後仍不能依

限完結即將該司員等查處以清積案而儆玩延

欽此

808 軍機大臣 字寄

欽差尚書湯 侍郎文 道光十六年六月初四日

奉

上諭有人奏四川涪州知州楊上容賦性貪酷惟利

是憂營勒索鹽店規禮鎮押店商再復旦向燒索

勒勒賦銀至一萬六千兩之多該處士民編刻歌

謠到處張貼又江津縣知縣郭彬圖任性驕橫與

情不洽該員於升任後應缺鑽營逗留江津不赴

新任又新任資州華陽縣知縣舒翼闕冗糊塗每

遇訊素愈然軒睡物議紛騰有舒鑿子之統各等  
語州縣為親民之官如有執法營私即應隨時奏  
辦揚上客賄賂利求致士民編刻歌詞該營上司  
何克漫無覺察至郭彬圖是否逗留盤踞并有無  
饋送情事行冀何以轉得升階著湯全釗等嚴密  
查訪如得確情據實恭辦毋得稍存瞻徇自貽欺  
隱之咎原摺著鈔給閱看將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

809 軍機大臣 字寄

湖南巡撫裕 道光十六年六月初四日奉  
上諭有人奏湖南軍政廢弛總督訥爾經額縱容諱  
飾一摺著裕泰即將摺內所敘各情節逐一查明  
據實具奏該撫甫經到任無所用其迴護如稍事  
瞻徇有不實不盡之處該撫不能當數飾重咎也  
原摺鈔給閱看將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

810 道光十六年六月初四日內閣奉

上諭嗣後凡綠事革職降調應行離省之員該督撫

於交代清楚後不給咨令其回籍及回籍候補赴  
部候選轉將該員留省差委藉端保奏者著照委  
署別缺之例定為降一級調用私罪該部即載入  
則例通行各直省著為令欽此

811 道光十六年六月初四日奉

旨此案領催扎蘭泰因承襲位領不明違子桂森  
赴都察院呈控著交值年旗查明具奏欽此

812 道光十六年六月初四日奉

旨此案著交桂良親提人證卷宗秉公嚴審按律定  
擬具奏原告張幅該部照例解桂備質欽此

813 今日本

旨此案著交周之琦督同臬司程銓親提人證卷宗  
秉公嚴審按律定擬具奏原告康德怡該部照例  
解往備質欽此

814 道光十六年六月初四日內閣奉

上諭御史鄂爾瑞奏議啟儘儘先選用外郎與奏定章程不符一摺著吏部查明具奏欽此

815 道光十六年六月初四日內閣奉

上諭陶對等奏遵旨酌保等獲清船要犯出力人等語此案鎮海幫水手王七光暴衆著經河標右營遊擊馮萬青著桃源縣知縣海州州同龔照琪親督擒拿就獲緝捕高屬認真馮萬青著以應升之缺升用龔照琪著將所捐知縣銜銷仍遵前者以知縣升用遇有江蘇知縣缺出即予升補以示鼓勵該部知道欽此

816 道光十六年六月初四日內閣奉

上諭哈豐阿奏請勒休瘦老各負一摺鎮黃旗索倫八品廕生三紀哈鎮白旗巴爾虎索騎尉德勒格爾馳騎校富蘇胤鎮紅旗索倫騎尉扎普都奈正藍旗巴爾虎雲騎尉舍木年力衰邁馬步皆平常保奏勒令休致該部知道欽此

817 道光十六年六月初四日內閣奉

上諭桂良奏揀負請補沿河要缺知縣一摺著照所請河南考城縣知縣負缺准其以席雲補授照例送部引見該部知道欽此

818 道光十六年六月初五日內閣奉

上諭貴州黎平府知府張鳳翽於地方應辦公事多不經心毫無振作既據該管道面稟前任巡撫裕泰該撫即應身摺奏奉或列入計典甄別乃該撫僅於年終密摺內註明請旨休致及至降旨詢問始據實覆奏督撫大員於此等閒冗之員既有酌見即當不避愆咎明列奏章庶所屬共見共聞咸知警惕裕泰於調任後並不補行奏勅實屬顛倒了事裕泰著吏部議處張鳳翽著即勒令休致該部知道欽此

819 道光十六年六月初五日內閣奉

上諭裕泰奏知縣人地未宜請揀負對調一摺湖南新化縣知縣准其以韓曜調補所遺瀘溪縣知縣負缺即以李澗對調該部知道欽此

820 道光十六年六月初五日內閣奉

上諭裕泰奏揀實詞補要缺知縣一摺著照所請湖南湘鄉縣知縣負缺准其以履學淦詞補該部知道欽此

821 軍機大臣 字寄

湖廣總督訥 湖南巡撫裕 傳諭鎮軍鎮總

兵楊芳 道光十六年六月初六日奉

上諭有人奏湖南鎮軍兵勇起畔遲克及戕官挾制該省辦理觀望遲延情形一摺據稱本年正月十八日兵勇因土俗畧神該道常慶使人彈壓不服乘勢鬧至道署該道平日信用之吳立恐伊平日所為被衆當堂說出力主該道踰垣逃匿吳立黃夜奔往乾州搭船遠遁充當該鎮巡捕之滕千總承領上年糧匪案內兵勇等卹賞銀兩該千總與藩司書吏通同折扣每名應領五十兩者七扣發銀三十五兩應領三十兩者發銀二十一兩總督納爾經額因武岡會匪滋事前往查辦事竣值丁就近馳往候早彈壓乃自該處正月派事浪遲延

二三月之久復又久住寶慶府城及得該案戕官信息猶不趕緊馳往查辦此後尚稽閱兵為名各處延留遲延時日各等語本年正月鎮軍兵勇滋事之時該道常慶踰垣逃匿所信用之吳立黃夜奔往乾州搭船遠遁滕千總與藩司書吏通同折扣是否屬實著納爾經額等查明具奏並將吳立黃速併等嚴切研究空納爾經額因何各處延留遲延時日之案著法查明由迴奏又酌擬善後章程一摺著納爾經額裕泰楊芳會同詳悉妥議吳奏原摺鈔給閱看將此諭知納爾經額裕泰並傳諭楊芳知之欽此遵

寄信前來

822 軍機大臣 字寄

閩浙總督程 福建巡撫魏 道光十六年六

月初六日奉

上諭前據程祖洛等奏請獎勵福建省捐辦義倉官紳摺內聲稱梁章鉅先自勸捐並相地建倉嗣因奉旨進京其子贊外郎梁遠辰接于勸捐竣事並



自捐銀四千兩請旨歸部儘先選用等語當經降旨允准茲有人奏渠違辰於上年八月隨同伊父進京九月復隨任甘肅該員現在京中飭查屬實何以該督等奏稱渠違辰於渠章能違京之後接手勸捐請予儘先選用著程祖洛魏元煥明白迴奏將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

823 道光十六年六月初六日內閣奉

上諭前同御史黃仲容奏廣東普寧縣知縣湯聘三徵收錢糧需索現費致礙城門巨業澄海縣知縣張文化嗜酒廢公積案不辦等情當降旨著恩銘著秉公查辦並據查明上年普寧縣大埔等鄉與橫山等鄉城門一案係在湯聘三知事之後因陳張二姓彼此扶植互鬥並非因需索現費起衅業經該撫查明奏結張文化在澄海縣任內據報被劫被竊各案並無四十餘起之多被劫各案俱經獲犯被竊各案亦已獲犯多起其蔡芳家被劫一案並非該員任內之事該員接緝後又經督獲盜

犯一名尚非慧業不辦亦無縱酒廢公情事惟陳文忠家被劫一案並未具報是否有改劫為竊情節著鄧廷楨送委誠安之自前往該縣確切查明據實具奏欽此

824 道光十六年六月初六日內閣奉

上諭恩銘等奏請飭查邊陲摺件之州縣指名奏案等語恩銘等前在廣西拜發摺件已於五月初十日奉到查沿途各驛站均係按程遞送尚無遲誤惟查四月三十日已至廣西平樂縣由平樂至蒼梧計程不過五百四十里何以遲至八日始行遞至蒼梧且將兵部大牌內填寫程站之處塗改糊實屬玩延著鄧廷楨查明係何州縣遲延指名參奏欽此

825 道光十六年六月初七日內閣奉

上諭前同京師及畿輔一帶得雨未能深透朕親詣天神壇虔誠祈禱並派樸親王錦懷等分詣地祇壇

太歲壇暨

闕帝廟

城隍廟等處敬申叩禱連日濃雲密布雷兩作則

昨日自交午以後甘霖普被四野優霑至五亥刻

方止本日據順天府奏報得雨四寸有餘比官節類

災慈垂佑朕心實深寅感允宜敬謹報謝用恭

天庥朕於本月十二日親詣

天神壇行報謝禮先期于十一日進宮齋戒

地祇壇派侍親王紳衛

太歲壇派侍親王紳衛

闕帝廟派定親王奕劻

城隍廟派度郡王綿恩均著於十一日在紫禁城

內齋宿次日隨朕分詣行禮所有此次報謝各典

禮著該衙門敬謹豫備欽此

<sup>826</sup>道光十六年六月初七日內閣奉

上諭前據琦善奏請將道光十年以前積糧積火一

體豁免當降旨交戶部議奏經該部以承領官地

與民人自置田畝不同駁令嚴催徵已依議行矣

朕思民人佃種旗地向來遇有偏災亦與民田一

律蠲緩道光四年曾將嘉慶六年起至二十

五年實欠在民之旗租銀數撥降旨豁免其道光

元年至四年積欠銀數分年帶徵今據該督查明

元年至十年尚有旗租銀十五萬餘兩數一千三

百餘石未能徵起此項佃種之旗地之民近隸畿

甸同深澤著加恩一體豁免以普仁施該督即刊

刻謄黃通行曉諭並照例按戶付給免單展禁層

奏影射需索等與務令實惠及民用副朕推恩布

閭至意該部知道欽此

<sup>827</sup>道光十六年六月初七日內閣奉

上諭鍾祥奏知縣典史互揭請分別革職任一摺山

東文登縣典史孫立中擅受差押經該縣知縣

文查明揭報該典史即以該縣科派倉穀等情揭

實業關官員互揭自應從嚴審辦以肅官方孫立

中著即革職政文著撤任文該撫投集人證確切

著該撫實辦理該部知道欽此

828 道光十六年六月初七日内閣奉

上諭禮祥奏知縣人地未宜請撤任另補等語山東利津縣知縣普恆於稽查吏胥招徠販運等事務照料未能周到著即撤任開缺留於該省俟有相當缺出酌量補用該部知道欽此

829 道光十六年六月初七日内閣奉

上諭怡良奏官紳捐修城垣廟宇工竣請分別鼓勵一摺著吏部議奏此項工程由外捐辦著免其造冊報銷又另片奏紳士捐資買米平糶請各給予獎勵等語並著吏部議奏摺片單併發欽此

830 道光十六年六月初七日奉

旨保昌阜林多爾濟常明保著加恩改為降一級留任不准抵銷欽此

831 道光十六年六月初七日内閣奉

上諭甘肅軍奏階道員缺著翁日遠補授欽此  
所遺員缺著該省督撫揀員調補其所遺之缺著虞備補授

832 查甘肅軍奏階道係繁疲難要缺擬奏

833 軍機大臣 字寄

湖南巡撫裕 道光十六年六月初八日奉

上諭本日據都察院奏湖南桂陽州民人曾家敬以掘塚匿贓賄延不完等詞具控已明降諭旨文裕恭審訊矣此案民人曾家敬呈控劉昌鳳等掘伊遠祖墳墓藏匿棺骸業經歷任地方官勘明屬實又將各犯監追繳贓迨係知州到任輒被檢掘賄串丁書抽換供卷行各犯釋放案懸四載疊控未完等情案關掘塚匿骸官吏換卷弄弊不可不嚴行究辦著裕泰即親提人證卷宗將業內所指各情秉公嚴審以期水落石出按律定擬具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

834 道光十六年六月初八日内閣奉

上諭前據耆英等查明御史陳功奏奏兵部司員辭

理考試朦混一案當降旨交大學士軍機大臣訊明具奏該據長齡等奏稱本科進士康康係兵部員外郎容恩胞姪容恩以該部掌印司員於胞姪應試輒與伊齡安會同辦理通行伊齡安以向無通行之例執因檢查康康圖片改換例文通行八旗實屬有心舞弊容恩伊齡安不必交部議處著即行革職以示懲儆兵部堂官於該員等四堂辦理並無覺察著查取職名交部議處現任兵部各堂官未能將此案澈查亦屬疎忽著交部察議度廉會試自係內場憑文取中然非容恩等朦混行文該監射大臣等濫行咨送豈能俾遞入場且此次覆試殿試俱名次在後朝考又未經入選即以此文理而論亦屬平常著革去進士以為朦混俾進者戒嗣後八旗士子必實係有身疾者方准進照定例免其考試騎射不得以有疾朦混概行免考以符定制而提真材欽此

835  
奏為遵

長齡等謹

旨訊明仰祈

聖鑒事五月三十日內閣奉

上諭前據御史陳功奏兵部司員辦理考試朦混當派著英武志穎查奏恭摺奏稱康康於道光十一年進考時曾經監射大臣查核扣除十一年監射大臣係英繪那清安辦理甚屬認真本年將康康送試之監射大臣等業經量予處分英繪那清安公持正自應酌量加恩以示平允英繪現因病開缺著加恩賞假半俸那清安現已身故伊子全度著賞加二級此業兵部司員容恩伊齡安係著解任文大學士軍機大臣訊明具奏欽此日等遵即將解任兵部員外郎容恩兵部堂主事伊任禮部員外郎伊齡安傷某並派委司員將該御史摺內所指各情節逐款研訊務得確情查摺內所稱八旗士子考試應行先試騎射向係兵部武庫司承辦分別准駁一節訊據伊齡安等供稱兵部例業並無准駁之條日等猶恐該員等一面之詞藉為朦混當即片查該部據印文覆稱每科鄉會試由禮部順天府將各旗石

冊咨送到部奉部照籍冊呈送監試大臣考試其應科鄉會試並無辦過現疾准駁成案例內亦無載有拒駁之條是該部只繕籍冊並並不司准駁之柄應毋庸議又摺內所稱進士慶廉係武庫司掌印員外郎容恩胞姪其鄉會試俱係該員一手辦理一節查慶廉以殘疾得預文場考試實因監射大臣之免考而十四年以後監射大臣之不指駁實因兵部之知照通行此層最關緊要訊據伊齡安供稱道光十四年檢查正白旗滿洲圖片慶廉一名冊載身有殘疾等因復查中樞政考有手拐免考一條遂會同掌印員外郎容恩回明原任兵部尚書那清安通行知照八旗嗣後應試諸生如實係有疾不能考試騎射者遵照定例該佐領出具保結咨部因推廣創意隨將手拐二字改換有疾字樣更覺包括實無容恩代為情托等事實之容恩供亦相同且等以為若使何例每過考年俱有通行則照例辦理尚無不合復研訊容恩據供從前辦理鄉會試馬步射並無通行此次伊

齡安擬成呈堂係屬創始容恩職司掌印慶廉又係容恩胞姪未經回堂迴避另行派員襄辦實屬昏愾糊塗惟求治罪等語彼此互證推勘再三足容恩之於此案並非一手辦理尚屬可信且等竊思辦理公事自應率由舊章援引例文豈容妄更隻字此案容恩以本部掌印員於胞姪應試並不引嫌迴避輒與伊齡安會同辦理通行實屬錯誤伊齡安以向無通行之例擬因檢查慶廉圖片改換例文通行八旗實屬冒昧該如耆英等覆奏摺內所稱錯誤出於無心而瞻徇涉於有意相應請

旨將容恩伊齡安均交部嚴加議處以示懲儆兵部堂官於該員等回堂辦理並不覺察實屬疎忽應查取職名交部議處並現在兵部各堂官未能將此案澈查亦屬疎忽應請交部察議嗣後八旗士子考試騎射請仍照舊例進行所有道光十四年該部行片應即撤銷除臣潘世恩業經面奏迴避臣文字等曾經咨送慶廉考試未經列銜外所有臣等會同訊明緣由理合恭摺具

奏伏祈

皇上聖鑒謹

奏

道光十六年六月初八日

臣長齡

臣阮元

臣穆彰阿

臣王鼎

臣趙盛奎

臣賽尚阿

836 道光十六年六月初八日內閣奉

上諭琦善奏遺負調補要缺知縣一摺著照所請宣隸

彙核縣知縣員缺准其以劉延熙調補該部知道

欽此

837 道光十六年六月初八日奉

旨道所奏不將蝻孽萌生據實稟報之直隸任縣知

縣陳步業著先行摘去頂帶交該督責令設法撲

除能否迅速淨盡再行照例嚴辦欽此

838 道光十六年六月初八日內閣奉

上諭御史成觀宣奏三庫解物請一體咨報都察院

一摺前據給事中那瑪善等奏各省批解庫銀請

先咨都察院當經降旨准行茲據該御史奏稱三

庫解物情形相同請飭一體咨報外省解庫銀物

然毫無關係要查彙獎實均宜周密著各省督撫

監督鹽政嗣後批解三庫銀物於委員起解之時

將所解銀物數目及領解職名起程日期一體具

文咨報都察院衙門以憑別知查庫科道一體遵

辦以杜弊混而重庫務欽此

839 道光十六年六月初八日內閣奉

上諭御史成觀宣奏請申范陵開墾畝開例禁一摺

著兩江總督江南河道總督江蘇巡撫會同查議

具奏摺併發欽此

840 道光十六年六月初八日奉

旨此案著交裕泰親提人摺卷宗秉公嚴審按律定

擬具奏原告民人曾家敬該部照例解往備質欽

此

841 道光十六年六月初八日奉

旨此案著交梁章鉅親提人證卷宗秉公審訊按律  
定擬具奏原告生員李浩然該部照例解往備質  
欽此

842 道光十六年六月初八日奉

旨此案常二格前因發塚掘軍由配逃回復故重臨  
致報起意糾夥發掘多塚雖未見屍而疊次發掘  
官負命婦墳塋情節實屬可惡著即發往新疆給  
官兵為奴過赦不赦逸犯王五張黑喜仍著步軍  
統領衙門順天府五城五縣總督一體嚴拿務獲  
送部究辦餘依議欽此

843 軍機大臣 字寄

閩浙總督程 道光十六年六月初九日奉

上諭現任淮南監掣同知姚營前在福建省服官有  
年曾任臺學知縣該員在任時辦事才具若何操  
守官聲若何該省兄聞較切若該督確加體訪據  
實密奏將此諭令知之欽此

旨寄信前來

844 道光十六年六月初九日內閣奉

上諭國家營制之設原以枝閣操防習勞非武自技  
鎮以互備弁莫不有訓練兵丁之責必須平日謀  
求騎射操演認真俾士卒率成勁旅方為無忝厥  
職至軍營文墨本非武弁所重若留以肄習轉致  
荒廢營務則是其所輕必至輕其所重於一切校  
閱操防安望其實力經理即近來各省武弁粗知  
文義好弄筆墨以致營伍廢弛者頗不乏人著各  
直省督撫才大小營員隨時訓練俾知操演習  
身以操練如有仍蹈前轍不知悔改者立即指名  
奏至文職人員科甲出身者多文墨本其素習  
一經出省外任自當以地方公事為重實力謀  
求尚恐民隱未及周知政務或有貽誤若更分心  
筆墨必致公事拋荒殊非恪共盡職之義並著各  
省撫隨事隨時悉心察看倘有身耽文事不以公  
務為重之員務須嚴加甄覈無稍借詞徇副朕  
華崇實之至意將此通諭知之欽此

845 道光十六年六月初九日內閣奉

上諭程祖洛奏保堪勝陸路總兵之副將一摺馬

麟輝著送部引見明海著交軍機處記名以饒兵用毋庸送部引見該部知道欽此

846 道光十六年六月初九日內閣奉

上諭程祖洛等奏請將京控容素提解逾限之員交部議處一摺福建現著南安縣事浦城縣知縣范學恒著交部照例議處欽此

847 道光十六年六月初九日內閣奉

上諭工部奏請飭值應修旗營官房銀兩一摺此項長蘆應解生息銀兩係充八旗修理營房官房之用豈容任意延玩長蘆並政即將短解銀兩及本年應交息銀迅速解交以便支領辦理毋許再有延誤欽此

848 道光十六年六月初十日內閣奉

上諭御史黃仲容奏軍流人犯在配逃回請飭認真管束一摺各省軍流發遣人犯文地方官嚴加管束按時查點立法奉為周察本年四月因黃蔣洪

條奏曾經降旨通諭各省督撫遇有逃軍案件即將配所及本籍印官疎縱容由分別奏處近來軍流人犯由配所逃回原籍復行犯案者甚多並有捏報病歿情弊此等發配人犯由本籍註明犯罪事由遞解配所原屬法所難寬似此任意脫逃王法竟成虛設著各直省督撫督飭所屬府州縣官嚴行管束如有脫逃滋事一經破案即查明配所逃回年月並惡任官員職名有無賄賂控報之處分別從嚴懲處以肅法紀而杜奸竊欽此

849 道光十六年六月初十日內閣奉

上諭前據恩特亨額奏各省軍船由天津回空時請飭天津鎮道搜查水手器械當降旨交軍機大臣等議奏茲據奏稱該漕督每年督押三進糧船北行約計首進回空時該漕督尚在山東開河一帶若必責令該漕督督屬搜查實有鞭長莫及之勢著直隸總督飭令天津鎮道督率地方文武運委員弁於該處就近河面寬闊處認真查辦倘各該軍船內仍有私藏刀械鳥槍等器一經查出立即



從嚴究辦如差役兵目人等得規拘庇即行從重治罪其派出各員弁有不實力搜查者著該管各上司指名奏處自此次明定章程之後務須認真查察搜督淨盡倘再有水手人等沿途滋事執持器械者定將該管各上司從嚴懲處決不寬貸欽此

850

奏為遵

旨謹奏仰祈

聖鑒事前據清運總督臣恩將亨額奏請飭天津鎮道搜查糧船水手軍器道光十六年五月二十三日奉

硃批軍機大臣等議奏欽此臣等查糧船水手攜帶器械沿途滋事最為地方之害前經部議糧船開行以前責成糧道督率督弁會同地方文武先在水次搜查俟重運過淮由清運總督提拏一次至抵天津回空時仍督飭總運督弁各員復查一次如有藏匿違禁器械立即提犯重懲

日 潘世恩等謹

原期節節搜查庶該水手等無從隱匿不敢釀生事端茲據該清督奏稱每年督押三進船糧此行的計首進回空彼時漕臣尚在山東開河一帶相距較遠勢難親督總運督弁提拏請

飭令天津鎮總兵天津道就近督屬認真搜查臣等伏查道光十一年間臣王鼎前在直隸總督任內會據稽察回空糧船夾帶私鹽章程來有

諭旨派天津分司暨天津府等員實力巡防堵截因販此項各省幫船由天津回空時有無藏匿軍器若責令該漕督督屬搜拏未免鞭長莫及及轉致有名無實應如所請

飭令直隸總督轉飭天津鎮道督率地方文武運委員弁於搜查各船私鹽之便統於該處就近河面寬闊處所認真辦儘各幫船內仍有私藏刀械為槍等器一經查出立即從嚴究辦有犯必懲如有差役兵目人等得規拘庇即行從重治罪其派出各員有不實力搜查者應由該管各上司指名參處庶聲勢聯絡以專責成而肅漕政所有臣等酌議緣由是否有當伏乞

皇上訓示謹

奏

道光十六年六月初十日

臣 滿世恩  
臣 穆彭阿  
臣 王鼎  
臣 趙或奎  
臣 賽尚阿

851 道光十六年六月十一日內閣奉

上諭大僕寺少卿馮贊勳奏八旗士子考試騎射請添派滿御史監射並大員各省撥策請添派御史隨往糾察一摺向例文闈各場考試及武闈外場均有滿漢御史監試該少卿所奏嗣後八旗士子考試騎射添派滿御史一員隨同監射王大臣一同考校事為可行著兵部每屆考試騎射之期開單請旨簡派並外者查辦事件經朕簡派大員前往山木也察公持正察情自不致畸輕畸重若添派御史隨同前經事多窒礙難行且行之日久徒成其文易滋派策所奏著毋庸議欽此

硃

852 道光十六年六月十一日內閣奉

上諭雲南迤西道員缺著恒柱補授欽此郭維道著補授湖南岳州府知府所遺陝西寧陝廳同知員缺著邵崇補授

未在本抄卷目注

853 查迤西道係銜繁難要缺謹  
奏

854 道光十六年六月十二日內閣奉

上諭雲南迤西道員缺著馬志芝補授郭維道著補授雲南府知府所遺陝西寧陝廳同知員缺著邵崇補授欽此

855 道光十六年六月十二日內閣奉

上諭雲南迤西道員缺著 補授欽此

856 全日

查迤西道係銜繁難要缺謹  
奏

857

查湖南岳州府知府恆桂調任長沙府後業於  
本年二月由吏部知照該員告病開缺至岳州

府一缺已於上年十一月奉

旨著王簡補授旨等謹擬寫空名

諭旨並各項應用人員名單進

呈伏候

簡放謹

奏

858 道光十六年六月十三日奉

旨此案著交裕泰親提人證卷宗秉公研訊按律定

擬具奏摺咨周年湖該部照例解往備質欽此

859 道光十六年六月十三日奉

旨這所參倉差不慎致絞犯中途脫逃之原解官浙

江象山縣知縣吳錫時蒞解官奉化縣知縣李汝

霖奉化駐防千總葉憲忠著一併摘去頂帶勒限

嚴緝絞犯鄭物保務獲如限滿無獲即行照例參

辦欽此

860 道光十六年六月十三日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請將訪拏竊窩不實之縣令解任

備質一招浙江平湖縣知縣鄭錦聲於訪獲黃阿

猛窩夥肆竊一案原詳賊證諸多不實著先行解

任交該撫提同犯證澈底究追如該縣另有挾私

別情著即據實從嚴懲辦欽此

861 道光十六年六月十四日內閣奉

上諭安蘇布政使員缺著劉重麟補授欽此

862 道光十六年六月十四日奉

旨叢銓聯順俱著於職任內降一級留任錫霖裕瑞

著降一級留任廣昌裕誠俱著罰俸六個月奕典

成桂成山道慶法克典阿樂英錫性阿玉璽俱著

罰職任俸三個月均准其抵銷所有盛福崇恩各

罰職任俸三個月之處亦著准其抵銷欽此

863 道光十六年六月十四日奉

旨玉奎著准其減等與常官員俱著不准減等餘依

議欽此

864 道光十六年六月十四日奉

旨此輩著交裕泰親提人證卷宗秉公嚴審按律定擬具奏抱告王廡到該部照例解往備質欽此

865 道光十六年六月十五日內閣奉

上諭本日召見劉重麟才具中平不展藩司之任著留京以三四品京堂候補安徽布政使員缺著程霖乘補授所遺山東按察使員缺著慶林調補

按程霖山東按察使員缺著慶林補授欽此

866 查唐鑑原保單像山東進士是以臣等將山東

按察使仍擬寫空名

諭旨伏候

欽定並將原保單一併送

呈謹

奏

867 道光十六年六月十五日內閣奉

上諭萬澤奏道員蒞任需時請飭速赴新任一摺熱

河道一缺前已降旨將豐林升補著江西巡撫即

飭令該員迅速赴任以重職守所有贛州府印務著該撫派員署理欽此

868 道光十六年六月十五日內閣奉

上諭著英等奏挑挖京城內外河道完竣此項工程即著原派勘估之大臣穆彰阿著英載銓覈實驗收餘依議欽此

869 道光十六年六月十五日奉

旨孔蘭泰著交刑部審訊欽此

870 道光十六年六月十五日奉

旨獲軍全志著交刑部審訊欽此

871 軍機大臣 字寄

漕運總督恩 道光十六年六月十六日奉

上諭據琦善奏等獲無牌上岸水手張澤林等共四十四名分別開查提省研審並究出應行研等

糧船水手費大漢等三十餘人開單呈覽此等匪徒大半係盜劫重犯散處各幫均有根落著恩特亨額即責令該幫弁嚴飭頭舵迅速接名交出飭解直隸歸案究辦勿仗聞風縱逸以靖匪取又據該督奏稱回空南下幫船經天津鎮道於過關時在泗州後幫揚州二幫船內搜獲舊線槍並腰刀鐵矛頭等件必須從重懲治等語前經該督派委員弁將各進幫船違禁器械全行查出何以此次回空軍船復有藏帶火器刀械是否原來藏帶未經搜拏淨盡打係途中另有違賣接濟之人著該督督嚴飭各該糧道及運委負弁確切查明此項火器究由何處得來澈底根追從嚴懲辦此外有無藏帶軍械並著隨時隨地嚴密搜查勿任稍有隱匿致滋事端所有該督原開應辦各犯名單著鈔給閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

872 軍機大臣 字寄

山西巡撫中 道光十六年六月十六日奉

上諭有人奏山西省陽曲五縣代州崞縣五臺忻州定襄一帶與直隸相近有傳習邪教者土人因其坑害念經不戒掌酒稱禹五掌道實即白蓮教之別名此等愚民受人煽惑拜師傳徒夜聚曉散假名偽號暗相封投請密飭查辦杜絕禍源等語省邦教向由直隸傳染現在直隸辦理教業各處搜查難保該匪徒等不聞風遁逃潛匿晉省者該撫密飭各州縣勿露風聲細心查訪一經得有端倪即行嚴拏到案按律懲辦不得誤信仇陷株連無辜致滋擾累各該地方官果能留心查察隨時破業其失察處分尚可加恩寬免倘敢心存消弭僅以查訪無蹤將來刑經發覺或致釀成事端定將各該員從嚴懲處重治其罪決不寬貸將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

873 道光十六年六月十六日內閣奉

上諭琦善奏請將各營兵丁量為變通鼓勵等語直隸原設兵額僅弓箭六成馬槍四成與川陝等省

疎

馬槍六成弓箭四成者不同槍礮兵丁既少而各營又不准其支食馬糧與者標槍礮兵丁並准裁補外委千把者辦理兩歧茲據該督奏稱本年三月間已通行技鎮及各協營令將馬步箭兵丁擇其弓硬力強者酌留四成督令勤習弓箭其餘二成皆令添習步下馬槍中靶有準更習馬醫置於刀矛兩項今募牌兵丁盡皆習練其馬步箭兵丁有願兼習者搜選有馬糧缺額槍礮兵丁亦准支食其外委額外缺出無論槍礮刀矛准與弓箭兵丁一體較拔如此酌量變通馬槍兵丁數既增添長矛單刀亦多講習又復進身有路人思自奮名曰變通於營制我糧並無損益更改由是認真操練兵技日增兵威日壯必成精銳得力之師該督務當飭屬隨時演習不可日久視為具文 肅欽此

部 知道欽此

874 道光十六年六月十六日內閣奉

上諭琦善奏前任知縣交代未清請飭交究追等語現升廣西全州知州傅漢前在直隸博野縣任內

尚有未清交代銀兩該員現在赴部引見著吏部查明飭令該員前赴直隸交琦善督同監盤官及後任知縣將前項交代未清銀兩覈算清交以重庫款欽此

875 道光十六年六月十六日內閣奉

上諭州縣為親民之官豈容擅離職守致曠地方公事本日據御史徐繼畬奏山西省州縣往往託故逃省為營求升調之計如文夢蛟任忻州時一年之中在署不返三四月其餘八九月常住者城林樹雲任保德州亦復如是等語該員等是否擅離職守其終年在省究竟所為何事著中營暨查明據實具奏嗣後直省各督撫務當嚴飭各州縣非奉檄調不得無故進省其因公進省者事畢即飭令回任毋許任意耽延營求調劑倘有經旬累月逗遛者極者即著嚴參懲辦以杜奔競而重職守欽此

876 道光十六年六月十六日內閣奉

上諭江安糧道員缺著成世瑄補授欽此

877 查江安糧道係衝繁疲要缺謹  
奏

878 道光十六年六月十七日內閣奉

上諭訥爾經額等奏請揀調省會首縣一摺著照所  
請湖北江夏縣知縣員缺准其以曠成春調補該  
部知道欽此

879 道光十六年六月十七日內閣奉

上諭訥爾經額等奏新築隄工被水浸潰等語湖北  
沔陽等縣隄坑各工甫於本年三月修築完竣其  
沔陽隄工兼係由司籌項協濟至八十餘兩之多  
何以一遇汛漲即行浸潰承修各員頗有辦理草  
率情弊著該督等確切查明據實奏參餘俱著照  
所議辦理欽此

880 道光十六年六月十七日內閣奉

上諭中政賢奏營員擅賣平民致令自戕請革職嚴  
宥一摺山西署東河南汛把總世襲雲騎尉候補

守備畢映斗因民人杜連全承修約子鋪工程畢  
畢並不移送有司衙門審辦擅自託責且又罰  
令出錢以致自戕身死寔屬罪無辜畢映斗著即革  
職交該撫提同仝案人証嚴密確情按律定擬具  
奏該部知道欽此

881 道光十六年六月十七日內閣奉

上諭中政賢奏揀員請補要缺通判一摺著照所請  
山西薩拉齊理事通判員缺准其以成福補授該  
部知道欽此

882 道光十六年六月十七日內閣奉

上諭甘肅寧夏府知府自缺著齡梅調補所遺山東  
泰安府知府自缺著倪彤書補授其所遺山東武  
定府同知員缺著廣西西隆州知州陳遜隆補授  
其所遺之缺著河南武陟縣知縣趙銘彝補授欽  
此

殊

883

甘肅寧夏府知府自缺著齡梅調補所遺山東泰安  
府知府自缺著倪彤書補授其所遺山東武定府同

知負缺著廣西西隆州知州陳遇隆補授其所遺之缺著河南武陟縣知縣趙銘吳補授

884 道光十六年六月十七日奉  
旨趙大觀丁榮裴鴉麟俱著不准流等欽此

885 道光十六年六月十八日奉  
旨此案著交琦善親提人證卷宗秉公嚴密按律定擬具奏原告生員田人隴該部照例解往備質欽此

886 全日本  
旨此案著交陳鑾親提人證卷宗秉公審訊按律定擬具奏被告劉泰來該部照例解往備質欽此

887 全日本  
旨此案著交高溥親提人證卷宗秉公嚴密按律定擬具奏原告任寶該部照例解往備質欽此

888 道光十六年六月十九日內閣奉

上諭鍾祥奏試用丞件位雜現形壅滯請暫停分發一摺山東試用丞件位雜各員據該撫查明現在需次者均已入浮於缺著吏部即將籤掣開通判暨各項位雜暫停分發山東俟何項人員較少再行奏請分發欽此

889 軍機大臣 字寄  
欽差尚書湯 侍郎文 道光十六年六月二十日奉

上諭據給事中周開麒奏四川料理夾匪一案諸多欺飾立軍需支銷均有勝泥浮冒等弊著湯金剛文慶即將該給事中摺內所奏各情節逐一查明據實具奏原摺著發給閱看將此諭令知之欽此

寄寄信前未

890 軍機大臣 字寄  
四川總督鄂 道光十六年六月二十日奉



上諭有人奏四川省川南一帶盜賊公行囑匪百十為羣劫取財物估備米石既聞設有帳棚歇宿若該地方約保報知該州縣必受刑責民間呈報劫殺拒傷之案官多諱盜為竊等語匪徒剽掠肆行竊為地方之害不能除焉能安良况該匪等居然設立帳棚毫無忌憚始而擾害閭閻繼且糾眾滋事不可不豫為防範著鄂山即派委明幹委員查明此項匪徒係由何處糾會果否有數百人之多如實查明按律嚴辦以儆兇頑至州縣為親民之官鉅累安良是其專責何得於約保報知之後任意刑責甚且消弭諱<sup>詳</sup>蓋民隱於不問祇圖為寬免處分地步著該督細心察訪如果有此種劣員即據實指參毋稍姑容以肅官常而靖地方將此諭令知之欽此遵

音字信前來

891 道光十六年六月二十日奉

旨宗室連秀及廣梁門門史德興門軍裝文新俱著交刑部會同宗人府審訊欽此

892 道光十六年六月二十日內閣奉

上諭御史萬起奏漕糧正額不足買米回漕請嚴實兌收並嚴禁私運囤積一摺漕糧為天庾正供不容稍有虧缺向來漕糧起運時由各糧道驗明米色乾淨查明額數載船起運抵通時由坐糧廳驗明米色查明額數詳明倉場侍郎查驗明確劄倉分貯立法極為周備若如御史所奏各省漕糧開撥時各州縣不親身赴倉收漕任聽倉書積弊漕糧抵通時坐糧廳未能親至漕船卸米與所報同撥運更有奸商自漕船回空以後雇覓貧民男婦升斗肩負零運出城於子家衛以南及楊村一帶沿途僻靜村莊灑散囤積各種情弊大為漕務之害著有漕各督撫嚴飭各州縣務須親身赴倉收漕隨到隨收以免擾累並著倉場侍郎於漕船抵壩時嚴飭坐糧廳親赴卸運處所眼同撥運以杜朦混至于家衛及楊村一帶奸商囤積<sup>著</sup>順天府府尹直隸總督各派文武幹員前往查拏有犯必懲毋得視為美文以清積弊欽此

893 道光十六年六月二十日內閣奉

上諭鄧廷楨奏余阮視捕務署理鎮篆之副將一摺廣東瓊州鎮事崖州協副將劉得高於所轄洋面疊被搶劫未能認真督緝又不確查叢蕪報親事主陳良心黃才聯等有捏報情事殊屬玩視捕務劉得高著摘去頂帶留於失事地方勒限一個月協緝限滿有無弋獲再行分別辦理欽此

894 道光十六年六月二十日內閣奉

上諭鄧廷楨等奏督獲形迹可疑之游僧徒黨認有首逆藍正得在內解省審辦一摺廣西懷遠縣姚子隘地方擊獲游僧吳本林吳元林姚夫楊沈明三名據該縣知縣世倫等查驗該僧吳本林龔興開輝武岡州首逆藍正得年貌相符業經究詰吳元林等並提前獲之李和南實認屬實惟訊以謀逆確情忽忽翻情殊歧展從前捕獲逆匪留粵自高有人細心研鞠無難得實現在自己解往湖南辦理如該犯保藍正得屬實著將此以首先督獲之負據實保奏所有在逃餘匪著該督仍飭

所屬兩省文武毋分畛域實力嚴拿毋得稍涉疎懈欽此

895 道光十六年六月二十日內閣奉

上諭鄧廷楨等奏請將賠造破位完竣之委員副使項帶一摺署廣東廣州協左營都司推升福建建寧鎮左營遊擊黃廷彪前因辦理破位不慎降旨革去頂帶責令如數賠造茲據該督等奏稱該員於被參後勉力督匠加功趕煉將屬賠各破位補鑄全完業經如數運臺演試均堪合用黃廷彪著准其副復項帶所有該員保之案仍著赴部引見該部知道欽此

896 道光十六年六月二十日內閣奉

上諭額騰伊奏查明緝匪出力人員據實保奏一摺貴州署古州同知事水城通判李蕃著賞如同知銜貞豐州吏目周震著以府經歷縣丞升補候補從九品胡白著俟補缺後以府經歷縣丞升用試用府經歷林培生著遇缺儘先補用著黎平營守

備市升補丹江營守備李復云著賞加都司銜著  
黎平營千總事古州鎮標雲騎尉王文才著以守  
備儘先補用黎平營參將烏承勳著古州鎮標遊  
擊李清江協遊擊劉定選俱著交部議敘餘依議  
該部知道欽此

897 道光十六年六月二十一日內閣奉

上諭陶澍等奏揀員升署要缺知縣一摺著照所請  
江蘇安東縣知縣負缺准其以孫節勳升署照例  
送部引見俟試署期滿另請實授該部知道欽此

898 道光十六年六月二十一日內閣奉

上諭鄧尺楨等奏揀員升補要缺同知一摺著照所  
請廣東廣州府佛山同知負缺准其以徐應照升  
補該部知道欽此

899 道光十六年六月二十二日奉

旨章朝勳准其升署遼陽州知州所有該府尹等處  
得處分著加恩寬免欽此

900 道光十六年六月二十二日內閣奉

上諭嗣後九門門甲如因病出缺或挑補別項差使  
者仍照向例於門軍挑補其緣事革退及破旗之  
缺即著於步軍統領衙門教練步甲內挑補其四  
旗門甲該旗一有馬甲缺出著准其儘先坐補該  
衙門知道欽此

901 道光十六年六月二十二日內閣奉

上諭琦善奏直隸州知州要缺需人揀員升補一摺  
著照所請直隸深州知州員缺准其以李  
德升補照例送部引見易州直隸州知州員缺准  
其以林靖光升補即併案送部引見該部知道欽  
此

902 道光十六年六月二十二日內閣奉

上諭琦善請將玩視煙燭牌匾不報之知縣摘去頂  
帶等語直隸隆平縣知縣陳在元於該縣境內遇  
有煙燭未能即時撲滅淨盡著先行摘去頂帶責  
令趕緊撲捕能否剋日淨盡再行覈辦至順天府

為君州縣先後報有捕孽難已漸次捕完恐有積匿不報之處著頤天所戶就近委員嚴查如有不能捕盡即著據實奏辦欽此

903 道光十六年六月二十二日內閣奉

上諭琦善奏京控咨案件牽涉大員請飭交刑部審辦一摺此案直隸臨榆縣監生王穉呈控山海關証書張煒具稟挾制官長捏報稅課要違伊子虧空並拖欠公用銀兩不還書役姚善權即姚思瑞之子為案中要証該監督並不收伊解送等語案關丁書觀法營私虛實均應澈底根究王穉張煒即著委員解京交刑部提集人證審明辦理其臨榆縣民人周永清呈控山海關証書姚光夫等把持盤踞一案著刑部一併訊辦欽此

904 道光十六年六月二十二日內閣奉

上諭琦善奏密明外委做考啟發及知縣出署開途分別定規一摺此案已升大典縣京無知縣臨城縣知縣陳道隆於汛弁懇為代輸地方搭棚已屬

違例且於考試迴避之時便服出署看花尤乖體制著文部嚴加懲處餘著照例辦理欽此

905 道光十六年六月二十二日內閣奉

上諭琦善奏解員擅索驛站火車請查等語廣東合浦縣珠場司巡檢蔣維炳領解海關加平節存銀三萬四千二百兩查對勘合傳牌相符自係例應撥送至其餘塔解銀四十兩究係何項銀兩解交何處若非例應撥送何得擅索驛站火車該委員現在自己到京著戶部及步軍統領衙門查明具奏欽此

906 道光十六年六月二十二日內閣奉

上諭琦善奏太監吳汝原名吳進喜二次逃走回籍假斃人命等語此案屍親證佐均在直隸著琦善提同人證來公按律懲辦欽此

907 道光十六年六月二十二日內閣奉

上諭琦善奏甄勳營員等語升任直隸提標河屯協

中軍都司李慶隆技藝軟弱著仍飭回天津鎮左營守備本任其河屯協中軍都司負缺著該督另行揀員題補馬蘭鎮標黃花山守備雷養成提標仙永協屬樂亭營濰州汛千總李繼先弓馬均覺較前轉遜雷泰成著銷去薦舉李繼先著銷去俱准供仍留本任以觀後效該部知道欽此

908 臣潘世恩等彭阿王鼎謹  
奏蒙

發下考試衍文卷共十一本 臣等公同閱看酌擬名

次恭呈

御覽伏候

欽定謹

奏

909  
第一名陳熙曾

第二名王治

第三名曹庚吉

第四名朱材哲

第五名牛鎮

第六名黃樂之

第七名巫宜洪

第八名廖姓

第九名吳師仲

第十名程儀鳳

第十一名李鍾漸

910  
軍機大臣 字寄

兩廣總督鄧 廣東巡撫邦 傳諭粵海關監

曾文祥 道光十六年六月二十三日奉

上諭鴉片煙來自外洋流傳內地為患甚鉅前經太常寺少卿許乃濟具奏當降旨著鄧廷楨等會同妥議本日復據姚元之奏稱現今銀貴錢賤推其致匯之由大抵為販賣鴉片煙土出洋之故並聞有伍姓洋行暗與交通立有照票包攬買賣等語著該督等將摺內所指各情節逐款悉心妥議務當通盤籌畫力塞弊源毋令奸商軌法營私於民生國計兩有裨益方為盡善鄧廷楨該部知道欽此

督大員品學優者在巡撫任內頗能辦事若能將吏商現在情形立法周密期于久遠無弊庶不愧為國出力大臣倘預了事但顧目前日後更滋流弊該督不能當辜思溺職重咎也原摺著鈔給閱看將此諭知鄧廷楨祁瑛並傳諭文祥知之

欽此遵

旨字信前來

911 道光十六年六月二十三日奉

戶部奏請飭催銅鉛廠運案內應追各款銀兩向來廠運各員借支銀兩係動支正款運員於差竣報銷後叢計長支銀數分案追繳廠員應繳銀兩往於該員離任調任之時始行報部請追以致欠款彙帶項久懸若將應追各款隨案追繳何至新陳相積日漸加增據該部節年飭催各該旗省並未追繳十分之一自嘉慶二十五年以前各員積欠均經豁免外迄今叢計實欠銀數又積至三十四萬二千八百餘兩之多年復一年伊於胡底且廠店各員應賠逾折等銀俱屬豫撥銅本項下

之款銅鉛各運應繳水脚榜費銀兩均係沿途借支各該省作正開銷之項更非尋常借動開款可比尤應按名嚴追以杜積弊國帑攸關豈容任其延宕著各該督撫府尹八旗都統等嚴飭承追督催各員趕緊勒追完繳不得仍前延玩以昭叢責而重帶項單併發欽此

912 道光十六年六月二十三日奉

旨此案左翼翼尉興泰副翼尉秋前保於該門官兵得賊任穩運米出城漫無覺察著交部議處著英聯順未能先事預防著一併交部議處欽此

913 道光十六年六月二十三日內閣奉

上諭伊里布奏營員才難勝任請分別降補一摺雲南水昌協中軍都司扎隆阿辦事因循著以守備降補督標右營守備李登甲營務竭蹶著以千總降補該部知道欽此

914 道光十六年六月二十三日內閣奉

上諭英經奏請將私自進邊回家之邊外生卡官負

照例革職一摺。此案駭駘校德陞因卡房燒燬帶領兵丁等擅離卡所。違違存任既屬非是。又准兵丁等告假回家。德陞復私自進省存任數日。冀圖妄逞。實屬謀害德陞者。照例革職。加枷號三箇月。其夫察之總查委協領等。著查取職名送部議。其餘依議。該部知道。欽此。

915 道光十六年六月二十四日內閣奉

上諭色卜星額奏官紳捐辦工程請照例獎勵一摺。著吏部議奏。至。此項工程係民捐。民辦。著免其造冊報銷。該部知道。欽此。

916 道光十六年六月二十四日內閣奉

上諭上年乙未恩科鄉試。據各省監臨陸續將年老諸生開單具奏。均文禮部查數。岳據禮部將前經奉准行查之江蘇省年老諸生查明。覆奏。該生年雖老。步履矍鑠。光緒發未經中式。空沛恩施。以副其皓首窮經之志。所有江蘇省年屆八十以上之監生薛文泰。著加恩賞給副榜。用示朕嘉惠耆儒。至。意。餘依議。欽此。

917 道光十六年六月二十四日內閣奉

上諭世爵滋奏請展定章程。永杜回清銅弊一摺。所稱查明。裁補。各處水陸要途。繪圖。貼說。分設。放法。巡緝。并酌定。賞罰。等語。著順天府。戶部。戶部。五。隸。總督。查明。議奏。至。所稱。刑部。邊。有。回。清。案。件。往往。以。僅。止。因。級。並。無。回。清。實。據。從。寬。了。結。嗣。後。凡。遇。此。等。案。件。一。經。到。部。總。當。確。切。根。究。換。律。懲。辦。不。得。顧。項。擬。結。稽。涉。含。混。以。昭。覈。實。而。杜。積。弊。欽。此。

918 道光十六年六月二十四日內閣奉

上諭御史趙光祖奏稅關遺失命頒印冊請查明究辦一摺。各關徵收稅課。俱係部頒印冊。今該商親填。數目。分送部科。磨對。以杜影射。那移之弊。若如該御史所奏。山海關稅務衙門。本年二月間。失去戶部頒發牛莊稅口商填印簿。現用該關印冊。填寫。弊保。無該書。吏等任意抽換。係屬情弊。著戶部。即行查明。該監督如何。將部頒印冊。遺失。照例。參。處。並。著。該。監督。迅。將。該。關。權。書。姚。姓。等。辭。交。刑。部。審。訊。有。無。隱。匿。關。稅。及。威。逼。人。命。等。情。按。律。懲。辦。倘。該。權。書。等。聞。風。逃。匿。惟。該。監督。是。問。欽。此。

919 道光十六年六月二十四日內閣奉

上諭本日據黃爵滋奏前經步軍統領衙門等文刑部之轉四並非勾串回消之正犯顯有影射各情樊等語著該部查訊據實具奏欽此

920 軍機大臣 字寄

欽差尚書恩 侍郎趙 道光十六年六月二十五

日本

上諭本日據恩銘等奏審明著香山縣知縣葉承基被參各款一摺此葉承基於該縣城外既經設有雲停館以備差員居住是原參該縣官親家人借住林昌緒房屋一節難保必無其事且於伊子葉祖勳挾妓飲酒門丁張貴呂德得受規費姦宿娼寮豈得誣為不知所訊各供顯有不實不盡之虞又另片奏刑部主事白讓卿由粵旋旌時曾將木箱二隻託監生石綸予即石騰芳代為寄京既已訊明屬實其有無寄頓及如何得受豈正可從此根究以期水落石出乃不守緘白讓卿隨令城伴送到粵秉公質訊往於拜摺後即行起程並

稱迎去前途就近提訊不知此案一切人證卷宗

均在廣東省城若在中途查辦並無實證是欲僅就該負等一面之詞遽行定案所見實屬錯誤已有旨派朱士彥者英前往廣東查辦事件該尚書等接奉此旨無論行抵何處即行回京所有疊次所交各案均著交朱士彥等接收辦理將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

921 軍機大臣 字寄

欽差尚書朱 者 道光十六年六月二十五日奉

上諭現已有旨派朱士彥者英赴廣東查辦事辦矣本日據恩銘等奏稱查明廣東香山縣知縣葉承基於該縣城外設有雲停館以備差員居住伊子葉祖勳挾妓飲酒門丁張貴等得受規費姦宿娼寮屬實是該縣被參各款難保必無其事恩銘等所說供詞顯有不實不盡又於陽金城白讓卿解往備質之件並不守候該員等行抵粵者秉公質訊往於拜摺後督程輒稱近至中途就近提訊



不知此案人證卷宗俱在廣東省城且既查明白讓卿曾將未箱二隻交監生石綸亭即石勝芳託人寄京此外有無虧損並待受包董正可從此報究乃不俟該二員到粵實審速行起程實屬錯誤已有旨令恩銘趙燾全即行回京該尚書等行抵廣東務將業承基被吞一案再行確切查完無稍徇隱至陽金城白讓卿到粵後提須將此案虛畧研鞠提到該員等認真實對務得確情按律懲辦據實具奏再此二案外疊次所交恩銘等查辦事件業經寄諭恩銘等於途次會晤時一併查明均交該尚書等接收審辦該尚書等惟當破除情面一秉至公將各案情節逐一體訪悉心研訊庶則虛實則實不可受人欺朦頗預了事故負責委任將此諭令知之欽此遵

音寄信前來

922 軍機大臣 字寄

欽差尚書朱 道光十六年六月二十五日奉

上諭本日已有旨令朱士彥署理吏部尚書並派同者英馳赴廣東查辦事件該尚書已經服闋起程

北上現在無論行狀何處接奉此旨即行迅速來京請訓後再行前往將此諭令知之欽此遵  
音寄信前來

923 道光十六年六月二十五日內閣奉

上諭本日據恩銘等奏審擬廣東香山縣知縣業承基被吞各款一案拜摺後即帶同司員起程等語恩銘等審訊此案顯有不實不盡之處且此次交辦事件甚多尚有應行質訊之件該尚書等徇行起程輒云迎至前途提訊實屬錯誤恩銘趙燾全俱著即行回京欽此

924 道光十六年六月二十五日奉

旨著派朱士彥者英馳驛前往廣東查辦事件所有隨帶司員著一併馳驛欽此

925 道光十六年六月二十五日內閣奉

上諭吏部尚書湯金釗出差之缺著朱士彥署理其未到任以前仍著何汝漢署理欽此

硃

926 道光十六年六月二十五日內閣奉

上諭者共現在出差戶部尚書著奕穎署理其奕穎  
所署禮部尚書著武忠顯署理欽此

927 道光十六年六月二十五日內閣奉

上諭耆英現在出差步軍統領著穆彰阿署理欽此

928 道光十六年六月二十五日內閣奉

上諭吳文榕著來京供職順天學政著潘錫恩去欽  
此

929 道光十六年六月二十五日奉

旨綿性著加恩改為降三級留任欽此

930 道光十六年六月二十五日奉

旨這所恭報報蝗蝻不實之密雲縣知縣沈肇基著  
即摘去頂帶仍責令趕緊設法撲捕務使剋期淨  
盡倘不知愧奮致令蔓延者即據實嚴參欽此

931 道光十六年六月二十五日內閣奉

上諭給事中富彭奏兵部保題漢缺郎中員外郎遠  
遜正陪不盡允協一摺著兵部堂官明白迴奏欽  
此

932 道光十六年六月二十五日奉

旨朱陳氏朱景山袁得洪俱著交刑部審訊欽此

933 道光十六年六月二十五日奉

旨白三者交刑部照例密緝南城指揮楊階甫經到  
任即能將新境年又在逃光犯等獲緝捕尚屬認  
真著以應升之缺儘先升用欽此

934 道光十六年六月二十六日奉

旨此案著文賀長齡親提人證卷宗東公嚴審按律  
定擬具奏原告周紹春該部照例解往備質欽此

935 道光十六年六月二十六日奉

旨廣東委員蔣耀炳著交部照例議處欽此

936 道光十六年六月二十七日內閣奉

上諭恩特亨額奏恭約水手不嚴之員弁一摺糧船水手逞兇滋事甫經議定章程嚴加禁約茲鳳中二幫水手孟學恩等並不繫掛牌携刀上岸詎詐盜船拒傷河役是該弁等不能實力奉行已可概見委運鳳中二幫千總李天鵬著先行摘去頂帶仍交部嚴加議處勒限兩月迅將逃犯閻皮臉即閻永傳等解直隸歸案審辦倘逾限無獲即行叅革總運試用通判陳廷恩亦有失察之咎著交部議處欽此

937 道光十六年六月二十七日內閣奉

上諭戶部三庫事務著長齡署理欽此

938 道光十六年六月二十七日內閣奉

上諭御史沈澄奏獲替武弁盧必沅督撫舉劾互異部議辦理參差一摺着兵部查明具奏摺併發欽此

939 道光十六年六月二十八日內閣奉

上諭納爾經額奏請鼓勵文武員弁一摺前因湖南武岡州賊匪滋事辦理完竣當降旨飭令該督擇其尤為出力者奏請鼓勵候施恩茲據該督查明在事各員弁或審訊逆情稽覈文案或解運軍餉殲擒賊匪提解逆犯均各不解勞瘁自應量予恩施湖北武昌府同知陳天澤著於卓異引見後以本班應升知府儘先選補湖南候補同知陸恩候補知縣謝為瑛均著不論繁簡遇缺即補知州銜城步縣知縣查惠著以知州儘先升用安化縣知縣王尚德臨武縣知縣趙璧龍陽縣知縣調署邵陽縣知縣張迎煦著城步縣即用知縣戴鴻恩均著賞加知州銜寶慶府經歷王世啓武岡州吏目江樹魚石門巡檢王達吉均著以應升之缺儘先升用委用縣丞李馨著於補缺後以應升之缺儘先升用試用從九品李品三未入流張芝劉學濤布政司理問鄭德基直隸州州判宋做祁均著以本班儘先補用邵陽縣典史趙壇城步縣典史趙家樞均著交部議敘典史程仁傑蕭盛遠均

著賞給從九品俟扣滿年限歸部遇缺即選湖北  
督標獲左營遊擊鄧陽鎮左營守備武慶宜昌鎮  
標左營守備靖安泰湖南撫標右營遊擊馬辰均  
著賞戴花翎湖南提標河漢營守備李惟上永州  
鎮標中營守備周三友均著賞換花翎永州鎮標  
中營千總方世儒著賞戴藍翎以中備佐先升補  
湖北督標中營把總鄧長清左營把總周兆麟湖  
南沅州協把總王以林寶慶場石門汛外委方玉  
勝授標外委楊名聲羅洪應顯外委文忠均著賞  
戴藍翎以示獎勵該部知道單併發欽此

940 道光十六年六月二十八日內閣奉

上諭海亮奏豫調經費銀兩一摺喀喇沙爾官兵應  
調道光十八年經費銀一萬四千三百七兩著瑚  
松額即將此項銀兩照數豫為撥解以資支放該  
部知道欽此

941 道光十六年六月二十八日內閣奉

上諭詢問經額奏審擬兵勇聚眾挾借滋事復謀害

查辦委員一摺此案雖湖林兇兵丁叛敢起意  
商同兵勇添加明等先候赴鎮道兩署挾借銀兩  
迨委員查拿後又主謀糾同原夥多人持刀戕害  
一死一傷兇惡已極雖湖林一犯著即凌遲處死  
查明犯屬照例緣坐四廳奉回涼慶藤加茂四廳  
龍傳姓恩藤加明即回涼雲六犯既從挾借銀兩  
戕害委員著即斬立決兵丁李加得楊本雲單兵  
回鄉保隨同附和造出示曉諭復不认罪投首實  
屬玩法均著發往新疆充當苦差遇赦不赦已革  
鎮軍鎮總兵向尊化辰永沅靖道常慶傑卑蘭監司  
大員約束兵勇是其專責平日既駕奴失當事後  
復失察戕害委員險向尊化已另案擬結俟部議  
上時另行降旨外常慶僅擬革職不足蔽辜著發  
往軍臺効力贖罪湖北撫標中軍參將蘇清阿奉  
委訪拿滋事首犯慘遭毒害實堪憫惻著照陣亡  
例賜卹靖州藍翎千總已升長安營守備隊芝蘭  
聞聲救獲致受多傷著以都司即行升用鎮標把  
總李天龍失察主謀首從各犯既經已極著革去  
把總發往軍臺効力贖罪失察兵勇聚眾挾借復

殊

此署委員之鎮標中營專管把總符加武外委包  
 安襄額外保永清道標專管千總金光華陳宗興  
 署千總把總滕貴把總關祖發署把總外委劉朝  
 柱外委吳大經林興富額外揚光明又失察兵勇  
 聚眾挾備不能彈壓之道標專管守備鄭大元前  
 任中營外委現拔前營把總王玉陞失察收害要  
 負之中營外委田有秋著一併革職內陳宗興滕  
 貴林興富揚光明該督請各給馬糧一分以觀後  
 效著不准行其餘失察兵丁聚眾挾備之該管員  
 弁著開列職名交部照例議處著道標守備田宗  
 淮到任在後著加恩寬免處分至蘇清阿段芝蘭  
 等奉委該鎮訪拿人犯並無兵役隨同前往何以  
 窩內僅止丁役三名彼時又值外出情節疎難恐  
 信是百該兵丁等違章脫逃或恐防蘆不嚴致甘  
 重咎故為開脫著該督將實在情形查明具奏毋  
 稍含混餘俱著照所議完結該部知道欽此

942 道光十六年六月二十八日奉  
 旨著英著交部議處欽此

943 道光十六年六月二十九日內閣奉  
 上諭鍾祥奏請將徵解地丁分數短絀之知縣摘去  
 頂帶撤任勒解一摺山東泗水縣知縣李啓培完  
 解道光十五年奏領錢糧既較往年短絀本年上  
 忙疊經催提統計僅及三分以上續報起解之銀  
 延未到司實屬延玩李啓培著即摘去頂帶撤任  
 開缺勒限一月飭令將續報之銀完解清楚並著  
 違員前往澈底盤查倘係因那致短即著嚴行追  
 辦毋稍姑息該部知道欽此

944 道光十六年六月二十九日內閣奉  
 上諭鍾祥奏請將捐辦工程平糶各紳士照例議敘  
 一摺著吏部議奏此項工程平糶係由官紳捐辦  
 著免其造冊報銷該部知道欽此

945 道光十六年六月二十九日奉  
 旨本年奉天官莊穀石著沐或京將軍英經會同武  
 京戶部侍郎德興監收欽此

946 道光十六年六月二十九日內閣奉

上諭兵部奏保題漢缺郎中員外郎揆實查明一摺  
著給事中富彰逐款明白題奏原摺發給閱看欽  
此

947 道光十六年六月二十九日奉

旨劉俊任三蔣國安王二趙二李二即錫子李劉四  
即普慶門兵劉四周二等俱著交刑部嚴審宗室  
趙二著宗人府查傳令同刑部審訊其未獲之孫  
黑子等著順天府五城查拿歸案審辦欽此

948 道光十六年七月初一日內閣奉

上諭鄂山奏查明官民捐輸奏務起及支銷存留銀兩數目一摺四川此次辦理奏務一切經費均係通省官民捐辦據該督查明官捐銀十三萬三千二十九兩零紳民捐銀七十八萬六千五百八十八兩零除支用十一十二十三十五等年辦理奏務等項共銀五十萬二千七百一兩零外尚剩銀四十一萬六千八百四十七兩零著准其另款存貯留為邊備專款之用所有用過各項銀兩均係官民捐辦支實日著其造冊報銷再此次官民捐輸踴躍自應量加鼓勵所有捐銀五千兩自備首等赴軍營効力之捐職都司戶海川等均著吏部查議具奏摺併發欽此

949 道光十六年七月初一日內閣奉

上諭鄂山奏四川威遠廳左營駐守分防新舊兵丁及馬邊分駐油榨坪等處卡兵請酌加米折並派駐邊防之千把外委均請酌增薪水等語該處地屬蠻荒極為瘠苦自應量加體恤著照所請所有

威遠左營駐守大堡隘以及分防各隘兵丁又裁撥馬邊分駐油榨坪等處卡隘兵丁俟著每名加增米折銀三錢派駐邊防千總著加每月薪水銀三兩把總每月薪水銀二兩外委每月薪水銀一兩准其在于上年捐輸餘存銀內借提生息除每年應支銀六千兩外餘銀四千兩准其留為威修碉堡及巡費之需嚴飭所屬樁節支用此項係動支捐輸生息銀兩允其造冊報銷該部知道欽此

950 道光十六年七月初一日內閣奉

上諭程祖洛奏請將都司序為把總一摺浙江錢塘內河水師營都司馬為推弓馬生疎營伍亦未能整頓惟精力尚健著以水師把總序補該部知道欽此

951 道光十六年七月初一日內閣奉

上諭程祖洛奏請簡放內河水師游擊一摺浙江太湖營游擊員缺本省現無合例可升人員著兵部照例辦理欽此

952

道光十六年七月初一日內閣奉

上諭烏爾顏奏查明宗控苦文案件提解逾限之縣令請旨交部議處一摺浙江龍泉縣知縣何夔照著交部照例議處欽此

953 道光十六年七月初一日內閣奉

上諭申啟賢奏請將捕蝗不力之地方官摘去頂帶一摺山西大同縣知縣王聯堂懷仁縣知縣蔡汝慙山陰縣知縣李思倫均著摘去頂帶責令將蝗孽撲捕收買剋期淨盡倘仍玩忽從事以致蔓延即著嚴參懲辦欽此

954 道光十六年七月初一日內閣奉

上諭汪振基奏明微祀典以崇正學一摺據稱山西省壽陽縣及遼州寧武府等處均有三教廟至聖先師孔子與佛老同廟供奉積習相沿與祀典不符著申啟賢通飭各屬即行更正無得同廟供奉其各直省如有似此同廟供奉之處著各該督撫轉飭各州縣一律更正以崇正學而昭定制欽此

955 軍機大臣 字寄

江西巡撫陳 道光十六年七月初二日奉

上諭前有人奏奏江西省貪劣各員當降旨著恩銘等會同陳慶東公辦理未日據陳慶奏接奉諭旨即將皖江府知府于公槐等先行撤任所見可嘉現在恩銘趙盛奎已有旨飭令即行回京所有應行查辦各件另派朱士秀著英前往朱士秀等由京赴江西需時日該撫即將現在撤任各員並應訊各人控一件咨提到省俟朱士秀等到時會同辦理毋稍疎縱將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

956 道光十六年七月初二日奉

旨朱士秀等奏隨帶司負前往廣東查辦事件內戶部主事齊斌違一負係原任大負子弟者不准其隨帶欽此

957 道光十六年七月初二日奉

旨此案著文奕經提集人證卷宗東公研訊按律定



擬具奏已革協領孔隆額及抱音德楞額該部照例解任儘質欽此

958 道光十六年七月初二日奉

旨此案著交桂良督同臬司楊振麟提集人證卷宗秉公嚴審按律定擬具奏原告唐效先該部照例解任備質欽此

959 道光十六年七月初二日奉

上諭閩浙總督著鍾祥補授鍾祥未到任以前著魏元煥暫行兼署山東巡撫著經額布補授鍾祥接奉此旨迅即來京請訓所有山東巡撫印務著劉斯煥護理欽此

960 道光十六年七月初二日奉

旨汪緒昆著不准其升署大定府知府該督撫等未經將該員不合例之處詳細聲明著交部照例議處其大定府知府一缺著該督等另揀合例人員奏請升調欽此

961 道光十六年七月初二日內閣奉

上諭陶澍奏查明兩淮應解參斤銀兩懇照舊價文納一摺又另片奏請將道光十年以前積欠參價一體辦理等語著內務府議奏欽此

962 道光十六年七月初二日內閣奉

上諭陶澍等奏揀負詞補省會要缺知縣一摺著照所請江蘇上元縣知縣負缺准其以龔善思調補該部知道欽此

963 道光十六年七月初二日奉

旨這所參短交庫項之前署南康縣事餘干縣縣丞宮榮於署任知縣內虧短各款錢糧至四千一百餘兩之多著即革職等因交該撫提同經手丁胥人等澈底嚴究該員原籍家產及省寓資財著一併查封備抵欽此

964 道光十六年七月初二日內閣奉

上諭陳鑾奏試用佐雜人員壅滯請暫停止發一摺

江西佐雜各員據該撫查明現在人數較前更淨著吏部即將各班佐雜人員暫存分發江西候補倘有疎通再行奏請分發欽此

965 道光十六年七月初二日內閣奉

上諭陳慶奏請將稍修城垣等工官紳分別欵啟一摺著吏部議奏此項工程係由官紳捐辦免其造冊報銷該部知道單研發欽此

966 軍機大臣 字寄

漕運總督 直隸山東江蘇江西安徽浙江湖北湖南各督撫 道光十六年七月初三日奉  
上諭糧船水手人等類皆無業遊民曠悍性成慙不畏法漕河及地方文武官弁如果認真稽察過案即辦有犯必懲該水手人等自必聞風改跡乃本年甫經議定章程之後屢有起獲器械及水手滋事之案此時重運經過地方沿河文武官弁即節催提嚴密彈壓水手人等尚知改跡日後即運回官稽查稍懈吏恐不肖之徒逞兇玩法尤應先事

豫防漕運總督約束水手是其專責其漕船經過地方各督撫亦屬責無旁貸著不畛域一體通飭所屬於漕船回空加意稽查小心防範毋稍鬆懈倘稍涉寬縱或至別釀事端惟該督撫等是問將此 各諭令知之欽此

旨寄信前來

967 軍機大臣 字寄

湖廣總督訥 湖北巡撫周 道光十六年七月初三日奉

上諭湖北鹽法道辦理全省鹽務緊關要新任道負于克襄年力才具是否堪勝此任著訥爾經額周之琦公同察看探定具奏不得因係特簡之員稍存迴護將此諭令知之欽此

旨寄信前來

968 道光十六年七月初三日內閣奉

上諭山西布政使有缺著楊殿邦補授貴州按察使有缺著唐鑑調補山西按察使有缺著慶林調補

山東按察使李振書調任以西按察使  
缺著劉鴻勳補授欽此

969 道光十六年七月初三日內閣奉

上諭甘肅蘭州道員缺著周開關補授欽此

970 查蘭州道係衝繁難要缺

奏

971 道光十六年七月初三日內閣奉

上諭前據給事中富彩奏兵部保題漢缺郎中負外  
郎通選正陪不盡允協弄該部及該給事中明白  
迴奏各一摺著文長齡移彩阿查明具奏欽此

972 道光十六年七月初三日內閣奉

上諭御史富隆額奏請認真考試編詳一摺科場條  
例載編詳鄉會試俱照文鄉會試之例辦理立法  
防弊已極周密該御史所奏添派分校各條著無  
庸議其正副考官如有隨帶通統編詳之人暗中

裏事著監試御史奏呈可編編詳舉人過編詳  
中書筆帖式等缺一體補用之處著吏部議奏欽  
此

973 道光十六年七月初三日內閣奉

上諭湖松頭奏駐劄重兵之地善撥附近倉糧並分  
年歸補運費一摺甘肅固原州等處駐劄兵頭較  
多倉糧不敷文放據該督查明附近之撫彝等廳  
州縣倉貯頗充善擬撥運備用著照所請准其由  
鹽茶廳撥運固原州倉斗糧一萬石狄道州撥運  
河州倉斗糧一萬石鎮番縣撥運武威縣倉斗糧  
三萬石又撥運平番縣倉斗糧二萬石皋蘭縣倉  
斗糧二萬石撫彝廳撥運肅州倉斗糧一萬石渭  
源縣撥運皋蘭縣倉斗糧一萬石岷州撥運隴西  
縣倉斗糧一萬石共撥運倉斗糧十二萬石著責  
成該管各道府加封收貯遇有急需採買兵糧例  
例亦數之年准其借用仍於下年照數買還不准  
佔入常年兵餉之內至撥運此項糧石共需腳價  
銀五萬七千七百二十兩准其先於司庫備貯款

內借支給發著自道光二十三年起在於津貼攤  
捐項下每年撥銀一萬兩歸還原款以資儲備而  
重庫項餘著照所議辦理該部知道欽此

974 道光十六年七月初三日內閣奉

上諭明松額奏請鼓勵辦理軍需救捐之委負責大  
等語甘肅省軍需救捐迄今三載有餘均已登履  
完竣其在事出力之佐雜委員並書夫等自應量  
予鼓勵所有甘肅莊浪縣丞徐敬者以應升之缺  
即補對調陝西寧陝慶巡檢黃世安著開缺以應  
升之主簿然丞留甘肅即補沙泥州判黃曾福著  
以應升之缺升補經書即選從九品曾元中成效  
！粗著以本班歸部不論雙單月過缺即選經書王  
棟書職田沂著以從九品未入流歸部即選該部  
知道單併發欽此

975 道光十六年七月初四日內閣奉

上諭本日據哈豐阿奏高文乃以在京大員干預  
地方公事據實立陳所奏可嘉之至哈豐阿以武

職出身人負乃能秉公持正不避嫌疑誠不愧為

滿洲大臣著賞加太子太保銜授為內大臣所有  
鹿賠款項加恩全行寬免以示嘉獎朕綜理庶政

十六年來訓誡日工惟求實心實政力挽頹積徇  
庇之風使內外臣工皆能振刷精神破除積習勉

副朕意何患不紀綱肅清日臻上理耶嗣復內外  
文武大臣皆當以哈豐阿為法朕亦當親臨矢公忠而挽積習

朕有厚望焉特諭知之欽此

976 道光十六年七月初四日內閣奉

上諭哈豐阿奏奏在京大員干預本地公事並將原  
給書信條數一併呈覽一摺御前侍衛都統高谷  
乃著即革職交御前大臣軍機大臣會同審訊具  
奏欽此

977 道光十六年七月初四日內閣奉

上諭福建臺灣道員缺緊要著該署督於閩浙兩省  
道員內揀員奏請調補欽此

978 道光十六年七月初四日内閣奉

上諭善英奏借餉修葺兵房一摺浙江乍浦滿洲蒙古八旗兵丁住房三千四百五十間濱臨海口潮濕坍塌該兵丁等艱以棲止著照所請准其借支一年錢糧分作八年扣還歸款該副都統即督同協領等認真經理趕緊修葺以示體恤餘著照所議辦理該部知道欽此

979 軍機大臣 字寄

護理山東巡撫劉 道光十六年七月初五日奉

上諭據琦善奏盤獲形跡可疑之趙延樂趙廷敷趙高武等三名訊係山東曹州府鉅野縣人因同族趙忙頭即趙延松典張泳言結拜弟兄素習邪教本年二月伊等銜名呈首被趙忙頭亦控伊等習教誣鉅野縣審係誣告保釋茲聞趙忙頭復赴府具控恐受拖累欲至口外躲避等語此案趙延樂等在籍互控習教果已訊明省釋何以一聞續控即行結伴逃避該縣知縣於趙忙頭被人以邪教重情呈首到案曾否審訊虛實何以兩造均未

治罪趙延樂難保非實有習教情事長罪潛逃不可不澈底根究現據直隸將趙延樂等解回原籍改審該處撫著即督飭所屬提同案內人證卷宗認真審訊務得確情有習教情弊即行按律懲辦倘敢心存消弭顛預了案將來列姓發覺惟該處撫是問將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

980 道光十六年七月初五日内閣奉

上諭文蔚等奏保傅嵩軍務出力人員一摺此次剿辦傅嵩掃穴殲渠厥功迅速在事各員弁等或捐辦賞銀籌捐口糧或探賊守隘保獲倉庫均屬著有微勞自應量予恩施駐防前藏建昌中營遊擊羅應魁著遇有本省應升缺出儘先升用前藏糧務候補同知王槐齡著賞戴藍翎加恩糧務化縣知縣張雲行著賞加同知銜駐防前藏離州右營守備龍台驥著遇有本省應升缺出儘先升用署理駐防頭板多千總臺漢營千總吳長耀著賞戴藍翎駐防前藏龍安營千總涂占魁駐防前

戴有陽營千總劉天德供著以鹿丹之守備歸部  
儘先選用駐防前藏川北中營把總賈獻廷着過  
有本省應州之千總缺出無論何營儘先拔補駐  
防前藏漳腹營外委何硯田着遇有本省應州之  
把總缺出無論何營儘先拔補署理駐防位里把  
總川北中營外委章大志調署駐防江遠外委普  
安營外委馬占雅供著遇有本省把總缺出儘先  
拔補署理駐防拉里外委智標右營額外李尚武  
着遇有川省各汛外委缺出儘先拔補二品頂帶  
花翎噶布倫策整齊結着准其子嗣承襲三次伊  
子彭錯齊結即着戴用台吉頂帶二品頂帶花翎  
噶布倫敦珠卜多爾濟着准其再襲一次伊子四  
郎班足折里即着戴用台吉頂帶噶布倫丹珍策  
旺着賞換二品頂帶噶布倫索諾木結布着賞戴  
花翎三品頂帶總管博窩管官此着賞換二品  
頂帶賞戴花翎將來遇有噶布倫缺出奏請簡補  
三品頂帶候補仔珠補許已着賞戴花翎前藏戴  
珠工噶丹珍換戴戴珠定青已供著賞換三品頂  
帶並賞戴花翎後藏戴珠探絨丹增洛布江孜戴

珠梅勒公布供著花戴花翎四品仔珠江覺已著  
賞換三品頂帶並賞戴花翎五品碩第巴策整五  
品業爾倉巴絨吉堆已供著賞換四品頂帶並賞  
戴花翎五品碩第巴扎敦五品業爾倉巴<sup>河</sup>爾康  
汪結五品密珠哲通已供著賞戴花翎五品侍窩  
管官扎復著賞換四品頂帶並賞戴花翎江卡五  
品管官仲堪已著賞戴花翎前藏五品如珠彭  
錯札喜足美多布結後藏江孜如珠諾烏哈旺前  
藏五品如珠齊結策旺供著賞戴花翎上博高頭  
人江曲鏡整江魯供著賞結三品頂帶賞戴花翎  
餘著照所議辦理該衙門知道單併發欽此

981 道光十六年七月初五日內閣奉

上諭文蔚等奏此次剝辦博窩薩瑪第巴克什勞績  
較著懇請量予獎勵等語著理藩院議奏欽此

982 道光十六年七月初五日內閣奉

上諭琦善奏酌保緝捕出力員弁一摺此案魏大來  
茅私販銅錢出海經該督委員協同地方文武員

弁前往緝捕半月之內獲犯多名查辦尚屬妥速  
沙河縣知縣王鑽天津縣知縣張欽祖均著以應  
升之缺儘先升用蘆臺場鹽大使金永詒本係應  
升知縣之員著遇有緊要知縣缺出即行補用署  
千總市天津鎮右營把總蕭雲升著准其升署鹽  
山汛千總仍扣足服滿日期再行咨部給劄實授  
以示鼓勵該部知道欽此

983 道光十六年七月初五日內閣奉

上諭前據御史王藻奏運河官船隻積糞查驗  
當交琦善嚴議具奏茲據該督查明直隸舊設官  
船一千五百隻添造船一千隻均於漕船未到  
之先調集楊村驗明備用各省軍船果能按限早  
來此項船隻原足敷撥運之需近年因渡黃道限  
以致沿途阻滯首道前幫既因運河水小全行起  
撥其二三進幫船又因行走脫空河水未長不得  
不豫籌添雇民船是到船之數不在船數之短  
而在撥運之擁擠等語各省漕船北上屢經降  
旨飭令冬兌冬開限於四月初十日以前全數備

至清江起期撤根根接渡黃前進如果依限僅行  
則沿途不改改得延入閘可期迅速又何至撥津道  
限迫礙回空在後各幫全數起權數令船數不敷  
勞煩添雇其臨事周章均由渡黃遲延所致著有  
漕各省督撫暨漕運總督通飭各該糧道等本年  
回空以後趕辦新漕務當欽遵冬兌冬開總  
於四月初十日以前全數撥提候渡不得節節耽  
延稍逾例限致天津以北屆期擁擠起運專賴剝  
船艙有封雇民船別滋擾累之事經此次諄諭之  
後毋得仍前玩愒不能迅速進行致誤全期限自  
午各庚將此通諭知之欽此

984 道光十六年七月初五日內閣奉

上諭前據御史王藻奏官船隻積糞請嚴實查驗當交  
琦善嚴議具奏茲據該御史原摺尚有山東運  
河官船隻積糞請飭認真查辦等語著山東巡撫查  
明具奏欽此

985 道光十六年七月初五日內閣奉

上諭琦善奏運弁違例自雇民船並擅離幫所等語起刺漕糧向有官設剝船其因不敷輪轉應用民船亦係地方官早為雇備本年蘇州白糧幫運弁軌違水手自行雇覓疎屬違例難保無剝卸私貨別情其與武六幫運弁曠職擅離幫所尤屬驕玩著漕運總督嚴查分別叅處欽此

986 道光十六年七月初五日內閣奉

上諭琦善奏請將捕控不力之州縣分別懲處等語直隸陸平縣知縣陳在元前因該縣境內埔擊滋生穽匪不報業經揭去頂帶飭令趕緊撲捕乃該縣於被奏後仍復因循玩視不克即時捕盡以致蔓延實屬有乖職守著即革職仍令隨同著任之負設法撲捕務使剋期淨盡該管趙州知州恣克崇頑既不嚴行督飭又不據實稟揭亦屬玩延著先行揭去頂帶仍令督捕以觀後效欽此

硃

987 道光十六年七月初五日內閣奉

上諭藍翎侍衛那提順著革職交御前大臣軍機大臣一併審訊欽此

988 乾隆四十年八月昨據御史戈源奏

989 著昨日道

旨將高客乃傳到公同訊問據稱向來與哈豐阿書信任還去成哈豐阿來京時面問伊閱來官場各事曾告以三條可行隨將舊底三條於哈豐阿來寓時面交帶去旋復寄信與該將軍仍列寫前項事宜為其奏辦即令正白旗滿洲索倫藍翎侍衛那提順代作信函當即將該班侍衛那提順傳到據供實係代寫日等獲遵

旨問高客乃以一品大員因何不自奏請辦及寫信與哈豐阿供稱不敢自奏屬實又問信中所稱與九卿高張並戶兵二部通融等語向何人設論供稱實未向一人說過日等訊此語係何何意見供稱并未將此語令那提順代寫再三



詰究那提順何以結寓此語那提順堅稱係高  
客乃為伊如此結寓互相質證彼此推諉所有  
日等選

音訊問大概情由先錄供詞具奏謹

奏

990 軍機大臣 字寄

山西巡撫申 道光十六年七月初六日奉

上諭本日據琦善奏接據宣化鎮宣化府及蔚州西  
寧懷安等州縣稟報飛蝗自山西界內漫天蔽日  
而來傷食田禾數十餘頃接有該省天鎮陽高大  
同等縣知會防捕文移蝻孽成蝗亦須十有餘日  
山西州縣若於有蝻時速行撲捕何致養成如許  
之多倘蔓延不已防不勝防貽害無所底止等語  
本年山西省蝻孽萌生前已有旨將撲捕不力之  
大同縣知縣王聯堂懷仁縣知縣蔡汝懋山陰縣  
知縣李恩綸摘去頂帶勒令收捕茲據琦善奏毗  
連直隸各州縣飛蝗越境去來無定可見山西有  
蝗處所不止大同等三縣若不認真早為撲滅儘

力投除不特該省成災即鄰境亦多受害者中唇  
賢達委大員前往嚴督撲除收買務當剋期淨盡  
以衛民田倘該地方官敢於玩忽從事再有蔓延  
著即嚴行叅處以為玩視民瘼者戒毋稍姑息將  
此諭令知之欽此遵

音寄信前來

991 臣等查本月初一日據山西巡撫申致賢奏

捕蝗不力各員業經奉

旨將大同縣知縣王聯堂懷仁縣知縣蔡汝懋山陰

縣知縣李恩綸摘去頂帶着令撲捕收買剋期

淨盡茲蒙

發下琦善摺一件臣等謹遵

音繕寫寄信中啟賢

諭旨一道遵

呈謹

奏

992 道光十六年七月初六日內閣奉

上諭楊名魁奏請將試用知縣勒令休致一摺陝西

委署鎮蘇知縣試用知縣張濟寬性耽越莽不洽  
與情且係革職捐復之員估過不悛難期振作著  
即勒令休致該部知道欽此

993 道光十六年七月初六日內閣奉

上諭中啟賢奏請將解任知府暫行革職一摺山西  
太原府知府史夢蛟著暫行革職嚴審此案前經  
降旨交該撫督同臬司慶林審訊現在慶林仍回  
本任著該撫仍遵前旨督同慶林親提研鞫毋得  
稍有徇縱務期水落石出以成信獄該部知道欽  
此

994 道光十六年七月初六日內閣奉

上諭中啟賢奏請仍停鼓鑄一摺山西寶晉局鑄錢  
文前經奉准停止茲據該撫查明庫存錢文無虞  
缺乏銀資錢殿無須出易平價若遽開鑄耗費甚  
多且致積塵著仍行停鑄以節糜費而卹兵丁該  
部知道欽此

995 道光十六年七月初六日內閣奉

上諭前據御史趙光祖奏山海關稅務衙門遺失部  
頒印冊當交戶部查泰並著將權書姚姓等解交  
刑部審訊茲據戶部查明該監督重豫本年曾經  
呈報於二月間失去部頒牛莊口親填簿一本現  
仍未據究明情形報部該監督既已失察於前又  
未能查明於後咎實難辭重豫著先行交部議處  
此案現交刑部審訊如尚有別情於定案時附奏  
不得因該員業經部議稍予寬縱該部知道欽此

996 道光十六年七月初六日內閣奉

上諭昨據著英檢舉高咨乃前向索看戶部議覆黑  
龍江捆刺牲丁摺底曾經將手摺給看等語部院  
辦理事務各有專司即如戶部所辦摺據覆摺件惟應  
該衙門堂官互相商榷外此不得與聞即事已奏  
定亦不應將摺底文給外人致滋干預著英于高  
咨乃問伊要摺底閱看報將摺底文給高咨乃珠  
屬疎率著英著文部議處欽此

997 道光十六年七月初六日內閣奉

上諭此案高客乃干預公事業經訊取確供著御前大臣軍機大臣按律定擬具奏欽此

998 臣等昨日復遵

旨將高客乃傳到公同訊問據供數年未聞東人至京屢提調劑裁汰等情三事央懇設法向該處將軍懇懇奏辦去年聞東人來有打牲總管官色訥亦曾提過此事今年四五月有佐領泰明濟濟克扎布復來囑托前項事宜三條高客乃即囑令已革藍翎侍衛那提順代為作函寄與哈豐阿並告知那提順我在京認得官員可以代為商量辦理那提順總好信函高客乃說信內所說九仰話頭未免過重那提順說如不合意可即改換高客乃已經寫就便可毋庸更改訊之那提順供亦相同臣等復訊所說向京中官員商量到底向何人說過意欲向何人央托據供各部院大員位坐尊重我也不敢央說不過是空頭炫耀的話希冀該將軍奉准地方兵

丁可免苦累臣等又問從前歷任將軍曾百托

過供稱實未央托又問前在著英處來看奏摺

底稿有何人在坐供稱有武志顯在坐隨將已

奏漢字摺底帶回照錄繕出清文彼時黑龍江

差來佐領濟濟克扎布當面要去帶回該處旋

將原底交還著英更無別說又高客乃呈出哈

豐致果信函一件臣等公同閱看內係問候空

言無關此事存留備查所有臣等二次訊問情

由謹錄取供詞具奏謹

奏

999 奏

殊平皇太后懿旨形犯著晉封為形貴妃貴人郭佳氏著封

佳嬪

七月初七日

1000 道光十六年七月初七日内閣奉

殊諭奉

皇太后懿旨形犯著晉封為形貴妃貴人郭佳氏著封

為佳嬪特諭

殊添

殊

1001 道光十六年七月初七日內閣奉

上諭山西太原府知府員缺緊要著張撫於通省知府內揀員調補所遺員缺著譚厚光補授欽此

1002 查山西太原府知府史慶斌昨奉

旨暫行革職所有太原府首府員缺應令該撫揀員

調補所遺缺應請

旨簡放臣等謹擬寫空名

諭旨並各項應用知府人員名單一併進

呈伏候

欽定謹

奏

1003 道光十六年七月初七日內閣奉

上諭琦善奏保舉失雷據實檢舉一摺已革湖南鎮軍鎮總兵向尊化前在直隸河間協副將任內經該督保舉堪勝陸路總兵該員現因駕馭無方先行革職該督將前此冒昧保奏之處自行檢舉琦善著交部照例議處欽此

1004 道光十六年七月初七日奉

旨逆兩泰倉差長解不悛之巴東縣知縣魏拱辰添差履解不悛之江陵縣知縣黃學愈於解司新法重犯並不悛退安役小心防範欽令中途脫逃均屬玩忽著一併革職暫行留任交該督督勒限嚴飭緝拿限滿有無弋獲再行分別辦理欽此

1005 道光十六年七月初八日內閣奉

上諭興德奏揀補伯克開單請簡一摺喀喇沙爾庫爾勒四品伊什罕伯克員缺著以擬陪之薩依特并補該衙門知道欽此

1006 道光十六年七月初八日內閣奉

上諭申致賢奏鐵斤創價不敷請援案將銅本息銀津貼一摺此次山西採買鐵斤為數較多除創價動用銀四萬一千五百兩外尚不敷銀六萬三千三百兩著准其援照成案在於銅本息銀項下如數津貼先儘銅本息銀二萬六千五百八十兩全數動用其餘不敷銀三萬六千七百二十兩准

其借動息較變價並減半餘平生息歸本銀兩仍俟銅本息銀收有成數即行歸款至委解錢斤仍著遵照舊案二十萬斤為一運分作七運自本年十月起至年底止陸續委解到部交納該部知道欽此

1007 道光十六年七月初八日內閣奉

上諭榮毓奏請添撥河工防險銀兩一摺豫省河工例撥防險銀兩現據該河督查明節次添辦稍麻等項支用已完請於藩庫添撥銀二十五萬兩備用著照所請准其照數撥給俾資接濟該河督務當加意撙節認真勘覈不准稍有虛糜如霜後存有餘料仍照數扣還歸款並將先後撥用工銀總數覈實奏報毋稍浮冒該部知道欽此

1008 道光十六年七月初八日內閣奉

上諭國椿奏請撥調經費銀兩一摺庫車官兵應調道光十八年歲需經費銀八千兩著瑚松額即將此項銀兩照數撥解以資支絀該部知道欽此

1009 道光十六年七月初八日奉

旨左翼翼尉興泰副翼尉秋前保供著降二級留任不准抵銷著英聯順桂輪俱著罰俸一年准其抵銷欽此

1010 道光十六年七月初八日內閣奉

上諭前據御史況澄奏獲奪式弁盧必沅舉劾互異部議參差當降旨交兵部查明具奏茲據該部查明盧必沅降調後因等獲匪犯多名經祁墳奏請鼓勵功過本不相掩並非違制溫保至伊子盧良弼係由提督會同提督因獲盜勞績拔補外委把摠實非虛必沅所得徇私舞弊與萬榮將親子收入本標希圖徇庇者不同是該部於二案處分均係照例辦理本無不協該御史所稱父為副將何難藉獲盜之績為伊子升擢之階又盧良弼自幼出繼係事後編縫避重就輕等語該御史不過懸揣空論並不能指出實據各部院衙門辦理一切事件全以奏摺案據為憑摺外情節豈容懸揣指駁該御史所奏應毋庸議至所稱嗣後文武官員

履行迴避之缺不行申報者比照科場之例將上司屬員一併議處等語著吏部會同兵部議具奏欽此

1011 道光十六年七月初八日奉

旨此案高喀乃以一品大員於黑龍江歷久遊辦公事輒因私意妄託該將軍更改章程懇懇奏辦國家設官分職內外文武衙門各有專司一應公事俱不得越俎干預高喀乃身受殊恩在內廷行走有年宜何如小心謹慎飭已奉公乃敢私致書函囑托公事負恩傷大自取罪戾現經御前大臣等審訊將高喀乃擬發軍台効力贖罪不足蔽辜高喀乃著改發熱河充當苦差伊子安興阿克陞阿供著即行革職一併發往熱河充當苦差以示懲儆已革藍翎侍衛那提順代高喀乃書寫信函係聽從主使並無干預別情惟未能阻止亦有不合著開復原官仍交部照例議處欽此

1012 奏為遵

臣僧格林沁等跪

旨吏擬具奏仰祈

聖鑒事本月初四日內閣奉

上諭哈豐阿奏泰在京大員干預本地公事並將原給官信條據一併呈覽一摺御前侍衛都統高喀乃負恩臨大自取罪戾著即革職交御前大臣軍機大臣會同審訊具奏欽此又本月初五日奉

上諭藍翎侍衛那提順著革職交御前大臣軍機大臣

一併審訊欽此日等當即遵

旨將該二員侍到公同訊問據高喀乃供稱致函與

黑龍江將軍哈豐阿囑托公事三條呈堂官據

耀興九塔高錫戶兵二部通融等語屬實那提

順供稱高喀乃囑伊代作信函投遞懇擬並無

別情日等已將兩次訊明供詞先後恭呈

御覽本月初六日奉

上諭此案高喀乃干預公事業經訊取確供著御前

大臣軍機大臣按律定擬具奏欽此日等伏思文

武官自有攸司惟當循分盡職謹慎恪恭不

時外省公事不應越俎代謀即各部院司職科

公共事不干己者亦不得探聽窺覷况

內廷行走大目尤宜小心慎密方為不負

殊思此案高客乃以黑龍江恩久違辦公事既因私

意手托該將軍更改章程恐恐未辦復添砌與

九卿高客戶兵二部通融等語實屬錯謬至為

該如

聖諭負恩賄入自取罪戾查律載監臨勢要為人囑

託者杖一百又例載杖一百係私罪者革職介

高客乃以一品大員違例請托錯謬已極僅予

革職未免輕緩應請

旨將高客乃發往軍臺效力贖罪以示懲儆已革監

領侍衛副統領魏六聽從主使並無干預別情

惟是高客乃囑令代為信函未能阻止亦有不

合應請

旨問該原官仍吏部照例議處所有目等謹

奏定擬緣由謹會恭摺具

奏伏乞

皇上聖鑒

奏  
道光十六年七月初八日

借格林記

1013 道光十六年七月初八日內閣奉

上諭中啟賢奏請將折扣放債之知縣革職並牽控

之吏目解任質審一摺此案候選知縣晏象和呈

控已革山西沁源縣知縣王廷桂欠銀不償被沁

州吏目劉振壁從中舞弊並牽告王廷桂做壽收

禮攤派軍需等情據該撫查明晏象和以候選知

縣無用短票折扣違禁取息屬著玷官箴且因索

欠不遂事告不予已事意圖挾制尤為玩法晏象和

著即革職吏目劉振壁並著解任交該撫提同已

革沁源縣知縣王廷桂並全案人證到省研訊斷

不可顯壞了事務須履審確情按律定擬具奏以

儆官邪該部知道欽此

○或 登

○浦 恩

○榜 彰

○王 鼎

○趙 麟

○賽 尚阿

奉為道

會會議具奏仰祈

聖鑒事六月十五日御史章燁奏請議處司員將職

名全行開送分別核議一摺奉

硃批大學士軍機大臣議奏欽此伏查該御史原摺

內稱各衙門辦理事件雖由掌印主稿定議然

在司各員銜俱列稿面畫齊然後呈堂遇有掌

印主稿間執偏見或徇私情各員不難據理而

奪回堂吏正逆日各部習氣大半以畫押為具

文以紙點為和衆即如兵部掌印員外郎容恩

一案在各司員何竟漫無見聞推原其故由於

各衙門間有辦理錯誤祇將掌印主稿一二人

開送議處其餘各員概不議及各員恃有歸還

之人遂於應辦事件漠不關心查乾隆四十七

年欽奉

上諭嗣後各衙門有承辦錯誤應送職名時將該司主

稿及隨同畫稿司員一併聲明各送分別議處等因

欽此欽遵在案應請嗣後司員處分照例將職

名全行開送分別核議等語臣等竊惟分曹位  
理專委任乃可以責成詢事合謀集衆思亦所  
以廣益法至善也但各部院衙門情形不同其  
辦事名目章程亦復互異有該滿掌印漢主稿  
及掌印掣稿者有兼設漢掌印者有不設漢掌  
印而有總辦生辦者有但主本股之稿名為管  
股者料方多寡懸殊股分繁簡不一此各司辦  
事名目之不同者也承辦

題奉若行事件有稿面全列司員銜名畫諾者有  
向不立稿僅由承辦之員畫押畫行者有專屬  
之掌印主稿者有專屬之管股者如兵部辦理  
通行八旗手摺先試騎射一案只有本股司員  
伊齡安於堂行簿內畫押並不列稿全畫此又  
各司辦事章程之不同者也若如該御史所奏  
遇有錯誤送議之案或因人數較多量為寬假  
因恐督推諉之門令違欽全行開送又恐在司  
各員遇事意存規避轉不肯踴躍辦公亦非屏  
策屏力之道臣等悉心酌議嗣後各衙門如有  
案情重大錯誤太甚者請仍遵乾隆年間欽奉



諭旨將該司主稿及隨同畫稿各有一併聲明咨送合

別議處若只係尋常錯誤之案由本衙堂官秉  
公核實各按掌印主稿管股司員應得處分開  
具職名咨送吏部核其公私情罪分別議處以  
昭平允而示區別至掌印主稿及隨同畫稿司  
員處分現經片查吏部覆稱例內並無一體議  
處及分別議處明文嗣後應作何分別輕重等  
差之處應由吏部核議

奏准纂入則例遵照辦理所有各等會議緣由是  
否有當謹合詞恭摺具奏伏祈

皇上聖鑒訓示遵行謹

奏

道光十六年七月初八日奉

旨依議欽此

臣長齡

臣文孚

臣潘世恩

臣阮元

臣穆彰阿

臣王鼎

臣趙咸登

臣齊尚阿

1015 軍機大臣 字寄

欽差尚書朱 者 道光十六年七月初九日奉

上諭前有人奏廣東候補通判米桂兄弟盤踞把持  
並會同縣知縣趙榮興瓊州府知府富爾崇阿互  
揭之案久未定讞等語當降旨令恩銘等懃加懲  
辦茲據該尚書等查明具奏僅只大概情形未經  
結案且尚有應捉人證恩銘等現已有旨飭令回  
京朱士彥著英到粵後計人證早已捉集著即按  
照摺內所指各情秉公澈底根究不得以恩銘等  
審辦在先稍存迴護原摺著鈔給閱看將此諭令  
知之欽此遵

旨寄信前來

1016 道光十六年七月初九日奉

旨馬二一犯業經供認應給華明齋料出城米石

即應嚴密防範乃於提訊時並不小心看視致令  
乘間潛逃難保無萌緝情事著派穆彰阿奕紀即  
提該管禁卒馬英嚴行訊究其馬二犯著步軍統領  
衙門順天府五城一體嚴拿務獲歸案辦理欽此

1017 道光十六年七月初九日奉

旨御史張琴奏直隸究追交代稽延請旨飭查一摺著吏戶二部並直隸總督查明具奏欽此

1018 道光十六年七月初九日內閣奉

上諭御史沈澄奏犯罪處後違例仍留辦運倉場侍郎尚情容隱請旨查辦一摺著該侍郎明白迴奏欽此

1019 道光十六年七月初九日奉

旨此案著交琦善親提人證卷宗秉公嚴訊按律定擬具奏原告民婦劉白氏該部照例解往備質欽此

1020 道光十六年七月初九日奉

旨此案著交周之琦督同臬司程登親提人證卷宗秉公嚴訊按律定擬具奏原告武生陳世昌該部照例解往備質並該武生結稱曾在本府控告四次均未親提又經該督撫批文該府提訊五次何以仍未審結著查明據實具奏欽此

1021 道光十六年七月初九日奉

旨此案著交陳鑾親提人證卷宗秉公嚴訊按律定擬具奏原告民人周進發該部照例解往備質並該民人結稱曾在本府呈控二十餘次何以延未審結如所控屬實著於定案時查明附奏欽此

1022 道光十六年七月初九日內閣奉

上諭伊里布等奏請將才不勝任之知府及人地未宜之知縣分別降補改簡一摺貴州黎平府知府張鳳翹前已降旨勒令休致婺川縣知縣崇興才欠闡展於繁劇之區人地未宜著留於該者以簡缺改補仍照例送部引見該部知道欽此

1023 道光十六年七月初九日內閣奉

上諭國林奏限場各工完竣請將出力人員給予獎勵等語率章監修隨壩官處各工墾務工在事甯史伯克或監修工販購料免夫或捐輸公費催督公程均屬急公奮勉自應量予恩施庫車印房四務掌印章京印選同知文瑞著交部從優議敘

餉章京主事職銜恒春著以主事選用城守營遊擊阿爾精阿著以應升之缺補用部缺筆帖式即補千總客爾通阿著俟補缺後以應升之缺升用部缺筆帖式安祥著以蒙古千總補用委筆帖式艾鳳增福均著俟差滿後以晚騎校補用庫車駐防固原提標千總李生溶陝甘督標經制外委譚成龍陝西撫標武舉署經制外委烏雲鶴六品軍功朱鶴齡均著以應升之缺升用印房未滿吏書趙士英李華春俱著作為已滿吏歸部嚴掣仍按著役日期和滿五年抵作九年期滿歸於雙月選用貼書侯晉康著候補額後和滿五年抵作九年期滿班內選用回子那玉伊薩克之長孫阿密特著賞給五品頂翎庫車阿奇木伯克邁瑪底敏之子七品頂帶塔依爾沙雅爾阿奇木伯克邁瑪特之姪阿布拉均著賞戴六品頂翎五品伯克阿敏著以四品伯克儘先升用先換頂帶四品伯克阿哈莫特五品軍功頂翎回子阿哈毛拉俱著以應升之缺儘先升用六品伯克塔塔里克六品頂翎七品伯克托古素度霍札傑著賞換五品頂翎七

品伯克斯瑪依阿里雅爾阿克伯克阿布拉什俱著賞戴六品頂翎著照所議辦理該衙門知道單併發欽此

1024 軍機大臣 字寄

欽差尚書朱 著 道光十六年七月初十日奉

上諭前有人奏浙江湖州府秀靈縣施姓辰柩被盜一案當降旨交恩銘等查辦本日據烏爾恭額奏稱查明此案實係承審委審各負錯謬已降旨將該員等解任並飭該撫切實督審朱士彥等違過恩銘趙盛奎必將前文查辦各件逐一檢收即將此案銷除毋庸前赴浙江查辦將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1025 道光十六年七月初十日內閣奉

上諭前據給事中富彭題奏兵部保題漢缺遴選正陪不盡允協當交長齡穆彰阿查明具奏茲據長齡等查明兵部保題漢缺遴選正陪歷屆並無不

合朕詳加披閱所啟原委均屬有案可憑是兵部遴選正陪於題選兩途毫無歧視科道職司言責外省事件尚可以風聞未確為詞至如部院大臣如果有不公不法舞弊營私情節見聞確實自應據實指奏朕方為之嘉許被劾之員必當審明重治其罪若指捕一二案件不問是非虛實有意吹求及至降旨令其明白迴奏仍復堅執前說以懷疑不解等詞吶吶置辯似此攻訐不已尚復成何事體富彰不勝給事中之任著以員外郎降補以示薄懲嗣後各科道遇有事關國計民瘼原當據實敷陳不得以捕風捉影之譚遠形奏隨杜自此訓誡之後如再有似此初奏各項事件查無實據者即將言事之人懲處不貸欽此

1026

查富彰已由御史升任給事中降等改補慮以員外郎補用是以臣等擬

旨寓入謹奏

1027 乾隆四十年八月二十一日內閣奉

上諭昨據御史戈源奏六月分郎陽府知府奉旨開缺已在二十日截缺之後應歸七月銓選乃吏部先於十七日開缺執將本部司官儲秘書選補樊混顯然一摺果如戈源所言似吏部竟有徇私廢公之處不可不澈底查辦因批交英廉閣補琦金簡等查奏今據覆奏吏部向未辦理開缺案件如任止降革文部議奏者於議覆具題奉旨之日始行開缺如革職之外尚有餘罪者不俟具題即行開缺並查自乾隆二十二年至今辦過成案十餘件查開具奏至儲秘書銓選之處係按記名依次比較揆用是吏部於此案開缺擬補並無違例戈源所奏未免有意吹求前日御史戴翼子曾奏五城自盡命案不宜輕改成例及傳旨詢問吏部劄於定例並無更張半月之間而言官兩劾吏部皆無確據甚屬無謂御史風聞言事內外大臣如有甚賾不法舞弊營私情節言官等即能據實指奏朕方為之嘉許而於被劾之人必審明從重治罪即如方世偉良卿錢度華賊私票案並非由御

史參出而一經收露俱展訊立正典刑此等貪黷  
敗檢之員從不稍為寬貸亦諸臣所共知者然此  
數案皆非科道糾劾乃惟稽捕部中一二案件不  
問是非虛實率行入告以見其風力誰不能之且  
此案開缺之事特派到部大臣查數斷不致稍有  
瞻徇而所查悉已得其底蘊御史凡有聞見如肯  
留心體察真偽無難立辨願可捕風捉影而以無  
據游談妄為誣讟乎御史泰初部院堂官如其言  
果確朕必不肯於大臣稍存庇護若語涉無稽捧  
拉失實欵以此自命教言深而不取明李科道往  
往與部臣抵牾遇事生風攻訐不已久之遂成門  
戶朕披閱史冊每深惡而痛嫉之方今政治肅清  
不願言官蹈此惡習著將此傳諭各科道如再有  
似此劾奏各部事件至無實據者即將言事之人  
交部議處欵此

1028

道光十六年七月初十日內閣奉

上諭烏爾恭額奏恭審辦盜槍案件全屬錯誤等語  
委署各員請辭任備雙一摺此案浙江孝豐縣職

員施祥心故獲王氏槍蓋槍總被竊該署縣孫天  
樞並不親往勘驗遽委典史會勘已屬違例迨施  
祥心查獲賊先認獲翻該府凌泰封等並不平  
情叢說執向施祥心一味勒索著施祥心並該  
撫查明被竊屬實並非施祥心粧點圖詐是承審  
委署各官于審辦此案全屬錯誤湖州府知府凌  
泰封首署孝豐縣現任武善縣知縣孫天樞孝豐  
縣知縣程文錦署烏程縣知縣王鼎勳著一併解  
任提同候補同知方東並未到任據文該撫飭令  
司道切實督審如有故縱故勒等情著即據實查  
參從嚴懲辦不准稍有遷就欵此

1029

道光十六年七月初十日內閣奉

上諭陶澍等奏候補知縣呈請改教一摺江蘇候補  
知縣宗淳英著准其以教職改用歸部銓選該部  
知道欵此

1030

道光十六年七月初十日內閣奉

上諭林則徐奏驗收捐修塘工請免報銷等語江蘇

華亭縣沿海一帶石塘閘堦衝壞據該撫查明裁  
除各工均已修築完竣此項工程均係官民捐辦  
著免其造冊報銷該部知道欽此

1031 道光十六年七月初十日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請將勒輝盜犯限滿無獲之縣令  
交部嚴議一摺此案丁憂知縣盛隆前署浙江太  
平縣任內疎脫盜犯烏燿寶一名當經降旨將該  
員革去頂帶勒限協緝茲據該撫奏稱該員於被  
革後身歷重洋認真緝捕協獲匪犯六名尚知愧  
奮惟本犯烏燿寶於四個月限內迄未就獲現當  
暨飭洋面之時蓋容以功抵過稍從寬貸仍請展  
議所奏甚是盛隆著交部嚴加議處仍飭令該員  
留屬隨同嚴緝烏燿寶務獲究辦欽此

1032 道光十六年七月初十日內閣奉

上諭林則徐奏蘇松太三府州挑辦河道驗收如式  
一摺此項工程除借款之瓜涇港楊林河應造冊  
報銷外其餘捐辦各工著免其造報其在工各員

著該撫擇其尤為出力者酌量保奏候朕施恩毋  
許冒濫欽此

1033 道光十六年七月初十日內閣奉

上諭陶澍等奏知縣人地未宜請撤回另補一摺江  
蘇贛榆縣知縣徐林春著即撤回遇有相當缺出  
酌量補用該部知道欽此

1034 道光十六年七月初十日內閣奉

上諭林則徐奏請將捐修海塘各工官紳分別獎勵  
一摺又另片奏在工最為出力之鎮洋縣訓導洪  
炯以知縣銜擊省分歸入議敘班挨次補用等語  
著吏部議奏單併發欽此

1035 道光十六年七月十一日內閣奉

上諭色卜星額奏添陳防江面停船被劫各員請補  
去頂帶勒限嚴緝一摺安徽懷寧縣神城四十  
里之馬家窩江面匪徒駕船強劫江西行夥萬派  
官船銀錢米箱估計賊銀四百九十一兩之

多該地方捕務實屬懈弛，署懷寧縣知縣劉寅升、縣丞楊惠春、署安慶營右軍守備古維藩著一併摘去頂帶勒限緝拿，屆限無獲，即行嚴懲。懲辦欽此。

1036 道光十六年七月十一日內閣奉

上諭御史劉夢蘭奏糧船積匪徒號為青皮，價值沉丁，捕獲查拏本幫運丁運弁，舉向該丁投等節，詞容庇徃，已獲之犯仍行釋放等語。嗣後幫船過境沿河州縣，應如何親身帶領捕役協同沉弁上船確查之處，著漕運總督有漕督換會議具奏摺，併發欽此。

1037 軍機大臣 字寄

欽差尚書湯 侍郎文 道光十六年七月十二日奉  
上諭有人奏河南武陟縣知縣靳升廣，西陲州知州趙銘，貪貪酷性成肆行無忌，茲任以來聲名狼藉，遠近咸知。該縣士民編其劣蹟十條赴河北道衙門呈控，有案可查。著湯金釗文慶於陝西審案

完竣後行抵河南，查訪確實，即提該員并各案要證，逐款研訊，以儆官刑，無稍疎縱。原摺著鈔給閱，看將此諭令知之。欽此。遵

旨寄信前來

1038 軍機大臣 字寄

湖南巡撫裕 道光十六年七月十二日奉

上諭本日據花杰奏稱，研訊游僧劉才修改名吳本林，實非藍正構，並訊明前獲賀六昌供認係程孔國現已解楚審辦等語。該撫接到該護撫咨文，所有各犯供詞，並起獲各種違例經卷物件，務當悉心嚴究，訊出實情。該省現有逆犯家屬，監禁解到提訊，其贖立分。該僧人既非藍正構，是否知情同逆，或另有不法黨羽，其藍正構藏匿之處，該僧人或有不見聞，至賀六昌供詞與楚省咨開情節不甚相符，是否即係教匪程孔國著裕泰即提監候之程，恒志細心質訊，無難得實。該犯既認習青蓮教，自必輾轉傳徒，總當究詰根原，不得任其支飾。至藍正構一犯，罪大惡極，豈容日久稽誅。務要督飭

文武負弁認其追蹤嚴等並移會都督一體緝獲  
母任漏網將此諭令知之欽此

旨寄信前來

1039 軍機大臣 字寄

清運總督恩 江蘇巡撫林 道光十六年七

月十二日奉

上諭琦善奏訊據現獲之鎮江幫水手李源陽陳玉  
堂等供稱江蘇江都縣人楊成向充河路捕快在  
邵伯一帶往來與水手素相交好本年重運抵淮  
鎮江前後兩幫均將器械交給楊成代藏俟搜查  
之後仍復取回等語楊成以在官人役膽敢將糧  
船私帶器械代為隱匿過淮甚屬藐法可惡可恨  
著林則徐即將該犯密速查拿務獲解交恩轉予  
嚴行究辦將此各諭令知之欽此

旨寄信前來

1040 道光十六年七月十二日內閣奉

上諭琦善奏部駁豁免民欠存留一款據案仍請豁

免一摺所有直隸省嘉慶二十三年起至道光十  
年止實在民欠未完存留地糧銀七萬三千七百  
八十六兩零既據該督查明乾隆嘉慶年間有兩  
次豁免成案著加恩准其豁免餘詳摺道嘉慶當年  
之案尚未按限詳題除藩司陳崇禮到任未久免  
其議處外所有歷任正署藩司著查取職名咨部  
分別議處欽此

1041 道光十六年七月十二日內閣奉

上諭前因高客乃以在京一品大員內廷行走多年  
輒以私信囑託公事且有牽涉九卿戶兵二部代  
為通融等語負恩膽大自取罪戾業經將伊並其  
二子一同革職發往熱河充當苦差以示懲儆矣  
因思東三省暨西北兩路以及各直省大員與在  
廷諸臣書信往來亦所時有中間干預公事私趨  
囑托未經舉發者實不能保其必無在廷諸臣於  
地方應辦緊要公事如果確有把持不時據實奏  
聞倘可採納朕必立見施行若以私書囑託公事  
扶持地方官意在必行玩法辜恩莫此為甚封疆



大吏均輕朕時加擢用自當各失公忘不避嫌疑  
方為不負委任嗣後倘有似此干預備托一經舉  
發高咨乃即其前車之鑒地方大吏倘受其備托  
或代為徇隱不即據實奏來到經發覺一併執法  
嚴懲決不寬貸將此通諭中外知之欽此

1042 道光十六年七月十二日內閣奉

上諭御史沈懌奏內閣中書升途壅滯請量為疏通  
一摺著吏部據奏欽此

1043 道光十六年七月十二日內閣奉

上諭琦善奏請將運弁先行革職解交直隸歸案實  
訊等語松江向糧幫運弁豫升於滋事水手高立  
強搶婦女一案該運弁體面區區幫幫已難辦迨  
經被拿獲後出為阻撓實屬有意庇護著先行革  
職并著恩特亨額委負解交直隸一面責令淮安  
二幫弁丁交出保牌及娼妓李張氏等一併移解  
歸案實訊分別究辦欽此

1044 道光十六年七月十二日內閣奉

上諭琦善奏徵存未解銀兩仍請勒限提追一摺此  
項徵存未解銀五萬餘兩據該督奏稱業已提歸  
司庫銀三萬餘兩其未完銀二萬餘兩著准其勒  
限半年費實查辦倘逾限仍有未徵即著照例奏  
追該部知道欽此

1045 道光十六年七月十二日內閣奉

上諭前據鄧廷楨等奏督獲形迹可疑之游僧認有  
首逆藍正搏在內當降旨交該督等嚴訊實情茲  
據花杰奏稱再三研鞠並非藍正搏正犯是該犯  
匿跡潛逃稽誅已久不特楚省著深林密之處易  
於潛藏即各直省地方遼廓亦難保無改換姓名  
說秘圖跡之所著納爾經額裕泰周之琦並各直  
省督撫不分畛域一體嚴拿務當認真緝獲罪人  
斯得不准遽延月日任其逃竄漏網致稽顯戮欽  
此

1046 軍機大臣 字寄

河南巡撫桂 道光十六年七月十三日奉

上諭河南武陟縣知縣趙銘奏前已升廣西西隆州知州該員知己交代完竣着該撫飭令暫緩督程仍留河南省城聽候諭旨將此諭令知之欽此道  
旨寄信前來

1047 道光十六年七月十三日內閣奉  
上諭國子監司業著舒興阿調補欽此

1048 道光十六年七月十三日內閣奉

上諭御史董宗遠奏請飭禁各省班館一摺州縣為親民之官辦理詞訟務宜速審速結小民庶免拖累即地方團圓之設所以待有罪尋常案件原不准其私押近來外省州縣竟有設立班館羈押人證甚至經年累月隨意拖延以致胥役勒索民冤莫伸不可不嚴行查禁以靖閭閻著直省各督撫督飭各州縣毋得設立班館審理詞訟務須遵照定限即行審結倘仍有久羈未結案件即將該州縣據實展參本管道府扶同袒飾即由該上司一併叅處決不寬貸將此通諭知之欽此

1049 道光十六年七月十三日內閣奉

上諭鍾祥奏河南李獲教犯彭堂請解來質審一摺此案郟城縣教犯黃上選之師首犯李芳春潛回東省查經曹州府知府等訪獲解省審辦其彭堂朱洪宗等已由河南督<sup>李</sup>獲著桂良即將該犯等解往山東交經額布提回現獲之李芳春等確切實究務淨根株至山東習教之風曹州東昌等府為尤此外各府所屬亦難保無傳習煽惑情事不可不嚴密訪查期無漏網現據萊州府屬之即墨膠州等處訪獲教犯魯文燦等經額布抵任後著即將該犯等提省審訊實力跟追毋稍疎縱以免蔓延欽此

1050 道光十六年七月十三日內閣奉

上諭鍾祥奏知府審案出力懇請鼓勵一摺山東濟南府知府王鎮審結要案四百二十餘起之多並平反命盜重案多起實屬審獄出力王鎮著吏部記名以道員升用餘著照所議辦理該部知道欽此

1051 道光十六年七月十三日內閣奉

上諭鍾祥奏督獲鄰省去犯及遊擊水手分別歸案  
飭審等語馮四股五即尹登魁著解赴江蘇歸案  
審辦其先後督獲之張玉發等多名均在沿河一  
帶擊為匪恐有互相勾結不法重情著交劉斯嘏  
督同臬司李振蒼嚴審定擬具奏欽此

1052 道光十六年七月十三日奉

旨此案已革鎮軍鎮總兵向尊化徇庇屬員那移公  
項其平日馭兵不能約束善主聚眾滋事離間戰  
官重案鎮軍中營遊擊陳存泰失察書識得贓那  
用變價銀兩其於所轄兵丁毫無約束以致聚眾  
挾借滋事該官該部僅擬將陳存泰革職與向尊  
化發往軍效力贖罪不足蔽辜向尊化陳存泰俱  
著發往烏魯木齊效力贖罪以示懲儆餘依議欽  
此

1053 道光十六年七月十三日內閣奉

上諭著英著改為降三級留任不准抵銷欽此

1054 道光十六年七月十三日內閣奉

上諭琦善著改為降四級留任不准抵銷欽此

1055 道光十六年七月十四日內閣奉

上諭訥爾經額等奏籌議添設卡座堵緝私販一摺  
楚省行銷官引為淮網窳重口岸惟界連數省水  
陸交衝向多鄰私滋據該督等查明湖北襄陽  
府屬均州之小江口湖南永州府屬之老埠頭湘  
潭縣之朱亭等處實為鄰私通滬門戶現議酌添  
卡巡以資扼要又衡州府通判專駐郡城離下游  
各卡較遠議令該通判駐衡山縣要隘處所就  
近督飭巡緝自係為緝私疏引起見著照所議辦  
理該督等惟當認真查察並嚴飭鎮將道府督同  
州縣及各卡員弁協力緝捕不得日久生懈倘查  
有得規縱放情弊著即指名撤參毋稍姑息至添  
設卡座分派弁兵著該督等妥議章程具奏該部  
知道欽此

1056 道光十六年七月十四日內閣奉

上諭據訥爾經額回奏一摺此案逃犯吳立乃案中

緊要人犯必須拿獲方能究出實情著鈔爾經領  
松泰履勘所屬並非容部省務將該犯查拿獲案  
履切根究毋任遠颺欽此

1057 道光十六年七月十四日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠  
銀糧令各該將軍府尹督撫等查明開單具奏錄  
鐘祥將山東省道光十年以前民欠緩徵地丁等  
項銀數開單呈覽當交戶部覈覆茲據查明具  
奏山東省道光十年以前未完緩徵地丁等項銀  
數委係實欠在民所有開實民欠地丁正耗銀  
八萬一千五百六十五兩零緩徵地丁正耗銀二  
百五十萬二千三百三兩零緩徵學租耗羨銀十  
五兩零民欠緩徵常社倉穀一萬五千四百九十  
六石零民欠緩徵常社折色口糧並種籽種銀  
三萬八千六百八十一兩零民欠緩徵渣項正耗  
銀五萬三千四百一兩零俱著加恩全行豁免該  
撫卽刊刻謄黃徧行曉諭並照例掛戶付給免單

嚴禁吏胥影射需索等弊務期實惠及民用副朕  
推恩布閭至意餘依議欽此

1058 道光十六年七月十四日內閣奉

上諭吳經等奏請將胡克未獲之知縣位領摘去頂  
帶勒限履緝一摺此案逃犯吳成曾經在給藏京  
刑部負外郎吉泰家傭工報放行兇將吉泰殺斃  
復另覓一命並被傷多人兇惡已極該管署承德  
縣知縣徵良族界佐領廣恩於此等重犯未能立  
時拿獲非尋常疎玩可比徵良族恩俱著先行摘  
去頂帶勒限三個月履緝務獲倘逾限無獲卽嚴  
查懲辦先犯無成罪不容諱並交俾逃法網著直  
隸熱河山東各督撫都統飭屬不分畛域一體緝  
拿務獲解案審辦該部知道欽此

1059 軍機大臣 字寄

原任閩浙總督程 蕙著閩浙總督魏 道光  
十六年七月十五日奉

上諭程祖洛奏前次該督查辦兩浙鹽商祝達吉等

把勒勒派等情一業並查拏花子會匪一業著交魏元煥接收辦理程祖洛著即回籍守制倘鍾祥到任時此二業尚未辦竣即著該著督會同鍾祥審辦將此諭令知之欽此

吉寄信前來

道光十六年七月十五日內閣奉

上諭祥康等奏查禁內地民人潛往雙城堡影射拿

混一摺雙城堡地方移駐京旗據該將軍等查明

自道光二年起京旗及屯丁等陸續招留有著派

民二百五十二戶並查明道光四年奏定小封堆

內准在攜眷人夫傭工與道光二年原奏不准容

留民人章程不符是以十有餘年漸次招集有著

民人如此之多若不早為查禁必致占礙旗人生

計嗣後著仍遵照道光二年奏定章程小封堆東

各旗屯界內除雇覓復身民人工作不禁外如有

攜眷居住者立即妥為驅逐其內地隻身民人亦

必查係實在在與旗人傭作者方准容留倘係潛

往該堡影射拿混著即隨時驅逐並責成阿勒楚

喀副都統暨雙城堡協領每屆年終加結報該將軍等具奏一次倘仍留內地民人潛住一經查出著即隨時奏辦至現在查出有著民人據稱該協領業經稟報驅逐究竟作何驅逐之法有無妥頓能否不致流離失所仍著該將軍等查明據實具奏欽此

1061 道光十六年七月十五日內閣奉

上諭本日據大學士文孚具摺港請開缺文孚在軍

機大臣行走有年簡擢輪扉謹供職道光十三

年間同年近七旬奏請辭職朕察其精神尚健未

經允准上年召見時面稱重體健忘據實陳懇因

其情辭到切特降旨令其管理吏部事務無庸在

軍機大臣上行走以節勞動昨因感受暑熱當假

詞攝本日復據奏稱耳聾頭暈恐致誤公懇辭退

職任若不允所請伊心轉有未安文字著以大學

士致仕賞給支食半俸用示優眷念勤勞優禮者

臣等謹欽此

1062 道光十六年七月十五日內閣奉  
上諭穆彰阿著充國史館正總裁欽此

1063 道光十六年七月十五日內閣奉  
上諭戶部三庫事務著奕額管理欽此

1064 道光十六年七月十五日奉  
旨莊親王奕劻宗室錦評互控一案著軍機大臣刑  
部堂官會同宗人府審訊欽此

1065 道光十六年七月十五日內閣奉  
上諭耆英文慶現俱出差稽查會同四譯館大臣著  
敬徵賽尚阿著理欽此

1066 道光十六年七月十五日內閣奉  
上諭福克津等奏世管佐領缺出請定承襲一摺錄  
黃旗蒙古世管佐領富通所出之缺著該旗於富  
通近支應襲人內揀選二三人與富通之權禁閑  
散已滿一併帶領引見欽此

1067 道光十六年七月十五日奉  
旨馬德貞著革去監生歸案審訊欽此

1068 道光十六年七月十六日內閣奉

上諭前據御史沈澄奏犯軍需役倉場拘情容隱傷  
留辦運當令倉場侍郎明白迎奉茲據奏稱該犯  
虛報等被控一案前經訊明尚無別項劣跡因據  
吏部重役將虛報款流能足現擬收革役查該犯  
令生性惡烈未發落該廳因運務繁雜領銀復恐  
虛懸是以稟請暫行扣留現已履筋時虛報等處  
右印行革役身違承充等語此等虛報既經該侍  
郎等斥革仍當隨時查察毋令吏名復充身後辦  
事此外經紀有無似此情弊並著該侍郎等履筋  
確查懲辦如有因循容留列經發覺惟該侍郎等  
是問欽此

1069 軍機大臣 字寄  
欽差高書湯 侍郎文 道光十六年七月十七日奉  
上諭本日據湯金釗等奏稱梁章鉅路過陝西該高

硃硃

書等曾經接見並無關說請託情事所有該撫楊名題有無從送梁章鉅厚贖之處著該尚書等於回至陝西時明查暗訪務得確情據實具奏不准似合限稍有諱飾特此諭令知之欽此遵

音寄信前來

道光十六年七月十七日內閣奉

上諭前因有人奏奏上年廣東隨帶司員白讓卿陽金城等有得受苞苴之處當降旨將白讓卿等解任飭往廣東交恩銘趙盛奎等密加訪查據實嚴訊恩銘等既提訊石輪亭實有托寄箱隻情事自應俟白讓卿等到案質訊乃逐案稱自粵起程迨至前途提訊已屬錯認本日恩銘等奏查審情形有不准其同訊之處輒據白讓卿陽金城一面之詞逆謂所供並無據受苞苴能賂情事尚屬可信審理案件於案情無可依據之處尚須逐細研求究出端倪方成信讞此案既有托寄箱隻之石輪亭代寄通州之知縣趙桐無難三面質對至陽金城所帶衣箱如許之多上情之外亦屬可疑究即使現在未盡隨至廣東查傳提

硃硃

說不過稍淹時日何得顛項將就預存和事之見據其所具親供信以為實乎朕非謂白讓卿陽金城必有得受苞苴直情事然查辦事件總須得一實字在奏呈非有也似此草率行事文豈擬塞硃失文且實心任事之過恩銘趙盛奎俱著吏部議處此

道光十六年七月十七日內閣奉

上諭前據琦善奏宣化鎮宜化府及蔚州西寧懷安等州縣稟報飛蝗自山西界來當經降旨著山西巡撫甲昶賢派委大員前往嚴督撲除收買務當剋期淨盡茲據該撫奏稱前據該省各州縣稟報飛蝗從外落草地而來向東南飛去直隸之蝗或即係此該撫已委道員督飭各屬撲捕收買將次淨盡等語蝗蝻為民田之害地方官但當上緊撲夫撲滅不得以起自鄰封互相推諉乾隆三十五年奉有

諭旨通飭各督撫蝗

聖訓洞鑒各州縣藉詞推諉之積弊著琦善甲昶賢各飭所屬實力捕除如查有捕蝗不力之地方官但

殊

就現有飛煙之處指名參奏不必更問起自何方  
致生推諉欽此

1072 道光十六年七月十七日奉

旨武忠額等奏請飭催飯銀以資辦公兩准應交都  
察院飯食銀兩前經降旨飭催仍不按期批解以  
致辦公支絀着兩江總督特飭兩淮運司即將本  
年應解飯銀五千兩迅速委員解支毋許再有延  
延並着將解負銜名及起程日期先行咨報都察  
院以憑稽覈欽此

1073 道光十六年七月十七日奉

旨此案著步軍統領衙門揀派妥投密行查訪如所  
控屬實嚴拿究辦欽此

1074 道光十六年七月十七日奉

旨此案著交烏爾恭額親提人證卷宗秉公嚴密按  
律定擬具奏原旨羅周隆該部照例解往備質欽  
此

1075 道光十六年七月十七日內閣奉

上諭前據劉璋奏請飭查川省捐輸軍需銀數一摺  
當降旨交湯金利文慶查辦茲據該尚書等調取  
冊簿文卷查明各款核與鄂山奏報開支及實存  
銀數相符又上年由直隸追回之蘇應勳提訊候  
詞亦與琦善覆奏無異前住落籍司李義文並無侵  
侵買情獎著毋庸議欽此

1076 道光十六年七月十七日內閣奉

上諭伊里布奏武職差委委員請揀發恭將二員遊  
擊二員都司二員著兵部於候補候選人員內照  
例揀選帶領引見候旨發往欽此

1077 道光十六年七月十七日內閣奉

上諭鑲祥奏請將知州撤任嚴究等語山東寧海州  
知州殷家謨驗報初孫氏命案錯謬著即撤任交  
經額布提同人證澈底根究如果另有別情即行  
據實嚴奏所有該員大計卓異著先行註銷該部  
知道欽此



1078 道光十六年七月十七日內閣奉

上諭鍾祥奏前奉地丁等項已徵未解銀數錯換檢舉更正等語所有山東省地丁等項已徵未解銀共計十三萬七千七百餘兩誤將七千七百餘兩算作四千六百餘兩著即更正鍾祥未能即時覈出實屬疎忽著交部察議欽此

1079 道光十六年七月十七日內閣奉

上諭申啓賢奏擬流官犯之子呈請為父贖罪一摺同拜場著准其贖罪欽此

1080 本月十六日兵部將保舉堪勝陸路總兵之湖南沅州協副將福珠洪阿帶領引

見奉

旨交軍機處記名

1081 軍機大臣 字寄

欽差尚書朱 耆 道光十六年七月十八日奉  
上諭昨據息銘等奏查審情形一摺據稱白讓柳莊

帶箱隻實係自買物件陽金城所帶箱隻實係家

用什物及烟茶之類就全案而論業內實無可行賄之人是該員等供無得交苞苴賄賂情事尚屬可信等語此案白讓柳陽金城有無贓私朕原無成見然必須提集應實人證逐細研求水落石出方成信徵若僅一面之詞草率了事如此閱案誰不能之已特息銘等交部議處矣著朱士彦等英即提集此案細心研訊白讓柳等實有贓私即從重嚴辦如無贓私亦須實訊明確毋得顯預了事再原摺所稱調查崇文門一節明係故為開脫且現查崇文門稅簿止記抵數其浮記紙單彙集現縱無憑檢查應毋庸議原摺著抄給閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1082 道光十六年七月十八日內閣奉

旨工部奏應繳工程賠項已未完數目未報奏報齊全請旨履行飭值各直省應完數減分賠代賠等款銀兩前經該部奏定章程令各督撫將應遵各

款分別已完未完各數目年終彙奏一次茲據該部查明道光十五年終各直省應奏已未完各款運立於今始據東河江西浙江福建湖南河南等省陸續奏報其餘各省仍未奏到殊屬延玩著各該督撫等即將各該員應賠各款查明其員應繳若干已完若干未完若干現在又有續經逾限者一力催追完繳分晰開單奏報仍着造冊送部以憑稽覈其奏報遲延及督催不力各職若一併遞奏附奏以示懲儆又另片奏請飭運東南兩河辦理一切工程各員辦料未足領銀易錢未交並辦工溢領及領銀未辦各款等語此等欠項係支領庫帑入已與分賠代賠因公裁減者尤屬有聞著各該河督查明此項未完銀兩其現任河工者立飭追繳如再宕延即行奏處其業經去任者即著落該管上司攤賠庫不得列入分賠款內效有懸宕嗣後東南兩河遇有工員支領未交銀兩者即嚴追歸款不得復立溢領名目以除積弊而重庫款欽此

1083 道光十六年七月十八日內閣奉

上諭鄂廷積奏揀負調補遊擊一摺著照所請廣東新改南韶連鎮左營遊擊負缺亦其以移應旨調補該部知道欽此

1084 道光十六年七月十八日內閣奉

上諭長清奏患病未痊請開缺調理一摺長清著假一月安心調理所有福州將軍仍著張仙保暫行署理俟閩浙總督鍾祥到任後即著鍾祥兼署欽此

1085 道光十六年七月十八日內閣奉

上諭程祖洛等奏查辦洋盜各案內起獲槍礮器械業經分別銷燬配用所有失察負弁應分著加恩寬免所擬向來辦理洋盜案內起獲軍火器械非隨手檢獲即藏於私家復為匪徒所得積習相沿亟應嚴禁著鍾祥於到任後督飭屬按查搜查按戶收繳盡淨分別銷燬配用不准稍有囤藏轉飾經此次寬免處分之後倘仍有製造藏匿等弊定將失察之員嚴加懲處決不寬貸欽此

道光十六年七月十八日內閣奉

上諭前因程祖洛等奏擊獲洋面巨盜曹武等各犯當降旨著該督等查明文武首弁尤為出力者酌量保奏茲據查明開單呈覽自應予予恩施福建永春直隸州知州加知府銜沈汝瀚著以知府不論繁簡儘先補用前任永春直隸州知州陳鏡著開復降二級調用處分照例補用免其送部引見候補未入流姚鍾瑞著免補本班以府經歷龔堅即行補用署莆田縣事福清縣知縣孫濟著以同知儘先補用福清縣南日縣丞馬慶釗著以知縣即行補用浙江揀發知縣王燕堂著遇缺儘先補用憲安縣典史范學煒著以府經歷龔堅即行補用泉州城守營洪瀨鄉都司雙保現已論俸請升漳州中營遊擊著於承領游擊刺付後以恭將即行外用浙江黃巖鎮標中營把總現署瑞安左營千總張結廷著於服闋後以守備即行外用餘依議該部知道單併發欽此

道光十六年七月十八日內閣奉

上諭程祖洛奏請開復總兵各員處分等語前因浙

道光十六年七月十九日內閣奉

江洋而捕務廢弛降旨將定海鎮總兵蔣芳煥等交部分別議處并黃巖鎮標中營游擊張恩銘等革職留任茲據該督奏稱哨船被劫之總親經獲犯審辦追捕尚知愧奮浙江定海鎮總兵蔣芳煥獲定海右營游擊事守海右營守備孫鼎龍降一級留任黃巖鎮總兵湯榮柱龍降二級留任意黃中營游擊張恩銘左營游擊胡得輝革職留任各處分一併開復餘依議該部知道欽此

上諭伊里布等奏查明廠欠銀兩分別辦理一摺雲南省各銅廠撥發工本銀兩採辦銅斤歷年俱有廠欠茲據該督等奏稱援照舊案查明有著無著分別辦理著照所請所有道光十五年有著廠欠銀一萬五千五百七十五兩零責成現管各廠員勒限追繳如限滿追不足數即著釋放之員賠補並將欠戶治以應得之罪其無著廠欠銀九千八百二十六兩零實係礦砂微薄廠民俱已赤貧故絕著加恩豁免該部知道單併發欽此

1090

1089 道光十六年七月十九日內閣奉  
 上諭穆彰阿著補授大學士管理工部事務兼署吏部尚書琦善著協辦大學士仍留直隸總督之任者英著調補吏部尚書奕額著調補戶部尚書穆恩著補授兵部尚書仍署理禮部尚書武忠額著補授理藩院尚書凱音布著補授左都御史具未到京以前著敬徵著理察哈爾八旗都統著樂善補授欽此

穆彰阿著補授大學士管理工部事務兼署吏部尚書琦善著協辦大學士仍留直隸總督之任者英著調補吏部尚書奕額著調補戶部尚書穆恩著補授兵部尚書仍署理禮部尚書武忠額著補授理藩院尚書凱音布著補授左都御史其未到京以前著敬徵著理察哈爾八旗都統著樂善補授

1091 道光十六年七月十九日內閣奉

上諭訥爾紅頭等奏揀員調補要缺知縣一摺著照所請湖北黃岡縣知縣員缺准其以范興榮調補該部知道欽此

1092 道光十六年七月十九日內閣奉

上諭伊里布等奏請對調簡缺知縣一摺雲南易門縣知縣准其以李德生調補所遺定遠縣知縣員缺即以盧化振對調該部知道欽此

1093 道光十六年七月十九日內閣奉

上諭楊名聰奏揀員并補南山要缺知縣一摺著照所請陝西安東縣知縣員缺准其以吳純洲補厥例送部引見該部知道欽此

1094 道光十六年七月十九日內閣奉

上諭楊名聰奏參陳防兵丁乘火搶奪之營弁請摘去頂帶勒限緝拿等語此案兵勇劉忠等乘火搶取丁屢知縣多瑞寓內衣箱等物雖經該縣拿獲尚有在逃未獲之犯疊經該縣飭拿久未弋獲該管營弁等臨時既不能防範事後復任其潛逃殊屬怠玩陝西鎮標中營兼管署左哨千總寧宜君營分防把總曹連陞專管署左哨把總寧甘州提標武舉劉序清右營專管署左哨把總寧世榮堂

騎尉王金煥標左營黃管左哨千總劉登魁專管  
左哨把總高鳴玉著一併摘去頂帶勒限兩箇月  
緝拿在逃兵丁務獲懲辦效力次舉烏廷樞著暫  
行統率歸案審辦欽此

1095

道光十六年七月十九日內閣奉

上諭潘錫恩奏請飭催籌辦公署以便考試一摺順  
天學政向無公署前總御史帥方蔚奏請建設當  
交禮部議准行茲據該學政查明現在順天府  
轉咨內務府量撥官房作為公署尚無定所若不  
上緊籌辦來年羅試屆期仍未能遵照新定章程  
殊不足以昭慎重著工部內務府查明舊有廢署  
作何修復或將寬敞官房調取存貯舊料修葺改  
造務於明年四月內趕辦完竣不得再有遲延  
致該學政請扣養廉之處著無庸議欽此

1096

軍機大臣 字寄

伊犁將軍特 奏贊大臣吳 葉爾羌奏贊大  
臣興 幫辦大臣閻 道光十六年七月二十

日本

上諭前據特依順保等奏查明巴爾楚克等誠克四  
情形並酌撤防兵事宜當交大學士軍機大臣議  
奏茲據該大臣等列款覈議朕詳加披閱均屬可  
行已降旨依議矣惟伊犁烏魯木齊等處履實情  
報報效自願指實招致蕃民者准其呈明該管將  
軍都統自行指辦如辦及百戶奏請鼓勵一節現  
在該處廢倉內能否得人必須辦理妥善方不致  
有名無實著該將軍等確切查明據實具奏原摺  
著鈔給閱看特此諭令知之欽此

旨寄信前來

1097

大學士 長齡等跪

奏為

會議吳美等七月初四日特依順保等會奏查明

巴爾楚克等誠克四情形並酌撤防兵事宜一

摺奉

硃批大學士軍機大臣議奏單片圖研發欽此等  
公同閱看悉心妥議當惟克四之制實自古安

邊區食足兵之良法果仗經理得宜奉行既久自能因地之利固無藉乎轉輸矣夫於農更無煩於復調以查道光十一年日長齡普會籌四種善法事宜內即經議及先將西四城可種之地括民間墾有願墾者聽之但經裁種有收人知地利可守則安家者漸多有願入仕者即准其充食石糧收一春兵即徵一防兵之額少一防兵即省一練防之費且既有春兵即有餘丁種地之人日多則挑兵之人不患其寡故時練防之額不難陸續裁撤所謂以四種物產供四種兵糧於經費即可大為節省節經奏准行在案是欲辦理抽撤防兵舍屯田而外實無有善於此者茲據該將軍等逐細履勘彙錄款約有款將現在屯田撤兵情形道

旨查明會同款善妥擬併繪圖貼說分繕清單奏奉  
前奉日等擬就各款詳知高確不係核議款為  
或

皇上陳之

一原奏四緝巴爾楚克城之東而於道光十二

年招募民戶引用玉河水開墾屯田二萬餘畝十四十五年已徵糧一千四百餘石嗣因委食用近昔種察玉河水勢遠徙虛帶深河之水源遠流長自十三年冬間嘉慶與翻於樹窩子一帶春探水深由大河拓築填開渠曲折導引經潭河之水引至巴爾楚克城之西南引流子渠數道約長八百餘里始與玉河相通踰兩年之力開地四千餘畝尚未升科因從前所招屯民三百餘戶皆係更身恐遇災歉或有逃之風由高晉未齊招徠春民二十八戶於十五年春間始到故雲開墾所有招集屯民春民初來耕種牛具籽種口糧房屋春民路費以及開渠築堤均係周廷等籌辦此時玉河與潭河相通水勢既足秋麥可望之地尚有十餘萬畝至喀什噶爾所墾屯地二萬餘畝即在城外環繞地名喀拉蘇依每年徵糧六百餘石嗣因裁撤後解現在招民五百餘戶本年便可陸續徵糧查勘而實情形核與法福哩初勘相符惟已

爾楚克一帶礦土本多自可盡力開墾承勢  
土無實效之但該處人戶多係隻身漢民日  
久不無逃亡故絕之弊現止春民二十八戶  
人力較少應設督或土著必須廣招漢民庶  
人戶日增則土田自開等語 等伏查  
南疆七回既已著有成效自應廣為招徠惟  
七民多係隻身逃亡故絕在所不免似不若  
春民之可恃視前長幹等善後委內審兵  
之議即本此意但春民出口覓食尚多聚於  
烏魯木齊一帶不能遠至南疆應如該將軍  
等所奏仍責令該委員等設法招致第查該  
處七回每歲歲止放糧三升小民自食其力  
而其餘是利之所在自應趨之若鶩何以自  
十二年興辦之初即已招得七民三百餘戶  
歷今數年地利之博已有明效乃僅增續招  
之春民二十八戶而七民並未加增其間有  
無利故抑或有不甚便民故令棄足之處併  
此後應募者果石尚能踴躍不致有名無實  
處請

飭下該管大臣再行詳核據實奏明以收實效

一原奏內稱巴爾楚克烏魯木齊官兵口糧四千八

百餘石向由喀什噶爾等四城撥運今七回

已歲數七百餘石除將上兩年已繳之一千

四百餘石作為該處備貯外請自十六年為

始將所徵搭放口糧抵作喀什噶爾應繳之

七百餘石以節運費云喀什噶爾現在徵糧

六百餘石因該城尚有備貯糧六萬餘石位

十二千三兩年數收回民欠欠三萬餘石不

敷支款於備貯項下提撥二萬石墊費除來

准額免及帶後運款外尚短八千餘石今該

處七回已歲數六百餘石入有錢運已爾楚

克之七百餘石請自歸入備貯款內以免採

買缺補足之日再將首兩項七種抵作報款

以節經費等語 查該將軍等所議係為

保重錢糧起見均應如所奏辦理惟已爾楚

克之地初擬墾種每畝僅獲糧三升將來七  
回日開尚可供上地之肥瘠換上中下三則  
分別徵收以十餘萬畝計之每歲可得糧三

四十萬處今該將軍等隨時察看再將防兵  
量減即可以該處七款供該處兵食而省錢  
而喀什噶爾七口將未逐漸開墾陸續升科  
亦可換積餘糧多抵銀款從此開墾愈廣出  
產愈多後期倉儲運愈少既有新費米費  
兵食實與舊費內以回疆物產供回疆兵  
餉之議符合所詳於費任且自不少故等遵  
持人之善策也

一原奏內稱由陝八城舊額新增防兵除道光  
十三年奏明裁撤官兵二千二十八員名外  
現共駐滿漢防兵一萬三千六百二十四員  
名邊疆大靖自應大加裁減以節糜費惟是  
卡外夷人使作巨測喀什噶爾葉爾羌外夷  
貿易未杜者信時通若此時遽議裁減恐該  
官傳播謠言因此又有委辦仍須撤調官兵是  
缺節目前之費而所費轉多必須於一二年  
內察看情形如果照常安行擬於各城滿漢  
官兵換防時暗為裁調所有葉爾羌原駐高  
齊木齊滿兵請於十七年咨調時少調官兵

一百二員名十八年少調一百一員名裁撤  
領隊大臣一員烏什原駐為魯木齊滿營官  
兵一百四十三員名於十七十八兩年全行  
裁撤毋庸咨調共計少調滿營官兵三百四  
十七員名並於十七年咨明陝甘總督少調  
練營官兵一千六百九十七員名在於葉爾  
羌等城防兵內照清單所擬名數均勻抽減  
等語 伏查道光十三年<sub>臣</sub>等遵

旨會議各省裁減兵數增添回疆防兵經費及議復  
葉爾羌等營將已滿楚克防兵請分駐葉爾羌  
喀什噶爾等城各一千名並內議以此項防  
兵本不在原定增兵數內該二城所駐兵額  
已足操防長齡等十一年請添防兵原奏  
本有一俟浩罕開邊貿易卡外相安即可陸  
續裁撤之語當將所請分駐之二千名奏請  
先為裁撤併聲明請

旨飭下長清等體察情形於各城酌量再裁兵二千  
名核實分別裁減所節餉銀一併歸入百分  
裁二增添回疆經費內合計通融辦理便



可有並無姓等因均經

奏蒙

聖鑒允准在案自應仍遵前議准其照軍裁減惟減兵固所以節餉撤防必先慎機宜倘舉動少輕轉致無所把握應令該將軍等屆時留心察看如果照常安靜毫無可疑之處然後不動聲色時為減調以仰副

聖主綏定邊疆之至意再已爾楚克原設副將一員

今該處既無軍內所開擬減調兵二百五十

名改設遊擊一員管帶其副將一缺亦應准

其裁撤所請改協為營另行繕給關防等因

均應如所議辦理查明該部另據照例核辦

一夾片內稱已滿楚克屯田自道光十二年創

始招民三百餘戶墾地二萬餘畝又添開四

千餘畝招來眷民二十八戶其間墾墾墾墾牛

具籽種房及路費一切等費均係委員周廷

芬等捐辦並未動用

督項應令五載續著撤帶而喀什噶爾屯田既撤

後辦已募民五百餘戶本年即可徵糧六百

餘石該處委員均屬出力惟已滿楚克墾地

甚多必須廣為招致而眷民多在烏魯木齊

一帶長途路費必藉官為資送到屯後一切

各費更屬不貲且墾墾等工歲須加抽批挖

若皆由該委員等捐辦亦恐力難兼顧查伊

犁烏魯木齊保有力委員如有請假報効

自願捐資招致眷民者准其呈明該管將軍

部統自行捐辦前項一切如辦及百戶由該

管大臣等

奏請鼓勵等語 伏查該將軍等所奏核圖如

核自係實在情形所有辦有成效之委員周

廷芬等應令該大臣等嚴實甄核奏懇

恩施以示鼓勵仍着令該委員等妥為經理務收實

效此外効力委員有願捐資招致眷民者令

其自行辦理車脚路費及到屯安置一切等

費既可省官為資送之煩且可助委員不足

之力自應准其呈明捐辦查已爾楚克未墾

曠地甚多招致屯民多且甚該處委員等果有

能辦及百戶或再能多辦至數百戶者再由

該大臣等確切查明戶數有無虛冒經理是否得宜不至隨到隨散再由該大臣等分別保奏請

旨毋得稍涉濫總之惟在實力奉行該法廣為招致俾民戶咸聚邊方歷久皆成土著庶可收寓兵於農之效以壯聲威而固邊圉

一夾片內稱巴爾楚克屯氏眷民之外並有商賈貿易人烟日衆雖有城守營員不足以資彈壓撫綏應請添設文職俾資治理並有葉爾尼印奇督辦章京達里善熟悉該處情形請即添委達里善分駐該處作為巴爾楚克糧員管理屯田及地方兵民交涉詞訟事件並每年徵收屯糧仍請由部頒給巴爾楚克糧員關防其葉爾尼經收章京即令其兼辦印奇事務無庸另添文職以歸簡便等語

查前據興德於覆奏屯田摺內曾經奏明於葉爾尼印奇督辦章京及經收章京內擇其可靠之員分駐該處就近經理以免添設文職等因在案茲該處既已增有眷民同時

創定自應准其添設以資成均應如該將軍所議辦理併咨明該部另行照例奏辦

一片內又稱葉爾尼領隊大臣烏珍泰前於道光十年由烏魯木齊協領赴喀什噶爾打仗出力升授領隊大臣今其缺裁撤應俟十八年滿兵撤竣後請以別城辦事領隊大臣等缺改補等語 查烏珍泰曾經署理喀什噶爾阿克蘇辦事領隊大臣現在葉爾尼領隊大臣之缺既擬裁撤應如所請烏珍泰應俟十八年滿兵撤竣後由該參贊大臣等再行請

旨以各城領隊大臣改補以資熟手

以上各條臣等公同酌商均係詳確從前奏案審度該處情形列款隨陳悉心叢議謹合詞恭摺具奏是否有當伏乞

皇上聖鑒訓示俟

命下之日再行飭知吏戶禮兵等部遵奉施行謹

奏

道光十六年七月

二十

日長 齡

奉  
旨依議欽此

臣潘世恩  
臣阮元

臣楊彭阿

臣琦善

臣王鼎

臣趙盛奎

臣賽尚阿

1098 道光十六年七月二十日內閣奉

上諭穆彰阿著塔察秋奉上諭事件處欽此

1099 道光十六年七月二十日內閣奉

上諭御史袁玉麟奏處役贖免請將該管官照例議處一摺此案倉場經紀虛報等既經該侍郎說明更名復免役滿不退贖實該管官自有應得處分著吏部查取職名照例議處欽此

1100 道光十六年七月二十日內閣奉

上諭桂良奏光州城垣石岸各工捐修完竣請將官

紳分別鼓勵一摺著吏部議奏此項工程係屬捐辦著先共進冊報銷單併欽此

1101 道光十六年七月二十日內閣奉

上諭桂良奏勸明積水村莊懇請蠲徵一摺河南原

武縣楊屋等各村莊本係積歉之區茲據該撫查

明該處因上年河溜浸淹窪窪積潦地土久多並

雖未能著種多未收成較歉若將新舊錢糧照常

徵收民力未免拮据加恩著照兩請所有原武縣

楊屋等二百四十六村莊應徵本年錢糧該城隍

工潭沁等工加價及未完十五年地丁並本年與

十五年漕租均著蠲至道光十七年麥後秋後分

別放徵其本年應補徵沙塵粟內多停十一二三

等年錢糧著蠲至道光十七年麥後秋後撥最先

年分每年分別挨次帶徵一年又原蠲十一十四

等年丁耗及十五年錢漕並十一十二三十五

等年暇工加價復城隍工古樊村等僧均著再進

行展蠲一年以紓民力該撫即刊刻膠黃編行曉

諭將令官處及民母任吏胥舞弊用副朕軫念數

區至意該部知道欽此

1102 道光十六年七月二十日奉

旨這所奏各案重犯在案自裁已嚴蓋據字據失  
文事試用從九品趙東衡著據字據知縣劉寅升  
於原應斬立決重犯徐大長並不小心防範致令  
乘間自戕身死非尋常疎忽可比趙東衡著即革  
職劉寅升著即撤任交該撫從同刑禁人等說明  
有無鬆刑違實情再行分別辦理該部知道欽  
此

1103 道光十六年七月二十日內閣奉

旨劉斯燭奏道員調補委缺知縣一摺著照所請  
山東冠縣知縣黃欽准其以陳光緒調補該部知  
遵欽此

1104 道光十六年七月二十日奉

旨這所奏倉差不慎之原解官山東商河縣知縣張  
楷被解解官壽東縣知縣陳梅某於被解後重犯儀馬  
並不督飭小心押解致被脫逃實屬玩忽著一併  
摘去頂帶勒限解拏俟限滿有無弋獲再行分別  
辦理欽此

1105 道光十六年七月二十日內閣奉

旨諭領書奏請將應訊人張傳集質每一摺此案馬  
保海制解脫逃結時庫社將游牧租契莊戶信  
持等每年收交牛隻車閘數年之久嚴應訊制時  
結書報書即傳集制解脫等并案內應訊人證  
東公質對澈斥研鞠以昭信欽此

1106 大學士張鈞等跪

奏為

旨歸案審擬具奏竊照葉華車挂筆跡不符一事前  
經戶等訊出江西舉人盛翻入場換卷緣由欽  
奉

諭旨將該舉人斥革嚴拏獲因弋獲無期將葉華車

等先行擬結嗣據盛翻自行投首由巡視中城

御史具奏道光十六年正月十二日奉

旨盛翻著交原派之大臣歸案審訊欽此當據該城

將盛翻押解到部訊據該犯供認伊頂同鄉副

貢生夏錫璜之名入場與葉華車掛換卷作文屬

實並究出該犯先于十四年鄉試頂夏錫璜之

名為廣東監生馬德貞代作文字等情奉

旨飭令兩廣督臣鄂廷將馬德貞查拏據該督

獲犯押解前來道光十六年七月十五日奉

旨馬德貞著革去監生歸案審訊欽此

會試與已獲微結之馮士偉同年素好與已結

之葉卓柱及現獲之馬德貞先不認識道光十

四年春間盛翻同會之用起意於鄉試時代人

作文冀圖獲利檢知同鄉副貢生夏錫瓚從未

進京可以冒名進場邊控以夏錫瓚東京鄉試

欲赴國子監肄業央允同鄉刑部候補主事盧

鴻翔出具印結于三月赴監考到復又肄業一

次旋向馮士偉查述前情並攝鄉試時如有欲

情幫手之人令其代為說合迨七月初間馬德

貞來京鄉試與馮士偉同鄉往來馬德貞以文

理平常央令馮士偉留心覓人以搭造場時幫

作文字馮士偉應允找同鄉戚超偕至馬德貞寓

內將戚超係項夏錫瓚之名進場原委向各官

明場中允號快寫詩文字筆資銀一百兩備中式

舉人謝銀一千兩副榜或年或超與馮士偉二

八分用日波此相好並未立有字據戚超先向

馬德貞支用銀三十兩分給馮士偉銀六兩說

此國子監銀科比及場期戚超願卷入場找見

馮德貞同生一號戚超與馬德貞各作就詩文

彼此易換勝寫二三場皆保能脫換寫文字出

場後馬德貞將下短筆資銀七十兩令馮士偉

持文成朋分給馮士偉銀十四兩是科榜發馬

德貞未經中式即未與戚超見面十五年七月

不記日期戚超至馮士偉寓所適葉卓柱踵到

致投詢知葉卓柱在指曾短鄉試二次未中間

其今年是否定於葉卓柱以現已報捐且文理

平常難望中式之言回覆戚超固利等令進場

聲言何不先入相幫葉卓柱未答而散戚超以

葉卓柱如有出資伊情愿仍項夏錫瓚之名經

科進場快代作文章得有字資分用今馮士

偉與葉卓柱相商次日戚超至葉卓柱先後至

馮士偉寓內馮士偉向葉卓柱告知前情葉卓

柱應允言明筆資銀一百兩如能中式另謝銀

一千兩與馮士偉二分用亦未立有字據。咸  
相將項用夏錫煥之名領去。這場臨時不行易  
換此言。而葉卓桂說明各散是月。咸翻赴園子  
監蘇料泡。這場時中。南二俱由東右門行走。  
像在一處。點名。咸翻與葉卓桂先後進第一層。  
龍門內各領試卷。來人多擁擠。彼此將卷易換。  
其時尚未立二層龍門。接換於卷。大臣及提檢  
大臣俱無從查察。咸翻等各踞坐。就作文。二三  
場亦係互易出場。後葉卓桂先付茅漬銀五十  
兩。俟候日。再交因銀數未足。馮士偉並未分  
用。替份葉卓桂中大舉人。咸翻屢向催討。下欠  
茅資銀五十兩。並酬謝銀兩。葉卓桂因一時捉  
措不及。向咸翻大枝。馮士偉代為擔認。嗣葉  
卓桂因覆款。半路不符。致棄未。

吉序年。咸翻心生畏懼。於九月二十九日。逃至宛平  
縣屬之諸葛營村。伊妻弟趙和家。控稱因債。務  
涉松智。行艱。迎趙和。誤信。留任。至十月初四日。  
逃。翻。虎。及。在。故。日。久。被。人。知。覺。逃。先。報。赴。大。興。  
縣。為。屯。堡。並。龍。廟。村。伊。成。敬。延。棟。及。劉。氏。等。家。

輪位月餘。亦以智避債。如之言。控告。故。又。回。王  
趙和家。因病。將伊妻趙氏。接。往。居住。十日。伊妻  
仍行回京。至十六年正月。月初。咸翻聞。加。大。興。  
縣。將伊妻。傳。往。道。關。下。蓋。應。縣。久。藏。欲。行。道。京。  
段。首。領。過。宛。平。縣。屬。之。周。家。村。伊。成。龍。萬。川。家。  
關。住。數。日。遂。于。初。十。日。逃。赴。中。城。吏。百。衙。門。  
投。首。由。該。城。御史。奏。送。到。部。審。議。各。供。悉。前。情。  
王等。以。咸。翻。係。屬。舉。人。擬。散。學。以。冒。名。辦。試。罪。  
保。無。名。有。身。禁。刑。情。其。所。得。馬。德。貞。銀。兩。亦。而。  
恐。不。止。此。數。結。據。咸。翻。堅。供。伊。子。葉。卓。桂。科。場。  
無。內。投。首。已。將。另。果。之。馬。德。貞。供。出。如。果。另。有  
別。果。充。數。再。為。隱。瞞。伊。所。得。馬。德。貞。銀。兩。實。止  
此。數。等。語。查。咸。翻。為。德。貞。馬。士。偉。與。已。結。之。業。  
車。桂。保。先。後。到。案。隔。別。研。訊。供。無。異。詞。吳。為。尚  
無。名。有。身。禁。刑。情。與。得。交。多。駐。之。處。似。屬。可。信。  
吳。查。據。以。西。巡。撫。咨。覆。道。光。十。四。五。年。年。夏。  
錫。璜。均。在。本。省。辦。款。且。未。來。京。等。情。核。與。咸。翻  
所。供。相。符。應。即。從。結。查。創。裁。處。款。來。歷。生。信。越  
查。典。人。換。寫。文字。或。貼。時。換。卷。發。送。遺。克。軍。計。

甄重子本罪者從重科斷等語此案成翻兩次  
冒名入場一與馬德貞換寫文字一與黃車桂  
貼時換卷計兩次入已之難核法難與補人  
候等科斷罪止後投自應仍照本例問擬成翻  
今依應故舉監生傅越合與人換寫文字成翻  
時換卷發遣充軍例發遣充軍惟該犯以  
乘入而實冒名入場決利情節較重應請

旨從重發往新羅當差以示懲儆雖聞李復曾不准  
法等馬桂貞與黃車桂中央沈成翻這場換寫文  
字亦應換例問擬馬德貞合伴應故舉監生傅  
越合與人換寫文字發遣充軍例發遣充軍  
單應與成翻各送兵部照例特發馮士偉於案  
奉核在案成翻這場犯合遞付案已數徒發配  
今說明馬德貞中央沈成翻這場亦應照犯犯合  
應於馬德貞軍犯上減一等擬杖一百徒三年  
二罪並發從一科斷應將該犯交順天府仍於  
原配從新拘役不准換算役過日期重成翻等  
三犯事犯均在道光十六年五月十五日清理  
庶幾

尾旨以前條科場舞弊俱不准故法題和等將成  
翻留任訊訊托詞欺罔並不知其犯罪在逃應  
免置議刑部候補主事盧鴻翔於成翻向其懇  
求出具印結並不要明足錫璜是否在京官錄  
出結例有處分當已滿收應毋庸議再前蘇那  
文記澄奏上年科場夾密士子換卷請將換  
換卷大臣一律議處等情欽奉

諭旨供成翻訊明定案時一併具奏欽此查成翻取  
黃車桂換卷係在換卷換梅之時未逾二層龍  
門尚未互換故換卷大臣稽察之地自未便將  
其議處今說明馬德貞於道光十四年解故央  
沈成翻入場換寫文字三場皆係亂就所有夫  
爵之監臨監獄一併請

旨交部查取職名照例議處至步軍統領領有英等於  
蘆細投案後恐成翻係在京潛匿該地面不行  
查拏奏請於訊明定案時將該地面官查拏議  
等情今訊非潛匿在京自應免于議處仍將失  
察成翻在諸葛營等村藏匿之地方官由順天  
府查送職名交部照例議處成翻馮士偉所得

銀兩執係赤貧應免著違其調到馬德貞試卷  
並夏錫瑛考到錄科等卷案結分別送還所有  
臣等密擬緣由理合恭摺具奏請

旨

道光十六年七月

二十

日本

旨依議欽此

日長於  
日湯世思  
日元元  
日博彰阿  
日王鼎  
日塞尚阿  
日戎格  
日文致儼  
日貴慶  
日制彬士  
日姚元之

1107 道光十六年七月二十一日內閣奉

上諭本日吏部奏呈趙盛奎處分議以革職係屬

照例辦理趙盛奎前經派往廣東查辦事件  
並諭令將白讓卿陽金城等前在廣東有無得受  
苞苴之處據實查明恩銘等有應在廣東省城守  
候白讓卿等伴送到粵提回恩訊人證確切實完  
方成信獄乃恩銘等並不在粵守候提證實訊  
行逆至中途錄供具奏顯係豫存和事之見願預  
結辜是以降旨將恩銘趙盛奎交部議處恩非謂  
白讓卿等必有贓私亦非謂恩銘等未能審出贓  
款予以處分惟始則奏稱自籌政程中途提訊已  
有不肯認真查辦之意繼則僅據白讓卿陽金城  
一面之詞遂謂所供並無收受苞苴能賂情事尚  
屬可信是其所奏草率支吾跡近欺罔殊失職以  
誠委任之義恩銘著革去尚書都統降為三品頂  
戴仍帶革職留任趙盛奎著革去侍郎並軍機大  
臣上學習行走降為四品頂戴以三品京堂候補  
仍帶革職留任禮部尚書著貴慶補授恩銘著以  
三品頂戴補授刑部左侍郎龔守正著調補戶部  
左侍郎卓愉著轉補吏部左侍郎陳官俊著調  
補吏部右侍郎文祥著轉補禮部左侍郎兩道禮  
部右侍郎著五植補授欽此



1108 道光十六年七月二十一日內閣奉

上諭裕泰奏揀員調補首郡知府一摺著照所請湖南長沙府知府在員以吳興調補所遺衡州府知府員缺即以王廣棠補授該部知道欽此

1109 道光十六年七月二十一日內閣奉

上諭裕泰奏試用候補人員壅滯請暫停分發一摺湖南候補各員據該撫查明人數較前壅滯著吏部即將各例捐助及議敘之布政司理問庫大使州州判府經歷縣丞凡九品未入流九項人員暫行分發湖南俟人數疏通再行奏請分發欽此

1110 道光十六年七月二十一日內閣奉

上諭裕泰奏請將疎防湖南搶案之知縣沈弁摘去頂帶一摺此案湖南岳陽縣民人劉厚起等船隻行至華容縣所轄之洞庭湖面被賊上船搶去錢物並將劉忠茂毆跌落水奔飛萬處傷擾該民人報明該縣犯無一獲該管文武員弁如果平日捕務認真何致盜匪白晝肆行搶劫拒捕事主迫經

該撫飭督又復遷延日久不能迅速獲犯實非尋常疎忽可比華容縣知縣姜連陽岳州營水師左哨把總楊逢春著一併摘去頂帶勒限三個月責令上緊緝拿務獲究辦倘限滿無獲即著從嚴恭辦以省整頓而靖地方該部知道欽此

1111 道光十六年七月二十一日奉

旨逆所奏既經監獄新案重犯在監自盡之弊先辦典史馮淳著革職交該督等提同刑禁人等嚴審確情按律定擬具奏東莞縣知縣侯之翰未能先事豫防著文部議處欽此

1112 道光十六年七月二十一日內閣奉

上諭河務清阿著改為降一級留任欽此

1113 軍機大臣 字寄

欽差尚書者 朱 道光十六年七月二十二日奉  
上諭前據恩銘等奏查明廣東東莞縣命婦盧尹氏具控伊子盧應翔被參革職一案當將原摺暫留

供訊明白讓脚陽全城有無收受芭豆奏到時再  
降諭旨該尚書等行抵粵東者仍遵前旨提到白  
讓脚陽全城確切實訊其宜應酬案內各情並著  
慶奎具奏原摺著鈔給閱看特此諭令知之欽此  
遵

旨寄信前來

1114 道光十六年七月二十二日內閣奉  
上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠  
銀糧令各該將軍府尹督撫等查明開單具奏據  
長蘆鹽政魏靈將山東所屬各州縣場節年寬欠  
銀兩查明確數呈覽當文戶部覆覆據據查明具  
奏山東鄆平等九州縣場未免道光十年以前寬  
課者係實欠在民所有該州縣場因文據未免  
寬課銀四千二百七十六兩零俱著如恩全行蠲  
免該鹽政即刊刻勝黃編行曉諭並照例按戶付  
給免單嚴禁吏胥影射需索等弊務期實惠及民  
用副朕錫類推恩至意欽此

1115 道光十六年七月二十二日內閣奉  
上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠  
銀糧令各該將軍府尹督撫等查明開單具奏據  
閩浙總督程祖洛將閩省暨課項下節年未完欠  
引價銀查明確數具奏當經戶部覆核全詳查是否  
寬課應免屬實何以並未查辦據查明徵引價  
銀委係寬欠文納與現在准給雜稅相類此項既  
係實欠在民自應一律豁免所有閩省寬欠道光  
十年以前欠引價銀七千四百八兩零著如恩全  
行豁免該督即刊刻勝黃編行曉諭並照例按戶  
付給免單嚴禁吏胥影射需索等弊務期實惠及  
民用副朕推恩布閩至意欽此

1116 道光十六年七月二十二日內閣奉

上諭袁良等奏豫調經費銀兩一摺為什官兵應調  
道光十六年經費銀三萬四千四百二十一兩零  
著瑚松額即將此項銀兩照數撥為撥解以資支  
放該部知道欽此

1117 道光十六年七月二十二日內閣奉

上諭常傑奏請將阿奇木伯克免量加賞等語此案阿奇木伯克交瑞特於收獲馬匹之始毫無阻礙即能馳心訪查追回子伊敦我駁馬匹又復詳知逆詢未及五日即將謀對害命案內正犯吐爾成等投解事屬勉奮著賞給大服二匹以示鼓勵該衙門知道欽此

1118 道光十六年七月二十二日內閣奉

上諭陶澍等奏官紳士民捐修城垣營房工竣請分別獎勵一摺著吏部議奏此項工程由外捐辦著免供逆冊報銷餘著照所議辦理單併發欽此

1119 道光十六年七月二十二日內閣奉

上諭陶澍奏請將被控主令行兇之都司董穉審辦一摺此案安徽亳州民人杜兩恩具控在占元棟同亳州營都司之子張二麻等將伊兩服它路短該督提訊在占元復供指係都司張日瑚令杜朝恩等將杜兩恩兩服它路等情該都司以現任職

官拜認杜許氏為異母子預杜許氏家事實屬有玷官方亳州營都司依日瑚著董穉交該督提同業內人證澈底研究從嚴懲辦以儆官邪該部知道欽此

1120 道光十六年七月二十二日內閣奉

上諭陶澍奏據寫華族自請察議等語前據陶澍等保奏孽獲水手破面五七之現著桃源縣知縣海州州判龔照琪請旨欽屬原奏內將州判族寓州同字樣茲據查明檢舉實係華族著即更正該督未經看出究屬疎忽陶澍著交部察議欽此

1121 道光十六年七月二十二日內閣奉

上諭楊名題奏張漢呈控伊父張升賠項一摺著該部議奏欽此

1122 道光十六年七月二十三日內閣奉

上諭劉祥著馳驛前赴閩浙總督之任欽此

1123 道光十六年七月二十三日奉

旨林選知縣舉人倪應說現經錄案降調著照例不准會試嗣後刑部遇有胡涉律選舉人案件著遵原系定章核會同禮部覈辦欽此

1124 道光十六年七月二十四日內閣奉

上諭御史萬超奏本年正月二十三日黃村居住車夫孫大刁兒在田村以南地方受傷身死並搶去贏車一輛半年之久正充未獲著步軍統領衙門順天府五城一體嚴拏務獲究辦至所稱索控各案擇其情節較重者分較近曾在該者各上司衙門呈控究抑未伸者請將要證卷宗提解刑部審訊等語京控案件總以究抑為詞其間實在究抑者原不能保其必無而察詞驟聽而圖拖累者亦復不少國家設官分職各有攸司直者督撫司道及地方各官仲寬理枉是其專責其有不能秉公審斷致有屈抑者朕必隨時予以懲處倘一切案件必待紛訟提解刑部審訊則外者問刑各衙門不幾成虛設耶若謂近者控案尚易提解來京則

述者控案又將如何辦理該御史所奏言屬難行著毋庸議欽此

1125 道光十六年七月二十四日奉

旨黃漢卿著准其捐復職及度若不准捐復欽此

1126 軍機大臣 字寄

浙江巡撫烏 道光十六年七月二十五日奉  
上諭本日據烏爾恭額奏查明浙江溫州府知府劉煜任聽丁書承辦票鹽各有弊端已降旨將該員革職交該撫審辦矣票鹽接濟民食停止自有定期該撫既短行文飭令停票該革員不即遵奉已屬違例復據查出永嘉一場短少七百六十八引顯係該廠書家丁人等乘機私自收買發賣且該革員家丁萬丁既已供認私收因積正可從此根究其執法營私或不止此數應年辦理果否尚無弊端更恐該革員知情縱容於前復包庇彌縫於後著烏爾恭額提同案內人證秉公覈實逐層研鞫務將種種弊端嚴密懲辦斷不可任其掩飾取

却致有不實不盡將此諭令知之欽此遵

旨等信前來

1127 道光十六年七月二十五日內閣奉

上諭咸京為根本重地風俗素稱淳樸前因有漢戲賄博等志習屢經降旨飭令該將軍等實力嚴禁力挽頹風因恐陪都地方近因五方雜處難免漸染俗華演戲雜耍革雜保必無賄博之習尤為人心風俗之害甚至服飾競尚新奇耳濡目染勢所必至著該將軍府尹等隨時整頓實力稽查嚴班賭棍驅逐嚴禁其有服飾新奇不合舊武者立即嚴行禁止以期遠淳返樸力挽頹風欽此

1128 道光十六年七月二十五日內閣奉

上諭都察院奏查明各省京控咨文案件逾限未結並上次展限已逾仍未審結各案開具清單呈覽各省州縣審斷不公致令屬民來京具控懇各衙門若交之後各該管上司自應勤限展催將未結各案迅速審辦以免懸宕茲據都察院查明該衙

門若交各省逾限未結統計十六案之多步軍統領衙門若交各省逾限未結統計九案之多似此任意稽遲既泄已極著吏部即將審審或限各督撫都統將軍及委審各員應得處分量取職名分別議處並著各督撫都統將軍將若交各案逾限未結並上次展限已逾仍未審結各案迅速審辦究結毋再任意宕延欽此

1129 道光十六年七月二十五日奉

旨此案候選兵馬司文日高士英指控御史供詞較著交刑部提同應訊人證確切說明照例辦理欽此

1130 道光十六年七月二十五日奉

旨此案著交陳譽親提人證卷宗未公嚴密按律定擬具奏原告李氏族叔郭照例解任備質欽此

1131 念日奉

旨此案著交中政贊親提人證卷宗未公嚴密按律定擬具奏原告金慶族郭照例解任備質欽此

1132 道光十六年七月二十五日內閣奉

上諭烏爾恭額奏開撥軍徒人犯王陸續罪一摺。親潮開供吉俱不准其贖罪。欽此。

1133 道光十六年七月二十五日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請勦項存案西結禁捕各二一摺。本年浙江潮汛洶湧，常天而時行之際，上游山水下注，與潮匯數，直逼塘汛，以致西結一帶禁捕各工間多撥撥糧，該查明自李家汛西鳳字排起至首家汛西元字排止，開共捕工長一百三十二丈五尺，又首家汛宿字排起至戴家汛明字排止，開共禁工長三百五十二丈二尺六分，捕工長四百八十四丈五尺，均係崇德潑却湖土塘，寬情形極為險惡，自應東時修築，以資捍衛。著該部即飭該道督率應備上緊趕辦，務期工堅料實，不使稍有草率偷減。所有估需例加工料銀二萬一千三百三十四兩，定案其照例在於歲額運庫初二兩次為急項下分別動支給辦。該部知道。欽此。

1134 道光十六年七月二十五日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請將任職丁書辦鹽溢獎之知府等審一摺。此案浙江温州府撤任知府劉煜於承辦票鹽任令家丁私自收買已屬有違成法。復經該撫查出經書開報發案之數較之永嘉瑞出鹽之數計短七百六十八引，其未繳納課鹽斤即屬借官行私，難保無知情故縱等弊。劉煜著暫行革職，交該撫提同經書人等并該革員家丁逐層根究，嚴審確情，按律定擬，斷不可任其狡卸，以肅疆政。而儆官邪。欽此。

1135 道光十六年七月二十五日內閣奉

上諭中政賢奏請將倉差不慎之知縣文部議處一摺。山西署臨汾縣知縣吳頌鴻陽曲縣知縣韓寶錫均不慎，退安役數令校犯王老羅脫逃，實屬疎忽。俱著交部照例議處。所有解役兵丁委員人等難保無賄縱情弊，著該撫提集嚴訊，據律辦理。該部知道。欽此。

1136 道光十六年七月二十六日內閣奉

上諭陶封等奏請將保誠出力各官紳等分別獎勵一摺著吏部欽奉此項工程係屬捐辦著先其造冊報銷再行發欵此

1137 道光十六年七月二十六日內閣奉

上諭御史成觀宣奏位雖授受被劾反噬圖報請分別另案辦理一摺著該部議奏欵此

1138 軍機大臣 字寄

安蘇迎撫色 傳諭布政使程霖采 道光十六年七月二十七日奉

上諭有人奏安蘇采安蘇知縣周之紳貪者不職各款著色卜呈顯督同程霖采來公據實查明如該貪實有擾害善良之事即行嚴奉懲辦毋稍徇隱再該縣應辦公田自應認真經理以清契源嗣民間種山地最易歲村亦應嚴除嚴行封禁著色卜呈顯妥議其奏原摺著鈔給閱者將此諭知色卜呈顯並傳諭程霖采知之欵此道

旨寄信前來

1139 道光十六年七月二十七日內閣奉

上諭給事中許球奏請實力稽查保甲一摺研並請好保甲實為良法京師市廛雲連居民稠雜奸匪最易潛藏向來編次門牌設立循環號簿附近園明園一帶漢派令保發司坊官分駐查察立法本極周密乃行之日久奉行故事視為具文不可不履加整頓著步軍統領衙門順天府五城各按地界挨戶周查務將牌內填註姓名之人嚴對身說不得含糊了事其各居寓所仍然舊例按日照冊酌量分定日期俾得逐一查照循環號簿詳細詢問毋許容留來歷不明之人所有內外城鋪僻巷觀音院原有面生可疑者嚴加盤詰毋許封鎖由順天府派委委員五城派委保發司坊官各按界址勤限逐一清查其附近園明園一帶村莊實或分駐司坊認真查察並著嚴飭保首杜絕逾期不獲不滿保奸匪無托足之區應嚴密查緝並經此次飭諭之後倘仍首鼠不能實力奉行則責有攸歸定當從寬懲處決不寬貸欵此

保 保

1140 道光十六年七月二十七日內閣奉

上諭鄂山泰知縣人地未宜請旨對調一摺四川德陽縣知縣著准其以劉進亮調補所遺對洪縣知縣員缺即以葉顯忠對調該部知道欽此

1141 道光十六年七月二十七日內閣奉

上諭恩特亨額奏奏選升父家水手上岸滋事一摺宿州頭幫千總汪在邳淮委三幫千總承泉沿途並不留心彈壓蘇州白糧幫千總馮需霖違例雇船起引供著交部分別議處其興武六幫千總鍾繼雲並不在船管束以致水手先後滋事更屬有乖職守著交部嚴加議處以儆玩愒餘著照所議辦理欽此

1142 軍機大臣 字寄

欽差尚書者 奉 道光十六年七月二十八日奉  
上諭有人奏廣東省連山縣同知姚東之挾嫌誣劾多賦料理地方未能允協等語該同知姚東之辦理善字一案據勅多賦料理不善之處自應嚴行

懲辦著身英未士芬迅即查明據實奏辦理毋得稍事徇隱致有不實不直又另片奏著馮蘇履楊廷彪賄賂宿密楊岐當養賊匪各等語如果屬實九為大千法化者一併嚴查究辦原摺片俱著鈔份開列存以備查知之欽此遵

官寄信前來

1143 道光十六年七月二十八日內閣奉

上諭廣西學政著丁善慶去欽此

1144 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭琦善奏請調補省會首邑要缺知縣一摺著照所請直隸清苑縣知縣黃煥治其以廣善調補該部知道欽此

1145 道光十六年七月二十九日奉

旨這所各虧短庫項之直隸前署懷安縣書候補知縣張懷澄前在該縣任內虧短正雜各款銀五二千五百餘兩之多著即革職等因交該督核辦同經



書人等嚴審確情檢律定擬具奏所有該員原籍家產及寓所資財一併查封備抵該部知道欽此

1146 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭訥爾經額等奏請將京控咨案逾限之員文部議處一摺湖北省先後京控咨文各案據該督等查明均已陸續審結其未結各案尚未逾限惟通城縣監生吳大章一案係上年十二月間行執人證現在尚未將齊技無如縣范典榮解控遲延已逾半年以上范典榮著即文部議處該督等仍督飭勒催務將人控迅速拘解審結毋令稽延該部知道單併發欽此

1147 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭甘肅西寧道員缺著那莪補授欽此

1148 查甘肅西寧道係衝繁難要缺例應專用滿洲

蒙古人負理

奉

1149 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭謝松楸奏請以陳發人員補授要缺知府一摺著照所請甘肅涼州府知府自缺准其以滿標補授該部知道欽此

1150 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭謝松楸奏請揀員調補要缺知縣一摺著照所請甘肅寧夏縣知縣員缺准其以李度蒞調補該部知道欽此

1151 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭綿森等奏請將偷竊快器賊犯解部著訊並附奏疎防各員弁一摺鍵柱即實登尚著解交刑部嚴審按律定擬具奏所有是日該班之委著馳騎校滿成外委戴連陞等於該犯進內偷竊漫無覺察著先行革職總管寶清阿萬長恆通有規轄之責失於防守著交部嚴加議處該犯現充差役其該管之員外部察給奉本有應得之咎惟協同擊獲賊贓且在三日以內著寬免議其接班未能查

出之統騎校薩凌阿著降為領催錫森等未能先  
事防範著一併交部議處又另片奏請將該犯父  
兄子姪一併銷除冊檔等語著刑部嚴議具奏並  
至所請添設兵弁堆撥各事宜均著照所議辦理  
該衙門知道欽此

1152 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭祥康等奏雙城堡京旗將數官房捐損失察之  
該管各官分別議處一摺雙城堡移駐京旗守以  
地畝房別以裕生計並該祥康等聲明該京旗將  
原房拆改至一百九十四間之多實屬不世本分  
該管各官果能實力稽查隨時禁緘自可懲一儆  
百不至紛紛效尤乃前准刑部既行收等既經  
查出並不認真辦理行捐原修補草率完結以  
致該京旗回旗額吳習為政常將米調劑京旗上  
事必至有名無實可有失察之懸任該管各官著  
查取職名文部分別議處嗣後該京旗如有再有拆  
毀房別者著照該管將軍等可據分別予以加責  
遊七示衆以示懲儆其該管各員如能隨時查出

報以免其矯處倘有應詳印文部議處仍責令結  
修並著責成雙城堡協領每年遇查一次具報阿  
勒楚喀到部統衙門統于年終加結具報該將軍  
衙門派員查勘以昭嚴實並現在營報之林姓房  
間可需工料備報著即由備存撥歸項下勦除避  
繁修繕完竣俾各京旗得資居住該衙門知道欽  
此

1153 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭高澤泰請將知縣仍改木班一摺熱河理事通  
判營兼平糶事務該才疏均應辦公局職著即撤  
回內地仍以木班理事通判酌量補用該部知道  
欽此

1154 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭為據御史胡鳳泰各省案件上司未能親提請  
各嚴定案分書令軍機大日會同該部議奏並據  
查明惡性案件上司不行親提者何案分列內  
已有明文本年三月間復經吏部奏明酌增條例

吏為周備嗣後各直省督撫於民間上控之案惟當振刷精神盡心庶幾一切事關重大案涉莊難應行親提者立予親提東公審斷不得身委屬官致小民冤抑莫伸紛紛來京控訴倘敢仍前執河一經查出定將該督撫等照例議處其屬某道府等官於接收呈詞後有無轉委發審等弊著該督撫等嚴行查察統於結果時將曾否親提之衷據實聲明曉諭郵遞如有敢御史請展定處分之處者無庸議敘以

1155

奉為會同嚴議恭摺具奏仰祈

臣潘世恩等謹

聖鑒事七月初七日御史陶鳳春者案件應控上司未經親提請展定處分一摺奉

硃批軍機大臣會同該部議奏欽此等因欽此設官所收民理詞所以息訟民間遇有冤抑州縣不為審斷不得向督撫請差道府各衙門具呈控訴果能親提研鞠尚且無難立明又文何致遠涉長途赴京具控且等檢查成例督撫于

應行提審要件仍發原問官收審或仍令會審者革職留任潘某道府遇有上司批發控詞應行親提不准轉委如有故違降二級留任本年三月間奉准酌增例文內督撫祇有仍發原問官收審會審或分轉於徑委屬員承審上議如降二級留任處分潘某道府祇有轉委屬員處分將於仍發原問官收會上議加革職留任處分是嗣後督撫潘某道府凡應親提之案不親提審訊者即行照例一律議處舊例既有明文新例更為詳備所有該御史請再嚴定處分之處應毋庸議立該御史原奏內稱京控案件原告結稱上司未經親提者今指出各衙門准予處分等語且等查京控各案內原有實係本者上司不為中究因而來京控訴者亦有健訟之徒捏詞解體在本省雖經具呈並未靜候批訊即行赴京控告以為巧脫越訴罪名地步並有具呈復原告逃匿屢傳不到藉圖掩罪無辜者若不究明該省各上司未經親提是否屬實僅據該原告一面之詞遽予各上司處分竊恐

力健之風益熾而京控之案益多降張為切流  
與日滋亦不可不防其漸應請

旨飭下各直省督撫務當振刷精神盡心查緝凡有  
應行親提之案立予親提倘有仍前耽泄一經  
查出即照新定例文分別議處其藩臬道府等  
官於核數呈詞後有與轉委發審等與應令該  
督撫等嚴行查察統於結案時將曾否親提之  
處據實聲明候部議庶案蹟日就清釐而民  
隱亦可工達矣所有臣等會同奏議緣由理合  
繕摺隨奏伏乞

皇上聖鑒謹

奏

道光十六年七月

子九

日 汪世恩

臣 穆彰阿

臣 王鼎

臣 賽尚阿

臣 耆英

臣 湯金釗

臣 朱士彦

臣 何凌漢  
臣 程 翰  
臣 畢來佑  
臣 恩 桂  
臣 陳官使

1156 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭御史阿林保等奏甲米開放遲延請旨飭查一  
摺著倉場侍郎查明具奏欽此

1157 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭本日召見湖南綏靖鎮總兵李灼文年逾七旬  
精力就衰著以原品休致欽此

1158 道光十六年七月二十九日內閣奉

上諭湖南綏靖鎮總兵員缺著明海補授欽此

1159 道光十六年七月三十日奉

旨此案莊親王奕劻因口角相故囑令包承人詢海

等將宗室奕岳相毆字青迨宗室錦詳等赴府理  
 論執復經總提衛德勝口票並不確查虛實奉行  
 具控實屬不知恪守禮法經宗人所等擬以革去  
 三爵原係照例辦理惟念奕貴與奕岳雖係近族  
 兄弟久不往來化時不知一聞奕岳稱係宗室即  
 今在工人富通將釋放尚無挾嫌藉端尋釁情  
 事茲親奕貴著加恩改為罰親王俸十年並裁去  
 頭等護衛二名二等護衛二名以示懲懲錦詳聞  
 伊子奕岳被毆並不赴官陳訴輒於深夜赴皇王  
 府稟關並毆傷護衛德勝等三人亦有不合姑念  
 錦詳係奕貴族叔且訊無平素持械情事著從寬  
 照例折罰錢糧免其責打頭等護衛德勝於被毆  
 後委疑身受刀傷隨口混票以致奕貴誤聽伊言  
 其呈控訴實屬謀害德勝著即革職餘依議欽此

1160

奏為遵

皇 奕紹等謹

旨會同審訊具奏事前經 宗人府具奏和碩莊親  
 王奕貴呈控不認識宗室持械在府打聞並據

宗室錦詳呈訴伊子奕岳被莊親王喝令相毆  
 一葉道光十六年七月十五日奉

旨莊親王奕貴宗室錦詳互控一葉著軍機大臣  
 卞宜會同宗人府審訊欽此 等因 卞宜會同督  
 率章京司員傳集人證展加訊鞠緣和碩莊親  
 王奕貴係宗室錦詳認麻服媳宗室奕岳係錦  
 詳之子莊親王奕貴認麻服兄錦詳奕岳與莊  
 親王奕貴多年久不往來詢海係莊親王府另  
 戶包水人富通即陳通係宛平縣人白三係大  
 興縣人高二係山東德州人均受雇在莊親王  
 府傭工與宗室奕岳素不認識頭等護衛德勝  
 三等護衛德昇親軍胡松額均在莊親王府內  
 當差本年七月初二日下晚時分莊親王奕貴  
 因欲閱看廐馬便服在家廟門首站立詢海富  
 通白三高二星三等護衛增福在旁隨轉雖時  
 街中兩後精水行人分為南北路行走適宗室  
 奕岳帶領工人奕二赴該王府任領慶關領  
 監甲錢糧轉回由路北走至詢海欄阻今往道  
 南行走奕岳不服以我走官路休管不著之言

向其爭論莊親王奕賚當令詢海推開詢海將奕岳推跌奕岳起身詢海復將其神跌到地致碰傷腦後奕岳在地嗷叫莊親王奕賚喝令相送高二將奕岳抱進廟內當道取繩繞繞兩腿其二隨入跪求釋放高二即令奕岳叩頭去奕不肯聲稱伊係北府人來領職禮莊親王奕賚斥其不懂規矩令高二曰王掌批其左右腿跌奕岳始稱我係北府宗室奕岳係屬一家莊親王奕賚聞知當稱既係宗室何不早言隨即迎內並令當道將其釋放奕岳令其二回家告知轉詳聞伊子被毆當與胞兄轉詳出子奕長同其二於定更時坐車赴莊親王府稱欲面見護理德信德昇胡松額先後走至轉詳令其通票不允氣忿用手持棍亂毆傷德勝額門右肩甲並致傷德昇右額角又連毆胡松額脊背右手等處轉詳與轉詳到日莊親王奕賚並不見出生氣指名喚罵時有宗室轉詳路過理勸轉詳等不依嚷鬧至天明始散德勝於被毆後因黑夜未及看親不知被何物毆傷即迎府矣

訴身上疼痛似係刀棍所傷等語莊親王奕賚未及確查即自行具呈令六品典儀巴衍善錄寫史頭等護衛布昂阿赴呈奕岳或呈控當經奉明奉

旨令臣等會訊據莊親王奕賚遣人呈遞親供前來投稟犯證實訊悉前情臣等以轉詳等如果率領多人執持刀棍打鬧王府情狀兇惡自應嚴克懲辦茲莊親王奕賚與奕岳係屬近族兄弟何至因口角相毆喝令親及相毆誠恐有挾嫌藉端尋毆情事亦應研訊確情以成信讞復加隔別詳鞠轉詳等實無率眾持械各情有礙通理勸之宗室轉詳供證確鑿訊據該王府獲衛增福供明委因德勝被毆負傷疑係刀傷隨口混票莊親王奕賚未及查明倉猝具呈該寫鐵棍棒刀等詞並非有心誣捏與莊親王奕賚親供相符並據奕岳供稱伊與莊親王奕賚又不往來實因詢海擲汗行走起釐並無別故實之案犯均稱莊親王奕賚喝殿時實不知係奕岳一經聞知宗室即行解散供如一矢口不

形似無違，飾素經說明，應即擬結。重律載  
 卑幼毆本宗總麻兄杖一，又不應為而為者，若  
 四十事，理重者杖八十。查宗人府例載：凡宗室  
 犯杖八十罪者，折罰養贖銀八角，月又例載：犯  
 杖罪者，若係不安本分，挾其龐併，罪名更行責  
 打，不准折罰。茲經各等語，此案莊親王奕劻身  
 列宗室，不思恪守禮法，乃罔知故，喝令內海等  
 將奕岳捆毆，即係平民已屬不合。況伊總麻  
 族兄弟，說明多年，久不往來，毆時竟不知是奕  
 岳，位近族同居。

宗師並非生別處，素不相見，與犯時不知之律  
 不符，未便照凡例以威力制縛，科斷仍應依本  
 律定擬。莊親王奕劻餘親德勝口業，並不確  
 查，虛是率行具控，說非有心誣捏，罪止不應重  
 杖八十。輕罪不該外合，依殿本宗總麻兄杖一  
 百律擬杖一百。查宗室親王庶凡照官員犯杖  
 一百，私罪革職例請。

旨將和碩莊親王奕劻革去王爵，宗室詳訊無辜，  
 與持械各情，惟當伊子被毆後，並不赴官陳訴。

輒於深夜赴王府，索閱並毆傷護衛德成等三  
 人，亦有不合。應照不應重律杖八十。查宗室應  
 照例實行責打，不准折罰。擬護衛德成等二  
 白三與宗室奕岳向不認識，且奕岳亦未戴頂戴，  
 帶換犯等將其相毆，係聽從莊親王奕劻主使，  
 惟不行責罰。林季與奕岳屬侍妾，屬內海宮道  
 高二白三均照不應重律杖八十。分別擬責折  
 責發落。德成誤殺身受刀傷，隨口洪案，確由被  
 毆情急而致，究屬不合，亦應酌量開擬。德成  
 應照不應重律杖四十。係頭等護衛，應交兵部  
 照例議處。希呂阿係莊親王諭令違呈，已行著  
 照稿寫差，並無增減情節，著毋庸議。查宗室  
 詳訊說止，隨同理論。宗室奕長亦無毆罵情事，  
 奕岳等傷供平復，均毋庸議。餘屬無干，執行者  
 釋。其二案經說明免其情，以看犯案親抄錄。  
 莊親王奕劻所遺親供卷呈。

旨覽所有日等會同審訊緣由，理合恭摺具  
 奏請。

旨

道光十六年七月

三十

日 吳 結

日 散 秋 慶 月

日 仁 壽

日 祥 德

日 錦 山

日 潘 世 恩

日 穆 彰 阿

日 王 彝

日 齊 尚 阿

日 次 路

日 文 致 儀

日 恩 銘

日 劉 彬 士

日 明 訓

日 姚 元 之

1161

吳親供茲親王奏費我於七月初二日晚間在  
府內西花園間少有增福納海跟隨行至道前  
便門偶被令人壓或馬已遂至廟門外站立未

及令人拉馬適有素不認識二人走過納海回  
廟前轉有兩水北邊路字令其雲南行走其人  
回言我們走路你管不著彼此口身起來其人  
上前揪起我叫納海將伊推開納海隨將那人  
推了兩跌那人起來不依嚷叫我是來擊甚橫  
隨叫死尸高二等將伊捆送高二遂將那人抱  
進廟內就地而坐看廟人官道取出繩子將  
伊兩腿縛住其人說我是北府來領大錢的我  
說你既是北府奴才如此撒野不懂規矩隨叫  
高二白三責打使時有人在他臉上打了兩掌  
一時記不清楚是誰動手只問二人便知那人  
被打方說我是北府宗室我說你既係宗室何  
不早言隨喝令官道解去繩子並喝令用好言  
勸慰我就進府來了不意於起更時忽聞門  
外喧鬧聲響甚衆正在令人查問有頭等衛  
德勝進來哭訴口稱外面來了多人自稱太爺  
極口誓罵不容分說就將奴才揪打現在有傷  
數處惟右肩疼痛有血似乎刀傷其餘該班人  
俱被打散等語後又有道衛德勝胡松頭進內



口裏均被打傷，至三五天仍復噴血不止。我一時氣憤，隨即寫呈，令海濱呂阿在定親，以燕王逃王內木條木棍，攔刀因夜間倉卒，刺傷鐵棍，膝刀委係，等語。一時未能踏出，實無別意。至鐵刀一節，或因德勝有刀傷之語，我遂寫入王內。至初三日，宋人府派官來府堂驗傷，并並未持刀傷，因出後，宋人府審訊時，問及王內膝刀，或因德勝未能指實，一時無可登覆，遂極或在花園內土山上親自看見的實，在我並未看見，不過迎獲前呈之卷，與查卷官簿對史。

見深重一時春憤，類塗羊草，其王現經奉

旨，當問實味，雖無地，只未轉奉。

至王從東活罪，就是。

格外。

天恩所差，親供，供實。

1162 道光十六年七月三十日奉

旨，崇文門正監督著禧恩去，副監督仍著貴慶去，欽

此。

1163 道光十六年八月初一日內閣奉

上諭程祖洛等奏揀貢升補海疆要缺通判一摺著  
照所請福定馬家巷通判准其以陳國瑞升補照  
例選部引見該部知道欽此

1164 道光十六年八月初一日內閣奉

上諭程祖洛等奏佐雜人員履滿請暫停分發一摺  
福建試用佐雜各員據該督等查明人數較前重  
濬著吏部即將各例報捐布政司題居布政司年  
事布政司庫大使府經歷縣丞州吏目從九品未  
入流等八項人員暫停分發福建俟人數減再行  
咨部照章分發欽此

1165 道光十六年八月初一日內閣奉

上諭程祖洛等奏要犯中途脫逃請將金蓋道解各  
員交部議處一摺福建武平縣知事許署南平縣  
事候詳知縣沈功欽于解省勒辦故犯並不佳選  
去役嚴加防範致令中途脫逃實屬疎懈事時沈  
功欽均著交部照例議處該署等即行提兵緝

人等解省審明有無使情縱放縱情與按律定擬沈

功欽交卸後仍責令會同後任知縣一體嚴緝逃  
逃犯石那常即石彬務獲解完限滿有無弋獲照  
例辦理餘著照例請行該部知道欽此

1166 道光十六年八月初一日內閣奉

上諭給事中常大淳奏請修補國子監存貯書籍板  
片一摺著武英殿查明辦理欽此

1167 道光十六年八月初一日內閣奉

上諭給事中常大淳奏請飭等盜匪一摺比素湖南  
省信行脚夫譚銘文由京都起身攜帶銀物並部  
照數十餘張行至直隸河間府交河縣地方被盜  
匪全行搶去迄今數月尚未弋獲著直隸總督即  
行嚴飭該縣上緝等賊盜務獲究辦並着順天府  
就近傳問該脚夫譚銘文承領各屬部照破數並  
各捐生姓名籍貫履歷對明即行咨部照例  
辦理欽此

1168 福建福州府海防同知瑞光 科甲

臺灣副將葉長春

1169 道光十六年八月初二日內閣奉

上諭前據給事中朱遠吉奏川省伍雜糧史民詞呈  
 役收松勒密營降音支湯全劍等查明懇請將該  
 奏稱四川廣元縣人黃大貴因賭博被控該縣典  
 史董秉義接受王詞政呈後詐職職命該縣知縣  
 春明已有失察之咎嗣經屍親交辦私和又復  
 率准調驗實屬罔職春明著即革職董秉義體交  
 滋差致職人命著即行革職餘著刑部議奏該管  
 各上司於此等命案從無覺察現經湯全劍等信  
 查復有三台縣等州縣伍雜糧受被控三案之多  
 可見該省積弊相沿未能盡除所有失察之咎著  
 著各該管上司均著交職名吏部照例議處  
 各省伍雜人員官職較小流品不一例不准擅受  
 民間錢兩藉索訛詐之漸其所設差役例有定額  
 不准捏名濫充原以防見事生風藉端勒索今四  
 川一省如此恐他省亦所不免著各直省督撫通

飭所屬地方官凡有詞訟概不准批發伍雜衙門  
 審訊伍雜役員亦不准私行擅受倘有前項弊端  
 由該管道府認真查察有犯必懲從嚴奏辦至州  
 縣及伍雜等官於額設差役外如有濫設捏名呈  
 役即行查明欽決充溢擬呈經此次旨諭之後倘  
 再有伍雜擅受呈役索詐各案一經查出或有人  
 奏奉交辦該省督撫屬某各上司一併嚴懲決不  
 寬貸欽此

1170 道光十六年八月初二日內閣奉

上諭前據御史黃仲容奏廣東潮梅益等府屬  
 州府知府協同運司辦理經戶部議以事無專屬  
 易石推認之浙當降旨令該巡撫等體察情形妥  
 議章程具奏茲據該督等奏稱查明潮高拆引向  
 由運司給費水程該商照例到時即將水程投繳  
 地方官查驗及至銷竣地方官將程費彙送赴運  
 司覆覈定例極為詳確現在該處並若自上年歉  
 底著辦以後已能將十三年分滯銷積引依限奏  
 銷並無延誤自不必另議更張該部知道所有潮

檢核路費仍照定例辦理該御史所奏著毋庸議  
從此

1171 道光十六年八月初二日內閣奉

上諭鄂廷捐奏請將水師副將勒令休致一摺廣東  
候補外海水師副將譚安年力就衰難期振作著  
即以原品勒令休致該部知道欽此

1172 道光十六年八月初二日內閣奉

上諭恩特亨額奏運弁照料未周致船行阻壓等語  
湖北三幫領運千總張向輝著摘去頂帶俟將來  
交倉回空待再行查明辦理該部知道欽此

1173 道光十六年八月初二日內閣奉

上諭烏爾恭額奏官民捐修城工請分別獎賜一摺  
著吏部議奏此項工程係官民捐辦著免其造冊  
冊報領該部知道欽此

1174 道光十六年八月初二日內閣奉

上諭奕經等奏請將供給賊匪越邊砍木各犯交部

嚴審一摺賈萬鍾珍楊青山即楊峻山楊澤均劉  
元吉楊秀郭浩剋起昇陳忠欽俱著交該將軍會  
同臧京刑部嚴審確情照例加等治罪逸犯張三  
李映及受產各犯著嚴等務獲歸案審辦此案查  
緝尚屬認真所有出力各員著於定案時酌量  
保奏候朕施恩無許冒濫其失察之將凡地方及  
邊卡各官仍俟案時查明照例辦理該部知道  
欽此

1175 道光十六年八月初二日內閣奉

上諭奕經等奏請將糾夥搶劫斃命之匪徒交部嚴  
審一摺查京師震屬界大孤山處匪徒鄭金彩等  
糾搶事主銀糧衣物並殺斃人命糾賣婦女邊官  
與該等匪徒等而敢犯放鳥槍肆報實屬膽大不  
法茲據該將軍等奏獲匪犯多名自應嚴加審辦  
鄭金彩額奴卜沐太王自清李江於明白趙文秀  
潘玉蘭李高舉李三性子印李在公孫玉福于恩  
先等十二名均著交該將軍會同臧京刑部嚴審  
務得確情按律定擬其在逃之逸犯鄭起雲等仍

嚴飭該旗民地方各官並選派番役勤限按名等  
獲歸業審辦此等匪徒敢為地方之害况根本之  
地更不容有此必應隨時嚴行查拿勿稍疎懈以  
期淨絕根株欽此

1176 道光十六年八月初二日奉

旨咸昌惟其調署廣東順德縣知縣仍試看期滿另  
請實授所有該督等應得處分著加恩寬免欽此

1177 道光十六年八月初二日內閣奉

上諭官僧德布多圖王前均著加恩改為降二級留  
任不准抵銷欽此

1178 道光十六年八月初三日內閣奉

上諭恩特亨額奏請將繁缺運弁撤回另補一摺調  
補江蘇常白幫千總張麗德於攪糧幫次辦理未  
能妥速實難勝繁缺之任張麗德著撤回俟有相  
當簡缺再行酌量補用該部知道欽此

1179 道光十六年八月初三日奉  
旨著改於本月十五日換戴履帽欽此

1180 道光十六年八月初三日奉

旨禮邊卷身之河南鄆陵縣民人賈中華著文刑部  
審訊欽此

1181 道光十六年八月初三日奉

旨此案著文林則徐親提人證不宗東公展審按律  
定擬具奏原告朱得時該部照例解往備質欽此

1182 道光十六年八月初三日奉

旨此案著文林則徐親提人證泰宗東公展審按律  
定擬具奏原告趙全該部照例解往備質欽此

1183 道光十六年八月初四日內閣奉

上諭陶澍等奏請將松江府及奉賢縣捐輸出力之  
官紳董事分別獎敘一摺著吏部議奏此係民捐  
民辦之工著免其造冊報銷欽此

協辦大學士直隸總督琦 兼管順天府府尹

何 府尹曹 道光十六年八月初五日奉

上諭御史朱成以奏直隸奸民有教匪竊匪賭匪三種上年直隸查拏教匪聞各州縣差役有得贖放縱者有詐索不遂坐以習教者教匪各有頭目各有私冊頭目既得即可追究私冊按名查拏此等匪徒散在各州縣村莊數十數戶或數十戶不等必有頭目為之主謀居民斷無不知不難向公正紳士良善鄉耆老密探大略竊匪則滄州向有窩巢今聞各處俱有窩藏包庇之家竊人衣物者實諸典庫事主尋覓給予賞案令其自贖竊牛馬者繫在窩家令其持債往贖鄉民浮於京官不得不欲恨相就地方官即留心緝捕拿窩家賄通捕役先期報信以警使匪其窩巢往往在兩州縣接壤之處賄匪則窩賭之家賄通官役以掩州縣之耳目遇有查拏令其暫避各州縣四季皆有會歇此案業賄通吏日共文賊守以及番役人等夾搭產棚或租窩所謂之明賭有紳格富戶之局有鄉民之

局有棍徒之局有僕隸下賤之局等語無業貧民

習為游惰其流為賭博習教及竊賊者均至為開

閉之害不可不嚴行查拏著直隸總督順天府府

尹等嚴飭所屬地方官破除積習認真稽查如有

各項匪徒立即嚴密訪查按名拏究倘胥役人等

有得贖放縱情弊務當從嚴究辦斷不准寬存非

此致因徒聞風遠避以戢邪惡而安良善特此各

諭令知之欽此遵

旨字信前來

1185 道光十六年八月初五日奉 諭

上諭色卜星額本將將曾獲匪犯多名之著少司知

問復項帶一摺安嚴署鳳翔同知事桐城縣知縣

曾元炳有因疎玩逃境人犯錢六子等曾經降旨

摘去頂帶茲據該撫查明該員曾獲房乘兇盜劉

小猴等二十九名例應議叙惟未能將錢六子等

犯拿獲不可不分別懲勸曾元炳著加恩開復頂

帶毋庸另行議叙其在逃之錢六子錢瞎子各犯

仍著勒限嚴緝務獲究辦毋稍疎懈該部知道欽

此

1186 道光十六年八月初五日內閣奉

上諭色卜星額泰某及被控請交督臣審辦一摺江蘇英縣唐貢生就職訓導曹成需索控交嚴某及文寶等違例盤踞租索勒屬分修等情案關軍及結黨勒屬自應切實根究著交署兩江總督林則徐親提案據來公密訊確情按律定擬具奏欽此

1187 軍機大臣 字寄

協辦大學士直隸總督琦 道光十六年八月初六日奉

上諭本日據琦善奏鄰重載補糧倉恩裕益歲舒圍用以厚民生等語國家計安黎元首以足食為先務琦善因本年直隸秋收豐稔恐境外奸商收買興販出者豫思防範自係為關商益歲起見朕恩各直省地界毗連如遇過豐收之年有無相通原所不禁直隸者自夏秋以來連獲甘霖轉歉為豐實為萬幸現在將次百穀登場中集豐盈糧價自必漸減但恐民間囤積益歲秋園目前之利售與外

來奸商必至糧少價昂難過豐年仍不免食貴之處因時制宜白不可不豫為籌範著照所議妥協辦理將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1188 道光十六年八月初六日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠銀糧今各該將軍尚戶督撫等查明開單具奏據兩江總督陶澍等將江蘇省各屬節年民欠銀米魚聞確數呈覽當交戶部彙覆茲據查明具奏自嘉慶二十三年起至道光十年止未充地丁漕項并補徵嘉慶七年起至二十二年止蘆課正耗等款共銀四百十五萬八千八百三十八兩零未交五穀一百七十七萬七千三百六十二石零均係實欠在民著加恩全行豁免又存留項下糧欠解款官俸役食等銀五十五萬五千四百二十四兩零並著加恩一體豁免該督等即刊刻謄黃通行曉諭等照例按戶付給免單嚴禁吏胥影射需索

等獎務期實惠及民間副取推恩布聞至意錄係  
議欽此

1189 道光十六年八月初六日內閣奉

上諭琦善奏查明捕獲賊匪各匪舍出力各員應屬  
獲降捕一摺首匪各屬匪徒等類該督  
權捕不力各員先後奏辦當旨分別革職該  
項帶責令探捕匪徒查明該員等於賊匪獲供已  
據除淨盡辦理尚知倪奮超州直豫州知州德先  
崇顯任縣知縣陳步采均著准其開復項平慶  
縣知縣陳在元著以府經歷縣丞降補歸部候選  
該部知道欽此

1190 道光十六年八月初六日內閣奉

上諭琦善奏請將疎防搶案之知縣交部議處等語  
直隸宛平縣知縣吳儀澄於近京地面不知認真  
巡防致有賊匪攔路搶掠著行撤捕務實屬疎  
弛吳儀澄著先行交部議處仍照例依勤解限滿  
有無弋獲再行分別辦理該部知道欽此

1191 道光十六年八月初六日內閣奉

上諭琦善奏請將運弁革職等語此案蘇州白  
糧督署五號重船被劫未上舟人賊匪獲已據張  
供明係民人汪四盜買為實乃空運千餘石是度  
該督未便送人反時該兵等頗整若於扶同盜賣  
即係任性妄為不可不嚴行究辦于恩慶著革職  
歸案查明辦理至所稱浙江溫州前幫三十九號  
糧船於未起程之前被向來由四幫三幫本  
姓船上收買餘未難任無益買接濟情弊著該  
督務屬提同該衙丁等嚴行審訊按律懲辦以肅  
漕政欽此

1192 道光十六年八月初六日奉

上諭琦善奏捕煙不力之知縣請旨降補等語直  
隸寧晉縣知縣甄燿於境內煙地既不趕緊搜捕  
又復心存諂諛屬有辜職守著即以府經歷  
降補歸部候選該部知道欽此

1193 道光十六年八月初六日內閣奉

上諭法豐阿奏請陳綏督銀兩一摺和闐官兵應



訓道光十八年歲需經費銀八千四百七十一兩  
零又另片奏和闐阿奇木伯克耶玉衛貝勒邊瑪  
特愛孜斯應支道光十五年五十八年俸銀共三  
千二百兩著瑚松額一併照數撥解以資支放該  
部知道欽此

1194 道光十六年八月初六日內閣奉

硃 上諭甘肅涼州府知府員缺著兆那蘇圖補授欽此

1195 查涼州府係衝繁疲難最要缺  
奏

1196 道光十六年八月初七日內閣奉

上諭貴州布政使員缺著廣祿補授欽此

1197 查大理寺卿琦琛之母現年八十八歲理合聲  
奏 明 謹

1198 軍機大臣·字寄

駐藏大臣新授貴州布政使慶 道光十六年

八月初八日奉

上諭昨已降旨將慶祿簡放貴州布政使吳慶祿接  
奉諭旨即將印信移交鄂順安速赴新任無庸來  
京請訓將此諭令知之欽此

旨寄信前來

1199 道光十六年八月初八日內閣奉

上諭棍楚克策博等奏豫調經費銀兩一摺豫聞已  
哈白應調道光十八年官兵經費銀五萬兩著瑚  
松額撥此項銀兩照數撥解以實支放該部  
知道欽此

1200 軍機大臣·字寄

兩廣總督鄧 廣東巡撫那 傳諭粵海關督

文祥自道光十六年八月初九日奉

上諭內閣學士朱傳奏申嚴鴉片例禁並給事中許  
球奏欲陳管見各一摺又另片奏嚴治鴉片等語

鴉片煙來自外夷流毒內地例禁甚嚴近日言者不一或謂量為變通或謂仍嚴例禁必須體察情形通盤籌畫行之久遠無弊方為妥善著鄧廷楨等將摺內所奏如販賣之奸民說合之行商包買之黨口獲送之船艇賭博之兵丁嚴密查拏各情節悉心妥議方塞禁源據實具奏又呈將球片并所稱洋火情形是否實有其事亦著一併議奏原摺片俱著鈔給閱看將此諭知鄧廷楨祁項益傳諭文祥和之欽此遵

旨寄信前來

1201 道光十六年八月初九日奉

旨太常寺卿元祿與少卿那斯洪阿係屬兄弟親屬

照例毋庸迴避欽此

1202 軍機大臣 字寄

河南巡撫杜 道光十六年八月初十日奉

上諭有人奏河南南陽府與湖北襄陽府交界柘河地方有巨盜張開運開設大窩子聚黨千餘其手

下大頭目趙文德位雙溝兒地方又有老虎奔豬三兒位金線挂葫蘆地方謂之小窩子共有數處多者數百人少亦數十人分布州縣向帶捕役劫奪良民適有巨案上司限解交者州縣則勒限捕役捕役知是某窩子某人做此一業即向其頭目商量要人承索該頭目檢知某窩近日生意不旺謂之短少錢糧趨同捕役前往彼處與其頭目面議此業要斬犯幾名絞犯幾名該債若干匪犯情願幫費若干捕役幫費若干若幫費不能如數又料某窩現有某案未銷商令湊足即將其未銷之業一併代承幫費既足然後交出人數頂替此等頂犯皆各窩子頭目平日收養乞丐之人先後換次替用既經頂犯到案如有改供逃遁等情張開運必能致之死地更有慘於絞斬者故皆至死不交張開運所任窩子路徑深遠兵器極多役難掩捕該犯於湖北官負但畏提督羅恩舉河南官負但畏守備劉天保此二人所在不敢恣肆等語兇惡棍徒最為地方之害著杜良即將該犯張開運等按名迅速嚴密查拏從重究辦毋得有漏

洩致令遠颺如有差役包庇縱等情惟該撫是問  
將此謝令知之遵欽此遵

音寄信前來

1203 軍機大臣 字寄

湖廣總督 湖北巡撫周 道光十六年八

月初十日奉

上諭有人奏河南南陽府與湖北襄陽府交界桃河  
地方有巨盜張開運開設大窩子聚黨千餘其子  
下大顯日趙文德位雙邊兒地方又有老虎喬福  
三兒位金線挂前差地方謂之小窩共計有數處步  
者數百人少亦數十人分布州縣勾串捕役刺奪  
民氏等語此等兇惡棍徒家為地方之害已另降  
旨著杜良嚴查拿究辦矣但南陽與襄陽  
接壤該犯以等仗寬乘間脫逃著飭兩縣類等  
遵照明幹妥負嚴密緝拿毋令倖漏法網是為至  
要行此諭令知之欽此遵

音寄信前來

1204 軍機大臣 字寄

署兩江總督林 道光十六年八月初十日奉

上諭有人奏江蘇徐州府邳州地方有兇犯吳雷運

向在洪澤湖清江浦河口一帶地方聚眾為匪曾

經該署蘇督獲起解故其影黨要嚴勞關木籠嚴

查剔去近將十年疊任該督飭令地方官捕拿

無獲上年十一月間該犯在舊邳州縣政廢任三

大漢又於昨南廳衙門前支解四二四三拋入黃

河現在盤踞邳州境內橫溝鎮其謀主有松神地

堂信係山西太谷人其爪牙有阜上飛槍司崇由

西來三天不悔王同並現兇邳州捕役魏大漢等

共器械有抬槍數桿重二餘斤烏槍數十桿長槍

數十桿身信心命數百餘人出沒於老河頭頭池

平龍池等鎮有薛保玉被犯大錢一百五十千半

皮換三十件玉名戴被犯大錢二百千又聞姓丁

杜楊杜依姓莊姓等家逃積為股實皆被犯索不

款王控惟王森一索其雷運款其孤寡於上年十

二月夜間帶領天不怕王同將王森調至碾灣鎮

鎮劫贖大錢三百十五春但被王同並不取

指控吳雷運等語此等化權散使密良民實屬  
夫于法地必應嚴行懲辦著林則徐逸委明幹委  
負檢名嚴密查拏務獲究辦毋令聞風逃遁是為  
主要特此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1205 道光十六年八月初十日內閣奉

上諭給事中許球奏工部鉛子硝磺二庫積攷技專  
員經理一摺著該部議奏欽此

1206 道光十六年八月十一日內閣奉

上諭前因御史阿林保等奏甲米開放遲延官降旨  
令倉場侍郎查明奏茲據張麟等奏稱查明萬  
安倉本年七月輪放錄黃正黃兩旗已衣大檔甲  
米均係隨到隨放其米車趕不入城並非開放遲  
延所致該部等此次辦理故米事宜尚無錯誤  
著免其議處嗣後城外四倉開放甲米著先期移  
知該旗都統嚴飭領米之人趕押車輛毋許次日  
遲城以杜弊端欽此

1207 道光十六年八月十二日奉

旨嗣後萬壽慶節滿過兩皇子王公等著在正大光  
明殿檐下行禮文三品或二品以上官著在出入  
賢良門內外檐下左右行禮文四品或三品以下各  
官著在大宮門內檐下左右行禮其丹陛崇著移  
於正大光明殿東西兩檐下餘依議欽此

1208

奉為遵

臣僧格林沁等跪

旨會議仰祈

聖鑒事本月初十日臣等面奉

諭旨嗣後萬壽慶節若遇兩諸臣應由何處行禮著  
御前大臣軍機大臣會議具奏欽此臣等恭查會

典內載

萬壽慶節

駐蹕圓明園

皇子王以下文三品或二品以上官按其在

正大光明殿階下左右文四品或三品以下各官在

出入賢良門外行禮等語臣等敬謹酌擬議

萬壽聖節若遇兩

皇子王公等在

正大光明殿檐下行禮文三品或二品以上官在

出入賢良門內外檐下左右行禮文四品或三品

以下各官在

大宮門內外檐下左右行禮所有臣等公同會議

緣由謹繕摺具奏伏奉

旨後行知禮部於每年恭奉

萬壽行禮儀注摺內夾片聲明理

奏

道光十六年八月十二日

日僧格林沁

日戴 銓

日潘世恩

日穆彰阿

日王 鼎

日賽尚阿

1209 道光十六年八月十四日奉

旨陳兆祺周蓮俱著准其捐復欽此

1210 道光十六年八月十六日奉

旨孔廣安等奏考試場本筆帖式受卷短收試卷

五本該員等雖係自行檢舉究屬疎忽受卷官禮

部郎中長明光祿寺署丞吉麟俱著交部察議欽

此

1211 道光十六年八月十六日奉

旨此案著交納爾經額督同臬司杜銓親提人證奏

宋來公嚴密按律定擬具奏原告白文舉該部照

例解往備質欽此

1212 道光十六年八月十六日奉

旨此案著交經額布親提人証奏宋來公嚴密按律

定擬具奏原告傳文布該部照例解往備質欽此

1213 軍機大臣 字寄

咸京行軍奏 道光十六年八月十七日奉

上諭本日據奇明保奏稱錦州府屬莊糧衙門糧長

福珠隆阿於該處莊頭名下應交道光十三年分

餘銀四千三百餘兩並不敷數僅齊解送交庫已降旨將該員革去俸長解交吏部會同盛京刑部嚴審究辦此項錢糧逐年清款該俸長輪年奉依歷久從無貽誤何以該員膽敢侵挪掩飾遲至數月之久經該部都統傳詢託故避匿顯有侵蝕等情已飭將該員家產財查封備抵充著吏部嚴密查察不得任其寄頓藏匿俟該員解到時務當秉公審訊據得實情按律懲辦以重帑項而儆官邪特此諭令知之欽此遵

音寄信前來

1214 道光十六年八月十七日內閣奉

上諭陳崇禮著調補福建布政使直隸布政使員缺著顧伯燾補授欽此

1215 道光十六年八月十七日內閣奉

上諭甘肅西寧道員缺著蘇彭阿補授欽此

1216 道光十六年八月十七日內閣奉

上諭江西贛州府知府員缺著李恩履補授欽此

1217 查江西贛州府係衝繁政難最要缺該奏

1218 道光十六年八月十七日內閣奉

上諭琦善奏永定河秋汛安瀾一摺在工防況各員搶修穩固著有微勞著該督擇其尤為出力者酌保數員候朕施恩毋許冒濫欽此

1219 道光十六年八月十七日內閣奉

上諭琦善奏請將違例濫委佐雜審案致釀人命之知縣文部嚴議一摺所奏甚是直隸邢臺縣知縣唐思賢於黃全責犯夜放張碌等竊竊毆傷送縣並不速為訊結繼因另有下鄉踏勘之案發交典史代審以致黃全責受杖身死實屬違例濫委釀命唐思賢著交部嚴加議處以示懲儆欽此

1220 道光十六年八月十七日內閣奉

上諭琦善奏請將到解解任質審等語此案直隸州州判王連元於可管帶司十總等查拿私研

受賄匿報被控便並不據實揭奏職任和息了事  
迨經二次告發始行起解究辦現據已革千總程  
澗供稱該副將之子事後曾受魏送無益虛實均  
應澈底根究王連元著解任歸景質著移期永暮  
石出以成信據而做官邪該部知道欽此

1221 道光十六年八月十七日內閣奉

上諭琦善奏請將升任知府解任查辦一摺所奏  
是此案平山縣民人張賢因行竊被獲既伊父張  
景平恚息自盡復誣捏去情致事王張連福之媳  
張莫氏羞忿自縊身死該管知府邵峨因執已見  
違延不結難保非因無故違延以為掩飾地步直  
隸正定府知府已卅甘肅西寧道邵峨著解任交  
琦善逐條嚴訊務將確情據實嚴奏無稍含混欽  
此

1222 道光十六年八月十七日內閣奉

上諭琦善奏習教其結改悔之犯復經犯案發遣群  
回仍不安分等語此案虛偽而即虛發科一犯於

發遣釋回之後並不妥分著仍發回咸陽大小伯  
克及力能管束之回子為奴照例刺字遇赦不赦  
欽此

1223 道光十六年八月十七日奉

旨此案錦州府屬莊糧衙門值長福珠隆阿於該處  
莊頭名下應交道光十三年分解租銀四千三百  
餘兩並不照數催齊解送交庫且復托故逃避顯  
有侵挪掩飾情弊福珠隆阿著革去值長解交盛  
京將軍英經會同盛京刑部嚴密究辦所有該員  
家產資財著嚴密查封備撥奇明保甫經回任即  
查明據實具奏其日請從重議處之處著加恩改  
為察議該部知道欽此

1224 道光十六年八月十八日奉

旨文學士湯世恩等及大學士穆彰阿覆數朝審各  
一摺所有雙路一犯著仍照刑部原議辦理欽此

1225 道光十六年八月十八日內閣奉

上諭孔廣安奏考試八旗士子場規一摺所有應行酌增酌改九條著該衙門會議具奏單併發欽此

1226 道光十六年八月十八日奉

旨李守典即高逢春著交刑部審訊欽此

1227 道光十六年八月十八日內閣奉

上諭前據黃爵滋奏請嚴定章程永杜回漕餉弊一摺五的定賞罰等語當降旨著順天府尹直隸總督查明該奏世據琦善查明天津南北兩岸各處現無積戶因積回漕之弊是酌酌章程以防未然俱著照所擬辦理惟因積回漕雖係奸商舞弊其源總由於漕船之類不敷若類未盡數該旗丁等方有餘未在這交價又何用私買回漕為耶嗣後若有漕船皆換轉船各該管糧道於幫知受見時如有旗丁需索折色等弊立即拿究並嚴飭押運員弁沿途加意防範毋任稍有偷漏總辦幫船遇准時著漕運總督認真盤驗不許顆粒短少倘

列通後仍有虧欠除照例發南追比勒究外仍

將旗丁從重治罪並將總運押運各員據實展奏其因積提濟要區地方仍當嚴密稽查毋稍疎縱以肅漕政而清弊源單併發欽此

1228 道光十六年八月十八日內閣奉

上諭琦善奏知縣被控借銀不還藉業杜斷積革職客辦一摺直隸降調知縣杜荃前在威非任內於糧書門丁私向舖戶為銀占借銀整解錢糧既已失察於前查知後並不即行究治發還銀兩又復任聽那用造短控發該門丁李惻詳係案中要證延不交案皆當難保無倚官賴欠投意詎回案約情事至為顯占買娶和姜氏之女為妾並無應得罪名和氏亦不應離異該縣亂地保案報故有妄冒印據和忠等混供將為銀占詳革斷罪尤難保非挾嫌改動必應澈底究明分別辦理杜荃著先行革職歸案研審務得確情據實定擬不准稍

有含混該部知道欽此



1229 道光十六年八月十八日內閣奉

上諭琦善奏候補試用人員擴撥請暫停分發一摺直隸省分發各員該督查明現在人數增多著吏部即將知府以下至佐雜等各項人員暫停分發直隸候補有缺道再行奏請分發欽此

1230 道光十六年八月十八日奉

旨道所奏虧短庫項之已革安州知州胡彥升虧缺地糧旗租等銀至二萬六千餘兩之多著李開文該督從同經管人等廉究查追該革員寓所資財暨原籍家產著一併查封備抵欽此

1231 道光十六年八月十八日內閣奉

上諭魏元球奏總兵巡洋施放號礮誤傷官兵一摺浙江温州鎮總兵卞永福於出洋施放號礮指基兵船致斃官兵二名實屬不慎卞永福著交部議處餘依議欽此

1232 道光十六年八月十八日奉

旨道所奏疎脫盜犯趙敬之福建署惠安縣典史曹

本於監獄重地並不嚴密防範致盜犯陳倫何守乘間潛逃實屬玩忽著卽革職禁半年有無贖縱情弊著該撫行提確著按律辦理有微官著志安縣事據發知縣彭應鼎著交部照例議處吏部後仍責令會同後任知縣嚴緝逃犯陳倫等務獲究辦欽此

1233 道光十六年八月十八日內閣奉

上諭那當阿等奏請撥調經費銀兩一摺哈密庫貯道光十七年秋冬經費不敷例應調銀五萬兩著瑚松額照數撥解以資支放該部知道欽此

1234 道光十六年八月十八日內閣奉

上諭前據程祖洛等奏福建捐辦義倉梁章鉅進京後其子梁遠辰接手勒捐請旨獎勵嗣經御史郭爾瑞奏梁遠辰上年隨同伊父進京籍貫廣東省城著程祖洛等明白迴奏該督核議者設立義倉保各病者日梁章鉅先自勒捐嗣因奉旨飭令進京不克一手辦竣其子梁遠辰本係隨同經理

即令孫子勸捐并自捐銀四千兩旋即竣事隨同  
伊父進京并指梁遠在難勸捐出力完集大員子  
弟著交部從優議敘毋庸給予儘先選用該督等  
於梁遠展奠父進京未能明晰聲敘均著交部議  
處欽此

1235 軍機大臣 字寄

兩江總督陶 道光十六年八月十九日奉

上諭新授江西贛州府知府李恩權與該省藩司李  
恩輝係屬兄弟例應迴避贛州府地方緊要著該  
督於江蘇安徽兩省知府內揀員調補所遺之缺  
即以李恩輝補授將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1236 道光十六年八月十九日奉

旨此案獲軍全志在薦佑門該班因同日該班之高  
交出官相戲無用執魂砸傷高交類顯等處實屬  
不法全志著革去獲軍照例杖一百流三千里如  
號三個月不准折責發落即行實發餘依議欽此

1237 道光十六年八月十九日奉

旨此案鍾維潛入公主饗堂內偷竊陳設保物實屬  
目無法紀著解往犯事地方加枷號一年滿日發  
往邊遠充軍該犯父兄子姪著一併銷除再稽欽  
此

1238 道光十六年八月十九日奉

旨此案著交鍾祥親提人證卷宗秉公嚴審按律定  
擬具奏原旨謝由該部照例解往備質欽此

1239 道光十六年八月十九日奉

旨此案著交高澤親提人證卷宗秉公嚴審按律定  
擬具奏抱告懇元著該部照例解往備質欽此

1240 軍機大臣 字寄

署兩江總督林 開浙總督鍾 護理江蘇巡

撫怡 福建巡撫魏 浙江巡撫烏 道光十

六年八月二十日奉

上諭有人奏江浙等省錢法取壞私錢之源一為局

私一為民私江者之寶蘇局鑄頭工匠向以私積制錢五萬餘串分存附近寶庫每屆開鑄運局點驗後仍分藏寶庫所有官銅查銷私錢其價較氏私稍昂浙省局私錢和沙土層地即碎不若氏私之使用民間私鑄虛廢有之有司衙門得規包庇其大夥鼓鑄或於附近海口島嶼之中由商船夾帶進口船底有夾板油飾嚴密查之無蹟故岸卸督挾板出錢一船所帶八百十之多等語國法為因重務私錢充斥百物騰貴家為閭閻之害不可不嚴行督究著兩江閩浙各督撫通飭所屬於開鑄時嚴密查察認真究辦民間所用私錢務究其販自何人轉自何處其真偽私鑄著責成進洋水師各將備實力搜緝倘查有得贖庇縱情弊即行從嚴懲處其具夾板商船如敢夾帶他項違禁物件尤當一律搜查毋許疎懈特此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1241 道光十六年八月二十日內閣奉

上諭伊里布等奏揀員調補首郡知府一摺著照所

請雲南雲南府知府准其以黃士澧調補所遺略通府知府員缺即以富通補授該部知道欽此

1242 道光十六年八月二十日內閣奉

上諭浙江紹興府知府員缺著吳俊民補授欽此

1243 道光十六年八月二十日內閣奉

上諭何凌漢等奏知縣探捕蝗蝻淨盡請開復頂帶一摺直隸密雲縣知縣沈學基前因累報蝗蝻不實曾經降旨摘去頂帶茲據何凌漢等奏稱該員被參之後於所屬各村莊噴壘實能撲除淨盡尚知愧奮沈學基著准其開復頂帶該部知道欽此

1244 道光十六年八月二十日內閣奉

上諭御史富海洪阿奏司員袁庸懇裁一摺著禮部堂官明白回奏欽此

1245 軍機大臣 字寄

定遠左副將軍保 道光十六年八月二十一

日本

上諭本日據該書奏侍衛台吉互相揭控已明降諭旨將巴噶爾特克什布喇克巴等暫行革職交保呂前往會同該書審訊此案事關外交既據控有縱賊賊犯私放羊馬等情不可不嚴行查辦該將軍等惟當親提人證卷宗秉公澈底根究毋稍徇徇將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1246 道光十六年八月二十一日內閣奉

上諭該書奏請將互相揭控之侍衛台吉暫行革職審訊一摺此案科方多屬實呢遂拉胡卡倫班倫理台吉巴噶爾與獲軍校特克什布及四等台吉喇克巴以縱放賊犯私放羊馬等情互相揭控經該大臣提訊供情仍各狡展必應澈底根究以成信據已囑上爾特克什布喇克巴均著暫行革職交保呂等會同明幹司員前往詳查多會同該大臣親提人證卷宗詳細研訊按律定擬具奏事關外交該將軍等務當秉公審辦毋稍含混該衙門知道欽此

1247 道光十六年八月二十一日內閣奉

上諭前因奴類等奏查明承修陵工之署知州請換去項帶等語湖北沔陽州境程文各口上年甫經修築一遇汛漲即被漫漲署沔陽州知州張寶榮著先行撤去項帶交該督等責令照數賠修能否辦理妥速再行分別覈辦該部知道欽此

1248 道光十六年八月二十一日內閣奉

上諭前經類奏首逆日久未獲自請嚴議一摺此案逆匪藍正得即藍元曠聚眾倡亂罪大惡極自應嚴拿務獲明正刑誅以彰國法乃屢經降旨飭催事閱半年之久仍以訪緝無蹤為詞是該督飭等謀逆重案前既毫無覺察事後復不能趕緊弋獲實屬玩愒誦經類著先行交部嚴加議處仍著督率地方文武員弁趕緊查拿務獲欽此

1249 道光十六年八月二十一日內閣奉

上諭陳憲奏將京控文宗毅解送廷各有吏部議處一摺江西署康慶縣事宗仁無知縣王楷著降

梁縣和縣去桂南昌縣知縣蔣啓敬言水縣知縣李彭齡署水新縣知縣王國治保署文都縣照例議藩軍併發欵此

1250 道光十六年八月二十一日奉

旨這所悉被控蔣崇棠借之江西代理永豐縣事虛陳縣縣悉于體祐著暫行革職永豐縣丁憂回籍典史方監觀著若提調省文該撫親提鹿訊人證嚴究確情按律定擬具奏欵此

休

1251 道光十六年八月二十一日奉

旨此次漢放礮位著派長齡前往認真校閱其漢放能否合式之處即著查明確實具奏欵此

1252 道光十六年八月二十一日內閣奉

上諭前據給事中許球奏請實力稽查保甲官廳卑劣今步軍統領衙門順天府五城各按地界按戶周查並據福恩等奏請將南苑旗弁民役佃戶居民一體周查等語南苑地界遼闊官房民居復戶

於莊錯雜其間人數眾多良莠不一必務嚴加查察以杜奸萌著照所請嗣後除八旗內務府上知院慶豐司管差人役由該管衙門督率將裏外著嚴飭各門章京三旗苑丞苑副等毋論旗民逐一嚴行訪查比戶曉諭毋許容隱分別功過以示勸懲並欵內務府司官不拘時日前往各庄抽查並取其查員切實甘結呈報戶部備查四處東紅等三門內村莊居民佃戶八圍單夫均係民籍人役除由該衙門出入稽查外著順天府督飭大宛二縣各按地界查明造冊按戶懸掛門牌一體編查保甲鍊克里長保長隨時豫行照門進苑覆覈並將戶口清冊另造一分皆行該衙門以備互相稽查自此明定章程之後務當認真查察實力奉行不得久生懈視為具文欵此

1253 道光十六年八月二十二日內閣奉

上諭向來投遞匿名文書告官人罪從嚴者無例請嚴處所以戢兇而防傾陷近來各省士民習染漸深往往編造歌謠妄符詭管各官肆行詆毀異圖

淺德進經簡派大員前往或交督撫大吏秉公查  
飭兩指各款多屬子虛而為兩指斥者不但聲名  
頓減且牽涉多人紛紛提究案已不待言矣厥  
由來大率懷挾私仇去身地累又處出名控告一  
姓者虛印照捏治罪是以情變百出作為歌詞  
隱匿姓名巧相誣毀即審實無其事全係捕風  
捉影之談亦得置身局外無從究治其罪是此等  
惡賊伎倆實與匿名揭帖無異於風俗人心大有  
聞索不可不嚴行查禁嗣後各直省大吏遇有傳  
播歌謠指斥公事者惟當虛衷體訪嚴密根連並  
究明編自何人一經得者捏寫主名即行容等刻  
案訊明平日有何仇怨照例嚴行懲治無指寬縱  
以省株累而挽頹風將此通諭知之欽此

1254 道光十六年八月二十二日內閣奉

上諭旨據御史沈繼泰四川涪州知州楊上容等賦  
性貪酷及懇缺鑽營物議紛騰各款當降旨交湯  
金刻等嚴密查辦據實奏辦茲據查明楊上容並  
無肆求盜規及藉案需索情事其士民所造歌謠

違款研訊實無傳案派差多至數十人及更換市  
斗斛約得受使費並未給過境扣買轉售凌辱士  
子各情惟伊子楊世偉與涪州周姓結婚定聘在  
未到任以前與為子娶鄰氏女者不同但在任內  
時迎娶究有不合楊上容著交部議處前任江津  
縣知縣吾病之大全州知州郭彬圖於升任後因  
接任之員出差未回以致交代卸事稍遲並非繼  
缺遺留亦無任性驕橫等弊華陽縣知縣現升資  
州知州舒翼地方公事尚無貽誤審理案件時亦  
無倉猝對聽之事郭彬圖舒翼均無不合著毋庸  
議至此項歌謠編自何人既經說明楊上容並無  
其事是有心傾陷情同鬼域竊為風俗人心之害  
不可不嚴行查究著郭山留心體訪務將覆按  
律懲辦以肅吏治而戢刁風餘著照所議辦理欽  
此

1255 道光十六年八月二十二日內閣奉

上諭與德等奏請撥調經費銀兩一摺所有某爾克  
巴爾楚克恩需道光十八年經費銀八萬六千九

兩案著明松頰照數撥解以資搭放該部知道欽此

1256 道光十六年八月二十二日內閣奉

上諭前據花杰奏等敘遊僧劉才修等解案辦官降旨文振益細心嚴究茲據奏訊明劉才修實非武同滋事首逆蓋正將其前在廣西實犯之李和尙即李自雲結伴之僧即洪即吳元林受雇之楊光明等亦俱非從逆夥黨惟該犯等行蹤詭詐著集照擬款追竊文各該地方官嚴加管束毋稍鬆懈萬匪首逆蓋正將即蓋沈獲著仍遵前旨嚴飭各屬並移會鄰省一體飭緊查拿務獲毋任日久稽遲至第六犯犯結據訊非在逃之程孔固惟該犯既供有曾學青進教一語其所稱並未報轉傳徒即難憑信該犯習教之師陳振聚現未獲案更難保非狡供避就著該撫嚴行根究並速飭該管新化縣查拿陳振聚務獲親提究辦毋稍輕縱欽此

1257 道光十六年八月二十二日奉

旨這所奏倉差長解不慎之湖南寧遠縣知縣升任湖北同知陳斌撤差獲解不慎之零陵縣知縣但文春於解案發回紋犯並不慎選委幹兵役小心管解以致中途脫逃實屬玩愒著一併交部議處該撫仍飭接任寧遠縣知縣張邦倫及但文春期限一年嚴緝限滿有無弋獲再行照例分別辦理欽此

1258 道光十六年八月二十二日內閣奉

上諭格奏揀員調補委缺知縣一摺著照所請湖南湘陰縣知縣員缺准其以書紳調補該部知道欽此

1259 道光十六年八月二十二日內閣奉

上諭興德奏揀員升補伯克開單請簡一摺喀喇沙爾布古爾三品阿奇木伯克員缺著以親正之多列素皮升補庫車四品伊什罕伯克員缺著以親正之度魯斯升補該衙門知道欽此

1260 道光十六年八月二十二日內閣奉

上諭前據給事中周開麒奏四川辦理夷匪一案請  
多欵餉予情當旨令潘金釗等查明具奏據  
該西書等奏稱該給事中所奏將軍實與等語  
覆奏各處者夷甚和畏懼設有夷違凡人來京控  
告一即現據著或違通判激暖先後中報該夷送  
出難氏一百餘名該民人徐開林一子三女亦經  
交出是該夷于勒定後甚知畏懼尚屬可信又所  
奏通判徐久道欵將誘出夷人八九十名換出難  
氏李義文即將該負撤任並李義文因道路險峻  
不敢前進遂與馬騰龍聚眾情形捏報戰勝各一  
節夷匪大半性成不加痛勦固知畏懼徐久道與  
拏升危見不合是以將其撤任迨遣兵後前後連  
獲勝仗十餘次勦焚夷匪身累甚多賊勢窮蹙投  
誠乞命始行撤共其賞給夷日項帶袍褂保在撤  
兵之後並無以賞恩事捏報軍功情弊至李義文  
保舉原軍文武負弁四百餘人經該督鄂山欵減  
入奏尚無冒濫其給發軍餉據各該兵丁金稱並  
無每兩折錢八百文之事該督閱兵時必杖擊爛

熟者方有獎賞亦無一到校場即放賞項之事上  
年七月間甘肅三溪夷人與十三地夷人墮斷相  
爭實與十三人夷無涉李義文未經據報中詳業  
已奏奉是該將軍等所奏並非訛詞大帥且該省  
辦理軍需均屬紳士踴躍輸將其無力完竣者俱  
照例免捐是該督等所辦並無不合所有該給事  
中所奏者毋庸議惟前任藩司李義文剛愎自用  
素性奢侈前在裁邊軍營每日遣人遠道取水供  
給日用王凱撤回省意存自滿致相物議其濫保  
多人經該督鄂山欵減李義文對東輒出怨言以  
市己恩實屬乖張任性著交部嚴加議處欵此

1261 道光十六年八月二十二日內閣奉

上諭湖南常德府知府員缺著派志補授欵此

1262 奏  
查湖南常德府係衝繁難委缺

1263 軍機大臣 字寄

山西巡撫中 道光十六年八月二十二日奉



上諭有人奏山西現著太原府知府珠湖前在大同府任內縱容家人在署外起蓋房屋於太平樓東中同樂米等店齊行霸市買賣空民心公憤痛帖告白有該府得贖一萬五千兩若累百姓之語上年八月間該王派成事端該處有民至痛心喚冤玉石獅頭上帖三張之語當經大同鎮總兵收得一紙該府自收去一張委府任歷考稱辦好查實有其事奉該府調護雁平道不至復作又十四年十一月間赴豐鎮踏勘開墾地畝得五家店遺姓灘派各地戶銀一千六百兩又十五年夏間庚考度靈縣文童得銀四百兩賣給案首賈斌文雖錄籍仍然上取又十三年署歸綏道任內要部氏子女為妻被京中債主代州人張姓藉端挾制該府將妻給與家丁李姓立將張姓債項還清又十四年三月間遣人至直隸蔚州買得一妻未及半月輟書與瓦族妻父王即押令領回又十五年六月間為管家人陳姓刻廣靈縣買部氏妻為妾偶不念意令原買之家人領回判令歸還身價計三年內共娶七妻皆不久即遺去又愛養貓狗冬日聚為五色袖衣

派收專管公止山令李徇出接街巷環視共相體譯又自署首府後頗指氣使請李高興發審局委員登時散盡所存者紙空補並邑縣劉應劉應品一人自三月二十一日起至今未能會結一葉積塵七八十包有碎葉可查又大原府委員飯舍向係首府指雇自備前任知府嚴敬署藩日於各府州縣彈流一十二百金在養廉內坐扣人免係藩札不放多言令審案無人而彈扣如故各等語知府為方面大員如果性情乖僻聲名平常自應從嚴參辦以儆官邪著中殿賢破除情面認真查明據實嚴參倘稍徇隱或別經發覺該撫不能當欺飾重咎也將此諭令知之欽此遵

奇寄信前來

1264 軍機大臣 字寄

山西學政江 道光十六年八月二十三日奉  
上諭有人奏山西現著太原府知府珠湖前在大同府任內縱容家人在署外起蓋房屋於太平樓東中同樂米等店齊行霸市買賣空民心公憤痛

貼告白有該府得贖一萬五千兩苦累百姓之語  
上年八月間幾至激成事端該處有民至病心喚  
鬼王石獅頭上帖三條之語當經大同鎮總兵收  
得一張該府自收去一張委府經歷李翔麟訪查  
實有其事李該府調獲歷平道不至發作又十四  
年十一月赴堂鎮路路勘閱地畝得五雲店邊  
姓攤派各地戶銀一十六百兩又十五年夏間  
歲考展官縣文童得銀四百兩查徐森首獲試文  
錄錄舊仍然上取又十三年署歸綏道任內娶部  
氏子女為妾被京中債主代州人張姓指端挾制  
該府將妾給與家丁李姓立將張姓債項還清又  
十四年三月間遣人至直隸蔚州買得一妾未及  
半月親責幾死誘妻父至郡押令領回又十五年  
六月間為管府家人陳姓到廣靈縣買郭氏子女  
為妾偶不合意令原買之家人領回勒令賠還身  
價計三年內共娶七妾皆不久即遣去又愛養貓  
狗冬日為製五色絨衣派奴專管公出必令帶狗  
出接街巷環視共相喧嘩又自署首府復爾爾氣  
使諸事高與發審局委員登時數置所存者祇坐

補安邑縣劉應昌一人自三月二十一起奉令  
未能審結一專積廢七十八起有據簿可查又太  
原府委員飯食向係首府捐廉自備前任知府滕  
嚴著藩於各府州縣攤派一千二百金在案應將  
坐扣人見係藩札不敢多言今審委無人而攤扣  
如故各等語知府為方面大員如果性情乖僻聲  
名平常自應從嚴參辦以儆官邪著汪某將各  
情節嚴密訪查確實具奏因不可掩飾消弭化大  
為小尤不得與地方官商量查辦違漏消息倘有  
不實不實到經發覺惟汪某是問諫之將此諭  
令知之欽此道

奇案信前采

1265 道光十六年八月二十三日內閣奉

上諭漕糧為天庾正供節經降旨令有漕各省督撫  
嚴飭所屬早兌早開赴期波黃不許稍有違滯原  
期疏通迅速則回空可按例限不致貽誤新漕乃  
近年重運漕船往往藉詞耽延不能如期抵壩以  
致歸次與受兌俱遲又安楚其及早解規耶現在

節交寒露水勢漸消所有回空各省幫船連橋南下著該漕督及沿途各督撫嚴行偵備無分晝夜衝尾前行不准片刻停泊應獎以速補運至來年辦理新漕尤當依限免開航於黃水木漲之先趕早完竣著有漕各省督撫嚴飭各該糧道等先早開總令於四月初十日以前全數備至清江起程抵壩以便渡黃北上無許稍有延誤倘敢意存玩愒漫不經心仍致阻事周章有逾期限定將漕督及各督撫嚴行懲處決不寬貸將此通諭知之欽此

1266 道光十六年八月二十三日奉

旨此案聚眾說詐倉戶錢文之匪徒怪服劉等二十二犯著文刑部嚴行審辦其未獲之回回李三店李三店楊老立兒李三賽伙五二榮劉白印劉曙于超慶王鈞即王俊等八名著步軍統領衙門順天府五城一體嚴拿務獲歸案審訊欽此

1267 道光十六年八月二十三日奉

旨朱爾著仍留學政之任欽此

1268 道光十六年八月二十三日奉  
旨玉山著交刑部會同宗人府嚴訊欽此

1269 道光十六年八月二十三日奉

旨章芝亭著解交署兩江總督林則徐歸案審辦欽此

1270 道光十六年八月二十三日奉

旨此案著交楊名馳親提人證卷宗秉公嚴審按律定擬具奏原告王紹詩該部照例解往備質欽此

1271 道光十六年八月二十四日內閣奉

上諭戶部奏請飭催粵省雜款銀兩各直省徵收正雜錢糧通限次年造報例應儘收催解不得徵存屬庫數暫虧鄂茲據戶部查明廣東省田房稅羨自道光十年起至十五年止欠解銀三十七萬八千一百六十一兩零落地稅羨自十一年起至十五年止欠解銀三萬七千九百一兩零關鹽盈餘自六年起至十五年止欠解銀十萬六千三百零

耗米變價及變價盈餘自嘉慶十九年起至道光四年止徵存屬庫欠解銀八萬一千四十六兩零。又自六年起至十四年止徵完米報約變解銀十六萬零以上各款均應按解交乃應時已久積款愈重成何事體且恐稽延日久愈闕邪移虧短之漸著兩廣總督慶永巡撫嚴飭該藩司速將徵存屬庫欠解銀七十六萬餘兩一律勒限催提分別題咨報部查辦核撥撥目備註此次嚴催之後仍復延不報解即將經手之員據實嚴參以警延玩又該省南澳等鎮裁汰外海船兵馬匹及裁汰軍標官兵裁存米石應變價銀自道光十二年暨四年以後各有米石變價之款又善備回糧經費案內裁兵裁存米石自道光十二年起總未變解數計截至上年共應變解米四萬一百四十五石零業於每年兵馬奏銷案內開除約計變價入撥銀八萬餘兩著該督撫嚴飭各屬變解進報數額仍查取變解進延及督催不力職名送部嚴議欽此

1272 道光十六年八月二十四日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠銀糧令各該將軍所戶督撫等查明開單具奏據湖廣總督訥爾莊額等將湖北省各州縣衛道光十年以前民欠軍欠及欠各項銀米數石數目查開確數呈覽當交戶部彙覆茲據查明具奏所有湖北省各州縣衛民欠軍欠未完嘉慶二十三年起至道光十年止因災帶徵清完完壓坍沒旗地丁起運存留驛站驛料正耗共銀一百三十五萬三千二百四十五兩零道光十年以前民欠佃欠產保學租等項並借給籽種口糧共銀二萬九千一百六十六兩零報三萬一千五百四十四石零南糧項下民欠未完因災帶徵清完完壓糶徵而種正耗並批兌清糧米九萬七千八百八十五石零水脚銀一萬三千二百四十三兩零又清項各款民欠軍欠未完道光十年以前因災帶徵清完完壓糶徵清糧正耗米十萬二千三百八十三石零水脚銀一萬三千九百六十一兩零隨清軍兵開

丁銀五萬三千七十兩零均著加恩全行豁免其  
經費項下民欠軍欠未完嘉慶二十三年起至道  
光十年止攤徵借修陔河河道工費銀二十五萬  
二千九百五兩零並著加恩一體豁免該督等即  
刊刻謄黃通行曉諭并照例按戶付給免單嚴禁  
吏胥影射需索等弊務期實惠及民用副朕推恩  
布聞至意餘依議欽此

1273 道光十六年八月二十四日內閣奉  
上諭錦莊等奏

陵寢殿座應修理一摺並另片奏請估修園寢樂堂  
各工等語所有

考陵

隆恩殿及多羅貝勒園寢內樂堂等處各項工程著派  
奕額裕誠前往敬謹查估奏明辦理欽此

1274 道光十六年八月二十四日奉

旨這兩春緝捕不力之河南柘城縣知縣景順於重  
犯劉魁劉敬先越獄以後已越年餘仍未弋獲實

屬怠玩著即撤任開缺留於該地方協緝俟限滿  
能否全獲再行照例辦理該部知道欽此

1275 道光十六年八月二十六日奉

旨湖南巡撫著加恩改為革職留任仍著督率地方  
武員弁嚴密緝拿匪徒嚴緝務獲究辦該督於此等  
謀逆重犯自應趕緊弋獲以正刑誅倘再延誤致  
令逆匪大積頗戾必於該督重處不貸欽此

1276 道光十六年八月二十六日奉

旨此崇生精廩兵部郎中宣勇二部員外郎程川佑  
於該衙門經紀虛敬等吏名復充役滿不遵已有  
應得之咎乃結果復復稟請扣留解送實屬違例  
宣勇程川佑均著照部議降三級調用毋庸議該  
部該部等吏名復充所有歷任不行查出之生  
籍應并保免之通州知州均著倉場侍郎查取職  
名咨部照例辦理欽此

1277 道光十六年八月二十六日奉

旨李茂文著照部議革職欽此

1278 道光十六年八月二十六日奉

旨霍清阿保通均著降三級留任毋庸查覈該部  
歸竊竄寬容照著各罰職任俾一年准其放銷欽  
此

1279 道光十六年八月二十六日奉

旨邵永福著降一級留任不准放銷欽此

1280 道光十六年八月二十六日內閣奉

上諭劉斯煊奏請將縣令勒休俸補一摺山東撤任  
泗水縣知縣李智培年力就衰懇請撤作著勒令  
休致長山縣知縣魏良曾辦事流鈍惟年力正強  
著以府經歷縣丞俸滿歸部給選該部知道欽此

1281 道光十六年八月二十六日內閣奉

上諭劉斯煊奏紳民捐資挑修濰城河等工完竣請  
予獎勵一摺著吏部議奏此項工程銀兩係官民  
捐辦著先其進再核銷欽此

1282 道光十六年八月二十七日奉

旨此案山東已革知縣恩福之子監生德春以代父  
鳴冤等詞起都察院刑款控告著交刑部議奏該  
人證卷宗來公堂轉即將至內所指各款逐一研  
訊務得確情據律定擬具奏德春著該部照例解  
任備質至恩福送日清折一案工年五月間業經  
奏結迄今一年有餘該革員兩本回籍其因何送  
留該省之處著該撫先行查明具奏欽此

1283 道光十六年八月二十七日奉

旨此案著交萬壽親故人証卷宗來公堂審律定  
擬具奏原書何文元該部照例解任備質欽此

1284 道光十六年八月二十八日內閣奉

上諭陶澍奏請將銷鹽不力之知縣摘去頂帶一摺  
銷鹽首在解私地方各官未能隨時認真巡緝官  
引自可疏通茲據該督查明江西樂平德興二縣  
銷引不及一分殊屬疏懈樂平縣知縣彭壽山著  
德興縣知縣王蘭均著摘去頂帶勒令督銷倘再  
不知振作即行嚴奏示懲該部知道欽此

1285 道光十六年八月二十八日內閣奉

上諭中營賢奏揀員調補者會知府一摺著照所請山西太原府知府准其以珠瀾調補所遺大同府知府員缺即以湛厚光補授該部知道欽此

1286 道光十六年八月二十八日內閣奉

上諭中營賢奏揀員調補恭摺一摺著照所請山西撫標中軍參將員缺准其以朱長春調補該部知道欽此

1287 道光十六年八月二十八日內閣奉

上諭鄂廷楨等奏請將規避差休之知縣革職一摺廣東增城縣知縣胡瑞書於臨時仍強坐業改判為滿缺故著等飭查即乘請休致願休有心規避胡瑞書著即革職以示懲儆該部知道欽此

1288 道光十六年八月二十八日內閣奉

上諭瑚松額奏揀員調補副將一摺著照所請陝甘督標中軍副將員缺准其以慶長調補該部知道欽此

1289 道光十六年八月二十八日內閣奉

上諭據御史和豐等奏在京各邦院大小衙門凡有閑餘發數以及勸文文餉庫項一應卷宗定例俱於每年八月內送河南道照例現屆屆期各衙門送刑者甚屬寥寥著該部各該衙門迅將應利稿卷逐案檢齊移送河南道以便查對至明年二月按期領卷亦不得逾限遲延致有積壓欽此

1290 道光十六年八月二十八日內閣奉

旨張六印張瑞著著文刑部審訊欽此

1291 道光十六年八月二十八日內閣奉

旨台明阿班金泰巴彥奏稱衣領布色勒布供著文刑部審訊欽此

1292 據華學源譯得西番拉提那字書

小冊係西洋排印濟亞國耶穌會修士沙格葛方濟格與利馬豆辯論中華世俗禮儀大冊係西洋天文算法第二本內載

開石規矩

製造兵房規矩

運石用天秤法式

製造水法規矩

製造海船法式

製造地球規矩

畫西洋水路圖法式

算水路里數法式

製造千里眼法式

西洋線法畫規矩

畫地理圖規矩

製造火鏡規矩

<sup>1293</sup>道光十六年八月二十九日內閣奉

上諭那尼積等奏請將故控之千總並控票之署守備單職密辦一摺此案廣西永寧營兵丁劉日坤等以該營千總沈正列方糧款糧勒索款文等情列款具控復據署守備麻榮慶於糧書王守日等稟請補印並不查明遠信兵丁再源控票之詞即

以沈正列舞弊並印等情舉行稟報虛實均應澈底根究以成信讞著永寧營守備換標左營千總麻榮慶永寧營城守汛千總沈正列候著革職文那尼積等親提全案人證卷宗並飭等在途之永名列票逆款研訊務將確情分別接伴定擬懲辦毋稍徇縱該部知道欽此



兩廣總督鄧 廣東巡撫卞 傳諭粵海關監  
曾文祥 道光十六年九月初一日奉

上諭本日據鄧廷楨等奏該處地元之所奏效錄事  
洋一摺據稱傳到怡和行商伍紹榮等人家及代  
製木箱各匠人偶別展說並查起帳簿逆如裁對  
每半年店所造大小木箱自數千隻至一二萬隻  
不等不止任姓一行為然所造木箱大約係裝貯  
茶葉湖絲等貨之用裝銀之箱均係分往閩浙安  
徽採買貨物並非運錄出洋其夷人餘剩花銀例  
准帶三成回國亦用木箱裝貯皆係木匠代製僅  
紹榮查無勾串已覺情弊等語該銀出洋久年例  
某全在地方文武各官認真查察方能杜絕通商  
現在雖據該督等查明木匠代製箱隻係為裝貯  
貨物並非採買各貨及夷人自帶餘銀之用惟每年  
每店所造既有盈千累萬之多難保無不法奸徒  
從中影射巧為裝點情形暗中偷漏致銀情事該  
督等惟當隨時隨地實力稽查倘有前項弊端一  
經訪有確據立即嚴拿重懲不得日久視為具文

致滋寬假以肅功令而杜弊源將此諭知鄧廷楨  
卞項並傳諭文祥和之欽此遵  
旨寄信前來

兩廣總督鄧 廣東巡撫卞 傳諭粵海關監  
曾文祥 道光十六年九月初一日奉

上諭本日據鄧廷楨等奏該處地元之所奏效錄事  
洋一摺據稱傳到怡和行商伍紹榮等人家及代  
製木箱各匠人偶別展說並查起帳簿逆如裁對  
每半年店所造大小木箱自數千隻至一二萬隻  
不等不止任姓一行為然所造木箱大約係裝貯  
茶葉湖絲等貨之用裝銀之箱均係分往閩浙安  
徽採買貨物並非運錄出洋其夷人餘剩花銀例  
准帶三成回國亦用木箱裝貯皆係木匠代製僅  
紹榮查無勾串已覺情弊等語該銀出洋久年例  
某全在地方文武各官認真查察方能杜絕通商  
現在雖據該督等查明木匠代製箱隻係為裝貯  
貨物並非採買各貨及夷人自帶餘銀之用惟每年  
每店所造既有盈千累萬之多難保無不法奸徒  
從中影射巧為裝點情形暗中偷漏致銀情事該  
督等惟當隨時隨地實力稽查倘有前項弊端一  
經訪有確據立即嚴拿重懲不得日久視為具文

總保各商並無偷漏紋銀甘結備案倘有私用款  
銀購買失貨及向夾商兌換洋錢者特總保各商  
及交易之商從重治罪任數倍罰充公鋪戶居民  
有犯加等問擬並嚴飭守口自升實力稽查毋許  
包庇故縱並着該督等即行文移知沿海行使洋  
錢各省督撫務須嚴飭所屬曉諭商民人等嗣後  
行使洋錢必以成色分兩為憑不得計枚定價其  
以洋錢易換故銀或以故銀易換洋錢無論兩銀  
鏡面每百兩止准洋錢補故銀之水不准故銀轉  
補洋錢之水如此明定限制惟當實力奉行認真  
查察以平市價而杜弊端將此諭知鄭廷積祁項  
並傳諭文祥知之欽此遵

旨寄信前來

硃

<sup>1296</sup> 道光十六年九月初一日內閣奉  
上諭直隸永定河道員缺著山魯克新補授欽此  
曹道徐受荃調補西遠直缺著許球補授

<sup>1297</sup> 奏  
查直隸永定河道係繁難要缺謹

<sup>1298</sup> 道光十六年九月初一日內閣奉

上諭御史積森條員升署海疆要缺來將一摺著照  
所請廣東大鵬管帶准其以李賢升署仍候該  
員服闋扣滿年限再請實授照例送部引見該部  
知道欽此

<sup>1299</sup> 道光十六年九月初一日內閣奉

上諭奕湘等奏營房失火請將疏防各員交部議處  
一摺札東塔營房失火炮官兵起緊撲救該管各  
官究屬疎於防範起管與泰翼長履疎防當即據  
布塔克與阿桂林馳騎枝據他布同福俱著交部  
分別議處餘依議欽此

<sup>1300</sup> 道光十六年九月初一日內閣奉

上諭帝恆奏請將失察書吏虧蝕之章宗及部議處  
一摺前任阿克蘇糧餉章宗覺羅德紳於書吏王  
綺虧蝕官銀一百一十合毫無覺察德紳著交部  
照例議處欽此

1301 道光十六年九月初一日內閣奉

上諭昨日內務府帶領引見就將被參項一缺郎中  
烏明阿景福翁未到犯本日據禮恩等請將該員  
等交部議處並自請察議內務府郎中等員而以  
差使尚重與各項營員究屬有間其引見時仍爾  
步射生疏尚可從寬免議所有烏明阿景福五福  
恩等應得處分俱著加恩寬免至各項營員執送  
差使縱瀆慎加俸選擢有似此步射生疎必行照  
例懲處決不寬貸欽此

1302 道光十六年九月初二日內閣奉

上諭陝西督糧道員缺著劉濟瀾補授欽此

1303 查陝西督糧道係衝繁要缺謹  
奏

1304 道光十六年九月初二日內閣奉

上諭陝西陝西安道員缺著李德成補授欽此

1305 道光十六年九月初二日內閣奉

上諭陝西西安府知府員缺著青麟著黃哲撫於通省  
知府內揀員調補所遺員缺著郭維選補授欽此

1306 臣等查陝西西安府知府一缺現有例應坐補  
原缺之病痊知府黃麟一員合併陳明謹  
奏

1307 道光十六年九月初二日內閣奉

上諭楊名馳奏奏道員著理臬司任情拔劑一摺陝  
西督糧道李廷錫著即革職交湯金烈又履查明  
審訊如另有別項欺弊即行從嚴奏辦欽此

1308 道光十六年九月初二日內閣奉

上諭御史鄭世任奏餉銀到京守候半年未據投文  
一摺著囑天府查明具奏欽此

1309 軍機大臣 字寄

兩江總督陶 安徽巡撫色 道光十六年九

月初三日奉

上諭據御史陶士霖奏開山種枝病屢歲并請飭查禁一摺江南地方膏腴沃壤若桐廬開山種枝日漸加增土藪石辟大雨衝刷盡納於下游河港之中年復一年必致淤塞河道且桐民係係外藉蹤跡難測匪奸富遠難保不滋生事端著陶澍等嚴飭所屬各州縣於桐民墾種處所設法嚴密管束或寬予期限令其漸回本鄉其未墾開墾之山著即嚴行查禁務當通盤籌畫毋令日久滋弊是為至要原摺著鈔給閱看將此各諭令知之欽此

此道

寄信前來

<sup>1310</sup> 道光十六年九月初三日內閣奉

上諭江蘇揚州府知府負缺著雷文煇補授欽此

<sup>1311</sup> 查江蘇揚州府保衛禁疫難最要缺該

奏

<sup>1312</sup> 道光十六年九月初三日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請飭項修築塘工一摺本年浙江海塘因霍狀大汛潮勢洶湧兼之東防共汛一帶石塘為南潮會合頂衝之地以致塘身埝裂就地據該撫查明情形險要亟應修築所有該塘魚字號起立理字號止開共石塘工長六十九丈八尺著即全換新格照例建復魚麟石塘以資捍衛除應扣首辦工料銀外共約需例價工料銀一萬五千六百三十四兩零准其在於大工案內節者存貯司庫項下先行照數借給趕辦俟收齊商息即行歸款該撫仍飭該道督率廳備加式修築務令工堅料實毋任草率偷減工竣覈實驗收照例保固該部知道單併發欽此

<sup>1313</sup> 道光十六年九月初三日內閣奉

上諭花杰奏請補煙庫要缺同知一摺著照所請廣西太平府龍州同知負缺准其以盧昆鑾補授欽此

部知道欽此

1314 道光十六年九月初三日奉

旨二等護衛保碩步軍統領衙門委署主事葉怡武  
英林均著解任交刑部歸案審訊此案肅親王府  
輔天萬三等閒局聚賭案榮亨嚴發護衛保碩既  
有管束之責自應指名送出以憑懲辦乃於奉文  
指等之犯數藉藉差革逃無從查傳為詞顯係有  
心捏飾據案仍着肅親王敬敏先將萬三等交出  
再跟踪指名指拏倘復隱匿推卸定從嚴懲辦其  
餘未獲各犯著步軍統領衙門順天府五城一體  
嚴拏務獲至案內供出太監張連忠有同賄情案  
著內務府即將該太監送交刑部歸案審辦欽此

1315 軍機大臣 守寄

熱河都統高 道光十六年九月初四日奉

上諭據劄海泰蒙古人五拉重索請將辦理不善  
事致控報之扎薩克畢讓一摺已明降諭著將該  
扎薩克先行交理藩院嚴加議處其此案上照特  
扎薩克貝勒那遜烏勒濟於蒙古人文涉事件  
不行遇事核實至違嚴懲難以任事等自行燒燬

店在拉拔實屬先修既據烏溥查明審訊已證供  
認明確者嚴飭該貝勒將供中情弊悉應之核實  
查明呈送歸案審辦分別按律嚴加治罪毋稍輕  
縱至核實自係併統一節是台屬實再行確切查  
明不許行托了事特此諭令知之欽此遵  
吉寄信前來

1316 道光十六年九月初四日內閣奉

上諭朕於明年三月十三日由圓明園啟鑾恭奉  
皇太后詣碧山拈香禮成後朕閱視明陵十九日回  
圓明園所有應行事宜著各該衙門照例敬謹豫  
備欽此

1317 道光十六年九月初四日內閣奉

上諭此次武會試派出監射王大臣惠郡王綿綸著  
與禧恩在辰字園慶郡王綿慈著與阮元在宿字  
園欽此

1318 道光十六年九月初四日內閣奉

上諭御史陶士璣奏請飭派司員清查部存卷業以

防拍竊一摺著內閣六部理藩院都察院議奏欽此

1319 道光十六年九月初四日奉  
旨薩齡阿著以委署叅軍參領降補欽此

三卷八

1320 道光十六年九月初四日內閣奉

上諭色卜星顏奏滅徒縱犯援例贖罪一摺吳茂九等准其贖罪欽此

1321 道光十六年九月初四日內閣奉

上諭高鴻泰奏蒙古民人互控重案請將辦理不善事獲控報之扎薩克屢議一摺土默特扎薩克貝勒那遜烏勒濟於蒙古民人交涉事件不將滋事旗員呈送嚴懲轉送無據之詞率以程實等自行燒燬房屋等情捏詞呈報實屬荒謬著先行交理藩院嚴加議處欽此

1322 軍機大臣 字寄

葉爾先泰贊大臣興 咨什噶爾額駙大臣壽

道光十六年九月初五日奉

上諭本日據將依順保等奏前任咨什噶爾額駙葉爾先泰交代虧短銀糧一摺已另降諭旨文興德等另奏行審辦奏違擬備貯實款絲毫不得擅動該宗務處任內何五虧短竟有四萬之多著與德會同查核因任內書吏人等嚴行審辦并七民土得名等先後具呈咨什噶爾德兵劉允忠假兵欺氏等情事聞違缺十後民事虛實皆應嚴究著一併查明據實辦理毋得稍有瞻徇致有實不虛行以各給令知之欽此

吉雲信前奉

1323 道光十六年九月初五日內閣奉

上諭江蘇揚州府知府負缺著趙德滿補授當文撰現在患病著仍回編修之任欽此

1324 道光十六年九月初五日奉

旨江西南城縣知縣黃宗憲著先行革職交著英來士考會同陳鑾提同各案人證展訊確情定擬具

奏前呂府經歷宋良輔於案內要證並不小心防範致令該革生鄧元元自盡非尋常疏忽可比難保無有役人等凌虐情弊宋良輔著即革職一併嚴審務得實情毋稍寬縱欽此

1325 道光十六年九月初五日奉

旨這所奏倉差不慎之山西絳縣知縣周均徐海縣知縣張春臺於解審擬絞重犯並不慎選差役小心押解以致該犯中途脫逃殊屬玩忽俾著交部照例議處仍飭嚴緝逃犯許如雷並長解慕鳴和等務獲究釋其短解兵丁人等有無賄縱情弊著該府從訊按律懲辦欽此

1326 道光十六年九月初五日內閣奉

上諭伊犁鎮總兵著任貴邦調補三年屆期即著兵部具奏嗣後該總兵一缺仍照舊例於五年俸滿時請旨開缺欽此

### 硃

1327 道光十六年九月初五日內閣奉

上諭特依順保等奏著明擬職致斃命案一摺此案情節著刑部數議具奏欽此

1328 道光十六年九月初五日內閣奉

上諭特依順保等奏種餉章京交代虧蝕銀糧一摺喀什噶爾前任糧餉章京福奎著先行解任交與德壽昌會同嚴行審辦按律定擬具奏欽此

1329 道光十六年九月初五日內閣奉

上諭特依順保等奏揀員升署都司守備開單請簡一摺伊犁已然營都司員缺著擬正之右營守備展武升署所遺員缺著擬正之中營千總李茂春升署仍照例於六年俸滿後再請實授並令該都司先行赴部引見該部知道欽此

1330 道光十六年九月初五日內閣奉

上諭吳經等奏請將承放參票通延之謀民地方官交部議處一摺或京防守尉依克精額著廣字錄

事義州知州成忠於額放參果姓故至七十九張之多已屬辦理不善又逾奏放之期始行呈報尤屬延宕保充精額成忠均着先行文部議處仍着嚴飭該府縣勒限於九月以前趕緊設法籌放務令俾數全完以符定額倘仍有延欠即行核實嚴參辦理欽此

1331 道光十六年九月初六日內閣奉

上諭林則徐等奏知縣陳詩政教一摺江蘇即用知縣李登自揚才力不勝民社願就教職該員係進士出身著准其改就教職由部照例選用該部知道欽此

1332 道光十六年九月初六日內閣奉

上諭刑部議奏御史成觀空奏佐雜復受被劾反噬圖報請分別另案辦理一摺佐雜微員因案被劾捏情控告莫圖挾制最為官常之害道光十年三月間曾經降旨官民人等告訐之案如係懷扶和警以圖報復者不問虛實立案不行原所以防奸

偽而肅官方近來此風猶未盡泯著通諭各直省督撫府尹等嗣後凡計典甄別及一切緣事被劾人員除所告之事即係被劾之事准其呈明辦理外其有被劾之後懷挾私忿檢拾察覈官員別項欺誣控告以圖報復者仍舊例不問虛實立案不行即所控之事關係重大不容寬置該督撫亦止可於立案不行復嚴密訪另行究辦毋得同時恭疏改避扶制瞻徇之漸餘依議欽此

1333 道光十六年九月初六日奉

旨此案着交鍾祥親提人證卷宗東公嚴審按律定擬具奏原告林綱該部照例解往備質欽此

1334 道光十六年九月初六日奉

旨此案着交經顏布親提人證卷宗東公嚴審按律定擬具奏原告監生劉清潔該部照例解往備質欽此

1335 道光十六年九月初六日奉

旨查眉張三鳳服李二俱者交刑部審訊欽此



1336 道光十六年九月初七日內閣奉

上諭桂良奏請請停分發佐雜一摺河南省試用佐雜人數過多著吏部即將通判布政司經歷府屬州同布政司都事五隸州州判府經歷縣丞主簿從九品未入流等十項人員暫停分發河南俟查明何項疏通再行報部分發欽此

1337 道光十六年九月初七日內閣奉

上諭前據御史鄭世任奏餉銀到京守候半年未據提交當文順天府查明具奏茲據何凌漢等奏稱廣東解餉委員李盛華中途病故由直隸派員代解到京以貯大典兇年難庫俟原省接解官未京一同赴部交納係屬別辦理等語各省解餉委員如遇中途事故應如何妥速辦理之處著戶部妥議章程具奏欽此

1338 道光十六年九月初七日奉

旨章廷榜著照例迴避以簡缺道員歸部銓選欽此

硃

1339 道光十六年九月初七日內閣奉

上諭河南糧鹽道員缺著蔣明遠補授欽此  
所遺廣東南韶遠道員缺著楊九畹補授  
其所遺之缺著易鏡清補授欽此

1340 查河南糧鹽道係衝繁中缺謹

奏

1341 道光十六年九月初七日奉

旨此次獲送金棺已派散秩大臣承志繼善前往即著沿途照料約束一切副都統毋庸簡派欽此

1342 軍機大臣 字寄

欽差尚書者 奉 道光十六年九月初八日奉

上諭據鄂廷賴奏廣東莞縣盧尹氏違犯赴京呈控一案現經前次隨帶司員解任江蘇松太道陽金城崇軒伊等訊問此案案情毫無錯誤今聞崇軒氏擬違悔呈持前供盧二次著改作盧大老翁又聞盧應翔設法向書吏將欽差面交肇慶府珠

爾抗阿附卷備查之字另行更換附在卷內以該  
隨帶司負挾以為證致該府疎爾抗阿稟稱稱  
道光十四年九月內欽差審案完竣隨將文卷已  
封堅固實交該府照明委員解省投收並無欽差  
而文書並附卷備查之事等語該道陽金城前於  
崇結之後即旋起程回京現亦未到粵者何由查  
知信桂抽換既據稟稱此案之平反由於換信之  
所致自應澈底查辦以期水落石出著有英等到  
粵後即將該道所稟各情及該督行查互異之處  
秉公查辦逐一訊問明確據實具奏毋稍諱飾以  
成信據而副委任原摺著鈔給閱看將此諭令知  
之欽此遵

旨寄信前來

1343 軍機大臣 字寄

閩浙總督鍾 道光十六年九月初八日奉

上諭有人奏福建省城本年六月二十九日津門樓  
地方民人赴館內突有駐防兵丁數人乘醉肆鬧  
因訛詐不遂將家伙全行毀碎痛打而去該兵丁

等四將誤界又率十餘人持械毆至該民人揪住  
兵丁一人送縣該兵丁又糾集數十百人手持刀  
槍蜂擁而來將鄰近形勢燭燭去當時人心畏  
懼上至仁塔街下至法海寺西至柏堆廟東至高  
節里鋪戶全行罷市居民避匿路絕行人聞縣知  
縣運將所送兵丁開釋該駐防始將所誘無辜民  
人放出次日百姓仍不敢開舖該縣再三勸諭始  
得照常開設等語著會重地文武衙門呈報恭奉  
果能隨時防範何至有械鬥重案且津門樓地方  
與近衙門家近又與將軍都統各署相去咫尺  
何以白晝之間駐防兵丁三次糾眾持械擅管各  
官既不能履行彈壓又將所送之人不問曲直互  
相釋放倘實有其事殊屬不成事體轉解前經到  
任身無所措其因獲著即親提此案人證卷宗確  
切查明秉公究辦如果該署將軍張仙保於兵丁  
私自出旗所誘擾鎮民之案有心袒護不肯認真查  
究聞縣知縣意存畏葸含混了事巡撫魏元烺於  
兵民立門重情不能嚴拿懲治一味姑容著即據  
實會同卷奏毋稍諱飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1344 道光十六年九月初八日奉

旨此案著派大學士軍機大臣會同刑部提系入證  
嚴行審訊欽此

1345 道光十六年九月初八日內閣奉

上諭林則徐等奏請借項疏築河道役工一摺江蘇  
鹽城縣境內皮大河年久淤墊壘境內順陵河  
及運北之太行陵間役務缺壞該署督等奉勅俱  
係必不可廢之工自應乘時趕緊疏築所有鹽城  
縣估需土方夫工銀四萬八千三百九十三兩零  
鹽縣估需土方夫工銀二萬五千五十二兩零著  
准其於司庫庫銀雜稅漕價等款銀內照數撥給  
所借銀兩著自道光十七年起鹽城縣分作五年  
鹽縣分作六年各於受益民田攤徵還款該署督  
等務當責令各該縣趕緊集夫挑築工竣嚴實驗  
收核部知道欽此

1346 道光十六年九月初八日內閣奉

上諭林則徐奏江南營員不敷委用請撥發恭將一

員遊擊二員以資差委著兵部于曾任實缺出師  
在部候補候選人員內照例揀選帶領引見候旨  
發任欽此

1347 道光十六年九月初八日內閣奉

上諭那延模奏族貧親老情願回京當差一摺廣西  
濟州營副將托克托布著准其回旗仍給舊送部  
引見欽此

1348 道光十六年九月初八日奉

旨注所奏江蘇甘泉縣知縣盧元良於廢投審訊之  
該縣縣杖楊沐已越燕旬尚未解委實屬疎玩著  
先行摘去頂帶交該署督責令勒限一月趕緊結  
案到案倘仍無獲即行撤任奏料餘休議欽此

1349 道光十六年九月初八日內閣奉

上諭奕湘等奏請添設官員一摺龍巖縣地圍嚴奉  
祀事宜該處官役不能兼顧著添設內務府主事  
一員副內務府一員以專責成餘著照所議辦理  
該衙門知道欽此

1350 道光十六年九月初八日奉  
旨明倫英誠文蔚傳著留任二年欽此

1351 道光十六年九月初九日內閣奉

上諭黃勇滋奏請永杜清和獎端一摺清和水手沿  
途滋事戕賊積習本年新定章程嚴行查辦自江  
南以至山東天津等處所過地方尚為安甯其因  
空幫船復經降旨飭令清省及經過地方各督撫  
嚴加查察有犯必懲惟未行稽有不力日久又成  
具文現在趕辦新清省有清各省督撫及清運總  
督統於每年二月內將奏定章程逐一開單履切  
申明並札飭沿河州縣文武及派委員弁一體凜  
遵認真辦理倘敢始勤終怠即著據實指奏毋稍  
姑息以肅清風而垂永遠又另片奏清和擬運到  
過水手偷竊無算不作請嚴禁利船帶婦女等  
語此等船戶頗多以船為家若概行禁止不准携  
帶家口事屬難行著毋庸議至所稱利船並未各  
獎務當責成押運各員弁實力稽覈嚴守懲辦毋  
許稍有寬縱欽此

1352 道光十六年九月初九日內閣奉

上諭御史董宗遠奏請禁各省私鑄一摺民間私鑄  
銅錢十千以上為首即入死罪情實該地方官不  
加意緝拿者處分甚嚴立法本極周密若如蘇浙  
史所奏近來各省奸民私行牟利竟有銷燬銅錢  
攬和沙土私鑄小錢肆行無忌著各省督撫嚴飭  
各道府州縣實力稽查倘仍有私鑄攬和者即行  
詳拿照例治罪並將該地方官照例參處以累鑄  
而除弊端欽此

1353 道光十六年九月初九日內閣奉

上諭昨據怡良由驛馳奏杭州將軍德格在途丁憂  
德格著即回旗穿孝其未回任以前杭州將軍著  
左廷桐署理欽此

1354 道光十六年九月初十日內閣奉

上諭史蹟著准其開缺調理兵部左侍郎著祁良藻  
精補兵部右侍郎著潘錫恩補授仍留順天學政  
之任欽此

1355 道光十六年九月初十日內閣奉

上諭廉敬泰公主園寢栽種樹株章程一摺端順園  
倫公主園寢應種松柏樹四百餘株即着前總辦  
出之文達廉亮承辦所有一切移栽灌溉及保固  
年限悉照廉敬所奏章程辦理欽此

1356 道光十六年九月初十日內閣奉

上諭琦善奏請揀員升補沿河要缺知州一摺直隸  
滄州知州員缺准其以張欽祖升補照例送部引  
見該部知道欽此

1357 道光十六年九月初十日內閣奉

上諭琦善奏知縣才難勝任請改職一摺直隸河  
工大挑知縣借補祁州州同劉宗成辦事竭誠性  
復迂緩不勝民社之任著以缺職改用歸部欽選  
欽此

1358 道光十六年九月初十日內閣奉

上諭琦善奏收厚成本銀兩請仍照舊章辦理一摺

察哈爾牧厚生息銀兩前據戶部議准擬將成本  
轉交直隸就近生息該據琦善奏稱直隸發商生  
息銀兩每歲息銀尚有拖欠著將免項銀兩著發  
生息設使稍有拖欠而藩運兩庫又不能著款墊  
解轉致該牧厚利不可緩之需更形支絀着兩江  
總督陶澍仍循舊章由兩淮鹽務生息以備支用  
而免延誤欽此

1359 道光十六年九月初十日內閣奉

上諭楊名題奏北山被雹各屬分別撫卹懇恩酌予  
加賑發一摺本年陝西葭州等各州縣村莊秋  
禾被雹據該撫查明時過立秋補種不及又係連  
歲歉收之區戶之甚藏民力未免拮据加恩著照  
所請除分別被災輕重先行撫卹一月本折口糧  
外所有紳士被雹最重戶口准其再行加賑一  
月口糧該縣葭州榆林府各等州縣應撥本年下半年  
忙地丁銀糧草束及帶徵各年銀糧等項均著緩  
至道光十七年秋後徵收以紓民力該撫即刊刻  
牌黃通行曉諭務令實惠及民毋任吏胥舞弊副

擬於念款區至意餘著照所議辦理該部知道欽此

1360 道光十六年九月初十日內閣奉

上諭這所奉已革咸縣知縣杜登鈞短庫項至四千四百餘兩之多著即交琦善提同程書八人等履行完追按例定擬具奏該革員寓所資財財及在京家產著一併查封備抵欽此

1361 道光十六年九月十一日內閣奉

上諭敬徵等奏酌議鼓鑄印類並請飭催速次銅鉛一摺寶泉局現存銅斤及現在應收銅斤按每月六卯鼓鑄可數六個月之用現存面鉛斤按每月六卯鼓鑄可數六十四個月之用現存黑鉛斤按每月六卯鼓鑄可數六十四個月之用所有該局鼓鑄印類著自本年九月起每月仍按六卯鼓鑄其次年三月以後印類屆期察看情形再行具奏至該局需用銅鉛必須嚴催在途各運迅速抵京俾資接濟所有滇省委員陰陳步賢李東鈞等二

運計日抵通即可運局見收外據該部查明甲午年正運四起接運之張煥組已出山東境已未年正運二起劉沛霖已入江南境正運三起嚴良辰已過龍江關正運四起沈湖盤加運一起沈承恩已出四川境又丙申年上運一起京鉛李恒泰已過淮關二起曹毅錡已入江南境下運二起王訖後已過龍江關至今均未據該督撫咨報行抵何處銅鉛為鼓鑄似斷斷以各運延貽誤著兩江總督及沿途各督撫嚴飭所屬文武員弁及沿途地方官查明各運銅鉛行抵何處督令趕運抵京倘該運員等藉詞逗留地方官不實力督催該督撫即指名奏參以示懲儆並著直隸總督山東巡撫一俟各運銅鉛入境即派員上緊提催迅速解京以資鼓鑄毋任延誤欽此

1362 道光十六年九月十一日奉

旨此案著交湯全劉文慶提集全案人證卷宗東公廉審按律定擬具奏陝西巡撫楊名甌著即辭任興安府知府趙廷俊前任繁陽縣知縣郭思儀著即革職聯案研訊欽此

1363 道光十六年九月十一日內閣奉

上諭鄂山奏佐雜人員慶鴻請暫停分發一摺四川  
試用佐雜各員據該督查明人數較前慶鴻除按  
察院經歷府屬州判縣主簿三項人員仍照常分  
發外其餘各項人員著吏部暫停分發俟人數較  
少再行奏請照常分發欽此

1364 道光十六年九月十一日內閣奉

上諭左翼監督著恩桂去右翼監督著吉倫泰去欽  
此

1365 道光十六年九月十一日內閣奉

上諭陝西巡撫著湯金釗暫行署理欽此

1366 道光十六年九月十一日奉

旨葛三著交刑部歸案審訊欽此

1367 道光十六年九月十一日內閣奉

上諭特依順等奏請將位額各員交部議處一摺別

州將軍所轄正紅旗蒙古地面廟宇失火延燒軍  
械該位領全順防禦興駿騎校祿墮未能先事  
豫防均有應得之咎俱著交部議處其被焚軍械  
等項著造冊送部照例辦理該部知道欽此

1368 臣潘世恩穆彰阿王鼎奏尚阿跪

奏為循例保奏請

旨事查向例軍機處行走滿漢章京各員每閱三四

年由臣等選擇當差勤奮者分別保奏請

旨量予鼓勵歷經遵辦在案今自道光十三年九月

保奏之數已逾三年臣等留心察者於各章京

內擇其行走勤慎者數員公同酌擬內閣中書

音德賀德應升侍讀之員請作為候補侍讀遇

有侍讀缺出即行奏補戶部筆帖式福連德應

升主事之員請作為候補主事該員現未滿服

俟服闋後遇有本部題選咨留主事缺出即行

奏補理藩院主事照成德應升員外部之員請

作為候補員外部遇有理藩院滿洲蒙古題選

咨留員外部缺出即行奏補理藩院學習筆帖

武瑞春請遇有該衙門滿洲蒙古等帖式缺出  
不計旗分即行奏補刑部主事方銘奏應升  
員外部之員請作為候補員外部遇有本部題  
選咨留員外部缺出即行奏補吏部候補主事  
陳季恩請遇有本部題選咨留主事缺出即行  
奏補刑部候補主事江紹德請遇有本部題選  
咨留主事缺出即行奏補工部額外主事彭益  
章該員在額外行走尚未報滿應請俟例如  
足三年期滿復遇有本部題選咨留主事缺出  
即行奏補如蒙

俞允該員等感戴

恩施自當益加奮勉臣等亦收指臂之效謹摺例恭

摺具

奏伏祈

皇上聖鑒謹

奏

道光十六年九月十一日奉

旨依議欽此

1369 辦理軍機處為移送事照得本處於道光十六

年九月十一日具

奏保奏軍機章京一摺奉

旨依議欽此相應鈔錄

諭旨並鈔錄原奏移送

貴州查照辦理可也須至奉者

計粘原奏一件並

諭旨一道

咨 內閣 吏部 戶部 工部 刑部 理藩院

道光十六年九月 十一日

1370 軍機大臣 字寄

欽差尚書署陝西巡撫楊 侍郎文 道光十六年

九月十二日奉

上諭昨據湯全到等奏恭揚名隨業經降旨解任交

辦矣楊名隨歷任陝西多年如果查有蘆葦不務

等事著即一面革職查封一面具奏嚴辦其祀後

同鄉一節亦著逐細查明具奏至李廷錫既著臬

司於地方重要自應嚴實辦理何以被該撫指奏



撤任之後始赴湯全劍等處呈遞稟詞難保非係  
挾嫌訐告亦應澈底根究以成信讞而昭平允湯  
全劍等俱係朕特簡著破除情面無枉無縱勉副  
朕義實辦公至意特此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1371 道光十六年九月十二日內閣奉

上諭陝西巡撫著富呢揚阿補授烏魯木齊都統著  
廣敬補授春寧鎮總兵魚福管內務府大臣著統  
典補授威京戶部侍郎著著德春調補威京兵部  
侍郎著老吉補授薩地阿著管理奉天府內務  
務富呢揚阿補奉諭旨即赴新任毋庸來京請訓  
所有烏魯木齊都統印給著中福暫行魚著欽此

1372 道光十六年九月十二日內閣奉

上諭文慶著補授總管內務府大臣欽此

1373 道光十六年九月十二日奉

旨貴慶著交部展加該處欽此

1374 軍機大臣 字寄

山西巡撫中 道光十六年九月十三日奉

上諭前有人奏奏調任太原府知府珠潤各款當交  
中督督嚴密訪查茲據該撫查明發審各案並該  
府審訊詳結之案俱無違例積壓等弊惟前在大  
同府及署歸綏道廉平道任內種種劣款俱係該  
撫未經到任以前之事著即密飭派委各員認真  
訪查不准彌縫掩飾故有不實不實該撫經履簡  
昇封圻重任惟當遇事秉公覈辦不得因奏調該  
府首郡意存迴護亦不必因有人彈劾遂存憚倉  
之見總須破除情面一秉大公以歸覈實而昭平  
允將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1375 道光十六年九月十三日奉

旨吏部著將式常林即常七著革職瑞珍即瑞二著  
革去府經歷歸案審訊欽此

1376 道光十六年九月十三日奉

旨步軍統領衙門員外郎慶安著解任歸業展欽

此

1377 道光十六年九月十三日奉

旨此案著交周之琦親提人證卷宗秉公嚴審按律

定擬具奏原告張人責該部照例解任備質欽此

1378 道光十六年九月十三日奉

旨開散空室豐海印趙五著歸案會同宗人府審訊

欽此

1379 道光十六年九月十三日內閣奉

上諭解慶泰查明河庫並無水利備撥之款及平飯

銀兩動用無存一摺著戶工二部查明具奏欽此

1380 道光十六年九月十三日內閣奉

上諭納爾經額等奏恭陳防戩工漫漬之如縣巡檢

請革職留任賠修一摺湖北署理詳舉知縣謝慶

遠監利縣知縣鄂蘭黃著監打聽案折巡檢戴鴻

藻著一併革職暫行留任飭令年前一律如式賠

修倘敢遲延革革即著嚴參懲辦餘著照所議辦

理欽此

1381 道光十六年九月十三日內閣奉

上諭中啓賢奏等獲茂倫重犯審明辦理並分別開

復鼓勵各員升一摺山西稷山縣知縣易桐前因

疎脫茂倫重犯陳貽姪該縣擬奏恭降旨革職勒

限詳等語據該撫查明該革員于限內協同接任

知縣食差前往要徵會同亳州員升升共役將該犯

拿獲尚知愧奮易桐著准其開復原官所有該員

解任暫留另案著仍俟審明後再行分別辦理其

首先拿獲該犯之安徽亳州知州龔格准其照例

送部引見協獲之亳州管千總王國彰著交部議

敘餘依議該部知道欽此

1382 道光十六年九月十三日內閣奉

上諭中啟賢奏官紳捐資平糶煮賑請加獎勵一摺

山西平定州知州慶雲著吏部議敘其餘捐輸之官紳等著吏部議奏此項銀米係屬捐辦著免其造冊報銷欽此

1383 道光十六年九月十三日內閣奉

上諭趙顯布奏請寬免失察罪數各員處分等語山東鄆城縣奸民李芳春習教傳徒惑眾飲錢經該管各官自行訪出將首惡各犯解獲究辦其餘居河南者亦經該省州縣訪明拿獲解往山東審辦功過尚足相抵所有山東鄆城朝城范縣觀城濟寧壽張陽穀滋陽鄆縣滕縣及河南睢州太康等州縣歷任文武各員失察處分均著加恩寬免該部知道欽此

1384 道光十六年九月十四日奉

旨此案著交雲經會同臬司刑部親提人證卷宗秉公嚴訊按律定擬具奏原告王文斌該部照例解往備質欽此

1385 道光十六年九月十五日內閣奉

上諭朕於明年三月十三日由圓明園啟鑾恭奉皇太后詣覺山拈香禮成後於十七日回園十八日朕仍由圓明園啟鑾至工部廠閱視明陵於二十日回園其由三家店至湯山由湯山至工部廠等處橋梁道路著毋庸豫備欽此

1386 道光十六年九月十五日內閣奉

上諭何汝漢等奏請將玩視捕務之知縣摘去頂帶一摺順天府屬武清縣知縣單文誥於史際唐被檢一案報經月餘犯無一獲實屬玩視捕務單文誥著先行摘去頂帶仍照例勒限嚴緝限滿有無天獲再行分別辦理欽此

1387 道光十六年九月十五日內閣奉

上諭前據鄆州府奏請以都司升署恭將曾經降旨允准茲據兵部查明都司趙叙升署恭將與例不符惟外海水師人材難得李賢著仍准其升署廣東大鵬營恭將侯扣滿年限另請實授嗣後不得援以為例欽此

1388 道光十六年九月十五日奉

旨此次督封形賞把住鑄製造金冊金寶應用各色金兩著照舊給發其成造儀仗等項著改用黃銅毋庸鑄金嗣後著該部於具奏時將此次諭旨夾片聲明欽此

1389 道光十六年九月十五日內閣奉

上諭內閣侍讀學士員缺著何汝霖補授欽此

1390 道光十六年九月十五日內閣奉

上諭常德奏請馳驍騎秋勒休一摺山海關鑲黃旗馳驍校林春弓馬平廣近復多病著即勒令休數該部知道欽此

1391 道光十六年九月十五日內閣奉

上諭京城廣安門外普濟堂冬間收養貧民經費未石不敷著加恩賞給京倉小米三百石分給功德林一百石以資接濟欽此

1392 道光十六年九月十五日奉

旨何漢漢等奏酌定要途巡緝章程以杜回漕銅弊著戶部議奏欽此

1393 軍機大臣 字寄

兩廣總督鄧 廣東巡撫祁 道光十六年九月十六日奉

上諭御史黃仲容奏請將地方私用外國錢文一律嚴行查禁據稱廣東潮州府一帶洋面海船到日俱帶外國景興光中二樣錢文錢質薄小每一千文計重不過三斤較之制錢分兩輕至一千廣東省故跟一兩市價換制錢一千四百餘文在外國換景興光中錢每兩可換二千餘文鄉愚貪其多換相沿成風始則攪雜制錢並用今則止用景興光中暨私鑄小錢並有將制錢銷毀攪和沙泥私鑄景興光中小錢各等語外省私鑄屢降旨嚴飭地方官查拏懲辦其銷毀制錢私鑄小錢者已屬大干例禁如該御史所奏廣東省有私鑄景興光中小錢者更為日無法記著鄧廷楨等嚴飭所

屬格須明定章程設立官局計值收買將外國錢  
文盡行銷燬明切曉諭俾小民共知遵照倘有仍  
踴前愆即行從嚴懲辦並轉飭文武員弁在南澳  
大山頭客埠一帶地面海船到日實力稽查如有  
偷帶景興光中錢文立即緝拿究辦倘敢奉行不  
力或受賄縱容並藉端需索即著指名嚴奏懲處  
以絕弊源而清錢法特此諭令知之欽此遵

音寄信前來

1394 軍機大臣 字寄

閩浙總督鍾 道光十六年九月十六日奉

上諭有人奏福建臺灣匪徒自道光十二年開剿  
辦之至道光十四年春間復有彰化縣犁頭店  
地方賊匪林坤等糾集匪黨潛謀滋事經該鎮等  
趕到彈壓始行潰散並未開作何究辦又道光十  
五年十月間有嘉義縣知縣連家丁到店仔口解  
犯回至八槎溪蔗園地方竟有賊匪六百餘乘機  
毆拿犯該家丁身受重傷而賊匪反聲言若本官  
到此定要殺害又聞斗六門及鹽水港水沙連各

等處未獲餘匪仍利投毫無顧忌地方官不敢過

問等語此項匪徒是否係逆匪張丙等餘黨抑係

另有聚眾不法之人該處人多獲悍劉辦未久仍

有此等餘匪不時竊發若不及早懲辦必至釀成

巨案著鍾祥嚴密稽查據實奏辦並著嚴飭臺灣

鎮道等不特要察如有聚眾為匪之舉即行嚴拿

懲辦毋稍姑息以戒奸暴而淨根株又殉難守備

馬步衝與縣丞方振聲祀總陳玉成等經降旨令

在斗六門地方建立專祠該鎮道等聞馬步衝

等牌位僅置於故兵早贊等社祠之內建祠之事

並未舉行著鍾祥一併確切查明據實具奏將此

諭令知之欽此遵

音寄信前來

硃

1395 道光十六年九月十六日奉

旨左翼稅盈餘銀著交國明園二萬五百兩賞給色

克精額二百十四兩零欽此

1396 查左翼監督應徵正項銀一萬零八兩

欽定盈餘銀一萬八千兩上屆桂輪任內除徵收正額

外盈餘銀二萬七百一兩零錢

欽定盈餘額數多收銀二千七百一兩零錢

音文圓明園二萬四百兩

賞給桂輪三百一兩零此次色克精額任內除撥收

正額及例用外現存盈餘銀二萬七百十四兩

零錢

欽定盈餘額數多收銀二千七百十四兩零錢桂輪任

內多收銀十三兩零應支

圓明園若干兩

賞給色克精額若干兩之處伏候

欽定謹

奏

1397 道光十六年九月十六日奉

旨常節即常九著革去拜唐阿解素嚴密親謀即魏

大王四劉二即到杜索橫兒高五即五廣壽三俱

著多軍統領衙門順天府正城一體嚴拏務獲嚴解

案審訊欽此

1398

常節即常九係備子拜唐阿阿何人尋故請革

魏謀即魏大係魏王氏之人

王四係魏大子魏魏二

劉二即到杜係備子劉二 魏魏二

索橫兒魏魏二

高五即五廣壽魏魏二

喬三係常九供出賣鴉片烟之人

1399 軍機大臣 字寄

陝甘總督瑚 傳諭甘肅市政使趙炳言 道光

十六年九月十七日奉

上諭有人奏邊省倉儲請嚴實稽查一摺甘肅為邊  
陝重地倉貯最關緊要上年據該督密陳倉庫情  
形當有旨諭令悉心籌辦期有實濟本年因該督  
議履御史許球所請撥銀採買倉穀各款復又降  
旨諭將短缺任石買補足額該督登奏諭旨自應  
通盤籌畫設法辦理其現在如何籌辦之處未據  
奏到茲復有人奏稱武威縣地方上年災歉向集  
番採買而集番偏處一隅無處任補任其缺額上

司查開博有救價備款仍不克那移動用倉額幾致空懸武成鎮者如此其他州縣可知該省大吏意存遠託不肯認真查辦又該省風俗向來儉樸近則州縣等官酒食燕會服飾器用踵事增華等語倉儲為民食兵精所關不容顆粒短少倘克空虛劉姓設法緩急一無可恃尚復成何事體著該督旨同藩司趙炳言即將各州縣倉穀實貯數目確切詳查如有短少務即勒限賠補完足不准稍有拖欠亦不得以銀作抵致滋弊端倘該州縣有意刁偏仍不設法彌補即著指名據實嚴參毋稍姑息至甘肅東博澤撲聞近來地方官負中尚奢靡非劉氏聞言使邪官項於吏治民風大有關係該督等惟官隨時查察嚴行錫禁以正習俗而挽頹風將此諭知朔州趙炳等俾諭趙炳等知之欽此遵

旨寄信前來

1400 軍機大臣 字寄

貴州巡撫賀 道光十六年九月十七日奉

上諭有人奏貴州省古州同知張鎮前任貴州時在省城六河橋地方買房一所價值千餘金該員大加改造不時邀集僚友宴會其中並著其樓曰烟花三月又特於城外扶風山寺及觀音寺等家藏歌宴集一聯之供動誇珍異在官廳費為下效尤又聞該員現將所買房屋增加價值抵作交代等語從來民陷之轉移視于吏治之得失然省地處邊陲民風素稱淳樸豈宜導以侈靡又况倉庫儲積關禁國帑尤不得任其將置買房屋增價作抵致勢項稍有輕短姑著暫長齡即行確切查明預令該員趕緊變價歸還倉庫原款倘有不敷仍著嚴追毋任支飾並著嚴飭所屬禁止倉庫力索即儉以肅吏治而正民風將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

1401 道光十六年九月十七日內閣奉

上諭吳英奏節文需俸豫東黃河普慶安湖一摺本年大河來源壑次長水壩堰陡壁各段婦工補搭銀新層見查出該河督董年道應員弁分限

防守協力搶獲俱能化險為平工程悉臻穩固現  
在斯又霜降普慶安瀾覽奏欣慰朕心實深寅戚  
著發去大藏香十炷文畢朕甚虔詣

河神廟代朕敬禮祀謝用荅

神麻果朕甚著加恩文部議敘在工人員擇其尤為  
出力者秉公酌保數員候朕施恩毋許冒濫欽此

1402 道光十六年九月十七日奉

旨大理寺學習寺丞張清衡著解任文軍機大臣會  
同刑部嚴訊欽此

1403 道光十六年九月十七日奉

旨此案著交納爾經額周之琦親提人證奉宗東公  
審訊按律定擬具奏原告部宗敬謹部照例解任  
備質欽此

1404

旨此案著交賀長齡親提人證奉宗東公嚴審按律  
定擬具奏原告焦仁澤該部照例解任備質欽此

1405 軍機大臣 字寄

署兩江總督林 莪理江蘇巡撫怡 道光十

六年九月十八日奉

上諭本日據林則徐等奏訪聞蘇州城外山塘地方  
開茶館之山東人郭益得等冒執傳捷當將為首  
之郭益得及夥犯陳廣得張國萬三名拿獲並起  
獲銀卷等語此等習教匪犯意圖斂錢作會最為  
風俗人心之害郭益得曾隨糧船販賣生理陳廣  
得張國萬均曾充糧船水手此外有無黨羽及不  
法情事該署督等務當從嚴訊究按名嚴拿懲辦  
以絕根株特此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

殊

1406 道光十六年九月十八日內閣奉

上諭雲南逆東道負款者來。速補授欽此

1407 查逆東道係衝繁難要政

奏



1408 道光十六年九月十八日奉

旨右翼稅盈餘銀著交國圖七十兩賞給聯順云  
全兩零欵此

1409 左右翼監督應收正項銀一萬五兩零

欵定盈餘七千三百二十一兩零上屆文慶任內除徵

收正額及例用外盈餘銀七千六百七十七兩

零數

欵定盈餘額數多收銀三百五十六兩零未

交文圖國圖七十五兩

賞給文慶一百七十七兩零此次聯順任內除徵收

正額及例用外現存盈餘銀七千六百八十一

兩零數

欵定盈餘額數多收銀三百五十九兩零較文慶任內

多收銀三兩零應交

國圖國若干兩

賞給聯順若干兩之處伏候

欵定謹

奏

1410 道光十六年九月十八日內閣奉

上諭林則徐等奏揀員升補要缺直隸州一摺著照  
所請安徽泗州直隸州知州員缺准其以張應雲  
升補照例送部引見該部知道欵此

1411 道光十六年九月十八日內閣奉

上諭林則徐奏請開復知縣項帶一摺江蘇甘泉縣

知縣盧元良前因辦督該縣捕獲楊泳春賊時就

獲降者捐去項帶茲據該署督奏稱楊泳春即楊成

現已獲案盧元良著准其開復項帶餘依議欵此

1412 道光十六年九月十九日內閣奉

上諭給事中常大淳奏各直省藩庫頭封貯銀兩

動款甚多請自楊部的定著補章程一摺著戶部

查覈具奏欵此

1413 道光十六年九月十九日內閣奉

上諭伊里布等奏知縣才不勝任請分別降補改教

一摺雲南宜良縣知縣陳煥之才識粗淺不諳治

體著以府姓惡謀惡降補輝部發還著通海縣守  
試用知縣宋其選職見過拘辦事場級離唐氏往  
惟保舉人出身著以教職改補輝部發還該部知  
道欽此

1414 道光十六年九月十九日奉

旨張爾漢著平去總管太監升福著著革去首領太  
監均著吏刑部歸案審訊欽此

1415 道光十六年九月十九日奉

旨步軍統領衙門員外郎慶安委署主事筆帖式英  
林均著革職交刑部歸案審訊欽此

1416 軍機大臣 字寄

湖南巡撫裕 傳諭鎮軍鎮總兵楊芳 道光  
十六年九月二十日奉

上諭有人奏湖南鎮軍鎮總兵楊勇兵丁聚眾滋事一宗  
訶爾經辦理年多不實風聞抽血聚眾為首之  
練勇羅名成黃在志回宗慶勝宏遠泰興貴包安

煥勝成玉張正科滕加烈李本良田祖典等多名  
現在或仍充巡捕或仍食名種種由該督並未親  
身赴位督飭嚴拿住就捆送各犯含混奏結欺令  
為首要犯得以脫身事外伴逃法網等語鎮軍鎮  
練勇兵丁聚眾滋事前經訶爾經額奏結如羅名  
成等實係為首之犯伴逃法網自應按名詳拿嚴  
訊究辦著裕奏會同楊芳不動聲色認真查辦以  
儆兇頑而肅營伍如該督辦理此案果有單率疎  
縱等情著一併查明據實具奏毋稍徇隱將此諭  
知裕恭並傳諭楊芳知之欽此遵

旨寄信前來

1417 道光十六年九月二十日內閣奉

上諭蘇州府等奏節文霜降黃運河湖普慶安瀾一  
摺本年南河黃水節次增長險工疊出兼因清水  
來源較旺石工塌場均形喫重經該督等量率道  
廳員弁加意巡防分枝搶辦得以化險為平現在  
節文霜降河湖各工一律安穩此皆仰賴  
河爾神默佑普慶安瀾覽奏欣慰著發去大藏香十

姓支該河督度詣

河朔神廟代朕敬禮祀耐用答

神穗麻陶封林則徐麟慶俱著加恩文部議敘其在

工各員弁著該署督等擇其尤為出力者秉公酌

保數員候朕施恩毋得冒濫欽此

1418 道光十六年九月二十日內閣奉

上諭熱河正總管著惟榮補放欽此

1419 內務府一等

記名郎中員外郎

六庫郎中啟元 道光五年

銀庫郎中瑞廷 道光十一年員外郎任內十四年郎中任內

營造司郎中文景 道光五年

奉宸苑郎中觀泰 道光十二年 領九卿印信官世襲奉  
前奉宸苑郎中觀泰

南苑郎中文典 道光八年員外郎任內

奉宸苑員外郎吳敏 道光十四年

1420 內務府一等未姓

記名郎中員外郎

慶 序郎 中島明阿 道光十一年

李儀司郎 中文 芳

慶豐司郎 中文 亮 道光十一年

慎刊司郎 中文 福 道光十一年

善 琳 道光十一年

苑和官 郎 中德 濟 道光十一年

武備院郎 中松 興

綺春園 郎 中廷 陔

清漪園 郎 中嘉 善 道光十一年

慶儲司員外郎富 文

慶 善

慶豐司員外郎元 祿

中正殿 員外郎吉 瑞

大德院員外郎清 福

春 瑞

存 化

1421 曾任鹽政鐵迪欽副候補人員

候補郎中阿靈阿 道光十一年八月由郎中欽迪副補授二十一年九月奉  
旨補授阿靈阿

長庚 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

松桂 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

福泰 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

領補主事大連 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

英祐 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

領補尼爾慶琛 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

曾任鹽政織造欽調現任又員

六庫部中恒榮 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

銀庫部中豫望 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

會計司郎中松齡 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

營造司郎中克明 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

錢糧衙門郎中康亮 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

造辦處郎中慶倫 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

字寄官員外郎福森 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

御茶膳房主事福珠 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

御茶膳房主事福珠 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

御茶膳房主事福珠 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

御茶膳房主事福珠 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

御茶膳房主事福珠 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

御茶膳房主事福珠 道光二十九年由中法軍機處進二十九年九月奉旨

1423 道光十六年九月二十一日奉

旨前據程祖洛奏閩浙二者積年未春海洋盜劫疎

防各案呈請酌量更改處分當又兵部議奏在據

該部擬改條例開身互覓朕詳如披閱所議尚屬

周妥著即纂入則例頒發通行來酌定條例擬

以奏准之日行知遵辦從未有懸案不恭特新例

更改而後泰為屬弁據留規避地步者著錢祥澂

明十三年以前未奉各案免因何延擱是否洋

面各員不肯開報押係該上司有鬼開脫不肯奉

揭連年分別據實具奏所有兵部議奏原摺著鈔

給閱者欽此

1424 道光十六年九月二十一日奉

旨前據傅勒才奏請添設產街委相長王貞當文兵

部議奏茲據該部查明容堂營實際原設額缺外

已於嘉慶十九年添設委署馳騎仗十六員合計

有九十餘員之多足資備隊操演無庸添設額缺

甚足資格整飭全在訓練有方若外紛添設官員

於營務有何裨益俾勒才著傳旨中飭西奏不准

行欽此

1425 道光十六年九月二十一日內閣奉

上諭奕劻等奏

陵寢應修各工一摺所有

永陵

福陵

昭陵應修各項工程著派奕劻祜誠前往敬謹查估奏

明辦理軍併發欵此

1426 道光十六年九月二十一日內閣奉

上諭特保順保等奏循例估調官兵俸餉銀兩一摺

伊犁滿漢各營官兵應調道光十八年俸餉經費

共估需銀七十一萬五千九百六十六兩零除將

各款扣除外實應調撥銀六十八萬兩著即行知

該部及陝甘總督照例數辦以資搭放該部知道

軍併發欵此

1427 道光十六年九月二十一日內閣奉

上諭德興等奏通員升補要缺知縣一摺著照所請

奉天承德縣京縣知縣准其以周良御升署侯和

滿年限年請實授仍照例送部引見其所遺錦縣知縣員缺著即以卞若曾補授該部知道欵此

1428 道光十六年九月二十一日內閣奉

上諭裕泰奏查出從違兵丁革任月日嚴與報部底

再不符請將該營違營解任一摺湖南武昌同營違

營楊品泰著暫行解任吏裕泰嚴集該營備弁及

違冊之管書人等一併詳稟嚴當備查明實有規

避地檢等弊即著從嚴奏辦毋稍徇縱欵此

1429 道光十六年九月二十一日內閣奉

上諭裕泰奏請將人地未宜之知縣撤回另補一摺

湖南臨湘知縣善常才藏均理於瀟湖地方補務

難期經理裕和著撤回留於該省遇有相當簡缺

如缺另行酌量補用該部知道欵此

1430 道光十六年九月二十二日內閣奉

上諭林則徐等奏請將失察汛弁滋事贖命之刑司

及重罪之十總小別議處一摺著嚴裏子汛汛奉

曹占教輕聽兵丁畢民柱之言趕分妄濫漏稅致  
釀人命著該署督等勒緝畢民柱務獲並飭提未  
列入控盜成嚴訊按律究辦該管上司平日約束  
不嚴亦有應得之咎廣州營都司德雲著先行交  
部議處著無為州派千提張輝材有無縱放畢良  
柱情與著解任歸案備質欽此

1431 道光十六年九月二十二日內閣奉

上諭色卜星額奏知縣獲犯多名請開復項帶一摺  
委嚴靈登縣知縣煥奎前因疎玩詳審盜犯革去  
項帶勒緝茲據該縣奏稱該員先後緝獲匪犯多  
名惟既過正祀尚未督獲自毋庸議案據嚴靈煥  
奏著即開復項帶其疎玩陳麻夜一案仍照例另  
行參處進犯陳麻夜即飭嚴督務獲該部知道欽  
此

1432 道光十六年九月二十二日內閣奉

上諭琦善奏揀員調補沿河要缺知縣一摺著照所  
請直隸大名縣知縣員缺准其以沈炳章調補該  
部知道欽此

1433 道光十六年九月二十二日內閣奉

上諭琦善奏請寬免失察擬運銅鐵下海各員并案  
引等語此案魏老等藉廢給為名違禁擬運銅鐵  
下海經該員并等設法督獲辦理妥速功過尚足  
相抵河有閘口各地方文武以前失察案引俱著  
加恩寬免欽此

1434 道光十六年九月二十二日奉

旨王輔沈潤忠俱著交刑部派大學士長齡潘世恩  
阮元會同該部審訊欽此

1435 道光十六年九月二十二日內閣奉

上諭色卜星額奏請將微解不力之知縣撤任盤查  
一摺委嚴望江縣知縣王旭於上忙錢糧散解分  
數不及十分之二著即撤回省城交該撫將該員  
親手倉庫錢糧撤底盤查倘有以完作欠等弊即  
著革職等因嚴行究辦如查明僅止催徵不力並  
著分別參處以示懲儆該部知道欽此

1435 道光十六年九月二十二日內閣奉

上諭琦善奏永定河歲修稽料照舊加增運腳並添備豫防物料一摺永定河上游八汛歲修各工所用稽料加增運腳銀兩並添購備防稽料銀兩據該督查明報照成案請將歲修稽料各米加運脚銀二釐五毫共銀八千五百兩並添購備防稽料二百萬兩著照所請除歲修運腳銀兩照例委員赴部具領外其添備稽料價銀二萬一千兩准其在於司庫籌款撥充該督道督率廳汛各員乘時採買分貯工次報候驗收備來年水手工稽料有盈餘仍留為下年之用該部知道欽此

稟

1437 道光十六年九月二十二日內閣奉

上諭江蘇按察使袁枚著李象陽補授欽此

1438 道光十六年九月二十二日奉

旨此案著派軍機大臣審訊欽此

1439 道光十六年九月二十二日內閣奉

上諭鄂廷植奏酌增協濟臺操及泗水各兵口糧一摺廣東虎門海口砲臺操演水軍操該督等查明原案防兵供糧增給口糧尚有協濟各臺操兵五百一十八名泗水免水爬艇兵一百三十名應增口糧未經議及該兵丁等與專防臺兵一同演習自應加恩增給口糧以示體恤著照所請所有需用口糧銀五百十八兩零准其於前項善定經費項下按次發管照數散給該部知道欽此

1440 道光十六年九月二十二日內閣奉

上諭昨兵部帶領引見人員內題補遊擊之福建閩安水師協右營都司陳顯生等無辜題著仍撤回部司本任不准題補遊擊程祖浴出考送部著文部照例議處欽此

1441 道光十六年九月二十二日奉

旨此案著交經前布院提人證卷宗呈公嚴審據詳定擬具奏原卷皆用尺裁打熱例解任備質欽此

1442 道光十六年九月二十三日奉  
旨浙江督糧道員缺著金味補授欽此

1443 全日奉

旨江西吉南贛寧道員缺著趙仁基補授欽此所遺

山西平陽府知府員缺著蔭院典補授

1444 查浙江督糧道係衝繁疲要缺江西吉南贛寧  
道係衝繁難要缺謹

奏

1445 道光十六年九月二十三日內閣奉

上諭恩特才頗奏請將解學遠紀遠限未獲之運弁  
革職一摺前日奏運鳳中二幫十總李天瑞失察  
水手孟學恩等擄力上岸訛詐拒傷河役一案曾  
經降旨將該運弁摘去項帶勒限兩月令其迅將  
遠化聞皮驗印聞水等解立隸歸案審辦茲據  
該道督查明該運弁解等遠化迄今兩月有餘已  
遠化限尚未報獲實屬怠玩李天瑞著即行革職  
以示懲儆該部知道欽此

1446 道光十六年九月二十三日奉  
旨那提順著革去藍翎侍衛賞給護軍欽此

1447 全日奉

旨太常寺典簿羅祖訓著解任歸案審訊欽此

1448 道光十六年九月二十三日奉

旨西藏吏日曹汝舟著解任歸案審訊欽此

1449 軍機大臣 守寄

閩浙總督鍾 道光十六年九月二十四日奉  
上諭據步軍統領衙門奏福建古田縣民人林德春  
赴京呈控有西洋人煽惑傳教一案。明降諭旨文  
鐘祥親提審訊矣此案據該民人呈稱福建屬  
建甌地方有西洋人傳習天主教教首名三不伯  
羅家殺伐設立銅鐵爐打造器械並與江西廣東  
浙江各省匪徒時相往來伊與伊母舅董姓等率  
眾將三不伯拿獲解送福建都道衙門收押病斃  
餘案未完又有不知姓名浙江人改名五不伯復



在定安縣秋嶺橫坑地方接續前教招聚匪徒打  
封行旅又稱文生貢崇大年因伊至禁教匪置查  
未殺串出監生林利茂等於道光十三年三月間  
捏詞赴縣時伊控告屬託捕廳查押去伊錢二  
幣四百文等語匪徒習教致錢聚衆打劫最為地  
方之害如果屬實不可不嚴行懲辦著鍾祥即行  
確切查明據實訊究是否該地方實有習教行劫  
匪徒該管官不肯究辦該生監首無袒護教匪  
別情務須秉公查辦毋枉毋縱以除奸惡而靖地  
方將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

<sup>1450</sup> 道光十六年九月二十四日內閣奉

上諭本日據刑部奏審擬太監張爾漢等為記公事  
一摺已依議行矣此案太監張遠忠因賭博被獲  
自有應得之罪總管太監張爾漢輾向者英懇求  
釋放首領太監許福喜從旁幫說均屬不合此等  
小人不知事體輕重冒昧干求者英身為一品大  
臣如其事關重大自應據實奏聞即使情節較輕

### 殊

亦當正色拒絕面斥其非乃輕聽張爾漢等懇求  
之詞違令所屬員弁留供取保解回當差殊非公  
正辦事之道此等情節本屬細微惟太監人等於  
外廷事件要有干預者英既不能嚴行拒絕又復  
听其請託如此瞻徇情面尚安望其秉公持正為  
國宣力耶著英著交都察院嚴加議處即來京聽  
候諭旨所有前交查辦江西事件如尚未完結即  
著朱士丹會同陳鑾辦理其廣東應查各案著朱  
士丹會同廣州將軍庫勒芳阿秉公查辦欽此

<sup>1451</sup> 道光十六年九月二十四日內閣奉

上諭納爾經額等奏查明逆犯始事年月請將失察  
文武各官交部議處一摺湖南武岡州逆匪藍元  
曠謀逆滋事據該督等查明係十五年六月起意  
所有歷任失察文武各官著交吏兵二部照例分  
別議處欽此

<sup>1452</sup> 道光十六年九月二十四日內閣奉

上諭魏元瑛奏旗員親老呈請回京當差一摺福建  
興化左營都司官秀著准其回籍送部引見欽此

1453 道光十六年九月二十四日內閣奉

上諭樂善等奏羊負當差期滿一摺德沁果爾洛德木楚克扎布俱著准其釋回欽此

1454 道光十六年九月二十四日內閣奉

上諭據劉維泰等奏湖南辰沅永靖道常慶前由同知赴升道員後湖廣總督酌爾經顯保舉該革員在任駕馭無方政蹟巨崇獎督並不負請處分等語著吏部議奏欽此

1455 道光十六年九月二十四日內閣奉

上諭沈保著交刑部審訊湖廣道監察御史黎譽錫甫經到任即能查出已革書吏改名復充情弊公事認真尚屬可嘉著賞加一級該部知道欽此

1456 道光十六年九月二十四日奉

旨此案著交鍾祥親提人證卷宗秉公審訊按律定擬具奏原告林德春該部照例解往備質欽此

### 硃

1457 軍機大臣 字寄

欽差烏魯木齊加統原 伊犁奏賀大臣奕 葉爾

光奉賀大臣興 道光十六年九月二十五日奉

上諭本日據興德等奏壽昌到任遵延又奏奏章京

福金虧理銀兩擅用六百里薩聯並總兵劉允忠

稟揭壽昌任意妄為各情復據壽昌抄錄屯民原

呈據情具奏各摺已明降諭旨滿廣敬奕山馳赴

葉爾羌會同興德秉公查辦並將壽昌劉允忠解

任場案審訊奕應敬捷奉此旨無庸來京請訓著

即馳驛前往與奕山興德提同會案人證卷宗待

各摺內再指各情節逐一查明秉公審辦務得確

情據實具奏至案內各員如有應行革職解任審

訊者著一面奏聞一面將各該員革職解任場案

究辦又有任喀什噶爾領隊大臣西朗阿現已回

程來京無論行抵何處應歇於途次會晤時著即

帶同前赴葉爾羌以備質訊各原摺俱著鈔給閱

看將此由四百里各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1458 軍機大臣 字寄

陝甘總督瑚 道光十六年九月二十五日奉

上諭現在劉允忠因案解任已有旨令任責那調補喀什噶爾接防總兵吳該督接奉此旨即飭令該總兵迅速啓程馳驛前赴新任無毋藉違誤將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1459 軍機大臣 字寄

丙廣總督鄧 道光十六年九月二十五日奉

上諭本日召見廣東南韶連鎮總兵趙浩據稱現年五十九歲察其面貌似覺就衰該鎮地方緊要操防訓練必須得人著該督保趙浩到任後留心察看該總兵才具精力能否勝任據實具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1460 道光十六年九月二十五日奉

旨此案著派廣家馳驛前往葉爾尼會同奕山與德

提集全案人證卷宗未公查辦尋引允忠保著詳任交廣散等歸案審訊欽此

1461 道光十六年九月二十五日內閣奉

上諭德興未到任以前奉字鎮總兵吳統管內務府大臣著特登額著理庶政著任特登額接印驛行馳驛前往葉爾尼毋庸來京請訓欽此

1462 道光十六年九月二十五日內閣奉

上諭喀什噶爾換防總兵著任責那調補即馳驛前往欽此

1463 道光十六年九月二十五日內閣奉

上諭御史文玉奏輪放甲來包衣章京未經赴金闕領一摺著該旗查明具奏欽此

1464 道光十六年九月二十五日內閣奉

上諭何燧奏試用知縣才不勝任請改數職一摺雲南試用知縣李天任甫經到省因才力不及自願

改補教職該員係舉人出身准其以教職改用回籍候選該部知道欽此

1465 道光十六年九月二十五日內閣奉

上諭林則徐等奏請開補要缺用如一摺著照所請江蘇蘇州府督糧同知員缺准其以周魯勳升補照例送部引見該部知道欽此

1466 道光十六年九月二十五日內閣奉

上諭常恆泰回子郎五應領銀數仍舊由阿克蘇各調一摺伊薩克按年應領俸銀俸級著仍由阿克蘇咨調照數賞給欽此

1467 道光十六年九月二十五日內閣奉

上諭廣東碣石鎮總兵黃甫南協建鎮總兵趙浩保著加恩賞換花翎欽此

1468 道光十六年九月二十五日內閣奉

上諭常恆泰奏請經費銀兩一摺阿克蘇官兵應調

道光十八年經費銀二萬一千二百九十四兩零著湖松額即將此項銀數預為撥解以資支放該部知道至原摺內數數與總數銀兩不符因何舛錯之處著常恆查明具奏欽此

1469 著常恆請調經費指內稱舊額駐防官兵

七百餘名連開歲常經費銀一萬五千二百

一十兩宋新增官兵現存五百四員右連開歲

常經費銀九千五百八十六兩統計二項止

應估常經費銀二萬四千七百九十六兩零今

原摺總數內稱統計二共估常經費銀二萬五

千二十一兩零似屬錯誤是以著於原摺

請旨內添寫總數不符著常恆查明具奏等語謹

奏

1470 道光十六年九月二十五日奉

旨周祝騰容稟著加恩免職特學額部議降三級調用著准其抵銷欽此

1471 道光十六年九月二十五日內閣奉

上諭壽昌奏撥調經費銀兩一摺喀什噶爾英吉沙爾二城官兵應調道光十八年經費銀九萬六千四百一十三兩零著剛松額即將此項銀兩照數撥局撥解以供支款至該二城職難雜任各該屆時倘有不敷著即在倫斯項下暫抵供支年終覈實奏補還款該部知道欽此

1472 道光十六年九月二十五日內閣奉

上諭岳良著奏城工完竣並酌保出力人員一摺喀什地處極邊城垣失修年久未修多有坍塌經該大臣等督率興修現已辦理全竣並將尤為出力人員開單呈覽該員弁伯克等實力辦公不辭勞瘁自應酌予恩施著照所請城守營都司汪大威著加恩賞換花翎主事職銜印房章京達布唐阿著准其行走五年作為七年差滿回籍古城原營以防禦僅先即補小京官職銜銜章京富海著遇有理藩院案筆帖式缺出無論該分僅先即補即選後九品謝廷芝著歸部無論雙單月遇缺僅

先即選書吏秦文忠著以從九品未入流先行發掣給照俟五年後滿歸入九年滿班班內遇缺即選五品頂帶海欽伯克伊薩克著賞加四品頂帶六品頂帶納齊伯克依勒克著賞加五品頂帶六品頂帶克色勒克著賞戴藍翎七品頂帶斯瑪伊爾七品頂帶依維克雅和著賞戴藍翎均著賞加六品頂帶回子亞哲斯阿里布頂帶愛爾瑪爾在均著賞給七品頂帶回子阿拉布敦著賞給六品頂帶並例又另片奏出力弁兵均應換防該城並無頭缺可以拔補等語把總何貴馮喜會經制外委石輝甸瑞宗赫福兆鼎額外外委李世衍及兵丁汪大貴十二名俱著該大臣等移咨陝甘總督並知照各該原管遇有應行拔補之缺儘先拔補以示鼓勵該衙門知道摺片併著欽此

1473 道光十六年九月二十五日內閣奉

上諭哈靈阿奏巡閱伊犁城官兵一摺據黃旗驍騎校陸全保正黃旗驍騎校富興阿馬步均屬生原雖期振作俱著革職城守尉富英額前經總將軍

代奏請旨陞見曾降旨令其再覈三年奏請茲據該將軍奏稱才諳均謹難勝專城之任著即飭令來京交值年旗帶領引見後再降諭旨呼爾一城雖係屯田之地多馬是其根本嗣後該將軍每屆三年查閱一次以燭步伐而成勁旅又另片奏齊齊哈爾等四城除原設委員外應任將軍等浮額委致至一百餘名之多實與定制不符所有歷任浮放委員之將軍副都統城守尉俱著交兵部分別議處欽此

硃

1474 道光十六年九月二十六日內閣奉

上諭刑部侍郎明訓經朕由內閣學士海豫擢貳作  
對軍  
當見時並未叩首謝恩何以粗率至此明訓著降  
為內閣學士候補欽此

硃

1475 道光十六年九月二十六日內閣奉

上諭刑部右侍郎著隆文調補理藩院左侍郎著吉  
倫泰轉補所遺理藩院右侍郎著功普補授欽此

1476 查隆文條理藩院左侍郎是以日等擬寫  
銜旨將吉倫泰轉補授

奏

硃

1477 道光十六年九月二十六日內閣奉

上諭伊犁換防總兵員缺著福珠爾補授欽此

硃

1478 全日內閣奉

上諭甘肅西寧鎮總兵員缺著烏麟輝補授欽此

1479 道光十六年九月二十六日奉

旨程祖洛著降一級留任不准抵銷欽此

1480 道光十六年九月二十六日內閣奉

上諭湯金釗等奏遵旨確查據實具奏一摺陝西巡  
撫楊名馳辦理工程並未將寧陝等五十七廳州  
縣應領整辦兵星銀兩捐輸修建緣由明白聲敘  
概以平岡城司道府縣各官捐廉督辦等詞全混  
入奏實屬巧飾且於賑濟富平等款概將同鄉紳

長年謝長清調補並因謝長年調補際時出差未回復令謝長清前往署理弟兄復先接任願係為人擇缺意存袒護揚名題著吏部嚴加議處穿陝廳同知謝長年富平縣知縣謝長清因與該縣同鄉均得調補並以同胞弟兄接任交代跡涉賈賂著吏部議處至各直省州縣等官弟兄同在一個照例題否迴避著吏部查明具奏欽此

1481 道光十六年九月二十六日奉

旨這所參劾短倉庫之已故勒休廣東龍門縣知縣章考傷於任內短管倉庫共短交正雜捐款銀六千四百餘兩倉穀三百十餘石之多該家屬延不清徵顯有侵蝕情弊著鄧廷楨等嚴提該家屬暨經手丁哥人等確審酌短實數並此外有無未清款項分別完造接創定擬辦理所有該故員原籍祖籍家產及寓所資財著一併查封備報欽此

1482 道光十六年九月二十六日內閣奉

上諭鄧廷楨等奏請省取大挑知縣並暫停任職人

員分發一摺廣東省候補試用知縣差委委員著吏部行文各省飭令嚴掣廣東回籍應皆之大挑知縣迅速領考赴考以資差遣仍俟試用期滿分別照例請補並佐雜及監籍各項人員該省現形慶澗著吏部將府經歷縣丞從九品未入流及監務各班人員暫停分發俟數年後漸次疏通奏請照常發往單摺發欽此

1483 軍機大臣 字寄

閩浙總督鍾 道光十六年九月二十七日奉  
上諭本日據魏元球奏福建現有泉州府知府一缺例應請旨簡放又另片奏泉州府管轄三廳五縣民俗剝悍政務繁最為海疆難治之區非熟悉風土情形而又有幹才者不足以堪表率而資治理並開列陳鳳翰王衍慶沈汝瀚履應請旨簡放等語陳鳳翰等三員何人堪勝泉州府知府之任著鍾詳細心密看據實具奏毋得為人擇缺稍事遷就將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1484 道光十六年九月二十七日奉 內奉

上諭 梁章鉅奏請覈實便運日期一摺 越南國於明歲創屆貢期 所有該國貢貨 臣等准其於明年七月到京 該部知道 欽此

1485 道光十六年九月二十七日內閣奉

上諭 上年

皇太后六旬萬壽前經降旨 粵免道光十年以前民欠銀糧令各該將軍府尹督撫等查明開單具奏 據護理山東巡撫劉斯煊將山東各屬節年民欠銀糧折色腳價等項銀米漕糧查開確數呈覽 當交戶部核覆 茲據查明具奏 粵嘉慶二十三年起至道光十年止未完折色腳價銀四萬七百九十六兩零 舉人車價銀一千九百八十四兩零 花紅公室銀四百六十七兩零 攤徵河工堤工銀三萬二千九百六十六兩零 借銀天文物料銀二萬一千五百六十七兩零 俸工役食銀一萬三千二百七十九兩零 履級孤貧等米六百二十五石零 又倉項正耗草等銀十五萬二千二百八十五兩零

米三千四百五十一石零 漕糧二十一萬五千六百五十三石零 均係實欠 在民著加恩全行蠲免 該撫卽刊刻謄黃 通行曉諭 并照例按戶付給免單 履歷吏胥影射需索等弊 務期實惠及民用 副朕推恩布聞至意 欽此

1486 道光十六年九月二十七日奉

旨 此案著交宗人府會同刑部審訊 欽此

1487 道光十六年九月二十八日內閣奉

上諭 吳廷等奏查明被水地畝實數一摺 威東大白旗堡大黑山等處 旗民並二道境內 旗堡等驛站丁承種地畝 七月間河水漲發 被淹棟榭 房屋等物 均被沖毀 均已巧圖高梁 間被鳥傷 沿河低窪地方 既有災歉 俱係實在情形 自應量予接濟 著照所請 准其將種地畝文各戶 詳查造具清單 以備照例勸支 旗民各倉米石 先行借給一月 一糧仍由正賑和旗備有等 官開銷 毋著印指名嚴奏 所有應蠲應免 應行照例各事宜 著各該衙門據實查明 照例分別辦理 欽此



浙江巡撫馬 道光十六年九月二十八日奉

上諭有人奏浙江仙居縣學署被竊計贖贖實一集  
先據該縣署保張阿義為首逆詳解到府又訊保  
沈阿孝為首賊委臨海縣知縣會同該縣審辦該  
犯出逆夜行竊學署范淨說供認道光十五年十  
一月三十日夜行竊一次張阿義供認十二月朔  
一日夜行竊一次張阿義原系不符該訓導吳相投  
以原報未結分晰本係兩次被竊移覆該縣等通  
詳文內將前夜行竊改為張阿義起處次夜改為  
范淨說起意與移查訓導原文又復互異該府縣  
本年將張阿義擬軍解省旋據訓導吳相據具稟被  
竊實係一次該府陳大濬西諭改作二次並有委  
實王相望奉及俞志芳再三相勸加以恐嚇逆勒  
遂改逆原司在委杭州府審明實係張阿義起意  
竊一次並非二次等語學署被竊計贖贖實罪  
各款重何以招解到府訊保在逃之沈阿孝為首  
逆獲縣會審既究出逆夜行竊首犯范淨說為  
首次夜係張阿義為首何以通詳文內改為首夜

係張阿義為首次夜係范淨說為首又何以經杭  
州府覆省仍保張阿義一人為首行竊仍止一次是  
該府縣於張阿義罪名難保非有意開脫且逼勒  
該訓導史改被竊次數如果屬實尤止情理之外  
著該撫親提人按卷宗逐加研鞫務將此案被竊  
究係何人為首並一次二次之虛確切查明按律  
懲辦至原審委審各官有無怠惰開脫聽為刑情  
尤當秉公確查據實奏奉以嚴盜風而肅吏治特  
此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1489 道光十六年九月二十八日內閣奉

上諭本月二十六日亥刻圓明園不戒於火經王太  
臣等督率官員弁兵趕緊撲救旋即止熄竊據各  
該衙門違旨將是日救火出力各員開單呈覽朕  
詳加披閱該王大臣官員弁兵等勇往向前不辭  
勞動均屬勤奮可嘉自應卹卹恩施以示獎勵所  
有是日值班御前大臣僧格林沁乾清門值班吉  
凌阿貴成開明阿培成伊勒東阿穆克登額委事

官德裕批本中書吉隆阿泰蒙古事務衛多爾濟  
帕拉木圖圍值班大臣奕紀開門後趕到之御  
前大臣戴銓定親王奕結處郡王瑞愉領侍衛內大臣  
長齡睿親王仁壽惇親王綿愷總管內務府大臣  
禧恩耿倣軍機大臣潘世恩賽尚河南書房翰林  
非寧孫其清御前侍衛桂綬道廣齊克唐阿乾  
清門侍衛英綢保什訥阿保常安河玉璽烏勒木  
培額勒牙額玉明珠勒牙那福德長壽賽什雅勒  
春蘭隆阿珠勒<sup>補</sup>善明廣岳明阿恩<sup>以</sup>親兵查恩  
碩侍衛內大臣福克津軍機章京恩<sup>以</sup>海慶鄭壽  
林陳孚恩別辰巴批本中書桂林均著加恩賞加  
三級五時以獲趕到之軍機大臣著步軍統領穆  
彰河親兵聯順領首侍衛濟克<sup>恩</sup>特<sup>恩</sup>畢登巴<sup>恩</sup>爾  
德勒克色得<sup>恩</sup>山中<sup>恩</sup>岐<sup>恩</sup>巴<sup>恩</sup>清<sup>恩</sup>德<sup>恩</sup>爾<sup>恩</sup>通<sup>恩</sup>阿<sup>恩</sup>值<sup>恩</sup>  
敬<sup>恩</sup>秋<sup>恩</sup>大臣額勒<sup>恩</sup>澤<sup>恩</sup>純<sup>恩</sup>清<sup>恩</sup>門<sup>恩</sup>侍<sup>恩</sup>衛<sup>恩</sup>慶<sup>恩</sup>敏<sup>恩</sup>雲<sup>恩</sup>恩<sup>恩</sup>慶<sup>恩</sup>興<sup>恩</sup>綿  
性<sup>恩</sup>哈<sup>恩</sup>喉<sup>恩</sup>阿<sup>恩</sup>巴<sup>恩</sup>呈<sup>恩</sup>善<sup>恩</sup>巴<sup>恩</sup>圖<sup>恩</sup>噶<sup>恩</sup>阿<sup>恩</sup>那<sup>恩</sup>遜<sup>恩</sup>達<sup>恩</sup>齊<sup>恩</sup>賚<sup>恩</sup>興<sup>恩</sup>類<sup>恩</sup>春  
估<sup>恩</sup>慶<sup>恩</sup>賀<sup>恩</sup>穆<sup>恩</sup>騰<sup>恩</sup>阿<sup>恩</sup>委<sup>恩</sup>事<sup>恩</sup>官<sup>恩</sup>英<sup>恩</sup>林<sup>恩</sup>和<sup>恩</sup>丹<sup>恩</sup>頤<sup>恩</sup>批<sup>恩</sup>本<sup>恩</sup>官<sup>恩</sup>松<sup>恩</sup>峻<sup>恩</sup>批  
本<sup>恩</sup>中<sup>恩</sup>書<sup>恩</sup>阿<sup>恩</sup>汝<sup>恩</sup>承<sup>恩</sup>琬<sup>恩</sup>奏<sup>恩</sup>蒙<sup>恩</sup>古<sup>恩</sup>事<sup>恩</sup>侍<sup>恩</sup>衛<sup>恩</sup>巴<sup>恩</sup>秀<sup>恩</sup>桑<sup>恩</sup>均<sup>恩</sup>著<sup>恩</sup>加  
恩<sup>恩</sup>賞<sup>恩</sup>加<sup>恩</sup>一<sup>恩</sup>級<sup>恩</sup>圓<sup>恩</sup>明<sup>恩</sup>圖<sup>恩</sup>郎<sup>恩</sup>中<sup>恩</sup>等<sup>恩</sup>官<sup>恩</sup>十五<sup>恩</sup>名<sup>恩</sup>俱<sup>恩</sup>著<sup>恩</sup>賞<sup>恩</sup>加

三級圍戶三十五名俱著賞給一兩重銀錶兩個  
圓明園八旗色衣三旗管總等官十三員獲軍械  
二十七名俱著賞加三級獲軍一百二十六名種  
汲桶擡水夫七十四名俱著賞給一兩重銀錶而  
個步軍統領衙門救火官弁六十六員名俱著賞  
加三級步甲營兵等五百八十五名俱著賞給一  
兩重銀錶兩個欵此

1490

臣潘世恩穆彰阿賽尚阿跪

奏為恭謝

天恩仰祈

聖鑒事本月二十八日奉

上諭潘世恩賽尚阿俱著賞加三級穆彰阿著賞加

一級欵此竊臣等忝直樞垣叨侷

榮被凡涓埃之偶效皆職分所當為非因撰敘微

勞復荷

褒嘉特錫在

聖主計功論賞德志不遠而<sup>聖</sup>極已銘

恩悚惶倍切所有臣等感戴下忱理合繕摺恭謝

天恩伏乞

皇上聖鑒

奏

道光十六年九月二十九日

1491 道光十六年九月二十八日內閣奉

上諭琦善奏知縣糾捕不力請將去項等語指直隸代理長垣縣知縣馮上蘭於金忠早在該縣境被賊殺死搶去銀物一事事前既疎於巡防事後又未能獲犯解捕實屬不力著先行摘去頂帶留於該處地方勒限協辦務獲俟限滿有無又獲善行點列辦理該部知道欽此

1492 道光十六年九月二十八日內閣奉

上諭奕經等奏稱民地方各官失察屬界波賊請吏部議處一摺盛京遼陽屬界到二堡有匪徒設賭演戲派員獲害該旗民地方各官並不認真稽覈殊屬遲實屬玩愒所有失察之遼陽城守尉明秀知州胡秋界官防禦扎桑阿俱著交部議處奕經

德興圖明載未能先事覺察著一併交部議處餘著照所請辦理欽此

1493 道光十六年九月二十八日內閣奉

上諭奕經等奏請將失察賊匪各官分別交議並酌添稽查處章程一摺此案賊匪尹文升等自道光十一年起在皖口等卡界內偷竄竄坑堵截鹿隻所有歷次失察之皖巡總巡及台卡邊門各官著即查取職名交部分別核處該處皖口輝發霍各二卡倫地勢遼闊稽察難周著准其特珠魯塔喀卡倫移向柳河身以東揀擇扼要處所安設其各卡界內嗣後著添派熟志山廠協領一員隨時前往專查鹿客一經查出立將該統巡等官嚴拿懲辦並派出專員巡察銀兩著准其由船規項下照數給發該部知道欽此

1494 臣等查每年十月內

聖駕進宮後均由臣等傳知內閣令三品以下京堂衙門照舊輪班值日在京理合奏明照例傳知

內閣呈請侍各衙門一體欽遵理

奏

道光十六年九月二十八日奉

旨依議欽此

1495 道光十六年九月二十九日內閣奉

上諭著英以一二大員於太監人等懇求之詞不行  
拒絕經都察院道古將著英以革職自屬咎所  
應得姑念其平日辦事無悞此果情節而輕惟履  
霜豈冰不可不防其儆者英著革去尚書勳親步  
軍統領內務府大臣加恩以侍郎降補以示薄懲  
朕總理庶政一秉大公揭過之條務期允協在廷  
諸日其各體朕心也事竣均題副朕謹誌謹錄至  
是欽此

1496 道光十六年九月二十九日內閣奉

上諭中啟賢奏查明各屬墮旱電需情形請分別蠲  
緩錢糧并捐廣撫卹一摺山西河南等州縣或因  
需需等灾或因收成歉薄並據該撫查明自鹿各

就情形量加調劑如息著照所請所有河地縣被  
雹成灾九亦之固成五村應徵道光十六年地丁平  
糶錢糧未交著蠲免十分之六該縣被雹成灾八  
分之洞溝子等二村及山陰縣被早成灾八分之  
下營去等十九村應徵道光十六年地丁正耗錢  
糧果豆著蠲免十分之四臨縣錢糧著分作三年  
帶假山陰縣被早成灾七分之青願莊等三十村  
應徵道光十六年地丁正耗錢糧未交著蠲免  
十分之二其被早成灾六分之東辛寨等四十  
四村成灾五分之新家庄等七村懷仁縣被早成  
灾六分之野場等三十八村成灾五分之四老溝  
等四十六村朔州被早成灾六分之泥河等一百  
二十九村定襄縣被早成灾六分之南西力等十  
五村成灾五分之西河頭等二十一村大同縣被  
早成灾五分之秦城等二百二村應州被早成灾  
五分之南河等六十四村應徵道光十六年地丁  
正耗錢糧未交著蠲免十分之一臨縣錢糧著分  
作二年帶假如應臨錢糧溢完在官者著准抵作  
次年正賦其懷仁縣被早成灾之黃家莊等四十

八村定稟縣被旱歉收之東力等二十一村應徵

道光十六年地丁正耗錢糧米豆著蠲五十七年

秋後徵收以上各處如有未完節年米豆著一併

蠲五十七年秋後徵收至五白縣被旱歉收之河

澗著十二村并泉州被雷歉收之白方落等五十

三村清水河屬被雹歉收之三眼井等十八村應

徵道光十六年下忙地丁米折正耗錢糧著蠲五

十七年麥熟後徵收應徵十六年本色米豆著蠲

五十七年秋後徵收其來年麥熟後應徵錢糧著

免蠲五來年秋後徵收其各州縣被災村莊乏食

貧民著先給五錢一個月被災九分者極貧者加

給五錢兩個月次貧者加給一個月被災六分者

極貧者加給一個月均著照例每米一石折銀一

兩六錢如有貧生一體給賑以紓民力所有折銀

銀兩俟該省官員捐廉散給毋庸造冊報銷餘著

照所議辦理該撫卽刊刻榜黃施行曉諭務期實

惠及民毋任吏胥舞弊用示朕軫念災區至意該

部知道欽此

1497 道光十六年九月二十九日內閣奉

上諭中啟賢奏查勘被災情形並請將稟報不實各

員分別撤任留質一摺山西省澤源州屬本年夏

雨愆期收成歉薄據該撫查明實在情形自應量

與調劑加恩著照所請所有澤源州被旱成災五

分之五千莊等一百三村莊應納道光十六年地

丁正耗錢糧米豆准其蠲免十分之一蠲餘錢糧

分作二年帶徵如應蠲錢糧有溢完在官者准抵

次年正賦其被災各村之貧民照例折賑一個月

月此項賑銀俟該省官員捐辦無庸造冊報銷該

撫卽刊刻榜黃通行曉諭務令實惠及民毋任吏

胥舞弊用副朕軫念災區至意該部知道其被災

不實之署澤源州知州試用知縣葉華著卽撤任

任澤源州推升山東青州府同知方熙著留於山

西交該撫傳同委員卽知縣杜履質訊明確如

有詳飾情與核實亦辦欽此

1498 道光十六年九月二十九日內閣奉

上諭吳廷著補授吏部尚書步軍統領其未到任以

前仍均着穆彰阿兼署威京將軍着寶興調補寶興未到任以前着英額前往署理成都將軍着凱音布補授寶興着凱音布到任後再行交卸來京都察院左都御史着敬徵補授仍兼署戶部右侍郎兼管錢法堂事務戶部尚書英額出差之缺着禧恩兼署總管內務府大臣着奎照補授欽此

1499 侍如敬徵亦候差竣回臺照再行遵成

1500 道光十六年九月二十九日內閣奉

上諭賀長齡奏請將知府知州引例改簡勒休一摺貴州興義內知府谷善承辦事未能細心於地方公事難期整頓惟該員年力正強著以簡缺知府歸部發還仍照例送部引見交番州知州明玉年逾六旬精力就衰著勒令休致故部知道欽此

1501 道光十六年九月二十九日奉

上諭羅寶成即羅二任太胡四胡六著步軍統領衙門順天府五城一體嚴守防獲詳報審訊欽此

1502 軍機大臣 字寄

江西巡撫陳 道光十六年九月三十日奉

上諭據陳奏稱江西新昌縣知縣邊壽寓在署自縊身死雖據該故實家屬人等供稱平日憂鬱病起疾疾所致惟遠有鄉民赴縣喧嚷求辦災賑應行提省確審等語此案故實邊壽寓到任甫及一月即因缺苦費用不敷常生憂鬱何至遽爾輕生現據該撫查明該故實自縊遠在鄉民喧鬧之後且遠省內既有民情刁蠻愈出愈奇之句難保無不止喧嚷另有別情不可不嚴行查究著該撫親提現獲各犯悉心研鞫務得確情按律究辦其陶爪等七名是否係在場滋鬧正犯有無不法情事並嚴飭所屬巡捕在逃各犯姓名弋獲據實審辦據實具奏特此諭令知之欽此

旨寄信前來

1503 軍機大臣 字寄

浙江巡撫烏 道光十六年九月三十日奉

上諭據善英奏伊於本年八月間據監生者氏願

前此王天奇等呈稱上年六月間風潮陡作衝壞  
平湖縣海塘約計一百餘丈本年六月間潮又衝  
進內地花未供被淤損懇請趕修又去歲新修未  
完石塘中間即有坍塌例據三文有餘等語著為  
爾恭頤即將該副都統所奏各情確切查明是否  
該地方官不肯據呈詳報及新修塘工有無坍塌  
情弊據實覆奏毋稍含混將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1504 道光十六年九月三十日內閣奉

上諭戶部三庫事務著長齡管理欽此

1505 道光十六年九月三十日內閣奉

上諭奕顏現在出差戶部三庫事務著戴銓署理欽  
此

1506 道光十六年九月三十日內閣奉

上諭總理工程處著派奕紀欽此

1507 道光十六年九月三十日內閣奉

硃 上諭廣西海州府知府員缺著徐繼金補授欽此

1508 查海州府係衝難中缺謹

奏

1509 道光十六年九月三十日內閣奉

上諭前司有人奏稱江西省倉庫各員聲明狼藉有  
昔交者吳朱士秀會同陳慶奎糾集據者吳等密  
明定擬具奏此委清江蘇知縣孫慧輝訊無貪婪  
實跡惟因該徵民欠未完處于恭處擬令庫書簡  
紹基等指銀墊解已屬不合且積欠所部書文幾  
文即屬批督借貸濶蕩肆著即革職照例杖徒送  
賊贖立仍保限滿有無全完分別辦理貼江府知  
府于公視於屬自深察俾借案部內財物失於覈  
實又奉行詳請丁憂著照例李世康督緝起程未  
屬非是于公棟著吏部議處著著掛樹鎮照磨丁  
長欽福嚴丞李世康均無主持插弄等弊惟於張  
紹佗捐輸錢文辦理不善著吏部議處清江蘇典

史、蔡中和、陳泰各款，無共事，著毋庸議，即飭令回任，餘著照所議完結。欽此。

1510 道光十六年九月三十日內閣奉

上諭：前有人奏泰江西宜黃縣知縣陳德恩貪贓各款，有旨令著吳來士、李會同陳榮老辦理。據有吳等查明具奏，此案陳德恩被泰各款，既經核到，人證卷宗，既無實據，擬從輕擬丁憂。吳、史、文、杖，亦擬無過付職，及李、會、情事，所有原奏之案，著毋庸議。陳德恩、吳、文、杖，著少別飭令回任。回籍，餘著照所議完結。欽此。

1511 道光十六年九月三十日內閣奉

上諭：蘇州府泰靖關城隍把總項帶一摺，山東聊城縣知縣章發身，沈把總許殿元，前因捕獲不力，降旨摘去頂帶，責令該捕撫該撫查明該員等，被泰後，於境內搜捕，買乘，施搜捕，計查高知，德查章，數升殿元，供著准其開復頂帶，該部知道。欽此。

1512 道光十六年九月三十日內閣奉

上諭：烏爾恭額奏請動項修築海塘，柴場各工一摺。浙江沿海西塘，經歷伏秋大汛，潮勢洶湧，兼之南沙連潮北趨，猛烈以致柴場各工，間有淤卸，據該撫查明，自李家漢西首字號起至翁家漢西日字號止，間共場工長三百七十六丈，又甬字號柴工二十丈，二共柴場工長三百九十六丈，供係柴樁淤損，附土坍塌，情形極為危險，自應及時修築，以資鞏固。所有估需例加工料銀一萬七千四百三十七兩零，准其照例在於歲頭運庫初二兩次商息項下分別動支，給辦該撫，即飭該道督率嚴備各員上緊趕辦，務期工堅料實，不得稍有草率，倘減該部知道。欽此。

1513 道光十六年九月三十日奉

上諭：烏爾恭額奏請揀員調補省會知縣一摺。著照所請，浙江仁和縣知縣員缺，准其以李廷成調補。該部知道。欽此。



1514 道光十六年九月三十日奉

旨鑲藍旗包衣參領佟福領來遞送著交部議處欽此

1515 道光十六年九月三十日內閣奉

上諭樂善等奏廢員當差期滿一摺回銜著准其釋回欽此

1516 道光十六年九月三十日內閣奉

上諭樂善等奏革員到戍期滿一摺章楚布多爾濟著准其釋回欽此

1517 道光十六年九月三十日奉

旨道所奏倉差不保致重犯脫逃之原解官博興縣  
理督甯河縣知縣李陳履解官臨淄縣知縣徐雲  
鈞俱著摘去頂帶為限嚴守逃犯趙連臣務獲使  
限滿有差又獲再行分別辦理欽此

1518 道光十六年九月三十日奉

旨道所奏珠脫監犯之浙江象山縣典史王敷於萬

勒重犯並不小心防閑致被脫逃至六名之多著  
革職交該撫提同刑部人等嚴密確情按律  
定擬具奏象山縣知縣吳錫時著革職留任勒限  
緝拿逃犯周先柳等務獲使限滿有無又獲再行  
分別辦理該部知道欽此

1519 據軍機章京理藩院候補員外郎熙成等呈請

據情代

奏恭謝

天恩理合繕原呈進呈

御覽謹

奏

1520 軍機章京理藩院候補員外郎熙成等謹呈為

懇請據情代

奏恭謝

天恩事本月二十八日奉

上諭軍機章京熙成海慶鄭翰林陳孝恩劉長昌俱

著賞加三級欽此竊思等奉克曹選共沐

國恩依

榮業以趨班彪思職守愧萬駑之下質未效涓埃

茲以撰就微勞復荷

褒嘉特錫在

至恩普博周偏不遺假末於菲葑而鳳等奔走後先

益勿休體於指臂所有鳳等感蒙下忱理合具

呈奉

天恩伏乞

中堂大人

奏理呈

理藩院候補員外郎鳳成

戶部顧科庫司庫海慶

工部郎中蔣喬林

吏部候補主事陳子思

兵部候補主事劉景昌

1521 道光十六年十月初一日內閣奉

上諭康啟奏請隨帶官員一摺康啟著准其於路過  
佐甘與關松類而商選派妥幹人員就近帶往兼  
爾見隨同查辦事件所帶之員著准其一併馳驛  
前往欽此

1522 道光十六年十月初一日內閣奉

上諭高壽泰知縣連俸期滿揀調乏員請留任三年  
一摺著照所請熱河所屬平泉州知州祥慶著准  
其留任三年該部知道欽此

1523 道光十六年十月初一日奉

旨此次歲試武舉弓力石力不符及步箭未能到靶  
之榮慶王朝翰侯恩金辰志江徐漸遠張士傑林  
林治本項得榮胡煥林馬傑武侯著仍得殿試一  
科所有原圖監射王大臣監射大臣著交宗人府  
吏兵二部照例議處其補行殿試弓力仍不相符  
之武舉馬和哩業經三次不能合式著照例將中  
武字樣註銷弓力仍不相符之武舉王全隆照鳳  
儀著再行停殿試一科餘依議欽此

1524 道光十六年十月初二日內閣奉

上諭鄂山奏揀員調補省會知縣一摺著照所請四  
川成都縣知縣員缺准其以周奕承調補該部知  
道欽此

1525 道光十六年十月初二日奉

旨楊名顯於辦理工程倉混入奏已屬巧飾入於臨  
潼富平等缺縣將同鄉謝長年謝長清調補並因  
謝長年調補臨潼時出差未回復令謝長清前往  
署理弟兄先後接任顯係高人擇缺意存袒護楊  
名顯著即革職交遠廳同知謝長年富平縣知縣  
謝長清因與該撫同鄉均得調補並以同鄉弟兄  
接任交代跡涉黃緣謝長年謝長清均著降三級  
調用無庸查核該撫再直者調署各缺例由兩司  
具詳不得以巡撫意存袒護一味迎合所有謝長  
年謝長清調署具詳之布政司按察使著陝西巡  
撫查取職名送部加等議處至州縣中兄弟同在  
一省例不迴避其同在一府者例文本未明晰向  
經該督撫咨請到部均照鹽場與地方官員父子

同官一府之例令其迴避以別府所屬之缺調補  
嗣後州縣官兄弟同在在一府者著以別府所屬之  
缺調補該部即纂入則例通行遵辦欽此

1526 道光十六年十月初二日內閣奉

上諭前據劉廷泰稱已革湖南辰水沈靖遠常慶在  
任爲取無方致曝尸案訪亦狂頑保舉不當並不  
自請處分等語當文吏部欽奉在案該部查明凡  
有該違例題奏升調人員如有其職執法苛菲及  
當保人員不實均合有應請處分而自行請出揭  
衆者例行充據或在則例已爲詳備此案常慶被  
議情節而非其職執法且係訪亦狂頑自行奏奉  
而百劉廷原奏之處著毋庸議欽此

1527 道光十六年十月初二日奉

旨周良卿准其補授奉天府承德縣京縣知縣所有  
該府戶等應得處分著加恩寬免欽此

1528 道光十六年十月初二日奉

旨兵部奏山東巡撫魏元愷由研發邊武缺一本選

誤二日兩廣總督郭廷楨由研發邊武缺一本選  
誤五日請旨飭查著山東巡撫兩廣總督並沿途  
經過各督撫查明此項本章因何遲送遲延據實  
奏辦欽此

1529 道光十六年十月初二日奉

旨責慶著賞假一月安心調理禮部尚書著戴銓兼  
署欽此

1530 單職大臣字寄

盛京將軍 奉天府戶 直隸江蘇安山東山西

河南陝西等省巡撫各督撫 道光十六年十

月初三日奉

上諭本年盛京大白旗堡大黑山等處被淹江蘇黃  
蘇等三州縣歉收沭陽縣被雹歉收山東益都等  
二十八州縣歉收長清等二十二州縣被旱山西  
山陰河曲等十廳州縣被被旱被雹被霜並澤  
潞州被旱河南原武縣歉收陝西葭州等四州縣  
被雹節經該省奏列均已隨時加恩分別蠲緩數

放口糧借給籽種小民諒可不致失所惟念來春

青黃不接之時民力未免拮据著傳諭該將軍府

尹督撫等體察情形如有應需接濟之處即查明

據實覆奏務於封印前奏到候朕於新正降旨加

恩再直隸安徽兩省被蝗被水各州被蝗滄州等六

州被水萬全延慶等九州縣及張家口被水被

旱被雹被蝗安徽安慶等州屬被淹甘肅皋蘭

等二十七廳州縣州列縣五地方被水被旱被雹

被淹已據該督撫等奏明隨時撫卹及委員查勘

亦著迅速辦理並將來春應否接濟之處一併查

明於封印前奏到將此諭令該將軍府尹各督撫

知之欵此邊

旨寄信前來

1531

查本年奉天江蘇山東山西河南陝西等省間

有積歉地方供糧隨時

加恩分別蠲緩散放口糧借給籽種其明春應否量

為接濟之處且等件照例擬寫詢問該督撫

等

諭旨俟覆奏到日再行擬寫新正

加恩諭旨道

呈再直隸安徽甘肅江西湖北各省尚有被災之

區該督撫等業經隨時撫卹及委員查勘其應

否調劑現供未便奏到應一併詢問令其迅速

查奏彙辦謹

奏

1532 道光十六年十月初三日奉

旨此果爾親王兩翰大葛三等閑設賭局於六月二

十四日被中營兵役等獲既據該衛保碩供稱前

親王收斂令伊回明者其懇求從嚴懲辦何以二

十五日甫求嚴辦二十六日反稱葛三放出二十

七日仍用伊等往輪知象無情前擬不符著爾親

王明白迴奏欵此

1533 道光十六年十月初三日奉

旨劉大劉五即劉連第張鳳枝林老即林榮崔

治劉成張崇王層仁劉紀兒均著交刑部展訊其  
訪獲鄰境積年私運火藥各犯之中城副指揮呂  
榮祺協同賴孝之前任東城副指揮鄒培煜著於  
定案時聲明請旨欽此

1534 道光十六年十月初三日奉

旨左世鑄著交刑部審訊欽此

1535 查原在軍機章宗上行走之刑部主事程庭柱

現在起復到京該員當差勤慎為向來得力之  
員且等公同商酌請照例仍令該員在軍機處  
額外行走以資熟手謹

奏

1536 道光十六年十月初四日內閣奉

上諭瑚松額奏刑部將原職開缺仍令赴甘肅委用  
一摺前任甘肅永甯州副將段永福准其於原職  
後仍赴甘肅委用仍有刑部缺出即行奏請補用  
此任因段永福前在軍營著有微勞違礙等語

資熟手是以特允所請他者不得援以為例該部  
知道欽此

1537 道光十六年十月初四日內閣奉

上諭軍機處奏豫省會要缺知府一摺著照所請  
廣西桂林府知府員缺准其以興仁補授其前經  
補放遺缺知府之慶倫著該撫候該員到省後遇  
有相當缺出奏請補用該部知道欽此

1538 道光十六年十月初四日奉

旨昨因肅親王府繕大葛上等閱設賭局一案情節  
若故不符降旨令該教明白迴奏茲據奏稱聞知  
葛三被兵役拿獲後即將獲獲保項痛斥並恐葛  
三到案時供係包承人令保項到者吳處說明係  
庄工人懇求嚴辦至步軍統領衙門因何將葛三  
放出實不得知等語著刑部即提訊葛三是否係  
包承人抑係庄工確切究明據實具奏欽此

1539 道光十六年十月初四日內閣奉

上諭慶郡王祥魁秉性篤誠持節恪恭前因染疫實

假調理方其速就症危並遞聞法遊深為憐惜著  
賞給院履經被派恩郡王錦愉帶領侍衛十員前  
往英畝朕於初五日親臨賜奠並賞廣備司庫銀  
四千兩經理喪事所有任內一切處分悉予開復  
應得卹典著該衙門察例具奏欽此

1540 軍機大臣 字寄

馬蘭鎮總兵兼總管內務府大臣容 道光十六

年十月初五日奉

上諭本日據容照奏請查革歷年陋習一摺破除一  
切可嘉之至馬蘭鎮屬十三營汛向年採取各種  
藥草王文鎮著並各該管上司衙門均有餽送汛  
兵既以採藥致畏差控甚重在覓居民人等避內  
採取難保無匪徒混入藉此砍樹剝參不可不防  
其漸至全蓮花鹿柳草三種所產之地尤關緊要  
何以令人擅入採取餽送殊出情理之外著容照  
即將此項陋習詳細查明始自何年據實具奏毋  
稍含糊又每年派割火道兵丁內向以二十名專  
為打草滋擾著二萬束以備修補房間之用每名

攤派錢文其置買鎌刀草爬即用此項錢兵丁等

難保無指差為名任意滋擾情事著照所議即動

用該處庫存廢藏裁造鎌刀分給應用其價值及

草爬一項均由營中公費支用倘再有攤派等弊

立即查參該總兵務將此項兵丁供給銀兩草米

一節查明始自何人任內一併據實奏將此節

令知之欽此遵

旨寄信前來

1541 道光十六年十月初五日內閣奉

上諭恩郡王錦愉著管理

雍和宮事務欽此

1542 道光十六年十月初五日內閣奉

上諭慶郡王綿懋為朕親叔慶信親王之子秉性樸

醇持躬謹飭自秋間迭次報稱增劇克爾法遊本

日朕親臨賜奠恩忱實深朕仰體

皇考及子之報劬加恩再承襲郡王一次綿懋現無子

嗣其庶行立嗣承襲之處著宗人府照例辦理時

借特任保者賞做兩個月料理喪事所有應行事宜著該衙門參例具奏欽此

1543 道光十六年十月初五日奉

旨前經吏部將月選官帶領引見其河南柘城縣知縣楊鳳翰七員朕已覺其日力不及特命軍機大臣傳到該員再行察看本日據奏該員實係兩目昏眊試以字畫不能辨識難勝民社之任楊鳳翰著以原品休致其柘城縣缺著吏部即將是日備班之員帶領引見所有過堂時未經着出之吏部堂官驗看月官之九卿科道著吏部都察院分別議處欽此

1544 道光十六年十月初五日內閣奉

上諭楊名聰身任鉅撫乃子所屬荊陽縣命案經署臬司完出府縣詳刑來情與並不秉公查辦祇取目司遺棄見向馮法固全復三次親往尋屍錫公署拜會親往湯金劍等查明屬實尚復任意抵賴專惡溺職殊出情理之外楊名聰業經革職

著毋庸議倘尚不知自反曉曉請刑則咎由自取朕必當重治其罪李廷錫子命案重情惡心究出真容詳報尚無不合惟于楊名聰奏後跪求寬泰實屬卑鄙業經革職亦毋庸議欽此

1545 道光十六年十月初五日奉

旨湯金劍著使富呢楊阿到任交卸後再行來京復命文慶著帶同司員馳驛前往河南查辦事件欽此

1546 道光十六年十月初五日奉

旨著准其開缺欽此

1547 道光十六年十月初五日內閣奉

上諭林則徐等奏保蘇州人負在滯請暫停分發一摺江蘇省試用佐雜人數過多著吏部即將捐納布政司理問布政司庫大使府經歷縣丞局知事縣丞等州吏目從九品未入流九項人負暫停分發江蘇候各班漸次疏通再行報部分發欽此



1548 道光十六年十月初五日內閣奉

上諭內閣奏查閱江西營伍全竣一摺江蘇州編副將林向榮年近七旬氣血漸衰著以原品休致該部知道欽此

1549 道光十六年十月初五日內閣奉

上諭琦善奏揀補要缺知縣一摺著照所請直隸長垣縣知縣員缺准其以彭世昌調補該部知道欽此

1550 道光十六年十月初五日內閣奉

上諭容照奏查禁歷年陋習一摺馬蘭鎮地方鎮將以五千把總向選公出均役使兵丁挑負行李石為挑夫該兵丁等常充此項差使槍箭技藝自不能望其合法國家費帑差兵操防是公務若徒供官弁役使之用必至營伍廢弛有名無實不可不嚴行飭禁著即隨時查察倘所屬員弁內嗣後仍有役使兵丁之事即行據實參處毋稍姑息至該鎮每年應進鹿隻除小鹿六十隻仍照舊補捉餘

養外所有園內舊養大鹿即著全數放出不准餵養其所佔官兵悉令歸伍以節糜費而重差操欽此

1551 道光十六年十月初五日內閣奉

上諭秉燾奏恭遵旨酌保在工尤為出力人負一摺東河本年堵築支河試挑靴塌挑辦土工均在兩岸埝上各工之外較常年積費工程尤為險要應各該道等量率防守悉照該園柱河督擇其尤為出力者開單呈覽開列道張垣河北道劉體重調任兗沂道徐受鈞著交部議敘蘭儀同知鄒鳴鶴即行開缺歸於河南候補知府班內儘先補用黃沁同知于卿保著賞換知府頂帶雖事通判蕭以霖山東糧河通判陳同哲均著賞加升銜祥符縣知縣李溟著賞加同知升銜署蘭儀縣知縣候補知縣童泰時著遇有知縣缺出不論繁簡先儘補用大挑知縣借補州州判積安著開缺以河工通判補用據發知縣借補漆縣縣丞郭承緒大挑知縣分發河工左是實優著賞加同知升銜

其另片酌保之歸河協備關恩義著加恩賞卹部  
司銜以示鼓勵該部知道欽此

1552 道光十六年十月初五日內閣奉

上諭怡良奏請將知縣改就教職一摺前任浙江永  
康縣知縣黃揚德服滿起復自楊維庸民社情願  
改就教職黃揚德係進士出身准其以教職改補  
在籍候選該部知道欽此

1553 道光十六年十月初五日奉

旨昨因敬敏迴奏摺內有舊三被獲恐到案供係包  
衣人等語降旨令刑部提訊舊三是否包衣人確  
實其奏茲據訊明該犯實係民人受雇在府舊三  
既係民人即非包衣人本無庸慮其混供敬敏何  
以恐其到案供係包衣人令保頌列者其處說係  
雇工懇求嚴辦是何意見著敬敏仍行明白迴奏  
欽此

1554 軍機大臣 字寄

山西巡撫中 道光十六年十月初六日奉

上諭有人奏山西地方官貪劣不職罔顧物議者  
不一而足各等語山西吏治廢弛屢經降旨查辦  
中丞賢簡任迭換未久自無所用其迴護著將摺  
內所指各員數項逐細查明據實具奏儘將事端  
倘不實不盡日後別經發覺該撫不能當欺飾重  
咎也原摺著鈔給閱看將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1555 道光十六年十月初六日內閣奉

上諭程良奏請將積欠村莊新舊糧賦分別蠲免摺  
河南安陽等縣低窪村莊歷年被水本年夏秋田  
禾又開被積潦淹浸經該撫查明收成均為歉薄  
若將新舊糧賦同時並徵民力實有未遑自應量  
予調劑加恩著照所請除安陽縣莊家橋等二十  
七村莊應徵本年丁地錢糧馬錢工加價並津貼  
等工方幫各債內黃縣等十四村莊應徵  
本年丁地加價貼津應徵本年及歷年錢糧加  
價等項夏已蠲免徵本年錢糧加價等項祀葬應  
徵本年錢糧及十五年錢糧並各案加價備儀

應徵本年及歷年錢糧加價並補徵十一年錢糧  
湯陰縣應徵本年錢糧及帶徵十三年漕糧並歷  
年錢糧潞縣應徵本年錢糧及十五年漕糧並歷  
年錢糧封邱應徵本年錢糧加價及十五年漕  
米並原糧十一年丁地加價武陟縣裝莊等三十  
村莊草亭等十四村莊本年及十二年錢糧方價  
並丁三十五年兩年錢糧方價均仍照常徵收外所  
有安陽縣莊家橋等二十七村莊應徵本年漕糧  
並帶徵十五年漕糧及原糧十二三十四等年  
錢糧並各年加價者一併擬至道光十七年夏後  
秋後分別各徵其要馬坊等村莊河佑業內應補  
徵十一十二三等等年丁地錢糧並應徵未完氏  
欠十四十五十六等年丁地錢糧著一併擬至十  
七年來後按最先年分每年帶徵一年內黃縣李  
大莊等十四村莊應徵本年漕糧並帶徵十二  
三十四十五等年錢糧及各原加價者一併擬至  
十七年夏後秋後分別各徵其河佑業內不准認  
之應補歷年漕糧漕項與毗連之歷年放水業內  
陳莊等十九村莊應帶徵十二三十四十五等

年漕糧著一併擬至十七年夏後秋後按家先年  
分每年帶徵一年臨漳縣河佑業內沙登精粒地  
畝應行補徵及積款業內應行帶徵十一十二  
三等年漕糧漕項著一併擬至十七年秋後按家  
先年分每年帶徵一年夏邑縣應行帶徵原糧十  
二年丁地加價及積欠十四十五年丁地錢糧  
加價者一併擬至十七年夏後秋後北無應行帶  
徵原糧十一二三等年並氏欠十四年丁地錢糧  
加價者一併擬至十七年秋後按家先年分每年  
帶徵一年蘭儀縣應補徵十二三兩年錢糧漕  
米著一併擬至十七年秋後各徵湯陰縣應徵十  
四十五年漕糧著擬至十七年秋後按家先年  
分每年帶徵一年濬縣應行帶徵十一年漕糧與  
原糧十二三四等年漕糧著一併擬至十七年秋  
後按家先年分每年帶徵一年封邱縣應徵原糧  
十二三十四十五等年丁地錢糧加價者一併  
擬至十七年夏後按家先年分五年帶徵一年  
武陟縣吳莊等三十村莊應行帶徵十三十五  
兩年漕糧草亭等十四村莊應行帶徵十三年漕

糧著一併竣至十七年秋後應徵以紓民力該撫  
卽刊刻條黃備行晚諭務期實惠及民毋任吏胥  
舞弊用副朕軫念歎區互意該部知道欽此

1556 道光十六年十月初六日內閣奉

工部福州將軍長清前在軍營總者勞績著加恩賞  
加太子太保銜並賞在紫禁城內騎馬欽此

1557 道光十六年十月初六日奉

旨吏部奏前在陝西巡撫任內於該省知縣謝長年  
謝長清著缺額缺未經查明率行批准自請吏部  
從重議處吏部著文部議處欽此

1558 道光十六年十月初六日內閣奉

上諭慶郡王特恩薨逝朕昨親臨賜奠實憐其地  
也前奉奏請將著派恩郡王特愉前往奠醴並著  
送奠酌寬欽此

1559 軍機大臣 字寄

兩江總督陶 著兩江總督江蘇巡撫林 道光

十六年十月初七日奉

上諭有人奏江蘇省新漲沙地官產民業輾轉不清  
該省大吏先後查辦互異以致積弊新漲之地概  
未升科等語此項新漲沙地如果有礙水道或即  
險除如定於水道無礙即應照例准人承買何以  
懸宕數年尚無一定辦理章程著陶澍林則徐體  
察情形著書畫善持使民有樂利圖謀無虧不  
因有人陳奏遂存附會之見亦不可畏難不辦互  
存觀望之心原摺著鈔給閱者將此各諭令知之  
欽此遵

旨寄信前來

1560 道光十六年十月初七日內閣奉

上諭陳階平奏加工製造火藥試有成效並開列條  
款請飭永遠遵行等語軍儲利器槍礮為先全在  
提煉硝磺精造火藥方能致速捷強提督奏  
稱自到任以來督率府備講求加工製造之法火  
藥較前猛利現在該省各營槍兵打靶均已一律  
如但恐將來姓少力作藥力仍有減縮之弊著兩

廣總督廣西巡撫督飭各營遵照該督所奏條  
款實力辦理毋得日久懈弛以儲軍實而重邊防  
畢泮登欽此

1561 道光十六年十月初七日奉

旨太監乘進喜當差年分較淺情節尚輕著免死發  
給打牲鳥拉官員為奴遇赦不收該部知道欽此

1562 軍機大臣 字寄

兩江總督陶 著兩江總督江蘇巡撫林

道光十六年十月初八日奉

上諭有人奏江寧府知府善慶負欠京債累至五萬  
餘兩本年陶澍據控咨行順天府提取京城恒太  
成帳局之王允恭張克昌等赴江質訊應從重究  
辦等語奸商重利盤剝久干例禁知府有表率之  
責負債既多又安望其潔已奉公蓋置自傷著陶  
澍林則徐確切查明善慶所欠京債共有若干兩  
其王允恭張克昌等曾否提到嚴加審訊治以歷  
科之罪至該府任內如有侵帑剝民情事著該督

等印確查嚴參毋稍容隱並將現在審辦情形據  
實具奏將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1563 軍機大臣 字寄

雲貴總督伊 雲南巡撫何 道光十六年十

月初八日奉

上諭有人奏雲南地方遼闊深山窳著未經開墾之  
區多有湖南湖北四川貴州窮民往搭寮棚居住  
砍樹燒山藝種包穀之類此等流民於開化廣南  
普河三府為家多請仿照保甲之例一體編查等  
語雲南地處邊陲開化等三府又係該省極邊之  
境異鄉流民紛紛雜處若不設法稽查或致奸匪  
湖跡滋生事端尚復成何事體著伊里布細加查  
訪嚴飭所屬府廳州縣實力稽查凡遇流民入山  
種地如查有面生可疑行蹤詭秘者即著嚴拿懲  
辦並著體察情形應如何按察給牌編立保甲之  
案妥議章程具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1564 軍機大臣 字寄

雲貴總督伊 雲南巡撫何 道光十六年十

月初九日奉

上諭有人奏雲南永北廳地方向有銀廠廠中有匪  
徒肆號孫霸王素不安靜聚集多匪該省上司委  
永善縣知縣劉斯增往辦該員不能整頓廠務又  
復勒索聚賭人多不服將孫霸王收為頭人並無  
忌憚該知縣將伊解行至中途被伊夥黨封去  
該知縣動疎疎等該匪等糾約千餘人持械擁至  
官署將知縣並一保長砍傷擄去銀八千餘兩  
並行奪物保長逃于具控該知縣始行稟請動  
兵該匪等復敢行伙多人抗拒該省上司任將知  
縣撤委其廠中滋事緣由並未據實陳奏各等語  
匪徒聚眾滋事地方官果能先事查拏嚴行  
懲辦何至釀成巨案若如所奏各情該省並未據  
實奏明作何辦理難保地方官無化大為小情事  
著該督等迅即查明廠中滋事緣由嚴飭所屬務  
將孫霸王等趕緊依法嚴拏律德辦以安良善  
而警光頑將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1565 軍機大臣 字寄

江西巡撫陳 道光十六年十月初九日奉

上諭給事中寶德奏江西上高縣已革廩生陳春未  
於道光八年間呈報開林春州府宜春縣登坊表  
等處銅鉛錫委負勒明無礙回廩前任巡撫韓文  
琦不願辦理坐以呈詞不實革去廩生以效宜春  
等縣諸山所產銅鉛錫匪不具報等語著陳鑒  
詳查原委所稱開井取砂煎出銅鉛貯藩庫是  
否有案前任巡撫何以不願辦理或有窒礙難行  
之處確切查明據實具奏將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1566 道光十六年十月初九日內閣奉

上諭荆州將軍德克金佛著加恩在紫禁城內騎馬

欽此

1567 道光十六年十月初九日內閣奉

上諭向來科道等官於京外各處事件如有夙閑原  
詳據實陳奏請旨查辦至應如何料理之處並容

雲運廳見年行續請茲據給事中實德奏江西康生陳泰來前因呈報開林銅鉛數被片年請開復康生飭令前往採辦實屬糊塗冒昧實德不勝給事中任著回原衙門行走欽此

1568 軍機大臣 字寄

兩廣總督鄧 廣東巡撫祁 傳諭粵海關監 曾文祥 道光十六年十月初十日奉

上諭省人奏廣東地方積弊請飭查辦一摺著鄧廷楨等將摺內所指十條會同速知妥議據定具奏務須認真查辦毋得因循怠玩視為具文原摺著鈔給閱看將此諭知鄧廷楨祁瑛並傳諭文祥知之欽此遵

旨寄信前來

1569 軍機大臣 字寄

兩廣總督鄧 廣東巡撫祁 道光十六年十月初十日奉

上諭有人奏廣東會試舉人水腳銀兩書吏需索領

費並偷換銀色據稱該省舉人每名應領水腳銀二十兩零各衙門書吏朋比使蝕縣府出詳藩署領咨該舉人所費約十六七洋圓及二十餘洋圓不等此項向在藩署發給紋銀自改議由各州縣地丁項下存留就近給發遂啓洋銀碎片攪雜抽換之弊等語各省會試屆期發給水腳銀兩原所以示體恤若書吏等勒索使費於前又復抽換銀色於後是國家培植士類之資徒飽胥役蝕察之欲不可不嚴行查禁著鄧廷楨祁瑛體察情形或由藩司派委妥員於該舉人投文時當堂收受領卷時當堂驗給其縣府去者稍違者或另立章程俾得具呈承領總之此項銀兩務須辦理真實不經胥吏之手自無勒索之弊該省大小官員衙門各將所轄書吏自行嚴查則弊漸塞弊源自清勉副朕體恤寒畯至意將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1570 道光十六年十月初十日內閣奉

上諭惠郡王綿齡著管理中正殿事務欽此

1571 軍機大臣 字寄

戶部尚書著

盛京將軍奕 道光十六年十月十二日奉

上諭本日據哈豐阿等奏布特哈無餉壯丁每歲交納皮張生計積累定額既無可裁減亟應量為調劑由盛京戶部備存銀兩借銀十萬兩交奉天府戶尹自明年正月起發商每月一分生息每年徵息銀一萬二千兩遇閏加徵銀一千兩布特哈無餉壯丁自道光十八年起每名歲給銀六兩每年共需銀七十二百兩於年終該處領取俸餉之便領回給發其餘息銀由奉天解交盛京戶部歸補原款計二十年即可全完俟前項歸還後即將所餘之息一併領回留為該處一切公用及各項工程之需等語借款生息調劑壯丁原為體卹邊軍藉資訓練起見惟所借銀兩至十萬之多奉天各商領取起見是否不至累累其每歲所徵銀兩能否按期交納著奕額體察情形據實具奏將此諭令知之欽此遵

旨字信前來

1572 道光十六年十月十四日奉

旨奉天官莊投石著沐裕誠會同盛京戶部侍郎德

春監收欽此

1573 道光十六年十月十四日奉

旨已故團山貝子祥祐所遺之爵著準其以繼恭承

襲欽此

1574 道光十六年十月十四日奉

旨奕綽著准其遞繼慶良郡王綿恭為嗣欽此

1575 道光十六年十月十四日奉

旨王禹著賞假兩個月安心調理毋庸開缺欽此

1576 道光十六年十月十四日內閣奉

上諭戶部尚書著吳裕英署欽此

1577 道光十六年十月十四日奉

旨吏部著降二級留任准其抵銷欽此



道光十六年十月十四日奉

旨此案著交琦善督同臬司札澤布親提人證卷宗  
東公嚴審據律定擬具奏原告宋珠該部照例解  
任備質欵此

1579 道光十六年十月十四日奉

旨松秀著著去六品頂帶劃四即劃常得白二小帽  
印幅路係李福王二趙典旺聞吉正王二吳東兒  
張甲俱著交刑部審訊其在逃之大成仍著步軍  
統領衙門順天府五城一體嚴拿務獲究辦欵此

1580 道光十六年十月十四日內閣奉

上諭林則徐等奏邊方酌保在工尤為出力人員一  
摺本年南河黃水節次增長險工叠出經各該道  
等董事之內密辦急務總圖堵築督導得力尤  
為出力者周平呈覽自應量予恩施到浙浙河督  
奏詳張允希文部以邊方疏濬保堵邊方圖保徐州  
道王廷秀著准揚道等三著准徐遊擊劉棟坐  
補准安內知府恩齡均著交部議叙理惟臨道

布知府銜襄河同知江瀚著以沿河知府酌量升

用調補臬司知府寶榮中河廳運判委晉海安廳  
運判補德垣阿山縣知縣楊鴻樹富北河營守備  
李本珠河標中營千總朱將克均著賞加升銜大  
批知縣借補汝州州同羅登瀛借補通州州判張  
書紳均著遇有缺出不論望前儘先調補等  
右營守備張如玉委兼縣丞沈樹基均著以應  
升之缺即行升用署馮山縣李江蘇大挑知縣王  
會蘭山時河汛安嚴借補縣丞黃茂均著各按地  
方本職儘先補用以示鼓勵餘著照例辦理欵此

1581 軍機大臣 字寄

編辦大學士直隸總督琦 兼管順天府府尹  
何 所尹曾 道光十六年十月十五日奉

上諭有人奏畿輔一帶如南西門及黃村各處有無  
業遊民三五成羣演技為槍犯事到官多藉口於  
打獵防夜地方官含混未肯深究順天府直隸所  
屬各州縣私藏鳥槍鎖槍凡有闖礙命案起獲兇  
械承審官規避處分竟諱為槍為竹銃等語軍器

大器例禁甚嚴即環山濱海居民應須守禦亦祇准照式製造上刻姓名編號輪查安得私製私用大抵硝磺火藥之偷竊總由於馬槍之未查搜除破除陋習先清英源著琦善何澂漢曾望顏各飭所屬申明例禁認真稽查其應如何出示曉諭限以月日概令呈官銷毀並於按季更換門牌之時留心察訪倘地方官奉行不力一併參處並著琦善等悉心妥議章程具奏固不可視為具文虛應故事亦不得任聽胥吏藉端張皇擾累是為至要將此各諭令知之欽此遵

寄寄信前來

1582 道光十六年十月十五日內閣奉

上諭給事中陳功奏驛站積弊一摺據稱上屆越南國貢使入關再過廣西廣東湖南湖北各省驛站人夫用至四五千名雜原其改皆由各員弁任職家丁私帶貨物筭契且有赴補赴選位樣式弁等負及舉及長隨人等附搭同行名為搭差又四搭有附搭者圖其便安私帶者利其洋船以致沿途

備辦行館地方不嚴搜累等語各直省設立驛站應以備傳遞公文及奉旨馳驛辦公之用應需夫馬自有定例豈容任意濫派似公濟私明年保越南國例貢之期積習相沿若不先仍有所慎慎弊著梁章鉅於該國使臣起行之日酌定發送各官應用人夫多寡沿途驛館總期無誤行期不准再有私派附搭之弊並著知會各該省督撫一體嚴查毋任隱匿附搭以免擾累至上屆越南貢使入關經過廣西所用人夫是否有四五千名之多著梁章鉅查明據實具奏因思驛傳積弊不獨責使為然即領差大臣查辦事件督撫大吏出巡閱兵應用夫馬亦有一定不准稍有逾額苛派致州縣官以驛站賠累動至侵虧國帑迨經發覺該管上司平日受其供應輒以因公那移為之設法調劑日久仍歸無著此等積弊尤應嚴行查禁著各直省督撫嚴飭管理驛傳人員認真整頓倘有違例需索及濫應等弊一經查出惟該督撫是問將此通諭知之欽此

1583 道光十六年十月十五日內閣奉

上諭魏元球奏請將巡洋疎懶之將弁並督緝不力之總兵分別革職處一摺福建省金門鎮標右營所轄之東披洋面數月內被劫之案竟有四起之多又浙江省瑞安營温州左營所轄各洋面俱同日被劫二起玉環營所轄洋面先後被劫三起捕撈均屬廢弛必應嚴拿懲辦福建護理金門鎮標右營游擊事升著海壇鎮標右營游擊之間安協標左營守備劉均勇著革職留任浙江署瑞安右營守備事千總李志剛著玉環營守備事提標右營千總陳玉振著一併革職留任其統轄總巡之福建金門鎮總兵竇振彪浙江溫州鎮總兵印水福均着交部照例分別議處仍嚴飭各該員勒限三個月將營各案盜犯務獲完辦始始於怠玩即行奉革以示懲儆餘俱著照所職辦理該部知道欽此

1584 道光十六年十月十五日奉

旨給事中景斌等奏書史包攬文納類料延久未給

批迴所有違例包攬案索使費之類料庫書史沈桂著交刑部審辦委員何朝佐及已革兵馬御史日沈而璋著聽候傳訊欽此

1585 道光十六年十月十五日內閣奉

上諭魏元球奏林調要缺道員一摺福建臺灣道員缺准其以周凱調補所遺興泉水道員缺著周曰炳補授欽此

1586 查興泉水道係衝繁難要缺謹

奏

1587 道光十六年十月十六日內閣奉

上諭琦善奏查明文版各州縣陸續分別蠲緩一摺本年直隸西寧景州等十二州縣秋本間有被水被旱之區民力不無拮据揀核實確切勘明自應分別蠲緩加恩著照所請所有被旱較重之西寧縣寬少河等一百二十一村莊成文五分著准其將應徵本年地糧及此折七糧等項蠲免十分之一

錫利棧糧分作二年帶繳屬區內如有花戶長完銀兩或  
下年新秋其節年存欠著界火村繳收三四分之西水比水泉  
堡等一百九村莊應繳各屬地糧等項一併繳至道光元  
年秋後起繳其被旱之景州別家莊等一百五十八村  
莊蔚州清寧里等四十七村莊阜城縣進家莊等  
三十三村莊宣化縣高家背等八十一村莊懷安  
縣太平莊等二十八村莊被水之天津縣田家莊  
等二十一村莊滄州吳家莊等九十村莊南皮縣  
劉陽村等一百二十八村莊夏山縣劉官莊等二  
十二村莊大名縣安家莊等八十七村莊又甯河  
縣被水之東窩莊等一百二十八村莊被旱之小  
南莊等一百三十村莊均繳收三四分不等著將  
繳收各村莊應繳本節年糧租並出借銀數等項  
藉以及攤徵等項均一體緩至道光十七年春後  
起徵以紓民力該督即刊刊將黃偏行統諸務期  
實惠及民毋任吏胥苛索月利嚴飭念數巨意  
該部知道欽此

1588

道光十六年十月十六日內閣奉

上諭林則徐奏請將被水各場蠲徵歲撥糧換年庚

緩一摺江蘇海州分司所屬各場地處海濱向多  
積歉茲據署督查明板浦臨興等場鹽池蕩地本  
年入夏以後復被水歉收自應酌予調劑加恩  
著照所請所有海州分司所屬板浦臨興二場並  
中正場之中正小浦東大東等四鹽鹽莞濱歸併  
之頭二三四五等莊本年應繳道光十五年分折  
價同本年麥熟後應行啟撥之道光十五年應繳  
十四年分折價錢糧均著緩至麥熟後分別繳  
收其來年應繳道光十六年分新賦折價著緩至  
來年秋後繳收至應帶各年舊欠折價錢糧並著  
一律推展按年帶繳一年以紓丁力該署督即刊  
刊將黃偏行統諸務便實惠及民毋任吏胥舞弊  
用副朕軫恤寬丁至意該部知道欽此

1589 道光十六年十月十六日內閣奉

上諭湯全列奏請將被水各州縣酌予緩徵一摺陝  
西榆林懷遠神木府谷葭州五州縣本年秋禾均  
被霜侵據該署撫查明屬實民情未免拮据自應  
量加補助加恩著照所請所有秋禾被霜之榆林

府谷二縣應徵本年本色糧料粟米神木縣下忙  
應徵地丁銀糧粟米茂州新年民欠出易倉糧本  
年約著先徵收一半又茂州本年春借口糧其被  
霜被災村莊著先徵收一半其餘一半同榆林縣  
未完本年地丁銀兩懷遠縣下忙應徵銀糧粟米  
及該州縣等項各年未完銀糧粟米茂州新年  
出易常社倉糧出借本折口糧籽種著江甯縣並  
道光十七年秋後留徵以紓民力該署撫卹刊刻  
勝黃編行曉諭務期普惠及民毋任吏胥舞弊用  
副板行念然區區至意該部知道欽此

<sup>1590</sup> 道光十六年十月十六日內閣奉

上諭琦善奏邊方酌保防汛尤為出力各員一摺本  
年永定河伏秋兩汛疊次長冰經在工各員弁無  
分晷夜竭力搶護悉臻穩固據該督稱其尤為出  
力者關卓呈覽自應量予恩施護理永定河道知  
府銜石景山同知馮壽曾著遇有知府缺出酌量  
并用北岸同知陳德善實加知府銜河工試用  
知縣吳壘培著免其試用遇有河工佐貳缺出照

例補用北岸北上汛武清縣縣丞鄧廷燮南岸南  
下汛良鄉縣縣丞何姑曾均著以應升之缺酌量  
升用以示鼓勵該部知道欽此

<sup>1591</sup> 道光十六年十月十六日內閣奉

上諭林則徐奏控管文案件歧解違延各員請文  
部議處一摺江蘇省代理鹽運使李豐熙縣丞王  
運現任鹽運使知縣馬年煇保著文部議處等因  
欽此

<sup>1592</sup> 道光十六年十月十六日內閣奉

上諭湯全利奏佐雜人員墮濶請暫行裁撤一摺伏  
查省現在裁用佐雜人員人數過多著吏部即將  
布政司理問府經歷縣丞州判主簿吏目從九品  
未入流八項人員暫行裁撤其西供該省試用各  
員疏遠後再行裁撤不致致誤欽此

<sup>1593</sup> 道光十六年十月十六日內閣奉

上諭魏元愷奏揀員升補海州要缺道列一摺著照

所請福建澎湖通判員缺准其以李若琳升補照例例案送部引見該部知道欽此

1594 道光十六年十月十六日內閣奉

上諭恩特亨額奏請將押糧不力之空運千總交部議處一摺江蘇岳徽軍押空千總杜元平淮安二幫押空千總梅茂林領押糧幫回空漕船脫空至七日九日之多實屬任意耽延杜元平梅茂林均著交部議處以示懲儆欽此

1595 道光十六年十月十六日內閣奉

上諭鍾靈奏請暫停分發監務人員一摺長蘆山東監務人員現在缺少人多著吏部即將各項人員暫行分發伏二三年後各員補用既通不行照例分發欽此

1596 道光十六年十月十七日內閣奉

上諭納爾經額等奏請將捕務懈弛之文武員弁摘去頂帶勒限緝拿一摺湖北麻城縣知事汝霖麻

城縣況祀總帥鈞元於該縣民人顏耀宗等店內被劫一案既經疎防於前逾該督等迭次催緝仍不上緊緝拿迄今數月之久尚無一犯就獲非尋常怠玩可比王汝霖帥鈞元僅著摘去頂帶勒限兩個月務將此案賊盜迅速緝獲究辦倘逾限無獲即著從嚴參處該部知道欽此

1597 道光十六年十月十七日內閣奉

上諭納爾經額等奏為明敵水各州縣請分別展緩一摺湖北省本年夏秋江河水漲漫漭沔陽等州縣促隄民回開被淹據該督等為明類年災歎民力未舒若將新舊賑未催輸民力恐有未遑知悉著照所請所有被淹較重之漢陽縣湖三等三里淤土地似漢川縣慈家湖等十九民院麻城河陽州六合等二百四十四院鍾祥縣劉公巷等八十九村庄潛江縣美豐等三十二院天門縣十院等六十三院應城縣董嘴等三圍監利縣毛老等一百四十一院枝江縣洲浮等七州院各應俟本年民屯錢糧漕南二米從開新等項著一併緩

錢五十七年秋復限一年帶徵其被淹較輕之河  
陽州道意等二十六院並清海之預備河堤等一  
百三十一院除本年新款錢糧原常徵收外著將  
本年漕南二米錢五十七年秋復限一年帶徵各  
該州縣被淹各區應徵十五年錢糧銀米均著退  
錢五十八年秋復起限一年帶徵其帶淹并積數  
之江夏縣槐林等五十四里七武邑縣宜一等二  
十三里內山竹四武國州樂平等四十二里漢陽  
縣山一等十里七赤或縣尚文等九十七會糧料  
縣張公巷等七十六村並漕江縣楊湖等三十二  
院應城縣赤岸等三團並利縣毛北等二十五院  
除本年新款銀米均照常徵收外著將江夏縣帶  
徵十五年銀米與國州十五年漕南二米本年各  
徵一半其餘一半銀米同武邑縣山竹四武邑帶  
十五年錢糧並漢陽赤或糧料漕江應城並利等  
縣被淹各區應徵十五年錢糧糧漕南二米著  
一併錢五十七年秋復限一年帶徵至江夏武邑  
與國漢陽漢川赤或河陽鍾祥潛江天門應城並  
利枝江等十三州縣未完道光十一年至十四年

錢糧銀米既費耕種各項著俟十五年錢糧銀米  
帶徵清楚查照上年奏案按最元年分逐年帶徵  
一年其武邑等七衛被水第四應徵新舊錢漕均  
著查照七五州縣分別展緩一律辦理該督等即  
刊刻牌費通行曉諭務使實惠及民毋任吏胥舞  
弊用利朕在吏察元王意按部知道欽此

道光十六年十月十七日內閣奉

上諭桂良奏請將知縣知州分別改教勤休一摺河  
南高城縣知縣尚燦廷才擴迂拘難勝民社之任  
該員係舉人出身著以教職歸部銓選候補知州  
王一曾精力衰頹難期振作著即勒令休致該部  
知道欽此

道光十六年十月十七日內閣奉

上諭訥爾經額等奏請將才不稱職及人地未宜之  
知縣分別勒休降補改簡一摺湖北京山縣知縣  
張觀國年力就衰辦事竭蹶廣濟縣知縣蔣炯才  
性迂緩不能振作均著勒令休致宜恩縣知縣劉

本澄辦事不能靠實遠安縣知縣朱廷鏞屢因債累被控均著以府經歷孫玉降補歸部選用批任孝感縣知縣鄧應燾才大肆應惟精力尚健著准其以相當中簡缺知縣留於湖北酌量補用該部知道欽此

<sup>1600</sup>道光十六年十月十七日奉

旨此案前親王敬敏之輪夫葛三聞該暗局現經刑部訊明敬敏於葛三被獲後尚無請託情弊惟葛三聞場誘賄累月經旬敬敏既失於覺察及至刑官擬令獲衛保項柱見者莫懇求嚴辦殊屬不合著交宗人府議處總兵朕順登照失察司員審案革率均著交部議處花子三二及未獲之梁大等仍著嚴督格獲按例懲辦餘依議欽此

<sup>1601</sup>道光十六年十月十七日奉

旨此案著交寶興親提人證卷宗東公嚴審核律定擬具奏把告蒲汝珩該部照例解往備質欽此

<sup>1602</sup>道光十六年十月十八日內閣奉

上諭麟慶奏清江浦

斗姓官落成請頒給扁額等語朕特親書扁額恭交該河督祇頌著即及詣該處

府中敬理懸挂用副

靈既而肅觀瞻欽此

<sup>1603</sup>道光十六年十月十八日內閣奉

上諭奕鑄等奏請汰員查勘

奏度工程一摺著依議查勘尚阿收姓並勘具奏欽此

<sup>1604</sup>道光十六年十月十八日內閣奉

上諭伊里布等奏請將防護邊塞不法要犯之官量

加放廢等語雲南著胡化府事巧家同知何蘭汀

著俟吏部帶領引見時再降諭旨欽此

<sup>1605</sup>道光十六年十月十八日內閣奉

上諭伊里布等奏請將保滿道員留任一摺雲南迤

南道係烟瘴要缺擬取巡防長胡繁要該道胡君



禁練習邊情著准其留任二年以著熟手該部知道欽此

1606 道光十六年十月十八日內閣奉

上諭薩迎阿等奏請揀發滿洲知縣二員漢知縣二員飭赴奉天差委著吏部於曾任外任之候補人員內揀選引見候旨發往欽此

1607 道光十六年十月十八日內閣奉

上諭吳廷曾奏請將承購委犯限滿無役之地方官交部嚴議一摺承天署承德縣知縣做良任領及恩於在工庶成毅死家長五子覽同土庫工二命重案承購太獲當降旨拘王項帶勒限嚴辦迄今已屆限滿仍未將該犯弋獲實屬疎懈做良處恩均著交部嚴加議處該將軍等仍督飭該地方官暨各委員認真緝拿務獲毋任逃漏漏網欽此

1608 軍機大臣 密寄

伊犁參贊大臣奕 道光十六年十月十九日

奉

上諭有人奏伊犁將軍門丁紀志不法廢貨因緣為奸一摺伊犁為農種重鎮將軍有統轄控取之責必嚴明法紀杜絕弊端方為不負委任特依權保任將軍有年委山與之同城見聞較切著將摺內所指各情節逐細查明據實具奏倘屬徇情面稍有不實不盡日復別經發覺與山不能當此重望也原摺著鈔給閱看將此諭令知之欽此遵

音寄信前來

1609 道光十六年十月十九日奉

旨張本日殿試中式武舉弓刀石內江西黃瑞麟一名弓力不符著罰停殿試一併所有原圖並射靶村之江大臣著交部議處處廢武之王大臣著交部嚴議欽此

1610 道光十六年十月十九日奉

旨據太常寺奏

天壇外圍牆井內有淹斃幼孩屍身著刑部驗明有無

傷痕情節仍著太常寺查明該切據係何項人役  
得者若落款此

1611 道光十六年十月十九日內閣奉

上諭樂善等奏請飭催兩淮應交收庫生息銀兩並  
暫借庫項整發一摺此項息銀係充察哈爾三旗  
收庫之用自應接解期交以符定限所有道光十  
六年息銀九千兩十七年半年息銀四千五百兩  
前據陶澍奏稱業經派員解送直隸藩庫著琦善  
迅速解交該處以資辦公其十七年下半年應解  
息銀並著兩江總督於本年冬季如數解送毋存  
再延玩嗣後每年應解息銀務於於歲前預交以  
符定限至此項息銀未經解到之前著准其於  
該處八旗初次賞借生息項下積存銀內暫借銀  
七千兩以備墊放俟前項息銀解到即行歸款該  
部知道欽此

1612 道光十六年十月二十日奉

旨吳孝銘著仍留學政之任欽此

1613 道光十六年十月二十日內閣奉

上諭鄂廷核等奏請將擬投產民之前署知州革職  
擬以一摺前署廣東欽州知州事南雄州州同吳  
會於慶書楊煥彰項湖進之業報將並無干涉之  
楊文煦飭差傳拿以致州差莫清等時槍拘尋實  
屬做後產民迪楊郭氏上控批府提訊又不將差  
役即行解府顯係有心袒縱英會著先行革職交  
核旨等提回廳訊人證確查有無判項查驗考跡  
嚴審定擬具奏至據署知州朱慶棠何以亦未將  
差解府該管知府<sub>馬</sub>同龢等批擬審一任抗提不  
到均著候審明擬一併定擬分別辦理該部知道  
欽此

1614 道光十六年十月二十日內閣奉

上諭鄂廷核奏查明遞換摺件該管知縣將文部款  
處一摺本年息銀等在廣西并發摺件平樂等五  
縣將銷跑投遞違接公文塗改排單該管各知  
縣並不責令依限趕緊追送以致延誤且蒼梧縣  
於既役塗改排單漫無覺察殊屬疎忽前署平樂

縣事候補知州何鳳藻著昭平縣知縣馬應衛官  
川縣知縣何懋志賀其如縣實作霖著梧縣知縣  
翁雲科均著吏部照例議處餘著照所議辦理欽  
此

1615 道光十六年十月二十日內閣奉

上諭哈靈哈等奏查明秋成分數及分別扣繳展緩  
積欠糧銀一摺黑龍江等處收成分數既據該將  
軍等查明黑龍江城連年歉收積欠銀兩較多著  
該部原限扣繳兵力不無拮据加惠著照所請所  
有黑龍江城應交積欠銀兩著分限八年自本年  
秋季起按季生扣完數其齊齊哈爾等處未完積  
欠糧石及墨爾根城等處各站無力交還糧石均  
著展緩一年俟來年秋成後仍依原限交納以紓  
丁力該將軍即刊刻牌費推行曉諭務使實惠均  
霑毋任吏胥舞弊用副朕軫念旗丁立意餘著照  
所奏辦理該部知道欽此

1616 道光十六年十月二十日內閣奉

上諭前因給事中周開麟奏前任江西蓮花廳同

知程國觀貪酷各款有旨令朱士彦等會同陳鑾  
查辦茲據朱士彦等查明具奏此案程國觀被奉  
各款既經查明確並無影射錢補濫用非刑暨  
勒詐賄賂等情即著各情事所有原奏之處著母  
庸議該自量已丁憂即事著即飭令回籍餘俱照  
所議完結欽此

1617 道光十六年十月二十日奉

旨此次湖南武岡州逆匪蓋況曠習教溫事該地方  
官得有風聞既不能先事豫防致釀巨案又不能  
將首逆迅速拿獲立正刑誅均有應得之咎所有  
失察之該管官實慶府理縣通判德慶武岡州知  
州徐瑤前署新寧縣事長沙府同知朱士錦著新  
寧縣事試用知縣王廷斌新寧縣教諭劉矩麟訓  
導彭士印俱著革職實慶所知府惠體康著降二  
級調用前任湖南益法長實道令升廣東鹽運使  
梁恩照著降一級調用前任湖南按察使令升甘  
肅布政使魏炳官前任湖南布政使現任大理寺  
少卿惠豐均著於現任內各降二級留任前任湖

南巡撫吳榮光湖廣總督訥爾經額均著各降一級留任吳榮光現以四品京堂候補著於補官日降一級留任趙炳言又於署布政使任內夫察果恩照又於署按察使任內夫察著於現任內各再降二級留任以上各員所得處分均不准其抵銷至該犯程孔固於道光十五年正月拜四川人王又名為師傳授雷信和等四十餘人雷信和轉傳於蓋況曠等十餘人著訥爾經額即將自十五年正月初一日起歷任夫察習教之該管官盡取職名交部議處蓋著四川總督查明該犯王又名習教起自何人始於何年何月一併將歷任夫察各職名交部議處餘依議欽此

1618 道光十六年十月二十日內閣奉

上諭前據給事中沈葆奏奉河南武陟縣知縣新升廣西西隆州知州趙銘奏各款當降旨交湯金劍文慶奎辦茲據文慶奎趙銘奏明該縣尚無貪婪劣蹟惟于書吏何慶奎偷減檢工王光業虧欠錢糧各案將慶奎之犯均目濫刑致令病斃復于

堂生張玉輝誤買官地之案違例科罰錢文其由修武調任武陟曾將差役常慶德等帶赴新任陽屬充役亦屬不合趙銘奏著即革職以示懲儆餘均著照所議辦理該部知道欽此

1619 道光十六年十月二十日奉

旨此次湖南武岡州逆匪竄沅轉等謀逆滋事該地方歷任武職各官浸無覺察以致釀成不法均屬咎有難辭所有失察之湖南武岡管千總張大宏外委游如喜寶慶協左哨千總胡永春外委方正勝俱著革職武岡管遊擊楊昌泰寶慶協副將托精阿俱著降二級調用永州鎮總兵宗福湖南候補薛陞俱著降一級留任以上各員所得處分均不准其抵銷至失察奸民程恒忠等習教之地方武職各官著訥爾經額查取職名送部議處其王又名甫在四川習教該地方失察各武職即著四川總督查取職名一併送部議處欽此

1620 道光十六年十月二十一日奉

旨此次湖南武岡州逆匪竄沅轉等謀逆滋事該地

方歷任武職各官漫無覺察以致贖或不法均屬  
咎有難辭所有吳察之湖南武同營外委游加喜  
寶度協左哨千總胡永春俱著革職武同營千總  
張大宏寶度協外委方玉勝經部議革職本屬各  
所應得惟念張大宏當賊匪圍城之日首先捨免  
一職餘匪最奸著有微勞曾有旨以守備即行升  
補並賞戴花翎著加恩充其革職於升補守備後  
仍帶革職留任八年無過方准開復方玉勝隨同  
提鎮將備到捕勤奮曾經賞戴藍翎著加恩充其  
革職拔去藍翎武同營遊擊楊昂泰寶度協副將  
托特阿俱著降二級調用水州缺補其余福湖南  
提督曾傑供著降一級留任以上各員所得處分  
均不准其抵銷王夫察奸民程恒志等冒救之地  
方武職各官著均開缺類查取職名送部議處其  
王又名首在四川習教該地方大察各式武職即著  
四川總督查取職名一併送部議處欽此

1621

臣等查本年四月二十五日奉

旨千總張大宏當賊聚據至之時首先捨免一職以

致賊眾逃港水中餘匪解散著加恩以守備即行  
升補並賞戴花翎欽此又六月二十八日奉  
旨納爾經額奏請鼓勵出力文武員弁一摺外委方  
玉勝著賞戴藍翎欽此現在應如何  
加恩之處理合查明請  
旨覆

奏

1622 道光十六年十月二十一日內閣奉

上諭廣東鹽運使負缺著陳嘉樹補授欽此

1623 俸深道十員

福建延建節道祥慶 正白旗滿洲監生

甘肅安肅道雙興 兩廣旗滿洲提貢

江蘇河庫道李湘篴 山東拔貢

四川永寧道朱棧 江蘇監生

四川建昌道文翰 正藍旗滿洲進士

江蘇淮海道文麟 正藍旗滿洲舉人

河南河陝汝道蔣明允 湖南貢生

山東濟東秦武臨道陳嘉樹 江蘇進士

廣東肇羅道王雲錦 河南進士

湖南岳常漕道馬光澗 浙江進士

1624 俸深知府十員

雲南順寧府知府林樹恒 順天貢生

陝西延安府知府邱璉 貴州進士 祖籍福建

河南汝寧府知府布秀博 勸格 五藍旗蒙古編譯進士

四川嘉定府知府文祥 內務府正白旗漢軍進士

山西澤州府知府王允楚 山東進士

雲南楚雄府知府裴聰 山西監生

湖北武昌府知府崇善 五藍旗漢軍進士

廣東惠州府知府楊希銓 江蘇進士

湖北宜昌府知府程家頌 河南舉人

貴州安順府知府程武濟 正黃旗滿洲監生

1625 道光十六年十月二十二日內閣奉

上諭鄂山現奉京陛見四川總督保寶與著侯凱

音布到任後將成都將軍印務交與凱音布寶興

仍著總督侯鄂山回任後再行交卸欽此

1626 道光十六年十月二十二日奉

旨為成金著准其以文生員兼製餉都尉世職嗣後

承襲一三三等輕車都尉及騎都尉世職以照舊

騎尉恩騎尉之例准其以文武生員兼製餉文

食世職俸級該部仍於帶領引見時將應否兼製

之處查明請旨其捐資捐監人員概不準其兼製

亦不准以本任文武生員將輕車都尉騎都尉世

職改作生員恩職以示限制該部即奉入則例永

遵遵行欽此

1627 道光十六年十月二十二日奉

旨直隸馬蘭鎮所屬黃崖關營兵工技藝習教一乘

該地方官未能訪獲究解均有應得之咎所有前

任等汛黃崖關千總已降頭外外委張毓麟前者

千總等現任馬蘭鎮標右營千總盧馬春前者任千

總現任連化營千總王勾俱著革職前者著為

副鎮標右營守備事千總已升浙江台州協右營

都司并廷赴前署守備事千總已降把總張儀前

署守備事保定營守備現任各病馬為病改有署守

備守備已升甘肅西寧城守營都司袁永游前  
署守備守備尉已補天津鎮標左營守備李慶  
隆前任守備已調省標右營守備續任者請於恭  
周廷獻前者守備事現任承州營守備陳錫標者  
前者守備事守備已升湖南提標右營遊擊為飛鷹  
前者守備事雲騎尉郭右輔前者守備事現任馬  
蘭鎮標右營千總吳廷智前者守備現任宣化鎮  
標右營守備段文瑞前者守備事現任馬蘭鎮標  
左營千總王殿元前者任統轄馬蘭鎮標中軍遊擊  
現任成都王門上長史三者前者遊擊事都司  
已升嘉寧鎮標中軍遊擊宮隆河前任遊擊已升  
陝西汝原營參將為料前者遊擊事現任場子路  
都司王祥和者陣三級留任馬蘭鎮標現任者為著  
於病痊補官日降級留任周廷獻已告終養著於  
補官日降級留任郭右輔係雲騎尉應於世職俸  
內扣罰職任降級俸銀前任馬蘭鎮標兵現任刑  
部左侍郎尼錫前任統兵現任威寧將軍費羅賈  
與前任統兵現著泰寧鎮標兵特登額前者提督  
現任蓋翎侍衛徐悅前任提督現著湖南鎮標

統兵楊芳前者提督現任四川重慶鎮統兵馬騰  
龍前任提督現任陝西固原提督胡超前任提督  
現任甘肅提督衛祺前任提督現任湖南提督薛  
世均著降二級留任以上各員所得處分均不准  
其底銷至該督聞送前署馬蘭鎮統兵有虧並未  
聲明任由何項人負責理著該督查明聲覆報部  
再行照例核議單併發欽此

1628 道光十六年十月二十二日奉

旨此案該屍是否係曠牲所受在致牛孩童有無別  
情著刑部傳集應訊人證確切研究結案時並將  
應該該管官員職名交部分別議處欽此

1629 道光十六年十月二十二日內閣奉

上諭恩特亨額奏著畫催清負弁飯銀銀兩等語此  
項銀兩著准其於兩淮鹽務庫私案內每年辦公  
項下由運司三解銀內逐款撥給年終兵前案分  
晰邊再咨部餘著照所議辦理該部知道欽此

1630 道光十六年十月二十二日內閣奉

上諭中政督奏請勸倉穀運赴被災地方平糶並留  
備來年借給籽種一摺山西大同府屬山陰縣地  
方本年被旱歲火業經加恩蠲緩錢糧折賑撫卹  
小民自可無虞失所茲據該撫查明該縣連歲積  
歉戶鮮蓋藏借借接濟加恩著照所請准其在  
大同縣大有倉內動穀五千石運赴山陰縣地方  
平糶並留備來春借給籽種仍將報獲價值提解  
司庫俟豐年給發山陰縣買補同撥還籽種一併  
解歸大同縣還倉所有此次運價並將來運還脚  
費係司庫籌款給發著免其造冊報銷該部知道  
欽此

1631 道光十六年十月二十二日內閣奉

上諭中政督奏請獎勵等獲運區黃井一摺上年山  
西趙城縣運區滋事在事出力人員業經量予恩  
施所有獲犯黃井或甘平勇役協力堵擊或深入  
山谷跟蹤追捕俾要犯悉數完擒自應酌加獎勵  
加恩著照所請所有汾西縣知縣費公考前著詳

山縣事現任山陰縣知縣李恩翰撫標左營守備  
馬化龍太原鎮標左營千總郭邦俊俱著送部引  
見李恩翰現因橫塘橋去項帶尚未開復候辦完  
完效如果出力開復後再行送部隨同履覈之汾  
西縣典史陳孝征著以應升之缺儘先升用並免  
解州州判張映南著以應升之缺儘先升用並免  
其坐補原缺丁曼大同縣縣丞鍾湘著於起復後  
以應升之缺儘先升用試用未入流孫根著歸於  
本班儘先補用太原鎮標右營千總王時蒲州協  
千總吳秀太原鎮標左營把總朱三元趙有光右  
營把總苗足瑛吳峰平陽營把總張岐俱著交部  
議敘單併發欽此

1632 道光十六年十月二十二日內閣奉

上諭中政督奏紳士續捐軍餉並官紳捐修城工懇  
恩獎勵一摺著吏部查覈具奏所有城隍等工俱  
係官紳捐解著免其造冊報銷單併發欽此

1633 道光十六年十月二十二日內閣奉

上諭陳鑒奏請將都司擬任提訊一摺江西廣昌營



把總盧芬麟於序革後其控該管都司朱瀚原揭  
完証並列數票訴案關營員立揭虛實必應澈底  
報究廣勇營都司朱瀚著即撤任交陳慶提同集  
內人控案公嚴審按律文擬具奏欽此

1634 道光十六年十月二十二日內閣奉

上諭陳慶奏泰和縣捕務鬆懈一摺江西餘干縣如  
縣履紳率於零船設槍銀兩逾萬一查已逾四月  
之人僅獲獲勇犯五名人數尚不足半水師實屬  
鬆懈著即摘去項帶期限三個月嚴守遵化務獲  
如再不查獲著即嚴參懲辦欽此

1635 道光十六年十月二十二日內閣奉

上諭高鴻奏請冰貨勒佔挖寬熱河旱河工程一摺  
著派恆榮華柱就近履勘欽此

1636 道光十六年十月二十二日內閣奉

上諭山東濟東奏武臨道員缺著寶清補授欽此

1637 查濟東奏武臨道係繁難要缺謹  
奏

1638 道光十六年十月二十二日內閣奉

上諭湖南衡州府知府員缺著玉崑補授欽此

1639 查衡州府係衡繁難要缺謹  
奏

1640 道光十六年十月二十三日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前欠  
銀糧令各該將軍府尹督撫等查明具奏據西寧  
辦事大臣海塔爾等呈稱著族磨年拖欠馬貢銀  
兩查明請旨當交戶部覈覆存據查明該著族未  
完磨年馬貢銀兩自嘉慶二十四年起至道光十  
年止共欠銀一千七十一兩零均著加恩概行豁免  
免立著該大臣將此項銀兩每年預備若干作何  
支用實數先行咨部備查嗣後每於年終將此項

銀兩考案報部彙銷該大臣卽刊刻傳黃通行統  
諭嚴禁文身彩射需索等獎務期惠及善民用副  
朕推恩布閭生靈欽此

1641 道光十六年十月二十三日內閣奉

上諭色卜星額奏查明各屬被水受旱各不敷交項  
一指委嚴安慶鳳陽泗州三府州屬或因雨水  
過多低窪田畝被淹或因雨澤愆期高岡田地被  
旱民力不無拮据據報勘確切查明自應分別緩  
徵加恩者照所請所有勒不敷交之五河潛山壽  
州宿州鳳陽並臨淮府懷遠定遠靈璧鳳臺泗州  
舊虹射縣天長等十二州縣及屯莊各屬被水受  
旱田地本年應徵新舊一切地丁錢糧額外衛商  
屯未募五折屯報補軍雜辦更右學額河督及文  
備驛站俸工各項錢糧均着緩至道光十七年秋  
成後啓徵其該州縣倘有將因缺應徵本年新賦  
賦並道光十一年起至十五年止舊欠錢糧各項  
錢米除五河縣被水較廣通境緩徵外其餘徐州  
縣應徵本年新賦並潛山射縣天長等三縣定保

內成熟田地著照常徵收又潛山縣帶徵道光十  
四五兩年災緩錢糧壽州帶徵道光十一年災衝  
舊欠錢糧懷遠縣帶徵道光十五年銀兩鳳臺縣  
帶徵道光十一年舊欠錢糧泗州並舊紅帶徵道  
光十一年舊欠錢糧天長縣帶徵道光十五年舊  
欠民衛丁漕銀米洋糧學租等款均酌聽帶徵道  
光十一年災緩銀米除午年被水之區應外除著  
分作二年帶徵其餘應徵各年各款緩帶屬大一  
切銀米租課河督各項俱着隨同本年勒不敷交  
成災田地一體緩至道光十七年秋成後督徵各  
衛屯田悉照坐落州縣一律辦理其該州縣衛廳  
徵本年漕糧項銀米及帶徵十一四五等年舊  
欠災緩之項內除懷遠縣十五年漕糧及舊紅十  
一年漕米通緩外餘俱著悉照各屬地丁錢糧災  
熟徵緩年分一律辦理漕項銀兩緩至本年秋熟  
後督徵漕糧至來年秋成後督徵災道光十七  
年新漕一併搭運又壽州鳳陽懷遠定遠鳳臺天  
長五河等州縣並屯莊各街屯運田地應徵本年  
津貼增協加津銀兩及乾隆五十八年起至道光

十五年止舊欠悉照地丁徵銀年分一律分別徵  
緩辦理再據寧州咸夫湖宿松望江南陸青池青  
陽銅陵建德東流當塗蕪湖繁昌無為蒙縣潁上  
宿邱毫州和州等二十州縣應徵本年新賦照  
常徵收外其懷寧縣等徵道光十一年災緩地丁  
銀米祠城縣等徵十一年勘不成災緩徵及成災  
編到初限錢糧清南銀米太湖縣等徵十二年二  
限銀米並該年史蓋等原緩之六保著從本年  
為始分三限帶徵宿松縣等徵十五年災緩地丁  
銀米內陸東南鄉竹墩等十三庄原緩地清南米  
仍著展緩外餘著照常帶徵望江縣等徵十五年  
災緩民欠丁漕蘆課十一年熟回民欠丁蘆銀米  
南陵縣等徵十五年災緩錢糧共十一年起五十  
四年止舊欠錢糧著分三年帶徵貴池縣等徵十  
五年熟回民欠並蘆課十四五兩年蘆課其道元  
十三年成災各保編到初限應徵及勘不成災各  
保錢糧蘆課等項同本年新賦一併徵輸青陽縣  
帶徵十五年災緩錢糧銅陵縣等徵十五年緩徵  
錢糧各項建德縣等徵三十五年兩年災緩丁豆

屯餘清南等項銀米東流縣等徵十五年緩徵四  
成銀米並十二四五等年蘆課蘆課銀兩當塗縣  
等徵十五年勘不成災錢糧並蘆課十四年蘆課  
銀兩蕪湖縣等徵十一年勘不成災銀米及十三  
四五等年熟回舊欠編銀繁昌縣等徵十一年熟  
回緩徵並災緩應徵初限錢糧丁蘆等款無為州  
縣等徵十五年災緩丁蘆增漕等項未  
初二限帶銀蒙縣等徵十三年民欠錢糧七未十  
四年民欠錢糧及十五年災緩銀米項上糧等徵  
十五年民欠未完錢糧宿印縣等徵十三四五等  
年未完舊欠銀兩亳州等徵十一年民欠錢糧和  
州等徵十一年勘不成災原緩及交回編到初限  
丁蘆等項銀米以上各州縣除帶徵外其餘各年  
災緩編到分限舊欠地漕兵商七未熟蘆解馬  
田田捐丁豆屯折增協餘垣埭埭學組場租等款  
銀米俱著緩至十七年以後各以所民力七生各  
街隨同坐落州縣一律辦理該撫印刊刻條  
行稅項務期著落及民帶任文胥盡與用刻取  
合款區至老該部知道欽此

1642 道光十六年十月二十三日內閣奉

上諭裕泰奏請帶徵錢糧等項分別展緩一摺湖南華容等州縣衛本年三稻收成雖屬豐稔惟官災賑之後戶鮮盈歲若仍帶徵銀數等項照限徵民力實有未逮加惠著照所請所有華容安鄉二縣及坐落華容之岳州衛道光十一十二三十四等年被水十五年被旱各案內蠲剩錢糧帶徵正耗錢糧漕米並南折糧所雇謀屯餉運送各費以及借給貸農口糧籽種修堤工本等項銀米穀石應緩至十六十七十八十九二十二十一二十二二十三二十四二十五二十六二十七二十八等年分限帶徵者均著通行展緩至七十八十九二十二十一二十二二十三二十四二十五二十六二十七二十八等年分限例分限一年兩年三年帶徵其道光十五年被旱案內湘鄉縣民交各處履徵正耗錢糧漕米原緩至十六十七兩年帶徵者著展緩至十七十八兩年分限帶徵其未成災各處履徵正耗錢糧與茶陵州履徵正耗漕糧及南折糧所開丁等銀常年縣履徵正

耗錢糧原緩至十六年帶徵者均著展緩至十七兩年分限帶徵衛陽清泉奉陽三縣履徵正耗錢糧原緩至十六年帶徵者均著展緩至十七年秋後帶徵又已徵縣十四年被水案內履徵履徵正耗錢糧及沙影洲租課原緩至十六年帶徵者著展緩至十七十八兩年分限帶徵以行民力該撫卽刊刻曉諭施行曉諭給令實惠及民毋任吏胥舞弊用副朕軫念歎區至意該部知道欽此

1643 道光十六年十月二十三日奉

旨前據給事中常大澤奏各省藩庫額設封貯銀兩動數甚多請飭部酌定籌補章程一摺當交戶部查核具奏茲據臣等查明該部議奏定將各省藩庫原設封貯銀兩以五萬兩解歸補賦西河南山東山西湖北等省以五萬兩解甘肅後以五萬兩歸補原以輪流開補到部身缺邊備既可充裕而各省缺額亦可漸次彌補必務通盤籌畫庶不致隨文文吏被現在各省封貯銀兩原五萬兩而原額無虧且其分期解而因公借動歸於撥展追解外其江蘇安徽福建湖南廣西四

川雲南貴州陝西河南山西山東湖北甘肅等省  
應仍照舊次奏定章程以捐銀兩而除解部撥  
前之外按次解補惟設補並撥不封仍屬無益  
嗣後各直省非有要需該督撫等不得將此項銀  
兩盡請動用應有補兵撥而原額自可漸復所有  
該給予中請將捐銀兩儘數解補各府封之  
處著毋庸議立江寧省因公借動封銀四十餘  
萬兩浙江省因公借動封銀二十餘萬兩廣東  
省因公借動封銀二十萬兩均應由該省自行  
解補著各該督撫上報督借按年歸款毋任延宕  
以重庫儲而彰嚴實欽此

1644 道光十六年十月二十三日內閣奉

上諭寶興奏請揀員調補要缺副將一摺著照所請  
四川督標中軍副將員缺准其以唐永清調補該  
部知道欽此

1645 道光十六年十月二十三日內閣奉

上諭寶興奏請將審解命案率誤各員分別嚴議該

處一摺此案首署四川東鄉縣知縣候補知縣李  
錫於孫氏侯選玉誤認被勒屍身為伊子侯恩成  
既不於相驗時令吳祥和辨認又不虛衷推卸率  
以張軒香國財富命定案雖即自行訪實檢舉究  
非尋常疎忽可比李錫著交部嚴加議處以為驗  
訊不慎者戒按定府知府恒春率行轉解著交部  
議處餘著照所議辦理欽此

1646 道光十六年十月二十三日內閣奉

上諭裕泰奏揀員對調苗疆同知一摺著照所請湖  
南永綏直隸廳同知准其以廉快調補所遺同知  
詳擬凡同知即以擇清河對調該部知道欽此

1647 道光十六年十月二十三日內閣奉

上諭裕泰奏已革同達道員交代倉庫各款數籍不  
清請旨留禁查辦一摺湖南已革同達道員常慶  
應交倉穀銀兩各款現係應任借此及佃大盤缺  
未經詳明有案即屬虧挪該革員接任時何以不  
即揭報違背接收出結而接收抵何又不行上緊

逆擊完款及王春革後始行移又復任作欲難保  
非因有刑文控詞據抵常履著暫行留禁交該撫  
澈底嚴查審訊務期水落石出以清數項如有虧  
枉理該情與武係應任私自研訊者即提實奏辦  
不准因業經問遣之人顯預將款致令停免也欽  
此

1648  
奏為遵

旨審訊完擬具奏事竊照大理寺奏奉寺丞張清衡

被獲等情道光十六年九月十七日奉

旨大理寺學習寺丞張清衡著解任交軍機大臣會

同刑部審訊欽此投據該衙門筆貨將張清衡送

刑部由內閣抄出原奏內稱該寺丞在四知堂

或旦下處同婦女吸食鴉片烟被北城吏目董

學吏名張姓新隔不列等給投訊張清衡堅供

並無在四知堂被北城許奎拿獲等語

嗣北城移送楊春喜呈控徐沐高揭一案訊據

徐沐供認開投本年堂下處曾於五月間有常

姓朝姓等四人在飲飲酒間邀被覺羅室成即

趙二弟同西城坊役顧明等領禁赴坊獲贖銀  
數等情屢經稟傳常姓等無獲難保非即係張  
清衡假捏姓氏以致無從查傳因提徐沐令其  
供認據供張清衡即係是日被拿之常姓並完  
出朝姓係太常寺典簿羅祖訓與張清衡一同  
在被被拿等語奏奉

諭旨將羅祖訓解任歸案審訊該處西城御史奉奏

坊役因案逃匿該管官有責疎懈等情奉

旨將西城吏目曹汝壽解任將案審訊並因案內要

犯覺羅室成保太明四朝六日久未獲奏奉

諭旨一體嚴拿獲獲前紅將滿洲將覺羅室成拿獲

並據保太閣拿投首而城移送先後到部等

旨刑部員監提案犯並將北城移送案內人証

一併歸案分別研鞫據覺羅室成即趙二係前

紅將滿洲與德任領下開散與武清縣民高文

宛平縣民王大印王二及奉獲之胡四朝六素

相認據顧明保太充當西城坊皂役與室成見

不認據徐沐係武清縣民唱戲為生道光十四

年間徐沐僱買僕人江太平帶同東京貨住許

省得所租王金氏房屋開設太平堂先復角價  
無得楊福氏之子良人楊以貴並價買優人王  
長喜為校學戲十五年二月間徐泳起意寓娼  
先後有謝文志許妻陳氏並張二與母江氏商  
同將妻田欠送至伊家接客分用錢文所有飲  
酒茹霜之人均不記名姓得錢亦無數五月  
間高老與室武朝四胡六會遇談及徐泳在太  
平堂寓娼情由室武起意欲向徐泳索借錢文  
均分花用索各允從高老因與徐泳認識未經  
同行室武與王大胡四胡六前往找見徐泳疑  
向借錢數十于文徐泳不允。商而散室武因  
借錢不遂又商允高老等捏控徐泳負欠不還  
使之畏懼給錢發給王大與西城坊復顧明侯  
太熟識隨一同找是顧明等告知前情許供詐  
發分用顧明等應允數稱徐泳居在北城地面  
西城不便准理今室武假捏原居住址赴城喊  
控候發下時即可傳訊室武遂于二十一日乘  
西城御史城期權稱伊與徐泳均在西城地方  
居住徐泳欠伊錢文不還等詞喊控該城捕令

吏日曹汝舟傳訊是日保顧明住日該吏日即  
乘差顧明傳喚二十二日傳顧明與顧太各  
持領錄向散投供三劉藏李福捏稱差傳業証  
多人令其幫同傳喚即帶生成並王大胡四胡  
六等一併前往高老仍未同行言明候領管機  
裁伊說合在附近地方等候適是日張清衛羅  
祖訓在徐泳家同江陳氏張田氏等飲酒飲畢  
又經徐泳向在逃之孫二買得鴉片烟給張清  
衛等吸食其時又有廣西會館居住之唐姓  
同不知確切籍貫姓名一人理至徐泳令以責  
陪坐吃茶室武等見太平堂門尚未開即與顧  
明等一齊走避當獲鴉片烟袋等物將張清衛  
羅祖訓江陳氏張田氏並唐姓及不知姓名一  
人一併鎖住帶走遂遷高老伴為不知姓名一  
日衙門經顧明等裁向書吏王興門丁陳貴告  
知事詐情由許保得發分用罵其擬中周金王  
興等應允顧明向徐泳等索要錢一千兩高  
老等在旁說合高會張清衛羅祖訓各出京錢  
一百五十兩唐姓及不知確切姓名人各出京

錢一百吊徐泳出京錢二百吊顧明密改尋均  
各允從當將張清衡等問領茅符烟袋等物交  
陳貴收藏言明陳貴得一百五十吊王典得一  
百五十吊實成得二百吊顧明等得二百吊前  
噫張清衡等子過堂時控稱張官為生典徐泳  
相好張曰氏等係徐泳之戚自徐泳之母生日  
在彼拜壽遇見呈傳徐泳均向相拒爭聞幾被  
一傳傳到等情今王典開寫堂單張清衡控名  
常慶山羅祖訓控名胡秀唐姓及不知確切名  
姓人自稱李福吳坦經陳貴回明曹汝舟過堂  
既被徐泳應清逐趙二錢文亦不慮終訟泉清  
衡等均照顧明等所為之言供吐曹汝舟恐有別情  
輸給暫行看守欲俟次日詳城辦理經財寶成目一  
經看守不能得錢隨向顧明等爭以陳貴恐陳事  
端不款將錢陸續還向曹汝舟曰稱外傳人証應送  
京錢一百五十吊懇求釋放曹汝舟固本素祇有趙  
二徐泳二人其餘係屬業外子違隨即應允開釋次  
日以傳列人証令顧明轉交侯太看守運侯太一併無  
踪等情詳城經該城府顧明比責勒限胡等侯太而侯

太已與實成等帶同張清衡羅祖訓呈素織之飯  
館得錢帖京錢三百吊交侯太收下實成等又帶  
同徐泳唐姓等至廣西會館徐泳同唐姓進內唐姓等  
因無錢文研白欲熟食之鴉片烟土已計九十餘兩作  
京錢二百吊交徐泳轉交實成等帶去實成與高老  
胡四胡六均分侯太又同徐泳呈太平堂令其交出所計  
錢文徐泳無錢失錢侯太應允各數實成等各得所  
分鴉片烟土實與不識姓名人得京錢三十二吊不等  
嗣侯太代見顧明將張清衡等交出京錢三百吊及徐泳  
無錢未給恐難討要情由告送呈今將京錢二百吊分別  
交與陳貴王典查收其一百吊侯太與顧明分用  
顧明送將京錢二百吊交王典陳貴分收陳貴留下  
京錢二十吊將京錢八十吊送還曹汝舟因原許不  
止此數當向查問陳貴聲言止交到一百吊即留下  
二十吊其餘不肯再給曹汝舟林允後經徐泳十六  
月間止交出京錢六十吊央允了結顧明即向陳貴討  
出鴉片烟袋交徐泳帶回高老分用二十吊實成王太  
各公用十吊顧明侯太又各公用十吊此覺羅實成等  
同西城坊役顧明侯太等証詐得錢之原委也徐泳



于被說後將太平堂改為翠蘭堂仍養優富婦  
張二見徐泳涉訟行妻田氏帶回謝文志志心生長  
慨即向陳瑞林控稱因無養贖情願立字休養將  
陳氏交陳瑞林領回陳瑞林與徐泳商允將陳氏嫁  
與汪太平為妻仍前賣其七月十一日有籍隸宛平  
縣之位選縣丞許發聲因有房屋一所租與湯殿  
之楊春喜居住陸續欠伊房租京錢七十吊前住家  
訂順至徐泳家內徐泳留住飲酒令汪太平並陳  
氏及郭王氏魏張氏陪飲嗣許發聲又連任飲酒  
三次內與陳氏甚宿一次俱未聞發錢文郭王氏  
魏張氏僅止陪酒並未去宿旋各回家十四日許發  
聲將楊春喜所欠房租先給徐泳收取執業連次  
陪宿去宿錢文楊春喜約期交還至期徐泳往  
取無錢彼先口角徐泳回向許發聲告知許發  
聲即用名片以楊春喜欠大房租不還等情令徐  
泳赴北城史日衙門喊名將楊春喜傳集楊春喜  
以徐泳素係富婦並非許姓家人不應將伊控告  
心懷忿忿即將徐泳曾因富婦被西城坊位督履  
逃脫緣由具呈控訴該坊督履徐泳供出是日被

擊時在彼飲酒人係常姓胡姓及不知姓名二人並究  
出顧明等事詐得許發聲扶杖飲酒等情詳  
城送部屢傳常姓胡姓等無獲正在審辦間由被  
大理寺監西城御史先後將寺丞張清衡史日曾汝  
舟奉奏獲犯訊處前情且等以張清衡等被詐錢  
文及曾汝舟所得詐錢恐尚不止此數而王興陳貴子  
寶成控控事詐錢亦恐有夥向商謀情事覆加研詰  
不特顧明等暨供所詐錢文實止此數即被詐之  
張清衡等亦食稱委無另有詐錢據陳貴供稱顧  
明實止交伊京錢一百吊伊留下二十吊將八十吊送  
給本官委無另有得及多駐伊與王興亦無與寶  
成等事商惟據情事訊之寶成等供無異詞調查  
該吏目是日過堂名年亦屬符合是在太平堂被顧  
明騙等詐賂之人訊獲徐泳供稱一係姓黃在廣西會  
館居住是日同伊至該處會館擊取鴉片烟土一係姓楊  
振振在全華會館居住及傳到廣西會館之看管人  
王升被供館內並無黃姓祇有乙未科舉人唐虞會于  
五月二十二日間外出一夜未回次日同徐泳至館內  
住居伊見唐虞遞給徐泳二包不知何物嗣唐虞

于七月間撤出會館伊現在各處訪查實無唐虞下  
落想已出京等語傳訊全事會館看館人黃大整  
供係內並無楊姓其人訊之同時被會之羅祖烈職  
供除係所指之楊姓曾問係姓劉質之徐泳亦不  
能指實而販票行司坊嚴傳唐虞楊姓並無楊  
片烟之孫二及謝文志據報之獲無期現犯未便久竊  
應即先行殺結 查例戴宗室覺羅人等妄控干  
已情由聲進當係詐不違事結控無無論詐賄  
多寡已未入手但經商謀控投不分首從供實發吉  
林安置到配重責四十板主仗款罰及勸勞之犯無  
論軍民不分首從先行枷號三個月滿日俱發遠  
先軍又律載官夫同事受財計贖判斷無謀人各  
減一等有保人杜法監四十兩杖一百徒三年五十兩  
杖一百流二千五百里又長隨贊令妥為呈及本官  
罪應擬杖者如一等如王後三年而止又當預揭放月經久  
者杖一百徒三年請保知情容隱者杖八十其租給房屋  
之房主實不知情房產免其入官又軍民人等  
買食鴉片烟杖一百枷號兩個月仍令指出販  
賣之人查拏治罪如不將販賣之人指出即

則食烟之人照販賣為役例杖一百徒三年贖  
官買食者如一等又律載縱容妻妾與人通  
姦本夫姦夫姦婦各杖九十又官吏窩娼者杖  
六十各等語此案覺羅寶成即趙二事同凡人  
高老王大胡四等向窩娼之徐泳借錢不違輒  
控以大伊錢文不違等情控告追經差傳復商  
同坊役詐得錢文自應按例問擬覺羅寶成合  
依宗室覺羅人等妄控干已情由聲進當係詐  
詐不違事同控無無論賄數多寡不分首從實  
發吉林安置到配重責四十板刑實發吉林安  
置到配重責四十板願明復太高老王大明知  
控控情由商同詐均係助勢之犯願明侯太  
除處役詐監十兩以上為從罪止擬杖投罪不  
議外應與高老王大均各依助勢之犯不分首  
從先行枷號三個月滿日俱發遠先軍例先  
行枷號三個月滿日發遠先軍到配折責要  
置時值隆冬照例停遣俟春融時與寶成一併  
咨送兵部轉發徐泳窩娼娼妓陳氏等月日經  
久罪應擬杖其買食鴉片烟雖將賣烟之孫二

供出並未獲案亦應擬徒自應從一科斷徐泳合依窩贖娼妓月日經久者杖一百徒三年書吏王興于寶成等串同控控先未商謀違經判官經顧明等告知索詐錢文該犯鞫分得京錢一百兩隨同故縱應即照枉法受財律門擬王與合依官吏因事受財枉法贓五十兩杖一百流二千五百里無祿人減一等律于流罪上減一等杖一百徒三年門丁陳貴僅止聽從顧明等分用錢文並未隨同嚇詐惟該吏日曹汝舟于傳判人証過堂後本令看守乃該犯回寶成不休爭吵處恐滋事輒將所分錢文盤令該吏日收受釋放并分用京錢二十兩亦應按例問擬陳貴除計贓十兩罪止擬杖輕罪不議外合依懲令妄為累及本官罪應擬徒者加一等加至徒三年而止例擬杖一百徒三年西域吏日曹汝舟於坊役顧明等案外傳人說不知串同訛詐及飛清衛等執妓吸烟情事惟既經恐有別情諭令看守乃因門丁陳貴懲令得錢即行釋放于法即為枉縱計所得制錢四千千應以

四十兩科罪曹汝舟應革去吏日依枉法贓四十兩杖一百徒三年律擬杖一百徒三年大理寺寺丞張清衛太常寺典簿羅祖訓執妓飲酒罪止擬杖惟以現任職官吸食鴉片烟自應從重按例問擬張清衛應革去寺丞羅祖訓應革去典簿均合依軍民人等買食鴉片烟杖一百加號兩個月職官加一等例于杖一百罪上加一等擬杖六十徒一年與曹汝舟並王與陳貴徐泳各犯均酌交順天府定地發配折責安置仍在曹汝舟名下追出京錢八十兩送部入官高老三夫徐泳被親老丁單情節較重均毋庸查辦留養許發聲以候選縣丞秩優宿娼實屬行止有虧未便任依官史宿娼律擬杖六十應從重懲處

制律擬杖一百即行革職江太平業娶陳氏為妻後擬令賈蕊聚二與母江氏貪利假娶田氏賈蕊陳瑞林明知其妹在徐泳家賣姦復商令誘與江太平為妻亦與縱姦無異查縱容肥林與人通姦與縱容姦妻情事相同均應律問擬江

太平陳氏張二張四氏陳瑞林均合休縱容妻  
妻與人通姦者本夫本婦各杖九十張二腿癱  
成廢照律杖贖張氏張四氏係犯姦之婦照  
律酌減張江氏縱容其姦田氏賣姦業已罪坐  
其子應毋庸議張四氏有母田趙氏訊未縱姦  
飭令將田氏領回陳氏訊無另有親屬無宗可  
歸應交坊嫁費月價送部入官許有得贖租債  
王金氏房產轉租與徐泳寓娼妓犯知情容隱  
照例保知情容隱杖八十例杖八十該犯已成  
篤疾照例杖贖侯三劉威李福雖訊無隨同訊  
詐亦未分得錢大惟冒昧同往傳人究有不合  
侯三劉威李福均應照不應重律杖八十郭五  
氏魏張氏僅止聽從徐泳向許發聲陪酒楊春  
喜才控徐泳寓娼妓所控得實充屬挾嫌均有  
不合應各照不應重律各四十郭王氏魏張氏  
訊無實姦照律杖贖與張二許有得贖銀一併  
進出送部入官候三劉威李福與汪太平陳瑞  
林楊春喜均斬賣發落王長喜楊雙費俱年未  
及歲日家貧典賣為優債珠可同王長喜之母

現未在京應給伊母舅張世清領回楊雙費給  
伊母楊褚氏領回免致失所楊褚氏所得身價  
及贖明等分受財錢例應入官訊律亦貧無力  
完繳徐泳陳氏各得高地費姦錢大亦訊無確  
數均應免其著違楊春喜所欠許發聲房租磁  
供有茶錢雜修作挾業已將房產出文許發聲  
杖領應毋庸議房土王金氏訊不如徐泳寓娼  
妓例不坐房產五先入官無干者釋逃犯胡四  
胡六孫二謝文志等嚴緝獲日另結起獲楊片  
烟袋葉結銷毀所有失察徐泳寓娼之地官  
移咨吏部查取職名照例議處其業內挾優執  
詐以鴉片烟土挾錢文之人訊係廣西舉人  
唐虞其一入並無確切姓名籍貫應將王升楊  
雙費暫行取保備質一面行文廣西遞換查傳  
唐虞到案說明如果屬實照例辦理並向違究  
與伊同赴太平堂挾優之人係何姓名居住何  
處迅速咨覆以憑查辦所有臣等審擬緣由理  
合恭摺具

奏請

音

道光十六年十月二十三日奉

旨依議欽此

奕 紹 殷 欽 仁 壽 錦 傑 錦 山 潘 世 恩 穆 彭 阿 王 鼎 賽 尚 阿 成 格 文 致 儂 恩 銘 劉 彬 士 陸 文 姚 元 之

假

1649 道光十六年十月二十四日內閣奉

上諭琦善奏請將遊擊撤回部司改補等語烏蘭鎮中軍遊擊色普與額世性情乖戾與人地不宜著撤回省城習練遇有相當缺出再行酌補會各路部司庫蒙額年老難膺外任惟曾經出師著積著送部引見再降諭旨欽此

1650 道光十六年十月二十四日內閣奉

上諭裕泰奏勸明被水淹廢田畝積除種頭並免積欠一摺湖南澧州大圖黃線張毛孝文等口五官境既據該撫委員勸明化勢外高內低積水無從消洩田畝不能回復若令照額納糧並帶繳積欠銀兩民力恐有不逮加恩著照所請所有該五境前項淹廢田畝額徵起運正耗錢糧共銀六百九十五兩零五十二耗清米四十二石零准其豁免其現在回復及淹廢各田畝未完道光十一年二十三年四十五等年錢糧正耗錢糧共銀四千八百九十五兩零又道光二十四四十五等年銀水應借籽糧銀一千六十二兩零均准其一併豁免

免仍發贖通州隨時察看，如將來水道暢移積水，儘因可以耕種復業，再行勸明辦理，該撫卽刊刻，務黃遠行曉諭，務令實惠及民，無任文介舞英，用副朕矜念文區立憲，該部知道欽此。

1651 道光十六年十月二十四日內閣奉

上諭：納爾經額等奏請揀員升署並理要缺道員一摺，著照所請。湖南永永沈靖道員缺，准其以王簡升署。如果始終奮勉，再請實授。欽此。送部引見，該部知道欽此。

1652 道光十六年十月二十四日內閣奉

上諭：湖南岳州府知府員缺，著欽自檢補授。欽此。

1653 查岳州府係衝繁疲難最要缺，理應

1654 道光十六年十月二十四日內閣奉

上諭：穆彰阿著在南書房行走。欽此。

1655 道光十六年十月二十五日內閣奉

上諭：前據容照奏馬蘭旗屬營汛向係各糧營軍東，做缺著打單兵丁每年做旗著二萬，未以備修補，序開常有旨令容照查明各項，限自始自何年何人據實奏報。茲據奏稱打單做著一節，始於乾隆四十六年保軍任內，傳採旗第一節，惟道光十六年度處任內有傳帖一紙，以前並無據等語。國家養育兵丁，原以備操防之用，該管各官何得私行役使，致壞差操。此項採旗打單，阻習實屬不合，本應將歷任各員查明懲處，惟念營軍人違官且一任所有，歷任沿襲阻規，及未經查出，各自始從寬免究。嗣後該營兵務，當將前項阻習實力稽查，永遠禁革。倘日久生懈，再有違送，擬派專員一經發覺，定將該營兵等懲處不貸。欽此。

1656

奏為遵

潘世恩等跪

旨：審訊事。道光十六年九月二十三日，據都察院奏

徐王氏呈控委散秋大臣一等公已雅爾琿克

托施大立碑銀兩倚勢延不給還一招奉

旨此案著交軍機大臣審訊欽此臣等檢閱徐王氏原呈所控惟刑部明直暗曲已雅爾輝克托情託賄囑等詞情節最爲重大虛實均應澈底根究隨吊齊刑部原卷並傳集案內人證督率章京逆如研訊緣徐王氏係已故山西五臺縣石匠徐保三之妻徐保三先年來京在伊戚李沐恒東盛石廠幫影嘉慶二十三年復自開五峯石局生理道光六年徐保三故後徐王氏見鋪存舊帳內有自東盛廠購來嘉慶七年布疋疋查登地立碑工程做法單一本並見另帳載有明安久立碑銀二千四百一兩零一條隨執向明安之子已雅爾輝克托討要已雅爾輝克托因係連年舊帳不足憑信且徐保三在日從未討過不許給還該氏隨在門口焚香索索並於已雅爾輝克托之弟前任工部郎中光那蘇圖運署及赴

國明園當差時跟向辱爾該員家人賈長林印齡兒等恐其生事謾差出向託合許給銀六百兩

息事該氏欲索現銀愈肆喧鬧經已雅爾輝克

托連抱向步軍統領衙門呈訴正在咨送刑部聞已雅爾輝克托管事家人孫三因在步軍統領衙門時被徐王氏當堂辱罵不顧到部與之對詞自戕項命經刑部以帳無確據悉未爲斷駭該氏索欠贖命擬杖收贖在案嗣該氏屢向步軍統領都察院順天府各衙門呈控均未斷給道光十五年十一月徐王氏在北城察院衙門因另索帳目涉訟復將已雅爾輝克托家前帳指出嚴行撤欠並串出已雅爾輝克托堂兄昔存今故之三弟侍衛和色寶爲證和色寶隨控爲已雅爾輝克托與伊聯名呈詞指稱管事家人孫三雖故其弟孫九應還此帳本年六月經已雅爾輝克托查知其呈訴明並無與和色寶聯名之事該城御史因事涉世職前後供情不行奏文刑部審辦經部訊明將和色寶擬管珠九訊不知情釋放徐王氏索欠無憑未便官爲酌斷飭令自行清理奏結復在案臣等查刑部審辦此案於該氏毫無屈抑何以奏結復復以

刑部懸囑受賄等詞赴都察院翻控職悉已推爾輝克托等實有賄屬等情隨向嚴加究詰據已雅爾輝克托堅稱並無賄屬並託攝亮那蘇圖孫九等亦均供實無其事復向該氏究詰呈內所指情託究係何人所揭賄屬究竟行賄若干何人過付介該氏一一指出以憑究辦該氏毫不能指證惟免免以帳單現存刑部不符銀當堂斷給印保願有情舉為詞等復悉該氏索欠全憑帳單隨將該氏所呈帳單逐細核驗查做法單番載有嘉慶七年立字樣檢查檔案是正月明安索煙絲事發遣別布秀達養堂北石碑是否保明安代立已未足信况帳單係該氏所呈檢查刑部原卷白大興縣詳文又另粘有做法單一紙上有轉送縣印檢閱原詳亦稱係徐王氏與訟時呈出該氏索欠既憑帳單何以先復呈出做法單忽有二紙且徐保三五峯石局據稱開自嘉慶二十三年是局內即不應有嘉慶七年為人立碑之事雖據該氏供稱此項碑係徐保三在日由李泳恒東成廠內

底帳上詳寫過來嘉慶十六年李泳恒故時曾將一切帳目推給徐保三討要等語等查東成底帳業經無存既無徐保三夥開合同又無李泳恒推給字據其事已屬子虛遂傳到李泳恒弟李泳康即李二李泳恒之子李登瀛即李五亦俱供實不知有此事種種疑實不符帳單而外別無確實印據即該氏所執帳單亦毫不足為據斷無就不足為據之帳單運行斷給銀兩之理實經說明未便任其始終執應即擬給查律職官吏人等由法場託公事聽從施行者杖一百又誣告杖一百等語三等又不應為而為事理輕者罰四十等語按此案徐王氏執持違年無據帳單向已雅爾輝克托索要立碑銀兩因刑部未起斷給親控寫明直轄由情託賄屬等詞赴都察院翻控該氏所控賄屬未經指有証數無憑計賊反坐其所控情託一節如果屬實官吏人等應照由法場託聽從施行律杖一百今審屬虛枉自應按律加等問擬徐王氏應於所誣杖一百罪上加三等擬以



杖八十後二年係婦人照律收贖已難圖釋免

北既知贖單不足憑信即不應私向覓合乃因

徐王氏違隔無能從家人許給銀兩謂為傳貧

息事以致該氏有所藉口屢控不休亦有不合

應照不應輕律管四十條委數杖大臣應交兵

部照例議處查此項立碑銀兩如實有確據即

當將原價二千四百餘兩照數歸還既無確據

即已難圖釋免此首曾允許之息事銀六百兩

亦不容斷令私給致涉邊款所有刑部原斷飭

令已難圖釋免此自行清理之處應無庸議免

那蘇圖孫九訊無情託賄囑亦毋庸議餘屬無

干概予省釋提到刑部原奉案結發還備案所

有日等審擬錄由理合恭摺具

奏伏乞

皇上聖鑒理

奏

道光十六年十月

二十五

日臣潘世恩

臣穆彰阿

臣賽尚阿等

道光十六年十月二十五日奉

旨依議欽此

1657 道光十六年十月二十六日內閣奉

上諭給事中乾文溥奏陶澍違禁私刑處取二摺並

將原列奏疏呈覽朕詳加披閱其所列刑保條及

飭事件惟封疆大吏身膺重任兩奉殊批理當慎

密方為不負委任陶澍條行列布遠近法名殊大

公爾忘私之長陶澍著交部議處至另片奏准北

案暨辦理不善等語准北改行案暨總期於國課

民食兩有裨益如該督於每年奏銷監課章程該

部自能查察即令民食不便其所行案暨各省該

督撫亦必其便利弊俟朕施行乾文溥此奏摺撫

須留意涉執據此風斷不可長乾文溥著一併交

部議處欽此

1658 道光十六年十月二十六日內閣奉

上諭朔松額奏秋收數薄地方請借冬月口糧一摺

甘肅省各屬本年夏秋未苗間有被災之處該撫

該督查明果屬等八州縣杖均屬歉薄民力不  
無拮据加惠著照所請准其酌借果屬縣折色銀  
八千兩安定縣折色銀二千兩平涼縣折色銀一  
千兩寧州折色銀二千兩秦州折色銀三千兩禮  
縣折色銀一千兩涇州折色銀二千兩共借口糧  
折色銀二萬兩此項銀兩著在司庫盤查撥價款  
內借給散放該督卽刊刻牌黃通行曉諭並責成  
該管道州委員會同該地方官挨戶監收務令  
實惠及民毋任吏胥舞弊用副賑於念數區至意  
該部知道欽此

1659 道光十六年十月二十六日奉

旨

西陵歲修另案各工著卽派審商撥發獎勵辦理竣  
之各項工程卽著該侍郎速款驗收至此項修  
各工內是否曾經修過年分該管大臣仍未全晰  
聞載著一併就近詳細查明分別奏辦欽此

1660 道光十六年十月二十六日奉

旨中書科筆帖式果僅阿於控案記過之後不知候

該部放在署內空閒實屬任性妄為果僅阿著卽  
革職以示懲儆欽此

1661 道光十六年十月二十六日內閣奉

上諭伊里布等奏據員升署苗疆要缺知府一摺著  
照所請貴州大定府知府員缺准其以王錫昆陞  
署然例送部引見仍俟加滿年限另請實放該部  
知道欽此

1662 道光十六年十月二十六日內閣奉

上諭賀長齡奏請揀發知府等語據稱前任四川雙  
州府知府孔耀尹現在丁憂服闋在鄉候補請發  
往黔省差委孔耀尹前在山東官聲理好然地方  
情形不同該撫何以知其於苗疆要地相宜卽令  
該省差委之人不妨照例奏請揀發此端斷不可  
開所請著不准行賀長齡著交部察議欽此

1663 道光十六年十月二十六日內閣奉

上諭賀長齡奏請奏延喜不結之州牧請旨革職一

摺所奏甚是貴州平越直隸州知州覺羅文寶於上控未結各案積有五十八起之多自理未結各案亦有三十六起之多實屬屢犯溺職著即革職以儆廢玩欽此

1664 道光十六年十月二十七日奉

旨貴慶著加恩改為降三級留任不准抵銷欽此

1665 道光十六年十月二十七日內閣奉

上諭栗毓英奏請添辦米年備儲石並酌撥辦糧一摺現屆米河添辦米年防料之時據該河督查明河南省黃河南北兩岸十三廳向應添辦備儲船二十保現有米年用儲糧三百八十保僅銀二萬六千六百兩山東省曹河糧河兩廳向應添辦備儲五百保現有米年用儲糧一百保僅銀七千兩除將此項減辦銀兩即在此次添備項下照數劃送司庫外統計河南省十三廳實應辦四成辦料六成碎石共銀十一萬三千四百兩山東省兩實應辦四成辦料六成碎石共銀二萬八千兩

據稱此批執地著有成效著准其行河南省北岸辦料碎石例幫價銀四萬六千九百兩山東省曹河廳碎石及糧河廳辦料碎石例幫價銀二萬一千兩改辦執地所有此項添備儲石及改撥辦銀兩著即在河南山東兩司庫專項撥發該河督即督飭各廳分別趕購儲限年內全完另取存貯無限地況以前石價狀況以前無異辦足該河督記往收收倘有遲延短少等弊著即指石廳奉王和于成陽支河撫黃堤料符黑埋等處購備碎石並備備用銀共六萬四百九十二兩著即在六成碎石項下全數扣送司庫以清專項欽此

1666 道光十六年十月二十七日內閣奉

上諭栗毓英奏估辦米年土工一摺豫東黃河兩岸段堤錢塘等工據該河督親勘減准實確估應於次年春間趕辦所有河南省兩岸十三廳連黃衛下南豫辦工段估需用例價銀二十萬六千九百餘兩津貼銀二萬一千八百餘兩共例洋二價

銀二十二萬八千七百餘兩山東省曹河糧河二  
廳及曹考廳屬之曹上汛估需例價銀二萬一千  
七百餘兩著准其於豫東西省藩庫分別照數撥  
發各該道轉給工員先期在定夫車交春興工照  
估題案勒限完報仍著該河督於來春查料上堤  
時按工勘驗倘有旱岸偷減立即指名嚴奉不得  
稍事姑容工竣數實驗收餘依該部知道欽此

1667 道光十六年十月二十七日內閣奉

上諭奉嚴奏請豫撥購穀銀兩等語據稱原陽文  
河挑築數壩淤澇確有成效所撥穀價除攤  
贖運反支河等處豫辦外所存無多不敷兩岸數  
壩備防加足之用現在舊穀漸少收買頗難極應  
多置密庫現造大穀以備工用著照所請准其於  
來年例撥防險銀內豫提銀十萬兩登交開歸河  
北兩道接用數各應分飭備辦豫賑批汛以前照  
數辦足該河督仍親往驗收如有短少違延著即  
嚴參懲辦該部知道欽此

1668 奏為遵

旨嚴訊定擬具奏事據步軍統領衙門奏送等語  
但與英二門毆並英朱氏呈控等七端二端等  
今將伊子英二毆傷一案道光十六年九月初  
八日奉

旨此案著派大學士軍機大臣會同刑部提集人証  
嚴行審訊欽此旋據該衙門稱常保即常八押解  
到部並抄錄原奏及英朱氏原呈咨送前來臣  
等以英二因何被毆致傷是否瑞二常七喝令  
毆打尤為此案緊要關鍵當即派員研訊究出  
常七等私吸鴉片烟被許牛頭事向宗室豐海  
即趙五暨英二等領事記詐常九等將英二共  
毆致傷等情先後奏奉

諭旨將吏部筆帖式常林即常七革職瑞珍即瑞二  
革去府經歷常筠即常九革去拜唐阿並將聞  
散宗室豐海即趙五一併歸案會同宗人府審  
訊茲據英二傷痊到案臣等督同侍讀司員分  
別研鞫林許牛頭籍隸通州充當面白旗捕盜  
步甲與受傷之大興縣民英二即英玉及已列

業之廟白旗文徵位領下開散宗室豐海即趙五內務府正黃旗舒凌阿管領下開散宗旗兒索五兒並在逃之捕盜兵劉二即劉柱高五即五廣王四索相認識兵二曾在瑞珍家服役後因候呈據逃常但即常八常筠即常九係常林之堂弟道光十五年五月間常林雇用大典縣民魏祿即魏大與妻魏王氏服役後魏轉出嗣魏保因無處傭工窮苦難度于本年六月間見常林由伊門口經過遂令生獸夫懸常林仍行扣留常林不允適有人我同魏祿外出常林來問與魏王氏調戲成姦以後逃便皇法不記次數給錢亦無確數魏祿知情縱容旋經該處房主看破擇逐八月二十八日魏祿共九回大租賃吳朱氏外院閒房二間搬進居住常林即于是日買備食物並攜帶鴉片烟王彼吸食時瑞珍因患胃病聞常林煮食鴉片烟可以療治當向找弄詢知常林在魏祿家內即前往一同吸食隨吳二之母吳朱氏因魏王氏前經搬進瑞王看望見瑞珍與常林在炕吸烟魏王氏並不

避忌當即走出九月初一日吳二外曰歸經吳朱氏告知前情吳二信及瑞珍雖舊日在土伴伊並無情分當欲將魏祿擇逐初二日早吳二在海瑞軒茶館與許牛頭劉二豐海會遇叙談談即以伊同院居住之魏祿家有常林瑞珍時常在彼吃食鴉片烟前來恐致連累欲行擇逐之言向許牛頭起意鎖拿訊詐得錢分用今吳二後且說合吳二等處九初二日許牛頭恐人少不能助勢復邀九索橫兒索五兒高五王四一共八人在該處茅房空屋內會齊至點燈時吳二見常林瑞珍又至魏大家內隨信知許牛頭等前在許牛頭携帶銀錢與豐海等一齊搬進吳二在門外等候適常林與瑞二同食鴉片烟王四上前搶獲鴉片烟袋許牛頭用鎖將瑞珍鎖住經索五兒喚令吳二走進吳二即向許牛頭央求釋放許牛頭等索要京錢一千吊吳二從旁說合因鴉片烟係常林所帶前令常林出錢二百吊了結當將瑞珍開鎖常林因無現錢立寫欠錢字據令瑞珍作保蓋押文豐海

杖執言明次日交錢各散其時魏大屋內不知  
被何人將棉袄兩件錫茶壺一祀順便攪出帶  
至空屋經豐海將棉袄携回當錢高玉將茶壺  
取出初三日許牛頭約同吳二等在酒舖等候  
父錢未見常林等走至吳二即我同田大催逼  
魏林膝辱魏王氏因魏祿並未在家心生畏懼  
今雇工幼孩朱喜向常林送信常林令伊弟常  
恒同家人周麻子前往看視見吳二正在門口  
喧嚷常恒向問魏祿有無在家吳二怒猶未息  
並未理保常恒村斥其非敢相罵罵常恒撲向  
揪扭吳二即將常恒推跌倒地用拳毆其身上  
並未成傷周麻子起意奸人運毆趨向常筠告  
知常筠即逃先街開素識之黑三余七但慶即  
大恒恒適即二恒幫毆但慶走至大街因另有  
他事未親同往常筠與周麻子各持木棍與黑  
三等趕至常恒已先赴官廳喊告常筠即上前  
喊罵用木棍毆傷吳二左臂膊右肘刮右手腕  
左右手五指並額顛偏左腮後偏右周麻子將  
其揪倒用棍毆傷吳左右腰及右脚腕黑三等

脚踏傷吳右脇余七接逼周麻子于內木棍毆  
傷吳左右脚踝當各走散旋經官廳將常恒解  
送步軍統領衙門錄供吳朱氏因攆逐魏王氏  
起糾即以瑞珍常林喝令常筠等將伊子吳二  
毆傷等情具控該衙門飭功驗明吳二傷痕  
妻交到部審悉前情且等以常筠等將吳二共  
毆致傷雖保非常林等挾攆逐魏王氏之嫌因  
而主仗毆打即瑞珍所供與魏王氏並無私  
亦難憑信復向兇犯據常筠等聲稱伊聞知伊  
兄常恒與吳二開毆同周麻子等將吳二毆傷  
常林等實不知情質之吳二供明伊被毆時並  
未見常林等在場吳朱氏亦稱伊因見常林瑞  
珍在魏王氏家吸食鴉片烟欲將魏王氏攆逐  
是以毆傷常林挾攆喝令其實並未見常林等  
之面不致致執據瑞珍供稱伊如果與魏王氏  
有私現已承認吸食鴉片烟重罪何必存有隱  
瞞託之常林魏王氏亦代刺甚力並據常林供  
出鴉片烟係山西人喬三賣給等情歷經嚴鞫  
喬三魏祿等七獲無期飭件驗明吳二傷已平

復應即先行擬結 查例載盜犯恐嚇索詐計

贓在十兩以上者發近邊充軍為從分該各減

一等又律載恐嚇取財計贓准竊盜論加一等

註云未得財者亦准竊盜不得財罪加等又竊

盜已行不得財者笞五十又犯罪首從本罪各

別者各依本律首從論又例載軍民八等買食

鴉片烟杖一百加號兩個月如不符販賣之人

指出即將食烟之人照販賣為從例杖一百徒

三年職官買食者俱加一等治罪又律載縱容

妻妾與人通姦姦夫姦婦各杖九十又手足毆

人成傷者笞三十他物毆人成傷者笞四十各

等語此案捕盜兵許牛頭圍知瑞珍等在魏王

氏家吸食鴉片烟該犯起意高九吳二等恐嚇

索詐逼寫字據計贓京錢二百兩已在十兩以

上雖贓未入手亦應按例酌減開擬許牛頭圍

子處役恐嚇索詐計贓在十兩以上發近邊充

軍例上減一等擬杖一百徒三年吳二並宗室

豐海索摸兒索五兒聽從許牛頭嚇詐均非在

官人役自難律以處役詐贓為從之條若照恐

嚇未得財為從擬笞人失之輕縱重吳二曾查

與瑞珍家服役雖業經辭出已無名分可言較

之豐海等究有區別且許牛頭之起意詐贓實

因該犯告知瑞珍等吸食鴉片烟所致自應從

重酌量開擬吳二應即子許牛頭所得滿徒罪

上減一等擬杖九十徒二年牛頭供親老丁單

不准查辦與許牛頭均對支順天府定地發配

折責安置宗室豐海索摸兒索五兒處各照不

應重律杖八十加號一個月以示懲儆豐海

係宗室常林即常七因與魏王氏姦姦奸鴉

片烟帶至魏王氏家與瑞珍一同吸食雖據稱

賣烟之人番三供出究未查擊到業應仍坐常

林以販賣為從之罪常林除與魏王氏通姦罪

止擬杖輕罪不議外合依吸食鴉片烟不符販

賣之人指出即將食烟之人照販賣為從例杖

一百徒三年職官加一等例杖一百流二千里

係謀人照例折枷四十五日與索摸兒索五兒

枷號滿日各鞭責發落瑞珍即瑞二月為職官

又係大員子弟明知常林與常林與魏王氏姦

行報康王魏王氏及內典常林一同吸食鴉片烟致被匪人乘機鎖詐實屬自取耻辱若僅照例擬一年折責二十日不足示儆瑞珍應從重發往軍台効力以爲大員子弟不知檢束者成即咨兵部轉發魏王氏與常林逆姦係本夫魏祿知情縱容應按縱姦律問擬魏王氏合依縱容姦妻與人通姦姦婦杖九十律擬杖九十條犯姦之婦杖決照律離周麻子常筠黑三各用木棍毆傷吳二額顛等處余七用脚踢傷吳二右脇按律手足他物毆人成傷俱罪止擬笞惟該犯等恃家攬毆均非妾分之徒未便照律擬笞致滋輕毆周麻子常筠黑三余七處各照不應重律杖八十周麻子係起意尋毆之犯酌加枷號一個月惟逆即二位雖未幫毆究已隨往習寫常律即常八與吳二爭吵擊打均有不合應各照不應輕律笞四十與周麻子等分別族氏鞭責折責發落惟康王大恒于常筠糾約之時既未同往應先置議吳朱氏控詞失實本有不合姑念伊子業已受傷且係婦女無知亦毋

庸議餘屬無干擬行者釋魏王氏得過常林飲文視無確數應免著逆起獲完糧及鴉片烟袋業經銷毀費海繳出當業應給魏王氏具領逃犯魏祿劉二即劉柱高五即五庚王四喬三等嚴研獲日另結所有吳等嚴審定擬緣由理合恭摺具

奏請

旨

道光十六年十月二十七日奉

旨依議欽此

奕 鈞

敬 敏

仁 壽

綿 德

綿 鈞

長 齡

溥 世 恩

穆 彰 阿

阮 元



許 昌 未到

王 鼎 似

賽尚阿 至

成 格

史 致 儼

恩 銘

劉 揚 士

徐 文

姚 元 之

1669 軍機大臣 字寄

江南河道總督麟 道光十六年十月二十八

日奉

上諭據工部等部奏查明南河通庫統計水利各款  
 應實存銀一百五十萬餘兩而該河督前奏河庫  
 並無水利備發之款及平飯銀兩動用無存何以  
 懸殊若此著麟慶即將庫存備撥水利平飯一款  
 截至道光十二年底止應存銀兩因何動用無存究

於何素工程誤用歷年支應作何開除詳晰查明

據實復奏其自十三年起歲報河道錢糧並公項

清冊又十年及十一二等年辦運雜項並著

速行題報毋再遲延又另片奏歲報錢糧清冊應

將收除實在分年劃清如估銷時有裁減追賠銀

兩即於完數之年作為新收等語著該河督即將

道光八年以後發辦各工按年造報以免轉轉而

杜弄混原摺片著伊給閱看特此諭令知之欽此

旨寄信前來

1670 軍機大臣 字寄

湖廣總督詢 湖北巡撫周 道光十六年十

月二十八日奉

上諭有人奏湖北監利縣陵工向係官徵民修每年

歲修土方六十餘萬派徵制錢六萬餘串由該縣

籤點董事發給印單收取土費糧書工書等銀用

是春杜收致董事賠累不足完工又有庫總六人

狼狽為奸故控未結前經詢商總額派員前往會

議章程設立總局收土並公舉誠信首士八人及  
領修數十人分段游修一切事宜不限吏胥士民  
踴躍而盡書等違犯持花戶不許赴局完土首士  
屢經稟究藐玩如故一年所收土費不及三萬串  
餘皆盡化盡索本年四月庫總與結請勾通糧書  
蕭之桐糾眾抗土關局政奪首士秦祖恩等雖令  
不為完辦似前吏胥已攬做收銀令典汛員每年  
得銀規數千串今改總局收土不能逐其需索盡  
書尤不利於總局百計昇譽本年七月十五日稟  
該縣公出連夜聚米千百餘人拆毀總局刺奪丹  
春局中衣物銀錢搶掠一空並殺首士周起伯等  
多人報縣勘辦該縣鄧蘭黃僅等捏書張良位一  
名略加懲戒其餘首犯各犯置之不問又本年刑  
江水木大源謀盜書等潛往別毀潰決二十餘丈  
致淹毛老等一百四十餘坑下及河陽漢陽等處  
皆受其害等語此土修陘改設總局行之一年士  
民稱便該地方官自應實力奉行用收實效何以  
該書等無因無從漁利縣數計眾毀局掘封肆  
毀如果屬實大干法紀該縣知縣亟應將首犯各

犯指名嚴拿從重懲辦倘竟徇庇盡書一味姑容  
必致該書等益無忌憚首士畏其凌虐不敢承管  
局事於民命要工大有關係不可不嚴行查究若  
詢爾姓頭周之琦親提現獲糧書張良位並飭該  
縣嚴拿首犯務獲稟公審訊認真研究務即  
查明潰陘毀局各確情依律究辦並追出抗繳土  
費以杜包攬而清積弊至該縣鄧蘭黃倘查有徇  
縱情事著即據實嚴參毋稍姑息將此諭令知之欽  
此

吉兆信前來

1671 道光十六年十月二十八日內閣奉  
上諭奉天府府丞兼學政著侯桐去欽此

1672 應升奉天府府丞人員名單

內閣侍讀學士張鑒 浙江進士

通政使司參議劉謹 湖北進士

其次應升人員名單

鴻臚寺少卿葉紹本 浙江進士

1673 候補四品京堂人員名單

蔡世松 江蘇進士

吳榮光 廣東進士

1674 軍機大臣 字寄

浙江巡撫烏 道光十六年十月二十九日奉

上諭據御史董宗遠奏稱接到天元差局送來書信一封係浙江嘉興府人錢洪等七人呈呈地方公事求為密奏呈內訴及嘉興等縣得收規盜並有緇團救大故救老派黨吏刀黨名目等語得此勒折規盜殃民最為地方之害至愚民妄設教黨煽惑閭閻尤于例禁若不隨時認真查辦必致釀成巨案若向商吞湖即將呈內所指各情節密加體訪如果實有其事即提到錢洪等確加根究毋稍諉飾其列名具呈之錢洪等七人著一併確切訪查是否實有其人或係挾仇誣指莫累無辜亦未可定如係詭捏姓名即與匿名揭帖無異尤當密摺照例懲治毋得意存消弭原呈著發給閱看將此諭令知之欽此遵

寄信前來

1675 道光十六年十月二十九日內閣奉

上諭福和頭奏彰顯賑地方懇請蠲緩一摺甘肅皋蘭等州縣秋禾被災深該督撫查明民力均屬拮据加恩蠲免所請所有皋蘭河州靖遠沙託岷文平涼靜寧固原秦州武成古浪平番中街涇州靈信等十五州縣州判地方應徵本年新舊正儲秋糧等項俱准其蠲免道光十六年秋復徵收以紓民力該督即刊刻榜黃旗行曉諭務使實惠及民毋任吏胥舞弊罔計朕軫念數區至意該部知道欽此

1676 道光十六年十月二十九日內閣奉

上諭湯全到奏查明北山歉收地方懇請蠲緩一摺陝西省綏德州及所屬清澗等縣本年秋雨較少禾苗不甚暢茂顆粒未能飽滿既據該署撫查明秋收歉薄糧價較昂若將顆徵帶徵各項糧保同時併徵民力不免拮据加恩著照所請所有本年顆徵綏德州本色倉斗糧二千四百三十三石零清澗縣糧一千四百三十三石零末胎縣糧二千三

百二十八石零，吳堡縣糧八百八十一石零，著准其先於年內按數各徵一半，其餘一半同該州縣等未完十三年額徵糧石十四年春借折色口糧銀兩並吳堡縣半年出借常平倉穀一併蠲免。十七年秋復徵以紓民力，該署撫卹卹刑罰贖費通行曉諭務期實惠及民，毋任吏胥舞弊用副朕軫念款區至意，該部知道欽此。

1677 道光十六年十月二十九日 諭開奉

上諭祥康等奏勸明款收地方請將銀數核徵一摺。本年三姓地方秋禾被旱，收成數簿若令將新舊銀數同時並徵，兵民力有未逮，加恩著照所請，所有八旗兵丁本年應交義倉穀七百二十石，官莊壯丁本年應交公倉穀四千五百石，道光十二年被災接濟蒙古爾庫等三站站丁口糧，本年應完交穀三百六十一石零，民戶等本年應納地丁米折銀六十九兩零，俱著遞緩一年。俟次年秋收後，如數完交。至道光十五年被災，奉准自十六年起分限二年完交義倉穀一百七十九石

零，公倉穀一十五百九十七石零，地丁米折銀七十一兩零，又民戶又交十二年分地丁米折銀兩，除已交豁免外，其餘未完自十六年起分限二年完交。銀十七兩零，又道光十二年被災接濟八旗兵丁官莊壯丁等大小口自十六年起分限二年完交。公義二倉穀八千八百二十石零，又道光十五年被災接濟八旗兵丁官莊壯丁等大小口自十六年起分限三年完交。公義二倉穀一萬三千六百四十二石零，俱著遞緩一年。自十六年起仍照原限完交，以紓民力。該將軍等卹刑罰贖費，偏行曉諭務期實惠，均當毋任吏胥舞弊用副朕軫念款區至意，該部知道欽此。

1678 道光十六年十月二十九日 內閣奉

上諭喇松額等奏慶來京陛見候明歲冬間再行奏請欽此。

1679 道光十六年十月二十九日 內閣奉

上諭潘全到奏律員升補南山委缺知府一摺，著照

所請陝西與委府知府員缺准其以郭鳳選升補  
照例送部引見該部知道欽此

1680 道光十六年十月二十九日奉

旨這所奏疎防盜犯越獄之管獄騎校阿克當阿  
著革職等因文該著將軍等提回舊班甲兵嚴訊  
有無賄縱情弊仍照例勒限四個月將管獄限滿  
有無又獲分別辦理該部知道欽此

1681 道光十六年十月二十九日內閣奉

上諭步軍統領衙門設立左右翼總兵與各部院衙  
書侍郎無異一切公事均應彼此酌量不得老存  
推諉方稱同寅協恭之義前因該衙門司員承審  
結化著三等辦理等因當降旨將失察之該管總  
兵聯順奎照文部議處在案該部議以罰俸一年  
其奏聯順等失察此案情節即西輕原可准其照例  
核銷但該總兵等與步軍統領均有統轄屬員之  
責乃才該司員等審辦等因漫無覺察縱縱等情  
自行查出案卷究為失察於尚所有聯順奎照罰

俸一年之處著不准其抵銷以杜推諉之漸餘依  
議欽此

1682 道光十六年十月二十九日奉

旨戶部奏京師起解運送積欠解文等語廣東省  
上年秋糧業內應文部庫地丁銀一十五萬兩經  
戶部於本年六月內行催迄今仍未起解現已入  
逾例限著廣東巡撫迅即派委妥實解部交納且  
查取該藩司委辦運送職名送部議處其本年春  
撥業內春撥廣東地丁銀二十萬兩並著該撫速  
即委員解部毋任延宕欽此

1683 道光十六年十一月初一日內閣奉

上諭四川總督鄂山著加恩在紫雲城內騎馬欽此

1684 道光十六年十一月初一日內閣奉

上諭山東兗沂曹濟道員缺著陳功補授欽此

1685 查山東兗沂曹濟道係衝繁難要缺擬  
奏

1686 道光十六年十一月初一日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請項

制寺大士扁額一摺浙江錢塘縣屬天竺法喜寺  
觀音大士身近早廢之年祈禱報應殊特親書扁  
額並發去大成香五炷交該縣祇領虔奉

廟中嚴謹祀潔用答

神庥欽此

1687 道光十六年十一月初一日內閣奉

上諭在籍布衣查明各州縣衝積木被水被旱情形

應恩分別緩徵一摺本年山東省各屬被水被旱  
雖均勘不成災秋禾收成充為歉薄自應各按輕  
重情形量加調劑加惠者既四請所有被水較重  
之齊河縣太子莊等八村莊德州前董莊等六村  
莊濱陽縣雙柳等九村莊濮州南關朱里朱家園  
莊等十六村莊濟寧州里上店地方本莊莊等三  
十四屯莊在東臺縣馬家橋等六十二村莊被旱較  
重之聊城縣成民里王士安莊等五十八村莊清  
年縣劉及莊等九村莊清河縣文家莊等四十三  
村莊應徵本年錢糧漕米及漕項河銀臨德等倉  
具如監課繳徵河工役土地租並出借倉穀等項  
均暫緩立道光十七年秋後徵其被水較輕之  
齊河縣劉莊等七等二十九屯莊臨邑縣于家井  
等五村莊德州巨家莊等六十六村莊濮州南關  
西里玉家莊等二十四村莊濟寧州吳家灣地方  
莊十里營等一百二十七屯莊東臺縣前家莊等  
二十六村莊被旱較輕之長清縣白華林孔家莊  
等四十八村莊及博街王東下屯等二十四屯莊  
齊河縣北七上里任家莊等三百八十六村莊冠

縣屬莊等五十二村莊信尚縣王二廟村等十六  
村莊清平縣皮家等一百一十一村莊堂邑縣東南四  
大商家莊等一百六十五村莊莊子孫米家莊等  
四十二村莊著燕鐵佛寺呂家莊等五十六村莊  
卸縣李莊等二十四村莊在東阿縣艾山等五十二  
村莊原本年清未仍照常徵收外所有應徵本年  
錢糧漕項河銀臨德等倉民佃監課攤徵便工河  
工池租出借倉穀等項並濟陽明城鉅野三縣本  
年秋後應徵青黃不接業內原緩上忙新歲春去  
錢應徵二麥被旱業內原緩上忙錢糧同長清縣  
白家窪等一百六十一村莊二麥被旱原緩上忙  
錢糧著一併緩至道光十七年秋後徵收濟陽  
卸縣鉅野泰安長清各縣除青黃不接及二麥被  
旱原緩上忙新歲各村莊照常緩徵外其本年下  
忙錢糧同漕米仍照常徵收其被旱最晚之糧肉  
絕李路橋村大多法卷等六十村莊高唐州高官  
屯等十二村莊清平縣張家廟等二百五十二村  
莊莘縣大陽家莊等三十村莊夏津縣轉家橋等  
九村莊開濟寧州臺齊河濟陽臨邑長清德州聊

城莊平堂邑冠縣卸縣高河等各州縣除被水被  
旱村莊在淮緩外其餘各莊及被旱最晚之鹽城揚  
信海豐花縣臨清州等圍境村莊應徵本年錢糧  
漕米等項一併照常徵收外所有道光十五年未  
完並應帶徵歷年舊欠及原緩上忙錢糧漕米漕  
項河銀臨德等倉民佃監課攤徵便工河工池租  
出借倉穀籽種口糧等項同被水被旱致重歉輕  
各州縣村莊應帶徵歷年舊欠及原緩上忙各項  
錢糧漕米倉穀等項均著緩至道光十七年秋後  
再行徵收光年分應年依次帶徵一年仍照常先儘  
該年錢糧全清其併帶徵漕米其德州臨清東昌  
濟寧等四州縣文之莊德同坐落州縣一律辦理  
該省應徵前糧著照歷次成案在于成熟村莊  
內先儘徵收應徵之項統于大漕內緩緩其各屬  
應徵錢糧耗立著一律緩徵仍將原緩耗立價脚  
款兩項存司庫俟帶徵之年支給應用各州縣被  
災村莊緩徵本年錢糧仍徵漕米之數其不敷漕  
項糧兩著照向例在於成熟村莊應徵地丁錢內  
酌解其應緩漕項著統歸地丁錢內撥緩之各片

奏樂陽等處州縣請分別展緩等語所有樂陽樂  
成等處上屆此錄中及名先照錄州屬方亦呈  
呈到請照請知事所請均品樂高苑得與樂安考  
光博山齊東新城恩縣濱州唐化樂陵等二十八  
州縣准原緩上忙新賦准於本年不列麥後秋後  
酌徵五錢舊徵新之等州志民二縣新賦均照常  
徵收外其餘帶應年舊欠及原緩地錢糧糧主清  
項河銀照錄等處已仰監課鹽徵使上河工地租  
出借倉穀籽種等項及本年借給穀石均著緩至  
道光十七年秋後各按最先年分逐年依次帶徵  
一年以紓民力該部即刊刻曆書通行曉諭務令  
實惠及民毋任吏胥舞弊用副朕軫念文區至意  
該部知道欽此

1688 道光十六年十一月初二日奉

旨陶澍著加恩改為奉天留任不准撤職文淳著  
回翰林院編修是任欽此

1689 道光十六年十一月初二日內閣奉

上諭北城御史和豐等奏職官負欠抗傳請交部審

訊一摺已滿雲貴提塘官楊雲於負欠糧粟抗傳  
不到實屬藐玩楊雲著交刑部審訊欽此

1690 道光十六年十一月初二日內閣奉

上諭富呢揚阿奏查閱各路營伍官兵情形一摺吐  
魯省及晉陝西漢中營都司鄭正龍年力漸衰弓  
箭較弱著以原品休致其曾齡出兵打仗受傷之  
處該部照例裁解已里冲滿營偏領賽沙春古斌  
滿營偏領阿凌阿俱年逾六十精力衰頹均著勒  
令休致餘著照所議辦理該部知道欽此

1691 道光十七年十一月初二日內閣奉

上諭瑚松額等奏請將疎防失察委員分別交議等  
語密漢托濟亥拉防到將扎勒布等毋庸守  
備楊桂林於古城檢到防所官馬安附建蒙古番  
民牲畜未能覓察應速補實屬懈弛著交部照  
例議處著海石莫正盟長索古即工恭本楚克集  
克然特於烏下索古城等引領番成慶次檢到毫  
無得察亦難辭咎著交理藩院照例議處欽此



1692 道光十六年十一月初二日內閣奉

上諭樂善等奏辰員効力期滿一摺丁崇紫著准其  
料回欽此

1693 道光十六年十一月初二日內閣奉

上諭鄧廷楨等奏親勸唐老知縣一摺廣東花縣知  
縣陸瀚辦事玩愒不能約束著以故控集紳踴  
著勒令休致著恩平縣事高明縣知縣歐承諭不  
協輿情難勝民社著留於該省以所經歷縣丞降  
補餘著照所議辦理該部知道欽此

1694 道光十六年十一月初二日奉

旨知道了這所得盈餘銀兩著交廣儲司三萬五千百  
兩其餘銀二百四十兩零著賞給重豫欽此

1695 查山海關

欽定盈餘銀四萬九千四百八十七兩上屆監督奏

無任內擬收銀五萬一千兩零欽

欽定盈餘銀數多收銀一千五百十三兩零除由支

各項外共實解盈餘銀三萬六千二百六十八  
兩零奉

旨交廣儲司三萬六千兩其餘銀二百六十八兩零

著賞給奕斌欽此此次重豫於道光十五年八月

到任接政前任監督奕斌積欠百日自道光十

五年五月起連開和至道光十六年四月止一

年期滿共徵收盈餘銀五萬八百七十二兩零

欽

欽定盈餘銀數多收銀一千三百八十五兩零較奕斌

少收銀一百二十八兩零又重豫加足本任一

年所有積欠百日止積盈餘銀兩則交新任監

督接收彙報其現解盈餘銀兩除動支各項外

實解銀三萬六千四百四十兩零應交廣儲司

若干應否

實給重豫若干之處伏候

欽定理

奏

1696 軍機大臣 字寄

兩江總督陶 著兩江總督林 道光十六年

十一月初三日奉

上諭前據陶澍奏兩淮應支牧庫生息銀兩業經派員解送直隸藩庫當諭琦善迅速解交察哈爾以資辦公茲據琦善奏稱此項生息銀兩道光十六年一年五十七年半年共應交銀一萬三千五百兩迄今並未解到又據據林則徐咨文內稱本年生息銀兩可著整是此項生息銀兩省原本起解等語察哈爾牧庫生息銀兩現既仍照舊章由兩淮生息自應按期解交以備該處三旗牧庫之用何以陶澍既稱十六年一年及十七年半年生息銀兩經委員解送而林則徐又稱本年生息銀兩須飭司善整此項銀兩曾否如數起解著陶澍林則徐迅即查明解送直隸藩庫以便發交察哈爾領回支用毋再任意及宕致誤要當行此諭令知之欽此遵

寄寄信前來

1697 道光十六年十一月初三日內閣奉

上諭前因御史王藻奏請將沿海漢楚村莊在設法編查度勘當降旨令直隸等省各督撫妥議章程具

奏據據琦善奏稱查明直隸濱海十二州縣內鹽灘等八處離濱海而不能通海其。沿通海者惟天津寧河臨榆樂亭四處天津海口夫府有砲臺兩座大沽北塘兩處俱設有營汛等語據省海。密通京師稽察最宜周密其稽察之要固當嚴防外盜之乘機入。尤須防警內奸之違禁出洋嗣後著責成天津鎮總兵於夏秋潮大之際嚴飭該駐劄之都司官備等督率兵丁實力巡防按月查報其各本地商捕船隻所有在水手人等並務該地方官確切查明實係土著良民販具船戶連環保結方准充當有犯違船戶并究仍令海。營汛并寧河縣之虛臺巡檢天津縣之舊沽巡檢於出口時逐細詳查如有私藏貨物並失帶人口即行扣留送縣究辦各該處捕魚小船并令查明如確係土著民人即取具地鄰保結由縣發給牌以憑查驗如有更營漁丁及新造船隻俱隨時報明檢給新牌每年編審一次其沿海村莊無論戶。多少俱飭該府州縣查保甲以杜奸萌自此次明定章程之後該督將當嚴飭所屬認真查察實力奉行毋得日久生懈視為具文欽此

1698 道光十六年十一月初三日內閣奉

上諭琦善奏奉天守備臨差規避等語直隸天津鎮口  
董四營守備安萬邦經該督派赴宣化鎮統候差  
委行至中途捏報陸馬持傷折回本營實屬臨差  
規避安萬邦著即革職以爲規避差違者戒該部  
知道欽此

1699 道光十六年十一月初三日內閣奉

上諭琦善奏說明升任知府辦案拘執一摺已升甘  
肅西平道直隸正定府知府那斌著交部議處即  
回京聽候部議欽此

1700 道光十六年十一月初三日內閣奉

上諭前因直隸建昌縣民婦劉白氏以捕盜千總李  
明等挾嫌誣害刑斃二命等詞來京具控曾有旨  
交琦善提審茲據該督查明此案劉發等係非正  
盜該千總李明等報款去等以取盜斃二命該知  
縣奎英承審盜刑拒殺事主重案並不虛衷研鞠  
輒違例旨回武弁審訊致無辜受冤罔圖規避原

告劉白氏暨稱劉去等並非因病身死尤應澈底  
根究千總李明等既經革職建昌縣知縣奎英著  
一併革職交該督歸案嚴審確情分別定擬具奏  
該部知道欽此

1701 道光十六年十一月初三日內閣奉

上諭祥康等奏派員督獲隣境盜犯一摺此案盜犯  
劉美等在奉天昌圖廳一帶行劫潛匿吉林地方  
經該署將軍等派委領雙福阿凌阿吉林廳同  
知榮泰督獲究辦該委員等又獲隣境盜犯已及  
三名俱著交部照例議叙王榮泰另有誅防李鴻  
吳備野在逃擬刑一業功過本不相掩仍著該署  
將軍等查明有無獲犯照例辦理餘著刑部議奏  
欽此

1702 據刑部行調各款本婦親屬蓋志日支

免勾勾法成案四起聞單覆合均原單著呈  
御覽謹

奏

1703 道光十六年十一月初四日內閣奉

上諭宗人府奏現屆恭修

玉璽之年宗人府冊頁每次遞增數從前多至一倍  
請將在籍人員分別賞加議叙一摺現在前持簡  
信歷保一年復全書依限告成如果辦理妥速准  
其備照武業田該縣武等擇其尤為出力者酌量  
任委請旨賞給班次其列為一、二、三號人員分別  
步和數議母許冒濫欽此

1704 道光十六年十一月初四日內閣奉

上諭桂輪等奏獎勵

本陵寶城等工應修情形一摺著工部奏派大臣敬謹  
承修並著欽天監於明春擇吉奏明興工欽此

1705 道光十六年十一月初五日奉

旨長齡等奏司負祀觀書史廷不交出以賊脫逃所  
有類料庫印中覺匪博通阿等者先行交部議處  
其在逃之賚寓書史王六即王岐陽著步軍統領  
衙門順人所法城一體嚴拿務獲詳報當辦欽此

1706 道光十六年十一月初五日內閣奉

上諭桂良奏林貞調補委缺知縣一摺著照所請河  
南南陽縣知縣貞欽准其以徐城調補該部知道  
欽此

1707 道光十六年十一月初五日內閣奉

上諭容照奏新卸工程完竣並請殿屬派種樹株各  
員一摺工次勉力之已革郎中慶玉於寶華峪新  
卸工程自備資斧未及二年全行完竣尚屬奮勉  
著加恩賞給四品頂帶以

東陵內務府郎中補用員外郎魁光內副管領海原派  
種樹株於半月之內種至二千株之多尚屬勤能  
均著加恩賞加一級欽此

1708 道光十六年十一月初五日內閣奉

上諭載寬奏官考失火自請處分一摺載寬著免其  
察議所有延燒官房著照例賠修欽此

1709 道光十六年十一月初六日內閣奉

上諭阮在春傳

王德晉撰定親王奕劻晉親王仁壽為正德殿大學士  
長於習儀禮和內書吳椿禮部侍郎聯瑞內閣學  
士德什訥吳其濬為副學政欽此

1710 道光十六年十一月初六日內閣奉

上諭吏部尚書吳琨禮部尚書曹慶吳椿俱著加恩  
在禁禁城內騎馬欽此

1711 一品大員未親

賞馬名單

○吏部尚書奕劻高木引柱

○禮部尚書曹慶

○禮部尚書吳椿

理藩院尚書武忠額

都察院左都御史李宗坊

鑲白旗漢軍副統柱翰

1712 二品大員年屆六十以上未親

賞馬名單

刑部左侍郎劉彬士 年六十七歲

刑部右侍郎姚元之 年六十一歲

正黃旗蒙古副都統法克星阿 年五十五歲

正白旗蒙古副都統積欽保 年六十八歲

鑲白旗滿洲副都統普登額 年六十八歲

鑲白旗漢軍副都統孔慶安 年六十三歲

正紅旗滿洲副都統達哈布 年六十三歲

正紅旗蒙古副都統吉達阿 年六十三歲

鑲紅旗滿洲副都統中山 年六十歲

1713 道光十六年十一月初六日內閣奉

上諭宗人府府丞著七樹愛署理欽此

1714 現任三品京堂人員名單

左副都御史毛武節

李派祐

通政使司通政使舒承瀚

大理寺卿白錫

詹事府詹事毛樹棠

光祿寺卿王琦度  
太僕寺卿桂齡

1715 偏補三品京堂人員名單

韓文琦

趙致奎

劉重麟

以三四品京堂任職

1716 道光十六年十一月初六日奉

旨中城副指揮呂發祺訪獲隣境私造火藥各犯請  
捕尚屬勤能著以應升之缺升用其偏同擊獲之  
前任東城副指揮鄭培毅著交部議叙餘依議敘  
此

1717 道光十六年十一月初六日奉

旨欽大著交刑部歸案審訊欽此

1718 道光十六年十一月初七日內閣奉

上諭吳經等奏請將木植變價生息添給闕散學漢

烏捨一摺與京鳳凰城等內存山木植變價銀一  
萬八千餘兩者准其最高按月一分生息每年得  
銀二千二百餘兩作為在城各闕散學習烏捨公  
費該將軍等即督飭各佐領認真教習遇有烏甲  
缺出先儘挑補以示鼓勵並著吳類賢與俱照現  
在酌定章程妥為辦理毋得日久生弊以資標濟  
而成效該部知道欽此

1719 道光十六年十一月初七日內閣奉

上諭前據馮質魯奏廣西宣化縣知縣楊時行署  
任月餘竟敢命當父忌能趙威平東公確查具  
奏嗣據查明該員實無濫刑斃命情節可復據馮質  
勳將楊時行等犯各犯姓名奏白日月日開單呈覽  
至奏稱嚴廢查適因新任廣西巡撫梁章鉅奏京  
控見官將原摺清單交該撫帶往嚴密訪查務  
得確據據該撫奏稱檢查查業畢嚴對各犯訊  
抑日並無將奉宗相換消滅之弊其用以竹板管  
訊賊犯亦無杖以百計之事且各犯發病病改相  
疑自一二十日且數月不尋現經查明其人馮大

## 殊

坐領誘誘經時行折問等獲獲犯。稱伊姪現居京職，或全顧而該員仍照例責懲，遂無贖拘可認，不長獲案甚屬難得，著該撫察其才具，如果始終奮勉，送有應升之缺酌量保奏，以為州縣各官實能除暴安良者，勅部章報備經升任巡撫於交查之案，即能忘心體訪，據實奏聞，俟賢能之員不致屈抑甚為可喜，著加恩交部議敘，主官官風聞奏，當為國計民生起見，馮賢熱兩次陳奏，供云得自家書，並將首覽各札開具姓名，月日乃一吃差，語全不相符，且其所奏竟係朝臣，人無確之詳，意圖報復，似此紳士書後，決制地方官其風斷不可長，馮賢熱著交部嚴加議處，欽此。

1720 道光十六年十一月初七日奉

旨前據詢問經額等奏請以岳州府知府王蘭升署辰水沅靖雷理降旨准行，茲據吏部奏稱前任道常慶革職，應和至五月十五日作為開缺日期，該員王蘭如於五月十五日以前到任，則恩俸未滿五年之處，該督等業經聲明，如於五月十五日以

後到任，則該道出缺之時，該員尚未到岳州府本任，並無俸次可計，該督等摺內僅稱該員於本年五月到任，未將何日到任聲報等語，著詢問經額等即將岳州府知府王蘭俸於何日到任詳細查明具奏，再降諭旨，欽此。

1721 道光十六年十一月初七日內閣奉

上諭福泰奏試用知縣才不勝任，請改教職一摺，湖南試用知縣萬方倫才識均遠，難膺民社，惟該員傑舉人出身，准其以教職改用，回籍候選，該部知道，欽此。

1722 道光十六年十一月初七日奉

旨奉天署承德縣知縣嚴良佐領慶恩均著加恩改為降二級留任，其逸犯嚴成仍著勒限一年，期滿倘限滿無贖，即著照部議降二級，調用，欽此。

1723 道光十六年十一月初七日內閣奉

上諭本日據福泰奏特委肆于求之知府等官請

古革職提問呈據蔡錦泉奏官員違例于米據實陳明各一摺湖南水順府知府王鳴球於該學政蔡錦泉考試該府屬時先當投詞不知制藝結奸執于進見時以屬員為茂熟缺若為其門生張慶雲而適名條懇求取錄進補官張運陞李培球亦以當差甚苦同向該學政門投懇為代求各進武童一名考武鉅典執取拜黃于米賄大妄為實出情理之外該府王鳴球及署水順縣知縣馮茂熟永順縣典史張運陞桑植縣典史李培球著一併革職交該撫提回文童張慶雲並查明米進之各武童係何姓名拘解來省嚴行究辦不准贖項了事以儆官邪而肅吏治欽此

1724 道光十六年十一月初七日內閣奉

上諭色卜星額奏請將內地不宜之知縣對調一摺著照所請素仁定准其調補休寧縣知縣何遠五河縣知縣蔡自欽即以王景錫對調該部知道欽此

1725 道光十六年十一月初七日內閣奉

上諭祜泰奏省會書院院長三次期滿請吏部議敘

一摺湖南省會藏書書院院長原任浙江道監察御史歐陽厚內在院十有九年到滿請生始終不倦著吏部議敘仍留院列缺以示鼓勵欽此

1726 道光十六年十一月初七日內閣奉

上諭林則徐等奏請將遊擊同知撤任等語本年軍船回空陸續工急有足滿在所雖由風暴所致該管官實難辭咎准將河督遊擊陳三貴外兩處同知于隨缺候著即撤任留工候補其臨清臨河口備工程即著落該處縣繳不准開缺以示懲儆該部知道欽此

1727 軍機大臣 字寄

雲貴總督伊 雲南巡撫何 道光十六年十一月初八日奉

上諭據御史宋文祥奏雲南餉務每年正運四起由運負領銀辦船直送天津加運二起運負領銀辦船止到漢口更換船二十隻湖並安位貳一負彈歷回空及至江南更換船二十隻俗



名馬包子船此項船隻船丁頭工勾串各船招募匪徒沿途滋擾江南委試用位雜一員詳歷候委首得此以為差包庇匪徒任其詐或串同船丁向運員索賄銀兩是銅船水手擾害地方由於地棍之插入實由於協運委員之包庇若將加運改照正運一體由運員直辦船隻送至天津則諸弊可免且查漢口船船二十隻應領水腳銀一千餘兩江南船船二十隻應領各費銀四千餘兩又湖北委員幫費銀三百餘兩江南委員幫費銀一千餘兩並船船修造各項所費更銀加運一政則船船可裁煩費既可節省銅運自必迅速等語銅船水手沿途詐取地方之害不可不設法辦理番該督等體察情形將加運二起改照正運辦理之處是否可行確切查明據實具奏將此摺令知之欽此遵

旨寄信前來

1728

軍機大臣 字寄

貴州巡撫賀 道光十六年十一月初八日奉

上諭據御史袁文祥奏貴州省到配軍派人犯專為平民殲險埋葬誤犯等挾制平民肆意勒索不許表家在工埋葬輒於夜中行竊甚且掘土開棺剽取衣物以致有喪之家多以香火灶毀衣食等物然後入殮是以本年秋審情實內該省挖墳之案甚多等語各省軍派人犯一經到配該地方官自應妥為安置嚴加管束毋許滋生事端如該御史所奏挾制訛詐開棺棄屍殘忍已極不可不嚴加行擊究著該撫確切查明如果實有此事即嚴飭各府州縣出示明白曉諭嗣後民間挖墳之事一聽喪家自便不准軍派人等任意把持藉端勒索倘該犯等再有盜竊及發塚各案即行嚴懲務獲從重加等治罪毋許稍有玩愒以除兇暴而靖閭閻將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1729

道光十六年十一月初八日奉

旨這所奏山東著魚臺縣知縣章寶楨身犯犯懸戴登祭於監生王文考等家先後遭被賊匪搶劫捕

務實屬御苑者一併撤去頂帶擬任留於地方交該撫勒令協同復任照例限嚴懇懇務獲擒散仍前是託著即嚴恭懲辦欽此

1730 道光十六年十一月初八日內閣奉

上諭英薩奏請改製糧碾一摺山東青州濰州營存貯黃糧碾位濱放無準該部統請照原營成案改製糧碾著照所請其改製即由經管代辦解交該營備用所需工料著於藩庫籌備開款給發糧碾既為標防利器駐防濰州營自應備設著將所製糧碾二十四位留貯青州十六位分撥德州八位其應州碾兵即於該營為步甲餘兵內統充該副都統務當責成該城守尉編額等認真操演仍分月校往與營閱視校期精熟有年俾收實用此項由藩庫籌備開款夫用著免其報銷餘依議欽此

1731 道光十六年十一月初八日奉

旨北城文目理時著先行領去頂帶勒限備辦已等

六為司吏目述為時得獲降乘曾凱降馮其被印行嚴奏並著去軍既酒衙門順天府五城一體嚴核惟軍月務獲完結欽此

1732 軍機大臣 字寄

欽差烏魯木齊都統原 伊犁奏贊大臣奕 道光

十六年十一月初九日奉

上諭前據興德等奏壽昌到任遲延各款並劉允忠稟揭壽昌任意妄為各情暨壽昌鈔錄屯民原呈據情具奏各摺已降旨將壽昌劉允忠解任交廉敬吳山會同興德秉公查辦茲據興德等奏壽昌係性乖張不遵定制並收受餽送銀兩及主使屯民控告各緣由壽昌亦以興德等徇庇藉留摺報辭權欺公等情奏泰興德等與壽昌彼此各執一詞秉公查辦是非無難立判著廉敬吳山即將興德等所奏各摺片逐細詳查認真覈實辦理毋得稍事瞻徇少有偏倚以成信讞興德著毋庸會同查辦至壽昌另片奏請撥銀三萬兩之處著一併妥議具奏原摺片七件著鈔給閱看將此諭令

知之欽此

音寄信前來

1733 道光十六年十一月初九日內閣奉

上諭于晉陝甘總督楊遇春歡應中外實力

三朝從每幹念熟學通存春注本月四川總督鄂山來  
京陛見經朕詢問楊遇春在籍頭春安和精神體  
弱甚為欣慰朕特親書福壽二字並頒發內府人  
後十兩若鄂山帶回賞給楊遇春收領以進祿祥  
其子前任河南巡撫楊國慎因丁母憂在籍著於  
服闋後送即來京候朕簡用以示優待蓋臣有加  
無已至意欽此

1734 道光十六年十一月初九日奉

旨惠郡王綿翰等奏革帖式列款委控請旨革職懲  
辦武英殿筆帖式慶明以控進主事等語不公等  
情列款呈請經惠郡王綿翰等查明該筆帖式所  
控各款並無確據實屬不安未分著革去革帖式  
以為無故違刁者戒餘依議欽此

1735 道光十六年十一月初九日奉

旨此奏著交琦善親提人卷卷宗秉公嚴審律定  
擬具奏原告孔起生該部照例解往備質欽此

1736 道光十六年十一月初九日內閣奉

上諭前廷揆密奏派放磁位昨製一措據稱會同該  
石虎門故據前赴台臺履勘漢放磁位共水邊臨  
造八千斤大磁一位派行好製所有監製委員推  
升莊聲琬著廣文標標右營遊擊黃廷彪著文部  
議處仍飭實力督臣加工酌造以觀後效對廷相  
聞天時曾身不善均著交部議處餘著如所議  
辦理至此項磁位原為武備要需往容試演已生  
好製大要望其製備活方即此此次飭令臨造之  
後倘再演試無準或仍有作氣等情惟對廷相聞  
天時是所察之欽此

1737 道光十六年十一月初九日內閣奉

上諭林則徐等奏  
神祕重應請頒對聯一摺南河

靈佑觀及

風神廟益及風暴之時祈禱無不應特觀志聯並  
發去大藏者六姓文該署督并核領度奉

廟中祭禮祀謝用恭

神祝而肅觀勇欽此

1738 道光十六年十一月初九日內閣奉

上諭禮部奏請給字給子及傳述人犯一摺直隸  
高邑典童生宋殿元慶平府童生姜春泰在槍聲入  
場鄉題傳述經該學政查出應辦向屬認真惟向  
未學政考試遇有舞弄人犯俱係移苦該省地方  
官照例錄字無庸請旨辦理著禮部知道即將說出  
給予及傳述人犯姓名移苦並錄批督飭屬嚴守  
稽覈毋得舞弊以符定例欽此

1739 道光十六年十一月初九日內閣奉

上諭特依保等奏外夷恭順出力懇請賜卹事  
恩賜卹一摺都拉特鄂托克哈薩克白吉鄂達斯  
格木頭心內附恭順出力着加恩賞給二品頂翎  
以示鼓勵該衙門知道欽此

1740 道光十六年十一月初十日內閣奉  
上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠  
銀糧令各該將軍府尹督撫等查明開單具奏據  
著兩江總督林則徐等將安徽省各屬節年民欠  
銀米并宿州等四州縣衛借款攤徵未完銀兩開  
單呈覽當交戶部彙覆查核查明具奏安徽省民  
欠銀米多致款目較繁必須分年分款造冊報部  
方能覈定未完者數著該督撫趕督查造年款細  
數清冊送部彙再降諭旨至宿州等屬未完借款  
攤徵銀二十一萬四千三百四十九兩零著加恩  
全行豁免仍著該督撫查明各案年月到清借款  
并已未完數目及徵解存報撥彙減各數造具清  
冊連行題報彙銷該督等即刊刻謄黃通行曉  
諭并照例撥戶付給免單嚴禁吏胥影射需索等  
弊務期省息及民用副朕推恩布聞至意欽此

1741 道光十六年十一月初十日奉

旨特登顯著加恩改為降一級留任欽此

1742

查上年及本年各省辦理秋審刑部由復  
改實者共若干起現已片查該部候覆到時再  
詳細查明恭摺

諭旨謹

奏

1743 道光十六年十一月十一日內閣奉

上諭各省辦理秋審人犯經刑部由該改實者道  
光十五年分奉天四川各五起十六年分貴州七  
起陝西六起奉天安徽各五起秋獄大吏務宜庄  
衷研鞠詳審數定毋枉甘縱各得其平固不可有  
心刑數過於嚴厲尤不可感於救生不殺死之說  
故從輕減益生者付送法網則死者必致含冤所  
謂明允衡數者要在各該將軍府尹督撫及臬司  
等於秋審未能慎重詳覈致失出多案供者文部  
查明分別議處用示朕執法用中注意欽此

1744 道光十五年各省秋審由該改實

四川五起

奉天五起

道光十六年各省秋審由該改實

貴州七起

奉天五起

陝西六起

安徽五起

1745 道光十六年十一月十一日內閣奉

上諭琦善奏請動項修葺石壩一摺直隸萬全縣大  
境門外石壩為张家口城垣保障本年七月間山  
水漲溢致將該壩衝倒殘缺過甚據該督查明實  
係到不可緩之工自應趕緊修葺所有估需工料  
銀四萬二千五百三十四兩零著該督另款籌撥  
飭令該縣趕緊購齊料物一俟來歲春融即估修  
辦依於五月前先行修竣業經收仍責成該管  
知府杜來監修務登務使工堅料實免貲軍因倘  
有平準偷減即行揭實參賠仍照例造冊報部嚴  
飭河清在司庫地裡項下撥核之處者不准行  
欽此

欽此

1746 道光十六年十一月十一日內閣奉

上諭本日據吏部違旨將兩賢數嚴議具奏官為  
朝廷耳目所寄責任甚重凡所敷陳當為國計民  
生起見其有明醫商是切中時宜者雖必當加保  
勅士兒施行即或偶爾失實而所奏尚屬因公亦  
必由為寬恕改不違如違者擬於大小臣工責  
罰罪一重久公斷不得存成見即如本年高崑乃  
於其龍江應以通制之事擬用私意委託誰得軍  
吏改章捏造惡具奏而作為地方公事惟不自行  
協定徒奏請故縱紅書由嘴奏奉辦即屬有心干  
預是以於朕明後立予重懲不：特：寬：免：貸  
為賢數前任官當時違章叙官固有指陳而據錄  
秋：難：難：思：權：至：四：品：京：堂：宜：何：如：屏：除：私：念：力  
圖：振：防：以：慰：朕：用：人：奉：治：之：意：乃：違：其：一：片：私：心  
於：甚：宜：化：釋：知：難：堪：時：行：杜：責：爾：本：無：過：則：免  
命：情：事：體：統：人：無：獨：之：詞：而：以：晚：晚：清：奏：意：圖  
証：而：地方官德道其報後之封其居心實不可問  
此端一試在京大員藉端快利地方官必致事事  
掣肘吏治尚可問耶兩賢數著即照抄請革職以  
為拘糾志念者戒餘依議欽此

1747 道光十六年十一月十一日奉

旨額科庫印中博通阿員外郎壽晉各和司庫海慶  
德志俱秀照部議降二級調用不准敘銷其部中  
各領若管理三庫大臣徐晉署理並著各衙門迅  
速傳身保送即行帶領引見欽此

1748 且等查本日刑部議奏魏老等擬運鐵鋼下海

摺內有寬免失察各員處分等語前於九月二  
十二日直隸總督琦善附片奏請曾經奉有  
諭旨一道恭錄

呈

覽所有刊部一摺且等謹擬寫修議  
諭旨一道一併恭

呈

御覽伏候

欽定謹

奏

1749 道光十六年九月二十二日內閣奉

上諭據善泰請克克大察既送銅帳下海各員弁處

分等給此書說若等籍履婚為名違禁假運綱紙  
下海監偵員并等設法等獲辦理各違功最尚及  
相此所有各節。各地方文武以前失察展分保  
善如恩免死此

1750 道光十六年十一月十二日內閣奉

上諭陳慶奏查明被旱各廳縣懇請蠲做一摺江西  
省南昌等廳本年入伏以後雨澤稀少中晚二稻  
收成歉薄若將新舊被漕及原借各款照常徵輸  
民力實有未遑知恩著照所請所有被旱稍重之  
豐城進賢奉新建昌安義五縣被旱田地未完本  
年錢漕著緩至未年秋後分作兩年帶徵被旱稍  
輕之南昌新建武寧高安上高萬載清江新淦新  
喻峽江蓮花廬陵吉水奉新泰和萬安安福永新  
臨川金谿崇仁樂安東鄉南城都陽餘干樂平浮  
梁安仁德興萬年星子都昌等三十三廳縣本年  
帶徵同建昌縣帶徵安義縣等莊十五年被旱暨  
德化德安瑞昌湖口彭澤五縣十四年被水不成  
灾各鄉原緩民屯錢漕餘租俱著遵緩至十七十

八兩年帶徵又德化縣十四年被水成灾八分各  
鄉獨剩緩民屯錢漕餘租著遵緩至十七十八  
十九三年帶徵五豐城進賢建昌安義四縣十五  
年被旱南昌新建新淦新喻峽江廬陵吉水奉和  
萬安都陽餘十萬年星子都昌十四縣及建昌縣  
帶徵安義縣等莊十四年被水德化德安瑞昌湖  
口彭澤五縣十三年被水清江縣十四年被水成  
灾六分典不成灾各鄉原緩民屯錢漕餘租均著  
遵緩至十八十九兩年帶徵又清江縣十四年德  
化縣十二年被水成灾八分各鄉獨剩緩民  
屯錢漕餘租俱著遵緩至十八十九二十年帶  
徵又豐城進賢建昌三縣十四年被水南昌新建  
清江新淦峽江廬陵吉水奉和萬安都陽餘十萬  
年星子都昌十四縣十二年德化縣十一年被水  
德興民屯錢漕餘租俱著遵緩至十九二十年  
帶徵又安義德安瑞昌湖口彭澤五縣同建昌縣  
帶徵安義縣等莊十一年被水緩做一半民屯錢  
漕餘租俱著遵緩至十九年帶徵又豐城進賢建  
昌三縣十三年被水南昌新建二縣十二年被水

賑恤及未收水各都廳運糧十一年被水至于都  
署二縣十一年被水糧僅免稅清解德化縣  
十年被水糧僅修糧借運糧至二十二十一兩  
兩年帶微又郵傷信十萬年三縣十一年被水  
微一年銀米均著運糧至二十年帶微又進暫具十  
二年被水錢微整南署新建二縣十二年被水且  
進暫本被水各衙廳履十一年被水同建署縣十  
一年被水錢微稅清借運糧至二十二十  
兩年帶微甚進暫罪十二年被水各衙廳運糧十  
一年被水錢微債借運糧至二十二十  
兩年帶微甚進暫罪十二年被水各衙廳運糧十  
七年被水代海甚運糧至二十二十兩年帶微又各年  
被水各衙廳南署新建署或進暫工高東郵餘之於出借十  
五年至于德化縣安城署彭等五縣出借十年即傷萬年都署官署官  
五年於德化縣安城署彭等五縣出借十年即傷萬年都署官署官  
暨四縣出借十四年餘十萬年建署德化德安瑞  
昌六縣出借十三年至于都署湖口彭洋四縣出  
借十一年抄糧。糧價色米色米完銀報保著運  
糧至十八年秋後徵收又於十彭洋二縣出借十

三年至于都署二縣出借十二年南署新建署成  
進廣德化德安瑞昌七縣出借十一年抄糧口糧  
折色本色米完銀報保著運糧至十九年秋後徵收  
又至于縣出借十二年南署新建署成進賢四縣  
出借十二年抄糧折色本色米完銀報保著運糧  
至二十年秋後徵收又南署新建署成進賢四縣  
出借十三年抄糧口糧折色本色米完銀報保著  
運糧至二十一年秋後徵收又南署新建署成  
江都陽至于建署德化德安九縣十五年以前各  
原借修河米運糧兩俱著運糧至十七年起仍照  
各年原限按限度履一年徵收以好民力該撫即  
刊刻牌黃備行曉諭務期實惠均霑毋任文齊舞  
弊以刻取於公款區區竟該部知道欽此

1751 道光十六年十一月十二日內閣奉

上諭林則徐等奏查明各州縣虧缺未收數請分別  
緩徵一摺江蘇省江寧等州縣本年入秋以來  
雨水過多收成歉薄據該省督等查明懇請分別  
緩徵自係實在情形加恩著照所請所有江寧等



塞山陽阜寧清河桃源安東鹽城高郵泰州江都  
 甘肅寶應鉅山豐縣沛縣蕭縣碭山邵州舊遷豐  
 寧海州沐陽贛榆及淮安大河揚州徐州等二十  
 八州縣衛被賊田地應徵道光十六年地漕各款  
 銀米著緩至來年秋成後分作二年帶徵其應徵  
 丁百年上化新賦亦著緩至該年秋成後徵各  
 州縣衛旗學租公費關租湖河灘租油麻地租  
 屯田津貼增租雜稅河銀出借籽種口糧蘆葦牧  
 馬折升地畝復贖各費等項並抄茶入官地畝借  
 保民田之內俱著照坐落地方一律分別蠲解其  
 淮揚等屬減則田地亦著照業一律緩帶海州沐  
 陽二州縣水一堤湖則田地本年應徵錢糧著  
 准其一體緩徵又阜寧清河桃源宿遷海州沐陽  
 贛榆七州縣民折官辦漕糧著將歉田米支緩候  
 成熟之年再行採辦熟田米支分別辦理所有應  
 緩漕價各款著統行奏銷業內應款登報其各屬  
 舊欠廢糧除已豁免外所有江淮等屬應徵道光  
 十一十二十三十四十五等年欠熟錢糧著將坐  
 落數區者緩至來年秋成分別豁免又蘇州藩司

所屬之長洲元和吳縣吳江震澤常熟文苑山  
 新陽阜寧寶應清河浦江陰宜興丹徒丹  
 陽金壇洋州蘇州太倉縣海州二十二州縣衛  
 著准其將十七年秋後應徵銀錢十一萬舊欠地  
 漕銀米錢五十七萬秋後應徵銀錢二十三十四  
 等年舊欠地漕產課等款無論完熟以及應  
 緩徵輸又無錫縣未完十四年熟田漕項著歸於  
 舊欠分徵業內同十四年地丁以次緩至十九年  
 秋後應徵又長洲吳縣常熟文苑山新陽蘇州  
 等縣並蘇州太倉二衛應徵十五年完錢和限銀  
 米亦著緩至十七年秋後應徵其十五年完限銀  
 米著展至十八年秋後帶徵以紓民力該藩司著  
 即將刻跡黃編行曉諭務期完息及民無任是年  
 舟隻用刻刻於倉數區至意該部知道欽此

1752 道光十六年十一月十二日內閣奉

上諭吳縣等奏道奇老勒厥京

陵寢應修各工一摺著工部及例奏派大臣嚴謹承修  
 其

永懷東配殿應處所明度方向不宜著款天監作於今

冬選擇吉期表明後文該將軍先行揚勳敷處隨  
同各工明載一併辦理欽此

1753 道光十六年十一月十二日內閣奉

諭江蘇江寧府知府員缺緊要著該督撫於通省  
知府內揀員調補所遺員缺著從速補授欽此

1754 道光十六年十一月十二日內閣奉

諭林則徐奏請將負債之知府先行開缺一摺江  
蘇江寧府知府善慶現因京欠欠債一疊經該督  
督等審訊辦理自應儘先覓員善慶著先行開缺  
交仰副按同全案人證東公審訊按律定擬具奏  
欽此

1755 道光十六年十一月十二日內閣奉

上諭林則徐奏知縣例應迎迓請揀員對調一摺江  
西吉水縣知縣李彭齡係藩司李恩輝胞姪例應  
迎迓著准其調補江蘇金匱縣知縣所遺吉水縣  
知縣員缺即以胡兆榮對調該部知道欽此

1756 道光十六年十一月十三日內閣奉

上諭御史富隆奏請查控違浮言一摺國家設  
立科道等官廣開言路原期與利弊舉措必應於  
乎國計民生兩有裨益數年來科道中每有陳奏  
朕無不虛衷採納其建言得體有裨政治者或如  
是外權或節升京師其或事涉煩屑指陳無益亦  
不予以嚴譴所以獎勵激勸俾令知無不言無  
不盡乃近來妄肆譏彈捕風捉影甚且誣捏誣陷  
報復逞私恣復成何事體經朕將該員等分別懲  
處實朕萬不得已之苦心在廷臣上有言事之責  
者宜如何仰體朕心竭共歡納勉到朕敢致求治  
之意若如該御史所奏言官奏事應究問風之所  
自起聞之所由來是使違言妄入心存畏葸瞻顧  
不前以至民生疾苦吏治廢弛志墮上聞豈不予  
朝廷設立言官之意與朕違德明日之心大相背  
謬耶所奏著無庸議欽此

1757 道光十六年十一月十三日奉

旨喬四揚七郎大喬二喬八喬老桂郎喬慶桂妻二

小楊才兄舊六顧大寅大同二錢三李大張文柱  
俱著交刑部審訊在逃之徐老旺白狗子著步軍  
統領衙門順天府五城一體嚴拿務獲歸案究辦  
欽此

1758 道光十六年十一月十三日內閣奉

上諭納爾經額奏查閱營伍志勳葉庸貢升一摺湖  
北竹山協中軍都司熙圖清年老技庸鄧陽鎮左  
營分防上倉守備傅必貴年力近來弓馬較熟俱  
著勒令休致鄧陽鎮右營守備姚明弓馬平常著  
即斥革著鄧陽中營守備右營雲尉尉駱全德才  
吳平庸著鄧陽鎮左營守備竹山協雲尉尉尉尉  
鄧陽鎮右營雲尉尉吳沈第弓馬較熟俱著年久  
隨營仍留世職提標中軍參將孫洪洪辦理營務  
多未中肯雅實未平著即撤任留於該標遇有相  
需缺出由該督察看另行請補其提標右營雲尉  
尉李福西一員據該督奏稱人材弓馬俱屬平常  
請革去世職另行提撥之家向例世職人員非情  
節嚴重之故革不革世職該督是否另有著蹟抑

祇他子馬年常著初爾經額查明奏再降諭旨  
餘依議該部知道欽此

1759 道光十六年十一月十三日內閣奉

上諭納爾經額等奏請將孫令撤任蔣希的補等語  
湖北襄陽縣知縣任東鈞辦事疎懈補亦不得  
力著即撤任並將卓吳註銷交該督等隨時察看  
俟有相當缺出再行酌量請補該部知道欽此

1760 道光十六年十一月十三日內閣奉

上諭福建提督馬濟勝由行伍出身出川陝等處  
懋著勞績任職提督前日臺灣逆匪  
事帶兵渡臺奉旨迅速登陸應旌方賞倫任茲聞  
溫逆蹂躪於惜著加恩晉贈太子太保銜朕提督  
例賜卹任內一切虛分恩予開復其子四人服闋  
後著該部帶領引見朕朕施恩其靈柩回籍著由  
該地方官妥為照料並賞銀五百兩著山東巡撫  
在於藩庫內撥給伊子祇領治喪所有應得卹典  
著該衙門察例具奏欽此

1761 道光十六年十一月十三日內閣奉  
上諭福建提督著擢金拿補授欽此

1762 道光十六年十一月十三日內閣奉

上諭河南河北鎮總兵員缺著趙其積補授欽此

1763 軍機大臣 字寄

欽差尚書朱 道光十六年十一月十五日奉

上諭前據善英奏平湖縣海塘連年衝壞撥項花木  
並新修石塘間有坍塌懇請趕緊修築當有旨諭  
令烏爾恭額確切查明據實覆奏茲據該撫奏稱  
平湖境內塘工偶被風潮衝卸向由該縣督自行捐  
辦並無歲修銀兩上年六七月間石土各塘被潮  
衝損已據該前縣鄭錫榮稟報會修尚未報竣現  
據該管道負勘明理砌各工並無坍塌本年花禾  
亦未淤傷該縣並非匿報訊據具呈生者顧菊廷  
王天奇等回稱今年潮水溫入係由塘河分派花  
禾實未受傷前呈係得自傳聞並非目見其新修  
坍塌處所令其指出該生等稟屬茫然稱無其

事並稱兩次具呈奉無此說該撫詳奏呈底實無  
理砌石塘倒塌字樣等語浙江海塘原為保障民  
田而設遇有坍塌自應乘時趕緊築備該地方官不  
肯據實詳報玩視民瘼吳此為甚至新修海塘甫  
經完工尤不應即有坍塌何以善英原奏內稱接  
據呈詞兩次親詣履勘沿海居民被災情形眼見  
屬實而該撫則稱近塘地內麥苗勃發並無漏跡  
沙痕呈該生等藉端誣報若非目覩情形何敢  
妄行呈訴何以一經傳訊輒以得自傳聞飾詞狡  
卸其新工坍塌既不能確指其處且稱並無其事  
又稱前赴該地及別院街門具呈時並無此說迨  
將呈底送覈亦無理砌石塘倒塌字樣是善英所  
奏不特與該撫現查情形迥不相符即與該生者  
等現供情節亦多互異之虞著朱士彥于查辦廣  
東事竣後馳赴浙江親詣平湖縣境內將善英指  
內所指各情秉公確查是否屬實並查明烏爾恭  
額履奏內稱各節有無詳飾情弊務當悉心體訪  
破除情面虛則虛實則實詳細具奏毋得藉有含  
混以副委任善英烏爾恭額原摺俱著鈔給閱

看將此諭令知之欽此遵

寄信前來

1764 道光十六年十一月十五日內閣奉

上諭每年冬間直解到旗租銀兩分賞八旗兵丁一月錢糧現在此項銀兩尚未解到但念該兵丁等在茲冬令生計孔殷著加恩在子卯年即年存貯旗租銀兩項下先行動撥借賞八旗兵丁一月錢糧俟直隸將本年旗租銀兩解齊再行歸款用示朕軫念旗人思膏遂沛至意該部即遵諭行欽此

1765 道光十六年十一月十五日內閣奉

上諭鍾祥等奏臺灣委缺如無請分別遺補對調一摺著照所請暫准其補授鳳山縣知縣其魏瀛一員著即撤回察看酌量另補苑學世著准其調補莒縣知縣所遺浦城縣知縣員缺即以熊飛對調無飛者仍照例送部引見該部知道欽此

1766 道光十六年十一月十五日內閣奉

上諭中政暨奏恭摺

御製人臣儆心錄

欽定刑部州縣規條頒布通省官員一摺所見甚是州縣為親民之官果能各盡其職則天下自無不治庸是職者宜何如精白乃心勤求民事以副朕愛養元元之意若如該撫所奏州縣強任之始不問地方之利病先問缺分之肥瘠凡庸人而不敷存諸語察者今則直言請大庭廣眾之中而無作容一切公事委之幕友任之書役以故營私作偽徇利曠官積習相沿恬不為怪夫吏治之廢弛全在該管各大員設法化導多方振作使知昏愷思勉自可力挽頹風該撫刊刻書函俾各該州縣實力講求滌除痼習洵為正本清源之論著照所奏辦理因思督省吏治如此各直省想亦不免所有雍正八年

欽定刑部州縣規條一書其中條列州縣事宜尤為收令法守著各該督撫即遵照原書敬謹刊刻頒發所屬各該州縣俾得細心完習實力奉行有所據依以為準則俾有陽奉陰違不恪者即著該督撫據實參劾毋得藉事姑容務使民咸樂業比戶可

封大法小廉吏治蓋日上服實有厚望焉特此  
通諭知之欽此

1767 道光十六年十一月十五日內閣奉

上諭中政賢奏城垣捐修完竣請獎勵出力人員一  
摺山西太原所城歷年久塌卸竣該省官商捐修  
完竣所有經理監修及承辦勸估各員現據該撫  
查明均係認真經理自應量予恩施著照所請前  
任保德州告病直隸州知州林樹雲現任解州直  
隸州知州徐慶生忻州直隸州知州李培謙翼城縣  
知縣吳元慶前在山西試用通判改捐知縣楊國  
榮均著准其交部議叙此項工程係官商捐辦著  
免其報銷該部知道欽此

1768 道光十六年十一月十五日內閣奉

上諭中政賢奏查閱省城營伍一摺山西太原營恭  
將侍陞前因該營兵丁技藝未能練習有旨降為  
四品頂帶勒限一年認真訓練茲據該撫報稱該  
營兵丁技藝較有起色該恭將自被恭復而知愧

奮得陞著賞還三品頂帶餘著照所議辦理該部  
知道欽此

1769 軍機大臣 字寄

伊犁奏請大臣奕 道光十六年十一月十六

日奉

上諭本日據與德等由四百里馳奏色呼庫勒地方  
被賊滋擾一摺據稱十月初三日浩罕列什格爾  
胡什伯克帶領賊人到色呼庫勒地方將城垣用  
礮打開阿奇木伯克庫爾察克率眾抵禦互有殺  
傷庫爾察克帶傷被擒其餘伯克被傷身死逃亡  
者尚復不少伊什罕伯克邁熱木等家眷均被擄  
去大約賊有二千餘人現著防禦等語浩罕夷人  
大半性戾貪黷無厭現在胡什伯克既將色呼庫  
勒地方占據難保不由後邊卡群行滋擾計慮敬  
到彼尚需時日奕山接奉此旨著即迅速馳赴葉  
爾羌並與特依順係妥商于領隊大臣內酌派二三  
員隨同前往將與德等摺內所稱各情節詳細確  
查先行知照喀什噶爾辦事領隊大臣等將胡什

伯克差來之阿市都爾滿等六人嚴行看守毋許  
故令出卡務當體察現在情形倘該夷人等膽敢  
肆意擾亂勢須調兵該大臣即一面調派官兵一  
面據實奏聞並嚴諭各城一體防範如該夷人等  
違卡滋事自當實力剿捕惟不准擅行出卡致開  
邊釁並著該大臣馳抵葉爾羌復即書寫諭帖曉  
諭浩罕伯克以該伯克素稱恭順並准約束卡外  
夷人具賂安靜是以大皇帝加恩准予通商並免  
納稅色呀庫勒係屬天朝地方今聞胡行伯克帶  
領多人在彼滋事擾亂不特是以屬下之人敢於  
擾我邊陲妄行抗拒該伯克深受天朝浩蕩之恩  
務即查明此次違卡滋事之人自行懲辦並嚴諭  
所屬嗣後務當各守藩籬永遠約束倘再擅  
入邊界致生事端恐大皇帝聞之天威震怒地  
其罪易不准通商是該伯克不能承受天恩自詭  
伊威也如此刻切宜諭該伯克果能悔罪輸誠自  
可不煩兵力倘竟執迷不悟該大臣即行通盤  
籌畫將應如何辦理之處據實具奏固不可示之  
以弱亦不可遇事張皇是為至要至前文彙釋

各件著依原數列葉爾羌時再行營商辦理與德  
等原摺著鈔給閱看將此由五百里諭令知之欽  
此遵

旨寄信前來

1770 軍機大臣 字寄

葉爾羌參贊大臣興 道光十六年十一月十

六日奉

上諭據興德奏現因色姆庫勒地方被賊滋擾派人  
出卡偵探俟探有確信再行前赴喀什噶爾會辦  
福奎虧短庫項一案等語此案前已有旨令福  
奕山馳往查辦興德毋庸會同辦理該大臣認係  
未經奉到前旨故有此奏興德著不必前往喀什  
噶爾即在葉爾羌鎮靜防守差派員弁嚴巡各卡  
倫並行知各城一體防範仍令阿奇木伯克伊斯  
瑪依爾揀派妥靠伯克分投出卡偵探一有確信  
即行據實奏聞將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1771 軍機大臣 字寄

閩浙總督鍾 道光十六年十一月十六日奉  
上諭有人奏福建延建郡道祥蓋於本年五六七月  
在省巡遊該道以恙將就醫為名傳聞實係藥  
恙惡症在省醫治中秋前始行回署等語如果  
屬實監司大員擅離職守至於三月之久何以未  
率屬實且其所恙之症若果由於神邪傳染更屬  
有玷官箴著體祥嚴查核據實具奏毋得稍有  
諱飾特此諭令知之欽此遵

音寄信前來

1772 道光十六年十一月十六日內閣奉

上諭中福奏請留年滿章京一摺烏魯木齊都統銜  
門印房章京著薩保現屆七年期滿該章京行走  
年久辦理事務尚無貽誤著准其再留三年以資  
熟手即以留解年分抵免分部學習年限果能始  
終奮勉屆期再行出具考語送部引見該部知道  
欽此

1773 道光十六年十一月十六日內閣奉

上諭賀長齡奏請調補要缺知州一摺著照所請貴  
州黃平州知州員缺准其以黃培杰調補該部知  
道欽此

1774 軍機大臣 字寄

陝甘總督瑚 道光十六年十一月十七日奉  
上諭本日據湯金釗奏調補喀什噶爾換防兵任  
責邦行抵陝西省患病甚損非數日所能痊愈現  
在調理等語著瑚以額察省情形如任責邦已做  
就任即飭令肥輝前往或一時未能就痊及病痊  
後精神不能照常該督即一面奏聞一面派實德  
純驛前往更換方不致懸缺待人有曠職守特此  
諭令知之欽此遵

音寄信前來

1775 道光十六年十一月十七日內閣奉

上諭湯金釗奏北山被雹被霜各屬懇恩蠲剩一摺  
本年陝西省榆林府屬之葭州等五州縣秋禾被



寬被需業經降旨賑卹後微前據該署強查明各屬地處北山素乏蓋藏民力未克指撥除荊州及榆林被電戶口無庸細計外加恩著無所請所有南谷縣被電戶口准其再行加賑一月口糧折色銀五百三十五兩零被電戶口榆林縣借給折色口糧銀四千五百兩府本縣借給折色口糧銀一千兩神木懷遠二縣各借給折色口糧銀二千兩以紓民力此項銀兩即由該司庫如支俟未年秋後仍以折色做運解司報撥該署換印刊刻磨黃通行履驗仍督飭各屬妥為散放務期濟處無民毋任吏胥舞弊用副朕軫念賑區至意該部知道欽此

1776 道光十六年十一月十七日內閣奉

上諭詢問經領等奏請將勒不成災之州縣分別展緩銀米一摺湖北省黃陂等州縣頻年災歉本年復被水淹若將新舊銀米照常徵輸民力實有未逮據該督等奏請分別展緩著准其將被淹較重之京山縣英嘉等三十六圍江陵縣永豐等一百

三皖公安縣市一等十四里石首縣毛老等六皖松滋縣下八等四都皖荆門州馬上三等八圍應徵本年民屯錢糧漕南二米從費等項緩至十七年秋復限一年帶徵所有被淹各區應徵十五年緩帶銀米從費並著速展至十八年秋復限一年帶徵其被淹較輕之黃陂縣石圍等二十一圍會京山縣丁謝等十六圍江陵縣馬長等三十三皖石首縣黃陵等八皖荆門州馬上一等五十一圍除本年新賦銀米從費等項照常徵收外著將應徵十五年緩帶銀米從費展至十七年秋復限一年帶徵至黃陂京山江陵公安石首松滋荆門等七州縣未充道光十一年至十四年緩徵銀米各項著俟十五年緩徵銀米帶徵清楚從後按最先年分逐年帶徵一年其各衙被淹單田應徵新舊錢漕均著照例免坐州縣一律分別展緩該督等即刊刻磨黃通行曉諭務令實惠及民毋任吏胥舞弊用副朕軫念賑區至意該部知道欽此

1777 道光十六年十一月十七日內閣奉

上諭鐵麟等奏經紀續有長天銀兩著落該款廳員

分賠並請將經紀應賠之項展限扣還一摺生種  
虧經紀承辦通壩運務每年所領腳價銀兩屆有  
長支據該侍郎等查明道光十二年奉准八年勻  
扣之案尚有四年未會扣完亟復續有長支年復  
一年何所底止所有十四十六兩年長支銀二萬  
三千二百九十餘兩著查照成案抵任著賠應員  
分賠四成經紀賠交六成以示懲儆其經紀應賠  
銀一萬三千九百餘兩准於前案扣完後展限二  
年仍於應領腳價內勻扣清款該部知道單併發  
欽此

1778 道光十六年十一月十七日內閣奉

上諭仰文興樂之奏請勸明准舉行並引地並設卡  
巡查以杜私銷一摺著陶澍酌量核會同詳查妥  
議具奏摺併發欽此

1779 道光十六年十一月十七日奉

旨王三趙二印宗祿馬四印馬俊陳四阮寬周良朱  
文魁王二印王大周王二等俱著交刑部嚴訊究

辦甲城副指揮呂榮模將說這假示及寬出夥詐  
各犯全行拿獲著刑部於定案時聲明請旨欽此

1780 道光十六年十一月十七日內閣奉

上諭湯金釗奏據調要缺直隸州知州一摺著照所  
請陝西乾州直隸州知州員缺准其以李希晉調  
補照例送部引見該部知道欽此

1781 道光十六年十一月十七日內閣奉

上諭湯金釗奏揀員升補要缺同知一摺著照所請  
陝西寧夏廳同知員缺准其以俞達辰升補該員  
應俟已滿十年著照例併案送部引見該部知道  
欽此

1782 道光十六年十一月十七日內閣奉

上諭湯金釗奏知縣被控故入詐贓請旨革職一摺  
陝西前署延川縣事候補知縣許士彥於楊麟進  
証人凌通重罪既已究出不即按制辦理聽聽其  
認修城樓取結保釋難保非詐索情弊許士彥著

即革職交該署撫提同應訊人證來公審辦毋任  
狡展欽此

1783 道光十六年十一月十七日內閣奉

上諭哈豐阿等奏請借款添設護兵馬匹一摺黑龍  
江兵丁向未設立馬匹茲據該將軍等查明黑龍  
江分駐八旗遇有調遣皆以馬隊取購請借銀兩  
立馬匹著照所請准其在於本年扣還積欠糧銀  
內動支銀一萬六千兩分撥齊齊哈爾黑龍江墨  
爾根呼蘭布特哈五處查明無馬兵丁每名借給  
銀八兩自行置備馬匹官驗烙印責令各旗佐領  
實力稽查此項借銀齊齊哈爾等四處分限四年  
布特哈分限八年按季扣還以清款項仍著每年  
造冊咨部查覈至此項銀兩何處分撥若干何處  
添設馬匹若干著該將軍等分晰妥議具奏欽此

1784 道光十六年十一月十八日內閣奉

上諭御史王藻奏請嚴禁渡口訛詐並沿途卡汛紀  
具巡緝一摺各省衙署渡口每屆冬令水涸之用

非照常擺渡即搭蓋浮橋並派河夫常川應役所  
以便騎進而利行人若如該御史所奏地方官各  
以渡口為項屑漫不經心夫役盤踞几車輛載  
運輒訛錢並有子河渡處所暗掘深坑逼令傾陷  
不行乘機訛詐且山東德州河汛歷年俱搭浮橋  
迨因領運不敷所用該州遂停止搭橋逾年擺渡  
任令夫役訛詐不休又蕪臺縣運並河係登萊青  
三角往來孔道兩岸擺渡數地處勒索更多似此  
擾害行旅肆無忌憚以應嚴行查禁山東如此地  
方應亦不克著各直省督撫嚴飭該地方官於所  
屬渡口認真稽查如有夫役任意訛詐即行懲辦  
以儆刁風至沿途盤汛卡房原為盤詰刑究護送  
行旅而設若直省督撫責成地方文武各官實力  
整頓房間隨時修葺夫役較選精壯加意巡防以  
弭盜賊而安行旅倘日久視為具文以致有名無  
實者即嚴奉懲辦將此通諭知之欽此

1785 道光十六年十一月十八日內閣奉

上諭榮毓美等奏勘估運河挑淺工程一摺山東省

運河例於南糧回空透竣後估辦冬批茲據該河督等查明昭清等各汛淤淺情形亟應分別批飭以利新漕著照所請所有上補運河四廳塘長各河共批估工三百十二段共長四萬八百八十五丈除兵沙開泉額夫外按例加添募夫趕挑道計估需制津二價銀四萬八千五百四十四兩零內例價器具銀二萬一千四百零准其照例在于庫三項內如數動撥其津貼銀二萬八千四百三十三兩零除沛沅津貼應由江南支領外實支津貼銀二萬六千九百餘兩准其動支東商生息銀兩一併發交沿河各州縣衙置備器具募夫趕挑並責成運河道督同各該廳管局水黃梅以杜弊混該河督仍隨時親往查驗如有草率偷減不能依限完竣一律深通即著指名嚴奏該部知道單併發欽此

1786 道光十六年十一月十八日奉

旨此票著文廷良親提人登卷宗未公展著按律定擬具奏原卷奉人白是相該部照例辦理備質欽此

1787 軍機大臣 密寄

協辦大學士直隸總督琦 道光十六年十一月十九日奉

上諭本日據烏爾恭額奏浙江提督戴維因病出缺朕意將正定鎮總兵唐倬升補提督惟念直隸為畿輔重地全在提鎮得人方足以肅營務而重撫防且直隸地方尤關緊要唐倬用說勝何人最為得力如以周悅勝調補他省唐倬於直隸能否獨當一面著琦善悉心體察於該二員內擇其尤為得力者酌留一人該督接奉此旨務即詳慎查明迅速具奏特此諭令知之欽此遵旨寄信前來

1788 軍機大臣 密寄

協辦大學士直隸總督琦 道光十六年十一月十九日奉

上諭本日據烏爾恭額奏浙江提督戴維因病出缺該省提督統轄全省水陸營伍責任綦重朕意將正定鎮總兵唐倬升補是缺惟念直隸為畿輔

宜地全在提鎮得人方足以肅營務而重接防扈  
俾於浙江提督是否相宜直隸地方尤關緊要唐  
唐傳於直隸能否獨當一面著琦善悉心體察於  
該二員內擇其尤為得力者酌留一人該督核奉  
此旨務即詳慎查明迅速具奏將此諭令知之欽  
此遵

旨寄信前來

1789 軍機大臣 字寄

清運總督兩江湖廣江蘇安徽江西浙江湖北  
湖南各督撫 道光十六年十一月十九日奉

上諭有人奏查拿糧船滋事水手宜先清其巢穴其  
巢穴所在水次則有煙壺供奉神牌設立老官師  
傳之住在幫中則緣漕船為煙壺號召徒眾又有  
丐頭老安幫滿安幫者竊占幫船視同己業並有  
丐頭泰子船者其允換典老安滿安無異沿道則  
多於濱河曠僻處所開設茶酒等鋪約集匪徒寄  
存贓物等語此等匪徒聚眾誦祖害公私自屬

掃除巢穴以淨根株著漕運總督及有漕各省督  
撫即將摺內所指各情詳確切查明如何辦理之  
處妥議具奏原摺著鈔給閱看將此各諭令知之  
欽此遵

旨寄信前來

1790 軍機大臣 字寄

清運總督兩江湖廣江蘇安徽江西浙江湖北  
湖南各督撫 道光十六年十一月十九日奉

上諭有人奏查拿糧船滋事水手宜先清其巢穴其  
巢穴所在水次則有煙壺供奉神牌設立老官師  
傳之住在幫中則緣漕船為煙壺號召徒眾又有  
丐頭老安幫滿安幫者竊占幫船視同己業並有  
丐頭泰子船者其允換典老安滿安無異沿道則  
多於濱河曠僻處所開設茶酒等鋪約集匪徒寄  
存贓物等語此等匪徒聚眾誦祖害公私自屬  
掃除巢穴以淨根株著漕運總督及有漕各省督  
撫即將摺內所指各情詳確切查明如何辦理之  
處妥議具奏原摺著鈔給閱看將此各諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

1791 道光十六年十一月十九日內閣奉

上諭寶興奏請將遊差確命札飭湖遊之遊捕等職等  
等一摺四川分駐中江縣詳于店巡捕黃慶曾  
邀着等情該縣多命已屬有干功令及奉批擬任  
惟據此病潛遊獲命者又楊華結尤屬任性委為  
黃慶曾等即等職務是否潛回江蘇原籍抑赴  
福建伊子等項並夫使董現望密折着江蘇福建  
及經遠海巡湖北等省各巡檢務屬一體查拿務  
獲委員押赴四川歸案嚴訊審欽此

1792 道光十六年十一月十九日內閣奉

上諭文親王奕紹昨因患病請假但漢安心調  
理不必限以時日俟全愈後再行銷假雷差所有  
宗人府宗令著情親王絳性暫行著理欽此

1793 道光十六年十一月十九日內閣奉

上諭惠吉著調補臧玄刑部侍郎文蔚著調補臧宗  
兵部侍郎文蔚未到任以前仍著惠吉兼署欽此

1794 道光十六年十一月十九日內閣奉

上諭浙江提督戴維由行伍出身出兵無常及歷受  
雲豹等處總考勞績頗優擬任浙江提督方寶倫  
任在閩遠遊想堪於得著加恩照提督例賜卹任  
內一切恭公志于開復所有應得卹典該衙門察  
例具奏欽此

1795 道光十六年十一月二十日內閣奉

上諭瑞善奏律員調補要缺知州一摺著照所請立  
據開州知州員缺准其以照先例調補該部知道  
欽此

1796 道光十六年十一月二十日奉

旨這所奏已革寧津縣知縣楊士昕虧短庫項至七  
千七百餘兩之多著即行革職交該督核同經書

人等展完確情按律定擬具奏所有該革員等所  
蓄財產原籍家產著一併查封備抵欽此

1797 道光十六年十一月二十日內閣奉

上諭中書賢奏請借給兵丁倉穀一摺山西省大同  
鎮屬之新平路兵丁駐劄地方毗連災區收成歉  
著據該撫查明糧價增長買食雜糧知悉著原形  
請各就新平路兵丁駐劄之所在於天鎮陽高二  
縣常平倉內每名借穀一石五斗所借穀石今冬  
先給一半明春再給一半俾資接濟仍俟來年秋後糧  
價平減飭令按照各縣方價在於原借兵丁八九  
十三個月應領銀兩扣價交縣撥還倉該部知  
道欽此

1798 道光十六年十一月二十日內閣奉

上諭中書賢奏揀員調補要缺同知一摺著照所請  
山西澤州府同知員缺准其以周晉凱調補仍于  
卓英案內照例送部引見該部知道欽此

1799 道光十六年十一月二十日內閣奉

上諭薩迪何等奏請遴員調補要缺知縣一摺著照  
所請奉天海城縣知縣准其以強上林調補所遺  
益平縣知縣員缺即以毛鳳儀補授該部知道欽  
此

1800 道光十六年十一月二十一日內閣奉

上諭定親王奕劻秉性端醇持躬謹飭自幼仰承

高宗純皇帝

恩眷迥異

皇考仁宗睿皇帝親政以采魯蒙

簡并由公爵考封貝勒管理各衙門揀管事務據為前

大目領侍衛內大臣朕仰柱以復特命仍襲親王

授為宗人府宗令僕能盡心職守恐者賢登作因

感旨請假特命安心調理不必限時以時日方莫

勉日就痊用資倚任茲聞遼遠震懼實深除已賞

給陀羅經被並煙壺暖手各件外著沐忠弼王韓

愉等領侍衛十員即日前在奠醊殿於二十二日

親臨賜奠並著於例賞外賞給廣儲司銀五千兩

殊

經理喪事所有任內處分悉予開復其餘銜典  
禮著各該衙門察例具奏伊子載齡百日孝滿復  
著加恩承襲郡王以示篤念宗親有加無已之至  
意欽此

1801 道光十六年十一月二十一日內閣奉  
上諭吉人爾古今番信託王輝佳補授欽此

1802 道光十六年十一月二十一日內閣奉

上諭工部尚書著朕親補授都察院左都御史著武  
志超補理著成高著著吳允補授文慶著特補  
戶部右侍郎著管欽法堂事務全照著補授工部  
右侍郎著管欽法堂事務欽此

1803 道光十六年十一月二十日內閣奉  
上諭戶部三庫事務著非彭何著理欽此

1804 道光十六年十一月二十一日內閣奉

上諭御史恭摺奏籌辦裕國足民事宜一摺著大  
學士軍機大臣會同該衙門嚴議具奏欽此

1805 道光十六年十一月二十一日奉  
旨塔克興阿福祥俱著交刑部審訊欽此

1806 道光十六年十一月二十一日內閣奉

上諭林則徐等奏請蘇州蘇州府給換丁洋錢以市  
價一摺洋錢行用內地勢難驟禁要當於便民之  
中予以限制其價值懸以故銀為準庶市價不得  
愈行據該督著督撫等查明江蘇省近年洋錢價  
昂皆因舖戶計析鉛銀往往於種船受允之前先  
將洋價提高以因州縣及亞幫船開行之日又將  
銀價提高以因旗丁驟轉低昂以致縣幫交易浩  
務愈難辦理欲規中飽之局奇必先於辦洋禁用  
洋錢方可以迴護習現在新漕受兌期於重還  
開所有縣幫文涉一切費用著概禁新給洋錢即  
照該督督所奏向需洋錢一摺者以故銀七錢  
三五分數實給發庶市價無高估之價懸幫無爭  
較難之煩而漕行亦得迅速是在該督等務屬妥  
辦辦務使行無窒碍方為盡善欽此



1807 道光十六年十一月二十一日奉

旨這所奏虧缺錢糧兵米之山東撤任知縣善世前在利津縣任內虧缺正款銀七千七百十餘兩雜款倉糧兵米一千八十二石有餘著革職等因欽此該撫提同經手書吏人等查明報倉等款虧缺若干一併嚴訊按律懲辦該革員任所高所首罰暨該撫籍家及戶何查列備報該部知道欽此

1808 道光十六年十一月二十二日內閣奉

上諭本年入冬以來京畿尚未進神祥雲殊深殷盼著遙遙光明殿進象在

大高殿設壇虔誠祈禱於本月二十四日開壇朕親詣拈香著派全齡載垣奕和景煇文輝成善額勒渾等分為四班輪流宿壇上香行禮長良在彼常川住宿欽此

述後 於下石碑照編另述

1809 本月二十四日奉

旨副壇祈雪應請

欽派王貝勒貝子公 四 員 散 秩 大

臣四員分班住宿上香行禮並內務府大臣或

等一員在彼常川住宿且等謹擬寫定各

呈奏候

欽定謹

奏

1810 道光十六年十一月二十二日內閣奉

上諭定親王奕經老成端謹恪慎自持數十年如一日本日朕親臨賜奠悲惋實深特中優泰之忱並

萬展親之典着派四阿哥五阿哥於本月二十七日前往祭奠殯送之前服仍定期再往賜奠伊子載齡於百日孝滿承襲郡王後即着加恩賞戴三眼花翎用示朕為念終親至意欽此

1811 道光十六年十一月二十二日內閣奉

上諭息郡王綿愉著管理樂部事務欽此

1812 道光十六年十一月二十二日內奉

旨昨據廣桂奏考試總辦官長與文塔克興阿福祥  
二名當交刑部審訊並據監試御史八十二等奏  
趙場士子始稱福祥總辦瑞啟頗有舞弊情事著  
交刑部歸案審訊至散卷未到之識起官著各該  
據有取職名文部核議欽此

1813 道光十六年十一月二十二日內閣奉

上諭裕泰奏請將該擬阻考抗糧要犯之知縣摘去  
項帶勒歸一摺湖南著臨湘縣知縣故用知縣謝  
為填抄生員李明詩等聚眾阻考肆行闖關既不  
龍安為詳歷又龍立時獲犯並王改期試竣後始  
行在案僅獲從犯五人其餘首犯多被脫逃  
實屬逆賊林賊著摘去項帶勒限三個月務令緝  
拿限滿有無弋獲再行嚴辦至此案牽涉錢糧史  
務保前任臨湘縣知縣善常任內之事務實是否  
僅止失察書更整完錢糧抑或別有情弊著歸案  
嚴查據實究辦不准稍有徇隱欽此

1814 道光十六年十一月二十二日內閣奉

上諭裕泰奏校閱營伍甄別弁勇一摺湖南著長沙  
協都司湖北衛昌營守備保明久病未痊不能騎  
射著即勒令休致餘依議該部知道欽此

1815 單機大臣 字寄

黑龍江將軍哈 齊齊哈爾副都統舒 道光十六  
年十一月二十三日奉

上諭前據哈豐阿等奏布特哈無餉壯丁生計疲累  
請借銀十萬兩交奉天生息以資調劑當降旨交  
署盛京將軍奕劻體察情形據實具奏茲據奏稱  
奉天所屬商賈多係流寓民人殷實之家較少從  
未責令領項生息各城富商已領過生息三款每  
年應交息銀錢統計東錢不下二十四五萬兩  
之多除正項開銷外所餘之項仍係交商生息連  
年疊加有增無減若再發十萬兩之數生息各商  
未免苦累不敢令其承領等語布特哈無餉壯丁  
每歲交納皮張生計未充疲累並應量為調劑既  
據奕劻查明奉天各城富商領項已多其未領承

領生息銀兩各商股實者無效倘概行發給不但  
息銀未能按期交納難保不虧缺本銀自係實在  
情形所有布特哈柱丁應如何調劑之處著哈靈  
阿等另行籌重要議具奏將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1816 道光十六年十一月二十三日內閣奉

上諭傳親王輝惟著寬

玉輝館正總裁欽此

1817 道光十六年十一月二十三日內閣奉

上諭林則徐等奏進員升補要缺知州一摺著照所  
請妥嚴宿州知州員缺准其以楊斯熙升補該部  
知道欽此

1818 道光十六年十一月二十三日奉

旨這所奏疎脫絞犯之安嶽太湖縣典史周鈞著革  
職等因交該撫提同刑禁人等嚴行審訊是否受  
賄故縱私鬆刑具按例定擬太湖縣知縣林昇慶  
著革職留任勒限嚴緝限滿無獲分別辦理欽此

1819 道光十六年十一月二十三日內閣奉

上諭桂良奏請揀員升署要缺部司一摺著照所請  
河南光州營都司員缺准其以劉天保升署仍和  
滿歷俸再請實授該部知道欽此

1820 道光十六年十一月二十三日內閣奉

上諭現在記名應用陸路總兵人員將次用竣著各  
該督撫於副將內即行遴選曾經出師揚威營務  
理勝總兵者保奏數員送部引見候朕記名以備  
簡用欽此

1821 道光十六年十一月二十三日內閣奉

上諭現在記名應用水師總兵人員業經用竣著兩  
江兩浙兩廣總督各於水師副將內即行遴選堪  
勝總兵者保奏一二員送部引見候朕記名以備  
簡用該督等統轄全省營伍平日回營留意人才  
不得以無員可保一奏塞責至所保各員即著迅  
速送部引見毋稍稽遲欽此

1822 道光十六年十一月二十三日內閣奉

上諭本日據沈元等所奏康永修督修砥柱善員  
各員該處具奏著遊擊黃岡池左營都司董廷彪  
著即照部議革職仍留營衛村世職其作製炮位  
著責令該遊擊廷彪開天培都鎮作二款留任本  
條公罪原可准以推督率工善以收漢教傷人非  
尋常失察可比著將二款留任不准核補欽此

1823 道光十六年十一月二十四日內閣奉

上諭麟慶奏請將世職人員仍歸河營補用一摺著  
照所請南河世襲雲騎尉候補守備李廷柱履賈  
祥俱著准其歸於河營先以千總借補該部知道  
欽此

1824 道光十六年十一月二十四日奉

旨此案著交經額布親提人證卷宗秉公嚴訊按律  
定擬具奏原唐李景岳該部照例解往論質欽此

1825 道光十六年十一月二十四日內閣奉

上諭山東鹽運使自缺著馬元灝補授欽此

1826 休深道十員

福建延建知府道祥璽 正白旗滿洲員生

甘肅安南道雙興 安徽旌德州人

四川永寧道朱誠 江蘇寶應人

四川建昌道文翰 江蘇蘇州府人

江蘇淮海道文麟 正藍旗滿洲人

河南河陝汝道蔣明先 河南寶豐人

湖南糧儲道金開第 江蘇連雲港人

廣東學政道王雲傑 河南進士

湖南岳寧道馬元灝 浙江德清人

陝西延榆綏道廷琳 江蘇進士

休深知府十員

雲南瀾寧知府林樹恒 順天直隸人

陝西延安知府邱燿黃州進士祖籍福建

河南汝寧知府布彥博勒格 江蘇蘇州府人

雲南楚雄知府秦馳 山西靈石人

湖北武昌知府學善 江蘇蘇州府人

廣東惠州知府楊希銓 江蘇進士

湖北宜昌府知府程家驥河內進士

貴州安順府知府經武濟正黃旗滿洲生

廣東雷州府知府高澤履江西進士

四川成都府知府張日辰貴州進士

1822 軍機大臣 字寄

安徽巡撫色 傳諭布政使程琳來 按察使

周天爵 道光十六年十一月二十五日奉

上諭有人奏安徽布政司程應劉寅陞親似權誠心  
實狡黠前任藩司佟景文何為腹心以致該員託  
計鑽營恣其貪贖應次詳著各缺并辦災賑銷魁  
扣不下十餘萬兩及盜案久懸並犯自贖積管放  
債各款又著合肥縣知縣張清元積壓多案開檢  
遊地扶杖覓長隨並有白石山黨眾首犯沙左  
繩槍傷捕役十餘名及該撫聞知始行查拏等語  
劉寅陞會方不職張清元廢弛民事虛實均應激  
底根究著已卜星額督同藩司程琳來臬司周天  
爵逐款嚴查從實究辦毋許稍有含混以儆官邪  
原摺著鈔給閱看特此諭知已卜星額并傳諭程

琳來周天爵知之欽此遵

音寄信前來

1820 軍機大臣 字寄

湖南巡撫裕 道光十六年十一月二十五日奉

上諭有人奏湖南長沙府屬之湘鄉縣鎮石坳花明  
株茶園坳一帶地方與衡陽邵陽等縣毗連在居  
之戶多習為竊盜成窩數復有惡棍陳連五父子  
等已庇烟容招捕毆差等語著裕泰即按照摺內  
所指姓名嚴密訪拏並速選幹員潛赴白泥灣大  
坳寨等處查訪該監生等各項劣蹟按律懲辦以  
儆兇頑並該處跟縣僻遠其處如何設立保甲門  
牌並責成各姓族長稽查管束之處著該撫即飭  
地方官妥議規條嚴實辦理原摺著鈔給閱看特  
此諭令知之欽此遵

音寄信前來

1830 道光十六年十一月二十五日內閣奉

上諭給事中鄭世任奏請查禁徒漢遺教及送回人

犯潛匿京師一摺等數重地理應肅清豈容曾經  
犯案之人潛蹤滋事若如該給事所奏迨來各處  
徒流逃散及曾經刑罰而之犯往往潛匿京師  
結成黨羽其在配徒流人犯地方官並不認真  
察每致逃來京志行不法此等人犯在直隸者  
為最多至當嚴行查禁以清地方著煥天府直隸  
總督嚴飭各州縣嗣後徒流在配人犯務須實力  
稽查迨冊按月點卯不得僅憑卷後控報如有逃  
逸立即根究其軍流逃散人犯籍隸直隸各府州  
縣有籍可歸者由配所知照該犯原籍地方官查  
明到籍日期嚴加管束仍詳報該上司立案不准  
流寓京師其籍隸大典宛平二縣者一經數回亦  
由配所知照即交隸二縣嚴加管束詢問該犯下  
落迨冊登記知照五城著巡城御史五城司坊官  
各按所轄地而於編查門牌之便嚴飭舖甲抽頭  
稽查約束遇有此等數回人犯出外滋事立即稟  
報懲治倘有徇隱即指該中捕以約束不嚴之罪  
如該城御史及司坊各官並不認真稽查別經登  
覺即著一併議處以示懲儆欽此

1831 道光十六年十一月二十五日內閣奉

上諭浙江提督著李國棟調補雲南提督著李雲  
調補四川提督著齊傑調補甘肅提督著周悅勝  
調補直隸提督著唐保爾授李國棟余步雲齊傑  
著各赴新任無庸來京請訓欽此

1832 道光十六年十一月二十五日內閣奉

上諭湖南岳常澧道員缺著方海補授欽此

1833 查岳岳常澧道銜管難委缺謹

奏

1834 道光十六年十一月二十五日內閣奉

上諭直隸正定鎮總兵員缺著曹大親補授欽此

1835 道光十六年十一月二十五日奉

旨兵部奏請特抄寫錯誤行文遺漏之司員等交部  
議處並自請察議當月司員委著王市果勒明阿  
將內閣清字抄發寄交香阿行文司員主事文通

特先陞阿之名道涵省屬球墨俱著吏部分別議  
處任恩賞著溥治著加恩寬免欽此

1836 軍機大臣 字寄

協辦大學士直隸總督琦 道光十六年十一

月二十六日本

上諭本日在見新調永定河道徐受荃前在山東兗  
沂曹濟道有年河務自為熟悉惟詢其年歲已逾  
六旬是否堪勝永定河道之任著琦善隨時留心  
察看具奏又新任永定鎮提兵曾大觀年逾六旬  
恐於正定提兵不甚相宜已明降諭著將福建建  
寧鎮提兵王志貴與曾大觀對調矣但王志貴年  
歲亦逾六旬是否堪勝正定提兵之任著侯玉忠  
貴到任後一併察看如不能勝任即據實具奏毋  
得稍事遷就將此諭令知之欽此

音寄信前來

1837 道光十六年十一月二十五日內閣奉

上諭林則徐奏請將守獲要犯各負身鼓屬等語江

蘇州地方有匪徒吳富運等二十餘名樓字間  
聞該該署督遣官飭屬委督將首犯立正刑誅其  
餘各犯分別問擬辦理尚為迅速所有訪拿出力  
各員弁自應量予恩施即開司知直隸州知州伍  
家福海州營參將德本均著賞加升銜署海州知  
州加同知銜沐陽縣知縣王夢齡著選部引見海  
州營已拔千總容光應已欽此想趙開祥外委相  
抵岸均著值先升敘以示鼓勵餘著照所議辦理  
該部知道欽此

1838 道光十六年十一月二十五日內閣奉

上諭曾大觀著調補福建寧鎮提兵河道直隸正  
定鎮提兵負缺著王志貴調補欽此

1839 道光十六年十一月二十六日內閣奉

上諭恩特才額奏運井不勝繁缺請撤回另補一摺  
浙江温州前幫千總龔鴻吉奏願運糧已形竭蹶  
逆抵瑞交卸辦理不能妥協難勝繁缺之任著  
即撤回道有相合簡缺再行的補該部知道欽此

1840 道光十六年十一月二十五日內閣奉

上諭恩特字額奏查訊補役代蕙器械供情一摺此案係沐印場成現據該得督查訊大槪供情似未內領江督水子系現陽等既有三命四傷重案業經林則徐密使實訊另供李源陽等解到時即將楊成一併解交刑部究訊實訊明確照例應辦欽此

1841 道光十六年十一月二十六日內閣奉

上諭林則徐等奏請將失察逃犯滋事之文武各員照例議處一摺此案先犯吳當運擬流發配被趙燧傑等劫奪脫逃後在海州等處地方開闢私聚賭場謀取入命該地方文武各官未能即行覺察自應照例議處除前任海州知州謝聲濂前在恭稱舒大親秉親身故外所有失察在海州窺盜地方開闢私之海州營勇說前任把總江廷玉備防前在外委倪雲志兼轄之前署都司事勒休了備陳鶴儀失察在名遠煙頭地方開場聚賭之前任宿遷縣丁憂知縣李萬倉河標右營額外

命換李大察在鄂州確灣地方窩娼之前署鄂州

官以刑部知縣黃耀明河標右營把總蘇有初委署蘇州營營務處

之右宗澤調離寧縣知縣劉興與夫察在鄂州確

灣地方開闢私之有署鄂州黃耀明河標右營

勇沈把總泰有功編防林朱黃斯發兼轄遊擊湯

萬青大察在鄂州黃耀明地方殺死宋三等四命

示懲嚴主徐可宗一犯係隨河營把總徐成宗

之堂弟擬該署督等勒令該把總專差送官至今

未獲著即行該把總徐成宗暫行摘去頂帶責令

迅速拘解候獲到徐可宗再擬開復俾免延誤欽

此

1842 軍機大臣 字寄

兩江總督陶 江南河道總督麟 道光十六

年十一月二十七日奉

上諭有人奏河工積習廢寬出息厚薄但聞辦料者

于其到工析數之多寡視應年河工之平險河患

一年較平則辦料愈息較寬而河工之料堆漸傷



各州縣遊軍之徒藉署內熟識之人出入招搖無所不為內幕樂與往還州縣莫敢禁制其在河工者名弗外工類皆整編有年賄料必經其手又改如何豫森多驗如何豫森又復最為熟諳故能久為河工之害等語河工備料關係至重向來河患往往生於無事之時在事大員不可不早為慮及若如內奏廳負賄料堆交收查驗任聽外工巧相博取並應從嚴查究者尚浙騰慶即將河工向有積弊悉心體訪實力禁革其廳負賄料堆如何驗收如何抽查務歸覈實之處著即酌議章程據實具奏至遊軍人等一經訪有實蹟即行嚴加懲辦毋稍姑息將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1843 軍機大臣 字寄

陝甘總督瑚 道光十六年十一月二十七日本奉上諭據瑚松額奏野番圍擾麻馬聚集二百餘人騎馬持械直撲野馬川經著提標右營遊擊周運保率領弁兵奮力堵禦該賊番施放速槍散行拔拒

遊官兵開槍轟擊傷斃賊番多名始各畏懼逃匿麻馬並未被擒查該官兵亦有傷斃等語野馬川地方與伏通河達南邊外野番插帳之區較近防守不可不嚴此次該賊番圍擾麻馬勝敵聚眾肆劫逆經官兵擒捕復放槍傷斃兵丁情殊可惡必應懲辦以儆尤頑周悅勝現已調補甘肅提督其應如何批它濟濤偵緝正賊之案著瑚松額於該提督赴任時詳悉告知會商妥辦並著嚴飭沿邊各營務將各要隘加意防範勿任野番再行闖入致有馬廠被擾情事所有傷亡兵丁陳九林等著該督查明咨部照例辦理該著遊擊周運保把總潘國祥被傷輕重情形亦著查明據實具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1844 道光十六年十一月二十七日內閣奉上諭要紀現已補授尚書所有國史館清文總校著文鏡和克補欽此

1845 道光十六年十一月二十七日內閣奉

上諭琦善奏歲修果梁村壩各工請動項挑修一摺  
直隸通州溫榆河上游果梁村一帶地當山水之  
衝防護最關緊要自應隨時修葺以資捍衛所有  
挑修各工估需銀三千一百十八兩零著照所請  
准其在於通水遺庫丁字法稅銀項下照數動支  
責成該道督率廳汛各員集夫購料米成春融時  
趕緊興工務於大汛前一律完竣覈實驗收造冊  
報部覈銷如有草率偷減即行參賠該部知道單  
併發欽此

1846 道光十六年十一月二十七日內閣奉

上諭琦善奏知縣捕務疎懈請去頂帶等語直隸  
前署邢臺縣事候補知縣魏漢章於外來賊匪入  
境潛藏毫無知覺其兵民人等僅借居居住之舊  
二並在逃之賊該縣不能捕獲訊問致令逸颺實  
屬疎懈著先行摘去頂帶留於該地方協守逸犯  
著二等務獲該部知道欽此

1847 道光十六年十一月二十七日內閣奉

上諭瑚松額奏陝甘兩省武職乏員差委請揀發參  
將二員遊擊二員著兵部於曾經出師之恭衍遊  
擊內照例揀選帶領引見修省發往欽此

1848 道光十六年十一月二十七日內閣奉

上諭琦善奏查明積水地畝請減免糧賦一摺直隸  
隆平寧晉安州等三州縣現據該督委員確勘非  
因積水全未消涸即係消涸未盡以致水稼失收  
糧賦無出自係實在情形如恩著照所請隆平寧  
晉三縣全秋水佔限糧地一千二百八頃四十三  
畝二分四厘額徵道光十六年糧銀三千九十三  
兩六錢四分八厘又安州縣併新安浣澗地三百  
二十八頃七十九畝二分七厘額徵道光十六年  
租銀一千二百九十一兩八厘著准其全行豁免  
其隆平寧晉三縣積水稍輕未能全種之民糧地  
四百二十四頃五十六畝九分九厘應徵道光十  
六年糧銀一千二百八十三兩三錢四分二厘著  
減免一半糧銀六百四十一兩六錢七分一厘其

隨正應裁耗羨銀兩並准其一體減免豁免減剩糧銀照常徵收至減額各村莊內如有本節年積滯業內花戶長充銀兩准其分別割抵本年減剩應徵糧銀及下年正賦以惠窮黎該督卽刊刻牌黃施行既輸務使實惠及民毋任吏胥舞弊用副朕惠敷自王意該部知道欽此

1849 道光十六年十一月二十四日閣奉

上諭湖松額奏官紳捐修工程完竣懇請鼓勵一摺

甘肅軍器局西廳各

文廟年久未修鼓多翻朽又葺城河陵一道日漸傾圮如遇夏秋水發直隸城垣均係急應修築之工經該處官紳人等捐資修理一律完竣並有檢資歸入書院實屬踴躍急公所有尤如出力之隴西原捐撫卹司郭成著加恩賞加遊擊銜陸著該部議奏此項工程係官紳捐辦著免其造冊報銷該部知道並著併發欽此

1850 道光十六年十一月二十七日內閣奉

上諭湖松額奏檢實調補要缺同知一摺著照所請

甘肅循化同知員缺准其履升格調補該部知道欽此

1851 道光十六年十一月二十七日軍機大臣面奉

諭旨浙江省河運湖軍餉復著一律改造魚毫無庸再送羊毫其羊毫上下亦無庸象牙錄款現登去羊五枝文鳥筒漆額紙領以後河運軍項長短式樣印照殊畫分寸製造送呈著由該撫奏事之使諭令知之欽此為此知會貴撫欽遵辦理可也

1852 道光十六年十一月二十八日內閣奉

上諭中政賢奏知府現有應訊事件暫緩給咨送部等語太原商知府珠灝著准其暫行扣留山西聽候查訊俟查明結案後再行分別辦理該部知道欽此

1853 道光十六年十一月二十八日奉

旨奕額現著盛京將軍所有阜成門角樓等工著派

派奕紀會同楊恩承修其拆卸後續有情形著即交原任大臣復行查勘具奏欽此

1854 道光十六年十一月二十八日內閣奉

上諭給事中張畧奏漕河情形一摺著令楊侍郎漕運總督兩江總督江蘇巡撫妥議具奏摺並發欽此

1855 道光十六年十一月二十九日內閣奉

上諭前據給事中常大津奏稱江西藩司署內考幕吳雷門益踞多年干預公事並條陳種種劣蹟當久陳鑒嚴密查辦茲據該撫奏稱逐款訪查實無干預等情著無庸議惟吳雷門年已就衰早經辭幕著即飭令回籍不准延留欽此

1856 道光十六年十一月二十九日奉

旨據軍機處奏時都尉無向旗旗衙門任意喧鬧實屬不法著交刑部審訊欽此

1857 道光十六年十一月二十九日奉

旨此案著交桂良督同臬司楊振麟親提人證卷宗來公審訊按律定擬具奏原告彭本喻該部照例解往備質欽此

1858 道光十六年十一月二十九日奉

旨此案著交林則徐親提人證卷宗來公嚴審按律定擬具奏原告蔣全暢該部照例解往備質欽此

1859 道光十六年十一月二十九日奉

旨此案著交盛京將軍奕額會同刑部侍郎惠吉親提人證卷宗來公嚴審按律定擬具奏原告張書忍該部照例解往備質欽此

1860 道光十六年十一月三十日奉

旨前據鍾靈奏請嚴引日奏銷並懇將督銷州縣免奉一指當交戶部嚴覆茲據查明具奏所有山東省十五年分應繳引日准其緩至十七年二月內全數題銷其應完正雜課項及加價銀兩著該監

政即督飭該高等遠即照數完交仍于本年照例  
依限題報至本年正課差餉仍著陳嘉樹暫留辦  
理以專責成俟奏銷完竣再行交卸餘依議欽此

1861 道光十六年十一月三十日奉

旨內閣中書齡福著先行革職交刑部從同全業人  
證秉公質訊務得確情按律懲辦欽此

1862 道光十六年十二月初一日內閣奉

上諭高鴻奏司員三年期滿補劄保奏一摺刑部候補主事黃恩彤派往熱河都統衙門審辦案件現屆三年期滿據該部觀察該員承審案件尚屬妥協自應量予恩施黃恩彤著遇有該部主事缺出即行補用免其試俸候接任之員到後照例送部引見並著刑部揀選熟悉刑名辦事老練之候補主事一員前往接辦該部知道欽此

1863 道光十六年十二月初一日內閣奉

上諭昨日召見新故察哈爾總管穆精額既不通曉蒙古文義又不能辦蒙古語難勝總管之任著即撤回本任所遺察哈爾總管著桑旺札木蘇補授各該處總管有統轄一旗之責道光十年十四年兩次降旨令各該旗營揀選總管務須通曉滿洲蒙古文義或能蒙古語者帶領引見此次仍復監行保送殊屬不合所有俟年旗及該旗保送大臣等俱著交部議處欽此

1864 道光十年二月十八日內閣奉

上諭福克精阿等奏甄別總管一摺察哈爾鑲白旗總管常德不識洲蒙古文字於公事未能明晰不勝總管之任著飭令仍回本營當差大僕寺右翼牧羣總管都司爾奇因為區別寬過多降為六品頂帶該員近來辦理牧務仍多廢弛尚無別項著蹟著降為翼長仍留該翼候補以觀後效各該處總管有統轄一旗之責似此不識滿洲蒙古文字者安能辦理公事嗣後各該旗營保送總管及揀選之王大臣務須認真考察毋得以不識滿洲蒙古文字之員濫竽充數欽此

1865 道光十四年七月廿四日內閣奉

上諭凱音布等奏請揀放總管一摺察哈爾總管缺出現在該處無可保送之員著值年旗於在京八旗蒙古頭等侍衛前鋒參領獲軍參領曉時參領內慎加遴選或通曉滿洲蒙古文義或能蒙古語者揀選二三員帶領引見候旨補放倘將來該員等不曉公務數解理未能妥協朕惟保送之該大

臣等奏開明後俱著照此揀選不可日久疎忽致  
此

1866 道光十六年十二月初一日奉

旨大通橋監督景昌別杰俱著准其留任一年欽此

1867 道光十六年十二月初一日內閣奉

上諭鑄錢等奏監督技時累且盈餘一千石以上請  
鼓勵等語舊太倉有任滿<sup>州</sup>監督變為現任漢監督

楊廷棟著各賞加紀錄二次以示獎勵該部知道  
欽此

1868 道光十六年十二月初一日奉

旨王嵩山著改為新監候餘依議欽此

1869 嘉慶二十五年十月刑部議覆兩廣總督審奏

譚亞九誤傷伊母陳氏身死一案據譚亞九係  
陳氏<sup>親生</sup>捕食董學試為杖董學試看見斥罵陳氏

不取因執向監董學試拏執拉奪該犯處母受

斷情急拾石毆擲誤傷陳氏右額角殞命將該  
犯依律擬以凌遲處死聲明較之白鵬鶴之案  
情節更輕等因其奏奉

旨此案譚亞九因見伊母與人爭毆情切救護以致  
致誤斃命較之從前山西白鵬鶴一案情節又  
輕譚亞九著改為新監候餘依議欽此該犯譚亞

九旋於道光元年五月在監病故

道光七年七月刑部議覆安徽巡撫審奏鄧春

致誤傷伊父鄧春鳴身死一案緣鄧春致係鄧  
春鳴親子鄧春鳴與王懷亮口角爭鬧被王懷

亮用擗毆傷右房甲並揪住髮辮揪按欲毆鄧

春鳴喊救該犯聞喊擗刀趕出見父被擗奪丹

例比情切救護趕攔用刀向王懷亮手砍去其

其髮放不期王懷亮將手一放鄧春鳴頭<sup>即</sup>仰

起該犯收手不及誤砍傷鄧春鳴右額角殞命

該犯依律擬以凌遲處死聲明較之白鵬鶴之

案尤覺可憫等因其奏奉

旨鄧春致著改為新監候餘依議欽此旋將該犯鄧

春致入於道光八年秋審情實奉

旨免勾著永遠監禁

1870 道光十六年十二月初二日內閣奉  
上諭翰林院侍講賈植芳在上書房行走欽此

1871 道光十六年十二月初二日內閣奉

上諭向來秋審朝審人犯內級決三次以上者人數  
積多每屆數年諭令刑部查明奏請分別減等以  
示法外之仁今自道光九年查辦之後至本年秋  
辦入級決者又積有一萬二千三百餘名著刑部  
將本年秋審朝審級決三次以上各犯照即次查  
辦之例逐一查明所犯情節奏明分別減等發落  
以昭恤該部即遵諭行欽此

1872 各省秋審級決起數名數

新疆 一百十三起 一百二十一名

雲南 四百十五起 四百二十二名

貴州 六百四十九起 六百六十二名

廣東 四百八十九起 五百十名

廣西 三百零六起 三百十四名

四川 二千一百九十七起 二千二百零一名

福建 二百十起 二百十六名

奉天 六百二十八起 六百三十三名

陝西 九百八十一起 九百八十五名

湖廣 一千零十五起 一千零三十三名

浙江 三百七十四起 三百七十七名

江西 四百八十五起 四百九十六名

安徽 六百八十三起 六百九十四名

江蘇 四百八十八起 四百九十九名

河南 六百五十五起 六百六十七名

山東 七百四十五起 七百五十四名

山西 六百五十五起 六百五十八名

直隸 八百十二起 八百七十七名

熱河 一百六十起 一百六十五名

雜審 一百四十四起 一百四十四名

統共一萬二千一百九十八起

一萬二千三百五十九名

1873 道光十九年十二月二十日內閣奉

上諭向來秋審朝審人犯內級決三次以上者人數



積多各區數年餘令刑部查明奏請分別減等以  
示法外之仁今自道光七年查辦之後至本年秋  
獄入後決者一積有一萬五百餘名著刑部督率  
年秋審期審後決三次以上各犯照舊次查辦之  
例逐一查明所犯情節奏明分別減等發落以昭  
私恤該部即遵行欽此

1874 道光十六年十二月初二日奉

旨永襲輕車都尉文舉人恩蔭准其一體會試欽此

1875 道光十六年十二月初二日奉

旨這所奏直隸三河縣知縣狄鳴鑾于該縣張斗寅  
家被竊拒傷事主一案兩月犯無一獲又有王保  
全在途被刺身死之案殊非尋常疎防可比著先  
行交部議處仍勒限三個月責令將此二案賊犯  
嚴緝務獲究報倘限滿無獲即行從嚴奉辦欽此

1876 兵部

揀選總第貳等第一項

向例開列領侍衛內大臣滿洲大學士八旗  
都統

揀選各省候補人員及揀補各項員缺

祇開列各部滿漢尚書侍郎

1877 吏部

揀選宗人府漢主事缺

揀選五城正指揮副指揮史目

揀發各省並河工道府至未入流

大職各省舉人

各衙門保送理事同知通判

各衙門筆帖式保送知縣

以上各項均應開列大學士九卿銜名

揀補奉天州縣等官

揀選蒙古司業

揀選六部理藩院漢軍堂主事

揀選

職宗戶部刑部工部司庫並刑部蒙古主事職銜

揀選太常寺司庫

快足理得院司庫

陳運會場恩督衙門字帖式

揀選步軍統領衙門字帖式

揀選各省督撫衙門字帖式

以上各項均應開列九卿衙門不開列大

學士

軍機大臣 字寄

兩廣總督鄂 道光十六年十二月初三日奉

上諭本日因謝訥亦任額等奏會籌並省賑務並請

嚴禁鍋口一摺據稱湖南郴州所屬之永興縣係

粵鹽引地原有開設子店行銷生鹽乃近來多設

私鍋將生鹽煎熟浸灌淮界以數楚省引額任

等語粵楚毗連辦理鹽務各忌踴躍急公但必須

兩無妨礙方為盡善若如該督等所奏多留私鍋

為奸商開偷漏之門臨恐民端販私之個不可不

嚴行禁止著鄂廷植即出示曉諭所有承與子店

六十五家每家只准存鍋一口永為定額不准私

自如增及添設子店鍋口尺寸亦不准稍有寬大

臣期於粵引准例兩無妨礙是為至要將此諭令  
知之欽此遵

吉寄信前來

軍機大臣 字寄

伊犁參贊大臣英 葉爾羌參贊大臣興 幫

辦大臣閱 喀什噶爾領隊大臣富 侍諭喀

什噶爾換防總兵 道光十六年十二月初

三日奉

上諭據興德等奏查探卡外色喀庫勒地方被賊占

據情形並籌畫辦理一摺據稱胡什伯克色庫勒

庫勒地方滋擾伊什罕伯克帶領回子堵截山口

庫爾察兒在小南塔村省宰莊抵禦賊數十數名

因曾聞中糧身死伊次孫英提已哈沙在江西北

蘇拉罕亦被擄傷身死其眷屬皆被擄去該處回

莊十四處已被搶占大半現在胡什伯克差人分

赴達爾瓦斯什先南乾竺特倭軍各部聯絡堵

截胡什伯克又差人至葉爾羌投遞稟帖內稱庫

爾察兒傷害布魯特甚多伊已將庫爾察兒殺死

占據地方仍欲向克什米爾巴達克山諸外夷索稅各等語活字遠在邊隅起利若驚道光十年以後業經准其通商免稅貪心不足屢次懇求向克什米爾巴達克山抽稅甚至遣使入覲仍復請求屢經駁斥而止

卜滋擾今復藉稱與庫

爾察克有隙率領多人傷害伯克占據地方欲向各外夷抽稅其情本屬可惡但控取外夷總官不動聲色鎮靜防範既以通商免稅安其貪利之心尤當加意播防備以天威俾知有備無患不敢敢為惡計覲沿消方為妥善現據該夷供稱與庫爾察克有隙非敢抗違天朝等語此事業經差人告知浩罕伯克自應俟接得四信是否核奪輸誠再行準酌辦理著吳山等因時制宜會同相機妥辦據實具奏

奏勸效答邊管至邑時

庫勒阿奇木伯克庫爾察克屢次抵禦中穆身死伊拉同時陣亡情殊可憫亦著查明奏請恩施以示體恤將此各諭令知之欽此

音寄信前來

### 硃 批

1880 道光十六年十二月初三日奉  
旨中興利權擇品崇模守舊說造假示並充出邪詐各犯尚屬留心糾捕著以應升之狀升用餘依議該部知道欽此

1881 道光十六年十二月初三日奉

旨本日宗人府會同刑部具奏貝勒永珠府內支監  
監側室吳氏一乘王得保著照所擬即行正法  
寶兒著監禁監業保祥宋石頭王照著均著加錮  
兩個月折身徒落永珠著照所議革去貝勒餘依  
議欽此

1882 道光十六年十二月初三日奉

旨王三王火何大儀著交刑部審訊欽此

1883 道光十六年十二月初三日奉

旨李大即李廷泳著交刑部審訊欽此

1884 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭陶澍等奏請鼓勵墾務委員等語兩淮候補鹽

運司經應孫玉樹辦理漢軍旗廂事宜歷久出力  
勞績其免補本班即以兩淮鹽運判外用以示鼓勵  
該部知道欽此

1885 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭郭廷楨等奏調補要缺知縣一摺著照所請廣  
東普寧縣知縣員缺准其以楊題柱調補該部知  
道欽此

1886 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭郭廷楨奏布司不宜外任請飭令回旗一摺廣  
東永安營布司王煜營伍未燭不勝外任著即開  
缺回旗仍照例給差遣即引見該部知道欽此

1887 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭郭廷楨等奏李廷光私使蠲起者出海收銀一  
摺收銀出洋欠于例某現據該督等委署副將韓  
聲慶等查李廷光人船並載載回收銀二萬兩在  
事文武官身尚屬奮勉著該督等酌保一二員候  
朕施恩錄卹

1888 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭郭廷楨等奏請開復各員一摺前因廣東惠來  
縣赤澳洋面商船被搶先後降旨將海門營中軍  
守備馬玉麟革職留任勒限緝拿著海門營右將  
候補副將林鳴崗革職編修該督等奏稱該  
員等於被奪後獲犯多名並將首夥拿獲尚屬奮  
勉馬玉麟林鳴崗俱著准其開復林鳴崗精力漸  
衰著即勒令休致餘依議該部知道欽此

1889 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭廷楨等奏請將被控串詐登命各員分別撤任  
革職一摺此案廣東署德慶州知州即用縣楊  
聯於民誣梁張氏控告命案並不違為判斷致該  
縣以官親串通文日勒詐登命等情呈控在實均  
應徹底根究楊望聯著即撤任文日錢樹梅著即  
革職一併交該督等提同屍親人證確訊實情按  
律處辦該部知道欽此

1890 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭郭廷楨奏為楊修進出海師船經費請撥款發

為生息一摺粵東海關盈餘英米銀水師船近因  
歷年遺風船隻多有損壞隨時補造需費較多各  
商每年按色額數以此撥墊數用俾屬實存積  
形必須撥款發商生息以資接濟著照所請准於  
運庫各商項存備補船價項下撥出銀十二萬兩  
遵照股實試信之益商發領生息做別屬補費  
及借商營運各業生息年限以十五年為期過期  
不增本利共送銀二十四萬兩計以十二萬兩  
歸本以六萬兩為利以六萬兩作為添補修造米  
船經費每年訂送銀一萬六千兩除撥添米船經  
費四千兩外餘悉照數歸庫仍逐年按查於各件  
月清完分別存撥以資接濟而重地防疏亦知道  
欽此

1891 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭訥爾經額奏副將何應廷避請林自製調一摺  
湖北湖南兩副將壽爾松河樂宜呂顯斌吳珠爾  
杭阿傑同親兄弟自應熱烈避避著准其調補  
上諭副將何應廷兩條副將自缺即以王方製調  
該部知道欽此

1892 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭訥爾經額奏揀員升署苗疆遊擊一摺著照所  
請湖南鎮軍鎮標十軍遊擊員缺准其以徐勇升  
署仍依扣滿年限另請實授該部知道欽此

1893 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭梁章經奏病痊知縣呈請改表一摺原任廣西  
藤縣吾病知縣邱登於病痊後自搗精力較差藉  
廣西杜若莊其改就教職歸部銓選該部知道欽  
此

1894 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭梁章經奏悉知府阮視氏事任妻無知一摺廣  
西平樂府知府張楠著來京交吏部帶領引見其  
降諭旨此係尋常慶泰事件張楠稱係密奏本  
及典習正會銜實屬不曉事體著傳旨申飭欽此

1895 道光十六年十二月初三日奉

旨這所奏疎防官犯自盡之廣西按察司司撤余經

文於撤法官犯並不小心防範以致被執回京對  
自縊身死非尋常昧忽可比余繼文著即辭任文  
該撫後同人枉展說確情如有凌雲逼索等弊據  
實亦辦欵此

1896 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭中書習奏楊雲要證避匿請將伊子職銜斥革  
究並並將查學不力之地方官張慶勳等一摺此  
案要證李鍾坤聞等逃匿其子存育河同時躲避  
難任無高明之逃情事及且查得劉業匪不吐實先  
已具限裁尋又復情願代贖期情符文飾運同  
職銜李育河著即斥革交該撫嚴行追究李鍾坤  
下隊查得不力之山西介休縣知縣林德奎著交  
部議處並勒限三個月嚴緝李鍾坤務獲究辦欵  
此

1897 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭與德泰伯克出缺前單請前一摺喀什噶爾四  
品商伯克負責缺著遞賜特製依木補授五品哈貴

伯克負責缺著離依特補授可定黑克五品阿奇  
木伯克著休場英特補授該衙門知道欵此

1898 道光十六年十二月初三日內閣奉

上諭與德等奏委委各員缺等語喀什噶爾辦事領  
隊大臣著雅其以烏珍著署理喀什噶爾防務  
兵員缺著雅其以哈拉吉那爾理欵此

1899 辦理軍機處為苦行等語無本處存貯檔案並

密寄等件家關緊要每日散直門上供和封鎖  
本日據蘇拉等報稱立致進內見門已打開缺  
鎖了烏侯已趕去顯有偷竊等情查

隆宗門內門禁嚴甚豈容小混入潛踰相應咨  
行

實履查明是日值班人等嚴切究辦呈據實咨  
覆本處必得遵照須至行者

右咨

景運門 內務府

道光十六年十二月初三日

1900 道光十六年十二月初五日內閣奉

上諭湯金釗奏陳員弁補缺同知一摺著照所請陝西考差廳同知員缺准其以鄭華圖升補照例送部引見該部知道欽此

1901 道光十六年十二月初五日內閣奉

上諭湯金釗奏知縣難期職任請分別除補勒林一摺陝西准調長安縣知縣胡廷瑞辦事不能盡責著俟病痊後以府經歷甄丞降補歸部銓選華陰縣知縣嚴理性就夫逸官聲平常著即勒令休致該部知道欽此

1902 道光十六年十二月初五日內閣奉

上諭容照奏請將應折之內務府營房三十六間留作官學及賞給該首領太監等居住等語俱著照所議辦理該衙門知道單併發欽此

1903 道光十六年十二月初五日奉

旨宋沐齡即宋洛茂著交兵部解往直隸歸案審訊

掌苑解境販俄下海違犯之據調副指揮李廣元副指揮呂榮祺均著交部議敘欽此

1904 軍機大臣 字寄

欽差尚書朱 道光十六年十二月初六日奉

上諭有人奏浙江寧波府知府呂子班辦事顛覆毫無振作不能約束子弟本年九月間伊子婚娶主婚勒令鄰縣備辦燈彩鋪墊等項該縣以不及趕辦回覆該府之弟禮令府役將該縣辦差家人鎖押多日該縣情急當將鄰縣印信面繳寧紹台道情願告病該府近在同城並不查問等語如府為方面大員必須潔己奉公約束嚴密方足以資表率似此縱容子弟擾累屬縣如果屬實自應查辦以肅官方著朱士彦行抵浙江即將所奏各情確切查明據實具奏毋稍徇隱特此諭令知之欽此

連 旨寄信前來

1905 軍機大臣 字寄

閩浙總督鍾 福建巡撫魏 道光十六年十

二月初六日奉

上諭本日據鍾祥等奏十月十八日夜臺灣嘉義縣下加冬匪徒沈知等數百人暨旗聚眾焚搶糧館把總柯青山帶兵奮擊致被賊害賊匪隨即他竄該鎮總兵達洪阿帶自練精兵六百名並挑選安平營標營兵丁六百名派員管帶前往捕解先據該縣陳文起將動手賊弁之股首仇大元帥沈基即沈知等獲並獲另股匪犯楊亨等多名入水溪一帶亦有賊匪之化現飭該鎮等上緊搜捕等語臺灣地方狹悍浮動焚搶劫殺習為故常此輩匪徒沈知等夥聚眾擾糧戕害官弁自應迅速搜捕嚴行懲辦現在業已就擒並獲另股匪犯楊亨等多名沈知是否確係為首之犯其黨數除匪為合之衆諒不難剋日肅除該鎮管帶及派調各兵共有一千二百名如已足數調遣即飭該鎮分投搜剿務將伏出之股首張老等按名弋獲無使一名漏網以淨根株該管帶仍當體察情形倘必當內地兵力即挑選精銳兵丁並選派前在臺灣打仗出力各員弁管帶前往相機發務使安速嚴

事不可草率了結亦不可過事張皇將此由四百

里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1906 道光十六年十二月初六日內閣奉

上諭本年入冬以來京畿未經得雪曾降旨於上月二十四日設壇祈禱尚未獲沛祥雲朕心殊深股切著道遊光坊成遠來在

大高殿虔誠祈禱於本月初八日開壇朕親詣拈香所有分班住宿上香行禮暨常川位當仍著原派各員前往欽此

1907 道光十六年十二月初六日內閣奉

上諭林則徐奏遵員巡遊原將該員對調一摺查藏寧池太廣道徐廣培祖籍安徽例應巡遊著仍其調補江西程道所遺之缺即以王兆琛對調該部知道欽此

1908 道光十六年十二月初六日內閣奉

上諭林則徐等奏請調補省會要欽知縣一摺著照



所請江寧總知將自缺准其以王昭復調補該部  
知道欽此

1909 道光十六年十二月初六日內閣奉

上諭傅祥等奏請調補省會要缺知縣一摺著照所  
請福建閩縣知縣員缺准其以閩浙詞議該部知  
道欽此

1910 道光十六年十二月初六日內閣奉

上諭傅祥奏閩浙營員不敷差委請林發到前二員  
都司三員著兵部在於候補候選人員內擇其曾  
經出外候補營事務者照例揀選帶領引見候  
旨發任欽此

1911 道光十六年十二月初六日內閣奉

上諭傅祥奏請將辦理辦死之總兵撤任並請  
調一摺浙江溫州鎮為由閩入浙門戶現任總兵  
鄧承福於外洋水師事務不能展辦應請改有同  
日免封之案未使姑容鄧承福著即撤任勒限半

年留於洋面務區不准置身事外溫州鎮總兵自  
缺著莊南燾調補所遺定海鎮總兵著該督於所  
屬水師副將內林自營行著理並著機現在陸見  
屆期著候著理定海鎮總兵到任後另行來京陛  
見欽此

1912 道光十六年十二月初六日內閣奉

上諭傅祥奏請將遊擊降補等語福建署銅山管帶  
於水師提標後營遊擊著與邦人父醇謹辦事亦  
多詳清所管洋面疊經報費均未獲犯著與邦  
仍留雲騎尉世職降為把總候補管帶令隨營巡緝  
以觀後效該部知道欽此

1913 道光十六年十二月初七日內閣奉

上諭前據給事中鮑文瀾奏江浙等省錢法欺騙當  
降旨著該督撫等嚴密查察認真究辦並據林則  
徐等查明江蘇寶蘇局驗放之時由藩臬兩司及  
委員人等抽提捍擲並無破碎其尚無攪和沙土  
偷竊銅斤私鑄小錢似屬可惜惟該鑪頭等前於

道光元年借款津貼有發商生息之項難保不藉端舞弊至附近海口島嶼一帶雖查無私鑄及夾板商船攜帶違禁他物進口之事其海洋島嶼及人跡罕到之處小民趨利若鶩亦難保無私行鼓鑄等弊著該督撫等督飭所屬認真稽察有犯必懲以絕與源倘有得贖拘犯著即從嚴奏辦餘著照所議辦理欽此

1914 道光十六年十二月初七日內閣奉

上諭林則徐等奏請調補要缺知縣一摺著照所請江蘇江陰縣知縣員缺准其以蕭蔭昆調補該部知道欽此

1915 道光十六年十二月初七日內閣奉

上諭林則徐等奏請將欠解兵米之知縣摘去頂差勒限嚴追一摺江寧省倉本年應撥蘇省漕糧又撥解南米係放糧總局營兵米要需不容稍有延緩該署督等查明前任江蘇吳江縣現署青浦縣知縣顏鳳奇欠解漕米一千四十六石粟震澤

縣知縣周恭壽欠解漕米九百五十一石粟並糧文道光十一年截漕米九百三十石屢次行催久未解到實屬玩誤顏奇周恭壽均著先行摘去頂帶勒限一月內將數解清如再逾限不完即行撤任奏辦以示懲儆欽此

1916 道光十六年十二月初七日內閣奉

上諭色卜星額奏知府遵例迴避請揀員對調一摺安徽安慶府知府卞士雲與布政使程懋來係兒女姻親例應迴避所有安慶府知府著該督揀選員調補所調遺缺著陶澍於江西省知府內揀員對調欽此

1917 道光十六年十二月初七日奉

旨福恩等奏請動項整發團圍八旗班費並請飭值兩淮生息銀兩以資接濟此項銀兩係充八旗修理房閉印房公費及八旗班費之用現在兩淮連年欠解急需善款妥發著准其先由廣儲日習支墊放俟兩淮解到是銀即行歸款陶澍于此項

見錄既以年清年款咨覆該衙門何得復有拖欠  
至十一萬四千兩之多似此因循廢玩年復一年  
以至誤管應款各款及各款雜費均須臨時籌墊  
尚復成何事體所有道光十四十五年並本年  
廣交銀兩著陶澍速即如數解交該衙門以資支  
放並將舊欠銀兩分年帶徵交納毋得再有耽延  
自干咎戾欽此

1918 道光十六年十二月初七日奉

旨永珠所襲之貝勒著准其將伊木克有分之人承  
襲永珠之子不准帶領引見欽此

1919

直隸山東河營千總俸滿保送到部兵部復加  
考驗如果人材出眾熟諳河務能嫻騎射者帶

領引

見或以營缺用或以衛缺用之處恭候

欽定如平力精壯諳練河務不能弓馬者於引

見隨摺內聲明欲以衛缺用或回原任以河營守備

題稱之處恭候

欽定

1920

查定例河營將備員缺以熟諳河工之員題補  
其河標將備題缺揀選材仗優長諳練地方之  
員保題請補又定例直隸山東河營千總俸滿  
保送到部兵部復加考驗如果人材出眾熟諳  
河務能嫻騎射者帶領引

見或以營缺用或以河營守備題補之處恭候  
欽定奉

旨以營缺用者兵部歸入年滿千總候補班內選補

遇有本省河營河標各守備缺亦准題補如年

力精壯諳練河營不能弓馬者該督保送文內

聲明堪以河營守備題補兵部於引

見隨摺內聲明請

旨發回原任以河營守備題補其年力未衰尚堪選

充者准其留任等語

查乾隆五十五年正月內兵部於題補准發河

營遊擊莊剛帶領引

見其履歷內步箭中平馬箭不能又查嘉慶三年三

月內兵部於題補江南楊河江信河營守備師

得運帶領引

見其履歷內步前中平馬箭不能又道光十六年十一月內兵部將趙福江南黃瑞河營守備賈雲鄂北河營守備王福等領引

見其履歷內實雲步前中平馬箭不能王噴步箭平常馬箭不能此係原屆辦過成案例無明文查河營人員將河督保送考語祇稱繕修防禦應格坤並不聲故可馬技藝合併聲明

1921 軍機大臣 字寄

閩浙總督鍾 福建巡撫魏 兩廣總督鄧

廣東巡撫郭 道光十六年十二月初八日奉

上諭鴻臚寺少卿崇佑奉旨開廣城門之風未戢惟

來源奉嚴除英瑞以靖地方而安黎庶一摺開廣

漳泉惠潮一帶居民每以田土徵糧賦賦勤故特

核中門外疎正業難嚴立科條力求整頓此風應

未止急著鍾祥鄧廷楨等將指內所陳四條悉心

妥議具奏應指著鈔給閱看將此各諭令知之欽

此遵

旨寄信前來

1922 軍機大臣 字寄

欽差尚書朱 道光十六年十二月初十日奉

上諭前因高爾恭顯覆奏浙江平湖縣海塘情形與

善英所奏迥不相符當有旨交朱士彥於查辦廣

東事竣後馳赴浙江確查具奏本日復據善英奏

稱該縣派員覆勘時伊曹差人暗隨聞得以成嚇

氏內稱坍塌作為歪斜今平被衝不許供訴並將

土石塘被衝情形繪圖呈覽等語著該尚書馳報

該省時親詣平湖縣境內將善英所指坍塌各工

逐一詳加履勘是否屬實並傳役該縣具呈生有

願弟履等處公研訊如果所呈得實何以一駁該

據傳批執稱得自傳聞有共勝嚴成嚇情事務將

高爾恭顯善英前後所奏情節互異之虛假除情

面確切查明據實具奏毋得稍有含混以副委任

善英摺著鈔給閱看同知吳方文稟稿及生者願

弟履等原呈均著發閱將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1923 道光十六年十二月初十日奉

旨吏部將各省查取職名優優未覆各案開單具奏

共計有一千二百十三件之多此內應議職名事  
開實錄管軍者固不可任其遲延規避即降留刑  
俸處分亦宜客任意久延該管上司並不實力督  
催送部議結經該部第次行催總未接限咨覆實  
屬延玩著盛京戶部刑部侍郎暨各該府尹直省  
各台撫西河河道總督漕運總督盛京吉林綏遠  
將軍熱河察哈爾都統查照吏部單開件數送部  
查明咨覆並將開報遲延各員及歷任不行飭催  
之各該管上司均移在任月日開揭送部一併照  
例議處毋許再有延宕并併發欽此

1924 道光十六年十二月初十日內閣奉

上諭前因街河別設該管運升熟料未周船行斷續  
當將湖北三幫領運千總白福去項帶之後沿途上  
恩特亨顯查明該千總白福去項帶之後沿途上  
幫者值批遞交米無候備押回空船隻並無匪徒  
滋事行走遠現已歸次辦理尚知保當張向辨  
著加恩給還項帶該部知道欽此

1925 道光十六年十二月初十日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請將試用人員暫停分發一摺浙  
江省試用佐雜人員現形壅滯著吏部將從六品  
以下各項佐雜人員暫停分發浙江俟數年後察  
看何班人數減少即先將該班奏請分發欽此

1926 道光十六年十二月初十日內閣奉

上諭時休順保等奏等獲擒劫斃犯雷明辦理  
一摺此案沙爾雅斯十倫錫伯營實騎尉莫爾根  
保失察賊犯越境本有應得之咎惟短帶領官兵  
擊回又獲賊犯起出原賊報解究辦功過尚足相  
抵莫爾根保著免其議處布魯特河哈拉克齊布  
庫什於聞信後即同該比等獲賊犯起獲原贖尚  
為向義可嘉布庫什著加恩賞給六品頂翎以示  
獎勵該部知道欽此

1927 道光十六年十二月初十日內閣奉

上諭前因常恒奏請撥調經費摺內數數與總數銀  
兩不符當經降旨令陝甘總督瑚松額照數撥解

仍飭令常恒將摺內錄數因何并錯之處查明具奏在據奏稿前摺內舊額官兵估需銀兩數數實係印房書牘錯寫致與總數不符其實調錄數並知少等語所有承辦印房事務章京即遵通判忠信未能詳細彙對實屬疎忽著交部照例議處常恒著一併交部議處至所調阿克蘇官兵經費銀兩著瑚松額仍遵前旨照數撥解該部知道欽此

1928 道光十六年十二月初十日奉

旨即英著以員外即用仍帶降一級留任餘依議欽此

1929 道光十六年十二月初十日內閣奉

上諭恩特亨額奏旗丁行月等米請緩收買一摺江南各幫旗丁應領行月等米向於豐稔之歲酌量收買運通俾易贖次米食用茲據該省奏稱本年江安所屬收成間有歉薄糧價未能平減若照例收買恐旗丁不裁贖買次米所有此項行月等米著准其暫緩收買以紓丁力該部知道欽此

1930 道光十六年十二月初十日奉

旨沈秉生王仲鴻顧建勳均著准其摘復王尚錦著不准摘復欽此

1931 軍機大臣 字寄

熱河都統高 道光十六年十二月十一日奉  
上諭熱河圍場係秋獵講武之所例應嚴禁中禁何樹木應禁茹類著滋朕聞近來頗有偷砍木柱杜打村畜之事並聞該處車運糧糶可見例禁廢弛怠玩已極著高鴻勳行中禁非圍場內常差之人不得擅入肆行踐踏所有該圍場內樹木村畜不得私自砍伐概不以昭慎重倘該總管等查不嚴致滋各弊著高鴻勳即行各奏懲處毋稍瞻徇將此諭令知之欽此道

旨寄信前來

1932 道光十六年十二月十一日奉

上諭熱河圍場係秋獵講武之地理宜嚴肅朕聞近來圍場中竟有偷打社畜私砍樹木等弊且向來

園場之內則禁車馬出入今聞有車行報違其為防範不嚴可知該總管有專管之責嗣後著嚴密巡查禁止作踐毋得仍前疎懈以昭慎重如有偷打牲畜私砍樹木等弊一經訪聞定將該總管懲處不貸欽此

軍機大臣遵

旨傳諭熱河園場總管額勒亨額

1933 道光十六年十二月十一日內閣奉

上諭伊里布奏請將不勝軍缺之副將開缺送部引見一摺雲貴督標副將德清著即開缺送部引見該部知道欽此

1934 道光十六年十二月十一日內閣奉

上諭伊里布奏查閱營伍情形一摺雲南著提標右營遊擊事開化鎮中軍遊擊在占元才庸員得弓馬平常著勒令休致著鶴慶鎮右營守備事開化中營守備侯鈞才力竭疎著以千總降補提標雲騎尉副都尉步箭全交該督請革送世職之處著兵部議奏餘依議欽此

1935 道光十六年十二月十一日內閣奉

上諭桂良奏調補要缺知縣一摺著照河靖河南太原縣知縣員缺准其以高崧調補准寧縣知縣員缺准其以參祥調補該部知道欽此

1936 道光十六年十二月十一日內閣奉

上諭哈豐阿等奏詹員官差復滿三年一摺著德著准其釋回欽此

1937 道光十六年十二月十一日內閣奉

上諭謝全章著馳驛送赴新任毋庸來京請訓欽此

1938 軍機大臣 字寄

協辦大學士直隸總督琦 道光十六年十二月十二日奉

上諭御史朱成烈奏請疏築河道隄工一摺據稱直隸保定府蠡縣之豬龍河歲修向係民間折價入官雇工修濬近二十年來竟交官役包辦兩隄之工舊土翻新其實未加一簣該龍河經由蠡縣不

過數十里該縣每年修堤折價一次做錢至六千  
串如果工歸實用何至水患頻仍獻縣之子牙河  
及任邱之十二連橋或陡勢低微或淤成平地又  
聞海河之口近亦填淤故東西流之水不能暢出  
以致低窪處所積水不消積實成地方官商用民  
力設法疏通等語直隸省與辦水利本有奏定章  
程如地方官實心經理則水患可去水利可興著  
琦善將該御史所奏情形悉心體察填淤之處設  
法疏通缺段工程擊修復無論歲修本有公項  
及備用民力者均須覈實辦理毋任吏胥侵漁如  
有浮冒各情即將該地方官從嚴參處以防早濬  
而衛民田原摺著鈔給閱看將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1939 軍機大臣 字寄

漕運總督恩 道光十六年十二月十二日奉  
上諭有人奏鳳中幫水手孟學恩等並不繫帶腰牌  
持刀上岸詭詐盟船損傷河役經該漕督將委運  
千總李天鵬奏勒限兩月解拿違犯聞皮臉務

度五將將總運通判文都該處嗣因該犯日久脫  
逃該漕督已奏請將該幫千總革職該管塊運  
官不復據實附奏請查照本年奏定條欵責成該  
幫起運官解拿務獲等語該知水手後寄商船批  
傷情徒實屬日知法紀若不上緊緝獲何以肅清  
積弊而做此項著恩將李顯嚴飭該幫總運官將違  
犯開皮臉勒限將該幫務獲歸案著科和速限不獲  
即將該幫總運官革職將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1940 道光十六年十二月十二日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前民欠  
銀糧令各該將軍府尹督撫等查明奏請經類  
布等將山東省歷年民欠緩徵河道銀兩查明詳  
旨當交戶部覈實茲據查明該省未完河道銀兩  
自嘉慶二十三年起至道光十年止實在民欠緩  
徵河道共銀十四萬六千四百六十四兩零  
該部覈明銀數相符者共銀十二萬七千五百十



六兩零均著加恩概行豁免該撫卽刊刻牌黃過行吶諭嚴禁吏胥影射需索等弊務期實惠及民間副朕推恩布聞至老餘休著照所議飭行該撫迅速查明覆奏竊神欽此

1441 道光十六年十二月十二日內閣奉

上諭趙額等奏革員違刁濫訴審明定擬一摺恩福以革任職官輒敢違子違呈吃噴濫辦妄逞兇惡執制逞刁此風斷不可長恩福著照所擬發往新疆效力贖罪以昭炯戒餘依議欽此

1442 道光十六年十二月十二日內閣奉

上諭經額等奏泰不能振作並疎於防捕之縣令把總請分別革職擬位一摺所辦若是山東魚董莊知縣章寶倫尋汛犯總戴登泰前因捕務懈弛摘去項帶撤任勒緝於被盜各案既未報獲復有盜夥把傷捕獲之業犯亦未獲實屬培終疎懈難期杜作章寶倫戴登泰均著卽行革職以示懲儆又林訪聞鄂城縣城內查有賭禁事主把傷捕獲之

章輝捕實屬怠玩著鄂城縣知縣李著革職其圖詳著一併撤任摘去項帶留於地方備補俟滿有無弋獲再行分別辦理欽此

1443 道光十六年十二月十三日內閣奉

上諭定親王奕劻奏趙前經朕親臨賜奠並派四阿哥五阿哥前往祭奠業經疊沛恩施各日朕再臨奠顯悲悅實深本月十六日殯送之期著派五郡王特倫前往奠醮並著送至城外欽此

1444 道光十六年十二月十三日內閣奉

上諭溥洵著轉補兵部左侍郎兵部右侍郎著著英補授欽此

1445 道光十六年十二月十三日奉

旨王大王六著交刑部嚴訊其虧獲積年私賣火藥人犯之北成副指揮柳彬著刑部於定案時聲明請旨欽此

1946 道光十六年十二月十四日內閣奉

上諭本年入冬以來京裝未經得雪上月二十四日

本月初八日兩次在

大高殿設壇朕親詣拈香虔誠祈禱仰賴

昊慈垂佑于十三日未刻間雲廣布密灑祥雲違宵道

旦積已盈尺現在雲氣猶深積粉未已計京畿一

帶定可溥澤優霑朕心實感實深著即撤壇發去

大藏香二炷派惠郡王瑪爾圖即日前詣

大高殿拈香朕于十五日親詣報謝用酬

靈既光明朕謹遣道篆著內務府照例給賞欽此

1947 道光十六年十二月十四日內閣奉

上諭工部奏請飭追奉慈管地交祭米並催取動存

清冊等項一摺江南蕞蕩左右兩營每年額支

祭二百八十三萬四千八百兩茲據該部查明此

項祭米自道光六年至九年採取正餘額數均有

短少惟以海浦雨缺等情藉詞支飾殊非慎重錢

糧實辦公之道著陶澍慶豐即明道光六年以

後短交祭米飭令該管員分別追賠毋任袒飾

其嘉慶二十五年以後動存四柱清冊及道光五  
年以後支給兵餉水脚等項銀兩均未咨報並著  
該督等迅速造報具題毋得再有遲延至辦理完  
竣之該管道應各職名著一併開送吏部議處以  
清積案而儆玩愒欽此

1948 道光十六年十二月十四日內閣奉

上諭海亮奏台吉等獲賊犯懇請獎勵等語吐爾尼

特台吉策凌棟羅音龍將白晝強劫賊傷事主之

賊犯功科等獲究辦實屬認真出力著加恩賞給

大版二尺以示鼓勵欽此

1949 道光七年因吐爾尼特喀屯喇什五勒

與駝馬軍營備用八年六月由理藩院請

旨賞版以示鼓勵等因具

奏奉

旨伊次子播陳多爾濟賞戴花翎等因欽此播陳多

爾濟今更名策凌棟羅音十四年該班來京十

五年正月此

乾清門行走

1950 道光十六年十二月十四日奉

旨此舉著派御前大臣軍機大臣大學士長 總管  
內務府大臣福恩敬徵會同審訊所有應行質訊  
人註著交內務府看管欽此

1951 道光十六年十二月十四日奉

旨劉良楨馬翊茂即劉先茂馬一恒董士福馮得秀  
劉世儒汪道鳳俱著交刑部審訊其在逃之馬翊  
江仍著嚴緝務獲歸案訊辦欽此

1952 道光十六年十二月十五日內閣奉

上諭前據給事中實德奏江西上高縣已革廩生陳  
本末呈報開採宜春縣登塔菓等處銅鉛苗住此  
撫不願辦理以致宜春等縣諸山所產銅鉛鐵錫  
運不具報當降旨著陳慶據實覆奏並據該撫奏  
明登塔菓等處山境鉛砂並不暢旺有礙居民回  
廬且屢次呈報開採俱經降旨概行永遠封禁著  
陳慶仍覓首曉諭居民毋得妄開採以致聚  
眾糾眾滋事等因欽此仍著照原定史防章程嚴行

稽查結報如該管員弁怠察不力結報不實著即  
嚴行不貸欽此

1953 道光十六年十二月十五日內閣奉

上諭湯全劍奏請開復武弁項帶再 交部核履等語  
陝西撫標左營參將項帶原係 交部核履等語  
把總高鴻玉於疎防搶火案內勒限項帶拿在逃兵  
丁張限等獲內知查勉均著實還項帶共逃六已  
逾百日創有虛分仍著交部核履交項標中營參  
將著左哨千總事宜君營分防把總曹連陞等管  
著左哨把總事甘州提標武舉劉秀清等管著左  
哨把總事世襲雲騎尉王全勒限項帶拿逃兵等語  
於迄今逾限無獲實屬情事不力均著交部照例  
議處以示懲儆欽此

1954 道光十六年十二月十五日內閣奉

上諭瑚松額奏奉虧缺倉庫之正署知縣請旨分別  
革職嚴著一摺甘肅前署隆德縣事大計侍調所  
經歷與玉坤短交正雜銀六百一十七兩零倉平

糧二百二十一石零已故陸德縣知縣周慶雲進  
交正雜銀五千二百兩零金身糧三千六百一十  
八石零獎匾牌著革職等問交該督提同倉庫經  
書及已故知縣周慶雲家人等嚴行審究並謂  
前任陸德縣現任教壇縣知縣張錫田至者竊笑  
從前交代分別辦理所有獎匾牌周慶雲所實  
財產原籍家產一併查列備抵該部知道欽此

1955 道光十六年十二月十五日內閣奉

上諭山東按察使員缺著李容傳補授欽此

1956 道光十六年十二月十六日內閣奉

上諭四川成綿茂道員缺著陸蔭臺補授欽此

1957 道光十六年十二月十五日內閣奉

上諭伊里布等奏總員調補者會知府一摺貴州貴  
陽府知府員缺准其以為佐龍調補可遠咨兩廣  
知府員缺即以郭鳴高補授該部知道欽此

1958 道光十六年十二月十五日內閣奉

上諭伊里布等奏歷犯捕務之印務各員請旨分  
別降革一摺雲南師宗縣知縣文柱才文幹練胡捕  
又非所長滿以府經歷孫亞齊補賜部發還印此  
孫亞齊行犯糾捕事宜日形懈怠著即行革職該  
督等查明該員等經營者庸錢糧有無虧短另行  
辦理該部知道欽此

1959 道光十六年十二月十六日內閣奉

上諭桂良奏知縣催徵清款請開復項帶等語河南  
新鄉縣知縣胡之富姑城縣知縣景順於被參後  
將十五年丁耗全數徵解清款其應徵舊欠錢糧  
亦各解有成數尚知愧奮著准其開復項帶欽此

1960 道光十六年十二月十六日內閣奉

上諭智長齡奏請將修理貴陽府學  
文廟之員量加鼓勵等語著吏部議奏此項工程保  
著貴陽府知府王緒昆捐辦著免其造冊報銷欽  
此

1963 道光十六年十二月廿五日內閣奉

上諭督長齡奏貴州莫安雖士民捐建書院應恩職  
敘一摺著吏部議奏此項工程惟士民捐辦著先  
其進冊報銷單併體敘此

1962 道光十六年十二月十六日內閣奉

上諭前據御史劉夢蘭奏貴州古州同知張鎮前任  
貴州時在省城置買房屋徵款集股將屋債  
加增抵作交代等語當交賀長齡據實查明並據  
該撫奏稱張鎮素無奢靡等事其任內交代倉糧  
業經後任照數接收限結報並未將房屋抵作  
交代所奏著毋庸議餘依議欽此

1963 軍機大臣 字寄

湖南巡撫裕 道光十六年十二月十七日奉

上諭據裕奏稱湖南泰年知府王鳴球稟揭學政  
卷錦泉考試該府各屬生童該學政吩咐新選童  
生每名出錢六千四百文以三千文繳入內署餘  
作富差人等大食之用俾詢各學教職並巡捕官

均稱實有其事並據典文張運陞稟稱此項係各

學門平等收受過付經張撫備文咨詢該學政覆  
稱內署茶蔬均係發價飭縣備辦有結可憑其富  
差人等工食向由府縣經理並無需索童生錢文  
之事字語著該撫親視應訊人證並傳到該府所  
屬各學教職及巡捕官並門弁人等確切根究認  
真查辦如果實有其事即行據實奏參不許稍有  
諱飾倘係王鳴球因妄求一事恣行勒索捏情妄  
揭該學政實無收受童生錢文之事即將該卷負  
從重懲治以儆官邪該撫惟當破除情面一秉至  
公庶則虛實則實毋得意存消科如敢將就了事  
致有不實不實將未到經發覺惟該撫是問將此  
諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1964 道光十六年十二月十七日內閣奉

上諭爾爾懇願尋奏違旨令該寺莊一摺前因該寺  
中常大淳陳慶湖南鎮守使善後章程當即降旨  
令訥爾經額拓泰揚等會同妥議茲據該督等詳

志會嚴批款贖列吳奏版詳加破閱據奏鍾等練勇三著賞給借款而多兵當有經德朝之後著暫行備照舊章係一二年後丁力稍舒著看情形籌議辦理其該處兵丁練勇餉後不准以外來進民充當如有混行保送及率准充補情事即著分別奏處至散放兵勇餉米或願折錢應從其便其例支本邑米石或願領米或願折錢應從其便至保借銀錢雖體恤了情但頻年借貸愈積愈多究屬濫支著該督等於清查業內將如何酌定限制之處另籌辦理至練勇餉撥教習加資銀兩既經該督等查明並非虛造名兩亦無短扣情形著飭該道格照舊章無任日久滋弊其該管買補屯數債銀連費並計嗣後總以八錢為準倘有不敷即由該道自行籌補其巡閱苗寨著定於每秋收後令該道巡閱一次不准再有藉延仍將啟程回著日期詳報查考並令各屬將該道入境出境日期通報至辰永沅靖道著仍遵前旨於通省如有貪劣之員即著嚴加甄別其該管苗備弁及屯長等缺務須嚴執行定之條該督等務宜擇楊

該道會同該鎮督率嚴弁尋實心經理加意操攷期於經久無弊用副朕慎重苗疆著計安全至意該部知道欽此

1965 道光十六年十二月十七日內閣奉

上諭納爾經額奏遊擊人地未宜請練員對調一摺著照所請湖北漢陽城守營遊擊任其以謝玉陞調補其可遺督標右營遊擊員缺即以謝玉陞調該部知道欽此

1966 道光十六年十二月十七日奉

旨定河恭摺請將安北軍解省之廣西著小鎮安道列現任梧州府同知周三錫著先行撤任交該撫責令該員押回已革前著通判李承勳及該犯吳觀傑等馳往該處實訊務得確情如果查辦七速再行察看辦理欽此

1967 道光十六年十二月十七日內閣奉

上諭申欽賢奏練員升補直隸州知州一摺著照所

請山西保德州直隸知州員缺准其以冀堯文升  
補仍照例併案送部引見該部知道欽此

1968 道光十六年十二月十七日內閣奉

上諭梁章鉅奏請將被控妄為之知縣革職提審一  
摺廣西北流縣知縣李光斗被該縣紳民呈控之  
案層見疊出自應速欵嚴究李光斗著即革職交  
該撫提同各案人證澈底究明據實具奏該部知  
道欽此

1969 道光十六年十二月十七日內閣奉

上諭中欽賢奏地<sub>方</sub>官訪獲傳徒各犯請寬免失察  
處分等語此案余本著等在煙城等縣若素念經  
刑師傳徒經該縣自行訪聞立即督獲辦理高  
為妥速所有失察之歷任文武各官著加恩一律  
准予免議該部知道欽此

1970 道光十六年十二月十七日內閣奉

上諭上年因四川學政王篤岡文幕友六人均係陝

西籍實曾經降旨令該學政酌量更易數人以肅  
關防並通諭各直省學政嗣後不得身覓本籍之  
人致滋流弊該督撫學政等自當共見共聞恪守  
遵守本日據梁章鉅將廣西學政丁善慶幕友姓  
名籍貫照例開單呈覽該學政幕友五人均係湖  
南籍實前降諭旨甚明該學政豈未之見耶丁善  
慶著交部議處仍著更易數人以肅關防梁章鉅  
於該學政延請同籍幕友並未阻止亦有不合著  
交部察議欽此

1971 道光十六年十二月十八日內閣奉

上諭陶澍等奏知府審案出力懇恩鼓勵等語安徽  
安慶府知府卞士雲審結各府州屬控案三百六  
十一一起並早反命盜重案多起實屬審鞫出力著  
交軍機處記名以道員用欽此

1972 道光十六年十二月十八日內閣奉

上諭陶澍等奏請將迴避之知府揀員調補一摺江  
西贛州府知府李恩繼與藩司李恩祥係為兄弟

少藏必慶府知府卞士雲與鹽司程楨來係屬兒  
女姻親均無應照例迴避著照所請卞士雲准其  
調補江西贛州府知府其交安委慶府知府准其  
以未引歷職補所遺寧國府知府員缺卽著李恩  
經補授該部知道欽此

1973 道光十六年十二月十八日內閣奉

上諭申政賢奏請通員升補直隸州知州一摺著照  
所請山西忻州直隸州知州員缺准其以韓寶錫  
升補仍照例將票送部引見該部知道欽此

1974 道光十六年十二月十八日內閣奉

上諭特依順保奏遊擊因病告休一摺伊犁屯鎮中  
營遊擊唐繼賓年老力衰不能騎射現因左腿受  
病呈懇休致經該將軍委驗屬實唐繼賓著准其  
以原品休致該部知道欽此

1975 道光十六年十二月十八日內閣奉

上諭奕經等奏甄別年老各員一摺步軍校伊立住

善德李儀發勝志六十四祥福梁文政孫世昌喻  
吉陞張旭齡成門領徐德李景太門文蘇勒通  
阿托們太沐陞信蝦成章京通源福保達玉通均  
年功已衰難期效力供著勒令休致餘依議該部  
知道欽此

1976 道光十六年十二月十八日奉

旨宗人府奏御史承桐回揀選貝勒未繼入選其宗  
墳泃水祠係弘時之子乾隆年間弘時因華明事  
件使人至通永道馮紀革去貝子郡統治罪是弘  
時行犯未係弘雅何得謂為無罪之人即嘉慶年  
間

賞給奉恩將軍准其進班入朝係屬  
特恩案照錄用此次宗人府揀選承襲貝勒未將該員  
入選辦理本無錯誤乃承桐平行具稟竟竟陳訴  
有屬不合著交部議處欽此

1977 道光十六年十四日工部奏請飭建軍營營地

交柴木一摺原摺內稱在營每年額交柴木二百



三十二萬五千兩右營每年額文裝二百八十三萬四千八百兩統計左右兩營每年額文裝五百一十六萬九千八百兩日著擬焉。

諭旨內祇寫右營總數未將左營總數一併算入實屬疎漏理合據實檢舉請

旨更正所有誤寫數目之章京請交部議處日滿世恩摺影河塞尚阿未能即時查明請交部察議

伏祈

皇上聖鑒謹奏

1978 辦理軍機處為咨送事本月十八日本處奉前

事片一件奉

旨係議欽此相應鈔錄原奏咨送貴部查明再本處

章京應送職名僅列部員外郎方銘真一併開

送

貴部照例辦理可也須至咨者

計粘單一節

石 咨

吏部

道光十六年十二月十八日

1979 道光十六年十二月十九日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前降旨著先道光十年前以前民欠

銀糧令各該將軍府尹督撫等查明具奏據林到

給等將江蘇省挑辦河運等二實石民欠借數撥

撥銀兩查明請旨咨文戶部彙處查核查明白嘉

慶年間起至道光七年止江寧淮安揚州徐州海

州五州為借數撥銀計三十二萬零九百七十九

三萬二千八百八十三兩零蘇州松江常州三府

為借數撥銀計五萬零九百八十八兩零均實欠

銀共銀八十一萬九千七百八十七兩零均實欠

在民著加恩概行豁免該督等即刊刷榜黃通行

曉諭嚴禁吏胥影射勒索等弊務期實惠及民用

副朕懷恩布聞並意餘著照所議辦理行該督等查

明聲處分別奏辦欽此

1980 道光十六年十二月十九日內閣奉

旨依議此果蒙古人名率多漢義實屬不合嗣後著各扎薩克通飭蒙古人等止准以滿洲蒙古字義命名不得取用漢人字義以符定制欽此

1981 道光十六年十二月十九日內閣奉

上諭前據伊犁布奏請將甄勳等銜全空之該省提督宜騎尉副將寶亨達世職當交兵部議奏茲據該部查明世職人員學習期滿之馬稍有可觀而營伍未能精練准其再學習三年照例考職如何不堪造就或平日不用心學習勒令回籍著行止身污即行革退等語劉爾寶著仍留世職是若尚堪造就押勒令回籍之處著該督照例辦理欽此

1982 道光十六年十二月十九日內閣奉

上諭琦善奏查泰畷疏捷連奉章邊延委州縣一摺五縣身成縣知縣劉濬著交河縣知縣張恩學嚴辦如縣王大猷著河間縣知縣沈如湖任印無如照乾泉著陸縣知縣葛之輔新誠縣知縣李廷

榮涿州知州錢庭格保著文部照例議處其餘連連足三歲著山東巡撫及經過各省督撫查明奏奉欽此

1983 道光十六年十二月十九日內閣奉

上諭色卜呈請奏懇視文盤之知縣請先行撤任並備去項帶一摺去歲前著六安直隸州知州現著壽州軍機處無知縣楊斯然於本任懷寧縣及署理六安州任內交代遲延以致後任不能依限盤收該縣知縣亦新那情與楊斯然著先行撤任並備去項帶交該縣知縣將應交懷寧六安二州縣任內倉庫各項錢糧趕緊造冊移交後任盤收分別結報依限詳查如有虧缺即行從嚴參辦該部知道欽此

1984 道光十六年十二月十九日內閣奉

上諭哈豐阿等奏詹員到成已逾十年請旨釋回等語黃北憲著准其釋回欽此

1985 軍機大臣 守寄

兩廣總督鄧 廣東巡撫卞 傳諭粵海關監

曾文祥 道光十六年十二月二十日奉

上諭本日據鄧廷楨等奏籌議杜絕鴉片紙獎一摺鴉片流傳內地以至紋銀日耗令欽力塞獎源惟杜絕紋銀出洋最為要著若能於便出之地必出之處實力稽查俾漢奸夷人兩無所施其伎倆自浙塞兩危該督等所奏能見及此著即同心協力認真巡察懲漢奸之勾串杜夷商之貪婪德額銀不出洋行之有效毋得徒託空言務使名實相副將此諭知鄧廷楨卞傳諭文祥和欽此欽遵毋違信前來

1986 道光十六年十二月二十日內閣奉

上諭鍾祥奏請揀員升補副將一摺福建臺灣福水師副將員缺著准其以張朝發升補仍照例送部引見該部知道欽此

1987 道光十六年十二月二十日內閣奉

上諭鍾祥奏遵旨揀補海疆要缺知府一摺福建泉

州府知府員缺准其以陳鳳翰補授該部知道欽此

1988 道光十六年十二月二十日內閣奉

上諭鍾祥等奏閩省差委委員請陳發知縣六員著吏部於曾任繁缺之候補候選人員內照例揀選帶領引見候旨發往欽此

1989 道光十六年十二月二十日內閣奉

上諭鄧廷楨奏廣西省武職差遣委員請揀發陸路參將一員遊擊二員著兵部於候補候選人員內照例揀選帶領引見候旨於杜欽此

1990 道光十六年十二月二十日內閣奉

上諭鄧廷楨等奏請將知縣給還頂帶一摺此案廣東東莞縣知縣侯之翰於該縣民人李亞村連斃三命重案究犯未獲前經降旨摘去頂帶勒限緝拿茲據該督等奏稱該員於被參後將案內正兇全數又獲尚知愧奮侯之翰著准其給還頂帶欽此

1991 軍機大臣 字寄

駐藏大臣阿 幫辦大臣鄂 道光十六年十

二月二十一日奉

上諭據鄂順安奏斥阿容國人呈遞表章俾係該國王因督益雄卸落侯估該國疆界請示辦理又夷人熱拉雅阿督里表章內稱該國王聽信境官將伊祖官德革去伊父無辜被殺求照伊祖官職賞伊承充並稱該國王苦累百姓現有頑日人等私議將地土交與彼得寧等語撫版外夷之道惟在慎守邊防特以鎮靜即偶有夷人控訴之案祇可統祈以天朝法度商外國之事從不過問遣人送出卡外况既無該國王印記正奸駁斥乃輒稱該夷人以平民體遞封章委寄官職本屬鈔錄原案札飭該國王治以虛構之罪又恐該國王斥其北計再加凌虐等語是鄂順安欲以內地例文科斷外夷太不曉事著交部嚴加議處問堅保摺奉此旨其論行抵何處迅即兼程前進親赴邊界體察情形並隨時派人密加探聽倘該夷人等變詞相爭該大臣等推當嚴飭所屬漢番官兵隸守卡

倫風密防範不准一人擅出邊界致肇事端是為至要將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1992 軍機大臣 字寄

欽差烏魯木齊都統廉 伊等奏贊大臣吳 道光十

六年十二月二十一日奉

上諭與德等奏已爾楚克備兵丁散放火藥猝被燒斃一摺已明降諭著將該管副將烏達傑遊擊王文交部分別議處矣據該大臣等奏稱額外外委方廉等領出火藥三葉因火藥結塊未能取出兵丁劉吉美用刀挖取不料葉內火藥燃著燒斃外委兵丁三十九名又有受傷者十三名等情火藥結塊事可常有何以用刀挖取便至燃著即使火藥筒筒放燃該兵丁等何以攔索一處遂至傷斃如許之多情節支離殊難憑信若廉敬奕山確加查勘是否該兵丁等實因散放火藥猝被傷斃抑或另有別故據實查明具奏毋得稍有諱飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1993 道光十六年十二月二十一日內閣奉

上諭與德等奏兵丁散放火藥據該大臣等查明燒斃一摺巴爾楚克傷兵丁散放火藥據該大臣等查明燒斃一摺巴爾楚克傷兵丁三十九名受傷者十三名該管將弁等未能先事豫防實屬疎忽巴爾楚克換防陝西靜寧協副將馬連陞署中營都司事甘肅寧夏鎮屬王泉營遊擊王文俱著交部照例分別議處仍責令將被燒火藥照數賠補以示懲儆餘著照所議辦理該部知道欽此

1994 道光十六年十二月二十一日內閣奉

上諭與德奏豫員升調伯克蘭單請簡一摺葉爾克四品噶雜納齊伯克員缺准其以愛里木沙調補所遺四品商伯克員缺著擬正之圖連底補授伊璽蘇阿拉斯莊五品斯帕哈寶尙克員缺著擬正之齊爾托胡道補授舒尼舒莊五品阿奇木伯克員缺著擬正之伊斯瑪依勒補授該對門知道欽此

1995 道光十六年十二月二十一日內閣奉

上諭朱士丹等奏查訊盧尹氏控案大概情形一摺此案盧應翔是否為場今盧應環探聽案情信函賽尚阿曾否面交珠爾杭阿附卷著賽尚阿明白回奏欽此

1996 軍機大臣 字寄

欽差尚書朱 廣州將軍蘇 道光十六年十二月

二十二日奉

上諭昨據朱士丹等行盧尹氏控案大概情形並據具奏當降旨令賽尚阿明白回奏本日據奏稱盧應翔囑令伊兒盧應環探聽葉利氏案情一並似當日閱看信呈呈底色內曾有此件等語此案陽全城軍計換信翻案據葉利氏稱賽尚阿當日曾持此字面交珠爾杭阿附卷爾葉令開盧應翔設法向書夫另換一字附在卷內以致隨帶司員接以為證不可不澈底根究著該尚書等擬同陽全城白讓仰及珠爾杭阿等悉心研鞫務得確據備訊明實有抽換卷宗等弊即行據實奏辦毋稍寬假

擬至羅應魁即羅星垣高業村氏業內最要人澄  
現既等獲到案並經管務當堂認明正可從此逃  
究以期水落石出陽全咸白讓卿家丁現經隨赴  
粵省並容解到案著該尚書等親提嚴訊並檄調  
該員等前次客案時文武巡捕各官及案內應訊  
人證仍遵前旨來公嚴究有無得受苞苴情事據  
具奏至此案如有應行革職研訊人員著該尚  
書等一面具奏一面即行該員等革職嚴究案內阿  
原摺著鈔給閱者特此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1997 道光十六年十二月二十二日內閣奉

上諭上年

皇太后六旬萬壽前經降旨普免道光十年以前氏夫  
銀兩今各該將軍廣戶督撫等查明具奏據桂良  
將河南省氏夫正雜銀兩由部奏准行查各款並  
明請旨當交戶部覈覆茲據查明數目均屬相符  
所有解站俸工未充銀四萬三千二百七十二兩  
宋法陞武陟二縣積欠銀兩俸錢銀三千六百四

十一兩零去陽等處沙塵地故得銀丁耗銀十五  
萬五千二百六十八兩零又沙塵稍輕地故尚應  
歇撤丁耗銀五萬八千九百五十兩零漕米麥豆  
四萬一千一百九十五石零漕項並漕耗銀一萬  
四千一百四十六兩零籽粒口糧牛具銀十四萬  
二千九百二十九兩零柴牙等項雜稅銀九萬五  
千五百九十三兩零並有欠附奏各屬未充攤費  
加價銀五十六萬四千三百六十四兩零均係實  
欠在氏著加恩概行豁免該撫即刊刻勝黃偏行  
曉諭並照例按戶付給免單嚴禁吏胥影射需索  
等弊務期體惠及民用副朕推恩布闡至意餘依  
議欽此

1998 道光十六年十二月二十二日內閣奉

上諭鄭廷楨等奏請胡署省會首邑要缺知縣一摺  
廣東茂名縣知縣文最前經准補尚未到任據督  
等違請調署者會首邑與例不符所請著不准行  
所有番禺縣知縣員缺著該督等另議合制人員  
再行請補欽此

1999 道光十六年十二月二十日內閣奉

上諭前因御史來成劾奏查豫糧船濫事水手宜先  
清其巢穴當得旨交漕運總督及有漕各省督撫  
妥議具奏茲據恩特等題奏稱糧船水手沿途滋  
事皆由沿河集鎮插代河快素與水手聲氣相通  
其間亦有老嫗潘安等教之人潛踪先當為之巢  
穴地方官查拿匪徒不能不責成河快捕投本年  
各省督獲匪類數百人該督派兵丁等購獲者居  
多而捕投河快報獲者甚少等語此項快捕既先  
在官人役又復窩匿護奸私相勾結實為幫中隱  
患不可不嚴行查辦著直隸山東江蘇浙江各督  
撫嚴飭沿河所屬河廳州縣嚴密訪查如有此等  
習教之人先當快捕以及偏僻地方之廟宇坊肆  
有設立經堂窩留匪類之處一經訪實即著嚴拿  
究辦並該運誠實委練之人先當沿河保甲快捕  
仍取其保甲人等不致容留匪類切結地方官如  
其印結申送該省督撫及該漕督衙門備查並著  
該漕督於督運經過時留心查察倘該地方文武  
員弁查辦不力致有前項情弊即著該漕督會同

該督撫嚴行查辦餘著照所議辦理自此次明定  
章程務當實力稽覈奉行無懈不可日久視為具  
文以肅漕務而杜奸萌欽此

2000 道光十六年十二月二十二日內閣奉

上諭奕額奏官犯供出職官請解送贖訊一摺已革  
吉林同知達慶著兵部解送盛京交該署將軍歸  
案質訊欽此

2001 道光十六年十二月二十二日內閣奉

上諭中福奏廢員效力期滿一摺齊培元著准其釋  
回欽此

2002 道光十六年十二月二十二日奉

旨嘉鑾即張鑑著交刑部審訊欽此

2003 軍機大臣 字寄

湖廣總督訥 湖南巡撫裕 道光十六年十  
二月二十三日奉

上諭昨日召見湖南按察使鎮總兵明海詢其年歲現  
已六十五歲該總兵自缺緊要該員是否尚能  
勝任著訥爾蘇額詳加察看裕泰近在兩省年日  
較近該員是否精神尚能照料著隨時查看據實  
具奏毋稍徇德將此各諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

2004 道光十六年十二月二十三日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請酌減幫丁餘米變價應運庫款  
一摺浙江各幫漕船本年起運阻滯丁力未免拮  
据除各運應扣積欠各款銀兩業經全數扣還外  
所有留南餘米變價抵運雜庫一項除去帶北濟  
用之數約剩銀五萬餘兩著准其暫給幫丁濟運  
俟下運再行扣收以紓丁力其應交積欠失風曬  
曬等米一萬一千八百五十一石業即著照數購  
運帶交毋庸短少以符定限該部知道單併發欽  
此

2005 道光十六年十二月二十二日內閣奉

上諭中政賢奏請將擬定佐吳之貢文部議處一摺

山西前署澤州事試用知縣葉善華即用知縣  
杜厚於會勘被災各區放單救恤未能如辦實在  
情形致有收候均有應得之咎著交部議處欽此

2006 道光十六年十二月二十三日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請獎勵知縣一摺浙江諸暨縣知  
縣葛祥傑經賑銀糧六載全完著賞加知州銜仍  
照例不論俸滿卹卹以示鼓勵該部知道欽此

2007 道光十六年十二月二十四日內閣奉

上諭陝西布政使員缺著周天爵補授欽此

2008 道光十六年十二月二十四日內閣奉

上諭安徽按察使員缺著徐寶森補授欽此

2009 道光十六年十二月二十四日內閣奉

上諭慶林著補授奉天府府尹山西按察使員缺著  
圖明額補授欽此



2010 道光十六年十二月二十四日奉

各省遇有請旨簡放之缺不准將在省候補人員開單具奏。所降諭旨，早經吏部通行各省，自應遵照辦理。魏元煥前於泉州府知府出缺，概以海陸緊要開單請簡，既違定例，又與前降諭旨不符。陳鳳翰著即撤回，仍留該省遇有應補缺出，照例補用。魏元煥著吏部議處。欽此。

2011 道光十六年十二月二十四日內閣奉

上諭福建泉州府知府員缺著尚開樸補授。欽此。

2012 查福建泉州府係沿海衝繁疲難最要缺。謹

奏

2013 道光十六年十二月二十四日內閣奉

上諭寶興奏司書叙楊錫謨請將原辦之員免其處分，並自行檢舉之臬司交部議處一摺。四川前代辦邛州直隸州事現已丁憂之蒞江縣知縣鍾文彬於永遠枷犯高應才因病身死並未遵例陳加

送州詳列司該司書梁紹棠辦楊錫謨據該司多欺，批無有心增改情弊。業經照例加責斥革。所有原辦之代辦知州鍾文彬應得處分著准予寬免。四川按察使多歡未能先行核明更正，著吏部議處。欽此。

2014 道光十六年十二月二十四日內閣奉

上諭馮奎到奏官民捐修河履並捐資助賑懇恩獎勛一摺。著吏部議奏。此項工賑銀兩均係官民捐輸，著免其進冊報銷。單併發。欽此。

2015 道光十六年十二月二十四日奉

旨。銀大神准其升補甘肅固原州知州。仍照例送部引見。欽此。

2016 道光十六年十二月二十四日奉

旨。英煜等奏請飭值兩淮欠解利銀以資公用。此項銀兩係充換管辦公及歲修堆撥拮据官員吏役飯食者。子兵丁賞需之用。必須各換各款。按期交

發釋最近年兩淮利銀前欠或歸統引或歸停運  
案內或不分年帶徵連年報轉均已徵解無期而  
應解之項又不能年清年款以致該衙門一切公  
用皆須籌墊實屬不成事體所有兩淮欠解銀二  
萬四千三百四十兩著即酌還連如數完解俾資  
辦公嗣後發項年清年款不得再有遲延以清項  
欽此

2017 道光十六年十二月二十四日奉

旨鑾儀衛奏請飭催庫項並置地畝應徵租銀此項  
直隸應解銀兩除本年解交外尚欠新舊未完租  
銀十六萬七百九十六兩零著直隸總督嚴飭各  
州縣即將前項欠交租銀迅速徵解歸款以資科  
公毋再延宕欽此

2018 道光十六年十二月二十四日奉

旨澤地保明西林布侯著准其減等餘依議單併發  
欽此

2019 道光十六年十二月二十四日奉  
旨顏鏡著准其減等欽此

2020 道光十六年十二月二十五日內閣奉

上諭鍾祥等奏查明被旱地方懇請緩徵等語福建  
臺灣蘇本年入秋以後兩澤愆期高阜之區收成  
未免歉薄民力艱形指摺加恩著照所請所有臺  
灣蘇屬之永擬新昌武定永康文賢崇德仁和等  
七里應徵本年正供錢糧俱著緩至明年早收後  
帶徵以紓民力該督等即刊刻牌黃編行曉諭務  
使實惠及民毋任吏胥舞弊用副朕軫念民依至  
意該部知道欽此

2021 道光十六年十二月二十五日內閣奉

上諭鍾祥等奏請酌授及氏詞之史史及不行即時  
揭報之如縣分別革職解任等語此案福建連江  
縣史史楊應元於氏人黃紳慶被控吞欠錢文報  
欺違例擅受賄行拘押該縣知縣龍光補並不即  
時揭報違舉人黃庚居與該史史索控互駁又不

確切查明且該知縣史文原索所擬整福州府等  
現在志記情形彼此互異自應澈底根究楊應元  
著革職龍光輔著解任並行舉人黃慶居作革交  
該督等親復全案人證嚴訊確情分別律例辦理  
該部知道欽此

2022 道光十六年十二月二十五日內閣奉

上諭鍾祥等奏請將被控勒詐富商之知縣史文革  
職審問一摺典鑄所以便民該地方官理宜禁絕  
棍徒索詐滋擾乃朱維翰等身為縣令輒敢違下  
強索勒借以致典史效尤不可不嚴行究辦現著  
福建水察嚴拿試用通判魚道鈞永定縣典史沈  
成著一併先行革職交該督等提回本革如縣朱  
維翰並案內應訊人證澈底質實從嚴懲辦該部  
知道欽此

2023 道光十六年十二月二十五日內閣奉

上諭經額布奏委員經理賑糶出力請加獎勵等語  
山東登萊青三府屬設廠煮賑散放本折出借平

糶經該撫委員經理始終其事自應量予恩施著  
照所請山東兗州府同知易煥暉滕縣縣丞王文  
煥均著以應升之缺升用試用知縣張積功著以  
本坡儘先補用山西渾源州知州方熙曾任山東  
平度州閩營治穀收捐銀奮送備用著交部照例  
議敘餘著照議辦理該部知道欽此

2024 道光十六年十二月二十五日內閣奉

上諭經額布奏請將公捐賑濟之紳士商民捐創緣  
叙一摺著吏部議奏此係官紳商民公捐之項著  
免其造冊報銷該部知道并併發欽此

2025 道光十六年十二月二十五日內閣奉

上諭烏爾恭額奏請將捐修城垣及疏河各工官民  
分別獎勵一摺著吏部議奏此項工程係由官民  
捐辦著免其造冊報銷該部知道欽此

2026 道光十六年十二月二十五日奉

旨這爾參交代玩延之前任安徽無為州休致知州

劉德潤前署無為州知州廬州府通判任壽世前署無為州候補知州陳允中前後三任交代互相飾混實屬玩延均著暫行革職交該撫提省確切查監按律辦理倘有虧短情弊即行參辦欽此

2027 道光十六年十二月二十五日奉

旨這所奏疎防盜犯越獄之山西遼州文日韓雲第  
遼州直隸州知州沈芳方於監禁重案盜犯並不  
督率刑禁小心防範致令同時越獄五六名之多  
實非尋常疎忽可比韓雲第著革職沈芳方  
著摘去頂帶照例革職留任著該撫責令該員等  
為限辦拏限滿有無弋獲再行分別辦理欽此

2028 道光十六年十二月二十五日奉

旨知道了其陪祀三次不到之鎮國將軍奕達奉恩  
將軍興麟著交該衙門照例察議欽此

2029 道光十六年十二月二十五日奉

旨林大印林士茂高八黃均濟保著交刑部審訊欽  
此

2030 道光十六年十二月二十五日奉  
旨張毅著交刑部審訊欽此

2031 道光十六年十二月二十五日奉

旨張添德李大著交刑部嚴訊其訪獲積年盜竄火  
禁人犯之據發五指揮楊遠浙北城副指揮柳樹  
著刑部於定案時聲明請旨欽此

2032 道光十六年十二月二十五日內閣奉

上諭廣西右江道員缺著士堂補授欽此

2033 查廣西右江道係銜難中缺謹

奏

2034 道光十六年十二月二十六日內閣奉

上諭江西贛州府知府員缺著福建候補知府  
陳瑞補授欽此

2035 查江西贛州府係銜繁難員要缺謹

奏

2036 道光十六年十二月二十六日內閣奉

上諭琦善奏請將知縣解任實訊一摺此案直隸奉  
城縣知縣劉濬於容民被竊任職補役延等情逆  
職令委擬高主現經訊出情節多有不符劉濬著  
解任交該督提回案業人證確切說明按律定擬  
具奏該部知道欽此

2037 道光十六年十二月二十六日內閣奉

上諭容照奏等獲偷打牲畜匪犯請解部審辦一摺  
此案匪犯劉從等八人係由寧道子地方偷入偷  
打牲畜係在場子路地方署犯總將邊源也總謝  
元均有失察之各性經該管汛兵查見賊蹤稟  
報獲賊功過高足相抵將邊源謝元均著加恩  
免其議處邊州知州白明義雖經派役協捕獲  
犯惟失察匪犯私藏鳥槍例有應得處分白明義  
例著交部議處餘著刑部審擬具奏欽此

2038 道光十六年十二月二十六日內閣奉

上諭容照奏請將等獲盜犯之千總量予鼓勵等語

馬蘭鎮屬千總盧萬春日前署黃崖關任內失察  
營兵督教部議革職茲據容照奏稱該千總於未  
奉革職文行之先派赴興隆山總巡等獲偷牲匪  
犯三名與已經奉文離任逗留籍端保奏者有聞  
盧萬春著加恩改為革職留任以示獎勵該部知  
道欽此

2039 道光十六年十二月二十六日內閣奉

上諭容照奏寶華峪折下之銅管扁應交何處等語  
寶華峪工程現經候補郎中慶玉全行拆竣所有  
折下銅管扁九件著交總管工程處運送來京欽  
此

2040 道光十六年十二月二十六日奉

旨鄂順安著照部議降四級調用帶所降之級仍留  
該處効力暫停開缺欽此

2041 道光十六年十二月二十六日奉

旨知道了這所得盈餘銀著交內務府一萬七十八  
百兩其餘銀二千三十一兩著賞給積善欽此

錄

2042

查道光十五年正月殺虎口監督北那蘇圖任滿盈餘銀一萬八千九百四兩零奉

旨交內務府一萬七千六百兩其餘銀四百九十四兩零著賞給北那蘇圖欵此是年十二月殺虎口監督奉任滿盈餘銀一萬八千一百十二兩零奉

旨交內務府一萬七千七百兩其餘銀四百十二兩零著賞給普泰欵此今積善任內盈餘銀一萬八千三百三十一兩零較北那蘇圖任內多收銀二千七兩零較普泰任內多收銀十九兩零應交內務府若干

賞給積善若干之處伏候欵定謹奏

奏

2043 道光十六年十二月二十六日內閣奉

上諭積善奏請查勘大青山木植並歸併稅局節省解費一摺著戶部議奏欵此

2044 道光十六年十二月二十六日內閣奉

上諭御史黃鼎之奏請整飭捕務嚴緝匪徒一摺京師城廂內外理宜肅清營兵坊捕果能認真巡緝互相查緝何至有匪徒竊賊擾害地方若如該御史所奏近日官民住宅竄去逃出時名威暮正陽門外及菜市口一帶地方多有沿街搶奪之事即東城內之大市街隆福寺等處買賣清民亦多被掠其附近之堆棧舟兵並不週問殊屬不成事體著步軍統領衙門巡城科通責成營員坊官督率兵役不分晝夜巡緝所有城廂內外地方通行週察遇有宵小盜竄及白晝搶掠匪徒隨時究從嚴懲辦不得以現值封印稍鬆要速欵緝殊縱以新奸究而靖閭閻欵此

2045 道光十六年十二月二十七日內閣奉

上諭瑚松額奏請揀員升補副將一摺甘肅永昌協副將員缺准其以德珠布升補照例併著送部引見該部知道欵此

2046 道光十六年十二月二十七日奉

旨 廷所奏甘肅前任兩當縣知縣王大干於行典敬  
勳獲捷拾令案案行換到著卽革職交刑部議  
同藩臬兩司提某人證果公嚴審按律定擬具奏  
秦州直隸州知州楊狂若扣留後者協贊如審明  
實有城私及別項者請卽行參辦欽此

2047 道光十六年十二月二十八日奉

旨 此次告祭

太廟所有進儀獻帛獻爵之奉恩將軍宗室奎榮連喜  
承福均著交宗人府嚴加議處欽此

2048 道光十六年十二月二十八日奉

旨 御史朱其鎮監禮到班違誤自行檢舉著交部照  
例議處欽此

2049 旨 等查明新正應行

加恩各省內除奉天江蘇安徽河南江西湖北該  
將軍府尹督撫等具奏無庸接濟外所有直隸

山東山西陝西甘肅五省節經該督撫等奏列

旨 等謹擬寫

諭旨五道進

呈恭候

欽定

批示日期屆時

頒發謹

奏

2050 壹朝鮮琉球二國例

貢使臣到京所有例

賞該國王及使臣物件照例由禮部具奏辦理外主

該使臣於新正在

紫光閣筵宴例有

加賞物件臣等謹查照向例分擬

賞單進

呈屆期

頒發謹

奏

2051

朝鮮團正貢使列中樞府事申在禮

副貢使禮曹判書李魯集

書狀官兼司憲府掌令趙啟昇

琉球團正貢使耳目官向大休

副貢使正議大夫孫光裕

2052  
擬

加賞朝鮮琉球二國使臣物件

朝鮮正使一員琉球正使一員

錦各三疋

薄絨各三疋

大卷八絲緞各四疋

小卷五絲緞各四疋

大荷包各一對

小荷包各四個

朝鮮副使一員書狀官一員琉球副使一員

錦各二疋

薄絨各二疋

大卷八絲緞各三疋

小卷五絲緞各三疋

大荷包各一對

小荷包各四個

2053  
擬

奏為奉鎮領用執照等項事道光十六年正月

至十二月止方略館領用繕寫檔案書籍及辦

稿行文釘輯檔案等項用過執照並道光十六

年分領用過時辰盤器存執照數目一併詳細

開列清單謹摺奏

聞伏祈

皇上聖鑒謹

奏

道光十六年十二月

日 湯世恩

日 行書所

日 正書

日 塞尚阿



計劃

方略館

舊存五摺黃榜紙柒拾肆張 釘摺皮面用無存舊存五摺白榜紙捌拾捌張 紙摺等項用無存舊存高麗紙捌拾伍張 釘摺皮面用無存舊存台連紙貳千壹百捌拾張 釘摺皮面用無存

道光十六年分領用

五摺黃榜紙貳百張 釘摺皮面用過壹百貳拾伍張而存柒拾張五摺白榜紙肆百張 紙摺等項用過壹百貳拾伍張而存肆拾張三號高麗紙貳百張 釘摺皮面用過壹百貳拾伍張而存捌拾張台連紙陸千張 紙摺等項用過壹千捌百張而存貳千貳百張磅炭貳千肆百肆 紙摺等項用無存

2055 謹

奉為奏銷紙張事道光十六年分軍機處領用過

戶部紙張數目循例報銷理合開列清單繕摺

奏

聞伏祈

皇上聖鑒謹

奉

道光十六年十二月

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

2056

軍機處十六年分領用紙張

本紙五十張 舊存五摺及鈔錄各處奏摺行文等項用無存白榜紙一千張 鈔錄摺紙包封事件用無存黃榜紙一百張 釘摺摺紙包封事件用無存高麗紙一百張 包封摺摺皮面用無存台連紙七千張 紙摺等項用過壹千貳百張而存貳千貳百張

漢摺身道光十六年分領用

五摺白榜紙四千張 用過壹千壹百張而存貳千貳百張五摺黃榜紙二百五十張 用過壹百張而存壹百五十張台連紙二千五百張 用過壹千肆百張而存壹千壹百張三號高麗紙二百五十張 用過壹百張而存壹百五十張

2057 查單機皮欵本

硃筆改定

諭旨升各該處欵列

硃批奏摺例應行清漢名摺彙齊欵進道光十六年

十一月以前且等已理將

硃筆改定緊要

諭旨按月恭繳欵將十二月分漢字緊要

諭旨謹另為一未其五月至十二月清漢尋常事件

硃筆節

硃批奏單及

硃批條陳奏摺各件一同奏繳又批各該處欵列

硃批清漢名摺摺等分別開單敬謹欵進

2058 恭繳

硃批漢字摺五十七封

湯全到等 一封

奕類 一封

吳林等 一封

恩銘等 一封

文蔚等 一封

趙盛全等 一封

趙盛全 一封

陶封等 一封

胡如麟等 一封

祥 六封

恩特才顯等 一封

恩特才顯 一封

恩特才顯 一封

程顯方 一封

富吃楊阿 一封

烏爾恭額 三封

周之琦 一封

程林木 一封

張岳崧 一封

楊慶琛 一封

長濟等 一封

德興等 一封

魏徵

一封

房玄齡

一封

王福明

一封

吳宗光

一封

金德麟

一封

張粵

一封

黃景

一封

朱為傑

一封

尹濟源

一封

楊名馳

一封

李長文

一封

李灼文

一封

向尊化

一封

田萬年

一封

楊得曾

一封

柳慶

一封